

# 下土師東遺跡

東関東自動車道水戸線(茨城南IC～茨城JCT)  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 20 年 3 月

東日本高速道路株式会社  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第305集

しも は じ ひがし  
下 土 師 東 遺 跡

東関東自動車道水戸線 (茨城南IC～茨城JCT)  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 20 年 3 月

東日本高速道路株式会社  
財団法人 茨城県教育財団

## 序

茨城県は、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めており、東関東自動車道建設事業も、その目的に沿って計画されたものです。

このたび、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）は、東茨城郡茨城町下土師東山地区において、東関東自動車道水戸線（茨城南IC～茨城JCT）の道路建設事業を決定しました。この事業地内には、埋蔵文化財包蔵地である下土師東遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、東日本高速道路株式会社から同遺跡の埋蔵文化財の調査について委託を受け、平成17年10月から平成19年3月にかけてこれを実施しました。

本書は、下土師東遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である東日本高速道路株式会社から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、茨城町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成 20年 3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 人 見 實 徳

# 例 言

1 本書は、東日本高速道路株式会社の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成17年度から18年度に発掘調査を実施した、茨城県東茨城郡茨城町大字下土師字東山2,381番地ほかに所在する<sup>しもはじひがし</sup>下土師東遺跡の発掘調査報告書である。

2 本書が報告の対象とするのは、下土師東遺跡第1，4～6区の遺構と遺物である。

3 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調 査 平成17年10月1日～平成17年12月31日（第1区）  
平成18年4月1日～平成19年3月31日（第4～6区）

整 理 平成19年4月1日～平成19年10月31日

4 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

平成17年度

首席調査員兼班長	川又 清明	平成17年10月1日～平成17年12月31日
主任調査員	青木 亨	平成17年10月1日～平成17年12月31日
主任調査員	芳賀 友博	平成17年10月1日～平成17年11月30日
主任調査員	杉澤 季展	平成17年11月1日～平成17年12月31日

平成18年度

首席調査員兼班長	櫻村 宣行	平成18年4月1日～平成19年3月31日
主任調査員	稲田 義弘	平成18年6月1日～平成18年6月30日
主任調査員	石川 義信	平成18年10月1日～平成18年10月31日
主任調査員	綿引 英樹	平成19年1月1日～平成19年1月31日
主任調査員	青木 亨	平成18年7月1日～平成18年12月31日
主任調査員	須藤 正美	平成18年7月1日～平成18年8月31日
主任調査員	芳賀 友博	平成18年4月1日～平成18年10月31日 平成19年2月1日～平成19年3月31日
主任調査員	小野 政美	平成18年9月1日～平成18年9月30日
主任調査員	須賀川正一	平成19年1月1日～平成19年3月31日
調 査 員	早川 麗司	平成18年7月1日～平成18年7月31日

5 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、以下の者が担当した。

主任調査員	芳賀 友博	平成19年4月1日～平成19年10月31日
調 査 員	菊池 直哉	平成19年4月1日～平成19年7月31日

6 本書の作成にあたり、墨書土器の文字の判読・釈文については、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館館長の平川南氏に御指導・御協力いただいた。また、墨書土器の特殊光撮影調査については、有限会社三井考測の三井猛氏に御協力いただいた。

7 出土した漆紙文書付須恵器の塗膜構造調査については、(株)吉田生物研究所に委託し、考察は付章として巻末に掲載した。

# 凡 例

1 地区設定は、日本平面直角座標第 1 系座標に準拠し、X 軸 = + 35,880m , Y = + 51,520m の交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点であり、抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を ( ) を付して併記した。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A , B , C ... , 西から東へは 1 , 2 , 3 ... とし、「A 1 区」「B 2 区」のように呼称した。さらに、小調査区は、北から南へ a , b , c ... j , 西から東へ 1 , 2 , 3 ... 0 とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1」「B 2 b2」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 SI - 住居跡 SB - 掘立柱建物跡 SK - 土坑 SD - 溝跡 SE - 井戸跡

ST - 墓坑 PG - ピット群 SX - 不明遺構 P - ピット K - 攪乱

遺物 P - 土器・陶磁器 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品


土層 K - 攪乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。


(1) 遺構全体図は500分の1、遺構実測図は60分の1の縮尺での掲載を基本とした。


(2) 遺物実測図は原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構及び遺物実測図中の表示は次のとおりである。

 焼土・施釉・赤彩

 炉・火床面

 竈部材・粘土・炭化材・黒色処理

 煤・柱あたり痕・油煙

土器

土製品

石器・石製品

金属製品

硬化面 -----

4 土層観察表と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の記載方法は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は、m・cm・gである。なお、現存値は ( ) で、推定値は [ ] を付して示した。

(2) 備考の欄は、残存率や写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

6 「主軸」は、竪穴住居跡については炉または竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸(径)方向」は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した(例 N - 10° - E)。

# 抄 録

ふりがな	しもはじひがしいせき							
書名	下土師東遺跡							
副書名	東関東自動車道水戸線（茨城南IC～茨城JCT）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第305集							
著者名	芳賀 友博 菊池 直哉							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310 - 0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029 - 225 - 6587							
発行日	2008（平成20）年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
しもはじひがしいせき 下土師東遺跡	いばらきけんひがしいせきくまいばらき 茨城県東茨城郡茨城 まちおおあざしもはじあざひがしやま 町大字下土師字東山 2,381番地ほか	08302 - 122	36度 19分 03秒 〔36度〕 19分 15秒	140度 24分 27秒 〔140度〕 24分 15秒	23 ~ 30m	20051001 ~ 20051231 20060401 ~ 20070331	6,700㎡  20,531㎡	東関東自動車道水戸線（茨城南IC～茨城JCT）建設事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下土師東遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡 陥し穴	1軒 2基	縄文土器（深鉢）、石器（磨製石斧・尖頭器・石鏃）		第4区では平安時代の大型井戸跡が検出され、「土師楓家」の墨書土器が出土している。古代から「土師」と呼称されていた地域と考えられる。	
		古墳	竪穴住居跡	10軒	土師器（坏・椀・高坏・器台・埴・甕・壺）、須恵器（甕）、石製品（白玉・管玉）、土製品（球状土錘・小玉）			
	奈良・平安	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 溝跡 井戸跡 土坑	24軒 12棟 4条 1基 1基	土師器（坏・椀・甕）、須恵器（坏・高盤・甕・長頸瓶・蓋）、灰釉陶器（長頸瓶）、石器（砥石）、鉄器（刀子・鎌）				
		中世・近世	溝跡 井戸跡 炭焼窯跡 土坑	7条 14基 1基 2基	土師質土器（小皿） 銅製品（古銭・煙管）			
			墓域	近世	墓坑	71基		
	その他	時期不明	掘立柱建物跡 溝跡 土坑 ビット群 不明遺構	3棟 11条 316基 3か所 2基	土師器、須恵器、縄文土器、石器、銅製品、土製品			
要約	縄文時代前期、古墳時代前・後期、奈良・平安時代、江戸時代の複合遺跡である。第4・5区を中心に古墳時代後期から平安時代の集落跡が確認され、第6区では縄文時代前期と古墳時代前期の集落跡が確認されている。調査区の全域で江戸時代の墓坑が多く検出されており、江戸時代には墓域として土地利用されていた。							

# 目 次

序	
例言	
凡例	
抄録	
目次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	2
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 竪穴住居跡	11
(2) 陥し穴	14
2 古墳時代の遺構と遺物	16
竪穴住居跡	16
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	42
(1) 竪穴住居跡	42
(2) 掘立柱建物跡	99
(3) 溝跡	115
(4) 井戸跡	136
(5) 土坑	145
4 中・近世の遺構と遺物	146
(1) 溝跡	146
(2) 井戸跡	150
(3) 炭焼窯跡	161
(4) 墓坑	162
(5) 土坑	176
5 その他の遺構と遺物	179
(1) 掘立柱建物跡	179
(2) 溝跡	182
(3) 土坑	190
(4) ピット群	234
(5) 不明遺構	238
(6) 遺構外出土遺物	239
第4節 まとめ	247
付章	257
写真図版	

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成13年7月10日、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、東関東自動車道水戸線（茨城南IC～茨城JCT）建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成14年3月13・14日、平成16年6月18・22日に現地踏査を、平成17年1月19～21日に第1～4区の試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成17年2月1日、茨城県教育委員会教育長は、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに、事業地内に下土師東遺跡が所在する旨を回答した。茨城県教育委員会は、平成17年7月19・20・22日に第4・6区、10月25・26日に第5・6区の試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。

平成17年2月22日、日本道路公団東京建設局長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項（現第94条）の規定に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包含地の発掘調査について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成17年3月1日、日本道路公団東京建設局長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成17年3月7日、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、東関東自動車道水戸線（茨城南IC～茨城JCT）建設事業に係る埋蔵文化財の調査について協議した。平成17年3月8日、茨城県教育委員会教育長は、日本道路公団東京建設局水戸工事事務所長あてに、下土師東遺跡の第1・2区について、発掘調査の範囲及び面積などについて回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

平成17年11月2日、茨城県教育委員会教育長は、東日本高速道路株式会社関東支社（旧日本道路公団東京建設局）水戸工事事務所長及び、財団法人茨城県教育財団理事長に対して、東関東自動車道水戸線（茨城南IC～茨城JCT）建設事業に係る平成17年度の埋蔵文化財発掘調査計画の変更について協議した。財団法人茨城県教育財団理事長は平成17年11月4日に、東日本高速道路株式会社関東支社（旧日本道路公団東京建設局）水戸工事事務所長は平成17年11月10日に、茨城県教育委員会教育長あてに、埋蔵文化財発掘調査計画の変更について同意する旨回答した。

平成18年2月27日、東日本高速道路株式会社関東支社（旧日本道路公団東京建設局）水戸工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、東関東自動車道水戸線（茨城南IC～茨城JCT）建設事業に係る埋蔵文化財の調査について協議した。平成18年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、東日本高速道路株式会社関東支社（旧日本道路公団東京建設局）水戸工事事務所長あてに、下土師東遺跡の第3～6区について、発掘調査の範囲及び面積などについて回答した。

財団法人茨城県教育財団は、東日本高速道路株式会社関東支社（旧日本道路公団東京建設局）水戸工事事務所長から埋蔵文化財調査事業について委託を受け、平成17年10月1日から平成18年3月31日、平成18年4月1日から平成19年3月31日まで下土師東遺跡の発掘調査を実施することとなった。



## 第2節 調査経過

下土師東遺跡の調査は、平成17年10月1日から平成18年3月31日、平成18年4月1日から平成19年3月31日に実施された。このうち第1区の調査は平成17年10月1日から同年12月31日、第4～6区の調査は平成18年4月1日から平成19年3月31日に実施された。以下、その概要を表で記載する。

期間 工程	平成17年度			平成18年度											
	10月	11月	12月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認	■			■	■		■	■							
遺構調査	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注記作業 写真整理	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤 収			■												■

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

下土師東遺跡は、茨城県東茨城郡茨城町大字下土師字東山2,381番地ほかに所在している。

茨城町は、茨城県の中央部よりやや東に位置している。茨城町の地形は、ほぼ中央部を東流する酒沼川とその東に展開する酒沼によって、南北に二分されている。北部の台地は、標高23～30mの東茨城郡北部台地の先端部にあたり、北西から流れる酒沼前川を含む大小の支谷が南面して開口している。南部の台地は、西から大谷川、南から寛政川が酒沼に流入し、両河川の間には大小の支谷が樹枝状に台地深くまで侵入し、北部台地に比べて起伏も多く、一層複雑な地勢を形成している。これらの河川流域の沖積低地は主に水田、台地は畑地・樹園地として利用されている。

地質をみると、台地を形成している最も古い地層は新生代第三紀の地層で、岩質は泥岩の水戸層と呼ばれている。水戸層の上には第四紀の地層が不整合に堆積している。さらに、粘土・砂からなる見和層、礫からなる上市層、灰褐色の常総粘土層、関東ローム層の順にほぼ水平に堆積している<sup>1)</sup>。

下土師東遺跡は町域南西部の下土師地区に位置し、酒沼川右岸に張り出した標高23～30mの舌状台地上の北部に立地している。調査区の北側は酒沼川に面した標高約23mの台地縁辺部で、南側はこの台地の北東から南に入り込む谷津の北斜面部に面している。調査前の現況はいずれも山林・畑地である。

### 第2節 歴史的環境

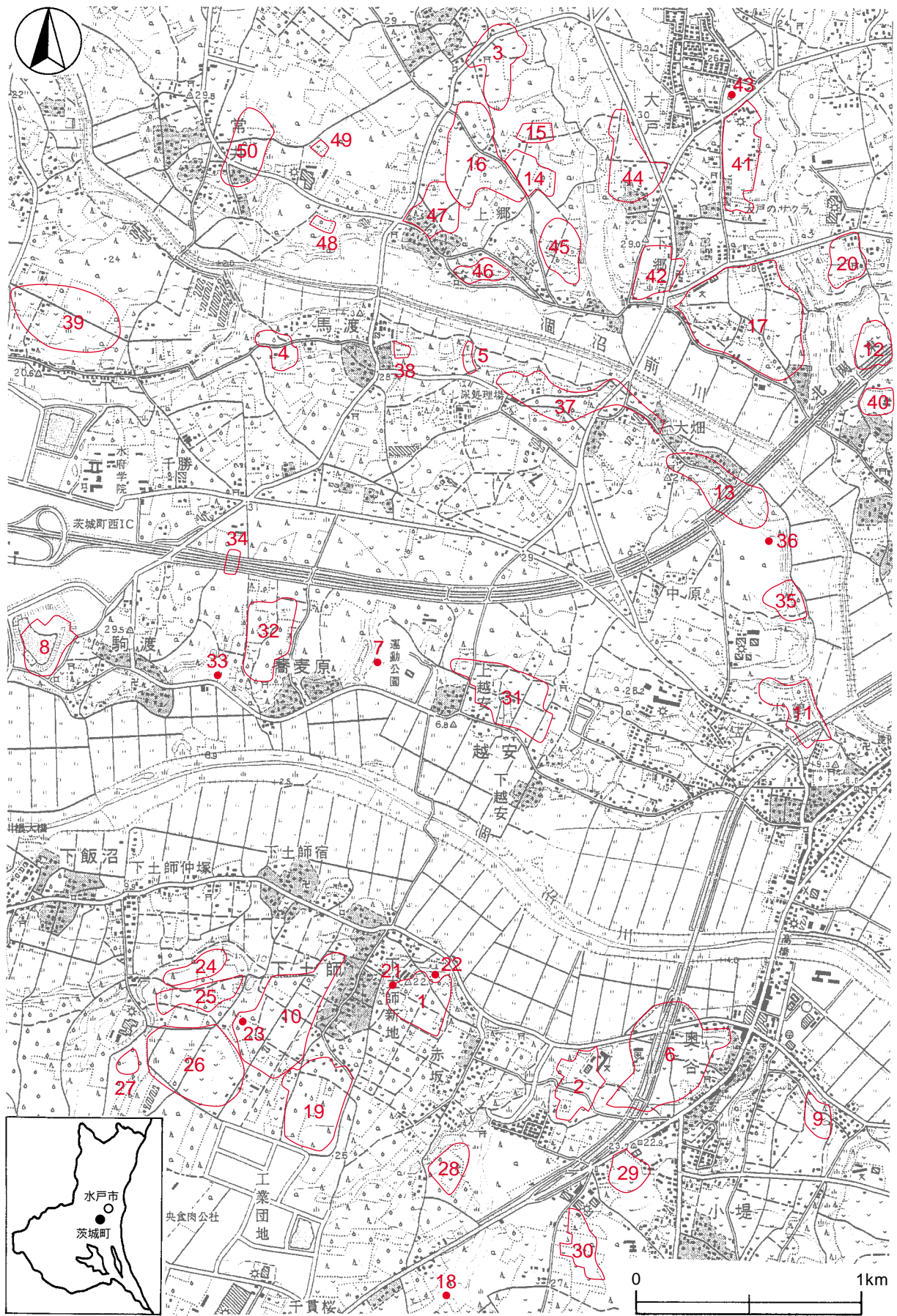
遺跡周辺からは、分布調査や発掘調査によって多数の遺跡が確認されている。特に、酒沼川及び酒沼前川流域の台地上には各時代の遺跡が集中しており、この地域が原始・古代から生活の適地であったことがうかがえる。ここでは、当遺跡に関連する主な遺跡について時代を追って述べる。

縄文時代の遺跡は、多数確認され、時期は中期を中心としてほぼ全期にわたる。早期では、当遺跡の南東側に近接する赤坂南坪遺跡<sup>2)</sup> や酒沼南岸台地上の中落遺跡がある。前期では、宮後遺跡<sup>3)</sup>、シッペイ沢遺跡<sup>4)</sup>、東山遺跡<sup>5)</sup>、奥谷遺跡<sup>6)</sup>などがあり、越安貝塚<sup>7)</sup>、南小割遺跡<sup>8)</sup>では地点貝塚が形成されている。中期に入ると町内全域に遺跡数は増加し、塚越遺跡、天古崎遺跡などがみられる。後・晩期になると遺跡数は減少傾向にあり、小堤貝塚<sup>9)</sup>、下土師遺跡<sup>10)</sup>など数えるだけとなる。

弥生時代では、中期後半の土器が神谷東遺跡、西台遺跡などで採集されている。後期後半には、長岡式土器が出土している長岡遺跡、奥谷遺跡、小鶴遺跡<sup>11)</sup>などがある。その他該期の遺跡としては、矢倉遺跡<sup>12)</sup>、大畑遺跡<sup>13)</sup>、石原遺跡<sup>14)</sup>、宮後遺跡<sup>15)</sup>、綱山遺跡<sup>16)</sup>、大塚遺跡<sup>17)</sup>、大戸下郷遺跡<sup>18)</sup>などがあげられる。特に矢倉遺跡と大戸下郷遺跡からは県外の樽式土器や二軒屋式土器などが出土しており、他地域との交流を想定することができる。

古墳時代では、弥生土器と土師器が共伴する住居跡が確認されている石原遺跡、綱山遺跡、大塚遺跡があり、弥生時代から古墳時代への移行期におけるこの地方の様相を知る重要な資料となっている。

酒沼川下流に位置する奥谷遺跡では、古墳時代前期の豪族居館跡や集落跡が調査されている。さらに上流では、4世紀末から5世紀初頭に比定されている宝塚古墳が位置しており<sup>19)</sup>、当地方において在地有力者の存



第1図 下土師東遺跡周辺遺跡位置図 (国土地理院 1 : 25,000 「小鶴」)

表1 下土師東遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中・近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中・近世
	下土師東遺跡							26	面山遺跡						
2	赤坂南坪遺跡							27	高山遺跡						
3	宮後遺跡							28	仲丸遺跡						
4	シッペイ沢遺跡							29	富士山遺跡						
5	東山遺跡							30	北山東遺跡						
6	奥谷遺跡							31	中畑遺跡						
7	越安貝塚							32	宮上遺跡						
8	南小割遺跡							33	西山古墳						
9	小堤貝塚							34	大作遺跡						
10	下土師遺跡							35	蔵作遺跡						
11	小鶴遺跡							36	大畑古墳						
12	矢倉遺跡							37	上の前遺跡						
13	大畑遺跡							38	東畑遺跡						
14	石原遺跡							39	諏訪神社古墳群						
15	綱山遺跡							40	坏戸遺跡						
16	大塚遺跡							41	大戸神宮寺遺跡						
17	大戸下郷遺跡							42	寺坪遺跡						
18	小幡北山埴輪製作遺跡							43	神宮前古墳						
19	面山東遺跡							44	羽黒山遺跡						
20	平須館跡							45	稻荷宮遺跡						
21	東山稲荷古墳							46	猫崎遺跡						
22	高山古墳							47	木戸遺跡						
23	富士山古墳							48	八幡山遺跡						
24	小山台古墳							49	近藤前遺跡						
25	小山台遺跡							50	李山遺跡						

在がうかがえ遺跡のひとつとなっている。さらに、町域内には後期の古墳61基が確認されており、その中の上の山古墳<sup>14)</sup>からは小幡北山埴輪製作遺跡<sup>15)</sup> 18 で生産された埴輪（6世紀後半頃）が出土している。

奈良時代の当地方は、那賀郡八部郷、茨城郡嶋田郷・白川郷・安侯郷、鹿島郡宮前郷にそれぞれ属しており、当遺跡の所在する下土師地区は茨城郡嶋田郷に比定される<sup>16)</sup>。この時期の遺跡は、町内全域で確認され、奥谷遺跡は、100点以上の墨書土器や円面硯・刀子が出土している。奥谷遺跡から出土した「曹カシ」の墨書土器には官衙の庁舎などの意味があると考えられ、当遺跡が官衙的な施設をもつ集落であると想定される。この他、宮後遺跡や大塚遺跡から出土した「南主」、面山東遺跡<sup>17)</sup> 19 から出土した「土師神主」などは注目される墨書土器である。特に「土師神主」は、小幡北山埴輪製作遺跡と土師部の集団との密接な関連を示している。さらに隣接する宮後遺跡・大塚遺跡・綱山遺跡では、墨書土器の他、円面硯、灰釉陶器、巡方などが出土していることから、石原遺跡を含む4遺跡一帯は、官衙の施設が存在した遺跡であった可能性が高い。

中世の遺跡は主に城館跡であり、小幡城跡、宮ヶ崎城跡<sup>18)</sup>、海老沢館跡、奥谷館跡、飯沼城跡、平須館跡<sup>20)</sup>などが所在している。これらのうち小幡城跡は、現存する町内の城館跡中では最大規模である。初期の城主については小田一族や大塚一族などの諸説があり、詳細は不明である。また、奥谷遺跡では堀、地下式塙、方形竪穴遺構、井戸跡などが調査され、土師質土器や陶器などが出土している。さらに、常陸大塚系大戸氏一族の所領であった大字前田の万東山地区からは、13世紀前半の「青白磁蓮牡丹文明梅瓶」が出土しており、中世にもこの涸沼川・涸沼前川沿岸に有力な氏族が居住していたことがうかがえる。

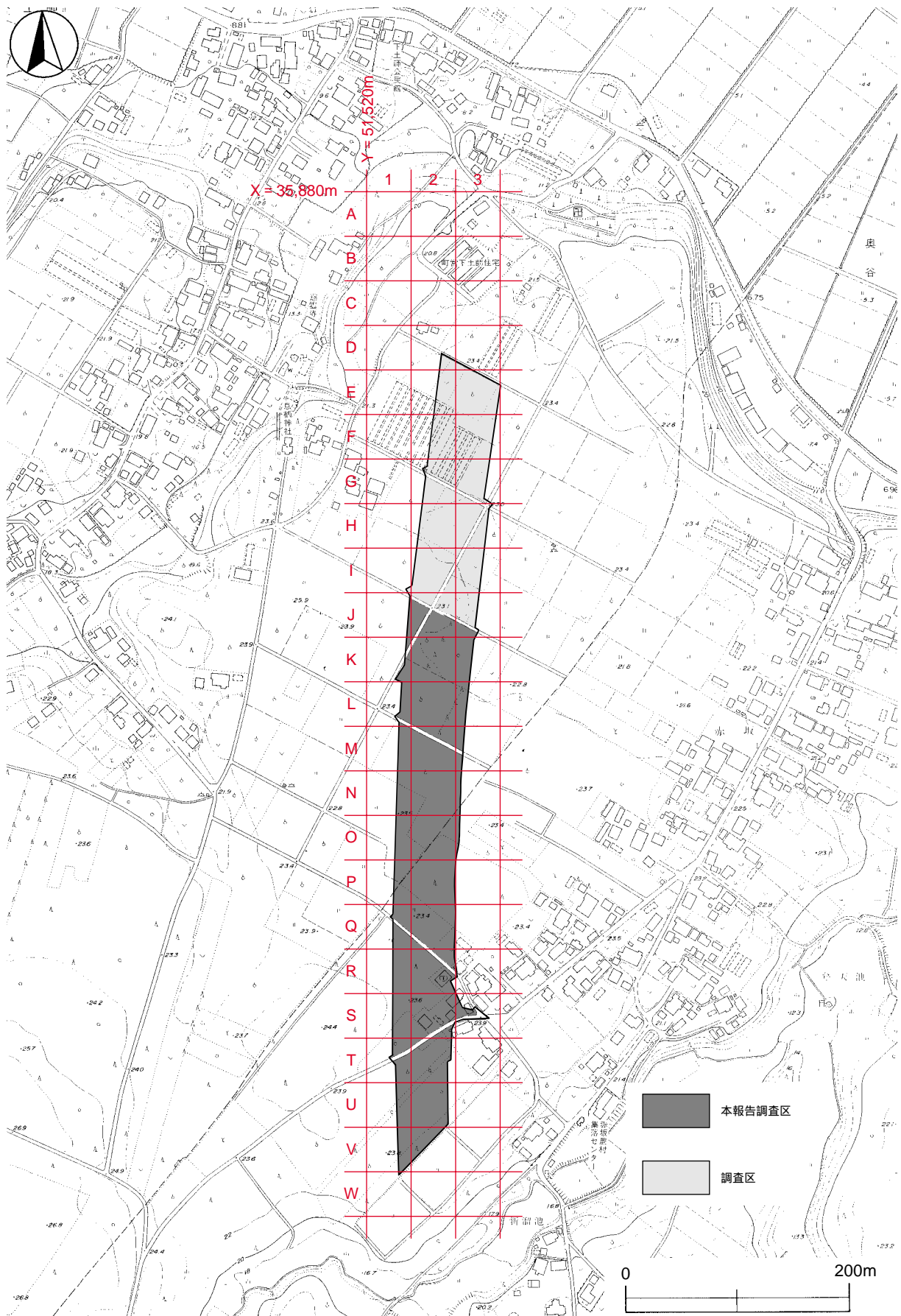
近世になると町の中心部は南北に走る水戸街道に沿った長岡や小幡が宿駅として発展し、涸沼南岸の網掛、宮ヶ崎、海老沢は水上交通の要所として栄え、水戸藩をはじめ仙台藩など奥州諸藩と江戸を結ぶ物資輸送の中継地として重要な役割を果たした。

\* 文中の 内の番号は、表1及び第1図の該当番号と同じである。

#### 註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年1月
- 2) a 川又清明・野田良直・吹野富美夫・浅野和久「宮後遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第188集 2002年3月  
b 和田清典・吹野富美夫・浅野和久・荒蒔克一郎・駒澤悦郎「宮後遺跡2 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第240集 2005年3月  
c 川又清明・浅野和久「宮後遺跡3 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第241集 2005年3月
- 3) 鯉淵和彦「一般国道6号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 奥谷遺跡・小鶴遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第50集 1989年3月
- 4) 中村敬治・江幡良夫「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 南小割遺跡・権現堂遺跡・親塚古墳・後原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第129集 1998年3月
- 5) 井上義安『小堤貝塚』茨城町史編さん委員会 1986年11月
- 6) 飯島一生「北関東自動車道（友部～水戸）建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 矢倉遺跡・後口原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第135集 1998年3月
- 7) 長谷川聡「北関東自動車道（友部～水戸）建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 大作遺跡・大畑遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第136集 1998年3月
- 8) 村上和彦「やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 石原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第163集 2000年3月
- 9) 註2) 文献と同じ
- 10) 田中幸夫・荒蒔克一郎「綱山遺跡 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第243集 2005年3月
- 11) a 長谷川聡・田中幸夫・小野克敏「大塚遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第242集 2005年3月

- b 井上琢哉・小林健太郎「大塚遺跡2 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第258集 2006年3月
- 12) a 近藤恒重「大戸下郷遺跡 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第216集 2004年3月
- b 綿引英樹・松本直人「大戸下郷遺跡2 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第257集 2006年3月
- 13) 茨城町史編さん委員会『茨城町史 通史編』茨城町教育委員会 1995年2月
- 14) 井上義安『茨城町上ノ山古墳』茨城町史編さん委員会 1994年3月
- 15) 大塚初重・井上義安ほか『小幡北山墳輪製作遺跡』茨城町 1988年2月
- 16) 註13) 文献に同じ
- 17) 佐藤次男『面山東遺跡』茨城町史編さん委員会 茨城町 1997年1月
- 18) 野田良直「主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書2 宮ヶ崎城跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第141集 1999年3月



第2図 下土師東遺跡調査区設定図（茨城町都市計画図 1：2,500）

# 第3章 調査の成果

## 第1節 遺跡の概要

下土師東遺跡は茨城町の南西部に位置し、酒沼川右岸の標高23～30mの台地上に立地している。

調査は、便宜上1～6区に分けて調査した。今回の報告は、平成17年度及び18年度に調査した1区、4～6区の計27,231㎡である。

調査の結果、縄文時代前期と古墳時代前期から平安時代にかけての集落跡、江戸時代の墓地跡が確認された。調査前の現況は山林・畑地である。

今回の調査によって、竪穴住居跡35軒（縄文1，古墳10，奈良・平安24），掘立柱建物跡15棟（奈良・平安12，時期不明3），溝跡22条（奈良・平安4，中・近世7，時期不明11），井戸跡15基（奈良・平安1，中・近世14），土坑319基（奈良・平安1，中・近世2，時期不明316），ピット群3か所（時期不明），炭焼窯跡1基（近世），墓坑71基（近世）が調査された。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に65箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢），土師器（坏・椀・高坏・器台・埴・甕・壺），須恵器（坏・高盤・甕・長頸瓶・蓋），灰釉陶器（長頸瓶），土師質土器（小皿），石器（磨製石斧・尖頭器・石鏃・砥石），石製品（小玉），土製品（球状土錘・小玉），鉄器（刀子・鎌），銅製品（古銭・煙管）などである。

## 第2節 基本層序

調査区中央部のK3h3区にテストピットを設定し、深さ2mまで掘り下げて基本土層（第3図）の観察を行った。土層は9層に分層され、第3～6層が関東ローム層，第8層が鹿沼パミス層に相当する。観察結果は以下の通りである。

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ローム粒子及び焼土粒子を微量に含み、粘性・締まりとも弱い。層厚は28～38cmである。

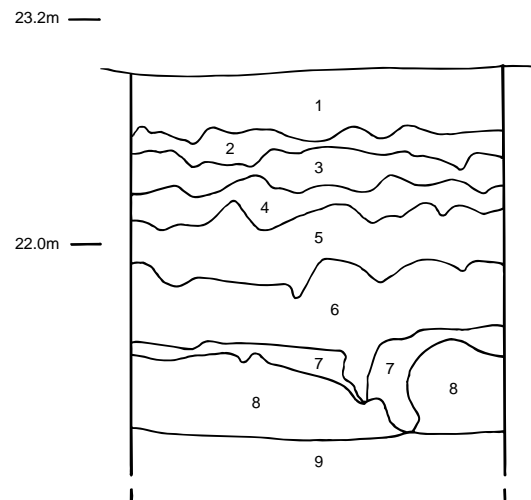
第2層は、暗褐色を呈するローム層への漸移層で、ローム粒子を中量含む。粘性・締まりともやや強く、層厚は4～16cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層で、粘性・締まりともやや強く、層厚は4～22cmである。

第4層は、褐色を呈するソフトローム層で、第3層よりロームブロックを多く含む。粘性・締まりともやや強く、層厚は8～26cmである。

第5層は、褐色を呈するハードローム層で、粘性・締まりとも強く、層厚は28～42cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層で、鹿



第3図 基本土層図



沼パミス粒子を微量含む。粘性・締まりとも極めて強く、層厚は30～46cmである。

第7層は、褐色を呈する鹿沼パミス層への漸移層で、ローム粒子及び鹿沼パミス进行中量含む。粘性・締まりとも強く、層厚は15～24cmである。

第8層は、橙色を呈する鹿沼パミスの純層で、粘性は弱く、締まりは強い。層厚は18～38cmである。

第9層は、褐色を呈するハードローム層で、小礫及び粘土粒子を微量含む、粘性・締まりとも極めて強い。下層は未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構の多くは第2層上面で確認されている。

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

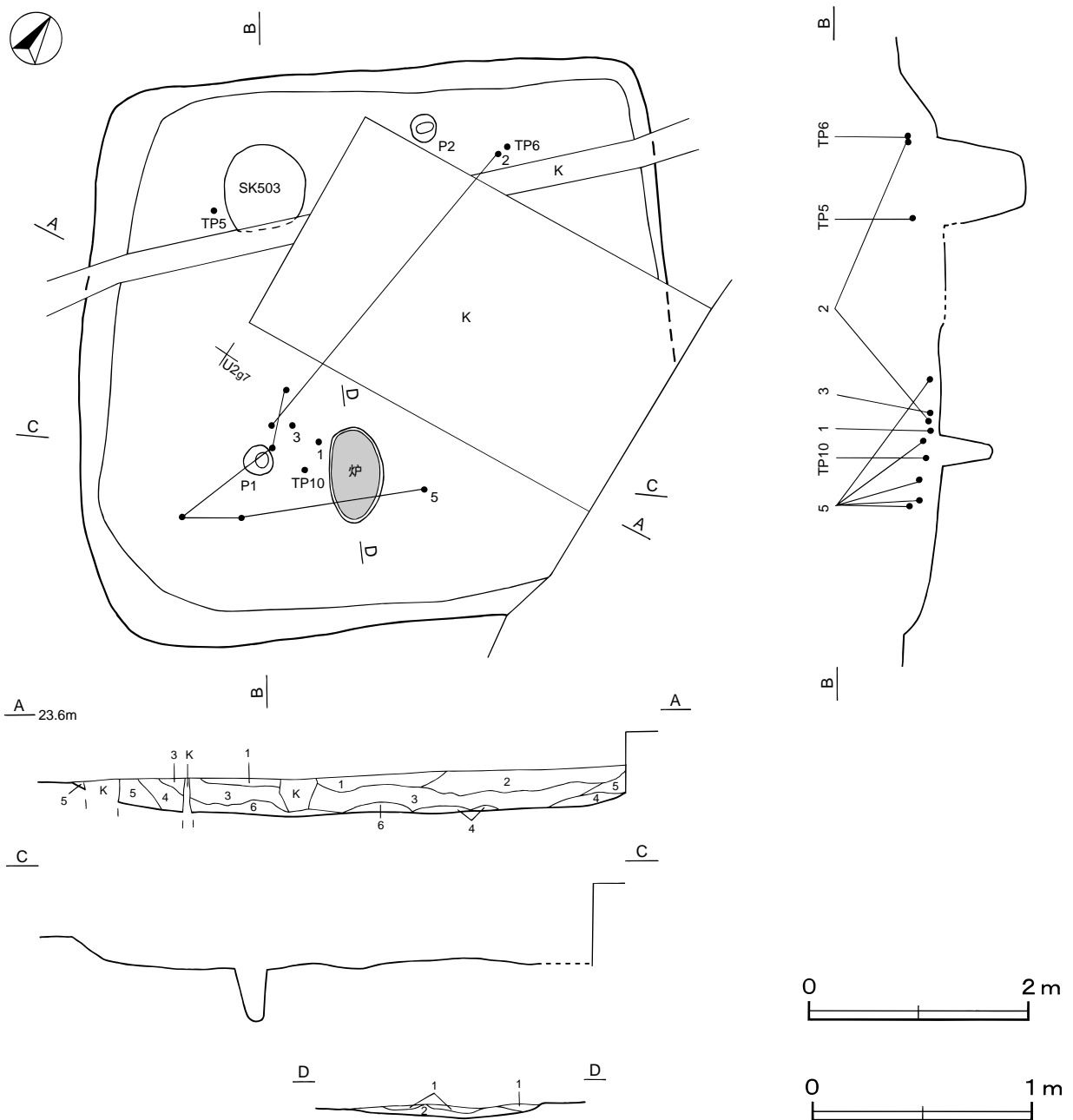
当時代の遺構は住居跡1軒と陥し穴2基が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

##### (1) 竪穴住居跡

##### 第94号住居跡 (第4～6図)

**位置** 調査区中央部のU2f7区、標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第503号土坑に掘り込まれている。



第4図 第94号住居跡実測図

**規模と形状** 長軸5.32m，短軸5.04mの方形で，主軸方向はN - 41° - Wである。壁高は20～30cmで，緩斜している。

**床** ほぼ平坦である。

**炉** 南部に付設されている。長径88cm，短径50cmの楕円形で，地山の床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し，わずかに赤変している。

炉土層解説

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量 |
|-----------------------|-------------------------|

**ピット** 2か所。P 1は深さ45cmで，位置から支柱穴と考えられる。P 2は深さ43cmで，補助的な役割を果たす柱穴と考えられる。他の支柱穴は，重複のため検出されなかった。

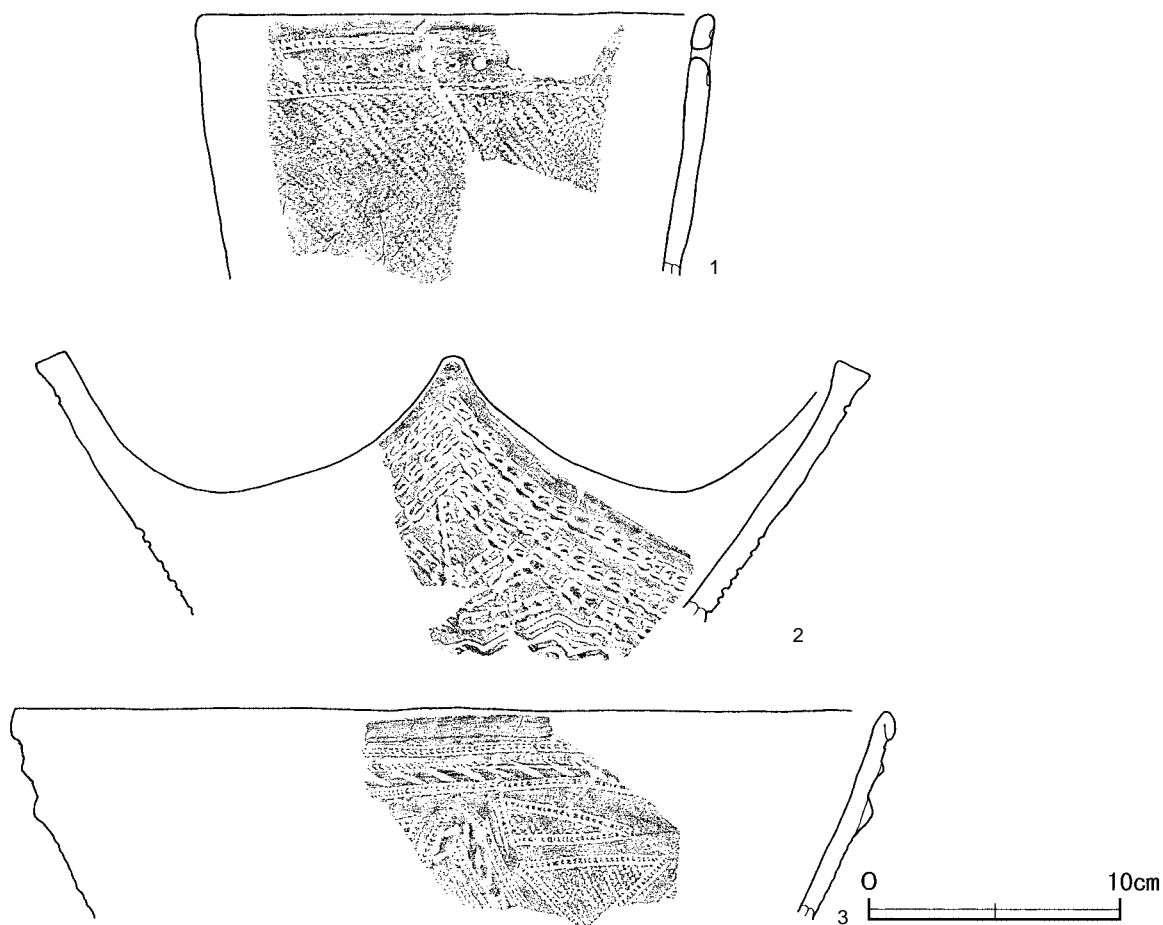
**覆土** 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

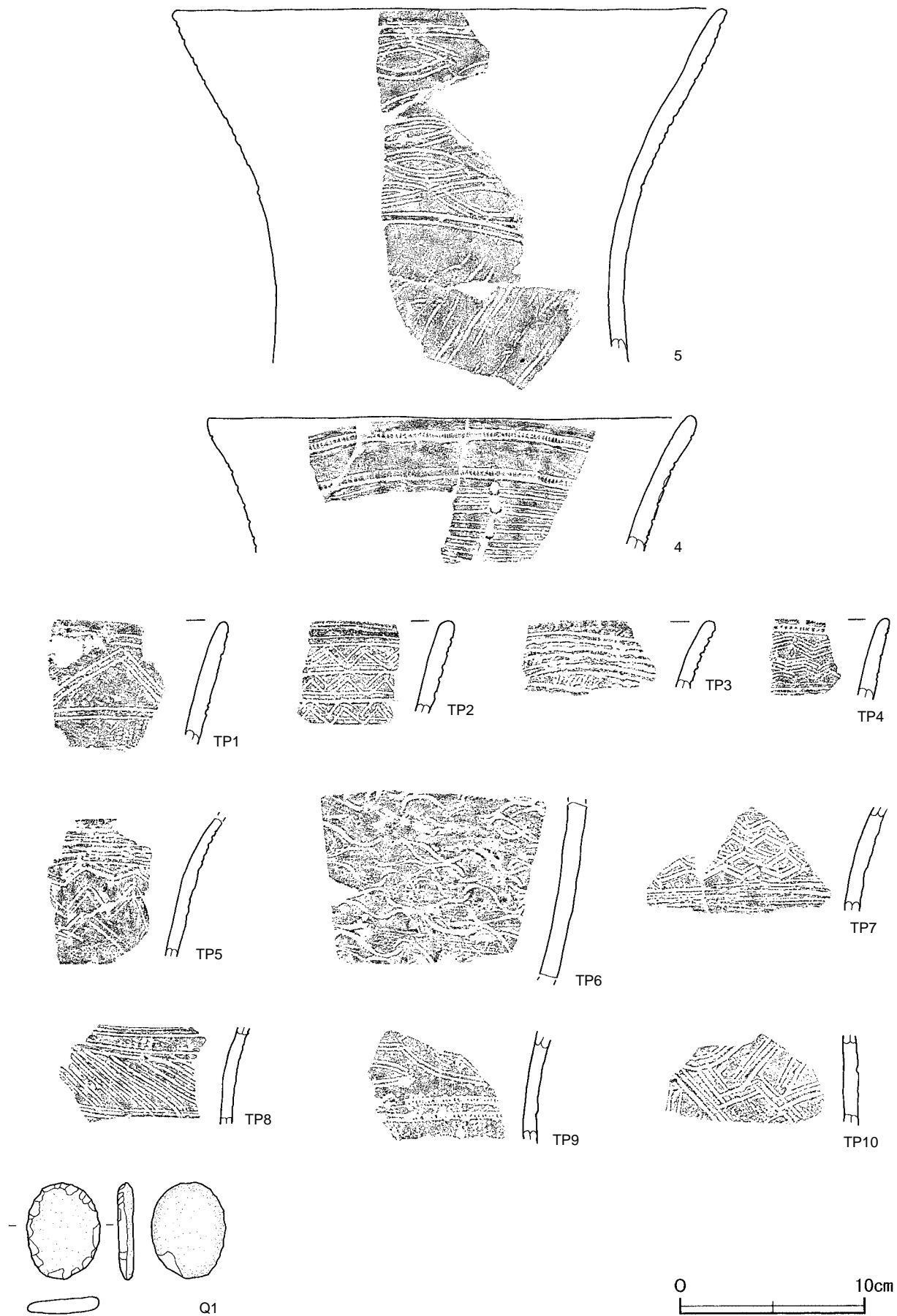
- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量          |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量        |
| 3 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量    | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片1013点（深鉢）が出土している。また，混入した土師器片17点（甕），須恵器片25点（坏16，高台付坏2，蓋1，甕6）も出土している。1～3・5は炉周辺の覆土下層から中層，2は北部から出土した破片が接合したものである。これらの土器は住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から縄文時代前期後半と考えられる。



第5図 第94号住居跡出土遺物実測図（1）



第6图 第94号住居跡出土遺物実測図(2)

第94号住居跡出土遺物観察表 (第5・6図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[20.0]	(10.3)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部半截竹管による区画 区画内円形竹管の刺突 下部LRの単節縄文	覆土下層	5% PL21
2	縄文土器	深鉢	[30.6]	(10.3)	-	石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄褐	普通	波状口縁の波頂部 3条の爪形文 下部半截竹管文	覆土下層	10% PL21
3	縄文土器	深鉢	[34.3]	(8.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	直線的な爪形文貼付 刻みのある隆帯 地文は捺系文	覆土下層	5% PL21
4	縄文土器	深鉢	[26.0]	(7.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	2条の爪形文 下肋骨文 肋骨文上には棒状工具による刺突文	覆土中	5% PL21
5	縄文土器	深鉢	[29.5]	(19.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	半截竹管による木葉状文 地文は捺系文	覆土下層	20% PL21

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
TP1	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部に半截竹管による鋸歯状文が施されている 地文に捺系文をもつものが多い	覆土中	5% PL36	
TP2	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通		覆土中	5% PL36	
TP3	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石	にぶい褐	普通		覆土中	5% PL36	
TP4	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英・礫	にぶい褐	普通		覆土中	5% PL36	
TP5	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英	灰褐	普通		覆土中層	10% PL36	
TP7	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通		覆土中	5% PL36	
TP10	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通		覆土下層	10% PL36	
TP6	縄文土器	深鉢	-	(9.5)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通		横位の波状文が施文されている	覆土中層	5% PL36
TP8	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英	橙	普通		半截竹管文による区画内に斜位の半截竹管文を充填している 地文は縄文	覆土中	5% PL36
TP9	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通		木の葉文が施文	覆土中	5% PL36

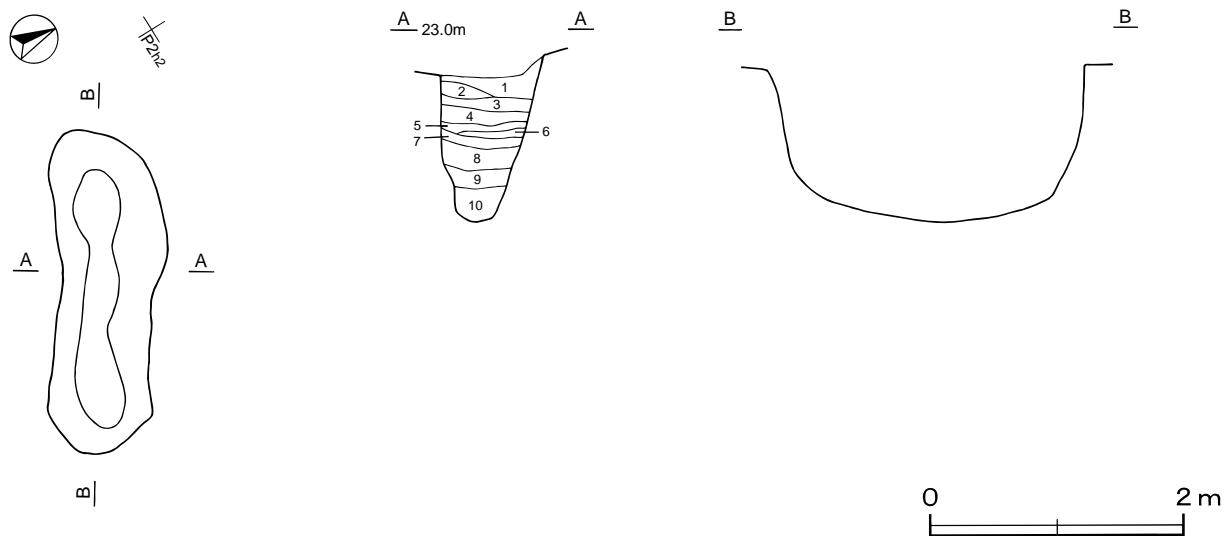
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	手法の特徴ほか	出土位置	備考
Q1	搔器	5.2	3.95	0.8	25.5	砂岩	片面からの剥離で刃部を作り出している	覆土中	PL38

(2) 陥し穴

第1号陥し穴 (第7図)

位置 調査区中央部のP 2 h2区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.52m, 短径0.73mの長楕円形で, 長径方向はN - 58° - Wである。深さは123cmで, 壁は直立している。



第7図 第1号陥し穴実測図

**覆土** 10層に分層される。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- |       |                   |       |           |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量           | 6 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 黒色  | ロームブロック微量         | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量           | 8 褐色  | ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒色  | ローム粒子微量           | 10 褐色 | ロームブロック少量 |

**所見** 時期は、遺構の形状から縄文時代と考えられる。

**第2号陥し穴 (第8図)**

**位置** 調査区中央部のR 2 d4区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

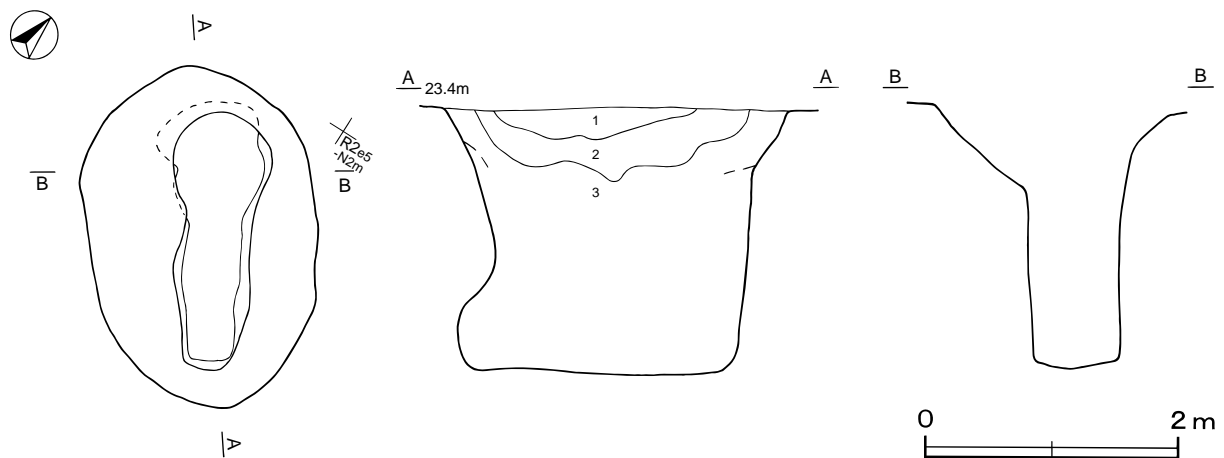
**規模と形状** 長径2.72m, 短径1.81mの楕円形で, 長径方向はN - 40° - Wである。深さは203cmで, 壁は直立している。

**覆土** 第1～3層はロームブロックを含む人為堆積であるが, 崩落の危険があり, 第4層以下は掘り込んでいないため不明である。

土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 |       |           |

**所見** 時期は、遺構の形状から縄文時代と考えられる。



第8図 第2号陥し穴実測図

表2 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
1	P 2 h2	N - 58° - W	長楕円形	2.52 × 0.73	123	直立	皿状	人為	-	縄文時代
2	R 2 d4	N - 40° - W	楕円形	2.72 × 1.81	203	直立	平坦	人為	-	縄文時代

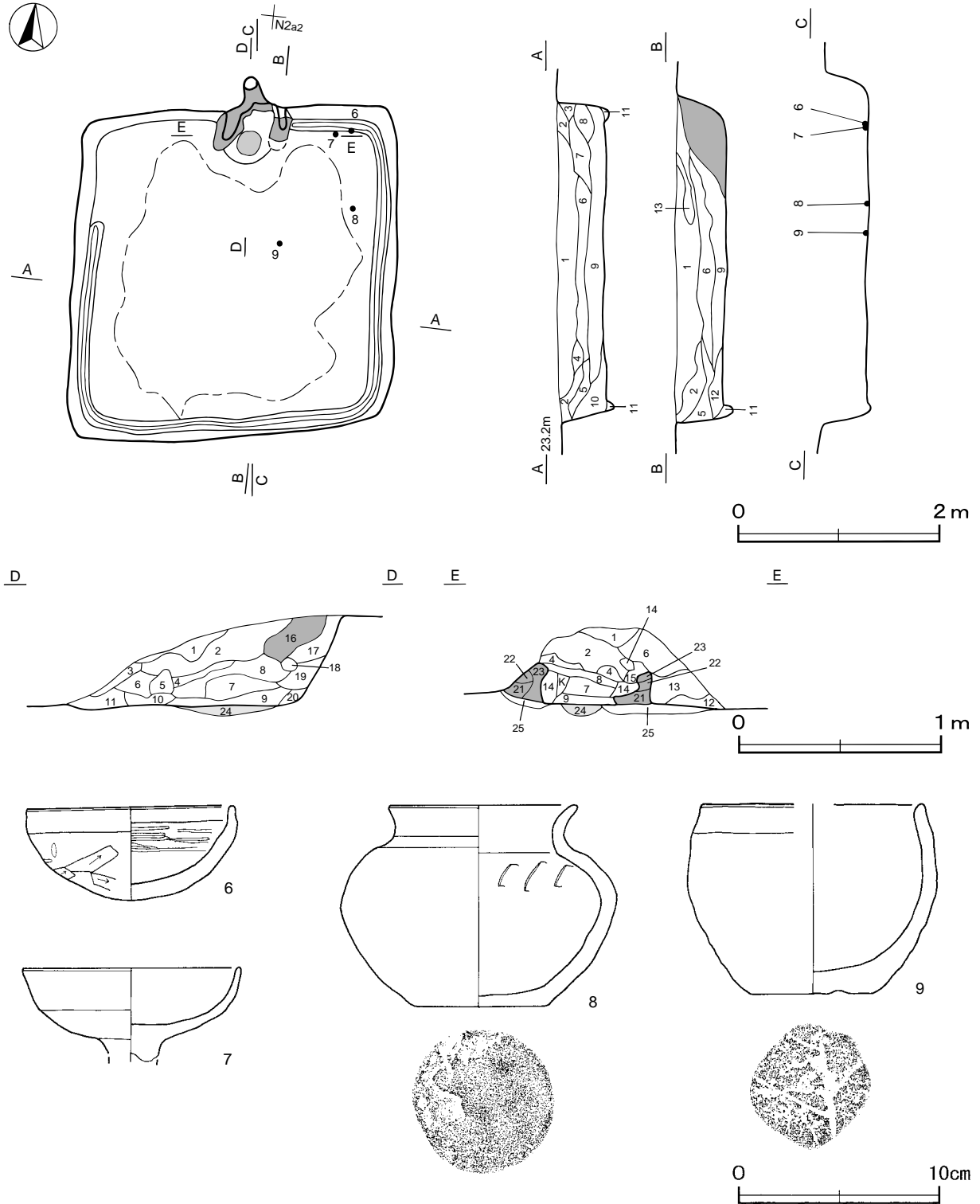
## 2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は竪穴住居跡10軒が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

### 竪穴住居跡

#### 第66号住居跡 (第9図)

位置 調査区中央部のN 2 a1区, 標高23mの台地平坦部に位置している。



第9図 第66号住居跡・出土遺物実測図

**規模と形状** 長軸3.22m，短軸3.20mの方形で，主軸方向はN - 6° - Wである。壁高は32cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が北西部を除いて確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで84cm，袖部幅76cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面を基部として砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層中の第2層は天井部の崩落土層であり，第21～23層は袖部の土層である。

**竈土層解説**

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14	黒褐色	焼土粒子微量
4	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	15	暗赤色	焼土粒子多量，炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子微量	16	褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17	黒褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	18	暗赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子微量
8	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	19	黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量
9	暗赤褐色	焼土ブロック微量	20	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	21	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化物微量
11	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	22	黒褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量
			23	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子多量
			24	暗赤褐色	焼土ブロック多量
			25	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量

**覆土** 13層に分層される。周囲から土の流入したレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

**土層解説**

1	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量	9	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子微量	10	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	11	黄褐色	黒褐色土ブロック微量
5	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	12	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13	黒褐色	焼土ブロック少量
7	暗褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量			

**遺物出土状況** 土師器片39点（坏5，壺1，甕32，小形甕1），須恵器1点（高坏）が出土している。6・7は北壁際，8は北東部，9は中央部の床面からそれぞれ出土している。これらは住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。

**第66号住居跡出土遺物観察表（第9図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	土師器	坏	10.1	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面へラ磨き 外面へラ削り	床面	90% PL22
7	須恵器	高坏	10.7	(4.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口クロ整形	床面	40% PL31
8	土師器	壺	9.3	10.0	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面へラナデ	床面	95% PL32
9	土師器	小形甕	[10.6]	9.4	6.0	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部内面ナデ 底部木葉痕	床面	60%

**第69号住居跡（第10・11図）**

**位置** 調査区中央部のM1c9区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.90m，短軸3.68mの方形で，主軸方向はN - 30° - Wである。壁高は35～45cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

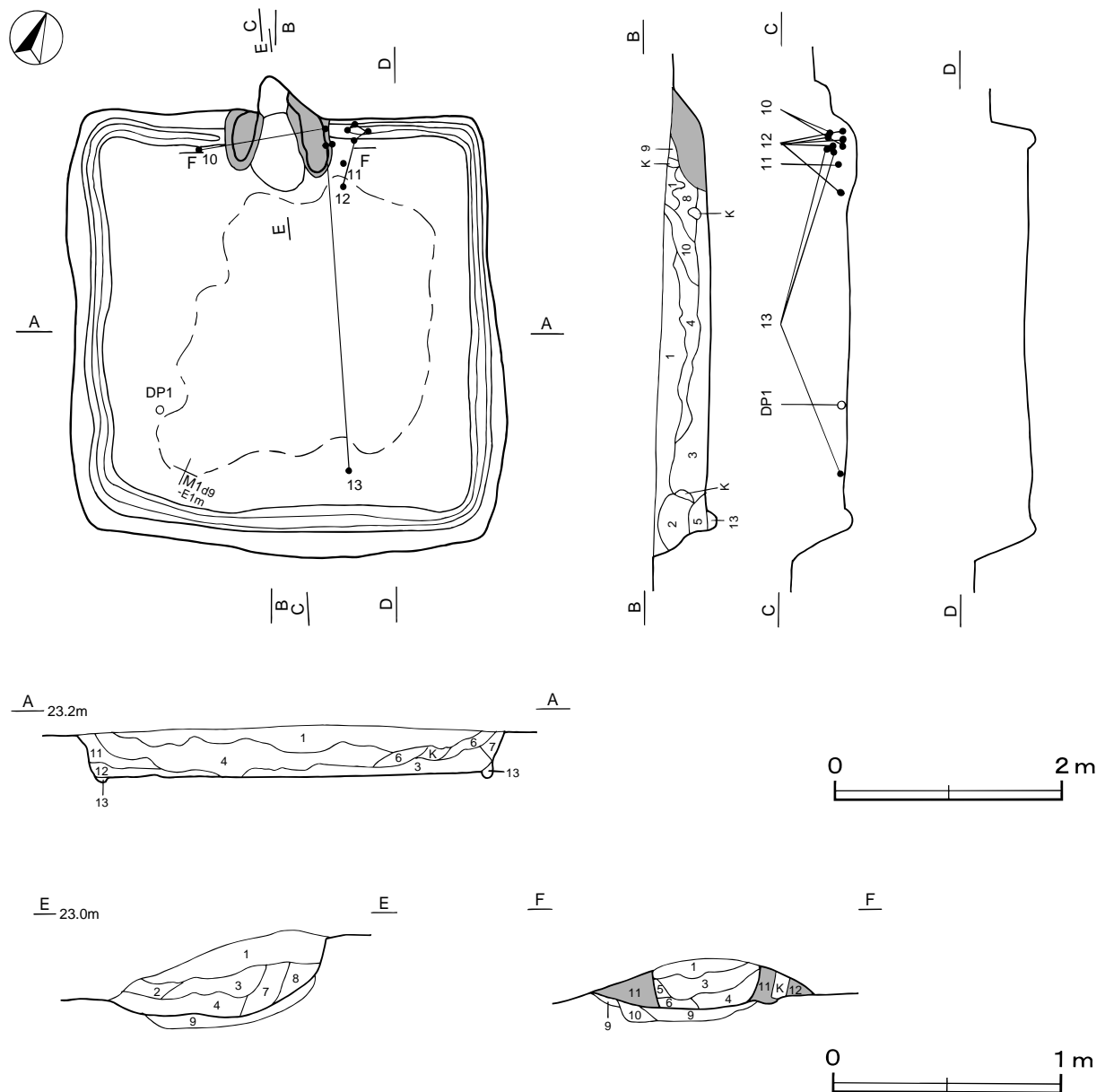


**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで104cm、袖部幅94cmである。袖部は床面と同じ高さの地山面を基部として砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめ、火床面は残存していない。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第11・12層は袖部の土層である。

**竈土層解説**

- |          |                        |          |                       |
|----------|------------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子微量           | 7 にぶい赤褐色 | ロームブロック少量，粘土ブロック微量    |
| 2 黄橙色    | ロームブロック・焼土粒子微量         | 8 暗褐色    | ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色    | ローム粒子・焼土ブロック微量         | 9 黒褐色    | ローム粒子少量               |
| 4 赤褐色    | ローム粒子・焼土ブロック少量         | 10 黒褐色   | ローム粒子中量               |
| 5 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量  | 11 暗褐色   | 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 6 暗褐色    | 焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土ブロック少量 | 12 黒褐色   | ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量   |

**覆土** 13層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。



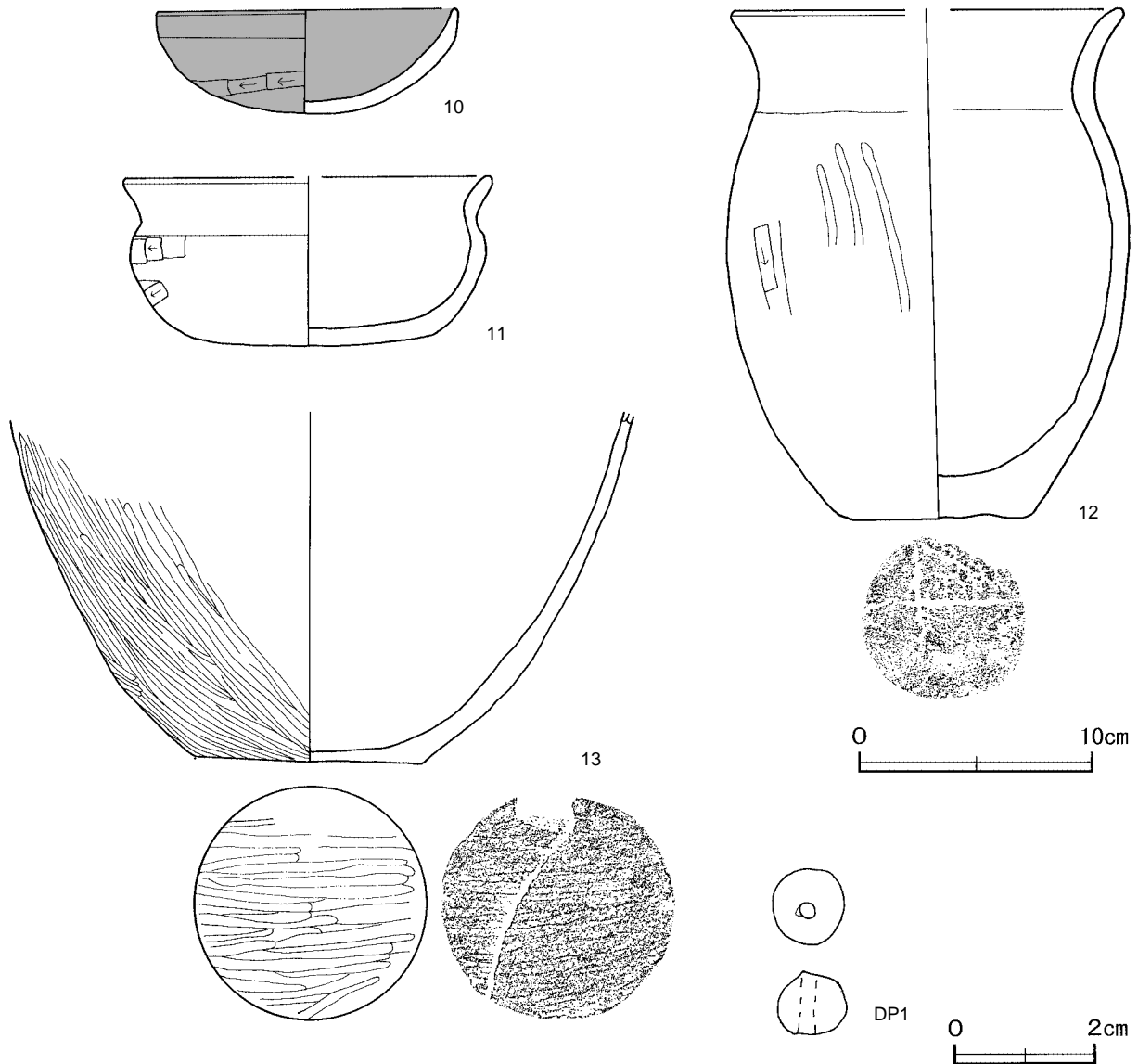
第10図 第69号住居跡実測図

土層解説

- |       |                        |        |                    |
|-------|------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量                | 8 黒褐色  | 焼土粒子少量，ローム粒子微量     |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量              | 9 黒褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子微量     |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 黒色  | ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量  | 11 黒褐色 | ロームブロック微量          |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量              | 12 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量   |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量          | 13 暗褐色 | ロームブロック微量          |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量              |        |                    |

**遺物出土状況** 土師器片198点（坏14，椀1，高台付坏1，甕181，小形甕1），鉄製品1点（鎌），土製品1点（小玉）が出土している。また，混入した須恵器片5点（坏4，蓋1）も出土している。遺物は竈周辺から多く出土しており，10～13は竈袖部付近の床面から覆土下層にかけて出土し，13は南部床面から出土した破片と接合したものである。これらの遺物は住居廃絶時に廃棄されたものである。DP1は南西部床面から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第11図 第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	土師器	坏	12.7	4.5	-	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	95% PL22
11	土師器	椀	[15.6]	7.2	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面器面荒れ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	35% PL28
12	土師器	小形甕	[16.4]	21.6	7.0	長石・石英・雲母・小礫	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	床面	60%
13	土師器	甕	-	(15.0)	9.7	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部ヘラ磨き	床面	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	手法の特徴ほか	出土位置	備考
DP1	小玉	1.06	0.85	0.24	0.96	粘土	ナデ 一方からの穿孔	床面	PL37

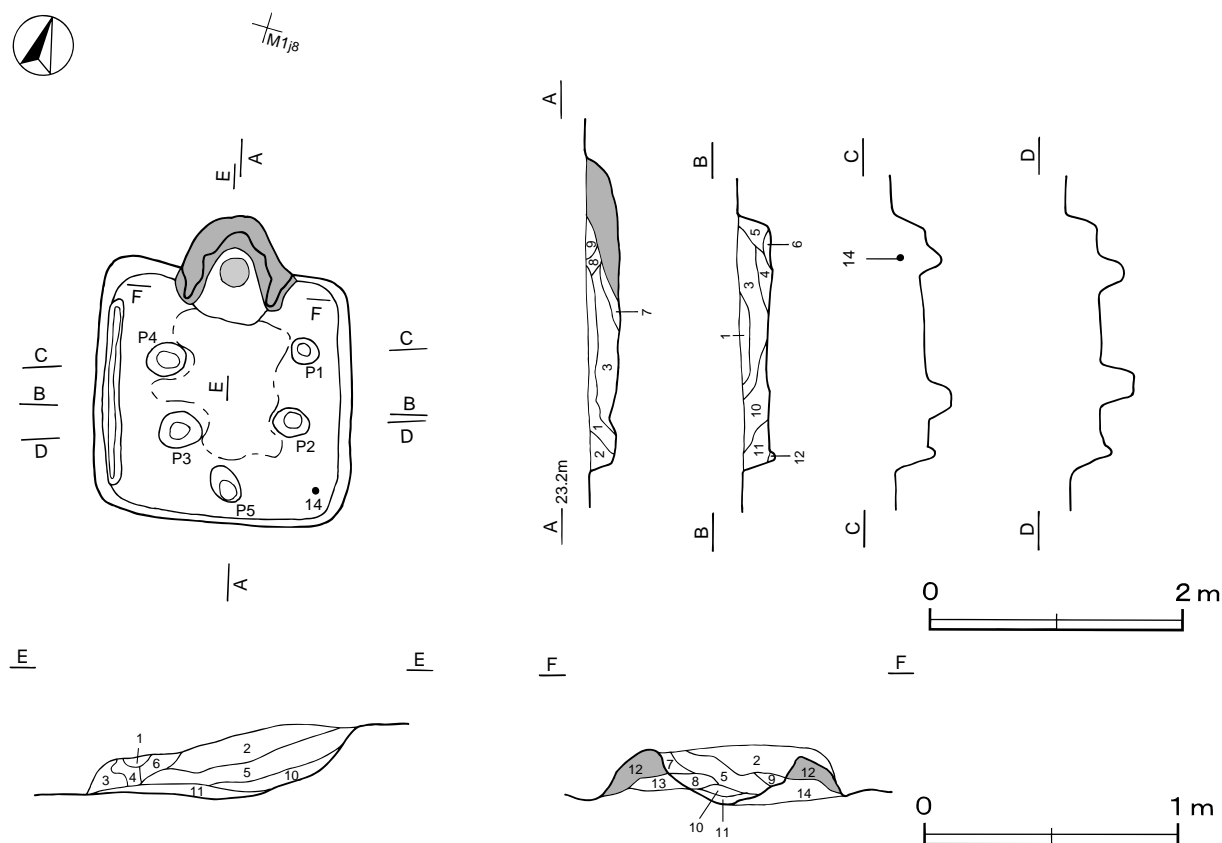
第71号住居跡 (第12・13図)

**位置** 調査区中央部のM1j8区、標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸2.05m、短軸2.02mの方形で、主軸方向はN - 13° - Wである。壁高は27cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が西壁際で確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで75cm、袖部幅88cmである。右袖部は床面と同じ高さの地山面、左袖部は掘り残した地山をそれぞれ基部とし、いずれも砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火により赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第5層は天井部の崩落土層であり、第12～14層は袖部の土層である。



第12図 第71号住居跡実測図

竈土層解説

- |          |                          |          |                              |
|----------|--------------------------|----------|------------------------------|
| 1 褐 色    | 焼土ブロック・ローム粒子少量           | 10 黒 褐 色 | 焼土ブロック微量                     |
| 2 黒 褐 色  | ローム粒子少量, 粘土ブロック微量        | 11 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 3 にぶい黄橙色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック微量       | 12 灰黄褐色  | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量     |
| 4 褐 色    | ローム粒子中量, 焼土ブロック微量        | 13 褐 色   | ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量     |
| 5 灰 褐 色  | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 極暗褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量     |
| 6 にぶい黄橙色 | 粘土ブロック多量, 炭化物・焼土粒子微量     |          |                              |
| 7 黒 褐 色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量        |          |                              |
| 8 暗 褐 色  | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量  |          |                              |
| 9 黒 色    | ローム粒子・焼土粒子微量             |          |                              |

**ピット** 5か所。P 1 ~ P 4 は深さ15~27cmで、配置から支柱穴である。P 5 は深さ25cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。

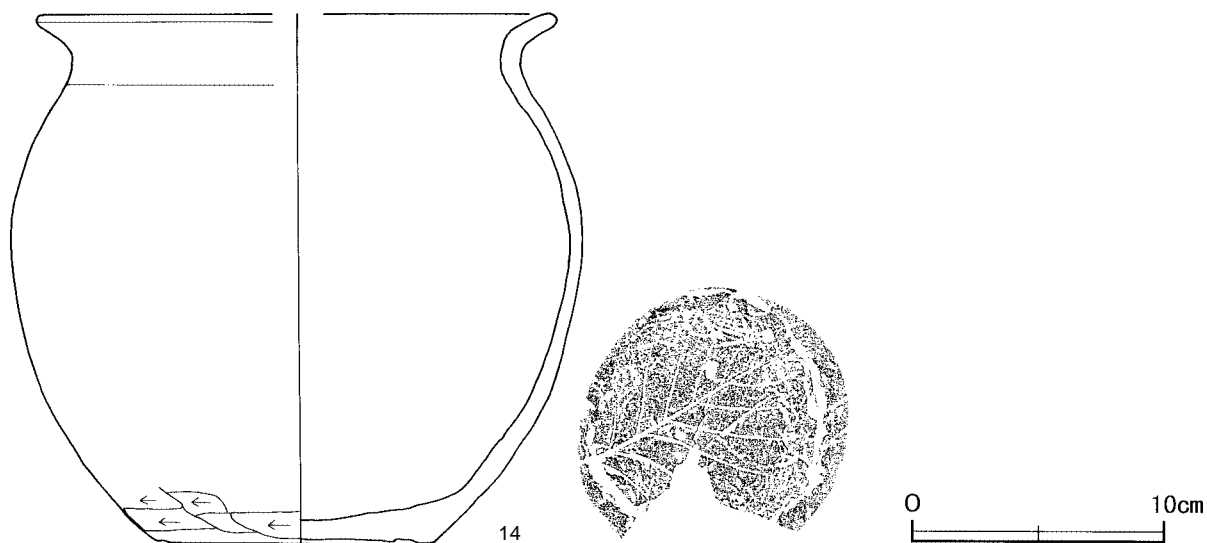
**覆土** 12層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- |         |                              |          |                   |
|---------|------------------------------|----------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | 炭化物中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量     | 8 暗 褐 色  | ローム粒子少量           |
| 2 暗 褐 色 | 炭化物少量, ロームブロック微量             | 9 褐 色    | ロームブロック少量, 炭化物微量  |
| 3 暗 褐 色 | 炭化物中量, ロームブロック少量             | 10 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量  |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物微量                | 11 黒 色   | ローム粒子少量, 炭化物微量    |
| 5 黒 褐 色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量            | 12 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 6 褐 色   | ロームブロック中量, 炭化粒子少量            |          |                   |
| 7 黒 褐 色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・粘土ブロック・ローム粒子少量 |          |                   |

**遺物出土状況** 土師器片36点 (椀 1, 甕35), 須恵器片 6点 (坏 5, 甕 1) が出土している。14は南東コーナ部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第13図 第71号住居跡出土遺物実測図

第71号住居跡出土遺物観察表 (第13図)

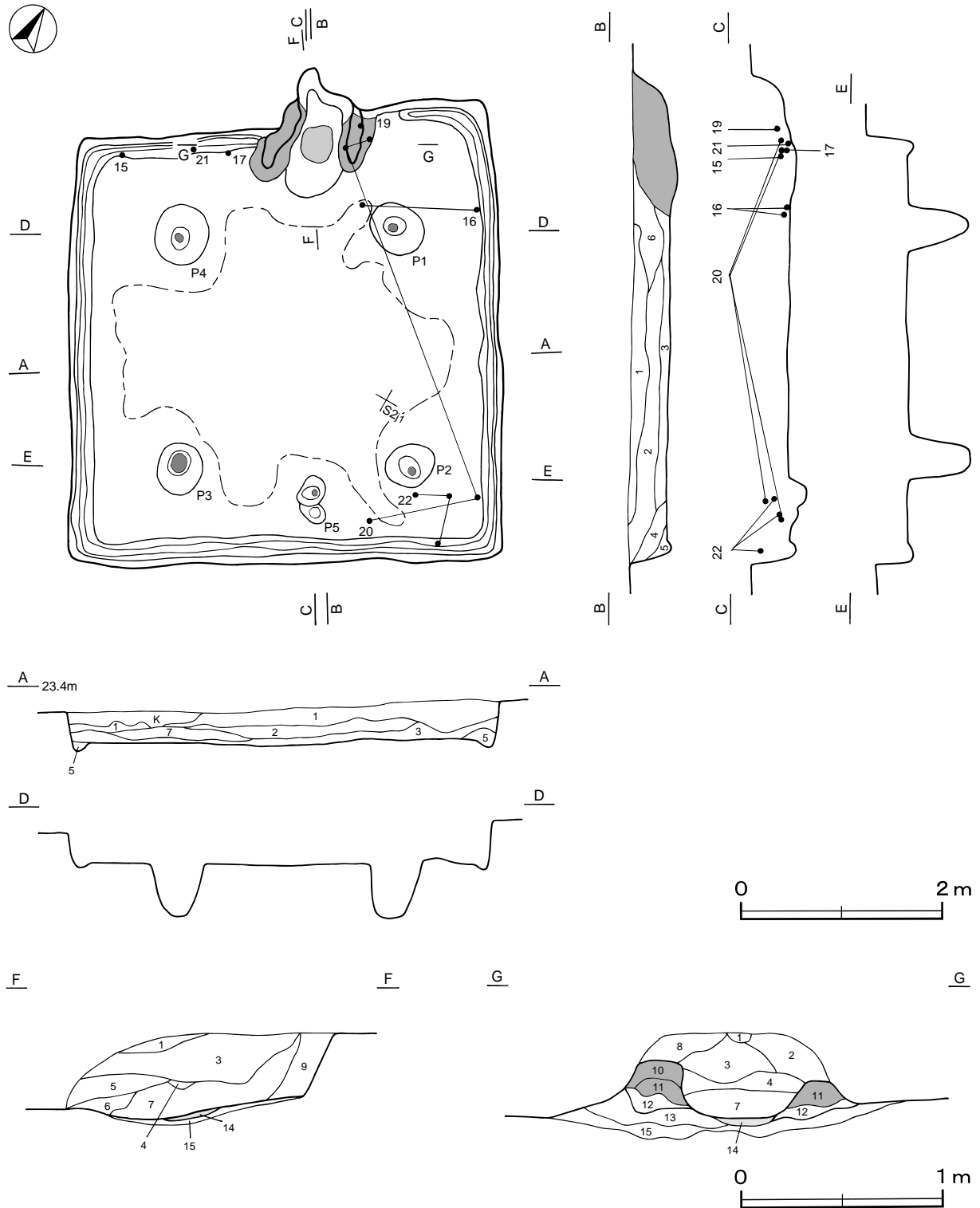
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師器	甕	[20.0]	20.9	10.2	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	35%

第82号住居跡 (第14・15図)

位置 調査区中央部のS 1 i 0区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.57m, 短軸4.25mの方形で, 主軸方向はN - 31° - Wである。壁高は32~50cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。



第14図 第82号住居跡実測図

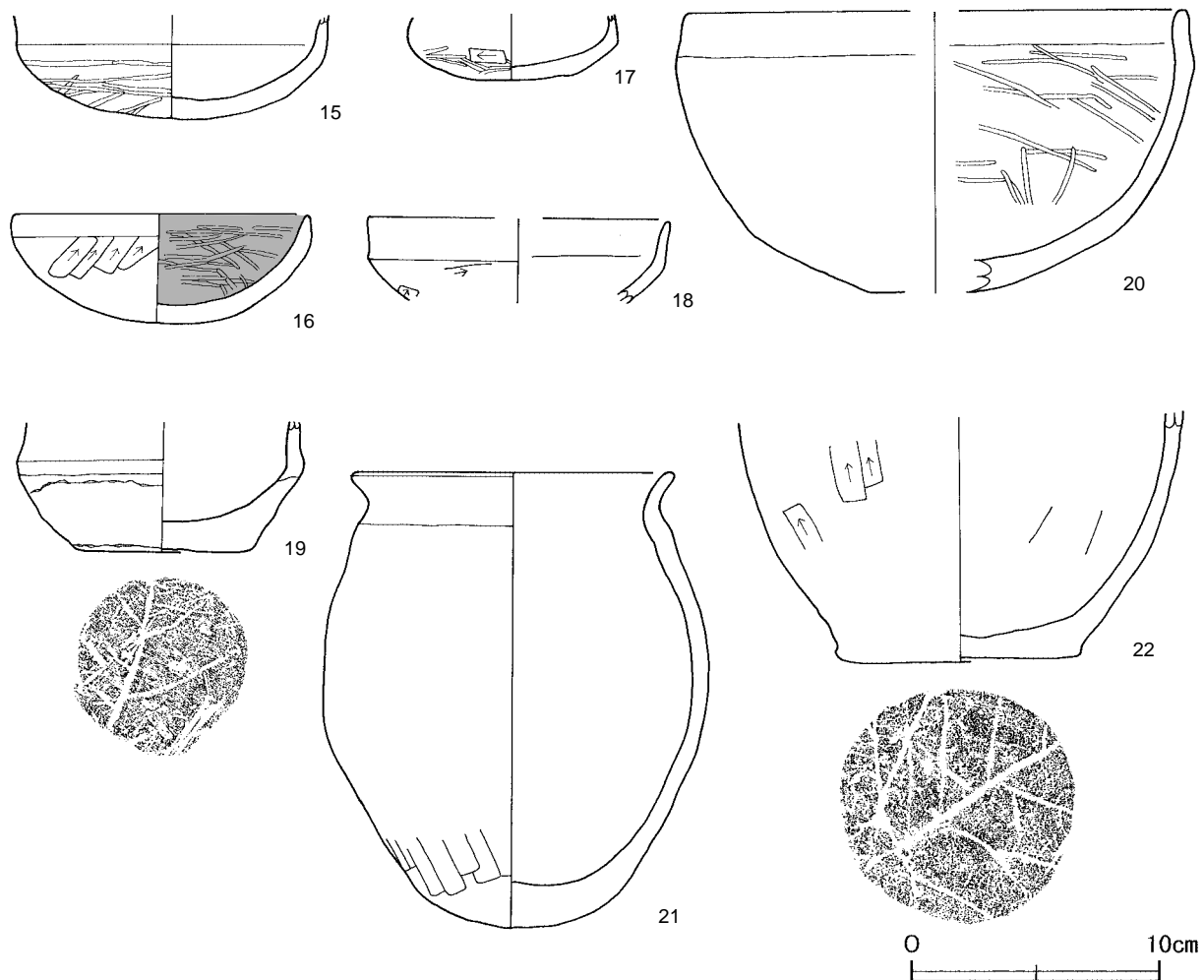
**竈** 北壁中央やや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで102cm，袖部幅106cmである。袖部は掘り込んだ地山の上に褐色土を貼り付けて基部とし，その上に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており，火床面は火により赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第4・7層は天井部の崩落土層であり，第10～12層は袖部の土層である。

**竈土層解説**

- |        |                                |         |                                |
|--------|--------------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量            | 8 黒褐色   | ローム粒子・焼土粒子微量                   |
| 2 暗褐色  | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     | 9 黒褐色   | 炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量           |
| 3 黒褐色  | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 黒褐色  | 砂質粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 4 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量       | 11 暗褐色  | 砂質粘土ブロック多量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量  |
| 5 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量              | 12 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量                 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量              | 13 褐色   | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量，炭化粒子微量                |
|        |                                | 15 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量            |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ52～60cmで，配置から主柱穴である。P5は深さ18cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。柱のあたりによる硬化範囲が各柱穴の底面に認められる。

**覆土** 8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。



第15図 第82号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- |       |                  |       |                         |
|-------|------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量        | 5 暗褐色 | ロームブロック中量               |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量          | 6 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量        | 7 暗褐色 | ロームブロック少量               |
| 4 暗褐色 | 炭化物少量, ロームブロック少量 |       |                         |

**遺物出土状況** 土師器片228点（坏12，鉢4，甕207，小形甕4，甑1）が出土している。また，混入した須恵器片7点（坏4，蓋1，瓶1，甕1）も出土している。15・17・21は北壁際，19・20は竈右袖部，16は北東部の床面からそれぞれ出土しており，20は南東コーナー部から出土した破片と接合したものである。15～17・19・21は住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。22は南東壁際の覆土中層から出土している。20・22は住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第82号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
15	土師器	坏	-	(4.2)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ナデ	床面	70% PL22
16	土師器	坏	11.8	4.4	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ磨き	床面	90% PL22
17	土師器	坏	-	(2.6)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	床面	55%
18	土師器	坏	[12.1]	(3.3)	-	雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	10%
19	土師器	坏	-	(5.2)	7.3	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 底部木葉痕	竈右袖部	80% PL22
20	土師器	鉢	[20.0]	(11.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラ磨き	竈右袖部	20%
21	土師器	甕	12.9	18.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	85% PL34
22	土師器	甕	-	(9.8)	8.4	長石・石英・雲母	黄褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中層	20%

第84号住居跡（第16～18図）

**位置** 調査区中央部のU2d1区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸2.93m，短軸2.33mの長方形で，主軸方向はN - 108° - Eである。壁高は32cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，中央部やや北側が踏み固められている。

**竈** 東壁中央やや北寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで70cm，袖部幅100cmである。袖部は，床面と同じ高さの地山面を基部とし，その上に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は火により赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第2・3・5層は天井部の崩落土層であり，第8～10層は袖部の土層である。

竈土層解説

- |       |                       |          |                                |
|-------|-----------------------|----------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量        | 7 褐色     | 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量         |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量   | 8 暗褐色    | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量          |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量 | 9 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 10 暗褐色   | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量          |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     |          |                                |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量  |          |                                |

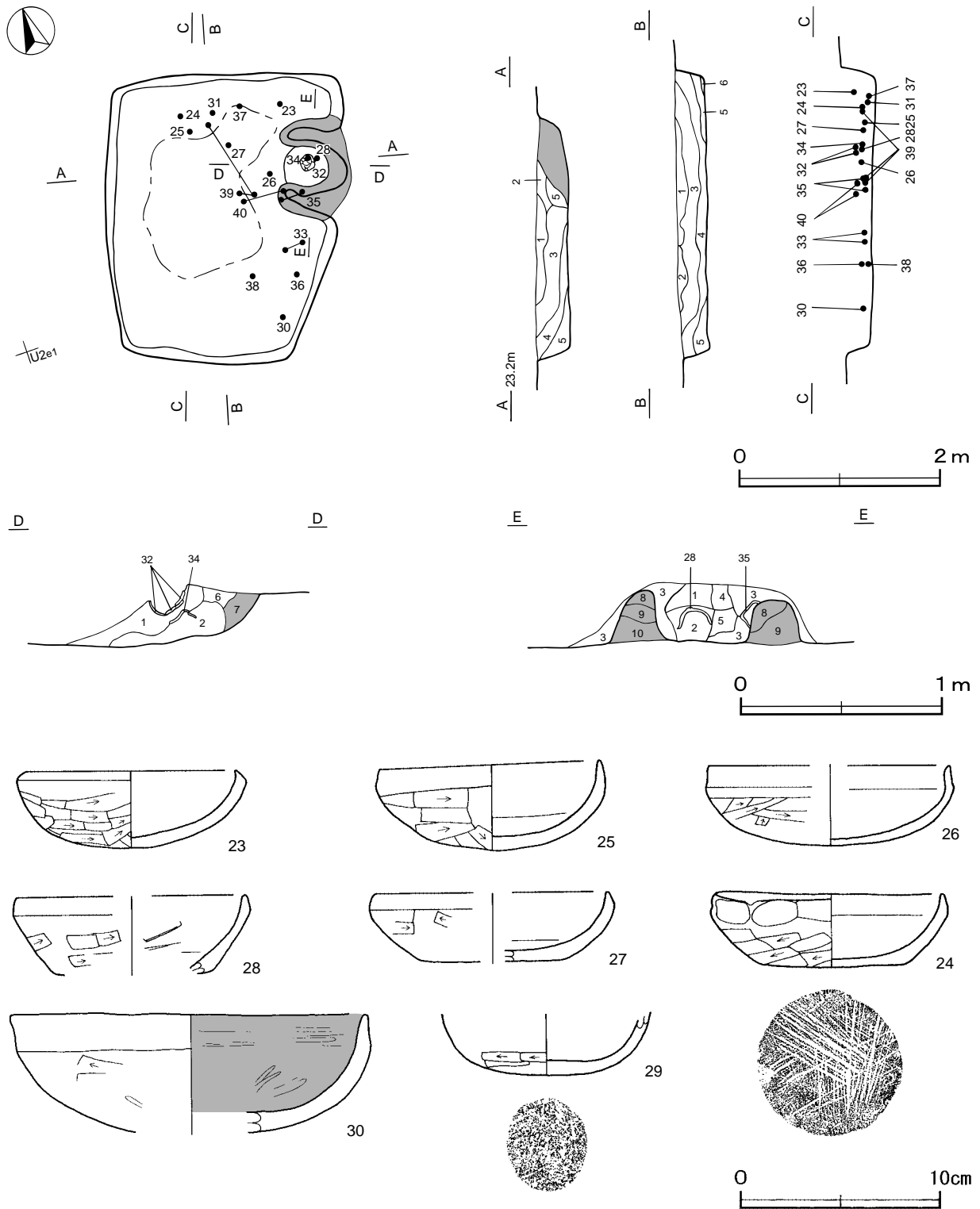
**覆土** 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- |       |                |       |           |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量      | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量        | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量   |

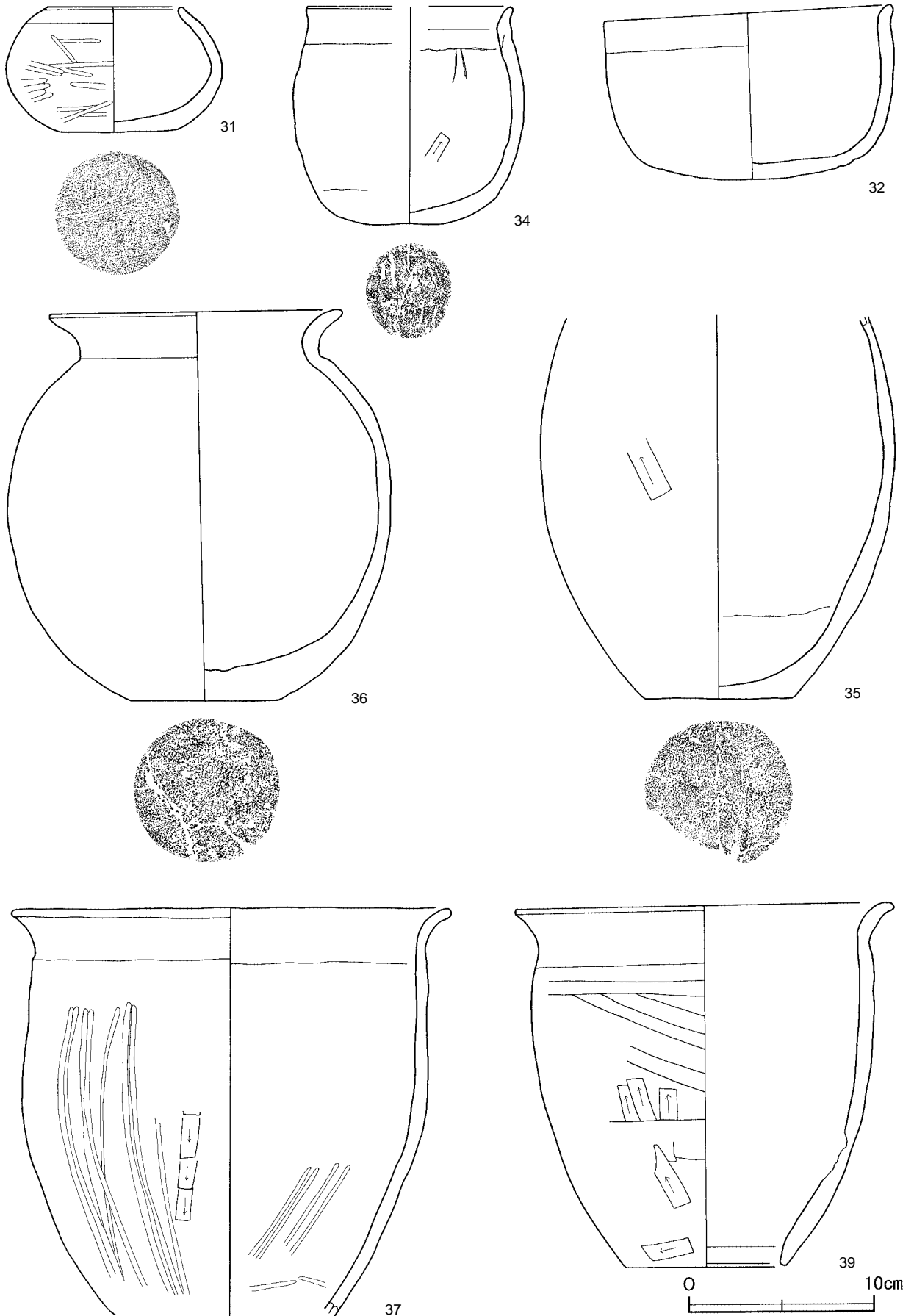
**遺物出土状況** 土師器片418点（坏33，碗1，鉢1，壺1，甕372，小形甕7，甑3）が出土している。また，混入した須恵器片1点（甕）も出土している。28・32・34・35は竈内から出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。26・39・40は中央部，30・33・36・38は南東コーナ部，23～25・27・31・37は北部のそれぞれ覆土下層から出土しており，住居廃絶後まもなく廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。

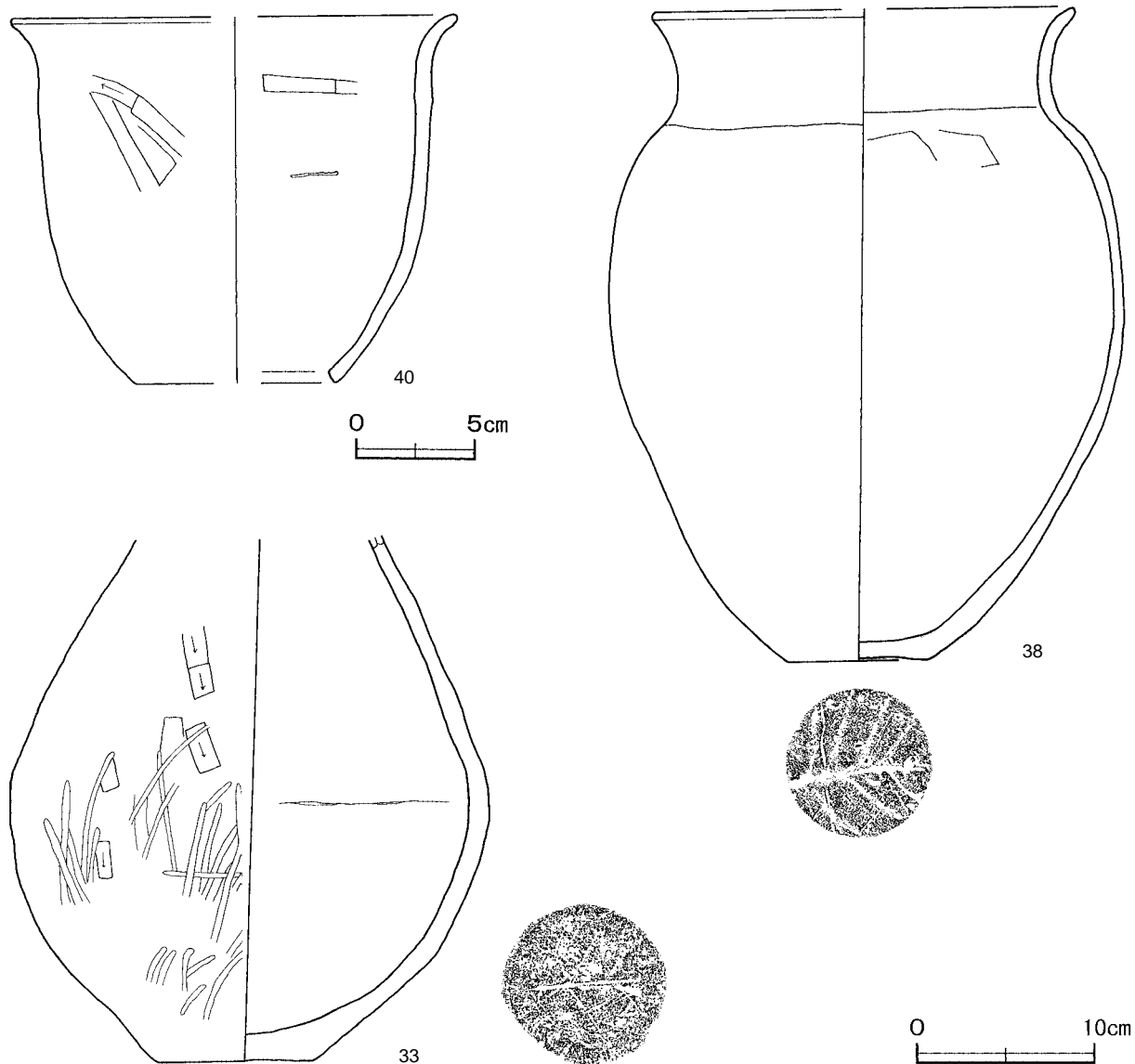


第16図 第84号住居跡・出土遺物実測図





第17図 第84号住居跡出土遺物実測図(1)



第18図 第84号住居跡出土遺物実測図(2)

第84号住居跡出土遺物観察表 (第16~18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
23	土師器	坏	10.5	3.8	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り内面ナデ	覆土下層	100% PL22
24	土師器	坏	11.5	3.6	7.2	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面加工痕有り 体部外面へら削り 内面ナデ 底部擦痕有り	覆土下層	95% PL22
25	土師器	坏	11.0	4.5	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り内面ナデ	覆土下層	90% PL22
26	土師器	坏	[11.9]	4.0	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り内面ナデ	覆土下層	50%
27	土師器	坏	[11.6]	3.5	[7.1]	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り内面ナデ	覆土下層	45%
28	土師器	坏	[11.6]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り内面ナデ	甕下層	30%
29	土師器	坏	-	(3.1)	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中層	30%
30	土師器	坏	17.8	(5.7)	-	長石	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面手持ちへら削り後へら磨き 体部内面へら磨き	覆土下層	70% PL22
31	土師器	椀カ	7.1	6.6	6.7	石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面へら磨き 内面ナデ	覆土下層	95% PL28
32	土師器	鉢	15.2	9.3	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部内・外面ナデ	甕中層	95% PL31
33	土師器	壺	-	(29.7)	8.5	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面へら削り後へら磨き 内面ナデ 底部木葉痕	覆土下層	70% PL31
34	土師器	小形甕	[10.8]	11.7	4.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	甕下層	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
35	土師器	甕	-	(20.5)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈下層	50%
36	土師器	甕	15.6	21.1	7.8	長石・雲母・小礫	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土下層	80% PL34
37	土師器	甕	23.7	(21.9)	-	長石・石英・雲母・小礫	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後 ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	覆土下層	80% PL35
38	土師器	甕	[23.8]	37.0	8.1	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 底部木葉痕	覆土下層	60% PL34
39	土師器	甕	20.1	19.6	8.6	長石・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後 ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	90% PL35
40	土師器	甕	[19.0]	15.7	[8.5]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	45%

### 第85号住居跡 (第19～21図)

**位置** 調査区中央部のV 1 a8区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第498号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.72m，短軸4.70mの方形で，主軸方向はN - 28° - Wである。壁高は25cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，南東部を除き踏み固められている。

**炉** 中央部北側に付設されている。長径85cm，短径52cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し，わずかに赤変している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量

**ピット** 6か所。深さは11～20cmで，規模や配置から支柱穴と考えられる。

**貯蔵穴** 南西コーナー部に位置している。径40cmの円形で，深さは30cmである。底面は皿状で，壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量  
3 暗褐色 ロームブロック微量

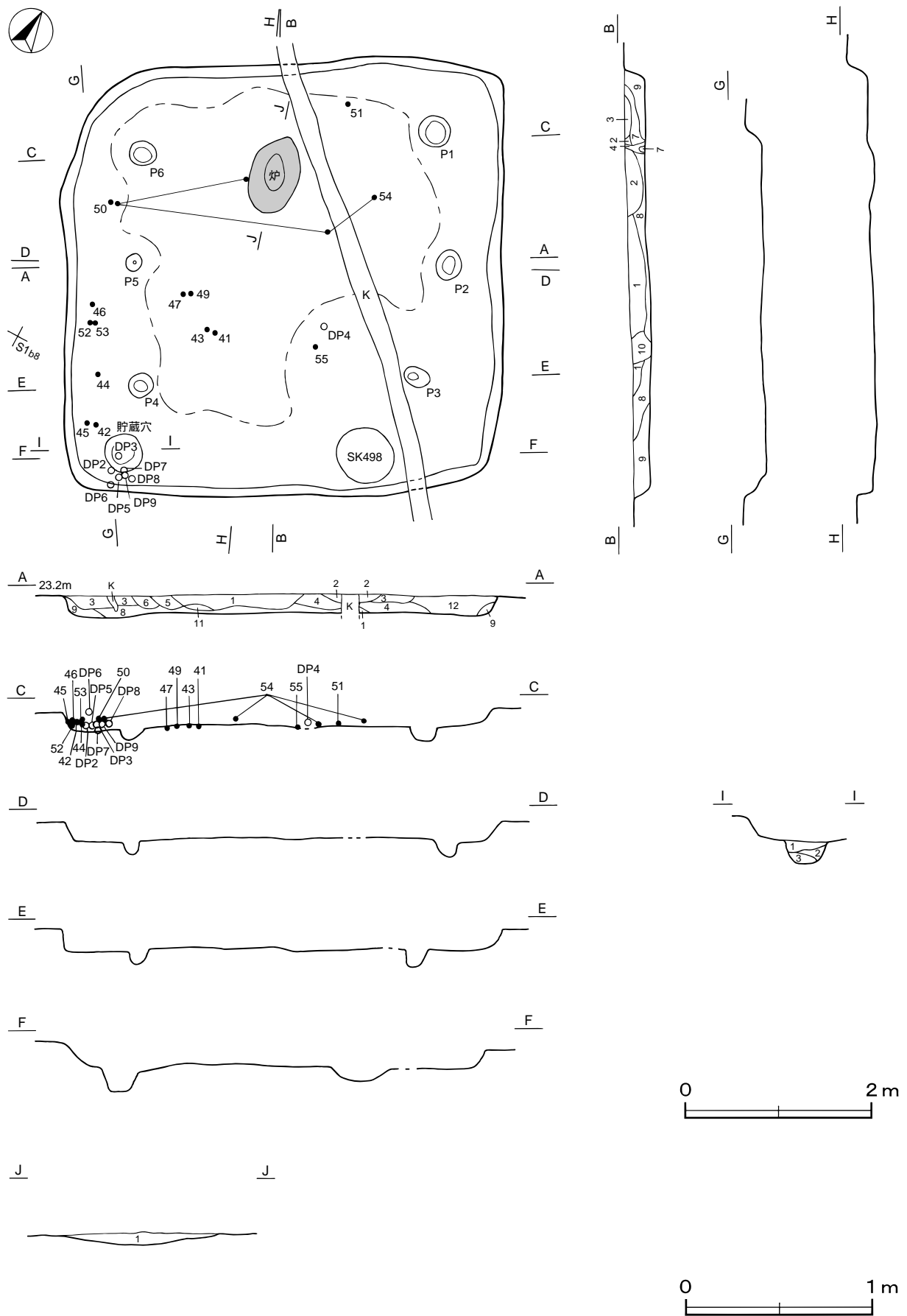
**覆土** 12層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

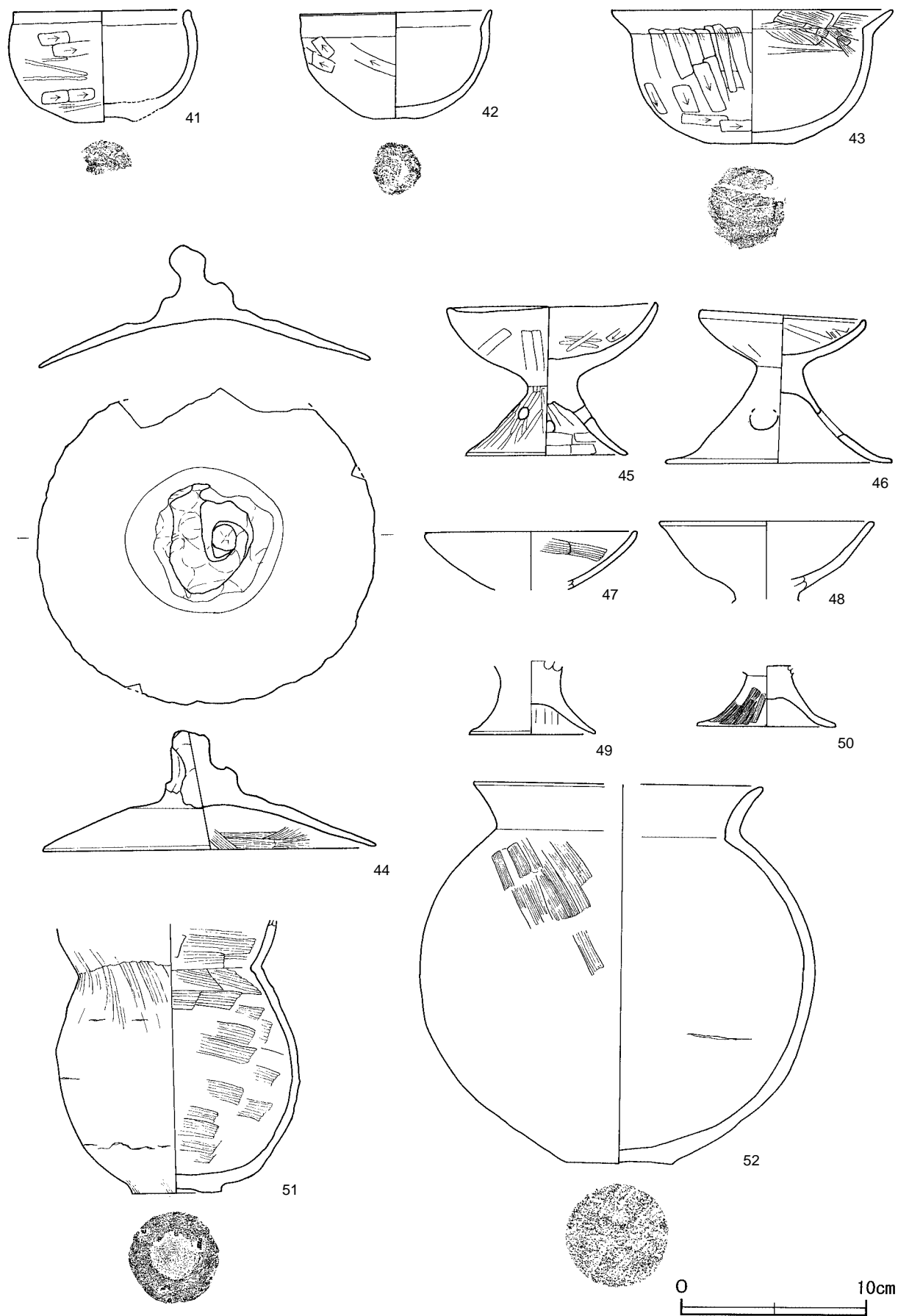
- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
2 黒褐色 ロームブロック微量  
3 極暗褐色 ローム粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック微量  
5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
6 黒色 ローム粒子微量  
7 暗褐色 ローム粒子中量  
8 暗褐色 ロームブロック中量  
9 暗褐色 ロームブロック少量  
10 黒褐色 ローム粒子少量  
11 黒褐色 ローム粒子微量  
12 極暗褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片112点 (坏4，椀2，蓋1，壺1，甕101，小形甕2，甕1)，土製品8点 (球状土錘) が出土している。遺物は中央部から西部の床面にかけて出土している。42・44～46・52・53は西壁際の床面から正位の状態で，52は53の上に据えられた状態で出土している。41・43・47・49・55は中央部の床面，DP2・3・5～9は南西コーナー部の壁際からまとまって出土している。

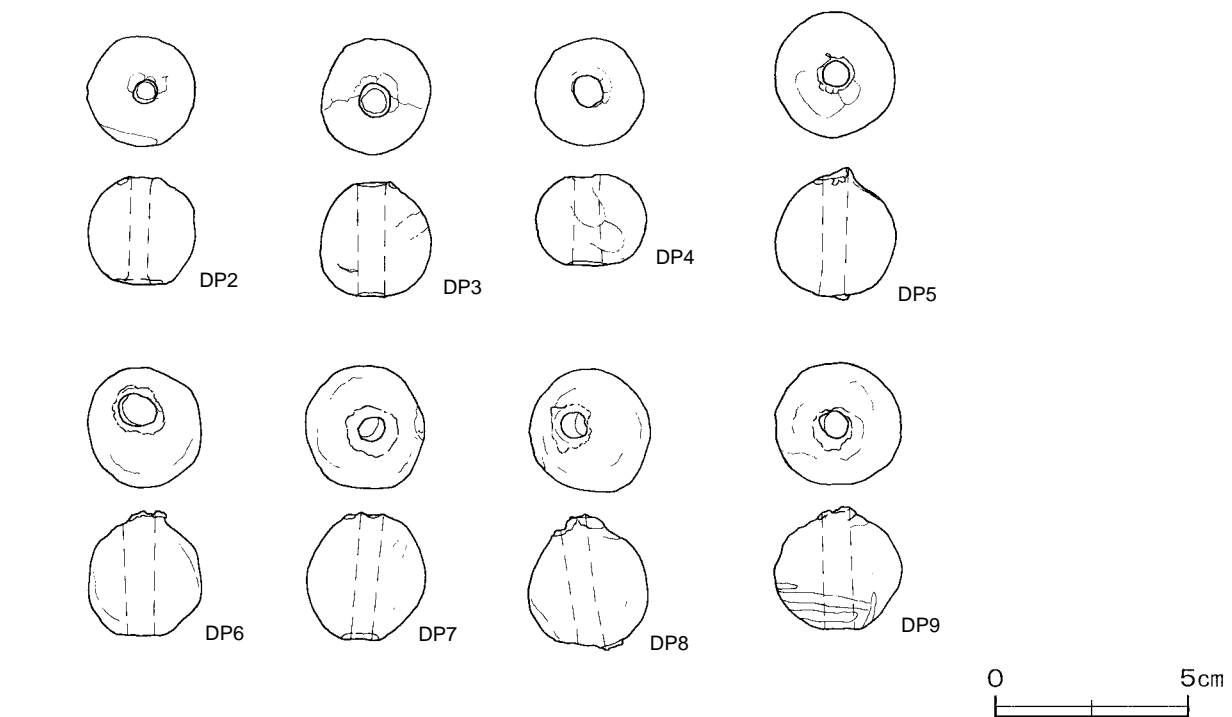
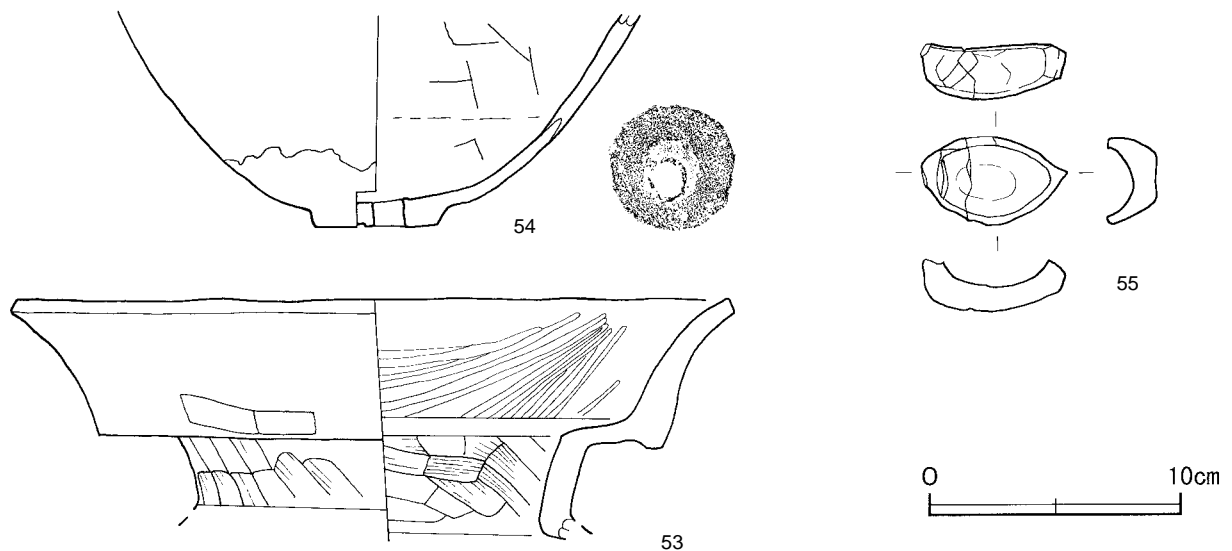
**所見** 西壁際から出土した土器は正位の状態で並んでおり，住居廃絶に伴った祭祀行為が行われた可能性がある。時期は，出土土器から4世紀前葉と考えられる。



第19图 第85号住居跡実測図



第20図 第85号住居跡出土遺物実測図(1)



第21図 第85号住居跡出土遺物実測図(2)

第85号住居跡出土遺物観察表(第20・21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
41	土師器	坏	9.4	5.9	[32]	長石・雲母	橙	普通	体部外面へら削り後へら磨き 内面ナデ	床面	60% PL23
42	土師器	坏	10.3	5.7	2.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へら削り内面ナデ	床面	95% PL23
43	土師器	椀	15.0	7.2	4.3	長石・石英	赤褐	普通	体部外面へら削り 内面ハケ目調整	床面	70% PL28
44	土師器	蓋	18.0	6.5	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	内面ハケ目調整後ナデ 指頭痕有り	床面	90% PL30
45	土師器	高坏	11.2	8.2	8.5	長石・石英・雲母	橙	普通	坏部外面ナデ 内面へら削り後へら磨き 脚部外面へら磨き 内面ハケ目調整	床面	90% PL31
46	土師器	器台	8.8	8.2	12.0	長石・雲母	明褐	普通	坏部内・外面ナデ	床面	90% PL30
47	土師器	高坏	11.4	(3.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	坏部内面ハケ目調整	床面	35%
48	土師器	高坏	11.4	(4.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	坏部内・外面ナデ	覆土中	35%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	土師器	高坏	-	(3.9)	6.8	長石・雲母	にぶい褐	普通	脚部内・外面ナデ	床面	40%
50	土師器	高坏	-	(3.3)	7.3	長石・石英・雲母	明褐	普通	脚部外面ハケ目調整 内面ナデ	覆土下層	40% PL31
51	土師器	小形甕	-	(14.5)	4.9	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面ハケ目調整 体部内・外面ハケ目調整	床面	85% PL34
52	土師器	甕	[15.6]	20.4	5.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目調整 内面ナデ	床面	80% PL34
53	土師器	壺	28.2	(9.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後ナデ 内面ヘラ磨き	床面	20% PL31
54	土師器	壺	-	(8.5)	5.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ 底部二方向からの穿孔 輪積痕	床面	20%
55	土師器	ミニチュア土器	(5.8)	3.4	2.3	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	ナデ 指頭痕 舟形カ	床面	95% PL35

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	球状土鍾	2.8	2.8	0.5	20.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL37
DP3	球状土鍾	2.9	2.9	0.6	22.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL37
DP4	球状土鍾	2.8	2.4	0.7	18.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL37
DP5	球状土鍾	3.2	3.3	0.6	29.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL37
DP6	球状土鍾	3.1	3.3	0.9	27.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL37
DP7	球状土鍾	3.3	3.4	0.7	30.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL37
DP8	球状土鍾	3.3	3.5	0.8	31.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL37
DP9	球状土鍾	3.3	3.2	0.8	31.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 工具痕有り	覆土下層	PL37

### 第86号住居跡 (第22・23図)

**位置** 調査区中央部のV 2 b 2区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.52m，短軸4.50mの方形で，主軸方向はN - 13° - Wである。壁高は44～52cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，炉周辺の中央部が踏み固められ，P 5 周辺には硬化したL字状の高まりが確認されている。また，西壁際では焼土が堆積している。

**炉** 中央部よりやや北寄りに付設されている。長径60cm，短径52cmの楕円形で，地山の床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し，わずかに赤変している。

炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量

**ピット** 5か所。P 1・P 3・P 4は深さ40～62cm，P 2は24cmと浅いが，規模や配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ48cmで，南壁方向から炉の方向に向けて斜めに掘り込まれており，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 南西コーナー部に位置している。長径90cm，短径65cmの円形で，深さは40cmである。底面は皿状で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

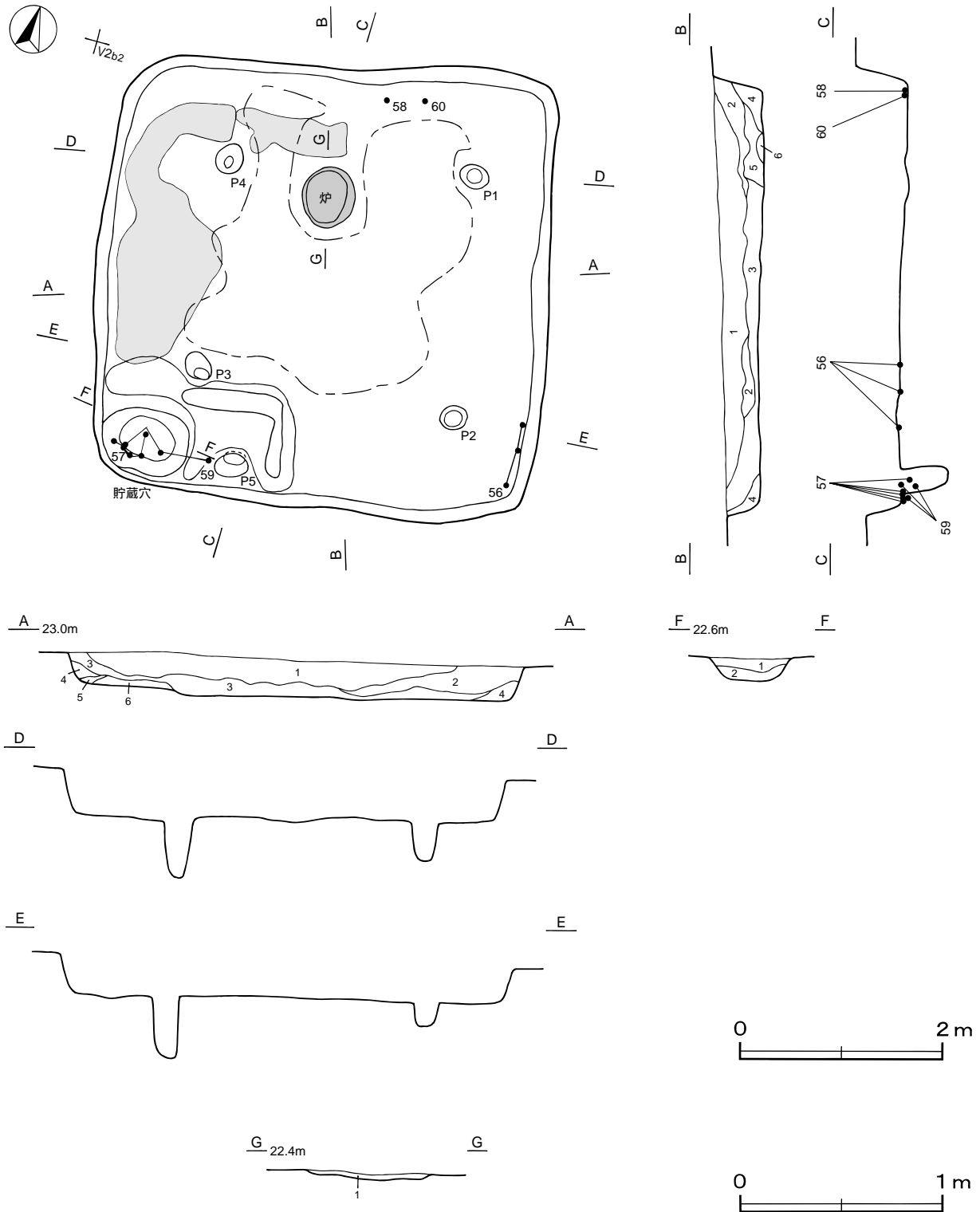
**覆土** 6層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量

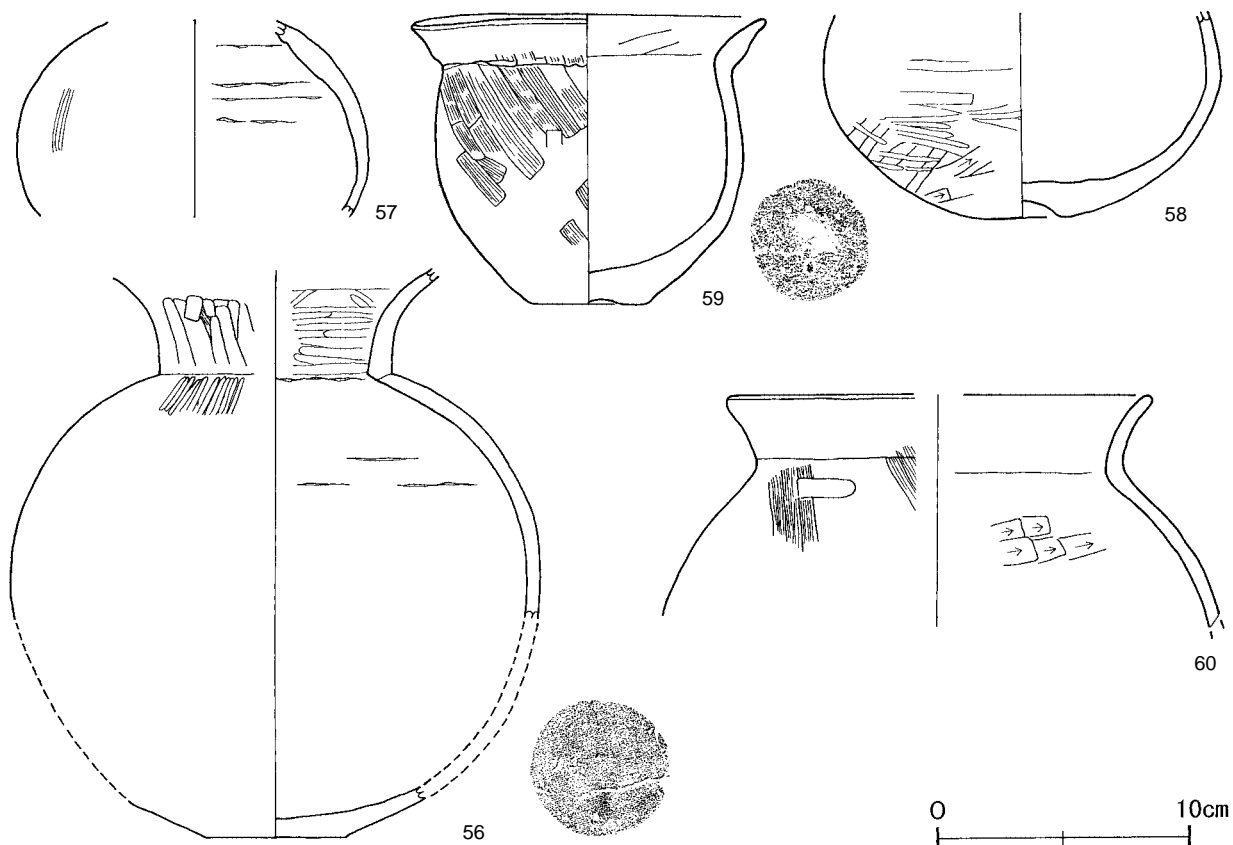
**遺物出土状況** 土師器片192点（坏17，壺152，高坏3，器台3，埴2，甕11，小形甕4）が出土している。また，混入した須恵器片2点（坏，蓋）も出土している。57・59は貯蔵穴内の覆土上層，56は南東コーナー部の床面，58・60は北部の床面からそれぞれ出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 西壁際から焼土が検出されており，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から4世紀前葉と考えられる。



第22図 第86号住居跡実測図





第23図 第86号住居跡出土遺物実測図

第86号住居跡出土遺物観察表 (第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
56	土師器	壺	-	[22.3]	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面ナデ 内面ヘラナデ 体部内・外面ナデ	床面	60% PL32
57	土師器	壺	-	(7.8)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ナデ 輪積痕	貯蔵穴上層	40%
58	土師器	壺	-	(8.0)	3.1	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ナデ	床面	45%
59	土師器	小形甕	14.0	11.5	4.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面ナデ 体部外面ハケ目調整 内面ナデ	貯蔵穴上層	85% PL33
60	土師器	甕	[16.7]	(9.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ハケ目調整 後ナデ 内面ヘラ削り	床面	5%

### 第87号住居跡 (第24・25図)

**位置** 調査区中央部のV 1c0区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第391・394・497・499号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.65m，短軸3.40mの方形で，主軸方向はN - 4° - Wである。壁高は15cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

**炉** 南西部に付設されている。長径55cm，短径48cmの楕円形で，地山の床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し，わずかに赤変している。

#### 炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

**ピット** 2か所。深さは28cmと30cmで、配置から支柱穴と考えられる。

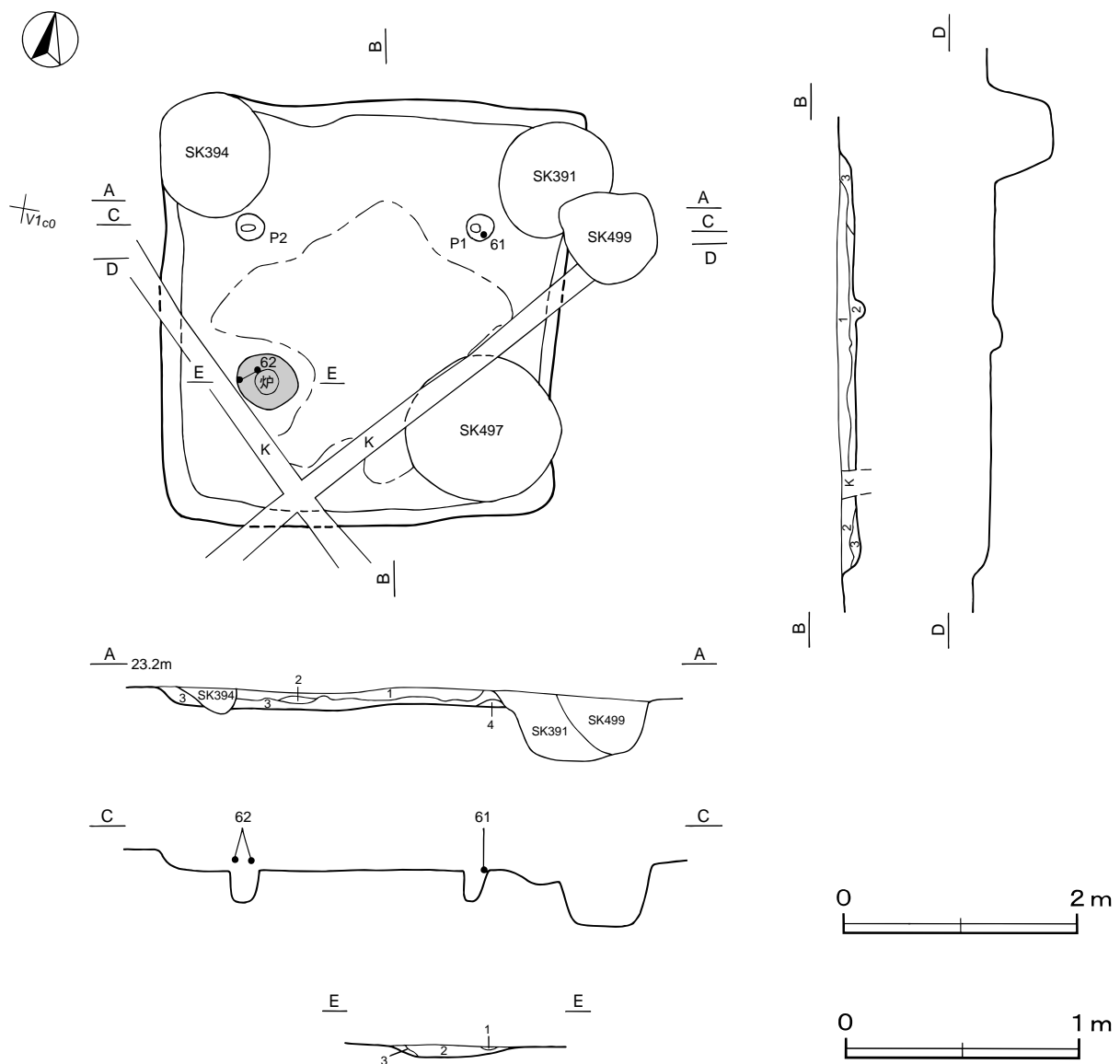
**覆土** 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

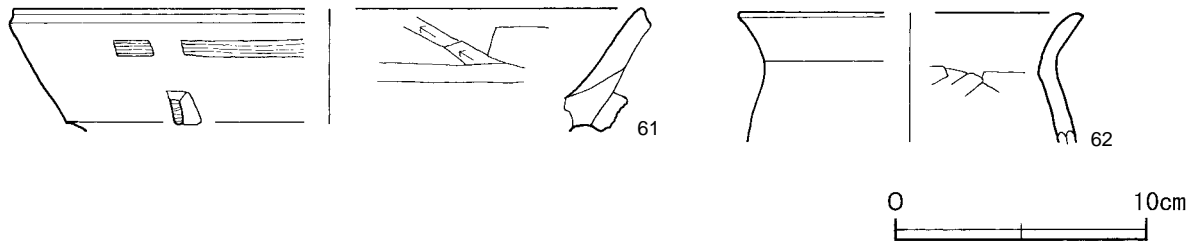
- |       |                     |       |                |
|-------|---------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        | 3 褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化物微量    |

**遺物出土状況** 土師器片227点（坏7，椀1，埴1，壺1，甕215，小形甕2）が散在した状態で出土している。また、混入した須恵器片2点（盤）も出土しているが、いずれも小破片が多く図示できた遺物は少ない。61はP1の覆土上層，62は南西部の覆土下層から出土している。これらの出土遺物は、住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 第86号住居とほぼ軸線は同じで、本跡を含めた第85～87号住居跡の3軒は、同時に集落を形成した可能性がある。時期は、出土土器から4世紀前葉以前と考えられる。



第24図 第87号住居跡実測図



第25図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表 (第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
61	土師器	壺	[25.0]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面ハケ目調整 内面ヘラ削り後ナデ	P 1 内上層	5%
62	土師器	小形甕	[13.6]	(5.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ナデ	覆土下層	5%

### 第88号住居跡 (第26～28図)

**位置** 調査区中央部のV 1 h8区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 中央部を第89号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部が大きく攪乱を受けているため，東西軸は5.20mだけ確認されており，南北軸は8.00mである。西壁や竈の位置から長方形と推定され，主軸方向はN - 25° - Wである。壁高は20～50cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦である。壁溝は北西コーナー部から西壁際で確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。北部が大きく攪乱を受けており，焚口部から火床部まで60cm，袖部幅108cmだけが確認できた。確認できた袖部は床面と同じ高さの地山面を基部とし，砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。

#### 竈土層解説

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量        | 5 赤褐色 焼土ブロック中量         |
| 2 暗赤褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 褐色 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量       | 7 赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック微量       | 8 褐色 ロームブロック少量         |

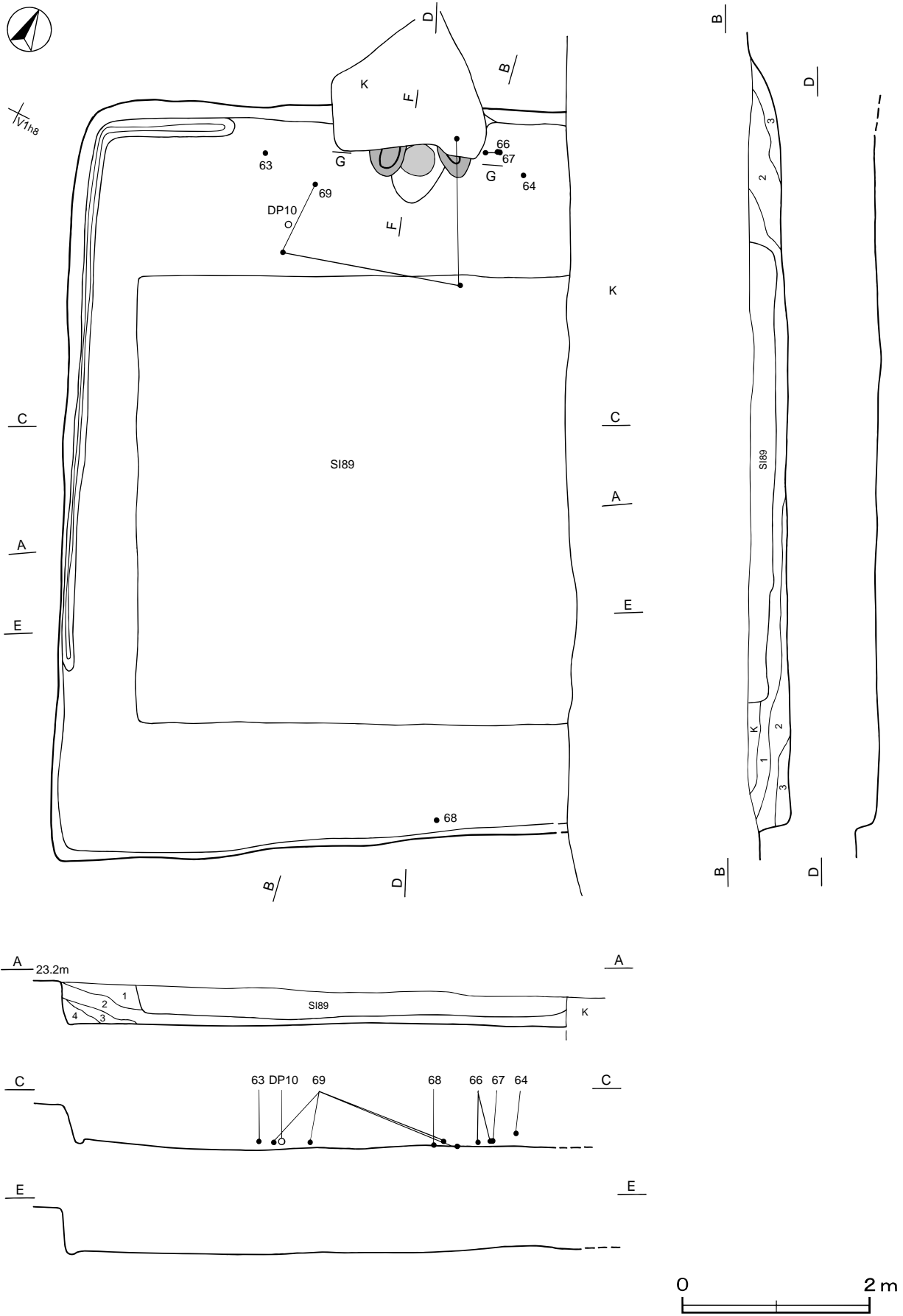
**覆土** 4層に分層される。周囲から土の流入したレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

#### 土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量   | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量   |

**遺物出土状況** 土師器片61点 (坏3，甕51，小形甕6，甌1) が出土している。遺物は北部の床面から覆土下層にかけて多く出土している。66・67は竈右袖部右側から正位の状態で出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。63・64・69・DP10は北部の覆土下層から中層にかけて出土しており，住居廃絶後まもなく廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



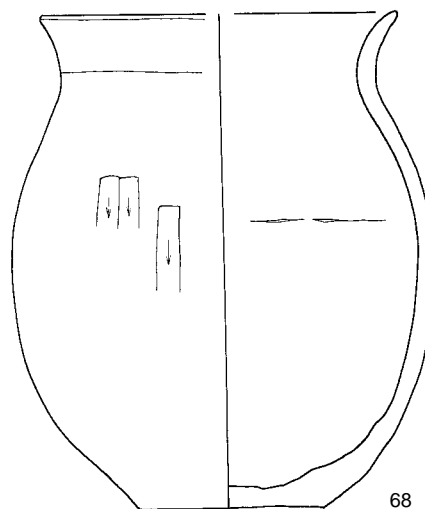
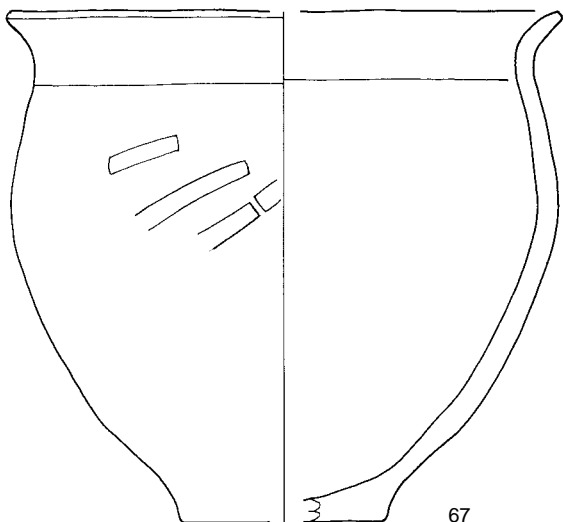
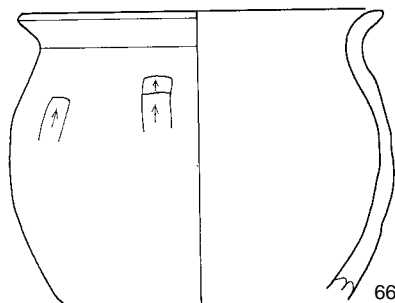
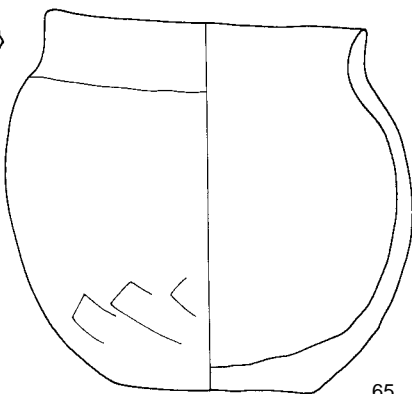
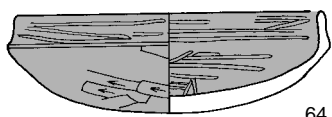
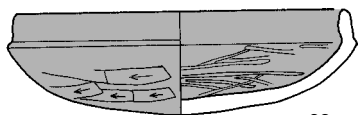
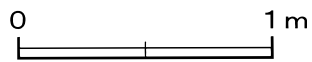
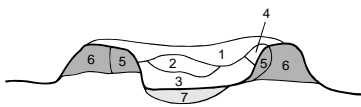
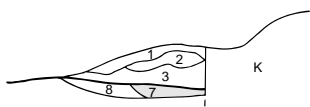
第26图 第88号住居跡実測図

F 23.2m

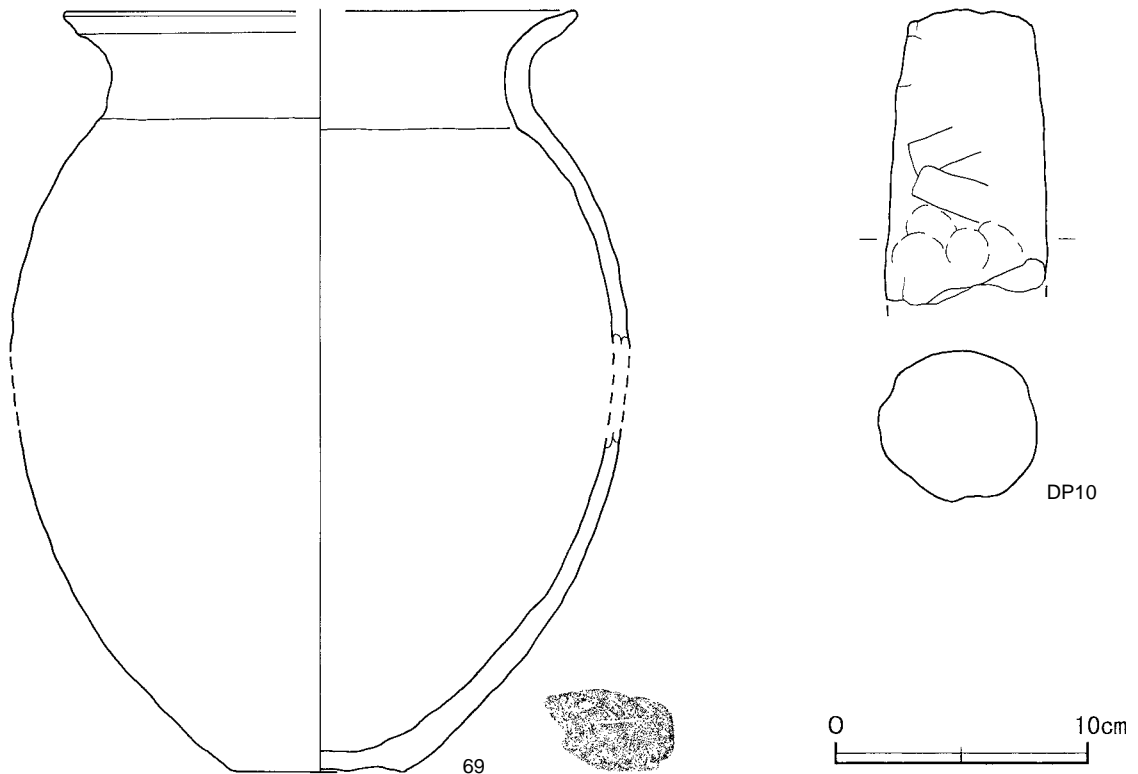
F

G

G



第27图 第88号住居跡・出土遺物実測図(1)



第28図 第88号住居跡出土遺物実測図(2)

第88号住居跡出土遺物観察表(第27・28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
63	土師器	坏	12.9	4.0	-	雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面へラ磨き	覆土下層	85% PL22
64	土師器	坏	12.0	(4.0)	-	長石・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	口縁部内・外面へラ磨き 体部外面へラ削り 後ナデ 内面へラ磨き	覆土中層	80% PL23
65	土師器	小形甕	12.6	14.7	[8.0]	長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ 底部木葉痕	覆土中	80%
66	土師器	小形甕	14.2	(11.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	床面	70% PL33
67	土師器	小形甕	[18.9]	20.2	8.6	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラナデ	床面	60% PL34
68	土師器	小形甕	[14.1]	19.5	7.2	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	床面	60%
69	土師器	甕	[20.2]	[30.0]	[6.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP10	支脚	(11.6)	4.9	6.5	(475)	粘土	側面ナデ 指頭痕	覆土下層	PL37

### 第91号住居跡(第29・30図)

**位置** 調査区中央部のV 1e8区, 標高23mの台地平坦部に位置している。北約10mに第85~87号住居跡が位置している。

**規模と形状** 長軸3.22m, 短軸3.04mの方形で, 主軸方向はN-56°-Wである。壁高は22cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で, 西部が踏み固められている。

**貯蔵穴** 南西コーナー部に位置している。長径70cm, 短径68cmの円形で, 深さは40cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

- 3 黒褐色 ロームブロック微量

**覆土** 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

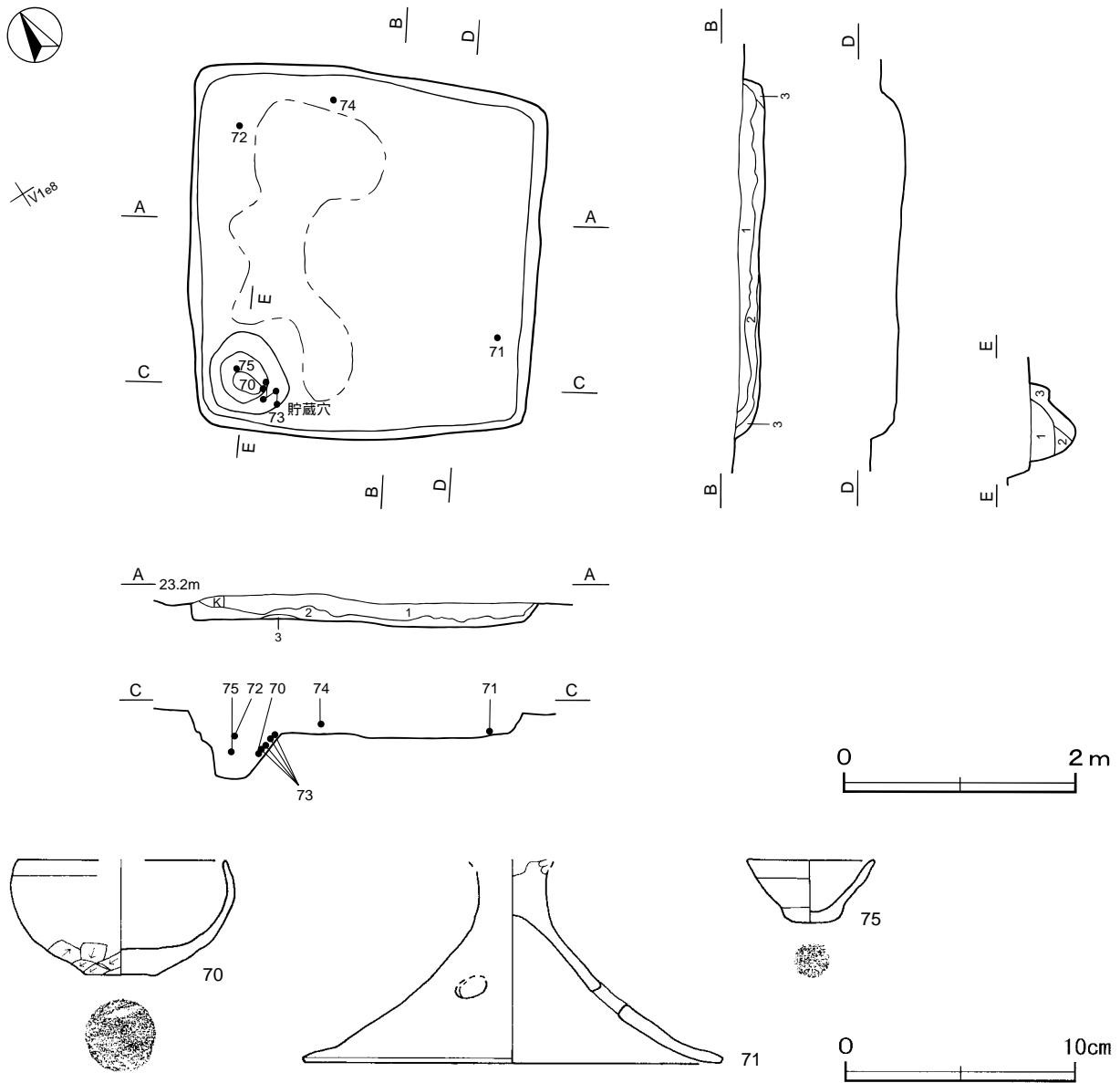
土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量

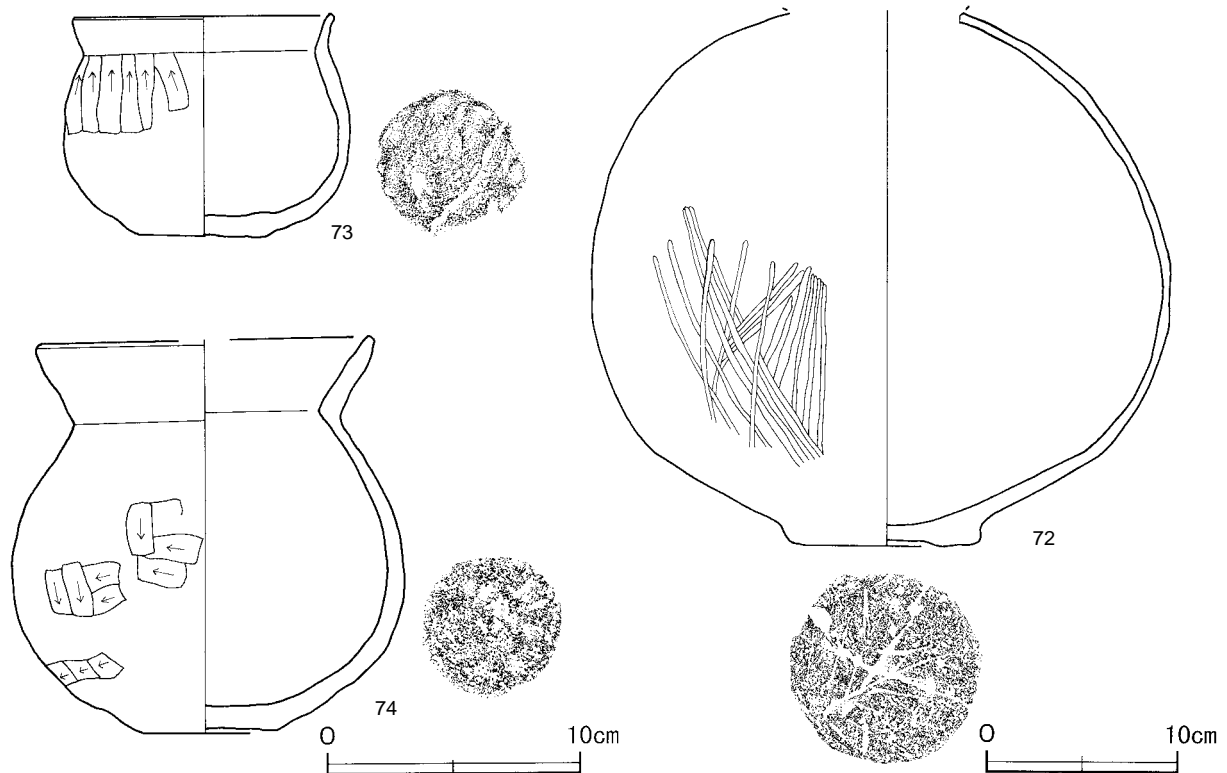
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片94点（坏22，椀1，高台付坏2，壺2，甕65，小形甕1，ミニチュア土器1）が出土している。また，混入した須恵器片1点（不明）も出土している。70・73・75は貯蔵穴内，71は南東部の床面から出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものである。74は北部の覆土中層から出土しており，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 東部床面の硬化があまり認められないことから，住居内での生活と収蔵などの使い分けが想定される。また，炉が検出されないことから，北に位置する第85～87号住居跡に付属した施設と考えられる。時期は，出土土器から4世紀前葉と考えられる。



第29図 第91号住居跡・出土遺物実測図



第30図 第91号住居跡出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表 (第29・30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
70	土師器	椀	[9.0]	5.0	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り内面ナデ	貯蔵穴中層	60%
71	土師器	高坏	-	(8.8)	17.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部内・外面器面荒れ	床面	50% PL31
72	土師器	壺	-	(28.0)	9.8	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面へラ削り後へラ磨き 内面ナデ	貯蔵穴中層	90% PL31
73	土師器	壺	10.0	8.9	5.0	石英・雲母・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り内面ナデ	貯蔵穴中層	90% PL32
74	土師器	小形甕	[12.9]	15.4	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	覆土中層	80%
75	土師器	ミニチュア土器	5.4	2.7	1.5	長石・雲母	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部内・外面ナデ	貯蔵穴中層	95% PL35

表3 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古 新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	竈・炉	貯蔵穴				
66	N 2 a1	N・6°・W	方形	3.22 x 3.20	32	平坦	ほぼ 全周	-	-	-	竈1	-	自然	土師器	6世紀後葉	
69	M 1 c9	N・30°・W	方形	3.90 x 3.68	35~45	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品, 鉄製品	6世紀後葉	
71	M 1 j8	N・13°・W	方形	2.05 x 2.02	27	平坦	一部	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	7世紀前葉	
82	S 1 i0	N・31°・W	方形	4.57 x 4.25	32~50	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器	6世紀後葉	
84	U 2 d1	N・108°・E	長方形	2.93 x 2.33	32	平坦	-	-	-	-	竈1	-	自然	土師器	7世紀前葉	
85	V 1 a8	N・28°・W	方形	4.72 x 4.70	25	平坦	-	6	-	-	炉1	1	人為	土師器, 土製品	4世紀前葉	本跡 S K498
86	V 2 b2	N・13°・W	方形	4.52 x 4.50	44~52	平坦	-	4	1	-	炉1	1	自然	土師器	4世紀前葉	
87	V 1 c0	N・4°・W	方形	3.65 x 3.40	15	平坦	-	2	-	-	炉1	-	自然	土師器	4世紀前葉以前	本跡 S K391・394・ 497・499
88	V 1 h8	N・25°・W	[長方形]	8.00 x (5.20)	20~50	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	自然	土師器	6世紀後葉	本跡 S189
91	V 1 e8	N・56°・W	方形	3.22 x 3.04	22	平坦	-	-	-	-	-	1	自然	土師器	4世紀前葉	



### 3 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡24軒，掘立柱建物跡12棟，溝跡4条，井戸跡1基，土坑1基が確認されている。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

#### (1) 竪穴住居跡

##### 第60号住居跡 (第31・32図)

**位置** 調査区中央部のO 2g1区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.36m，短軸2.78mの隅丸長方形で，主軸方向はN - 12° - Wである。壁高は40cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められており，貼床が確認されている。掘り方は竈前を特に深く10～25cm掘り込み，ロームブロックを含む褐色土（第6～10層）で埋土している。壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央やや西寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで92cm，袖部幅110cmである。袖部は，床面とほぼ同じ高さの地山の上に褐色土を貼り付けて基部とし，その上に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめているが，火床面は残存していない。煙道部は壁外に50cmほど掘り込み，外傾して立ち上がっている。竈土層中の第8～12層は袖部の土層である。

##### 竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	9 黒褐色	砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	10 暗赤褐色	砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量
3 極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	11 灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック微量
4 極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	12 褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
5 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子少量	13 褐色	ローム粒子多量
6 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量	14 褐色	ロームブロック多量
7 極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	15 黒褐色	焼土粒子微量
8 暗褐色	砂質粘土粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子少量

**ピット** 4か所。P 1・P 2は深さ28cm・26cmで，位置から上屋を支えた棟持柱の柱穴と考えられる。P 3は深さ20cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口口施設に伴うピットである。P 4は深さ20cmで，性格は不明である。

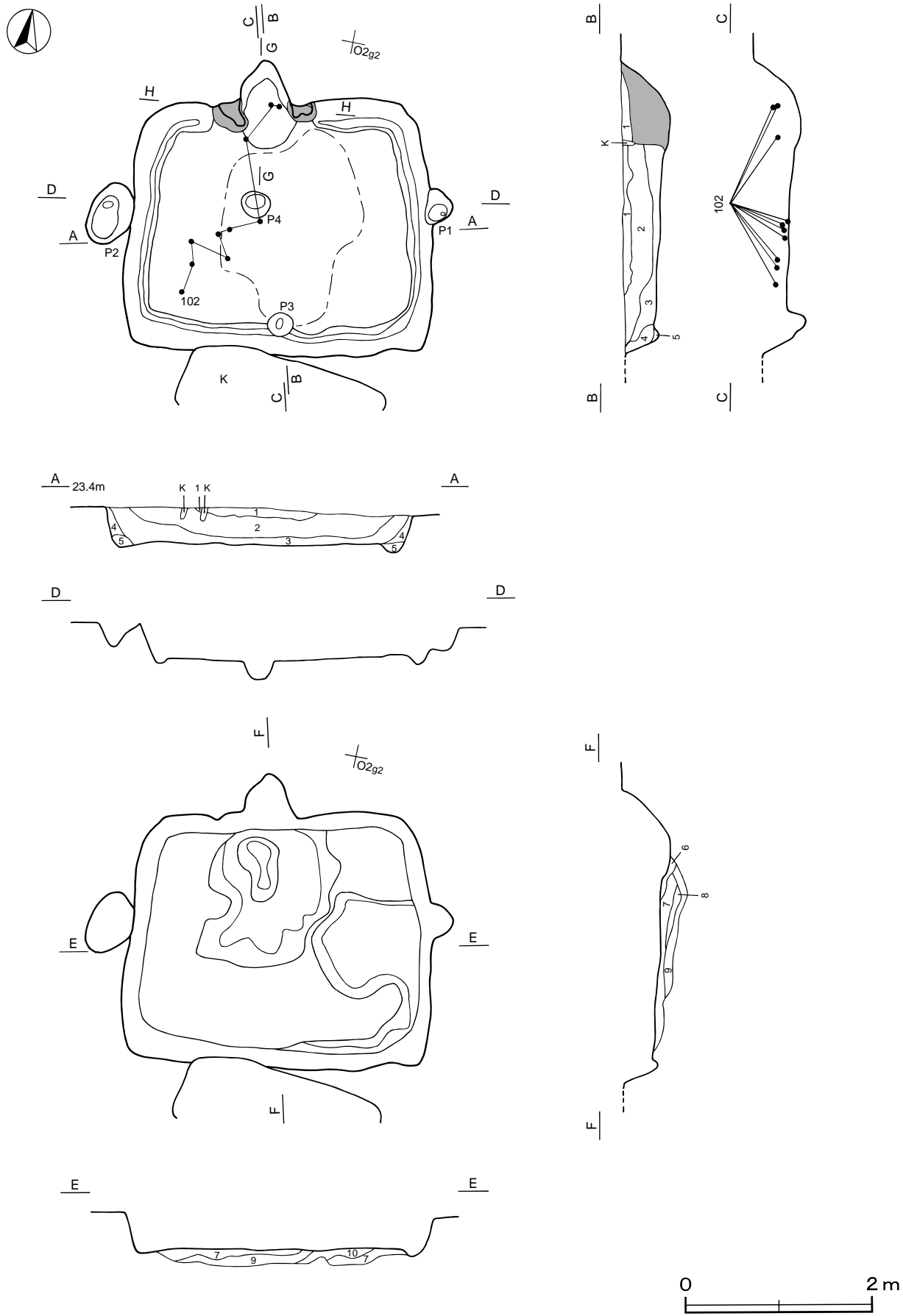
**覆土** 10層に分層される。各層にロームブロックや粒子を含む人為堆積である。土層断面の第6～10層は，貼床構築土である。

##### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	6 灰黄褐色	ロームブロック・暗褐色土ブロック少量
2 暗褐色	炭化物少量，ロームブロック微量	7 黄褐色	暗褐色土ブロック・炭化粒子微量
3 極暗褐色	炭化粒子少量，ロームブロック微量	8 褐色	暗褐色土ブロック多量，ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ローム粒子多量
5 褐色	ロームブロック中量	10 黄褐色	暗褐色土ブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片81点（坏6，甕75），須恵器片11点（坏3，壺1，長頸瓶1，甕6）が出土している。102は竈内火床部と南西部の覆土下層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。火を受けた痕跡が見られないことから，住居廃絶後まもなく投棄されたものと考えられる。

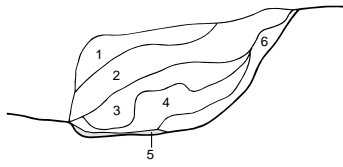
**所見** 出土土器が少ないため，明確な時期判定は困難であるが，9世紀中葉の土師器片などがみられることから，当該時期には廃絶されていたと考えられる。



第31图 第60号住居跡実測図

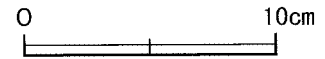
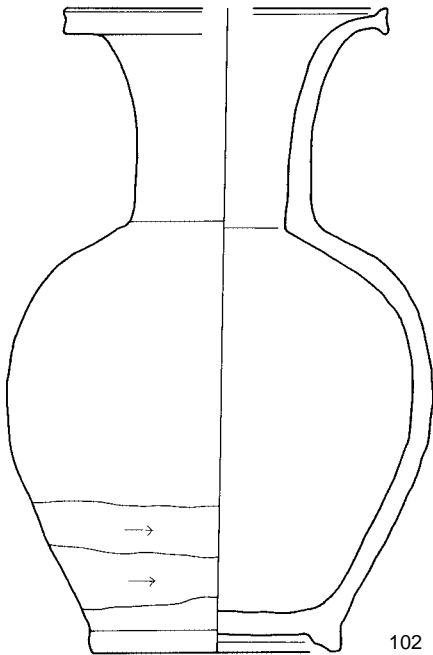
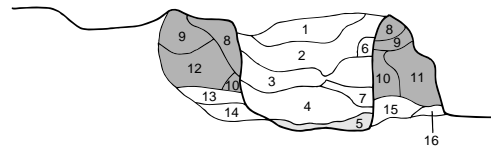
G 23.4m

G



H

H



第32図 第60号住居跡・出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表 (第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
102	須恵器	長頸瓶	[12.6]	25.4	9.8	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	竈火床部	60% PL32

### 第61号住居跡 (第33・34図)

**位置** 調査区中央部のO 1g0区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第103号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.03m，短軸2.82mの方形で，主軸方向はN - 14° - Wである。壁高は50cmで，外傾して立ち上がっている。

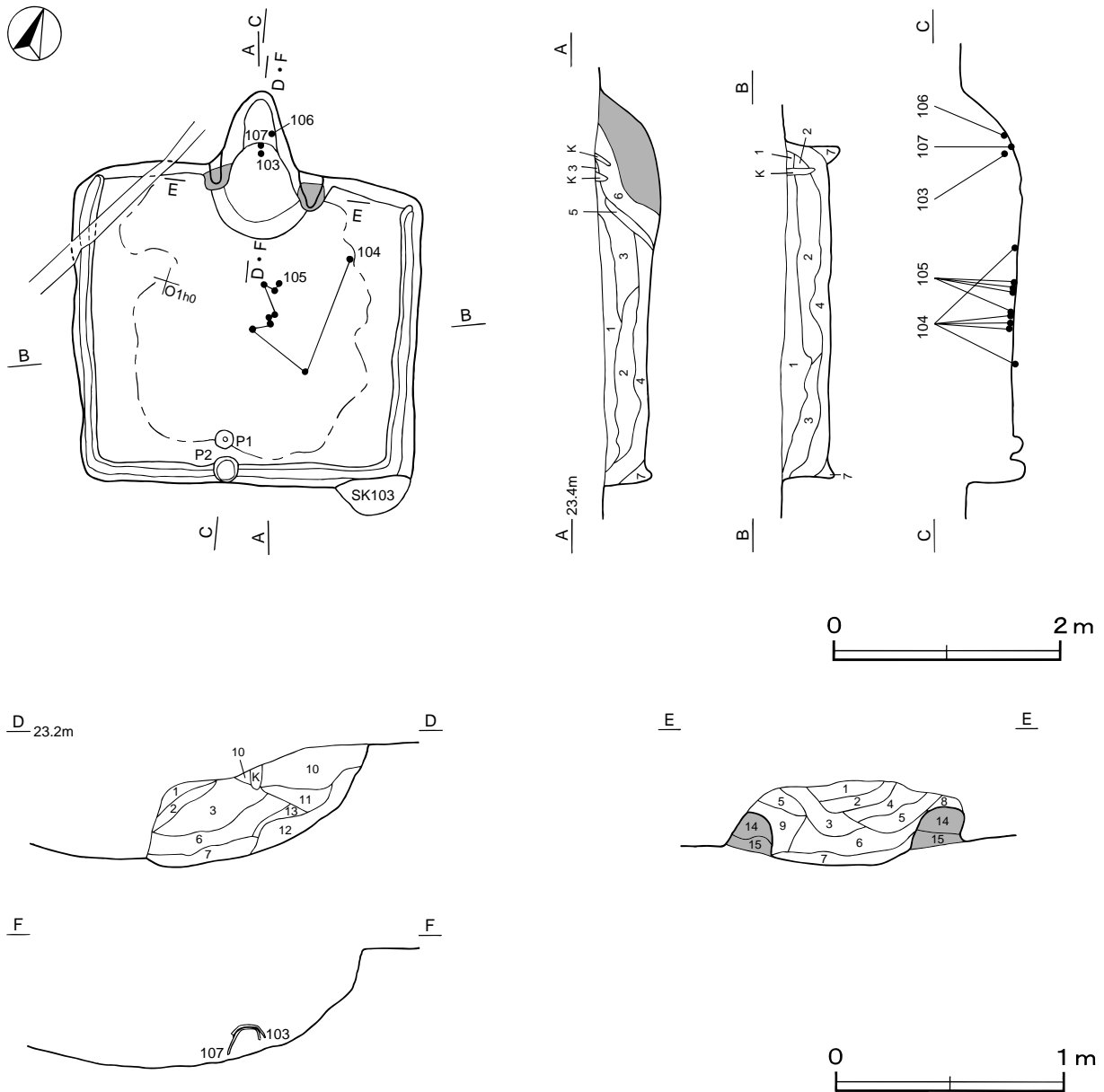
**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が北壁際を除いて確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで128cm，袖部幅108cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており，火床面は残存していない。煙道部は壁外に68cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第4～6層は天井部の崩落土層，第14・15層は袖部の土層である。

竈土層解説

- |        |                               |          |                         |
|--------|-------------------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量    | 7 暗褐色    | ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量       | 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量      |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量              | 9 暗褐色    | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量           | 10 黒褐色   | 焼土粒子微量                  |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物微量     | 11 暗褐色   | 焼土ブロック・炭化粒子微量           |
| 6 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物・砂質粘土粒子微量 | 12 灰黄褐色  | 炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量    |
|        |                               | 13 暗褐色   | 焼土粒子微量                  |
|        |                               | 14 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量        |
|        |                               | 15 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量        |

ピット 2か所。P 1は深さ10cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。P 2は深さ14cmで、性格は不明である。



第33図 第61号住居跡実測図

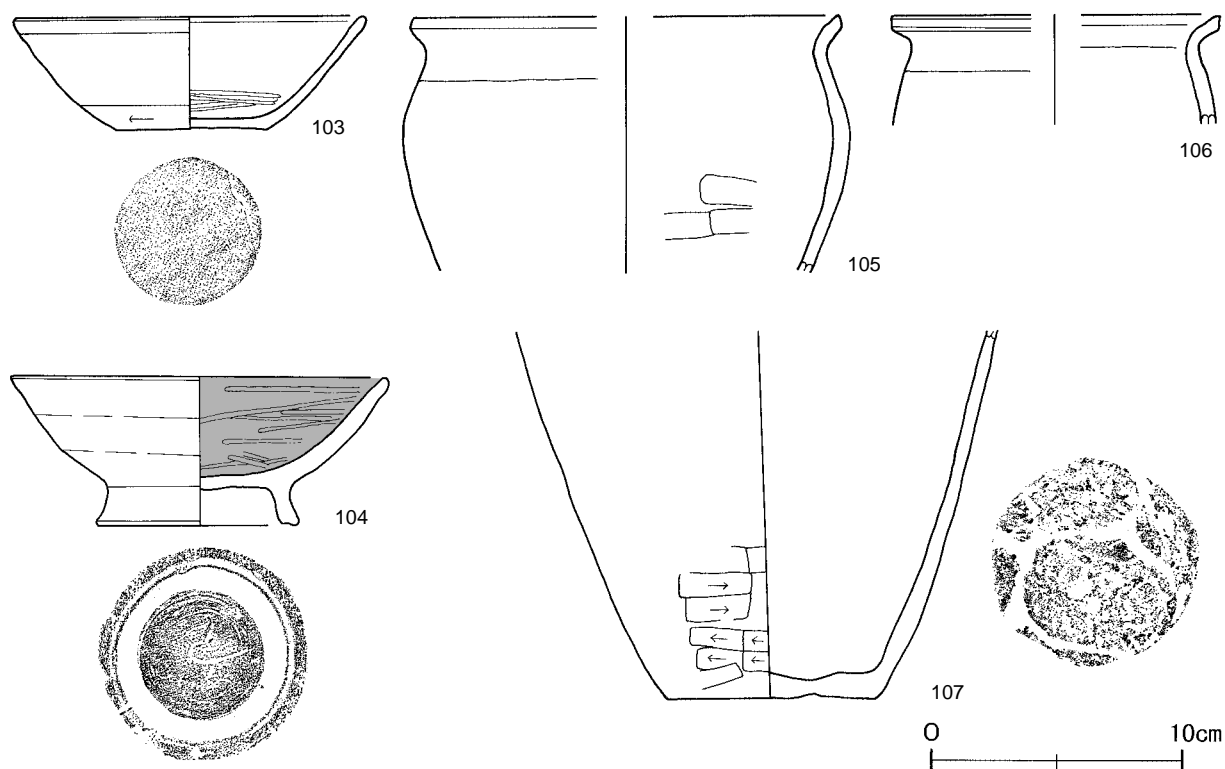
覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- |        |                      |        |           |
|--------|----------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック少量            | 5 黒褐色  | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック少量            | 6 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量            | 7 褐色   | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色  | ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量 |        |           |

遺物出土状況 土師器片89点（坏3，椀1，小形甕85），須恵器片5点（坏2，高台付坏1，高坏1，甕1）が出土している。103・106・107は竈内から逆位で支脚として出土しており，そのまま遺棄されたと考えられる。104・105は中央部の床面から出土している。

所見 時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第34図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
103	土師器	坏	13.9	4.4	5.9	長石・石英・雲母・小礫	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ 内面ヘラ磨き	竈火床部	100% PL23
104	土師器	高台付坏	14.7	6.1	7.7	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	ロクロナデ 体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	70% PL28
105	土師器	甕	[16.8]	(10.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面ナデ 口縁部外面横ナデ	床面	20%
106	土師器	甕	[12.9]	(4.3)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈火床部	5%
107	土師器	甕	-	(14.5)	8.3	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り	竈火床部	40%

第62号住居跡（第35・36図）

位置 調査区中央部のO1f0区，標高23mの台地平坦部に位置している。北へ約30mに第64・65号住居跡が位置している。

**規模と形状** 長軸2.74m，短軸2.54mの方形で，主軸方向はN - 14° - Eである。壁高は20cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦である。

**ピット** 17か所。P 1 ~ P 7は深さ24~42cmで，柱間寸法が7尺と4尺を基調としていることから，主柱穴と考えられる。P 8 ~ P 11は深さ28~30cmで，補助柱穴と考えられる。なお，P 7・8・11を除いて，柱の立て替えが行われていた可能性がある。P 12~P 17は深さ26~42cmで，性格は不明である。

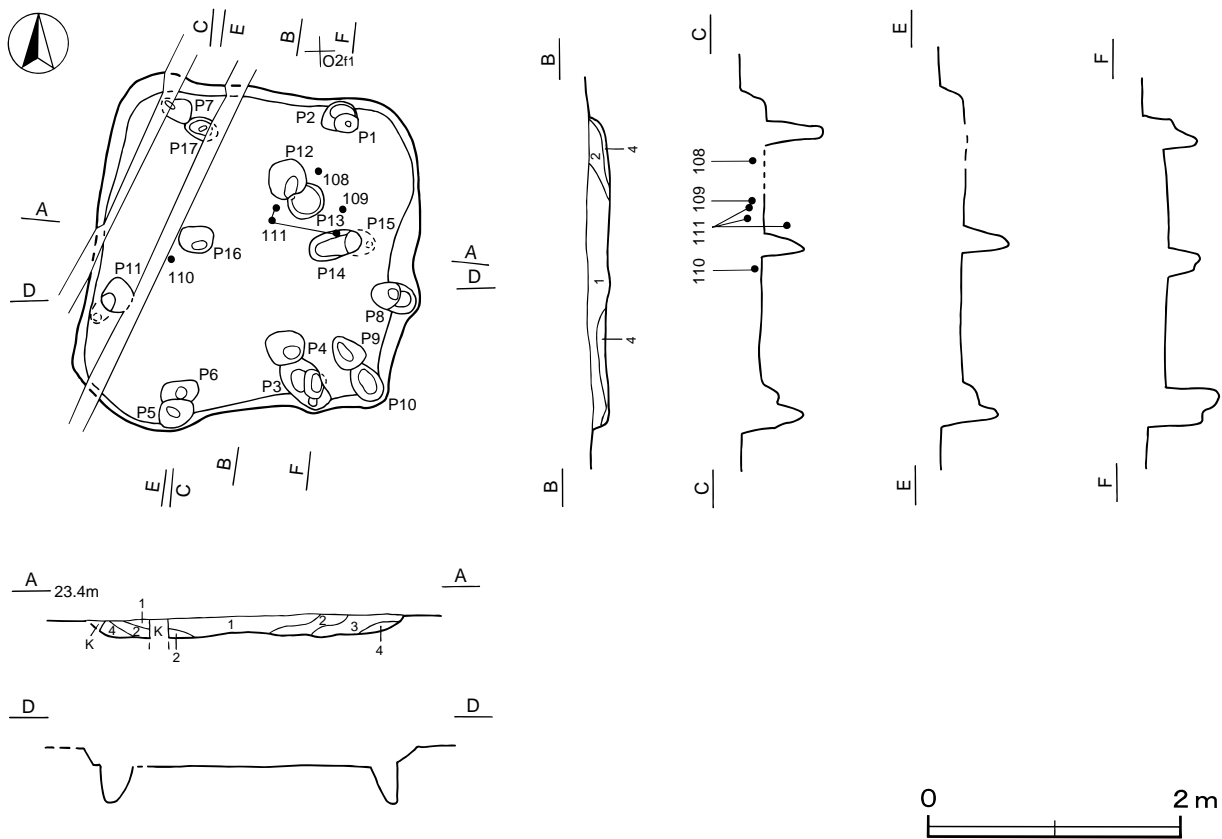
**覆土** 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

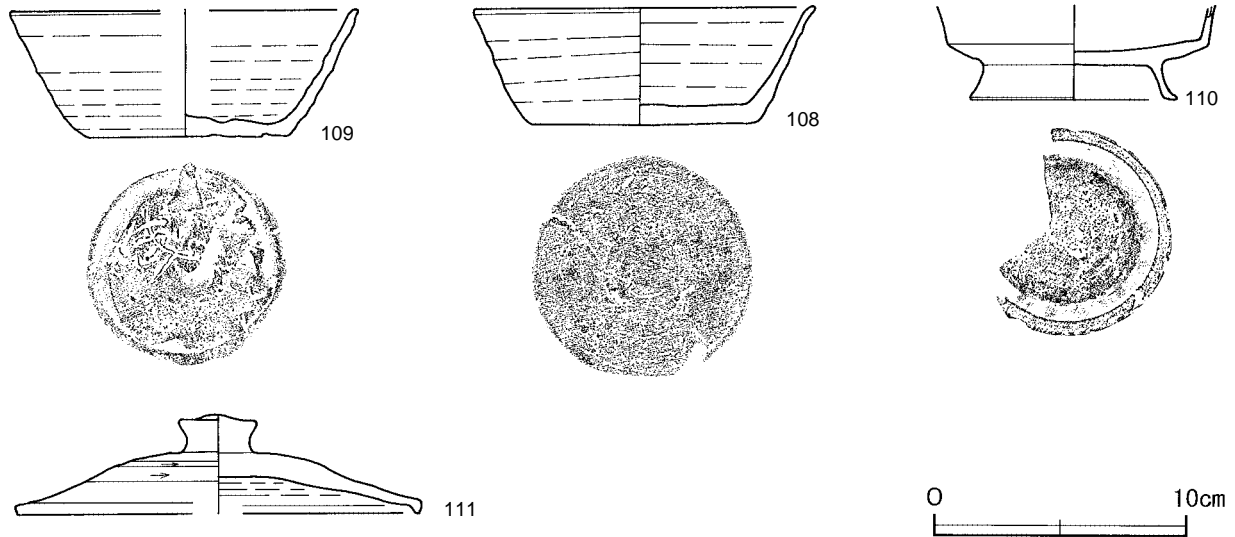
- |       |                   |       |           |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量    | 4 褐色  | ローム粒子多量   |

**遺物出土状況** 土師器片24点（坏1，高台付坏1，椀22），須恵器片9点（坏7，高台付坏1，甕1）が出土している。108~111は中央部の覆土下層から中層にかけて出土しており，住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 本跡は，北に位置する第64・65号住居跡とほぼ軸線を同じにすることから，同時期に存在した可能性が高い。本跡は，出土土器から8世紀中葉から後葉にかけて廃絶されたと考えられる。



第35図 第62号住居跡実測図



第36図 第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表 (第36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
108	須恵器	坏	13.5	4.6	9.0	長石・石英・雲母・礫	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	70%
109	須恵器	坏	[13.5]	5.0	7.9	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	60% ヘラ書き「成」PL24
110	須恵器	高台付坏	-	(3.7)	8.0	長石・雲母・礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	40%
111	須恵器	蓋	[15.9]	3.9	-	長石・石英・雲母・礫	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土下層	60% PL30

### 第63号住居跡 (第37図)

**位置** 調査区中央部のO 1 d0区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.35m，短軸3.00mの長方形で，主軸方向はN - 3° - Eである。壁高は42cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で，竈前面を中心として中央部が踏み固められている。壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。耕作による攪乱を受けており，確認された規模は焚口部から煙道部まで84cmである。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。

**ピット** 深さは8cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

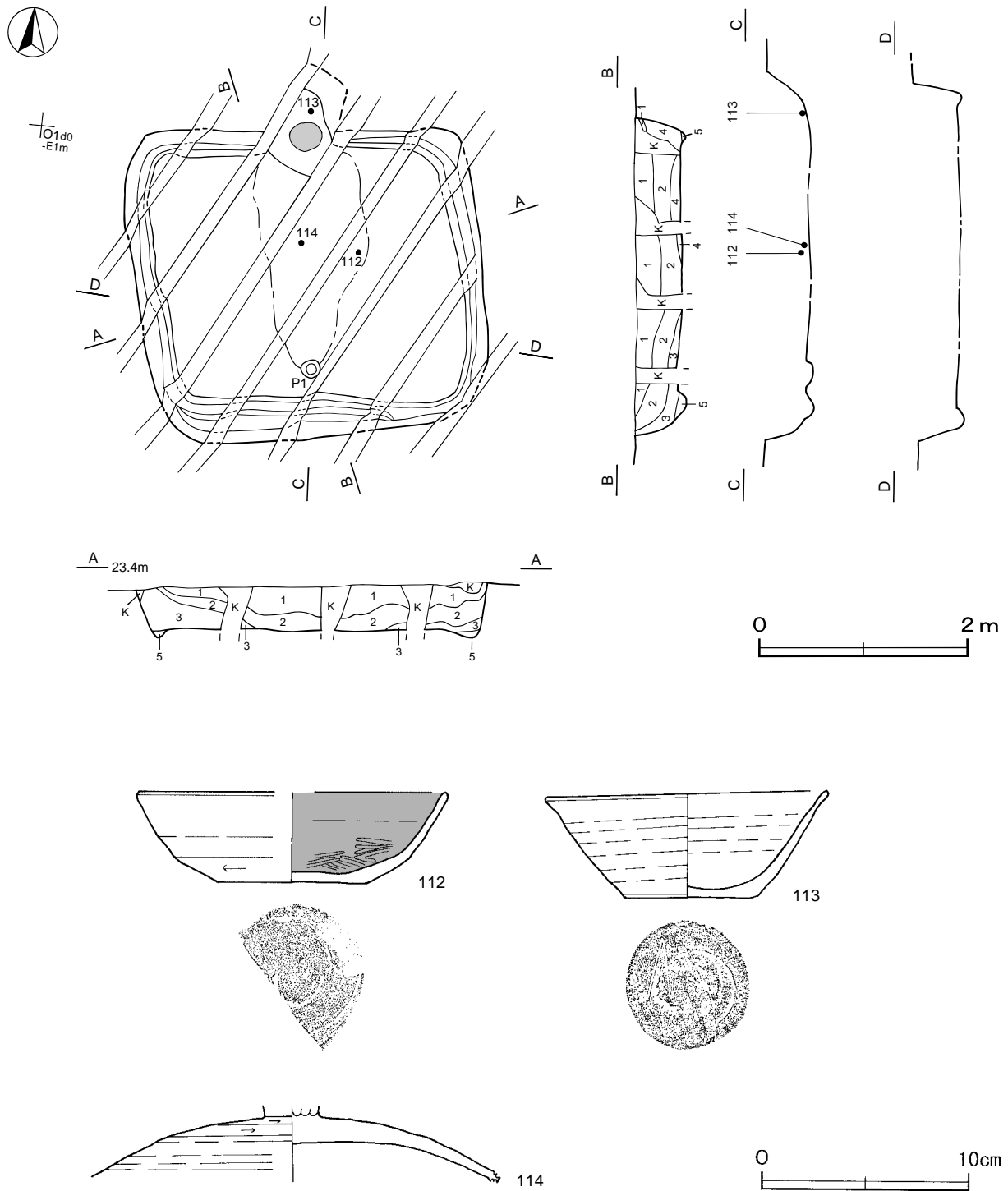
**覆土** 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物・砂質粘土粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子少量，鹿沼バミスブロック・焼土粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片43点 (坏8，甕35)，須恵器片4点 (坏3，蓋1) が出土している。112・114は中央部の覆土下層，113は竈火床部から逆位で出土して，支脚に転用されたまま遺棄されたと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第37図 第63号住居跡・出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表 (第37図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	土師器	坏	[14.8]	4.3	[7.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	40%
113	須恵器	坏	13.4	5.2	6.0	長石・礫	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	竈火床部	95% PL24
114	須恵器	蓋	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土下層	50%

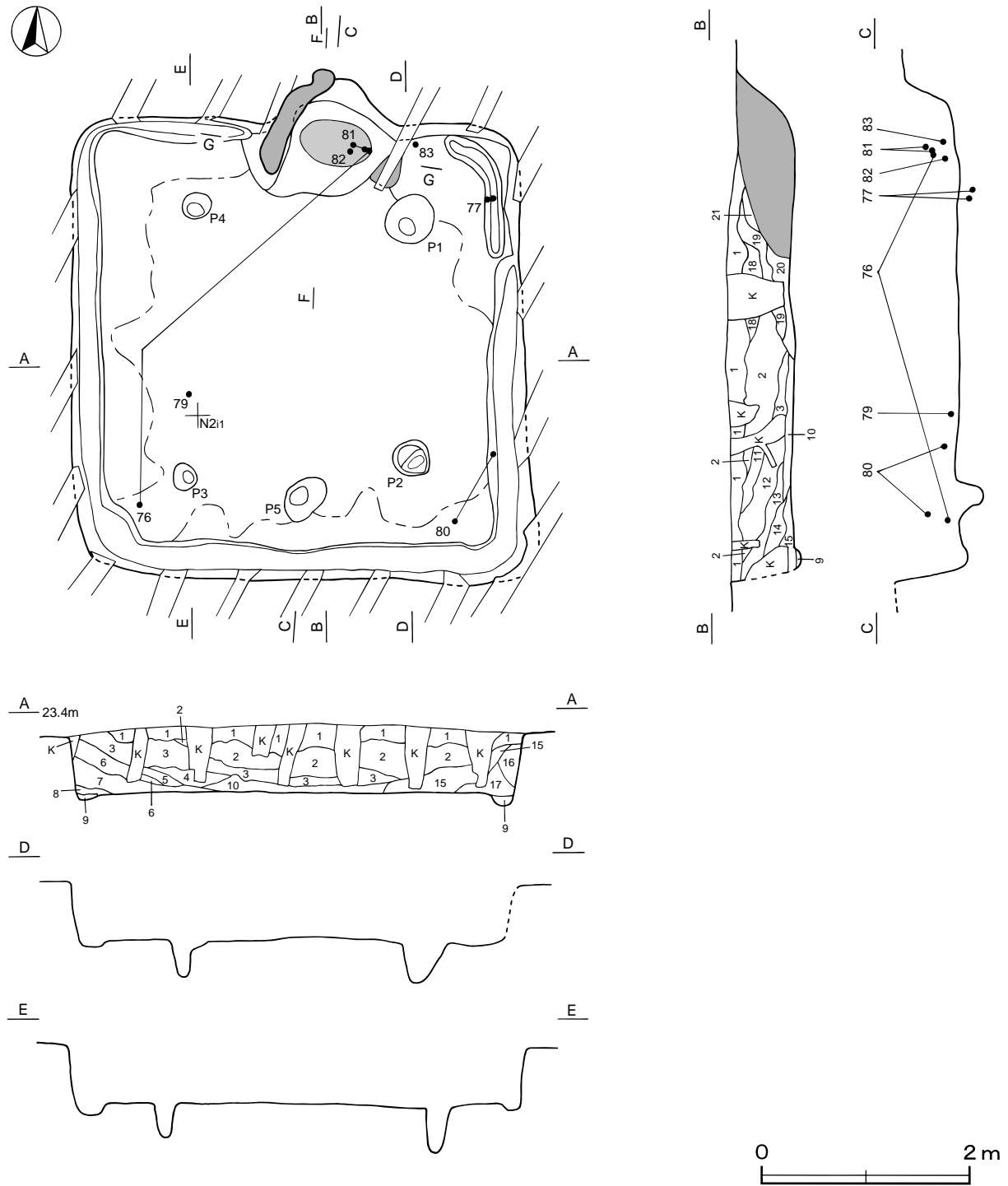


第64号住居跡 (第38~41図)

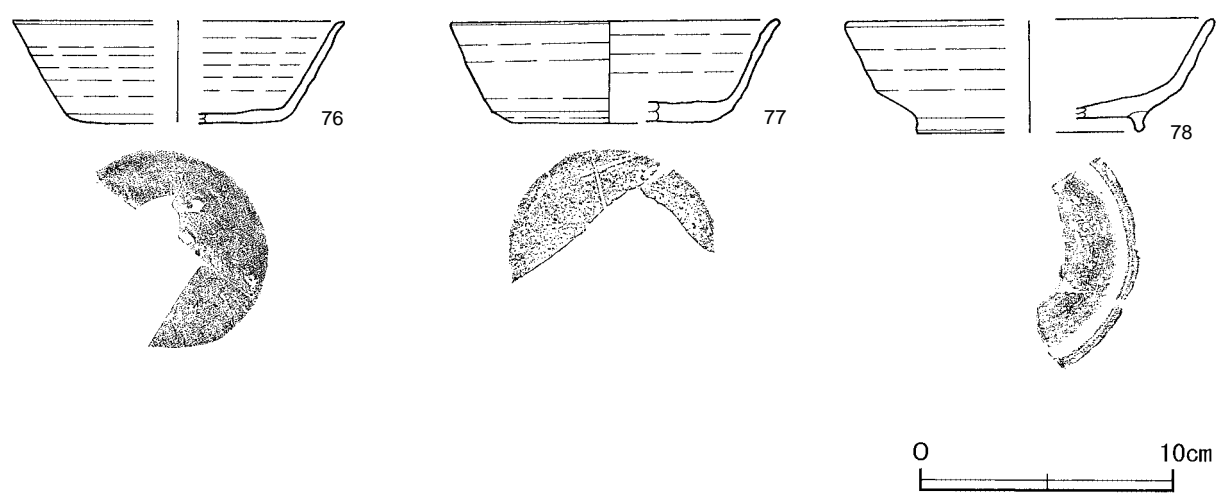
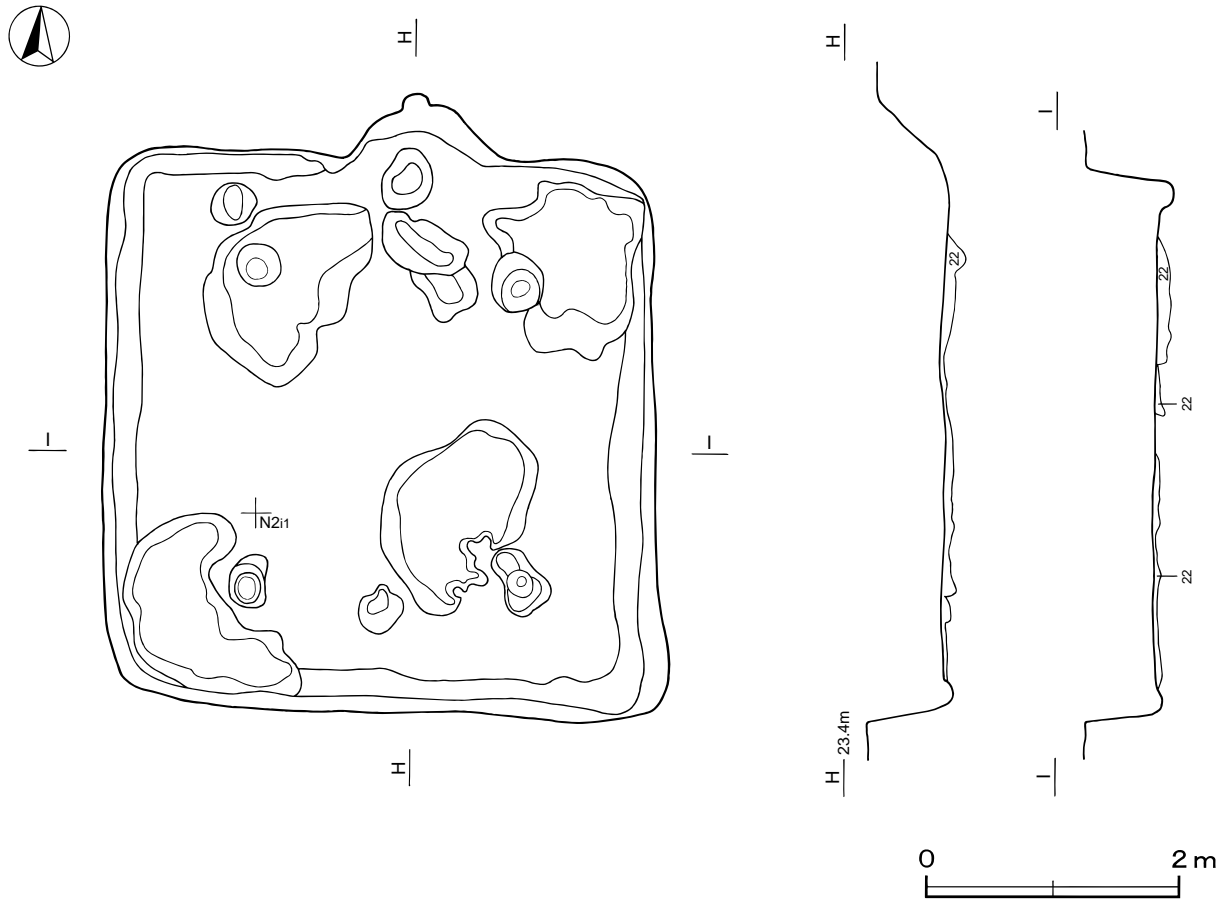
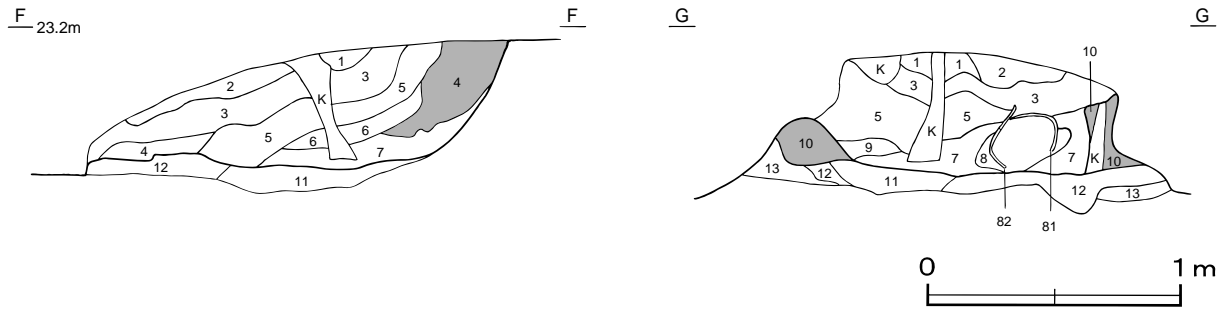
位置 調査区中央部のN 2 h1区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺4.40mの方形で, 主軸方向はN - 5 ° - Eである。壁高は55cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で中央部が踏み固められている。全面が貼床で, ピット周辺を特に掘り込み, ロームブロックを含む褐色土 (第22層) で埋土している。壁溝がほぼ全周している。



第38図 第64号住居跡実測図



第39图 第64号住居跡・出土遺物実測図

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cm，袖部幅158cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，第12・13層と砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第3・8層は天井部の崩落土層，第10層は袖部の土層である。

**竈土層解説**

1 黒褐色	ローム粒子微量	6 暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子微量
2 灰褐色	砂質粘土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量	7 暗褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量
3 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量，ロームブロック中量，炭化物微量	8 浅黄橙色	炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量	9 暗褐色	砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
5 暗褐色	ロームブロック少量，砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	10 浅黄橙色	砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
		11 暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量
		12 黄橙色	ロームブロック多量，砂質粘土ブロック少量
		13 にぶい黄褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック多量

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ30～42cmで，規模と配置から支柱穴である。P5は深さ25cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

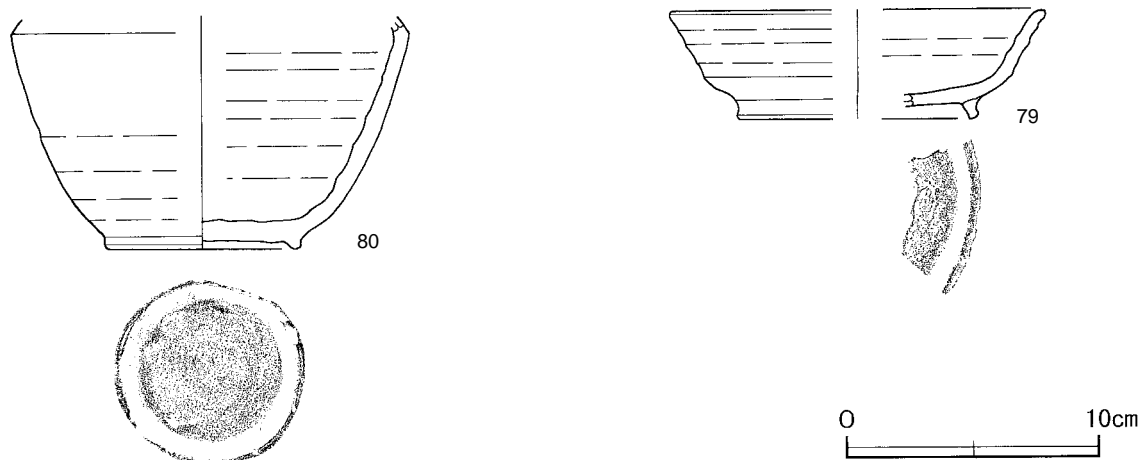
**覆土** 22層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第22層は貼床構築土である。

**土層解説**

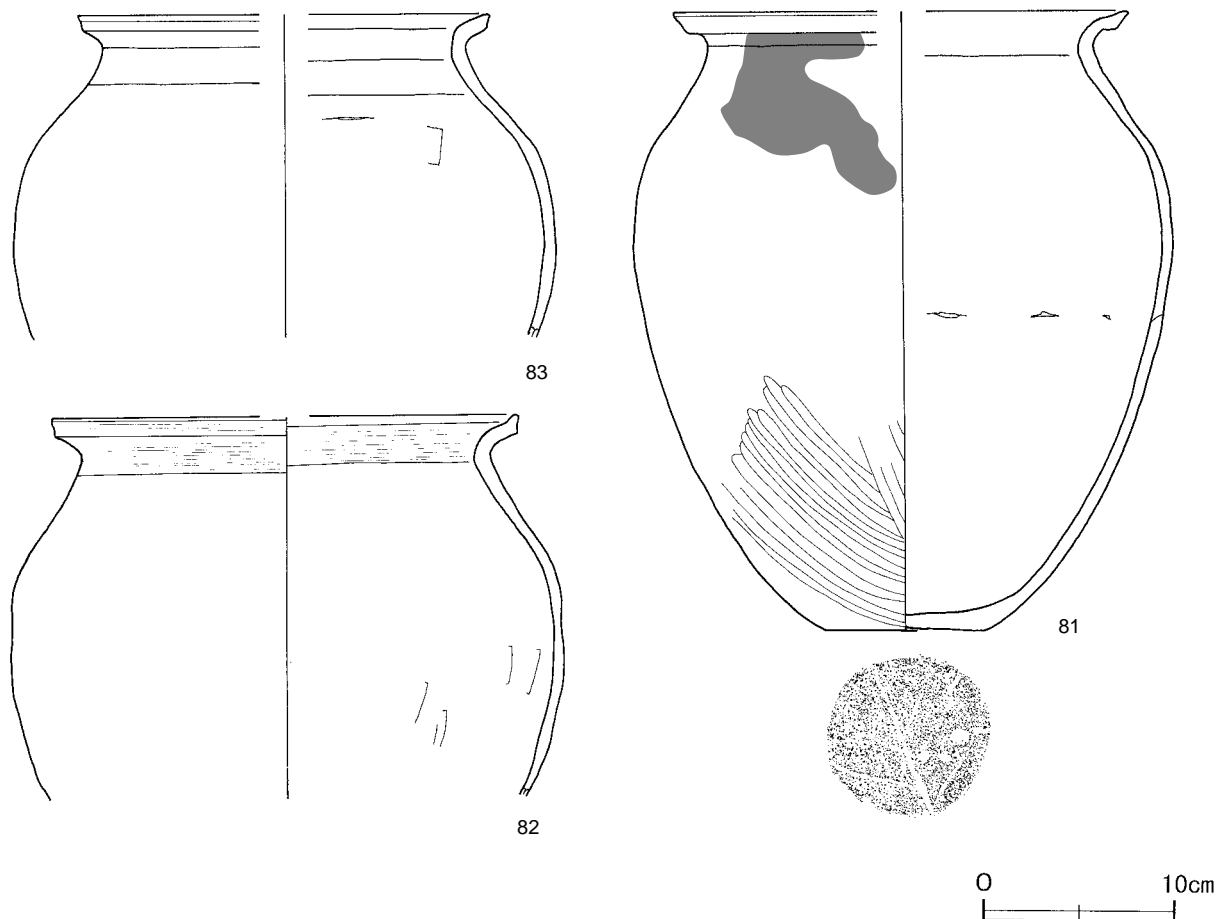
1 黒褐色	ローム粒子少量	12 にぶい褐色	ロームブロック中量・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	13 暗褐色	ローム粒子少量，赤色粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量	14 暗褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量	15 黒暗褐色	ローム粒子少量，炭化物微量
5 暗褐色	ロームブロック微量	16 褐色	ローム粒子中量
6 暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量	17 にぶい黄褐色	ロームブロック少量
7 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	18 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
8 褐色	ローム粒子少量	19 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量
9 褐色	ロームブロック中量	20 灰黄褐色	焼土粒子・粘土粒子中量
10 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	21 灰黄褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
11 褐色	ロームブロック微量	22 褐色	ロームブロック多量，焼土粒子・粘土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片243点（坏12，甕9，小形甕2，甑220），須恵器片31点（坏25，高台付坏2，蓋2，長頸瓶2）が出土している。76・81・82は竈内から出土し，76は南西部から出土した破片が接合したものである。81・82は竈内から出土しており，廃絶後に遺棄されたものが崩落したものと推測される。77は北東部壁溝内，83は北東部，79は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第40図 第64号住居跡出土遺物実測図（1）



第41図 第64号住居跡出土遺物実測図(2)

第64号住居跡出土遺物観察表(第39~41図)

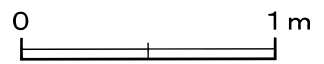
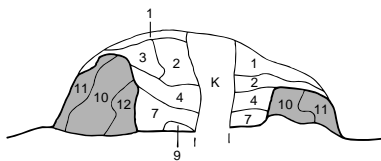
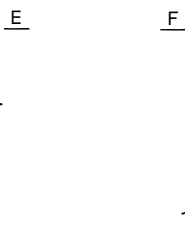
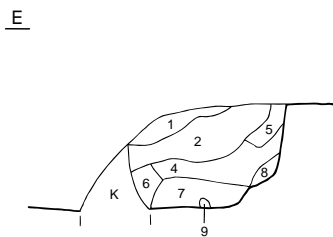
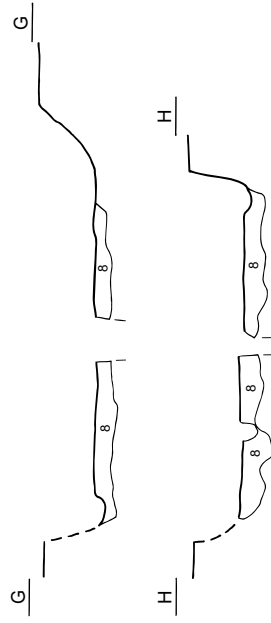
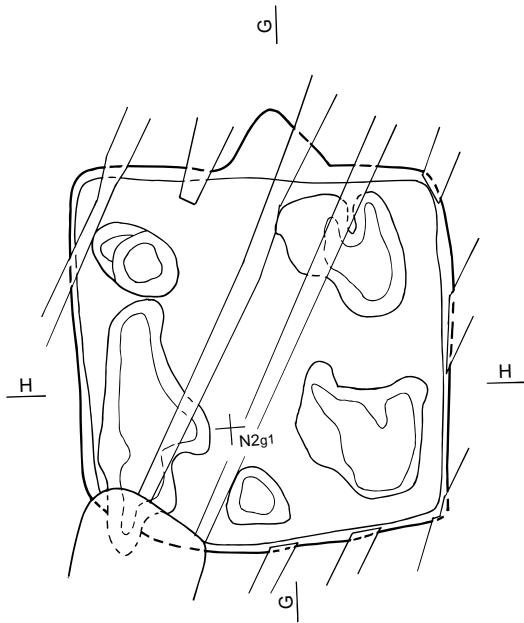
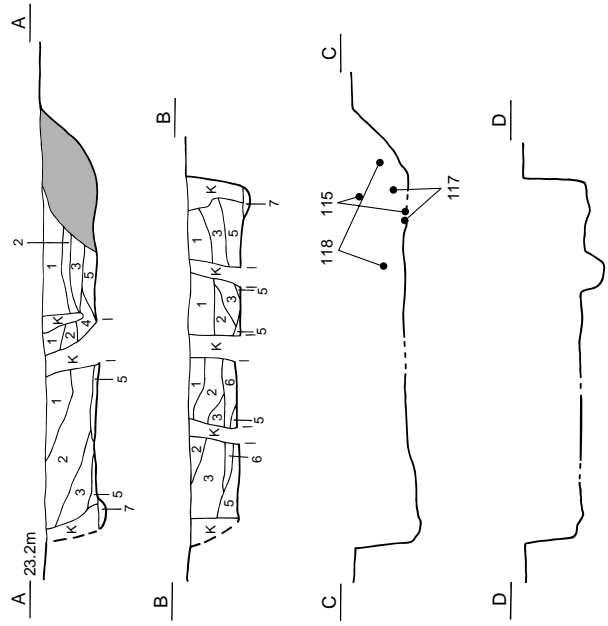
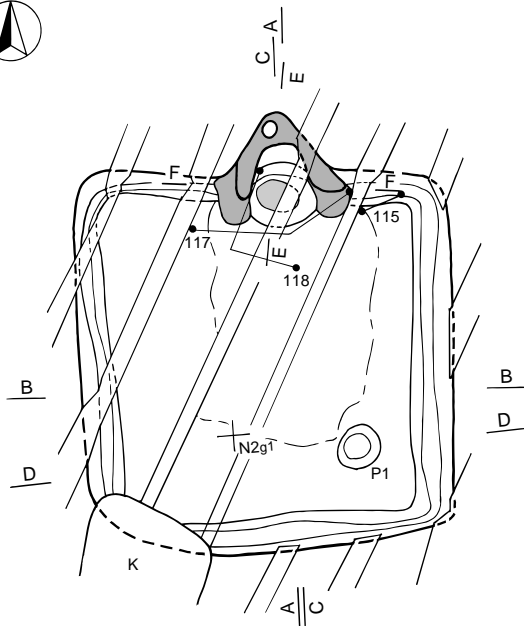
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
76	須恵器	坏	[13.0]	4.0	[7.0]	長石・雲母・小礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	竈火床面	40%
77	須恵器	坏	12.9	4.1	7.9	長石	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	壁溝内	40% ヘラ記号「x」
78	須恵器	高台付坏	[14.4]	4.4	[8.8]	長石・雲母・礫	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中	40%
79	須恵器	高台付坏	[14.6]	4.3	[9.2]	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	25%
80	須恵器	長頸瓶	-	(9.1)	7.5	長石・雲母	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土下層	40%
81	土師器	甗	[23.9]	32.6	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 底部木葉痕	竈火床面	60% PL35
82	土師器	甗	[24.4]	(12.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	竈火床面	20%
83	土師器	甗	[21.6]	(17.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土下層	15%

### 第65号住居跡(第42・43図)

**位置** 調査区中央部のN 2 f1区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.00m, 短軸2.99mの方形で, 主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は50cmで, 直立している。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。全面が貼床で, 10~20cm掘り込み, ロームブロックを含んだ褐色土(第8層)で埋土している。壁溝が巡っている。



第42图 第65号住居跡实测图

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cm、袖部幅110cmである。左袖部は掘り残した地山を基部とし、また、右袖部は床面と同じ高さを基部として、砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第2～4層は天井部の崩落土層、第10～12層は袖部の土層である。

**竈土層解説**

1 褐色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量	7 暗褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	8 黄橙色	ロームブロック中量，焼土ブロック少量
3 灰褐色	砂質粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子微量	9 黒褐色	焼土粒子微量
4 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量	10 浅黄橙色	砂質粘土ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
5 褐色	ローム粒子多量	11 黄橙色	ロームブロック多量，砂質粘土ブロック少量
6 暗褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック微量	12 にぶい黄褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック多量

**ピット** 深さ18cmで、配置から柱穴と考えられる。

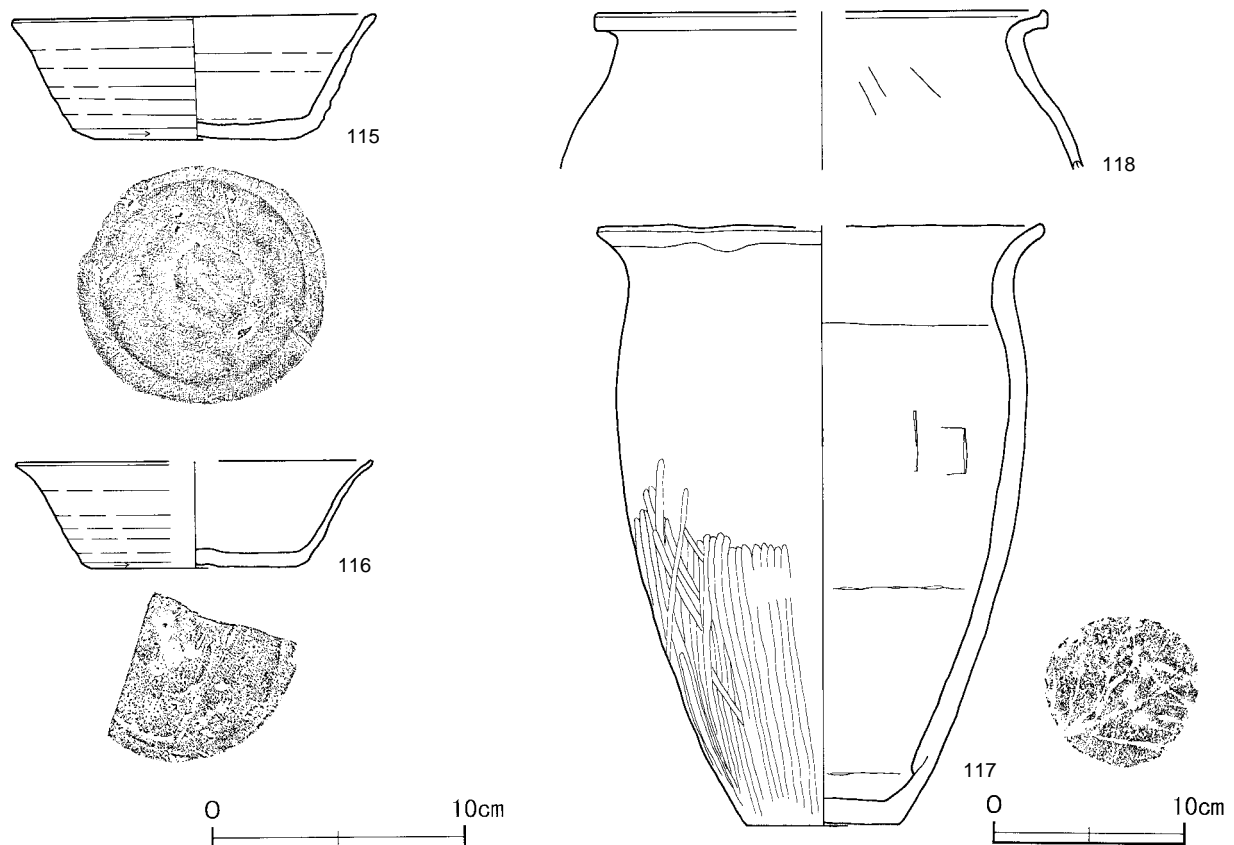
**覆土** 8層に分層される。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック微量	5 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量	6 極暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック微量	7 褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	8 褐色	ロームブロック少量，鹿沼バミス微量

**遺物出土状況** 土師器片109点（甕），須恵器片6点（坏）が出土している。115は北東壁際の覆土上層と床面，117は竈右袖部と北部の床面，118は竈内と北部の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。116は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第43図 第65号住居跡出土遺物実測図

## 第65号住居跡出土遺物観察表 (第43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
115	須恵器	坏	14.2	4.9	9.7	長石・石英・小礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	床面	70% PL24
116	須恵器	坏	[14.0]	4.2	[8.9]	長石・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中	20% ヘラ記号「x」
117	土師器	甗	[23.4]	36.0	8.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラ磨き 底部木葉痕	竈右袖部	50%
118	土師器	甗	[23.4]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	竈煙道部	10%

## 第67号住居跡 (第44・45図)

**位置** 調査区中央部のM 1 i 8区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.30m，短軸3.97mの方形で，主軸方向はN - 7° - Eである。壁高は67cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。全面が貼床で，竈前面を除いて10～25cmほど掘り込み，褐色土（第11～14層）で埋土している。壁溝が北壁の一部を除いて確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで124cm，袖部幅124cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面を8cm掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に15cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第9・11層は天井部の崩落土層，第16～20層は袖部の土層である。

### 竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 暗赤褐色	粘土粒子微量 焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物・砂質粘土粒子微量
2 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	16 にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	17 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量	18 褐色	ロームブロック多量，炭化物・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量	19 暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
6 黒褐色	炭化物・砂質粘土粒子微量	20 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	21 暗赤褐色	炭化物・ロームブロック・焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量
8 褐色	砂質粘土粒子多量		
9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量		
10 黒褐色	炭化粒子中量，焼土粒子微量		
11 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量		
12 暗赤褐色	焼土ブロック少量		
13 暗赤褐色	焼土粒子少量		
14 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子・砂質		

**ピット** 5か所。P 1～P 4は深さ40～50cmで，規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ15cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。

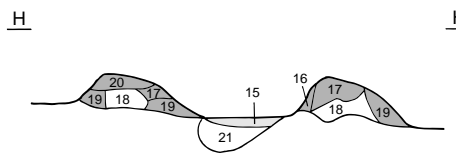
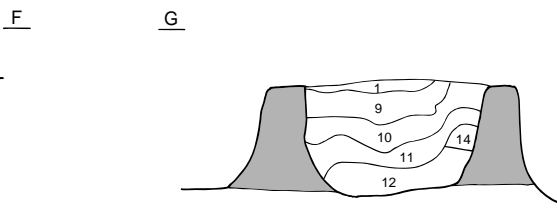
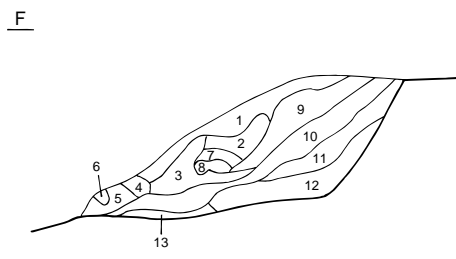
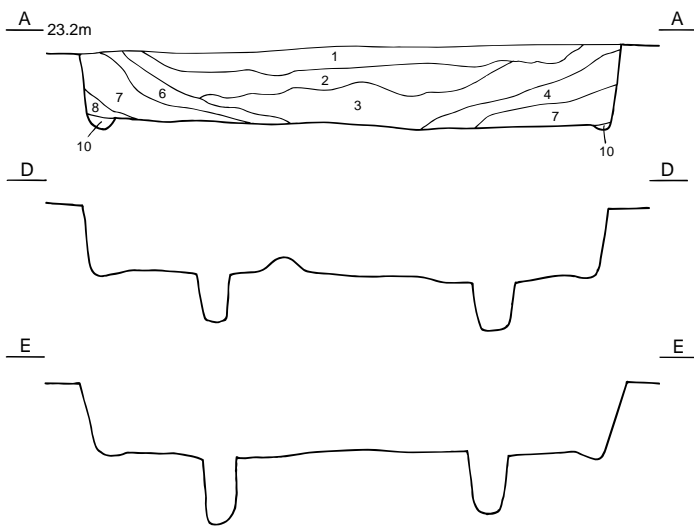
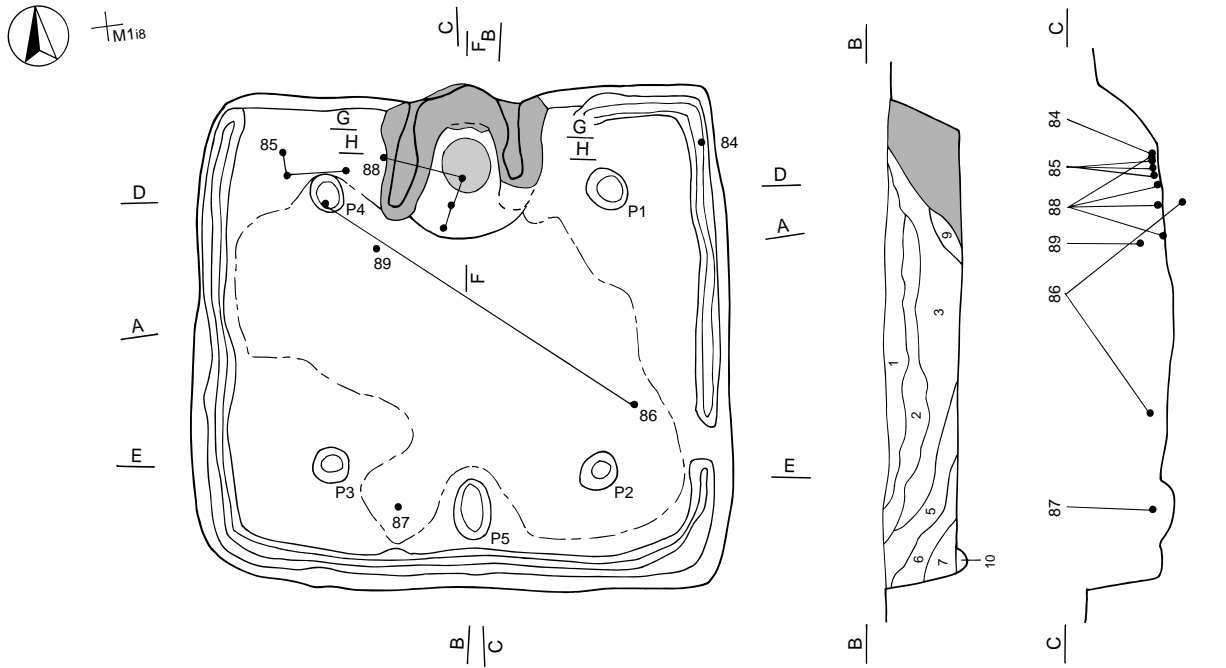
**覆土** 14層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第11～14層は貼床構築土である。

### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	10 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック微量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
6 黒色	ローム粒子・焼土粒子微量	14 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック微量		
8 黒褐色	ローム粒子微量		

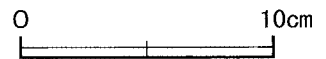
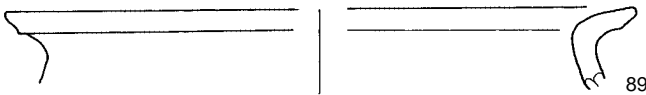
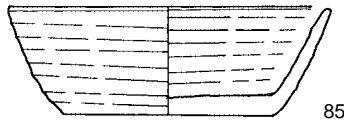
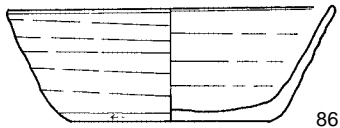
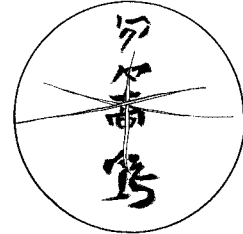
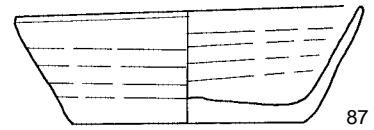
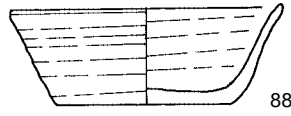
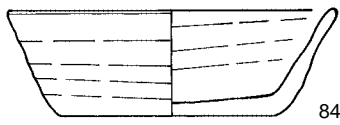
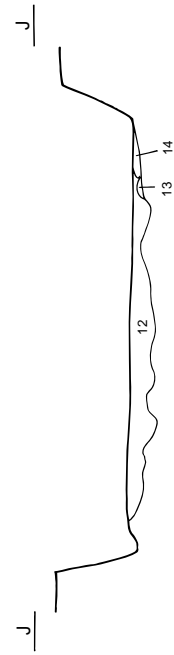
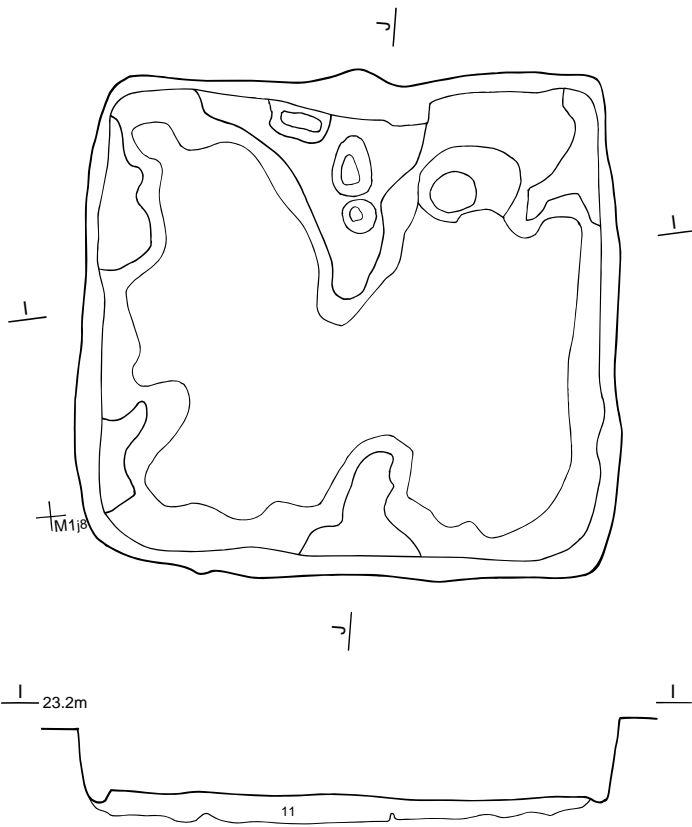
**遺物出土状況** 土師器片203点（坏6，甗197），須恵器片55点（坏49，蓋3，長頸瓶2，甗1）が出土している。84は北壁際，85は北部，87は南部の床面からそれぞれ出土しており，住居廃絶時に廃棄したものと考えられる。86はP 4内と東部の覆土下層，88は竈火床面と左袖部付近から出土したものがそれぞれ接合したものである。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第44图 第67号住居跡実測図





第45図 第67号住居跡・出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表 (第45図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
84	須恵器	坏	12.9	4.2	8.5	長石・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後一方へ削り	床面	95% PL24
85	須恵器	坏	12.6	4.3	8.3	長石・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	85% ヘラ記号「xカ」PL24
86	須恵器	坏	12.9	4.5	7.8	長石・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ	P 4 内	70%
87	須恵器	坏	13.7	4.6	9.2	長石・礫	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	60% 墨書「部カ高嶋」ヘラ記号 PL27
88	須恵器	坏	10.8	3.9	7.0	長石・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	竈火床面	65% PL24
89	土師器	甕	[24.8]	(3.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5%

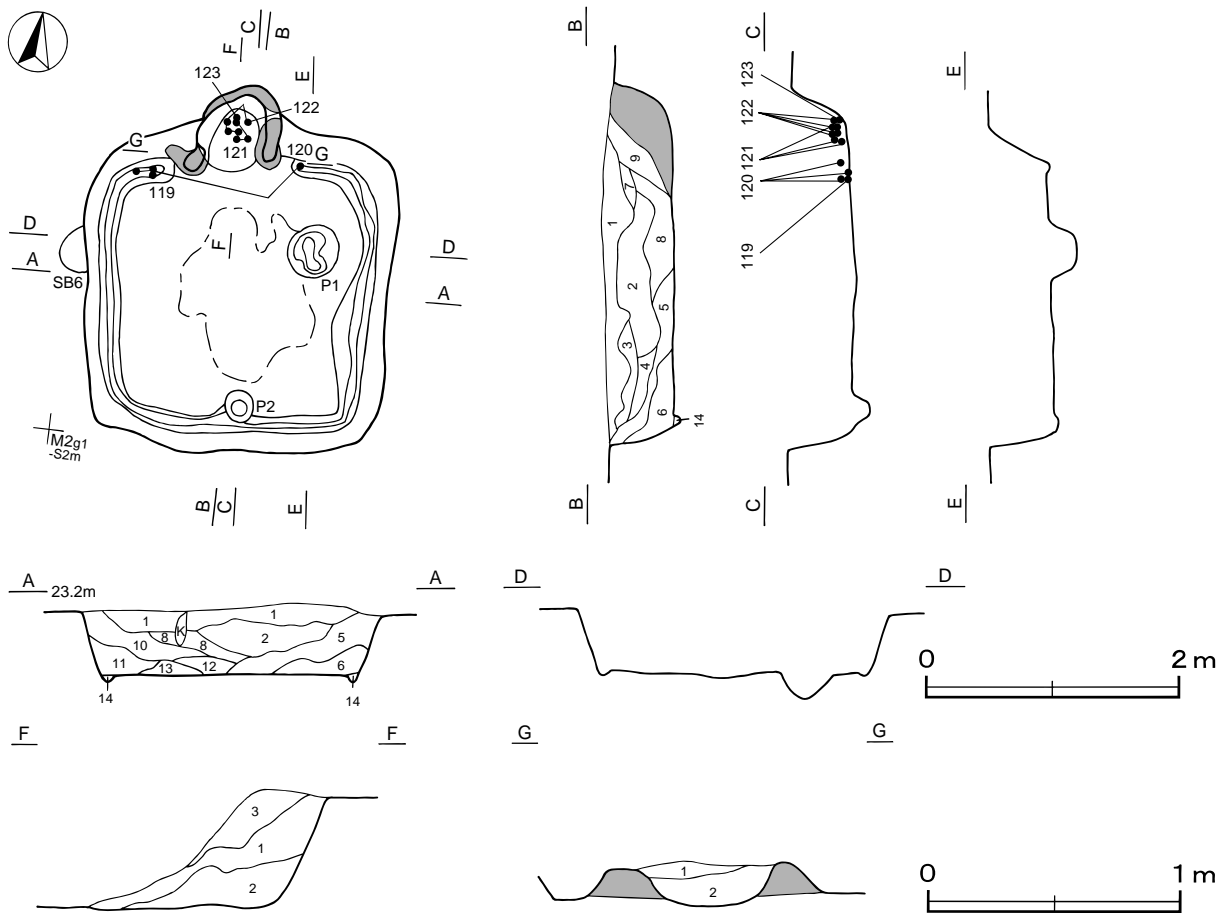
第68号住居跡 (第46・47図)

位置 調査区中央部のM 2 g 1区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号掘立柱建物跡のP 3を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.56m, 短軸2.48mの方形で, 主軸方向はN - 4° - Wである。壁高は60cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が巡っている。



第46図 第68号住居跡実測図

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで70cm，袖部幅90cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめ，火床面は残存していない。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第3層は天井部の崩落土層である。

**竈土層解説**

- |       |                  |        |                                  |
|-------|------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 3 極暗褐色 | 砂質粘土粒子多量，炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量   |        |                                  |

**ピット** 2か所。P 1は深さ20cmで，配置から支柱穴の可能性はある。P 2は深さ22cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

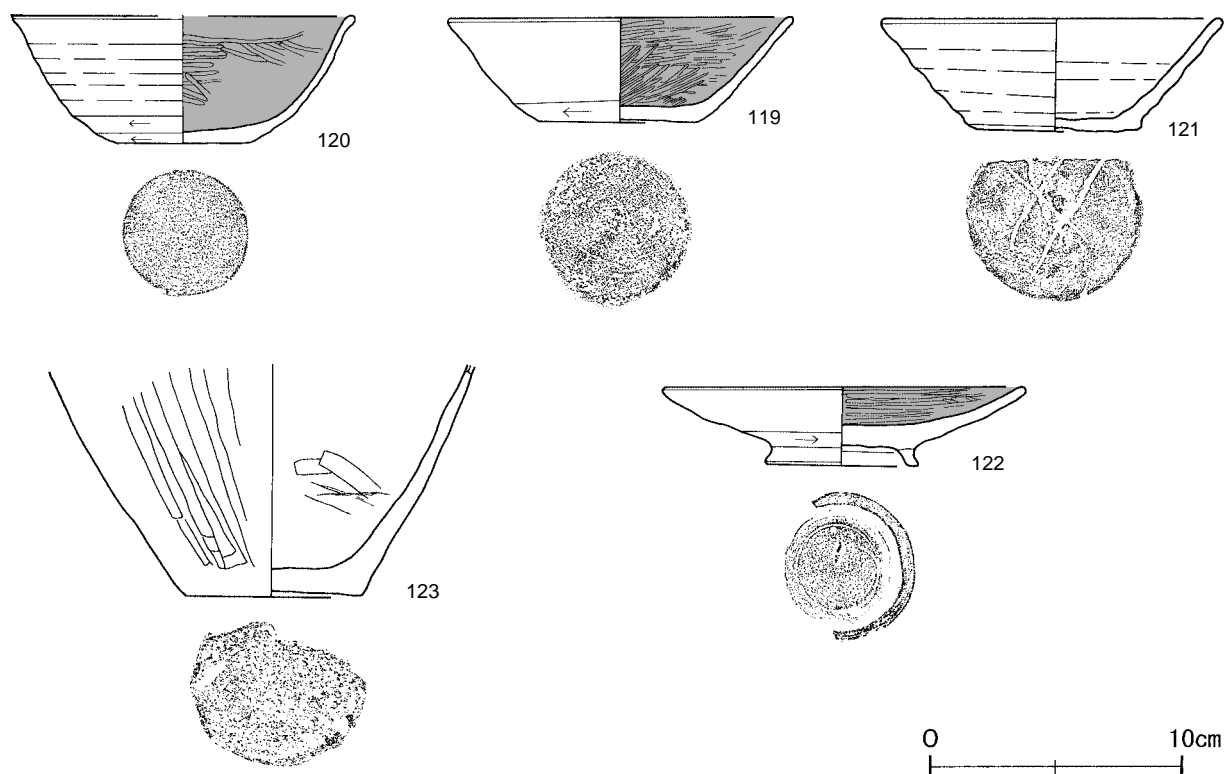
**覆土** 14層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                  |        |                  |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 黒色  | ロームブロック微量        | 8 黒褐色  | ローム粒子・粘土粒子微量     |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 9 暗褐色  | ロームブロック微量        |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量          | 10 暗褐色 | ロームブロック多量        |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量        | 11 暗褐色 | ロームブロック少量        |
| 5 褐色  | ロームブロック多量        | 12 黒色  | ローム粒子微量          |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子微量 | 13 褐色  | ロームブロック中量        |
| 7 黒褐色 | ロームブロック微量        | 14 褐色  | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片52点（坏5，高台付皿1，甕45，小形甕1），須恵器片11点（坏10，長頸瓶1）が出土している。121～123は竈火床面から出土し，123が逆位で出土していることから支脚として使用されたものである。119・120は北部壁溝内の床面から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第47図 第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表 (第47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
119	土師器	坏	13.5	4.3	6.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	床面	95% PL23
120	土師器	坏	[13.4]	5.0	5.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	床面	50% PL23
121	須恵器	坏	13.3	4.5	7.0	長石・小礫	暗灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	竈火床面	70% ヘラ記号 PL24
122	土師器	高台付皿	14.0	3.2	5.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	竈火床面	80% PL29
123	土師器	甕	-	(9.2)	6.9	石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ 輪積痕	竈火床面	30%

第70号住居跡 (第48図)

**位置** 調査区中央部のM 1 b7区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第171号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部が調査区域外に延びているため，東西軸は1.25mだけが確認されており，南北軸は3.07mである。東壁や竈の位置から主軸方向はN - 2° - Eと推測される。確認された壁高は36～43cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が北東部を除いて確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。確認された規模は焚口部から煙道部まで88cmである。袖部は掘り込んだ地山の上に第6～8層を貼り付けて基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第3～5層は袖部の土層である。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	9 黒褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量	10 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
3 黒褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化物微量	11 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量
4 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量	12 黒褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量		
6 黒褐色	ロームブロック微量		
7 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量		
8 暗褐色	ローム粒子少量		

**ピット** 3か所。P 1・P 2は深さ14cm・15cmとやや浅いが，配置から主柱穴の可能性がある。P 3は深さ14cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

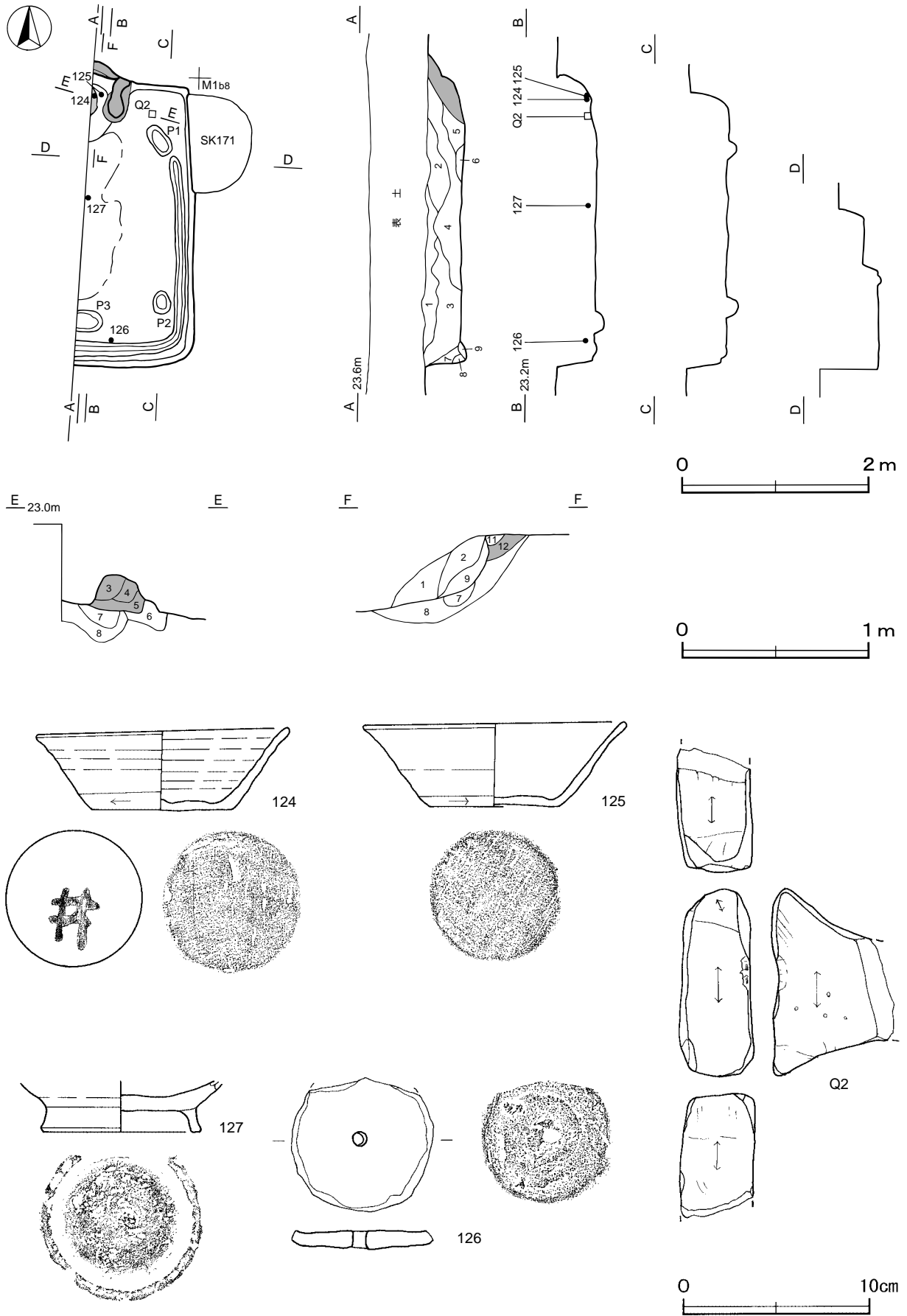
**覆土** 9層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量	6 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量
2 褐色	ロームブロック多量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック中量	8 黒褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	9 黒色	ロームブロック微量
5 黒褐色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片11点 (甕)，須恵器片15点 (坏12，高台付坏1，高坏1，甕1)，石器1点 (砥石)が出土している。124・125は竈火床面から正位に重なって出土している。126は南部床面，Q 2は北部床面，127は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 竈内から出土した坏は火を受けた痕跡がなく，竈廃絶後，崩落する前に遺棄された可能性がある。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第48图 第70号住居跡・出土遺物実測図

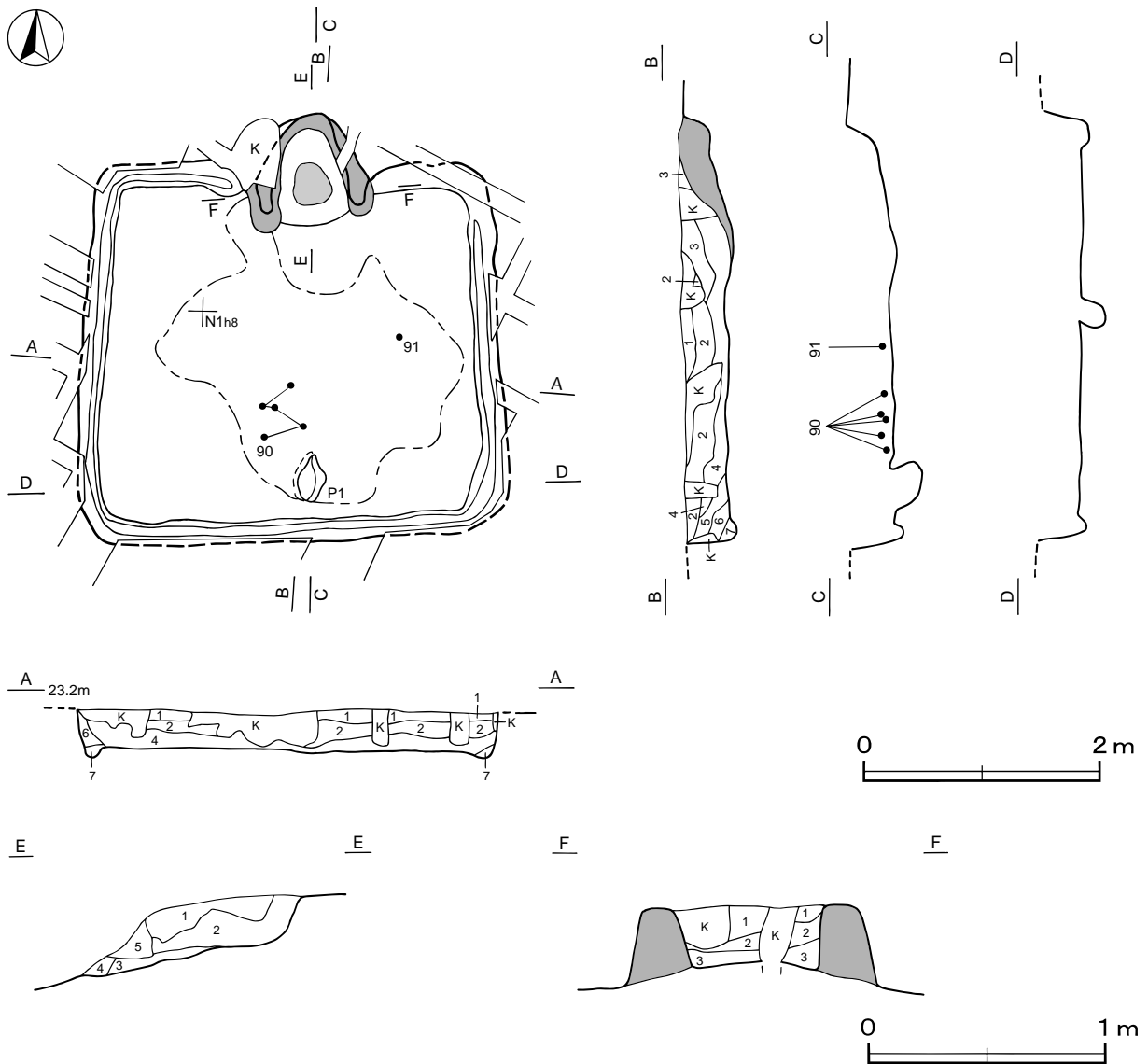
第70号住居跡出土遺物観察表 (第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
124	須恵器	坏	13.4	4.4	7.5	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	竈火床面	100% 墨書「井」
125	須恵器	坏	13.8	4.5	6.9	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	竈火床面	100% PL25
126	須恵器	坏	-	(1.0)	(7.6)	長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ 孔径0.8cm 重量60g	床面	10% 紡錘車 転用カ PL26
127	須恵器	高台付坏	-	(2.8)	[8.5]	石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	55%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	砥石	9.9	4.1	(6.5)	(297)	凝灰岩	砥面4面	床面	PL39

第72号住居跡 (第49・50図)

位置 調査区中央部のN1h8区，標高23mの台地平坦部に位置している。



第49図 第72号住居跡実測図

**規模と形状** 長軸3.62m，短軸3.26mの方形で，主軸方向はN - 0°である。壁高は42cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が北東部を除いて確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cm，袖部幅110cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。土層中の第2層は天井部の崩落土層である。

**竈土層解説**

1	褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量			砂質粘土粒子少量
2	にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量	4	褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子砂質粘土粒子少量
3	褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子・	5	橙色	ロームブロック多量

**ピット** 深さ24cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

**覆土** 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

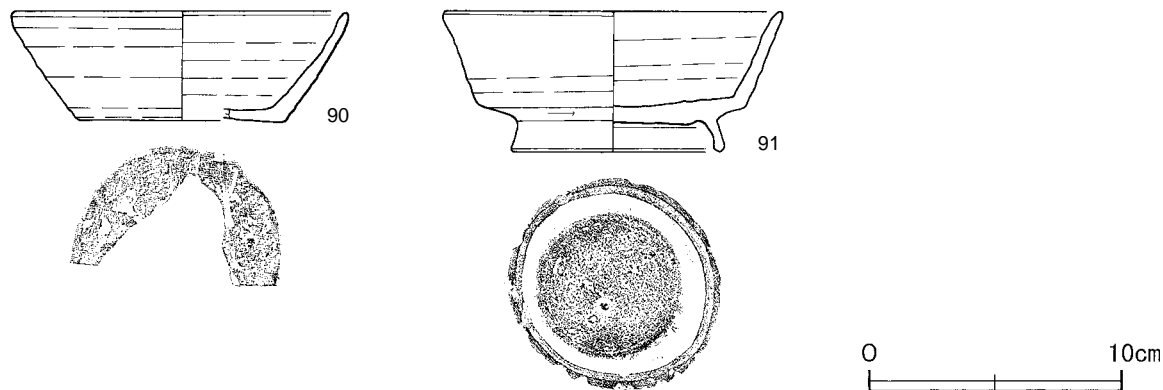
**土層解説**

1	褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
3	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	7	明褐色	ローム粒子多量
4	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量			

**遺物出土状況** 土師器片113点（甕），須恵器片26点（坏21，高台付坏1，盤1，甕3）が出土している。

90は中央部，91は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第50図 第72号住居跡出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表（第50図）

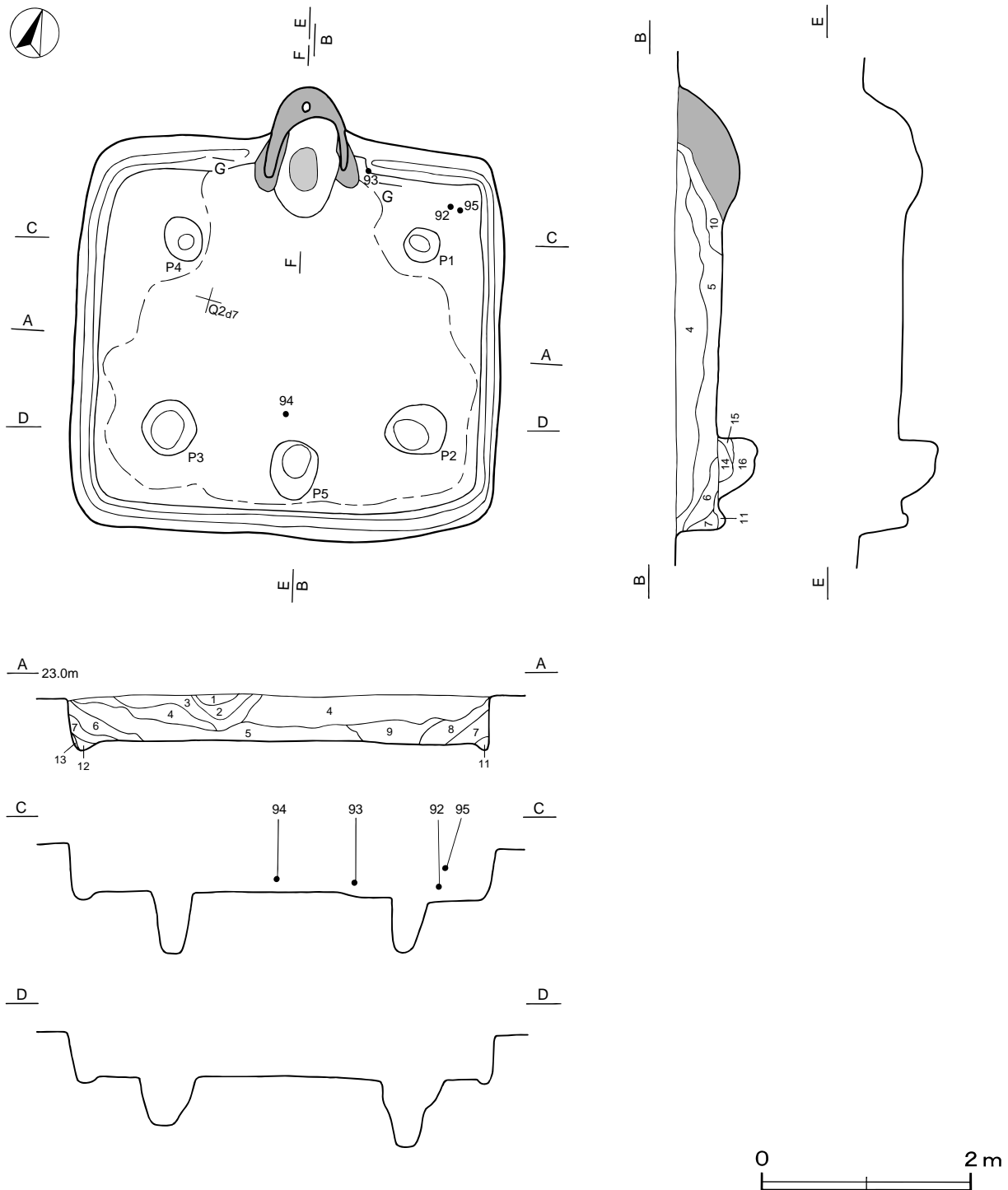
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	須恵器	坏	13.1	4.3	[ 8.0 ]	長石・白色粒子・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	40%
91	須恵器	高台付坏	13.3	5.5	8.3	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土下層	80% PL28

**第73号住居跡 (第51～53図)**

**位置** 調査区中央部のQ 2 d7区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.12m，短軸3.87mの方形で，主軸方向はN - 15° - Wである。壁高は47cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。



第51図 第73号住居跡実測図(1)

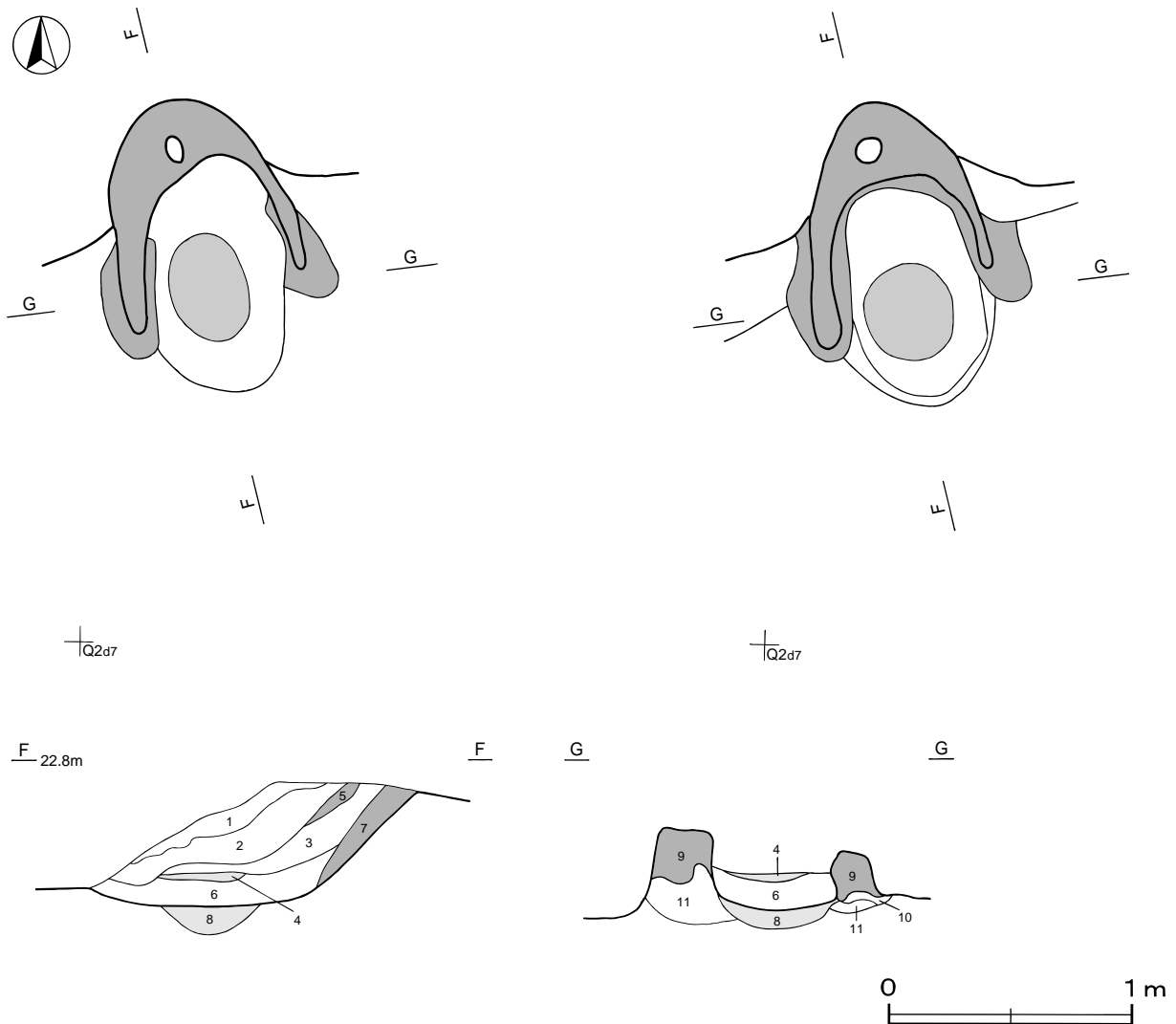


**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで124cm，袖部幅96cmである。袖部は床面と同じ高さの上に第10・11層を貼り付けて基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床面は2面確認され，最終使用面を第1火床面，さらに下層を第2火床面とし，第2火床面は床面を14cm掘りくぼめ，両面とも火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第2層は天井部の崩落土層，第9～11層は袖部の土層である。

**竈土層解説**

- |          |                                |          |                       |
|----------|--------------------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒褐色    | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック炭化物微量   | 6 暗赤褐色   | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量  |
| 2 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 黄褐色    | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 3 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量              | 8 明黄褐色   | 焼土粒子・炭化粒子微量           |
| 4 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量      | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量      | 10 褐色    | ロームブロック少量，炭化粒子微量      |
|          |                                | 11 褐色    | ロームブロック中量             |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ44～60cmで，規模と配置から支柱穴である。P5は深さ34cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。



第52図 第73号住居跡実測図(2)

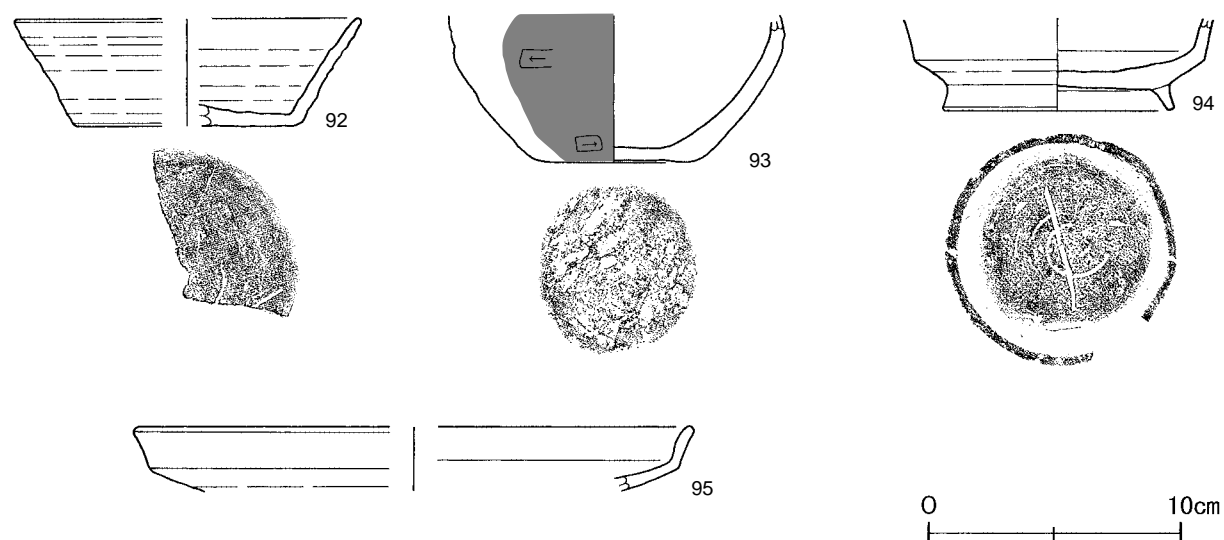
**覆土** 16層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。第14～16層はP 5の埋土である。

土層解説

- |       |                        |           |                                     |
|-------|------------------------|-----------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量                | 10 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量, ロー<br>ムブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量                | 11 褐色     | ロームブロック・焼土ブロック微量                    |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量         | 12 暗褐色    | ローム粒子少量                             |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量      | 13 黒褐色    | ロームブロック微量                           |
| 5 褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 褐色     | 炭化物・ロームブロック微量                       |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量         | 15 灰褐色    | ロームブロック中量                           |
| 7 褐色  | ロームブロック少量              | 16 褐色     | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量               |
| 8 褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子微量      |           |                                     |
| 9 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |           |                                     |

**遺物出土状況** 土師器片109点 (坏5, 椀1, 甕102, 甑1), 須恵器片15点 (坏13, 高台付坏1, 盤1) が出土している。92は北東部, 93は右袖部付近, 94は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第53図 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
92	須恵器	坏	[13.6]	4.3	[9.0]	長石・小礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後ヘラ削り	覆土下層	30%
93	土師器	椀	-	(5.7)	5.9	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	覆土下層	95% PL28
94	須恵器	高台付坏	-	(3.5)	9.0	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	50% ヘラ記号
95	須恵器	盤	[22.0]	(2.5)	-	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中層	10%

第74号住居跡 (第54図)

**位置** 調査区中央部のQ 2 b 9区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 東部が調査区域外に延びているため, 東西軸は1.12mだけが確認され, 南北軸は2.77mである。

西壁から主軸方向はN - 10° - Eと推測される。壁高は36cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦である。

**覆土** 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

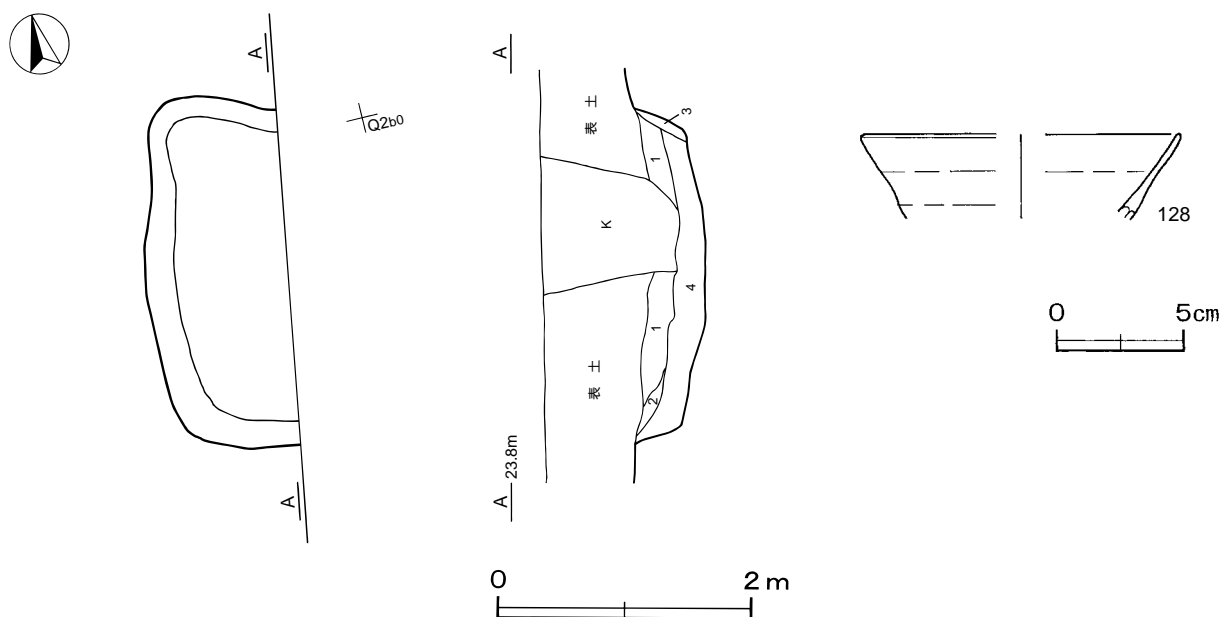
3 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片14点（坏3，甕11），須恵器片6点（坏3，蓋1，鉢2）が出土している。128は覆土中から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀代と考えられる。



第54図 第74号住居跡・出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
128	土師器	坏	[12.4]	(3.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面クロナデ 内面器面荒れ	覆土中	10%

### 第75号住居跡（第55図）

**位置** 調査区中央部のQ1b7区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 北部が後世の攪乱を受けているため，南北軸は2.35mだけが確認されており，東西軸は3.22mである。南壁や東西の壁から主軸方向はN - 33° - Eと推測される。壁高は38cmで，外傾して立ち上がっている。床 ほぼ平坦である。

**ピット** 7か所。P1は深さ20cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。P4～P7は深さ10～28cmで，上屋を支えた補助柱穴と考えられる。P2・P3は深さ30cmと20cmで，性格不明である。

**覆土** 4層に分層される。各層にロームブロックを含む人為堆積である。第4層はP4の掘り方の埋土である。

土層解説

1 極暗褐色 ロームブロック少量

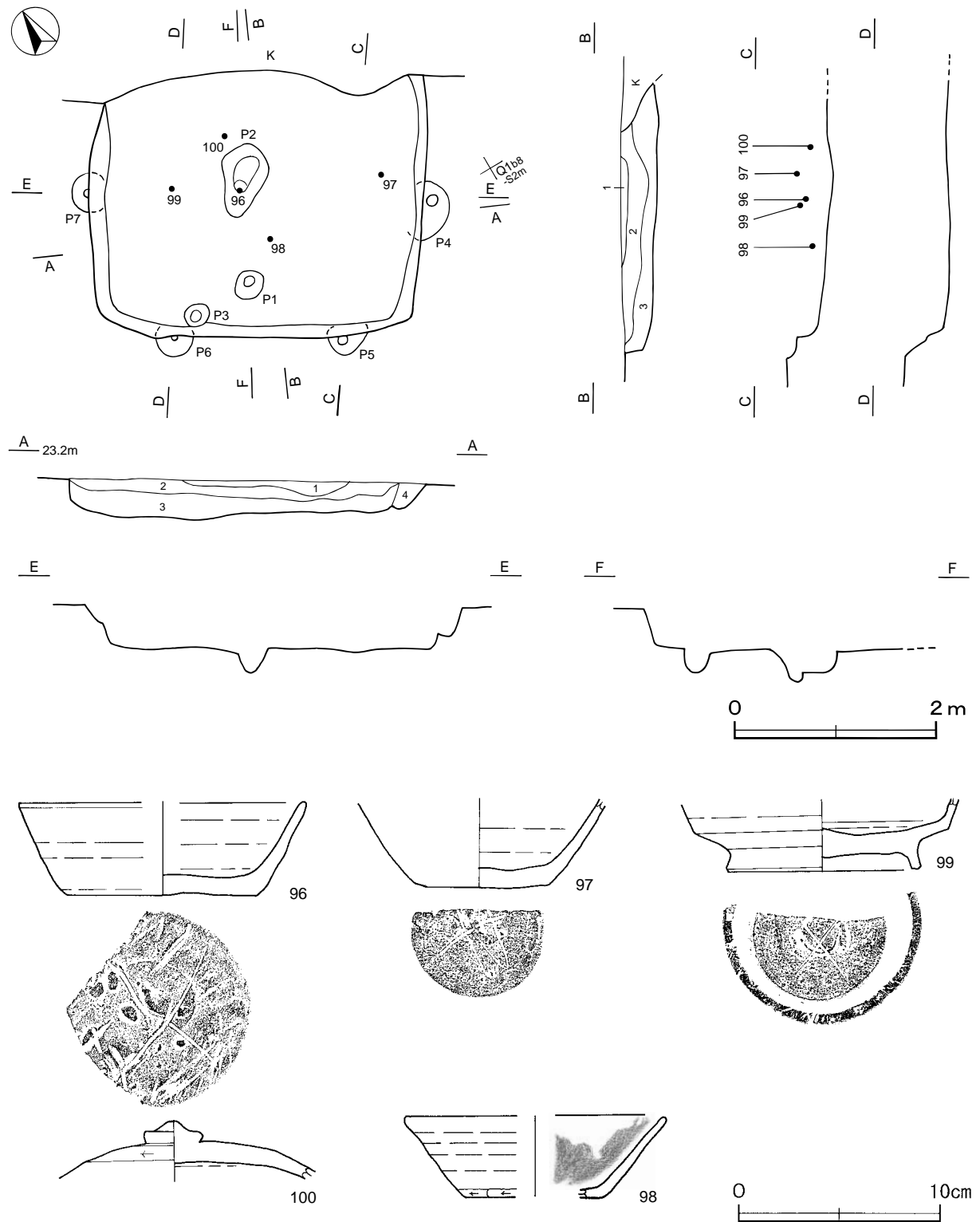
3 黒褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック少量

4 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片161点（坏13，椀1，甕147），須恵器片33点（坏20，高台付坏2，蓋1，瓶2，鉢2，甕6）が出土している。96・98～100は中央部，97は東部の覆土中層からそれぞれ出土しており，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 出土土器から8世紀中葉には廃絶されていたと考えられる。



第55図 第75号住居跡・出土遺物実測図

## 第75号住居跡出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
96	須恵器	坏	[14.2]	4.6	[9.2]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	40%ヘラ記号
97	須恵器	坏	-	(4.4)	6.3	長石・石英・白色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	40%ヘラ記号
98	須恵器	坏	[12.7]	4.0	[6.9]	長石	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端ヘラ削り	覆土中層	20%漆付着
99	須恵器	高台付坏	-	(3.5)	9.5	長石・石英・小礫	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	25%ヘラ記号「x」
100	須恵器	蓋	-	(3.0)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中層	60%

## 第76号住居跡 (第56図)

**位置** 調査区南部のP 2c2区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 南西部を第489号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸2.86m, 短軸2.77mの方形で, 主軸方向はN - 20° - Wである。壁高は45cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が南・西壁際で確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで58cm, 袖部幅98cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし, 砂質粘土を積み上げて構築されている。火床面は床面を10cm掘りくぼめ, 火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第1・3層は天井部の崩落土層, 第10層は天井部, 第7・13層は袖部である。

### 竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9 灰黄褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量
6 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	14 褐色	ローム粒子少量
7 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 灰褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量		

**ピット** 深さ10cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットである。

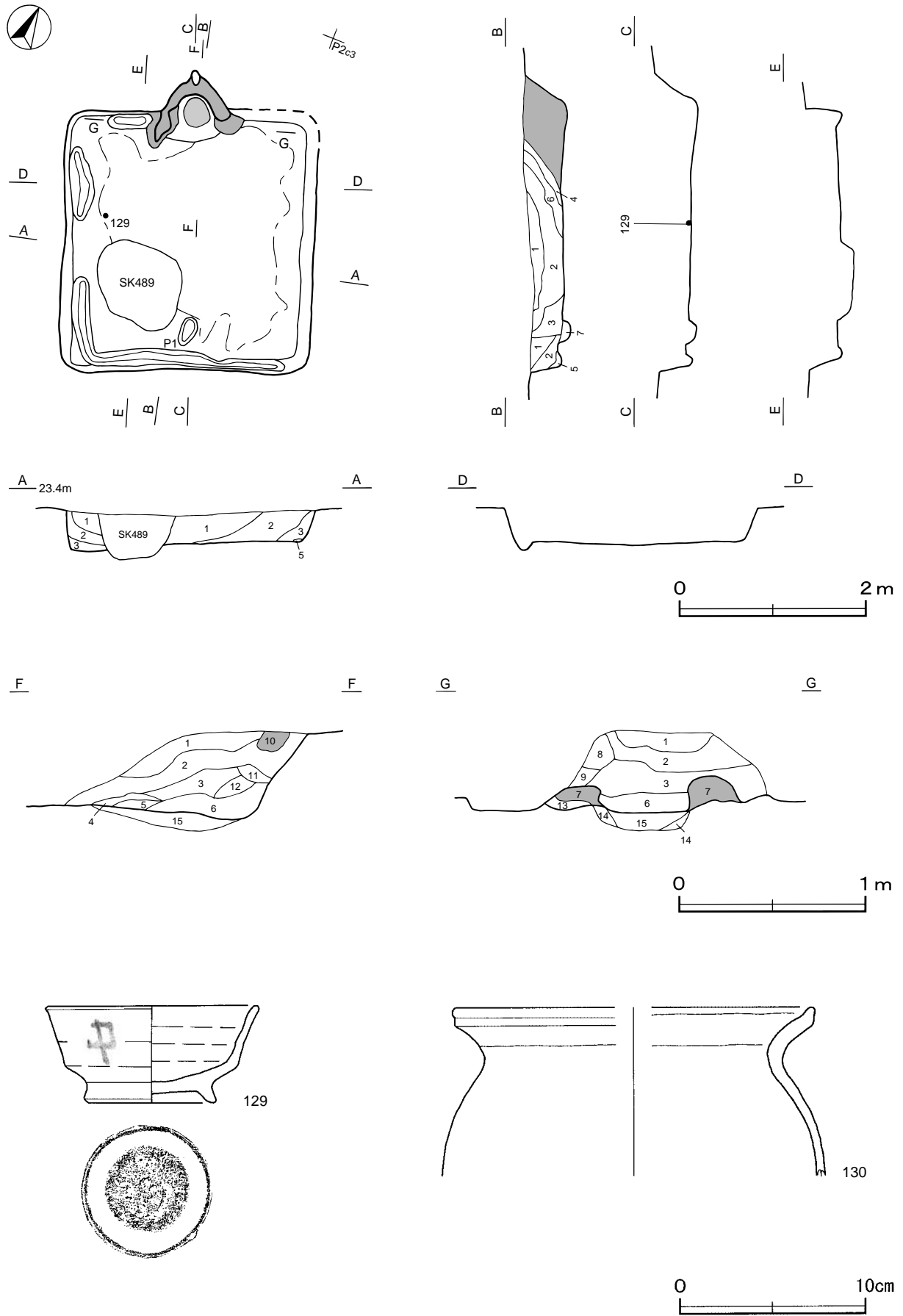
**覆土** 7層に分層される。各層にロームブロックを含む人為堆積である。第7層はP 1の掘り方埋土である。

### 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量
2 極暗褐色	ロームブロック微量	6 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
3 褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 土師器片46点(甕), 須恵器片6点(坏5, 高台付坏1)が出土している。129は西部床面, 130は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第56图 第76号住居跡・出土遺物実測図

## 第76号住居跡出土遺物観察表 (第56図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
129	須恵器	高台付坏	11.2	5.2	6.6	長石・雲母・礫	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後高台貼り付け	床面	95% ヘラ記 号墨書「井」
130	土師器	甕	[19.2]	(9.5)	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5%

## 第77号住居跡 (第57図)

**位置** 調査区南部のR 2 j 8区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.27m, 短軸3.84mの長方形で, 主軸方向はN - 17° - Wである。壁高は55cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで104cm, 袖部幅116cmである。袖部は掘り込んだ地山の上に第11・13・14・16・17層を貼り付けて基部とし, 砂質粘土を積み上げて構築されている。火床面は床面を6cm掘りくぼめ, 火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第3層は天井部の崩落土, 第1・19~23層は天井部, 第9・10・15層は袖部の土層である。

### 竈土層解説

1 黄褐色	砂質粘土粒子多量										
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 暗褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量							
3 黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	15 暗褐色	色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量							
4 暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量							
5 暗褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	17 暗褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量							
6 黒色	焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18 暗褐色	色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量							
7 暗褐色	焼土粒子少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量	19 暗褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量							
8 暗褐色	砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	20 暗褐色	色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量							
9 暗褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	21 黒褐色	色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量							
10 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	22 暗褐色	色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量							
11 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	23 褐色	色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量							
12 暗赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量										
13 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化										

**ピット** 5か所。P 1 ~ P 4は深さ47~57cmで, 規模や配置から支柱穴である。P 5は深さ35cmで, 南壁際の中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットである。

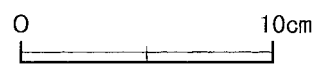
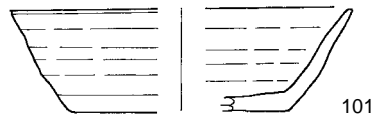
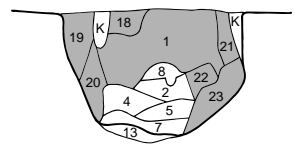
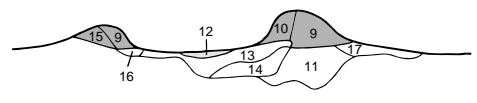
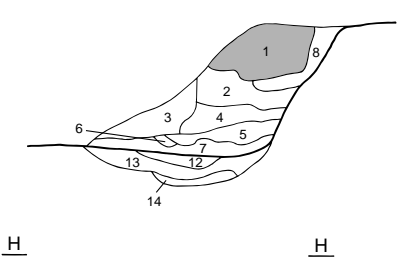
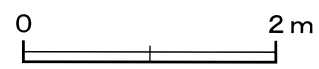
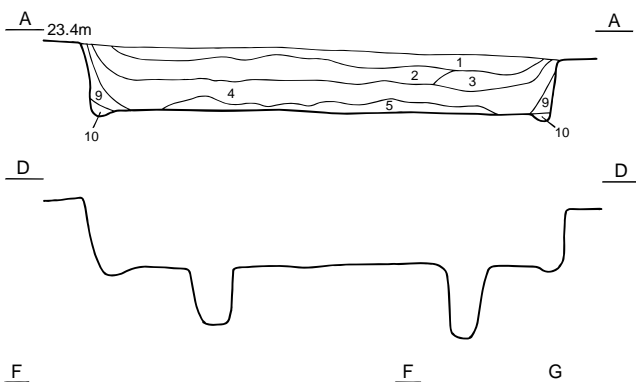
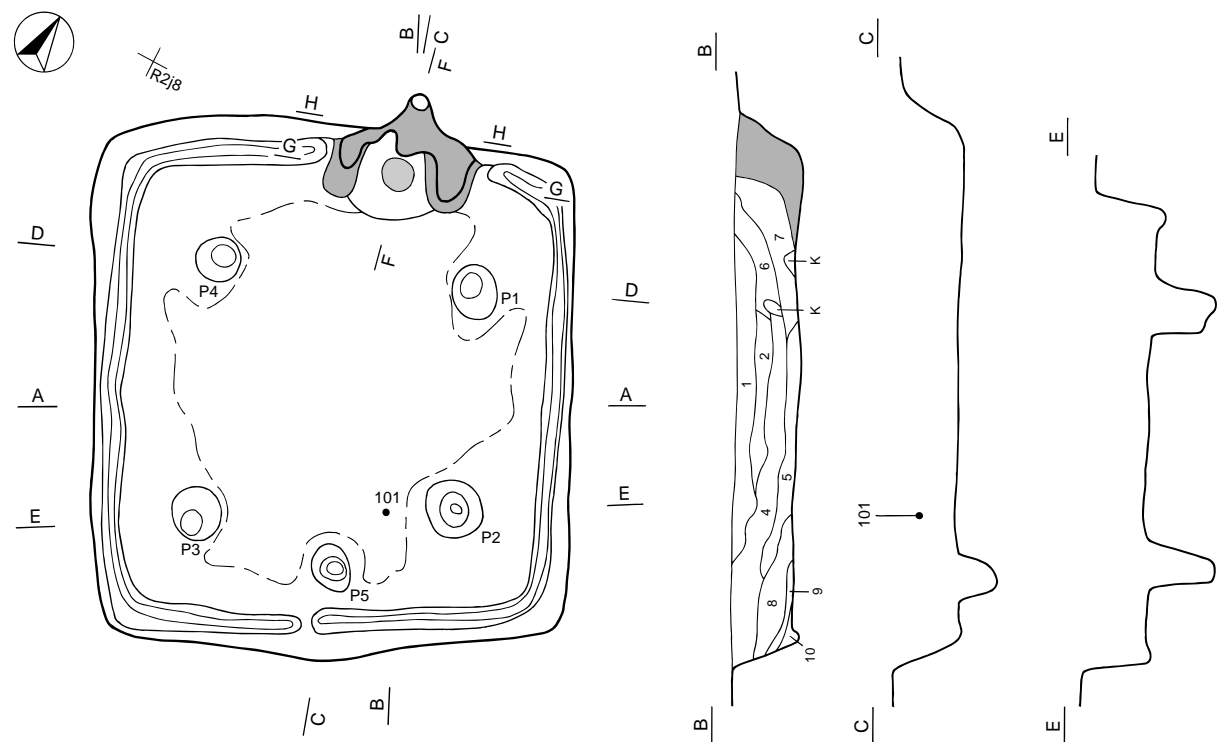
**覆土** 10層に分層される。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	7 極暗褐色	色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子炭化粒子微量
2 極暗褐色	ロームブロック少量	8 黒色	色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック少量	10 黒褐色	色	ローム粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量			
6 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量			

**遺物出土状況** 土師器片36点 (坏4, 甕32), 須恵器片4点 (坏) が出土している。いずれも小破片で図示できた遺物は少ない。101は南部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀後半と考えられる。



第57图 第77号住居跡・出土遺物実測図



第77号住居跡出土遺物観察表 (第57図)

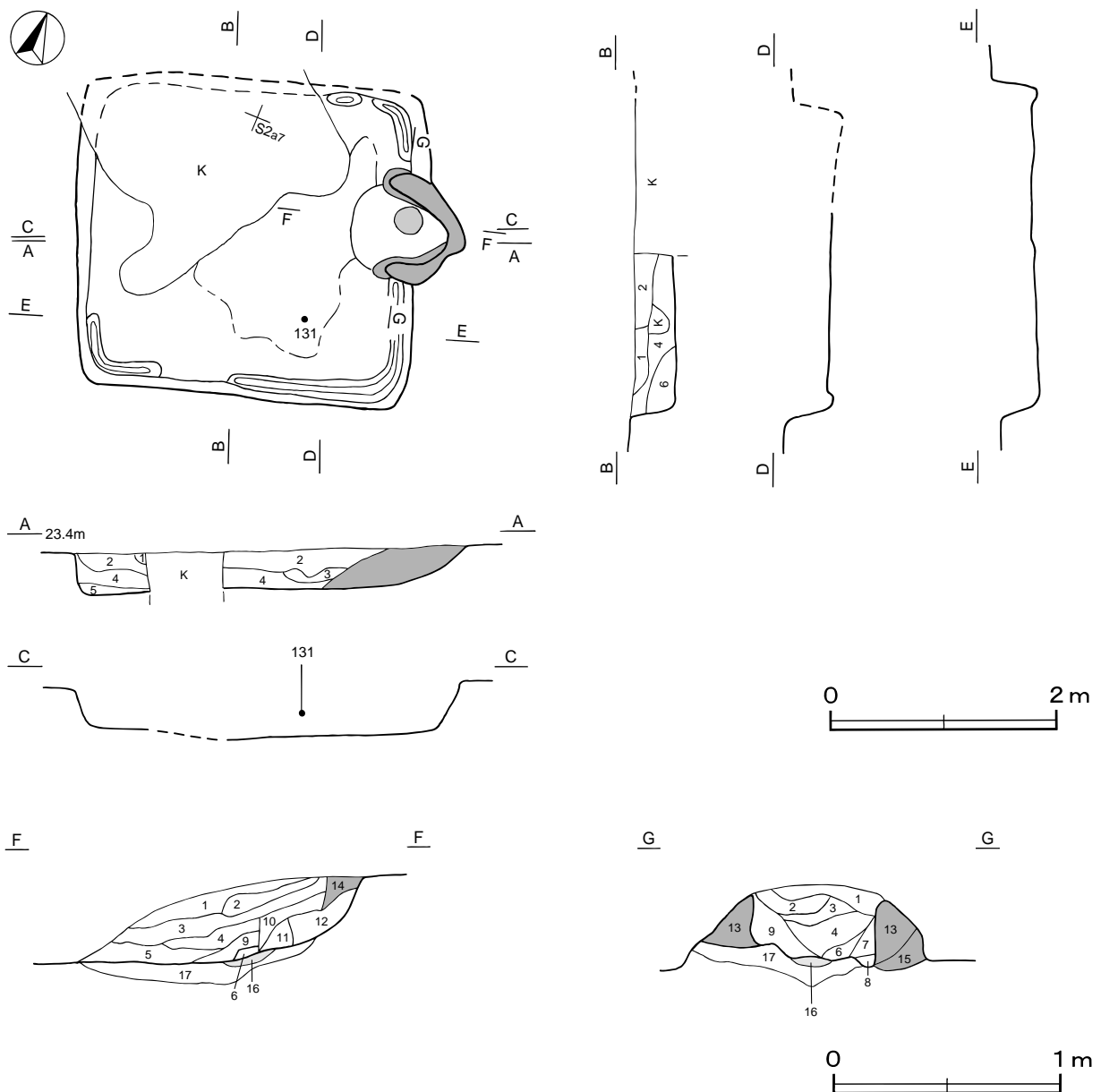
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
101	須恵器	坏	[13.4]	4.1	[8.4]	長石	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後ナデ	覆土中層	20%

第78号住居跡 (第58・59図)

**位置** 調査区南部の S 2 a7区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.12m, 短軸2.75mの長方形で, 主軸方向はN - 70° - Eである。壁高は45cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が北壁から南東壁際で確認されている。



第58図 第78号住居跡実測図

**竈** 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで86cm，袖部幅94cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床面は床面を8cm掘りくぼめ，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第2～4・10層は天井部の崩落土層，第14層は天井部，第13・15層は袖部の土層である。

**竈土層解説**

1 黒褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 黄褐色	砂質粘土粒子多量，炭化粒子微量	10 黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量
3 暗褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量	11 暗褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	砂質粘土粒子中量，炭化物・焼土粒子微量	12 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 黒褐色	砂質粘土粒子少量
6 暗赤褐色	焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量
7 褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	15 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量
8 褐色	ローム粒子多量	16 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
		17 黒褐色	ロームブロック少量

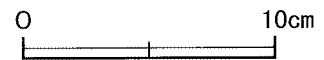
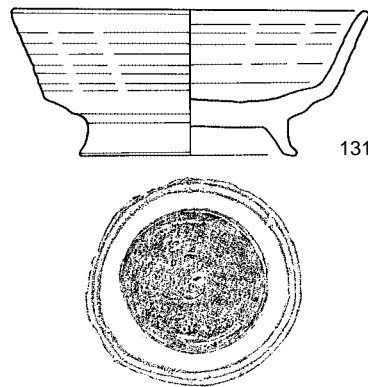
**覆土** 6層に分層される。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック少量	4 極暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	5 褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片78点（坏1，甕77），須恵器片12点（坏）が出土している。131は東部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀前半と考えられる。



第59図 第78号住居跡出土遺物実測図

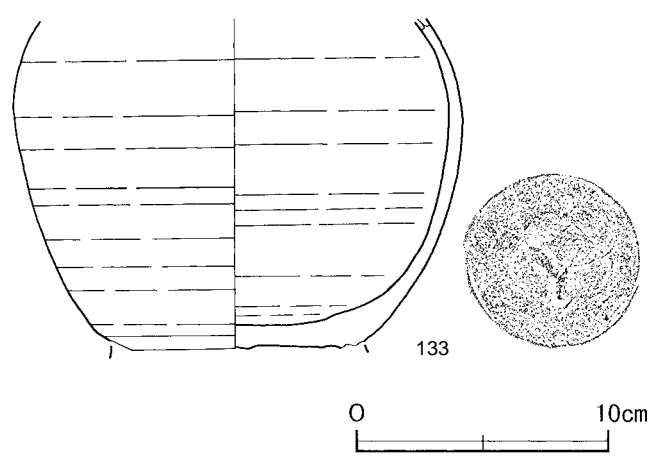
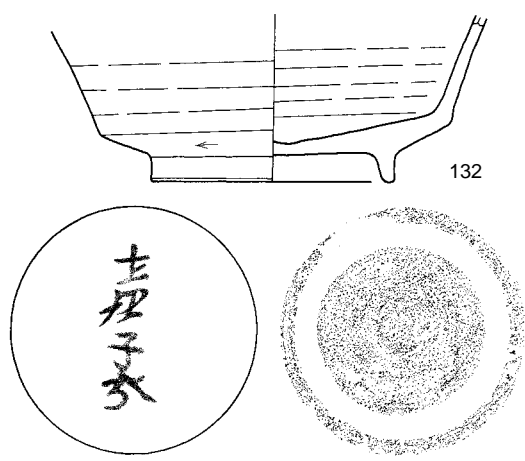
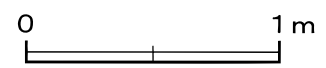
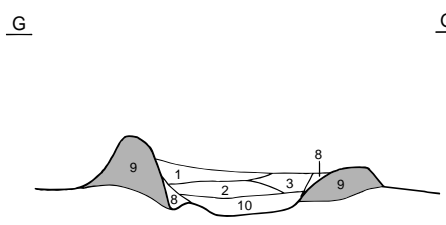
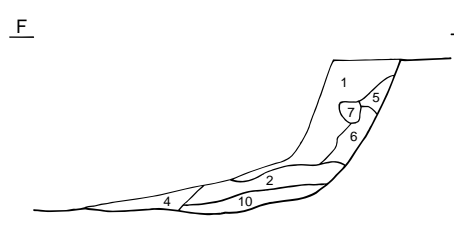
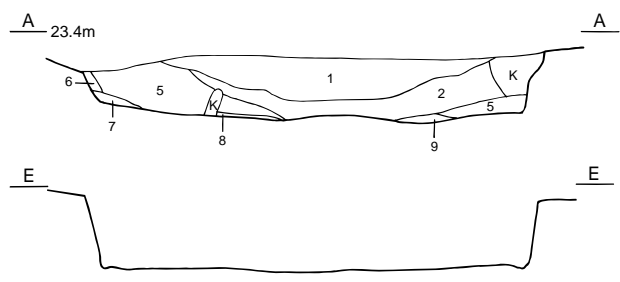
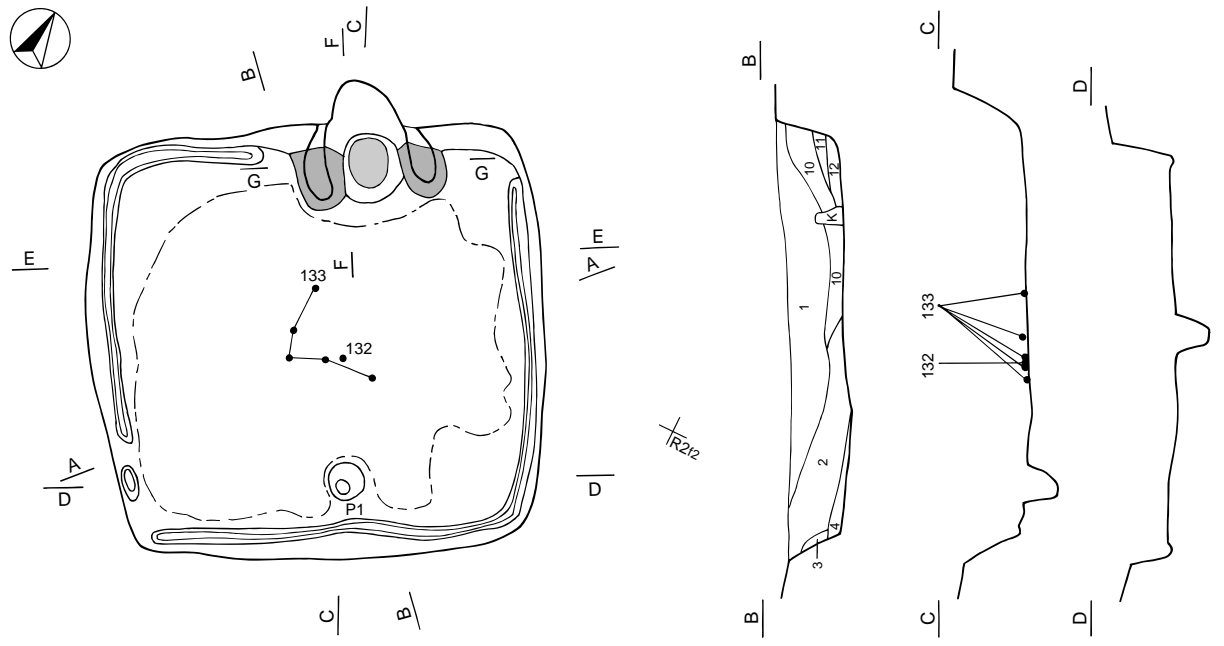
第78号住居跡出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
131	須恵器	高台付坏	13.9	5.8	8.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面口ロナデ 底部回転ヘラ切り 後高台貼り付け	覆土中層	90%

**第79号住居跡（第60図）**

**位置** 調査区南部のR2f1区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.62m，短軸3.43mの方形で，主軸方向はN-30°-Wである。壁高は42～54cmで，外傾して立ち上がっている。



第60図 第79号住居跡・出土遺物実測図

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が北東部を除いて確認されている。

**竈** 北壁中央やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm，袖部幅120cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床面は床面をわずかに掘りくぼめ，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第1～3層は天井部の崩落土層，第9層は袖部の土層である。

**竈土層解説**

- |        |                        |         |                       |
|--------|------------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック微量      | 6 暗褐色   | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量      |
| 2 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量      | 7 暗褐色   | ローム粒子中量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 4 灰褐色  | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・炭化物微量 | 9 褐色    | 砂質粘土粒子多量              |
| 5 暗褐色  | ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量       | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |

**ピット** 深さ30cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

**覆土** 12層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                  |        |                            |
|-------|------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量        | 8 褐色   | ロームブロック少量，炭化粒子微量           |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，砂質粘土粒子微量 | 9 褐色   | ロームブロック少量                  |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量          | 10 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子微量           |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量   | 11 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量   | 12 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 褐色  | ローム粒子中量          |        |                            |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量          |        |                            |

**遺物出土状況** 土師器片48点（鉢2，甕46），須恵器片24点（坏21，高台付坏1，蓋1，長頸瓶1）が出土している。132・133は中央部の床面から出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものである。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

**第79号住居跡出土遺物観察表（第60図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
132	須恵器	高台付坏	-	(6.5)	9.7	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り 後高台貼り付け	床面	60% 墨書「土師子家」PL27・29
133	須恵器	長頸瓶	-	(13.0)	-	長石・石英・礫	灰褐	普通	体部内・外面口クロナデ	床面	30%

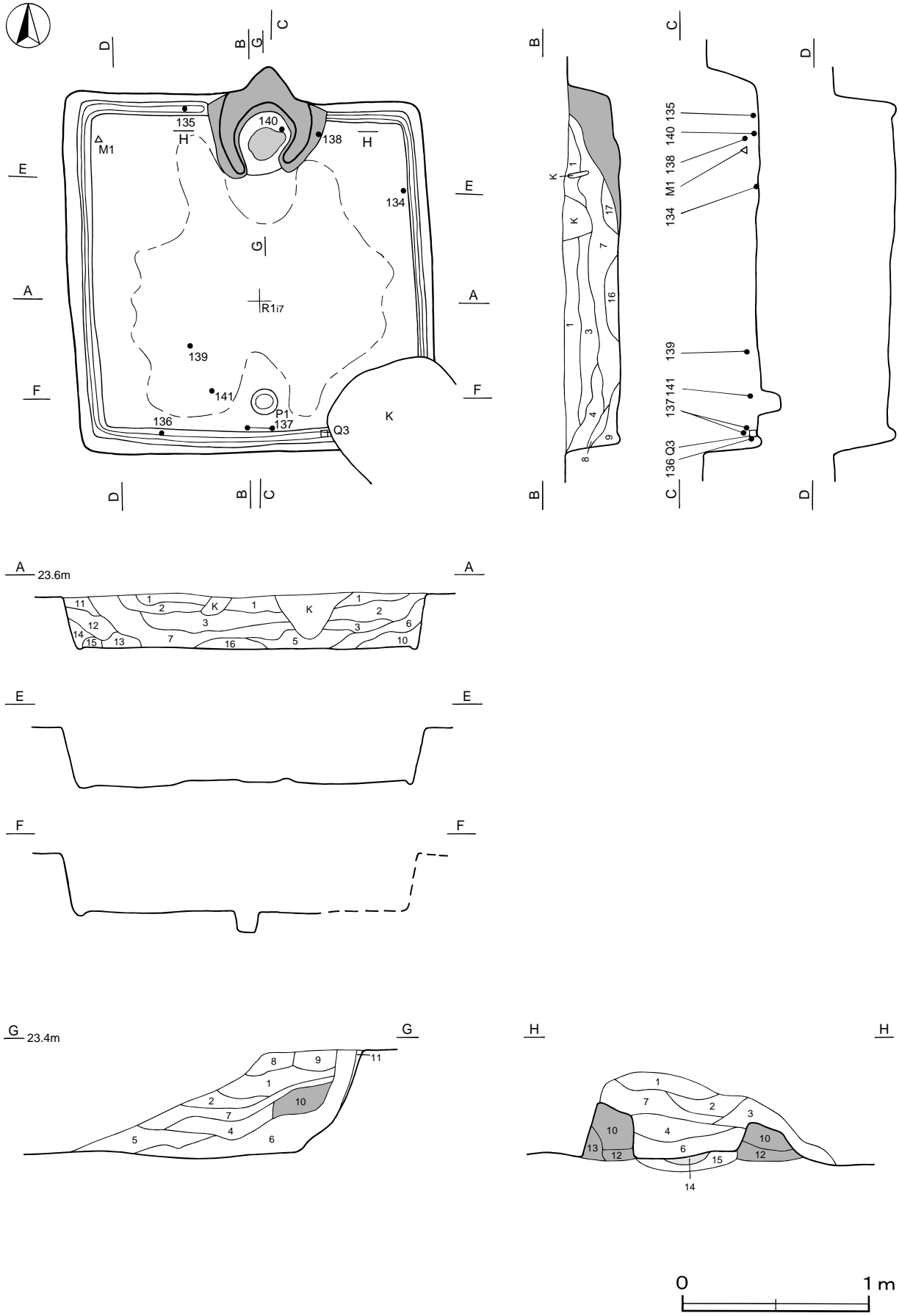
**第80号住居跡（第61・62図）**

**位置** 調査区南部のR1h6区，標高23mの台地平坦部に位置している。

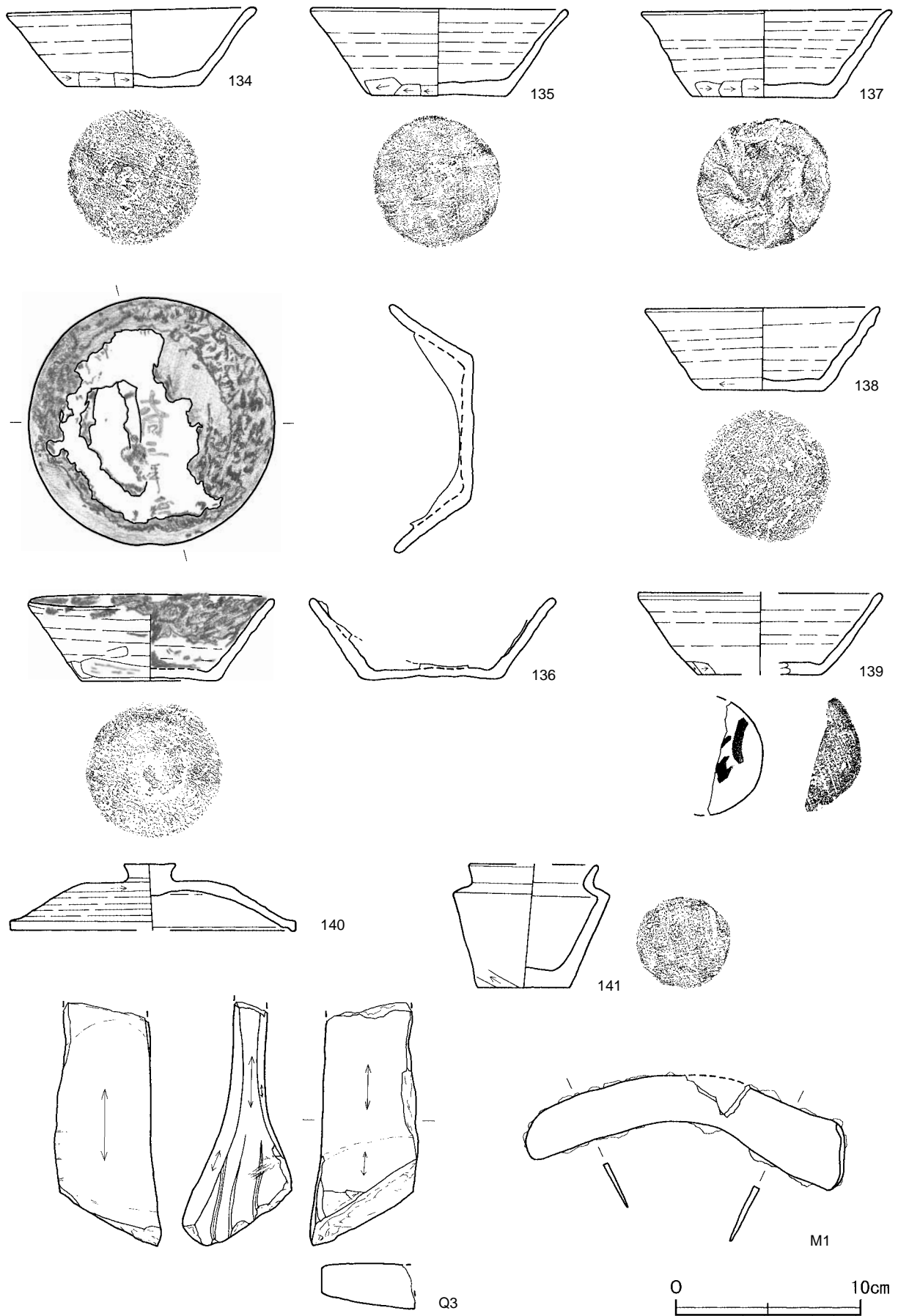
**規模と形状** 長軸3.91m，短軸3.85mの方形で，主軸方向はN-0°である。壁高は60～67cmで，ほぼ直立している。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が南東部を除いて確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで112cm，袖部幅120cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめ，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第4・7層は天井部の崩落土層，第10・12・13層は袖部の土層である。



第61图 第80号住居跡実測図



第62图 第80号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

1	黒褐色	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	色	ロームブロック少量
2	暗褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量	9	暗褐色	色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	10	褐色	色	砂質粘土粒子多量, 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
4	黒褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	暗褐色	色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量
5	暗褐色	色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	暗褐色	色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
6	暗褐色	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13	暗褐色	色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量
7	暗褐色	色	砂質粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒子炭化粒子微量	14	にぶい赤褐色		焼土ブロック中量
				15	黒褐色	色	ロームブロック多量

ピット 深さは22cmで、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 17層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量	10	極暗褐色	色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	黒褐色	色	ロームブロック微量
3	暗褐色	色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	12	黒褐色	色	ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13	黒褐色	色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	14	黒褐色	色	ローム粒子微量
6	黒褐色	色	ローム粒子少量	15	暗褐色	色	ローム粒子中量
7	暗褐色	色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	16	暗褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量
8	暗褐色	色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	17	褐色	色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量				

遺物出土状況 土師器片146点（坏6，甕140），須恵器片54点（坏34，蓋6，短頸壺1，甕13），石器1点（砥石），鉄製品1点（鎌）が北部と南部の壁際を中心に出土している。135は北部の覆土下層，138は竈右袖部，140は竈火床面の覆土下層から出土している。136・Q3は南部の床面，137・139・141は南部の覆土下層から出土している。136の内面には漆が付着しており，赤外線での調査の結果，「大同三年正」と記された漆紙文書片であることが判明した。これらは住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 漆と漆紙文書が付着した須恵器坏の出土から，漆工人の存在がうかがえる。また，漆工人の存在により当遺跡内に公的施設が存在していた可能性が高い。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第80号住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
134	須恵器	坏	13.2	4.4	7.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	95% PL23
135	須恵器	坏	13.6	4.7	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向の手持ちヘラ削り	覆土下層	60% PL23
136	須恵器	坏	13.2	4.3	7.4	長石・雲母	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	床面	95%漆・漆紙付着 PL21
137	須恵器	坏	13.4	4.8	7.6	長石・石英・雲母・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土下層	90% PL24
138	須恵器	坏	12.4	4.6	6.6	長石・石英・雲母・礫	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向ヘラ削り	竈右袖部	90% PL25
139	須恵器	坏	[13.1]	4.4	[6.6]	長石・雲母・礫	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向ヘラ削り	覆土下層	30% 墨書「J」 PL27
140	須恵器	蓋	[15.4]	3.7	-	長石・石英・小礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	竈火床面	80% PL30
141	須恵器	短頸壺	[6.8]	6.7	5.0	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	覆土下層	75% PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	砥石	(13.1)	5.8	6.0	(285)	凝灰岩	砥面6面	床面	PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鎌	17.2	3.8	0.35	(73.8)	鉄	刃部一部欠損 断面三角形	覆土下層	PL40

**第81号住居跡 (第63・64図)**

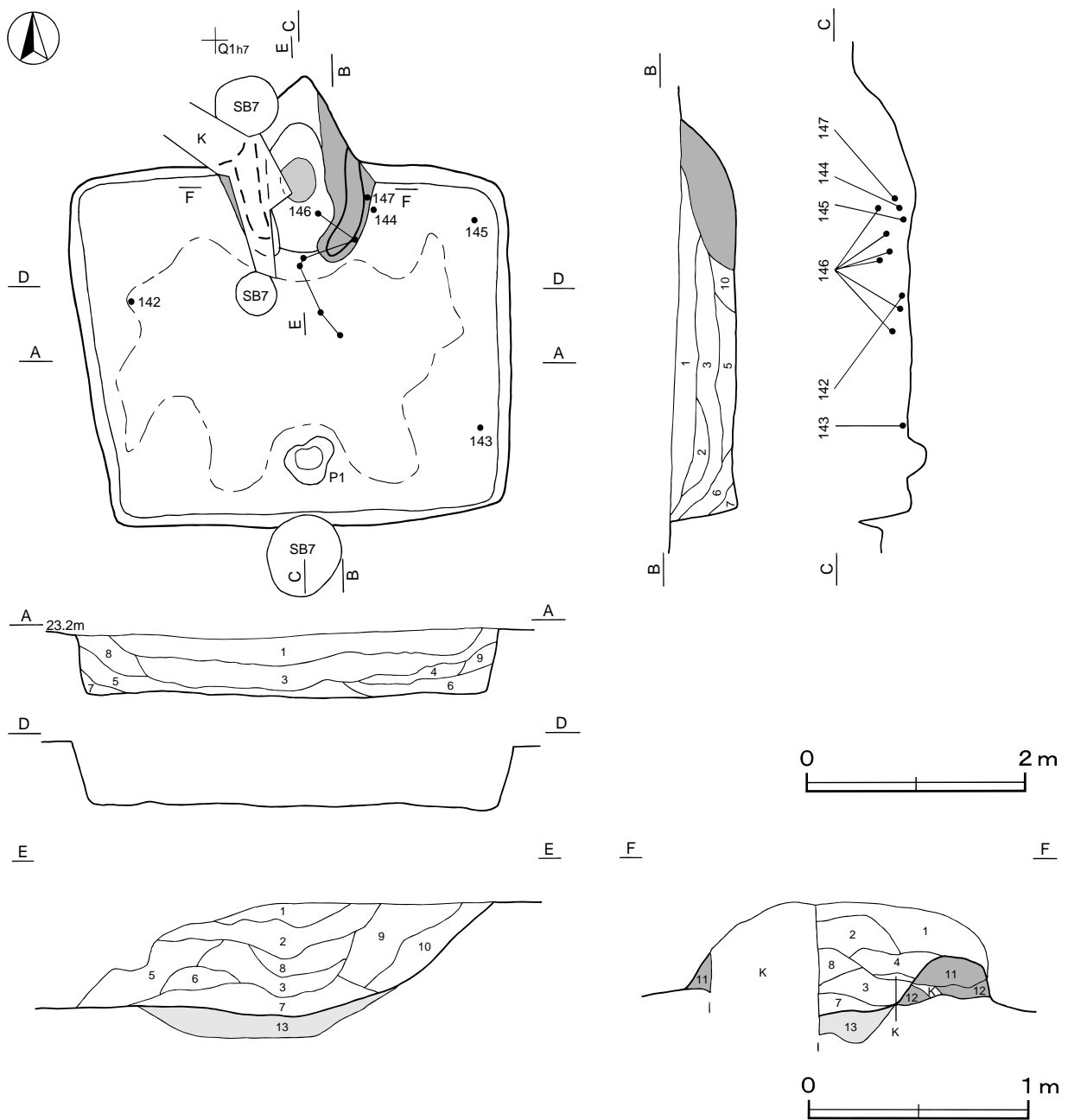
**位置** 調査区南部のQ1h7区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第7号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.02m，短軸3.32mの長方形で，主軸方向はN - 0°である。壁高は55cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで160cm，袖部幅138cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床面は床面をわずかに掘りくぼめ，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に80cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第8・9層は天井部の崩落土層，第11・12層は袖部の土層である。



第63図 第81号住居跡実測図



竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	9 暗褐色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	11 暗褐色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	12 にぶい黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	13 黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量		
7 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量		
8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量		

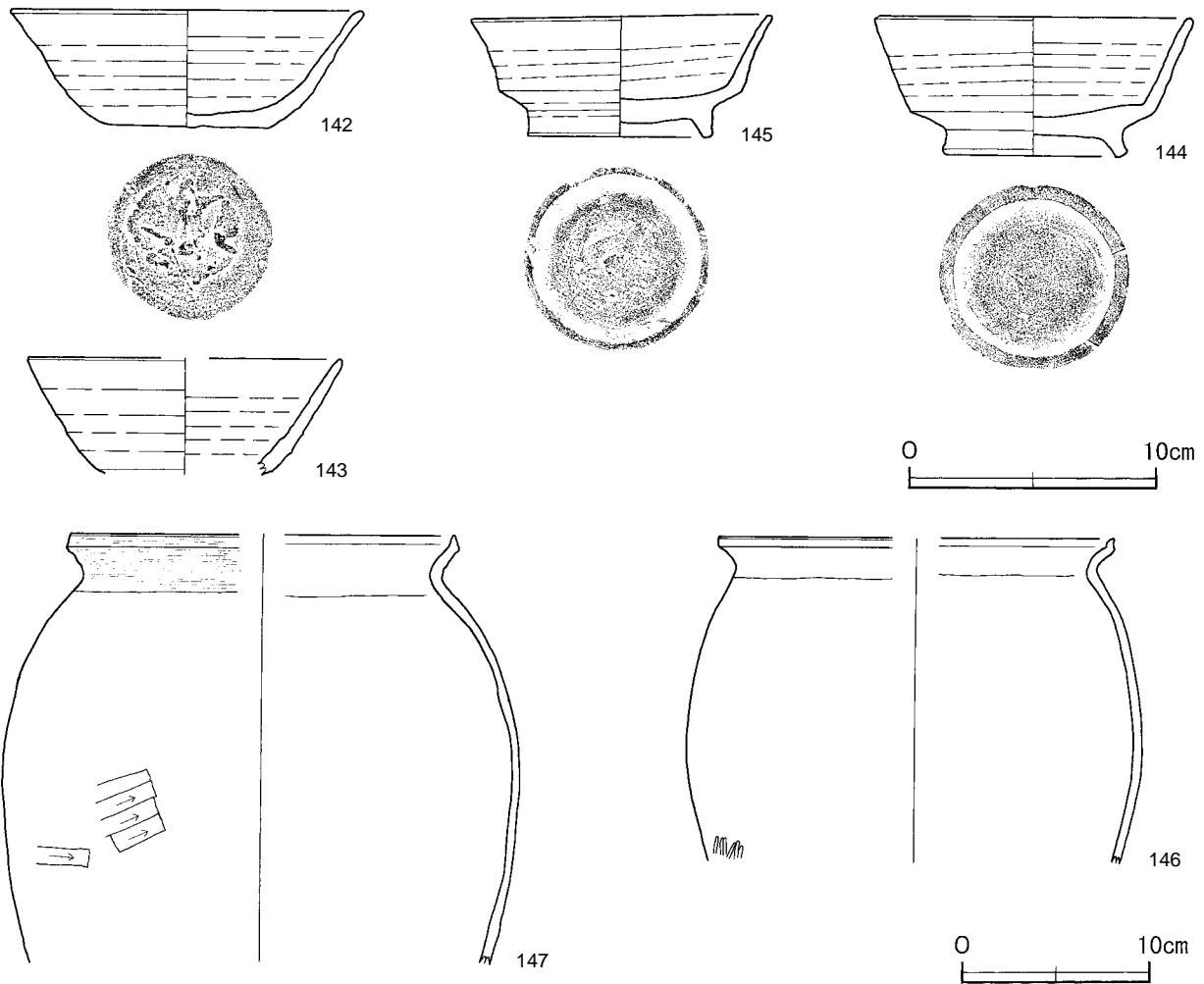
**ピット** 深さ20cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

**覆土** 10層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック微量	9 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック微量	10 黒褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子微量		
6 暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片106点（坏1，甕105），須恵器片79点（坏59，高台付坏2，蓋8，鉢3，瓶2，甕4，甌1）が北部を中心に出土している。146は竈内覆土下層から中層，147は竈右袖部から出土しており，146は中央部から出土した破片と接合したもので，住居廃絶時に遺棄されたものである。また，142は西部，143は東



第64図 第81号住居跡出土遺物実測図

部の床面から出土しており、住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。144は北部，145は北東コーナー部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

### 第81号住居跡出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
142	須恵器	坏	14.0	4.7	6.4	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	100% PL25
143	須恵器	坏	[12.6]	(4.7)	-	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	床面	30%
144	須恵器	高台付坏	12.6	5.6	7.0	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	95% PL29
145	須恵器	高台付坏	12.0	4.9	7.1	長石・雲母・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	85% PL28
146	土師器	甗	[21.2]	(17.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面中位ヘラ磨き	竈内	35%
147	土師器	甗	[20.8]	(22.9)	-	長石・石英・雲母・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面中位ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	竈右袖部	10%

### 第83号住居跡（第65図）

**位置** 調査区南部のT1i8区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第13号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.32m，短軸3.20mの方形で，主軸方向はN - 6° - Wである。壁高は23cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦である。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで72cm，袖部幅94cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床面は床面を8cm掘りくぼめ，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第2～4層は天井部の崩落土層，第10～12層は袖部の土層である。

#### 竈土層解説

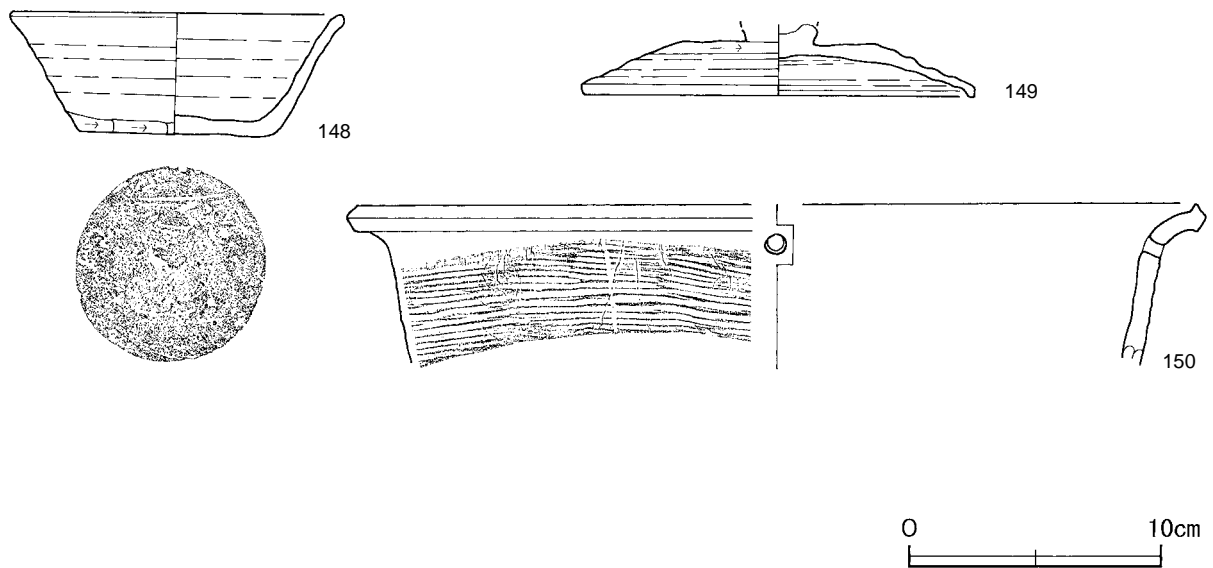
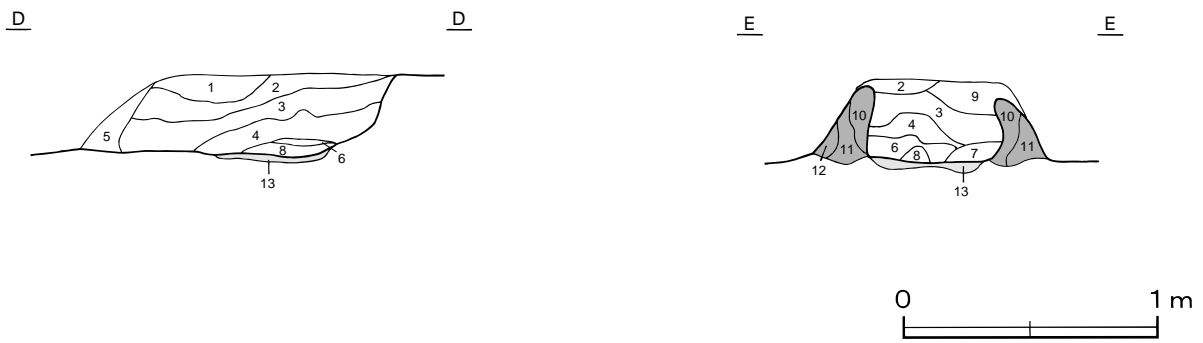
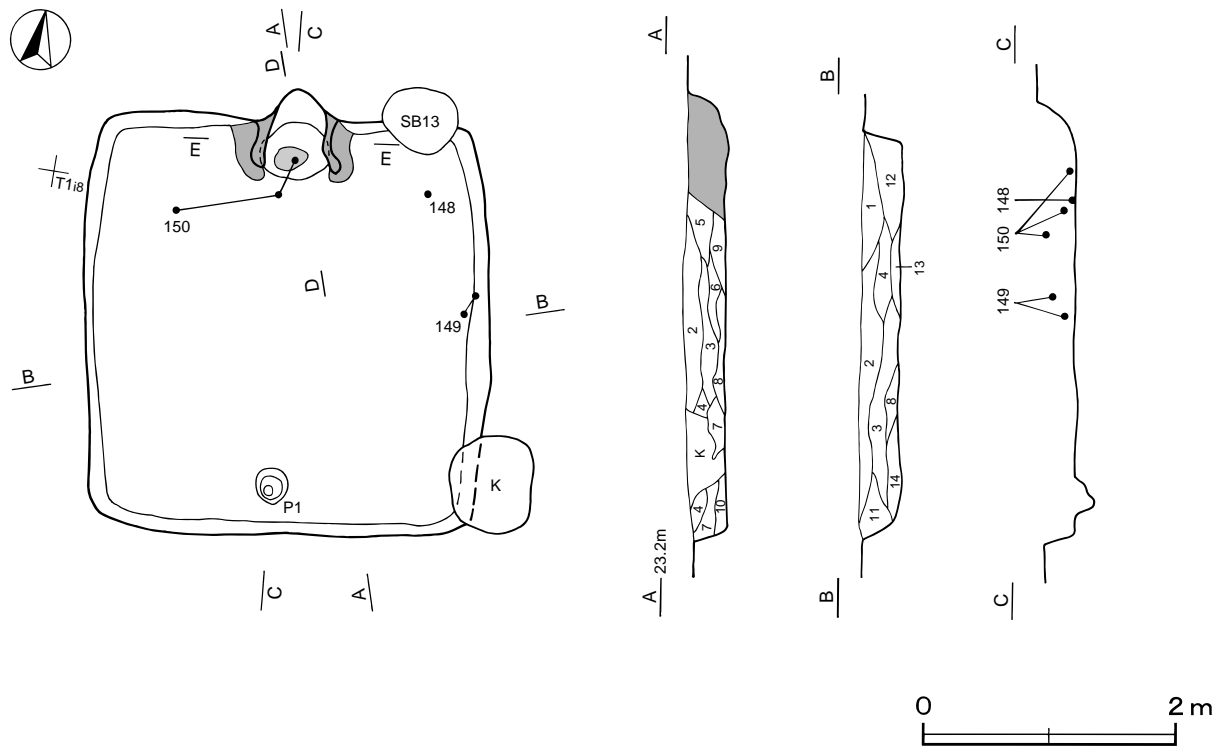
1 黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 灰黄褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック少量，炭化物・砂質粘土粒子微量
4 褐灰色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	砂質粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土ブロック微量
6 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子少量
		13 黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量

**ピット** 深さ16cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットである。

**覆土** 14層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	9 黒褐色	炭化物少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	10 黒褐色	ロームブロック少量，炭化物微量
4 極暗褐色	ロームブロック少量	11 暗褐色	ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
5 黒褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量	12 暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量
6 暗褐色	ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量
7 極暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	14 暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量



第65図 第83号住居跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片54点（甕），須恵器片46点（坏37，高台付坏2，蓋3，瓶1，鉢1，甕2）が出土している。148・149は東部の覆土下層と中層，150は竈内と北西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。これらは，住居廃絶後に廃棄されたものである。

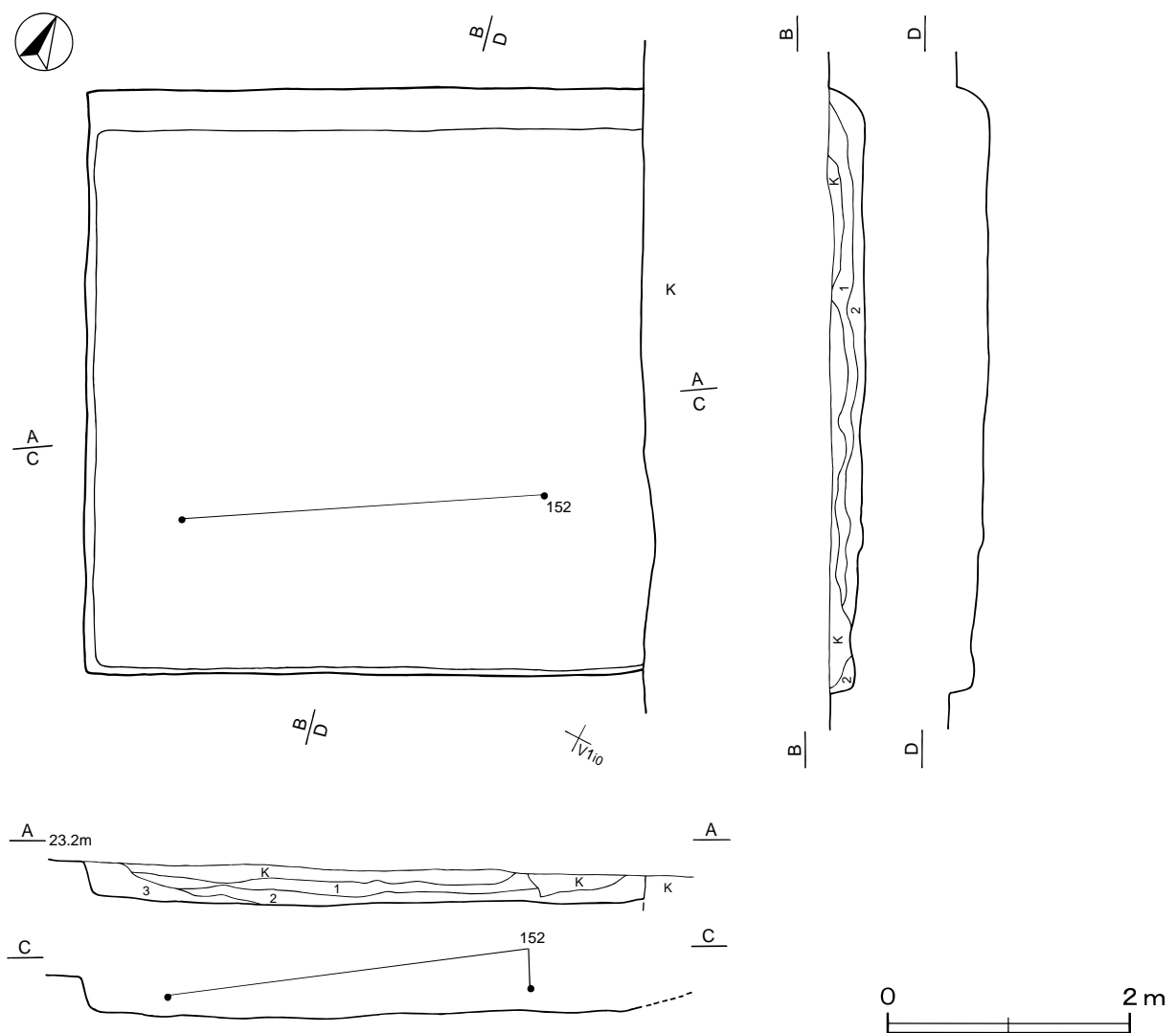
**所見** 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第83号住居跡出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
148	須恵器	坏	13.0	4.9	7.7	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後一方向のヘラ削り	覆土下層	90% PL25
149	須恵器	蓋	15.4	(2.9)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中・下層	60% PL30
150	須恵器	鉢	[33.2]	(6.3)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部ロクロナデ 体部外面横位の叩き 穿孔	竈火床面	15%

第89号住居跡（第66図）

**位置** 調査区南部のV1h9区，標高23mの台地平坦部に位置している。



第66図 第89号住居跡実測図

**重複関係** 第88号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 東部が後世の攪乱を受けているため、東西軸は4.72mだけが確認されており、南北軸は4.84mである。西壁や遺存する南北壁から主軸方向はN - 27° - Wと推測される。壁高は18~28cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦である。

**覆土** 3層に分層される。各層にロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

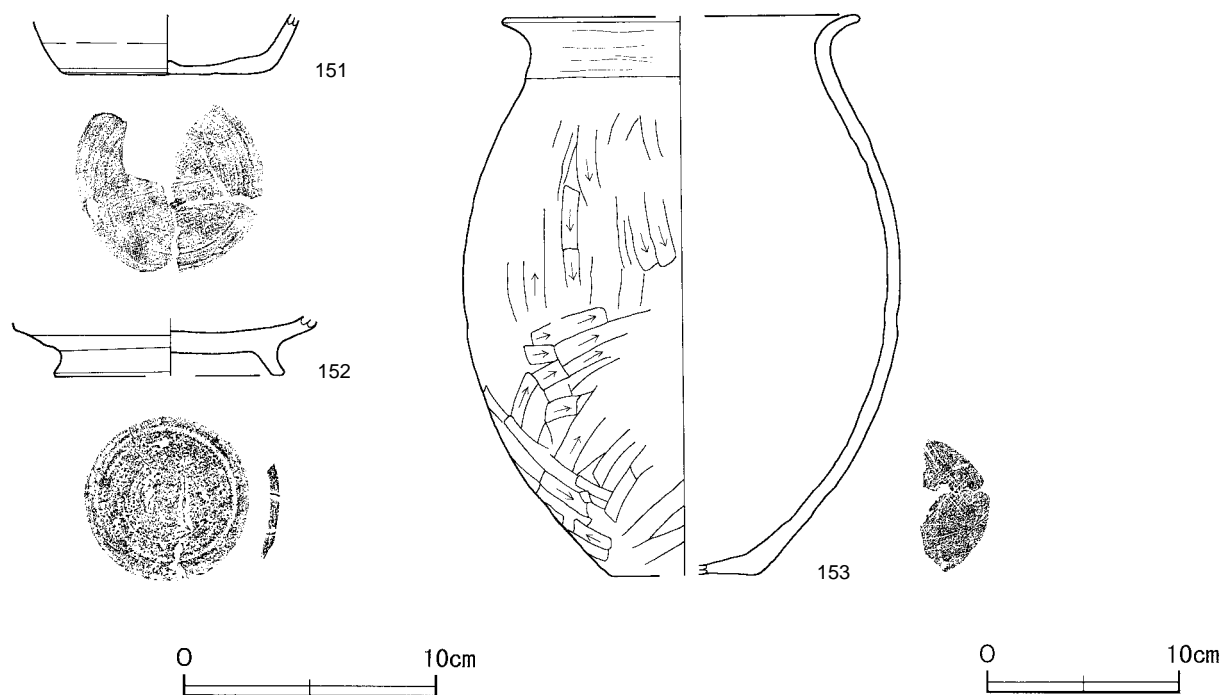
1 黒褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片596点（坏13, 高台付坏1, 甗568, 小形甗11, 器台3）, 須恵器片41点（坏30, 高台付坏1, 蓋9, 甗1）が出土している。151・153は覆土中, 152は南部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



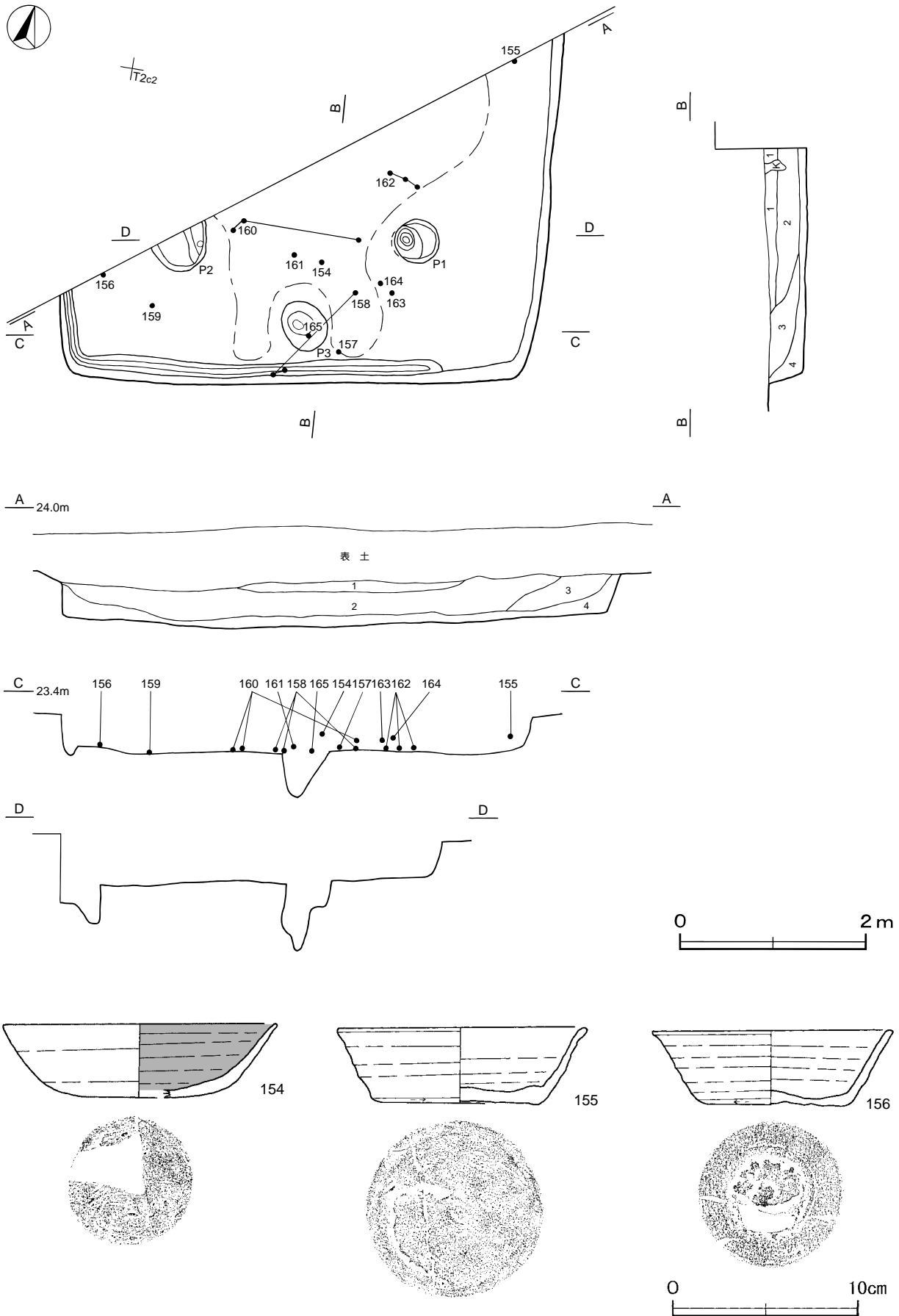
第67図 第89号住居跡出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表 (第67図)

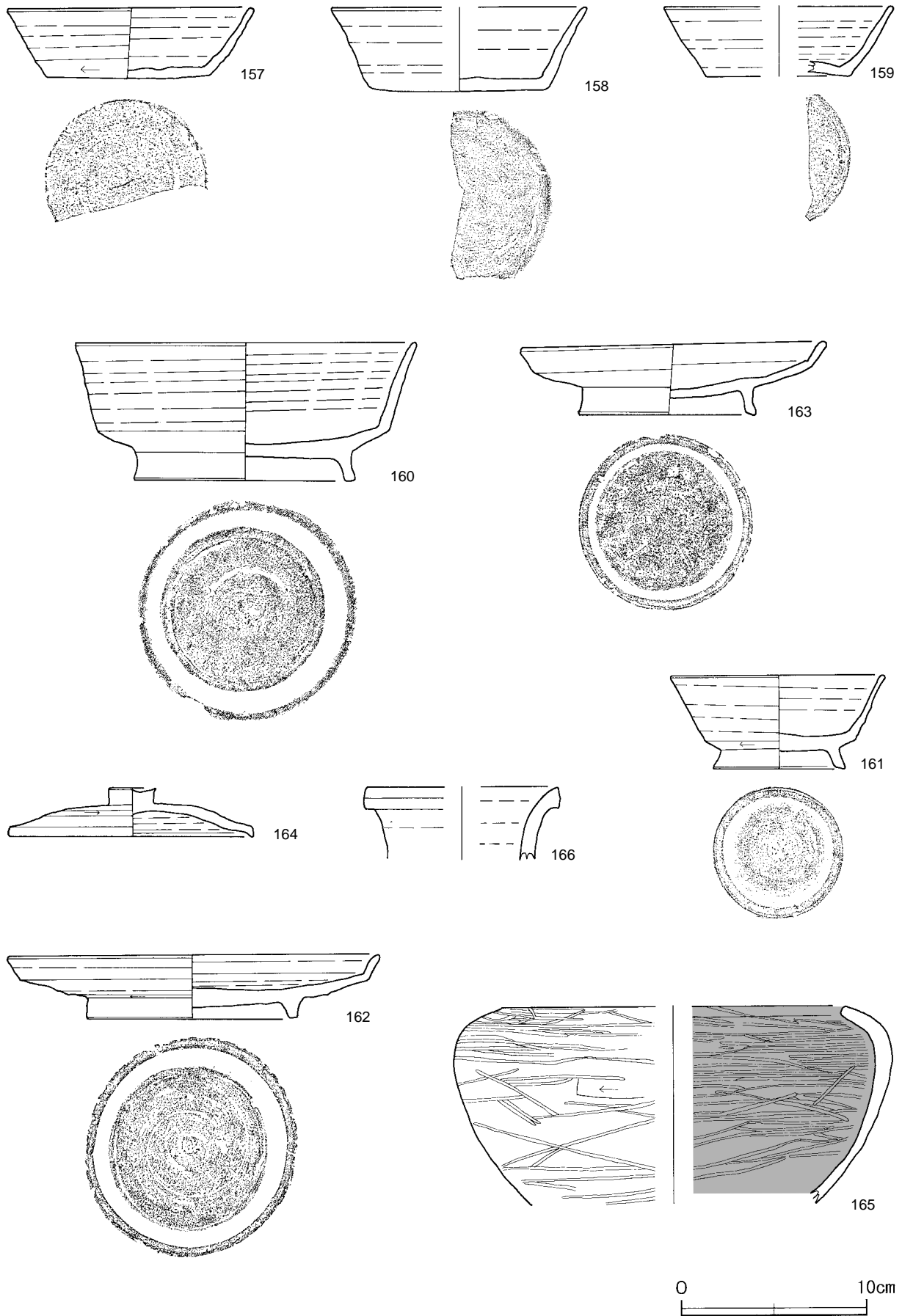
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
151	須恵器	坏	-	(2.3)	7.8	長石・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後	覆土中	40%
152	須恵器	高台付坏	-	(2.3)	[9.0]	長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	35%
153	土師器	甗	[18.6]	29.5	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	30%

### 第90号住居跡 (第68・69図)

**位置** 調査区南部のT 2c2区, 標高23mの台地平坦部に位置している。



第68图 第90号住居跡・出土遺物実測図



第69図 第90号住居跡出土遺物実測図

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びているため、南北軸は3.60mだけが確認され、東西軸は5.21mである。南壁や柱穴の位置から主軸方向はN - 10° - Wと推測される。壁高は36～44cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が南壁から南西壁際にかけて確認されている。

**ピット** 3か所。P 1・P 2は深さ73cm・42cmで、規模と配置から主柱穴である。P 3は深さ48cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

**覆土** 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- |       |                |        |           |
|-------|----------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量   | 3 極暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色  | ローム粒子中量   |

**遺物出土状況** 土師器片207点（坏67，高台付坏1，高台付皿1，鉢1，甕137），須恵器片111点（坏76，高台付坏8，蓋3，盤2，甕20，瓶2）が出土している。154・157・160は南部，156・159は南西部，162は東部の床面からそれぞれ出土しており，住居廃絶後に廃棄したものと考えられる。158・165はP 3の覆土上層から出土で，158は南壁溝内から出土した破片が接合したものである。161・163は南部，155は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第90号住居跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
154	土師器	坏	14.6	4.0	6.6	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	70%
155	須恵器	坏	13.3	4.1	9.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方ヘラ削り	覆土中層	80% PL25
156	須恵器	坏	12.8	4.0	7.8	長石・石英	にぶい黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	70% PL25
157	須恵器	坏	13.1	3.8	8.8	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	床面	60%
158	須恵器	坏	[13.6]	4.5	[9.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	P 3内	40%
159	須恵器	坏	[12.2]	3.7	[7.8]	長石	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	床面	30%
160	須恵器	高台付坏	18.2	7.5	11.8	長石・雲母・小礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	85% PL28
161	須恵器	高台付坏	11.4	5.1	7.0	長石・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	75% PL28
162	須恵器	盤	19.9	3.5	11.3	長石・石英・白色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	90% PL30
163	須恵器	盤	16.4	4.0	9.4	長石	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	90% ヘラ記号「x」 PL30
164	須恵器	蓋	13.2	2.6	-	長石	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土下層	65% PL30
165	土師器	鉢	[18.4]	(10.6)	-	長石・石英・雲母・礫	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 体部内面ヘラ磨き	P 3内	30%
166	須恵器	長頸瓶	[10.4]	(3.9)	-	長石・黒色粒子	にぶい橙	良好	頸部ロクロナデ	覆土中	5%

第92号住居跡（第70～73図）

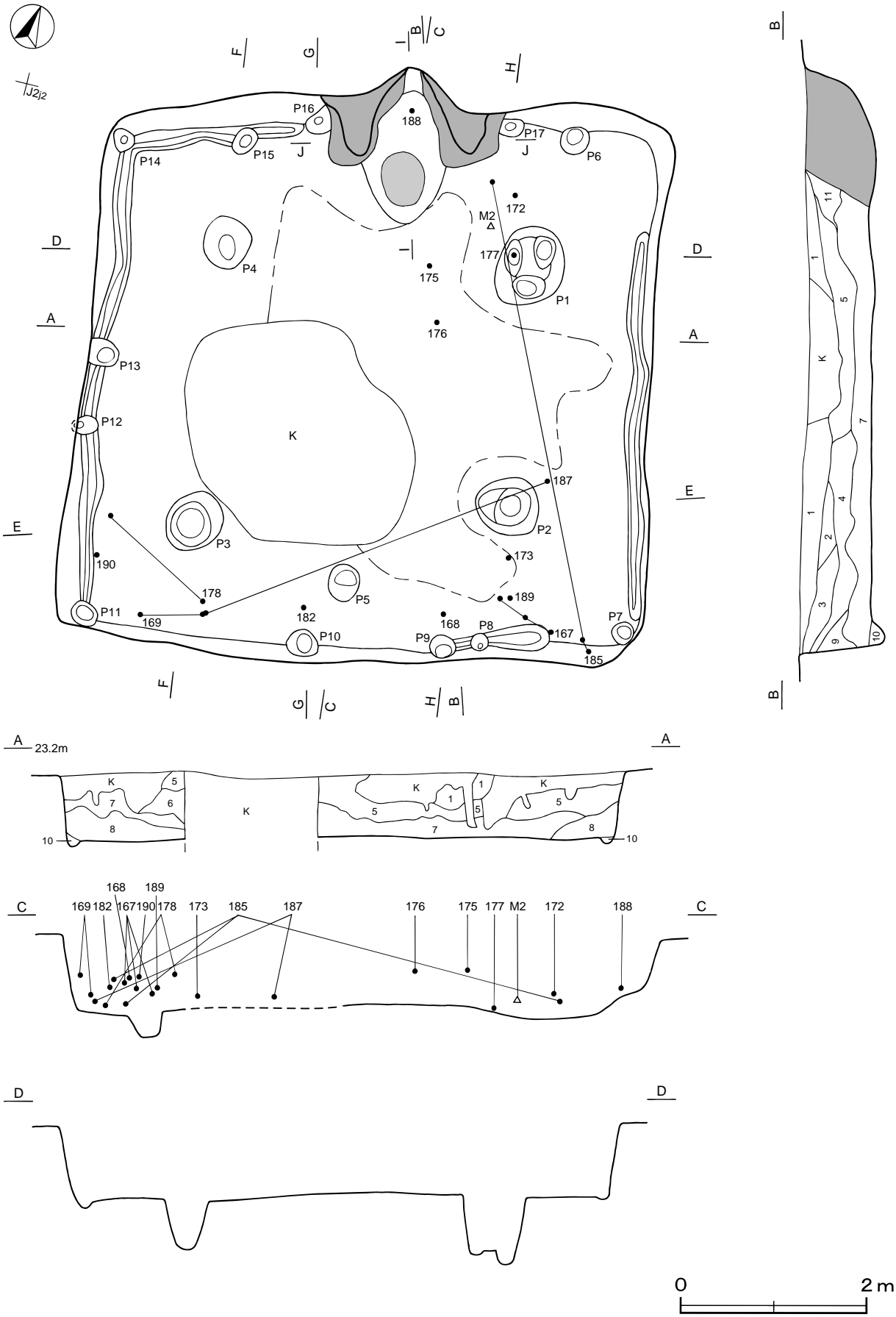
**位置** 調査区南部のT 2j2区，標高23mの台地平坦部に位置している。主軸方向をほぼ同じにする第93号住居の東に位置する。

**規模と形状** 長軸6.31m，短軸6.00mの方形で，主軸方向はN - 7° - Wである。壁高は78cmで，直立している。

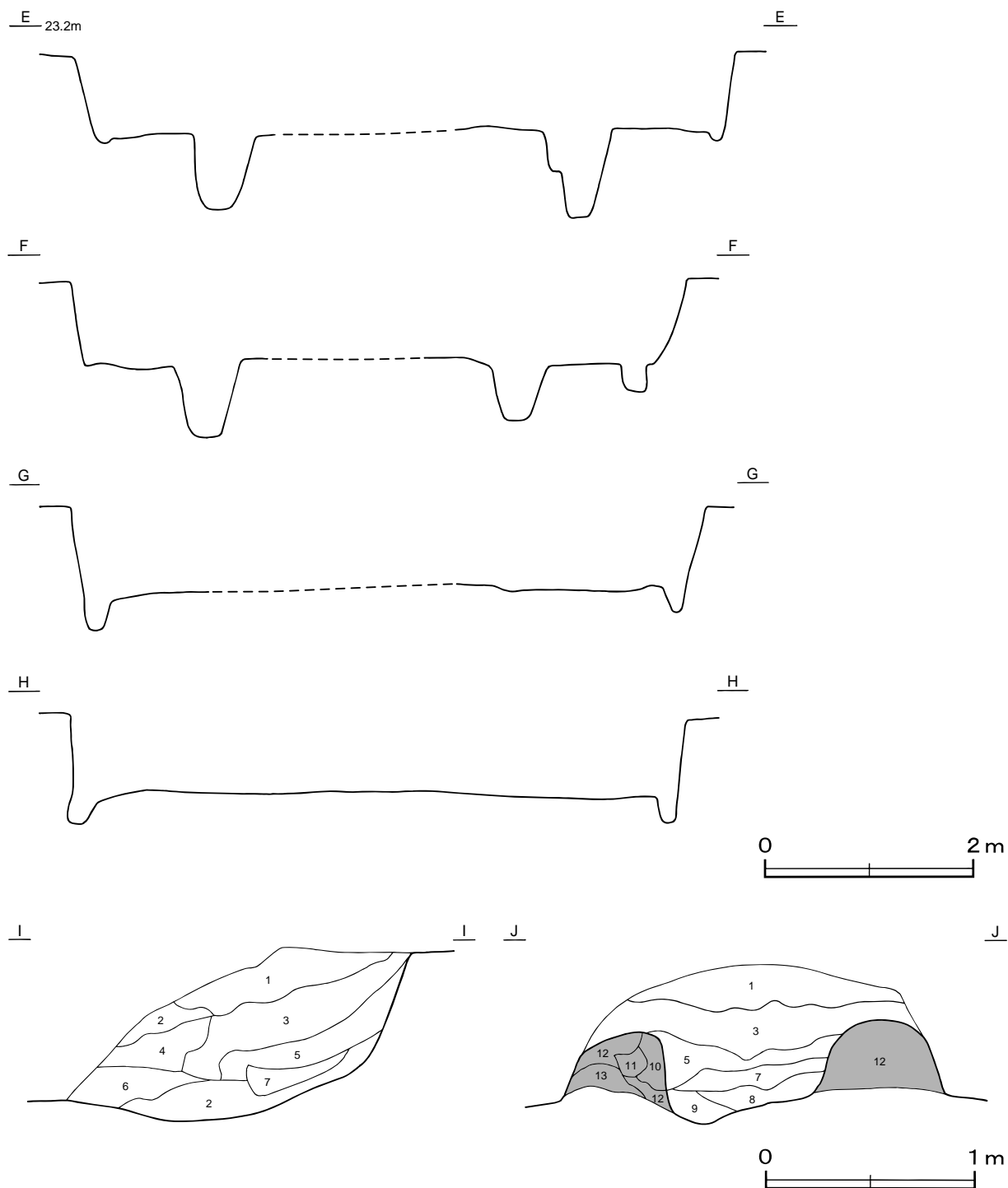
**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が北東壁と南壁を除き確認されている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで170cm，袖部幅180cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床面は床面をわずかに掘りくぼめ，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第1・3・5・7・8層が天井部の崩落土層，第10～13層が袖部の土層である。





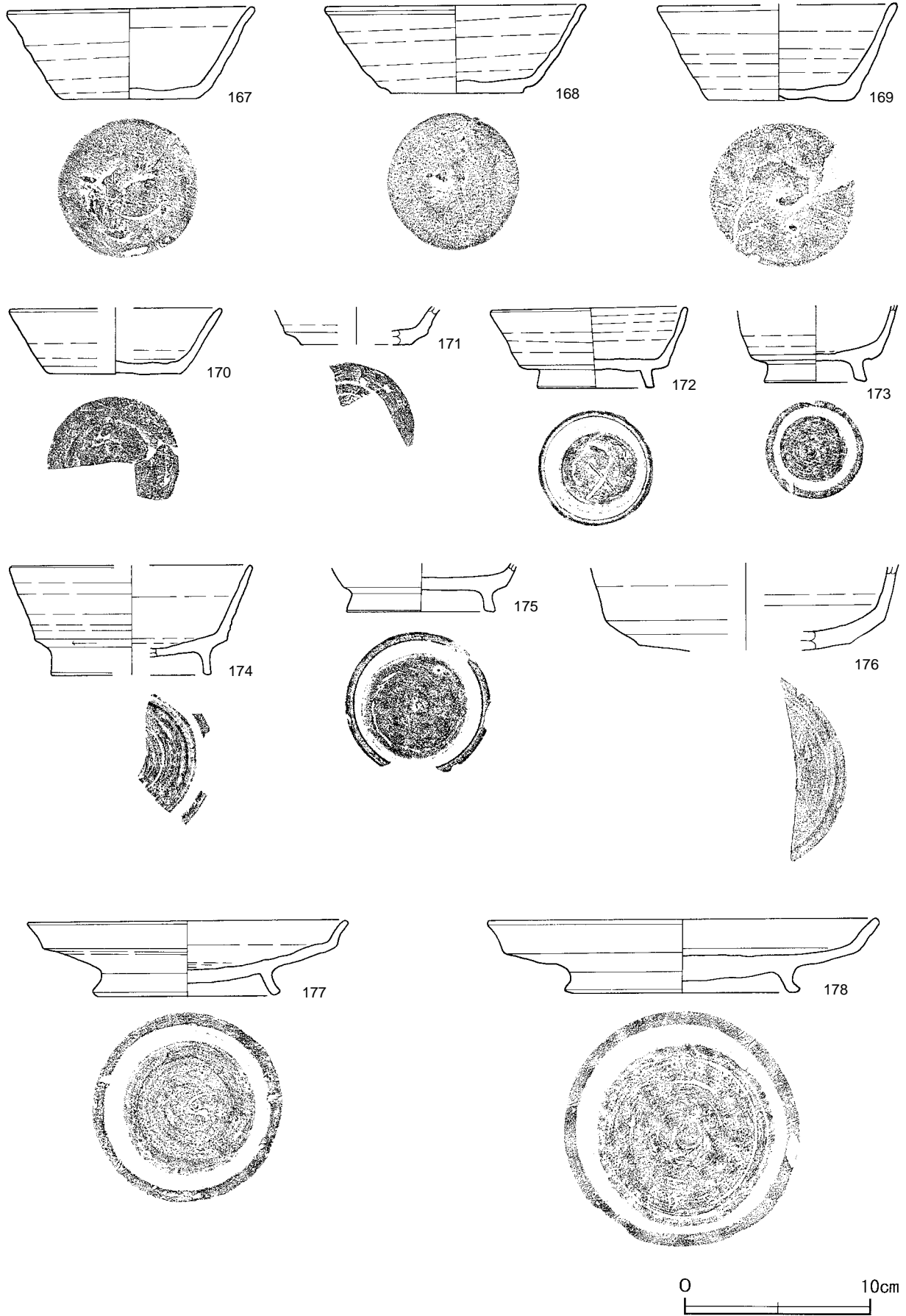
第70图 第92号住居跡实测图(1)



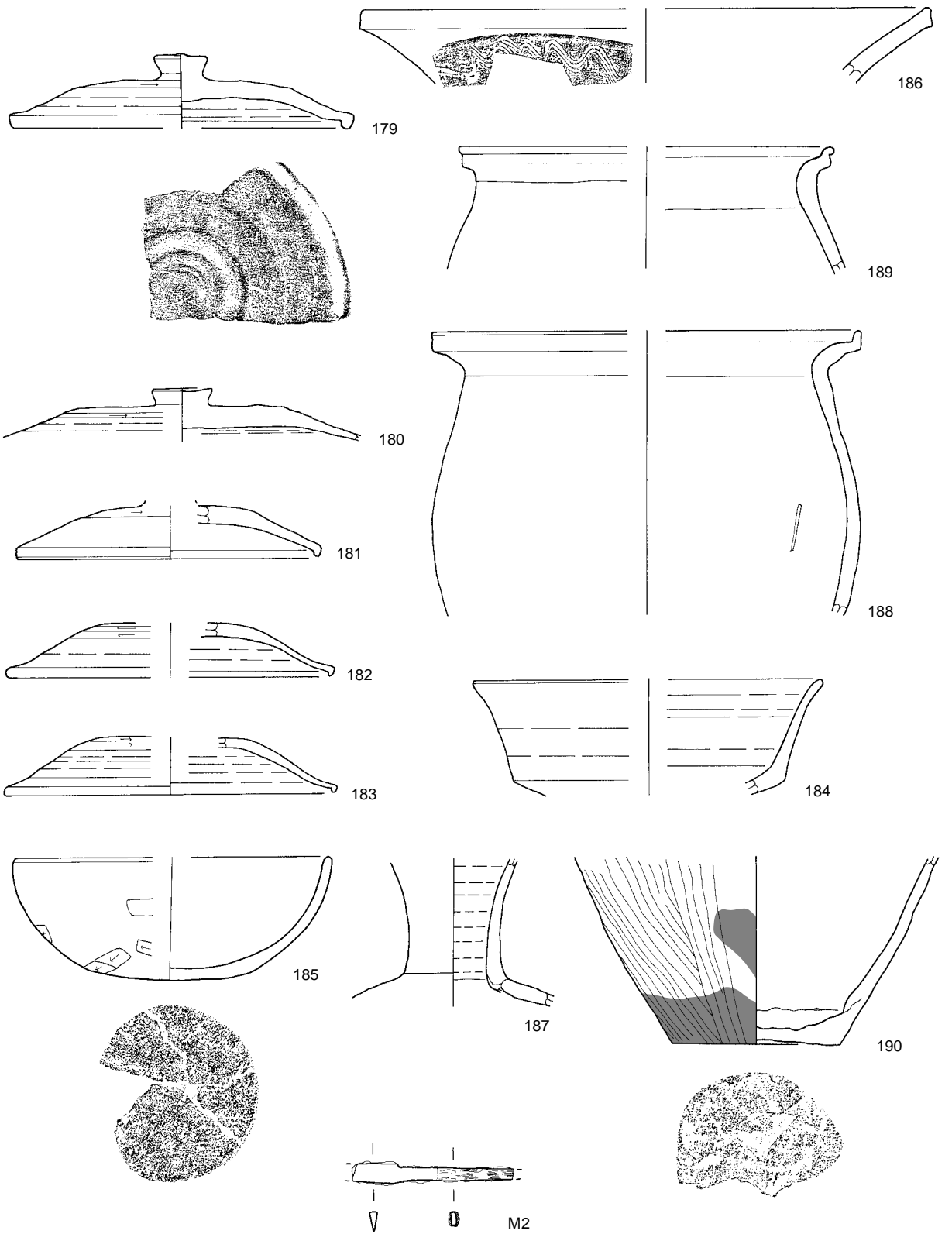
第71図 第92号住居跡実測図(2)

竈土層解説

- |       |                                 |           |                                    |
|-------|---------------------------------|-----------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量        | 7 黒褐色     | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量              |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 黒褐色     | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量     |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 9 黒褐色     | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量    |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量  | 10 灰褐色    | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量                  |
| 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 黄褐色    | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量      |
|       |                                 | 13 暗褐色    | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量           |



第72図 第92号住居跡出土遺物実測図(1)



第73图 第92号住居跡出土遺物実測図(2)

**ピット** 17か所。P 1 ~ P 4は深さ58~87cmで、規模と配置から支柱穴である。P 5は深さ26cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。P 6 ~ P 17は深さ13~46cmで、壁柱穴の一部である。

**覆土** 11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック微量	11	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック微量			

**遺物出土状況** 土師器片2747点（坏10，高台付坏1，高台付皿1，鉢1，甕2734），須恵器片852点（坏566，高台付坏44，蓋120，盤40，瓶16，甕57，長頸瓶5，甌1点，鉢3点），鉄製品1点（刀子）が北東部と南壁際から多く出土している。188は火床面の北部から出土しており、竈内で使用されていた可能性がある。M2は北東部，178・185は南壁際の床面から出土している。172は北東部，167・169・173・187は南壁際の覆土下層，168・182・189・190は南壁際の覆土中層から出土している。

**所見** 出土遺物は、壁際に集中していることから、南壁際が収納空間として機能していたことがうかがえる。また、西に位置する第93号住居跡とほぼ軸線を同じにすることから、両跡は同時に集落を形成していた可能性がある。出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第92号住居跡出土遺物観察表（第72・73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
167	須恵器	坏	13.3	4.9	7.2	長石・礫	暗灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	85% PL25
168	須恵器	坏	14	4.7	7.2	長石・石英・礫	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層	80% PL25
169	須恵器	坏	[12.7]	5.2	7.8	長石・石英・礫	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	60%
170	須恵器	坏	[11.2]	3.5	6.9	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	40%
171	須恵器	坏	-	(2.0)	[6.0]	長石・白色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	10%
172	須恵器	高台付坏	10.4	4.4	6.2	長石・礫・黒色粒子	暗灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	90% 記号 PL28
173	須恵器	高台付坏	-	(4.0)	5.4	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	60%
174	須恵器	高台付坏	[13.0]	5.9	[8.4]	白色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中	30%
175	須恵器	高台付坏	-	(2.6)	7.8	長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	30%
176	須恵器	高台付坏	-	(4.6)	-	長石・石英	灰黄	普通	ロクロナデ	覆土中層	10%
177	須恵器	盤	17.2	4.1	9.6	長石・石英・礫・黒色粒子	灰オリーブ	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	P 1 内	70% PL30
178	須恵器	盤	20.8	4.0	12.1	長石・石英・雲母・礫	灰黄	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	60%
179	須恵器	蓋	[17.1]	3.8	-	長石・白色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	40% ヘラ記号「x」
180	須恵器	蓋	-	(2.7)	-	長石・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	35%
181	須恵器	蓋	[15.2]	(2.7)	-	長石・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	40%
182	須恵器	蓋	[16.4]	(2.7)	-	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中層	40%
183	須恵器	蓋	16.9	(2.9)	-	長石・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	40%
184	須恵器	高台付坏	[17.8]	(5.8)	-	長石・礫	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	20%
185	土師器	鉢	[16.0]	6.3	8.4	長石・石英・雲母・礫	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラ削り	床面	70%
186	須恵器	甕	[28.9]	(3.8)	-	長石	灰	普通	ロクロナデ 一単位3本の波状文	覆土中	5%
187	須恵器	長頸瓶	-	(7.5)	-	石英	黄灰	普通	頸部ロクロナデ	覆土下層	10%
188	土師器	甕	[21.6]	(14.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈煙道部	10%
189	土師器	甕	[19.0]	(6.4)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中層	10%
190	土師器	甕	-	(9.5)	8.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ	覆土中層	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M2	刀子	(8.2)	(1.0)	0.3	(8.4)	鉄	刃部・茎部一部欠損 木質部残存 刃部断面三角形 茎部断面長方形	床面	PL40

### 第93号住居跡 (第74～76図)

**位置** 調査区南部のU 2 a1区，標高23mの台地平坦部に位置している。主軸方向をほぼ同じにする第92号住居の西に位置している。

**規模と形状** 長軸4.03m，短軸3.94mの方形で，主軸方向はN - 6° - Wである。壁高は44～55cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cm，袖部幅140cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし，砂質粘土を積み上げて構築されている。火床面は床面を10cm掘りくぼめ，火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に70cmほど掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第5層は天井部の崩落土層，第10～14層は袖部の土層である。

#### 竈土層解説

1	黒 褐 色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	灰 褐 色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗 褐 色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒 色	ローム粒子・炭化粒子微量	10	暗 褐 色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土ブロック微量
4	暗 褐 色	ロームブロック少量	11	黒 褐 色	砂質粘土ブロック少量，ローム粒子微量
5	極 暗 褐色	砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗 褐 色	ローム粒子少量，砂質粘土ブロック・焼土粒子微量
6	暗 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量	13	極 暗 褐色	砂質粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子微量
7	灰 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14	黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
			15	褐 色	ロームブロック少量

**ピット** 5か所。P 1～P 3は深さ57～93cmで，配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ23cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。P 4は深さ17cmで，性格不明である。

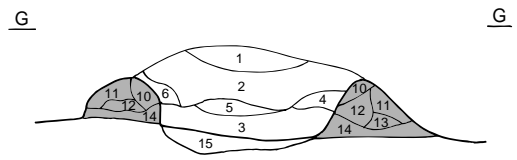
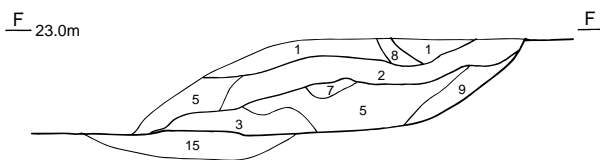
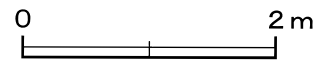
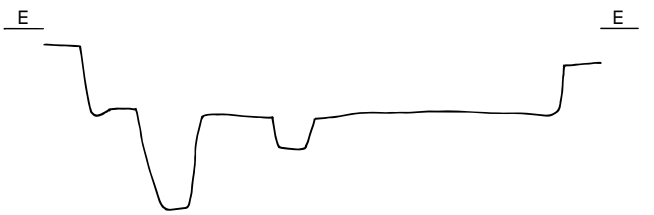
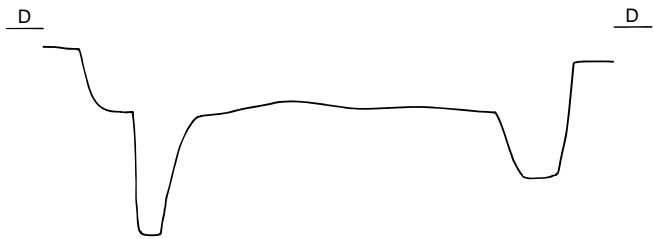
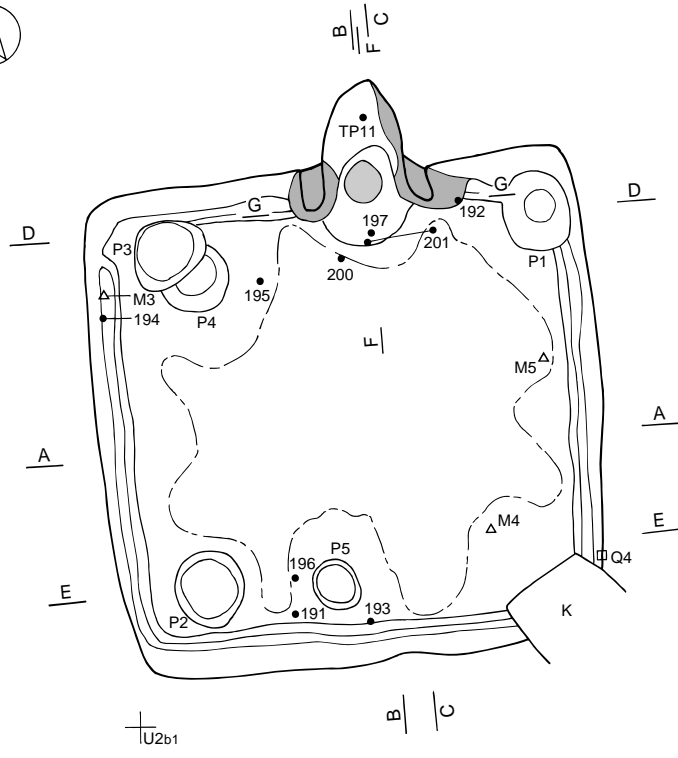
**覆土** 10層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

#### 土層解説

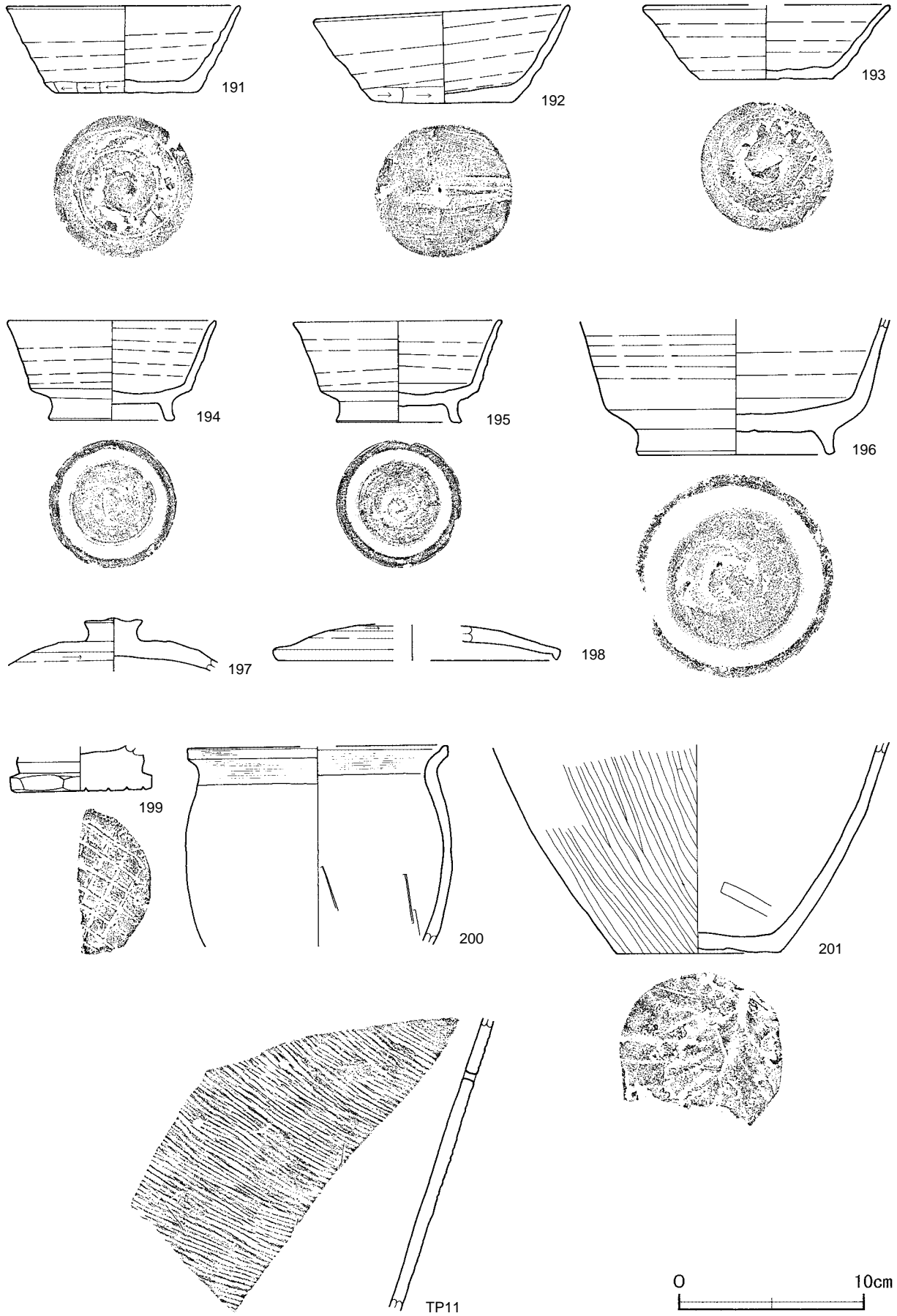
1	黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒 褐 色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	黒 褐 色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒 褐 色	ロームブロック微量
3	黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック微量	9	暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量	10	黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	黒 褐 色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量			
6	黒 褐 色	ロームブロック・炭化物微量			

**遺物出土状況** 土師器片543点（甕535，小形甕8），須恵器片403点（坏213，高台付坏99，蓋50，盤4，高盤1，長頸瓶3，捏鉢1，甕30，甌2），石器1点（砥石），鉄製品4点（刀子3，錠カ1）が北部と南壁際を中心に出土している。191・193・196は南壁際の床面から覆土下層，195・200は北部の覆土下層，197・201は竈火床部の覆土中層，192は竈右袖部からそれぞれ出土しており，201は出土位置から支脚に転用された可能性が高い。M3は西壁際の覆土下層，M4・M5は東部の覆土中層からの出土で，住居廃絶後に廃棄されたものである。

**所見** 東に位置する第92号住居とほぼ軸線は同じで，同時に集落を形成した可能性がある。時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。

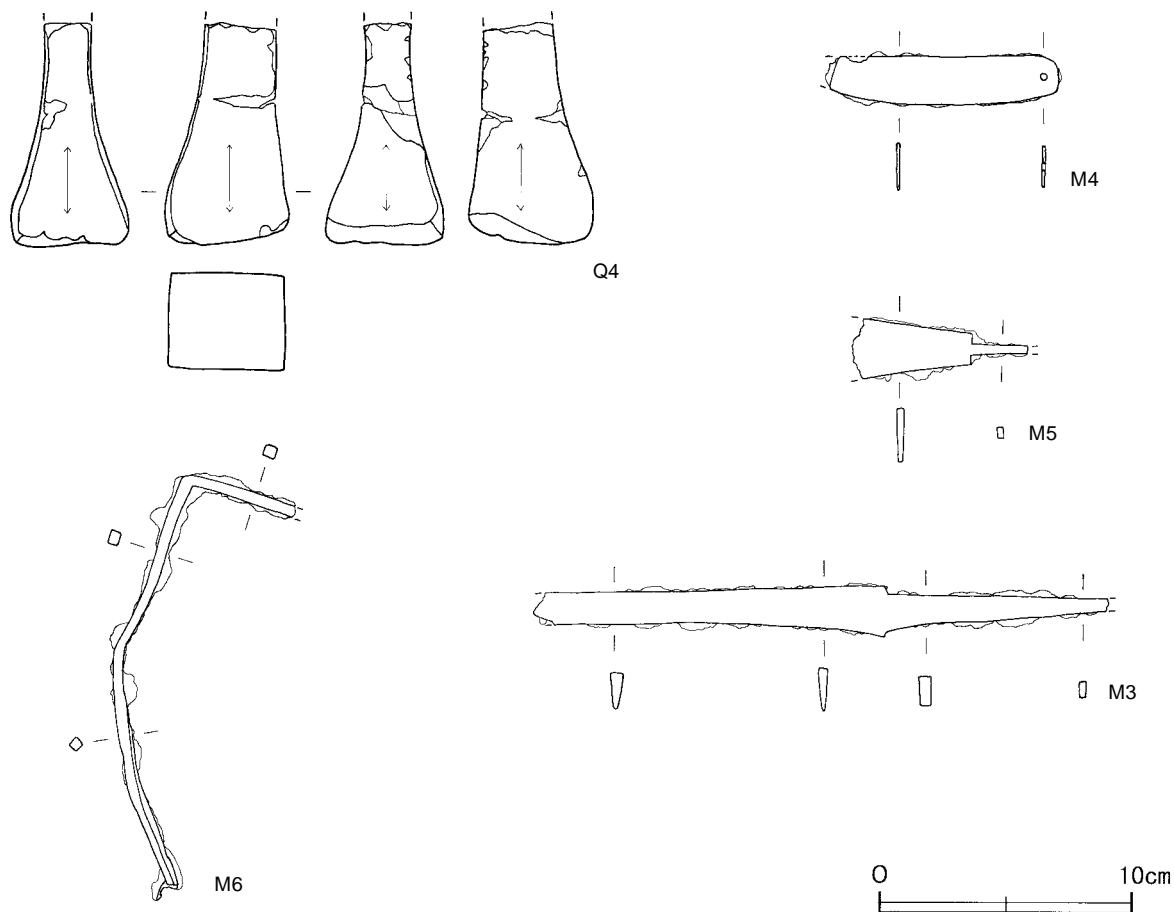


第74图 第93号住居跡实测图



第75图 第93号住居跡出土遺物実測図(1)





第76図 第93号住居跡出土遺物実測図(2)

第93号住居跡出土遺物観察表(第75・76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
191	須恵器	坏	12.5	4.7	7.6	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	100% PL25
192	須恵器	坏	13.7	5.2	7.0	長石・石英・ 雲母	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向ヘラ削り	竈右袖部	80% PL25
193	須恵器	坏	[13.2]	4.0	7.2	長石・石英・ 海綿骨針	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	床面	10%
194	須恵器	高台付坏	11.2	5.4	6.6	長石・石英・礫・ 海綿骨針	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後高台貼り付け	覆土上層	90% PL29
195	須恵器	高台付坏	11.2	5.6	6.6	長石・黒色粒子・ 海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後高台貼り付け	覆土下層	30% PL29
196	須恵器	高台付坏	-	(7.3)	10.4	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後高台貼り付け	床面	70%
197	須恵器	蓋	-	(2.9)	-	長石・石英・ 雲母・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	竈火床部	50%
198	須恵器	蓋	[15.0]	(1.9)	-	長石・石英・ 雲母	黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	15%
199	須恵器	鉢	-	(2.4)	7.3	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	覆土中	5%
200	土師器	小形甕	[14.0]	(10.8)	-	長石・雲母・ 小礫	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土下層	20%
201	土師器	甕	-	11.2	8.8	長石・石英・ 雲母	橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈火床部	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP11	須恵器	甕	-	(15.8)	-	長石・石英・ 雲母	灰黄	普通	体部外面斜位の叩き 穿孔	竈内煙道部	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	砥石	(8.8)	5.0	3.9	(188.0)	凝灰岩	砥面4面	覆土下層	PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M3	刀子	(23.0)	(2.1)	0.5	(42.4)	鉄	刃部・茎部欠損 両関 刃部断面三角形 茎部断面長方形	覆土下層	PL40
M4	刀子	(9.0)	1.9	0.1	(9.4)	鉄	刃部欠損 刃部断面三角形 目釘穴	覆土中層	
M5	刀子	(6.9)	(2.4)	(0.3)	(7.15)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形	覆土中層	PL40
M6	錠力	(16.8)	(0.5)	0.5	(17.2)	鉄	断面方形 屈曲	覆土中	PL40

表4 奈良・平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備 考 重複関係(古・新)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	竈	貯蔵穴				
60	O 2 g1	N・12°・W	隅丸長方形	3.36 × 2.78	40	平坦	全周	-	1	3	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
61	O 1 g0	N・14°・W	方形	3.03 × 2.82	50	平坦	ほぼ 全周	-	1	1	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	10世紀前葉	本跡 S K103
62	O 1 f0	N・14°・E	方形	2.74 × 2.54	20	平坦	-	7	-	10	-	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉	
63	O 1 d0	N・3°・E	長方形	3.35 × 3.00	42	平坦	全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
64	N 2 h1	N・5°・E	方形	4.40 × 4.40	55	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉	
65	N 2 f1	N・4°・E	方形	3.00 × 2.99	50	平坦	全周	-	-	1	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀中葉	
67	M 1 i8	N・7°・E	方形	4.30 × 3.97	67	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉	
68	M 2 g1	N・4°・W	方形	2.56 × 2.48	60	平坦	全周	1	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	
70	M 1 b7	N・2°・E	不明	3.07 × (1.25)	36~43	平坦	(ほぼ 全周)	2	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	9世紀前葉	本跡 S K171
72	N 1 h8	N・0°	方形	3.62 × 3.26	42	平坦	ほぼ 全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
73	Q 2 d7	N・15°・W	方形	4.12 × 3.87	47	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀前葉	
74	Q 2 b9	N・10°・E	不明	2.77 × (1.12)	36	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀代	
75	Q 1 b7	N・33°・E	不明	3.22 × [2.35]	38	平坦	-	4	1	2	-	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀中葉	
76	P 2 c2	N・20°・W	方形	2.86 × 2.77	45	平坦	一部	-	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡 S K489
77	R 2 j8	N・17°・W	長方形	4.27 × 3.84	55	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀後半	
78	S 2 a7	N・70°・E	長方形	3.12 × 2.75	45	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀前半	
79	R 2 f1	N・30°・W	方形	3.62 × 3.43	42~54	平坦	ほぼ 全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
80	R 1 h6	N・0°	方形	3.91 × 3.85	60~67	平坦	ほぼ 全周	-	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 鉄製品	9世紀前葉	
81	Q 1 h7	N・0°	長方形	4.02 × 3.32	55	平坦	-	-	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡 S B7
83	T 1 i8	N・6°・W	方形	3.32 × 3.20	23	平坦	-	-	1	-	竈1	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡 S B13
89	V 1 h9	N・27°・W	不明	4.84 × (4.72)	18~28	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	S I88 本跡
90	T 2 c2	N・10°・W	不明	5.21 × (3.60)	36~44	平坦	一部	2	1	-	-	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀前葉	
92	T 2 j2	N・7°・W	方形	6.31 × 6.00	78	平坦	ほぼ 全周	4	1	12	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 鉄製品	8世紀中葉	
93	U 2 a1	N・6°・W	方形	4.03 × 3.94	44~55	平坦	全周	3	1	1	竈1	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 鉄製品	8世紀中葉	

(2) 掘立柱建物跡

第4号掘立柱建物跡 (第77図)

位置 調査区中央部のM 1 e8区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号掘立柱建物跡, 第4号ピット群を掘り込んでいる。

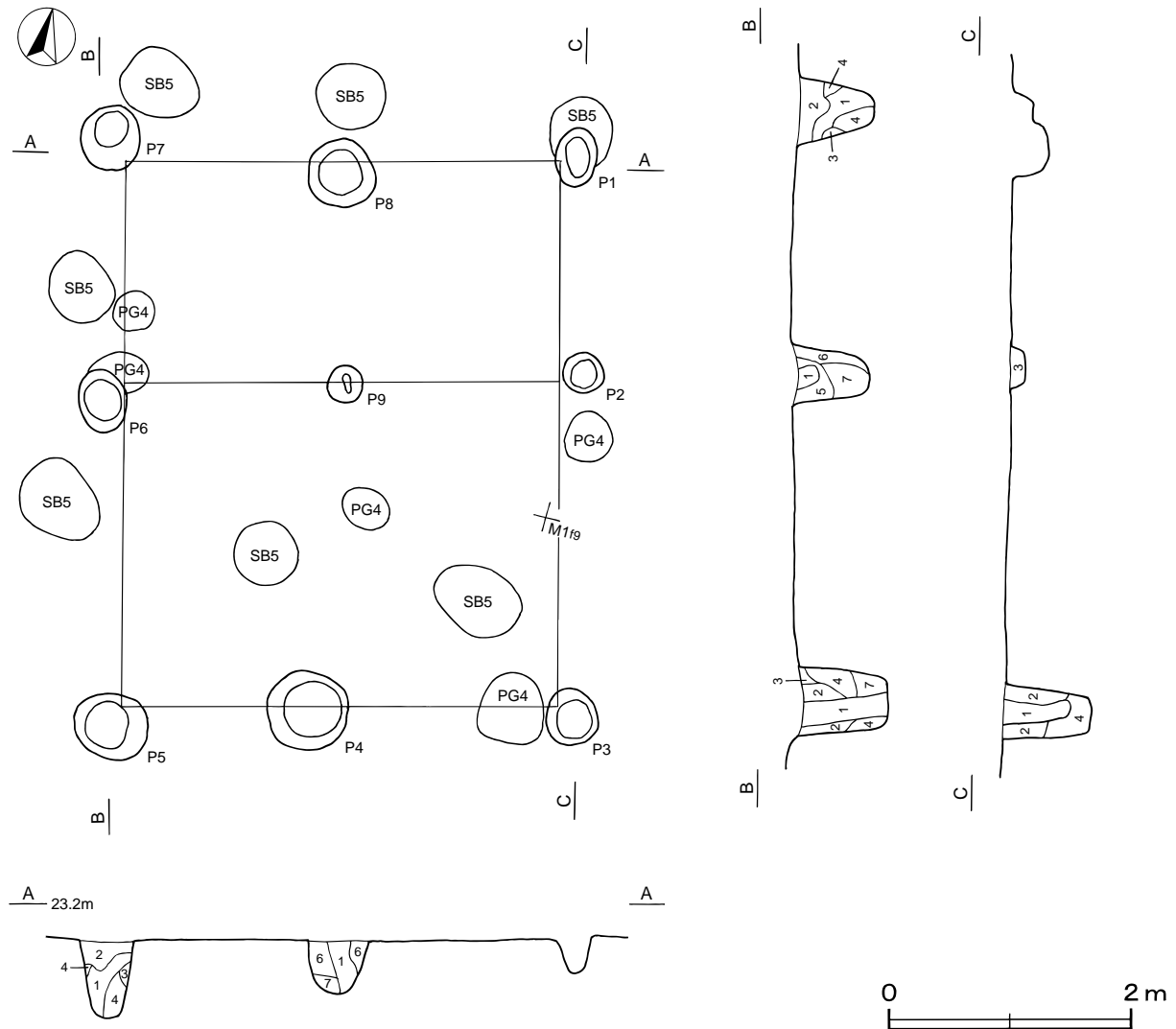
規模と構造 桁行2間, 梁行2間の総柱建物跡で, 桁行方向はN・14°・Wの南北棟である。規模は桁行4.5m, 梁行3.6mで, 面積は16.20㎡である。柱間寸法は, 桁行が北から1.8m (6尺), 2.7m (9尺), 梁行が1.8m (6尺) で, 柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 9か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径34～68cm，短径32～66cmである。深さは15～82cmで，断面形は逆台形である。第1層は柱抜き取り痕で，第2～7層は埋土，または埋土からの崩落土である。

土層解説（各柱穴共通）

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量    | 5 黒褐色 ローム粒子少量   |
| 2 極暗褐色 ロームブロック微量 | 6 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量   | 7 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック微量  |                 |

**所見** 本跡は，第7号掘立柱建物跡と桁行方向が同じであり，同時期に存在した建物と推測される。時期は，第7号掘立柱建物跡の年代観や，重複関係から9世紀中葉と考えられる。



第77図 第4号掘立柱建物跡実測図

### 第5号掘立柱建物跡（第78図）

**位置** 調査区中央部のM1e8区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第4号掘立柱建物に掘り込まれている。第4号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 88° - Eの東西棟である。規模は桁行5.4m，梁行3.9mで，面積は21.06㎡である。柱間寸法は桁行が1.8m（6尺），梁行は北間が1.8m（6尺），南間が2.1m（7尺）である。

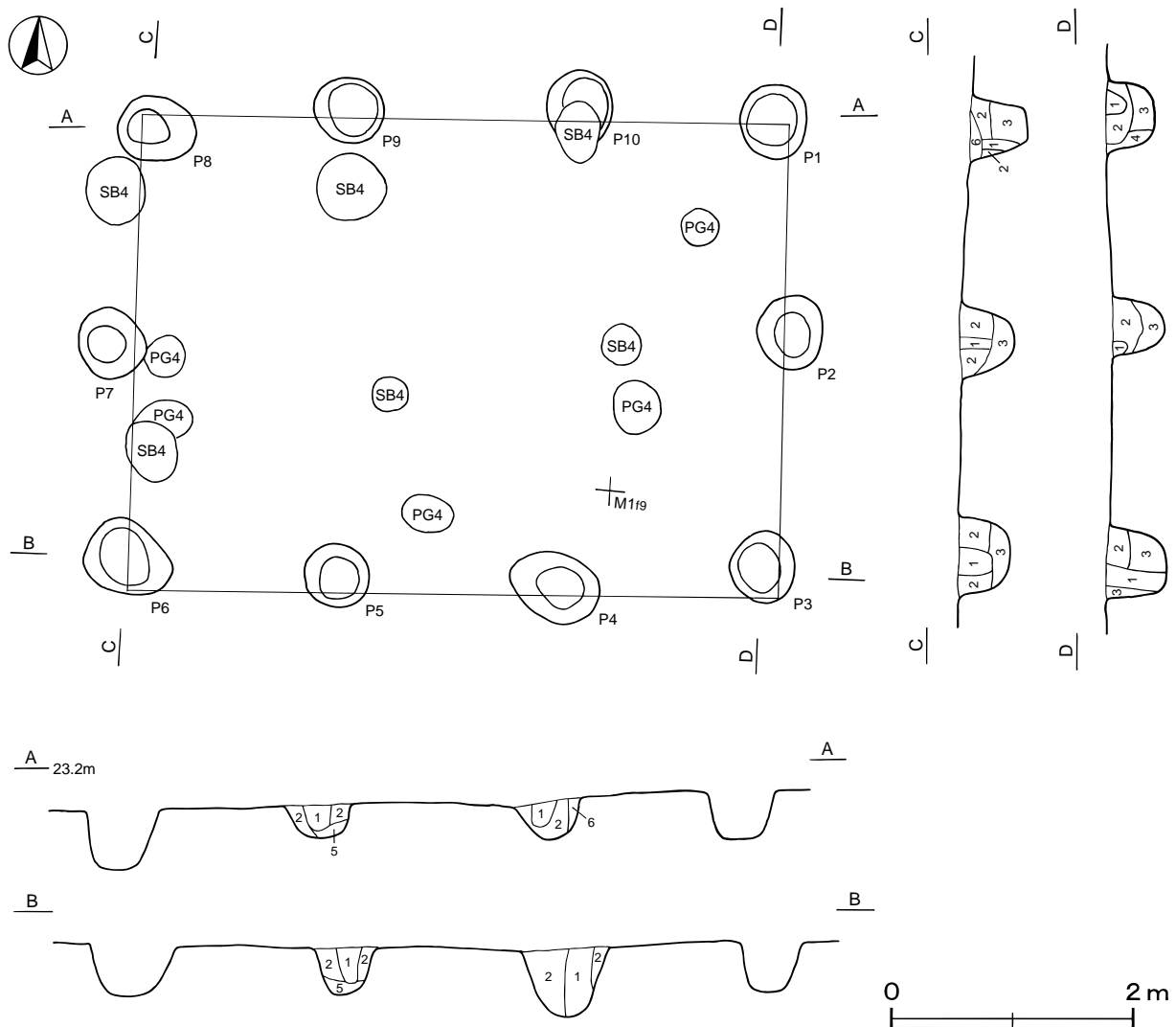
**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径56～74cm，短径52～54cmである。深さは28～60cmで，断面形は逆台形である。第1層は柱抜き取り痕で，第2～6層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 褐色 ローム粒子多量  |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量   | 5 褐色 ローム粒子中量  |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量   | 6 暗褐色 ローム粒子少量 |

**遺物出土状況** 土師器片2点が出土しているが，いずれも細片で図示できない。

**所見** 本跡は，北西約10mに位置する第70号住居跡と主軸方向が同じであり，同時期に機能していた可能性が高い。時期は，第70号住居跡の年代観や，重複関係から9世紀前葉と考えられる。



第78図 第5号掘立柱建物跡実測図

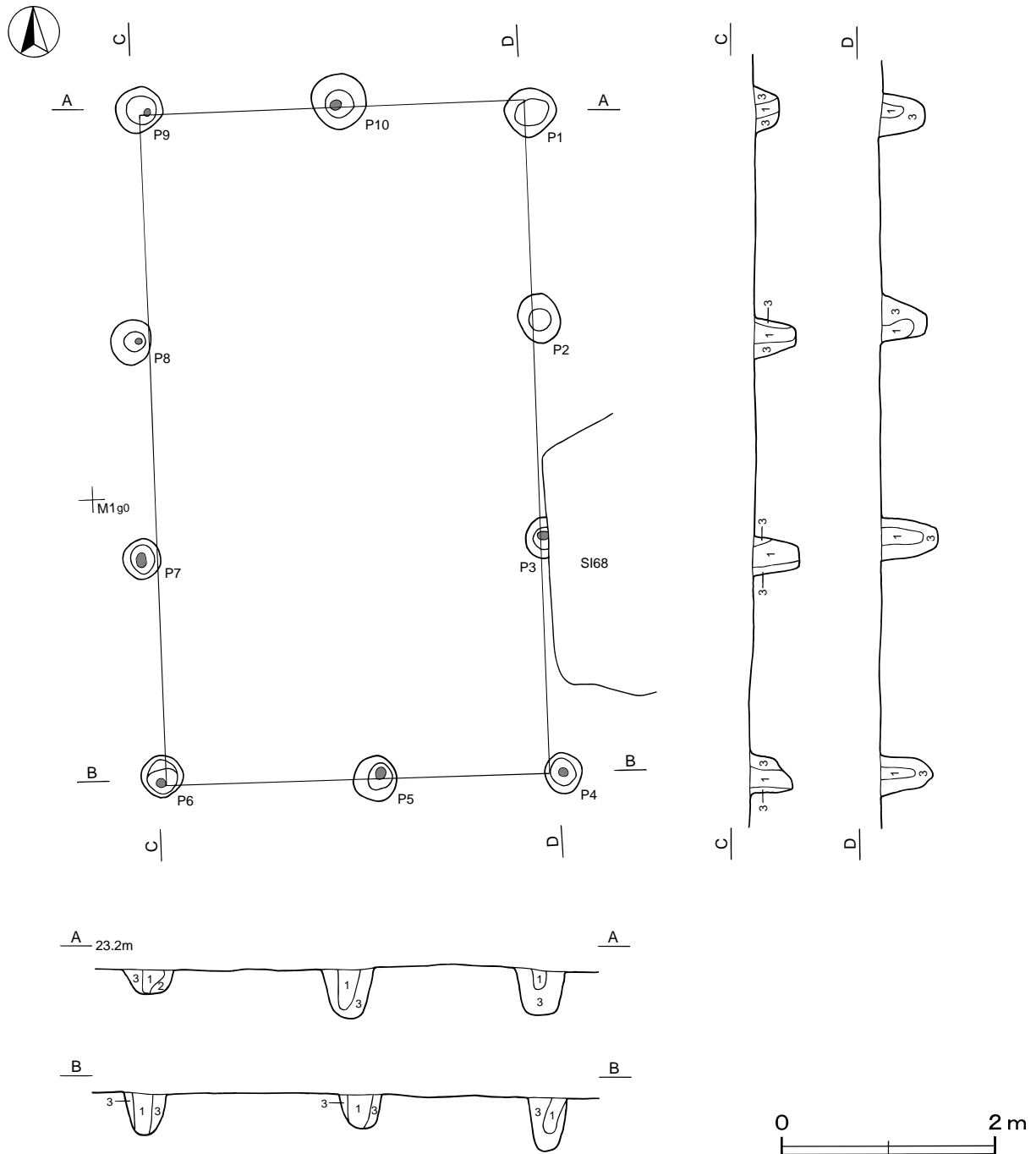
**第6号掘立柱建物跡 (第79図)**

**位置** 調査区中央部のM1f0区、標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第68号住居に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向はN - 0°の南北棟である。規模は桁行6.3m、梁行3.6mで、面積は22.68㎡である。柱間寸法は、桁行方向が2.1m (7尺)、梁行方向が1.8m (6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径40~53cm、短径35~51cmである。深さは46~71cmで、断面形は逆台形である。第1層は柱抜き取り痕で、第2・3層は埋土である。また、P3~P10の底面で柱のあたりが確認されている。



第79図 第6号掘立柱建物跡実測図

土層解説 (各柱穴共通)

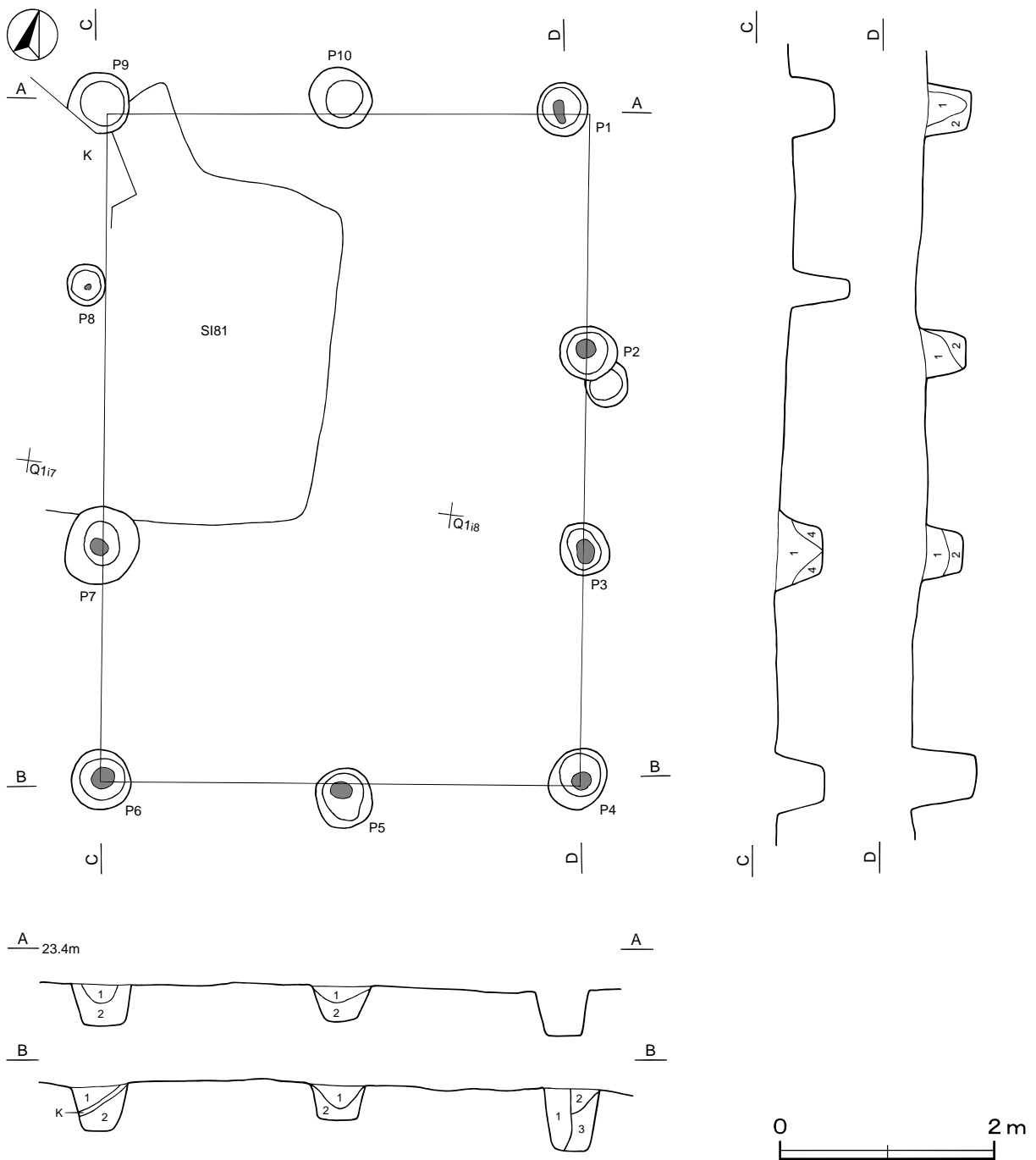
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量, 締まり強い

3 黒褐色 ローム粒子少量

**所見** 本跡は、西3mに位置する第5号掘立柱建物跡が桁行方向をほぼ直交させ、南側桁行と本跡の北側梁行を揃えていることから、同時期に機能していたと考えられる。時期は、重複関係などから9世紀前葉と考えられる。

### 第7号掘立柱建物跡 (第80図)

**位置** 調査区南部のQ1i7区, 標高23mの台地平坦部に位置している。



第80図 第7号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第81号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 8° - Wの南北棟である。規模は桁行6.3m，梁行4.5mで，面積は28.35㎡である。柱間寸法は，桁行が2.1m（7尺），梁行が西より2.4m（8尺），2.1m（7尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

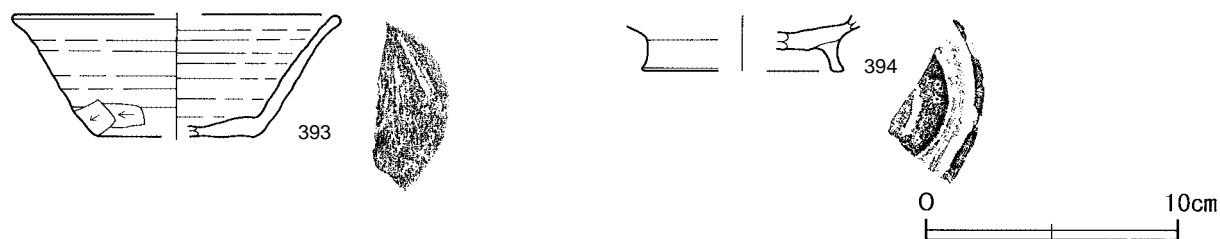
**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径39～76cm，短径36～66cmである。深さは30～43cmで，断面形は逆台形である。第1層は柱抜き取り痕，第2～4層は埋土とみられる。また，P1～P8の底面で柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

- |       |           |        |         |
|-------|-----------|--------|---------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量   | 3 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色   | ローム粒子中量 |

**遺物出土状況** 土師器片6点（甕），須恵器片2点（坏，高台付坏）が出土しているが，細片で図示できない。

**所見** 本跡の柱穴には，小形ながら加重を受けた痕跡が認められ，「倉」として機能していたものと考えられる。時期は，重複関係や出土土器片から9世紀中葉と推測される。



第81図 第7号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第80・81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
393	須恵器	坏	[12.6]	4.8	[6.2]	長石・石英・白色粒子	黄灰	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら切り 後一方向のへら削り	P 9 覆土中	40%
394	須恵器	高台付坏	-	(2.2)	[7.8]	長石・白色粒子	灰	普通	底部回転へら切り後高台貼り付け	P 6 覆土中	10%

### 第10号掘立柱建物跡（第82図）

**位置** 調査区南部のU1a9区，標高23mの台地平坦部に位置している。北に第12～14号掘立柱建物跡，南に第11号掘立柱建物跡が位置している。

**重複関係** 第11号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 83° - Eの東西棟である。規模は桁行5.4m，梁行3.9mで，面積は21.06㎡である。柱間寸法は，桁行が1.8m（6尺），梁行が北より2.1m（7尺），1.8m（6尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

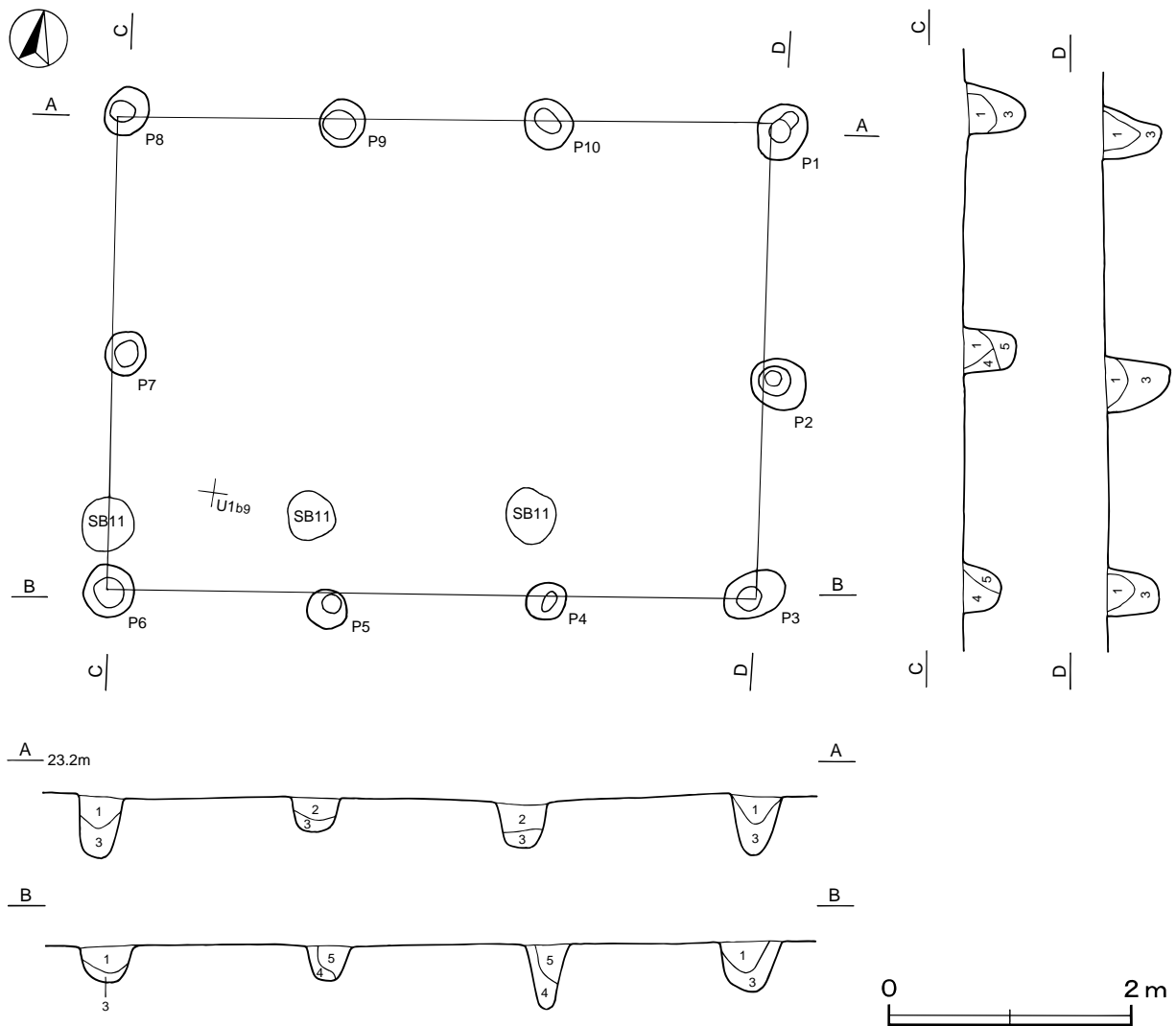
**柱穴** 10か所。平面形は円形で，規模は径35～54cmである。深さは26～55cmで，断面形はU字状または逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕，第3～5層が埋土，または埋土からの崩落土である。

土層解説（各柱穴共通）

- |       |                |       |         |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量      | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量      |       |         |

**遺物出土状況** 土師器片2点（甕）が出土している。いずれも細片で図示できない。

**所見** 本跡と桁行方向をほぼ同じくする建物は、9世紀中葉と比定される第15号掘立柱建物跡が北西約10mに位置しており、これらと同時期に存在した建物と推測される。



第82図 第10号掘立柱建物跡実測図

### 第11号掘立柱建物跡 (第83図)

**位置** 調査区南部のU1b9区、標高23mの台地平坦部に位置している。北に第10・12～14号掘立柱建物跡が位置している。

**重複関係** 第10号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向はN-81°-Eの東西棟である。規模は桁行5.4m、梁行3.9mで、面積は21.06㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m(6尺)、梁行が北より1.8m(6尺)、2.1m(7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 10か所。平面形は円形で、規模は径43～50cmである。深さは20～44cmで、断面形はU字状または逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕、第3層が埋土、または埋土からの崩落土である。

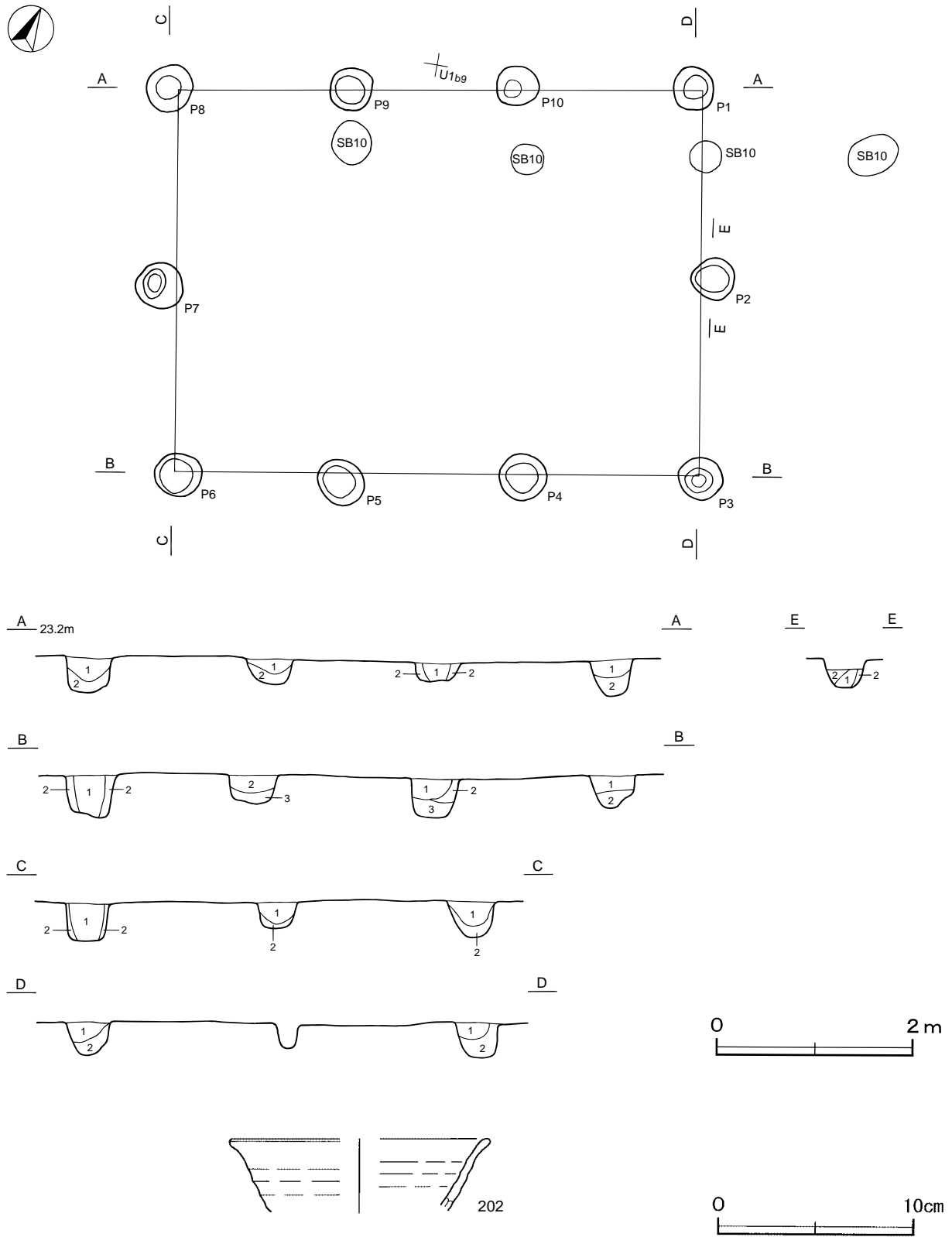
土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ロームブロック微量



**遺物出土状況** 土師器片 8 点 (甕), 須恵器片 3 点 (坏) が出土している。202は P 6 の埋土から出土している。  
**所見** 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉と考えられ, 桁行方向をほぼ同じくする第10号掘立柱建物跡とは, 建て替えが行われたと想定される。



第83図 第11号掘立柱建物跡実測図

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第83図)

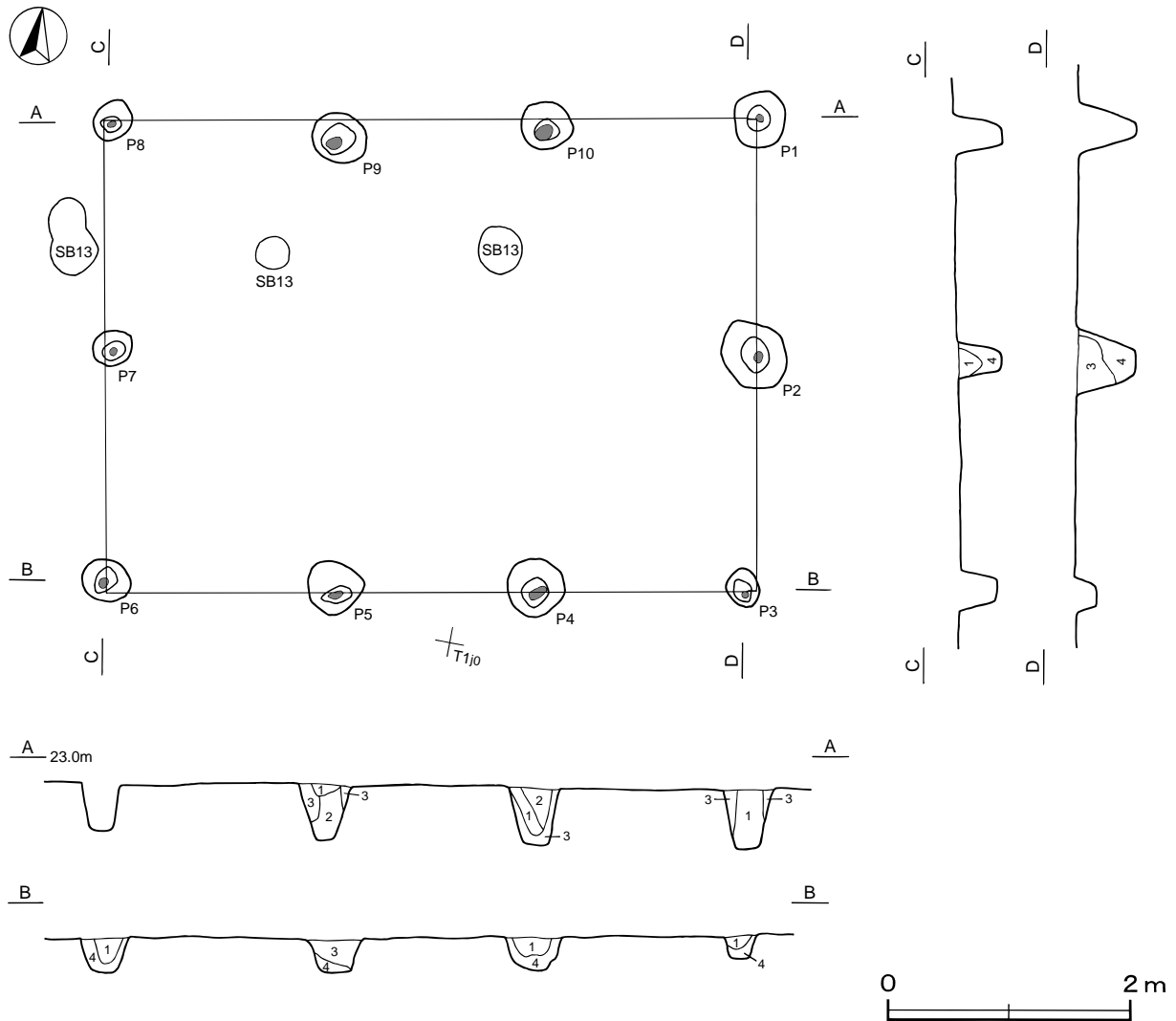
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
202	須恵器	坏	[13.0]	(3.7)	-	長石・雲母	灰黄	普通	体部内・外面口クロナデ	P 6 内	5 %

第12号掘立柱建物跡 (第84図)

**位置** 調査区南部の T 1 i 0 区，標高23mの台地平坦部に位置している。東に第14～17号掘立柱建物跡，南に第10・11号掘立柱建物跡が位置している。

**重複関係** 第13号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 80 ° - Eの東西棟である。規模は，桁行5.4 m，梁行3.9mで，面積は21.06㎡である。柱間寸法は，桁行が1.8m (6尺)，梁行が北より1.8m (6尺)，2.1m (7尺) で，柱筋はほぼ揃っている。



第84図 第12号掘立柱建物跡実測図

**柱穴** 10か所。平面形は円形又は楕円形で、規模は長径32～64cm，短径25～50cmである。深さは22～53cmで、断面形はU字状または逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕，第3・4層が埋土，または埋土からの崩落土である。各柱穴の底面からは，柱のあたりが確認されている。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ローム粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量

3 極暗褐色 ローム粒子微量  
4 暗褐色 ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片1点（甕）と流れ込んだ縄文土器片2点が出土している。いずれも細片で図示できない。

**所見** 本跡の柱穴は，小形ながら加重を受けた痕跡があり，「倉」として機能していたものと考えられる。また，9世紀中葉に比定される第13号掘立柱建物跡と桁行方向が同じであり，これらと同時期に存在した建物と推測される。

### 第13号掘立柱建物跡（第85図）

**位置** 調査区南部のT1i9区，標高23mの台地平坦部に位置している。東に第12・14号掘立柱建物跡，南に第10号掘立柱建物跡が位置している。

**重複関係** 第83号住居跡を掘り込み，第12号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の身舎の南に庇が付く側柱建物跡で，桁行方向はN-80°-Eの東西棟である。身舎の規模は，桁行5.7m，梁行4.2mで，面積は23.94㎡である。柱間寸法は，桁行が西より2.1m（7尺），1.8m（6尺），1.8m（6尺）で，梁行が2.1m（7尺）を基調とし，庇の出は2.1m（7尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 16か所。第83号住居跡との重複によって，北桁行の北に推定される柱穴は確認できなかった。平面形は円形で，規模は身舎・庇とも径26～70cmである。深さは15～64cmで，断面形は逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕，第3・4層が埋土である。P9～P12の底面からは，柱のあたりが確認されている。P6・P15の重複関係から，P13～P16は庇の付け替え前の柱穴と考えられる。

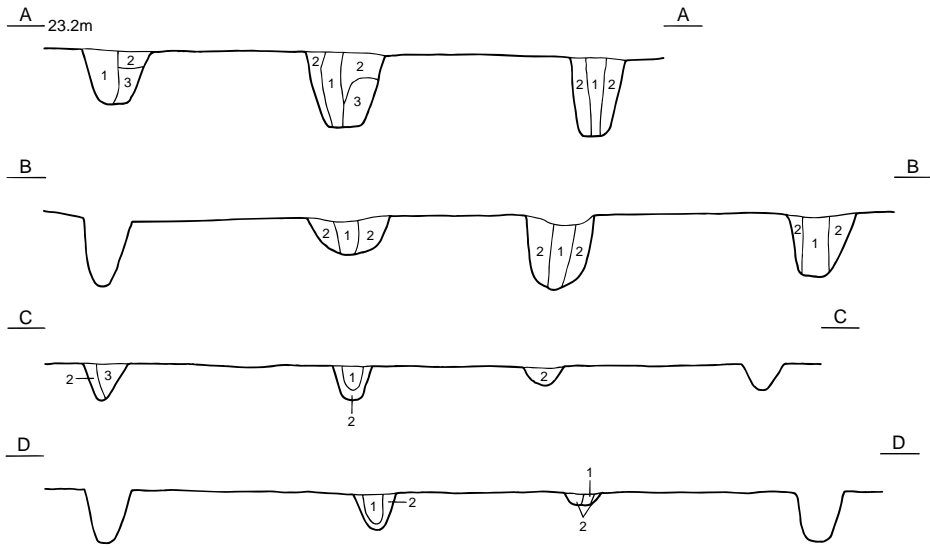
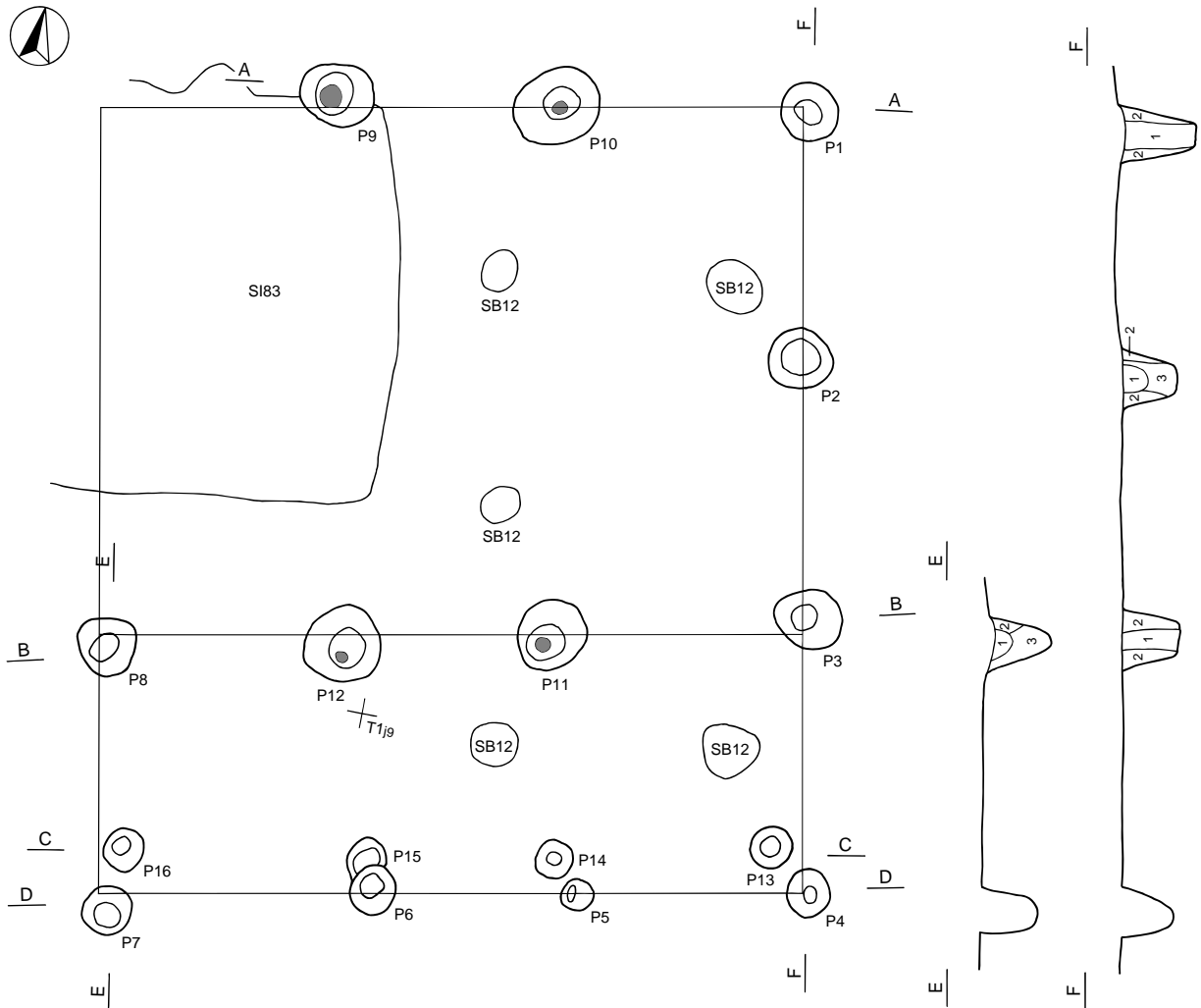
土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ローム粒子少量  
2 暗褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片1点（甕）が出土しているが，細片で図示できない。

**所見** 本跡の柱穴は，小形ながら加重を受けた痕跡があり，「倉」として機能していたものと考えられる。時期は，9世紀前葉と比定される第83号住居跡を掘り込んでいることや桁行方向を同じくする他の建物から，9世紀中葉と考えられる。



第85图 第13号掘立柱建物迹实测图

**第14号掘立柱建物跡 (第86図)**

**位置** 調査区南部のT2i1区，標高23mの台地平坦部に位置している。南に第92・93号住居跡，南西に第10・13号掘立柱建物跡，南に第30A・B号溝跡が位置している。

**規模と構造** 桁行1間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 89° - Wの東西棟である。規模は，桁行3.9m，梁行3.0mで，面積は11.7m<sup>2</sup>である。柱間寸法は，桁行が3.9m (13尺)，梁行が1.5m (5尺)で，柱筋はほぼ揃っている。

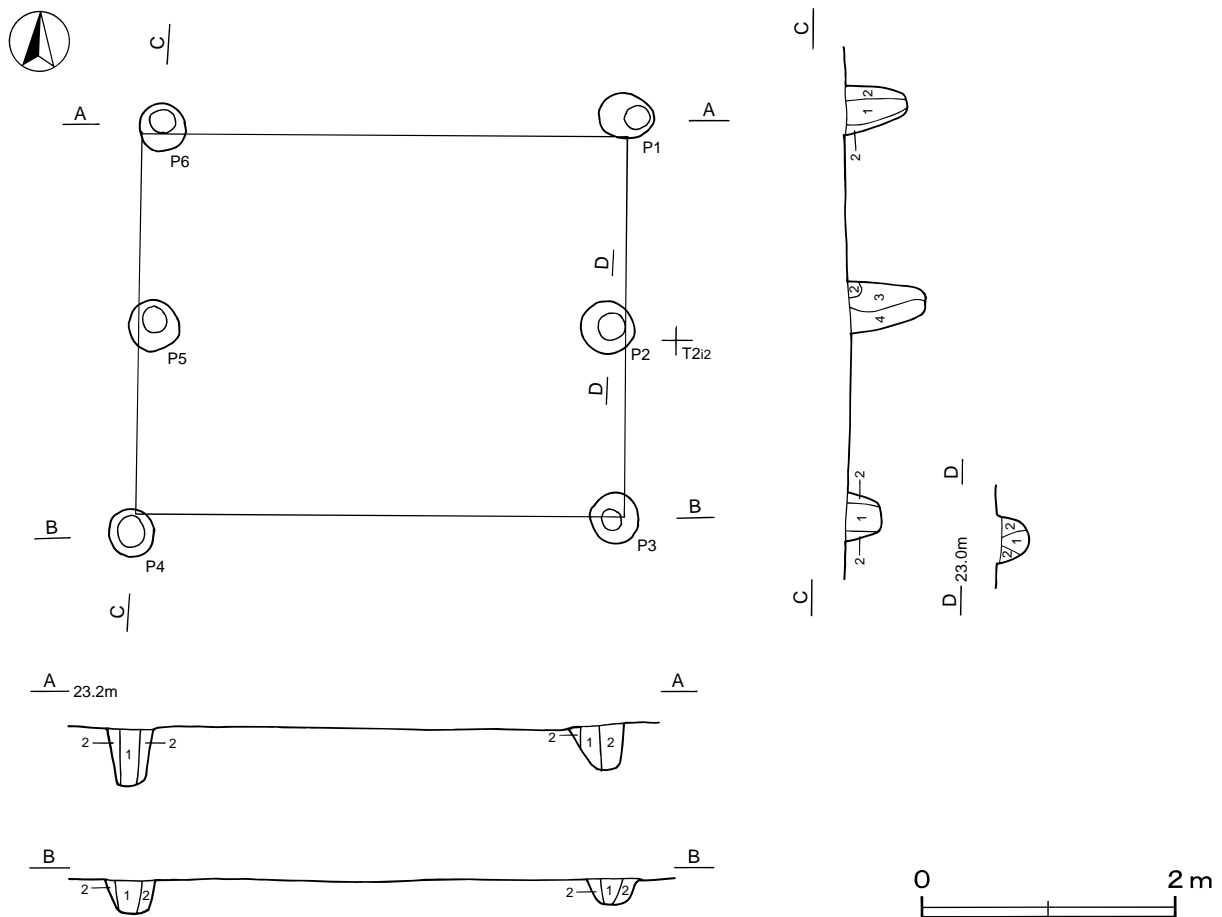
**柱穴** 6か所。平面形は円形で，規模は径40～45cmである。深さは20～63cmで，断面形はU字状または逆台形である。土層は第1層が柱抜き取り痕，第2～4層が埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- |               |                           |
|---------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子少量              |

**遺物出土状況** 土師器片3点 (甕) と流れ込んだ縄文土器片1点が出土している。いずれも細片で図示できない。

**所見** 本跡と主軸方向を同じくする住居跡は，8世紀中葉に比定される第92・93号住居跡があり，本跡はこれらに付随する倉庫などと想定される。



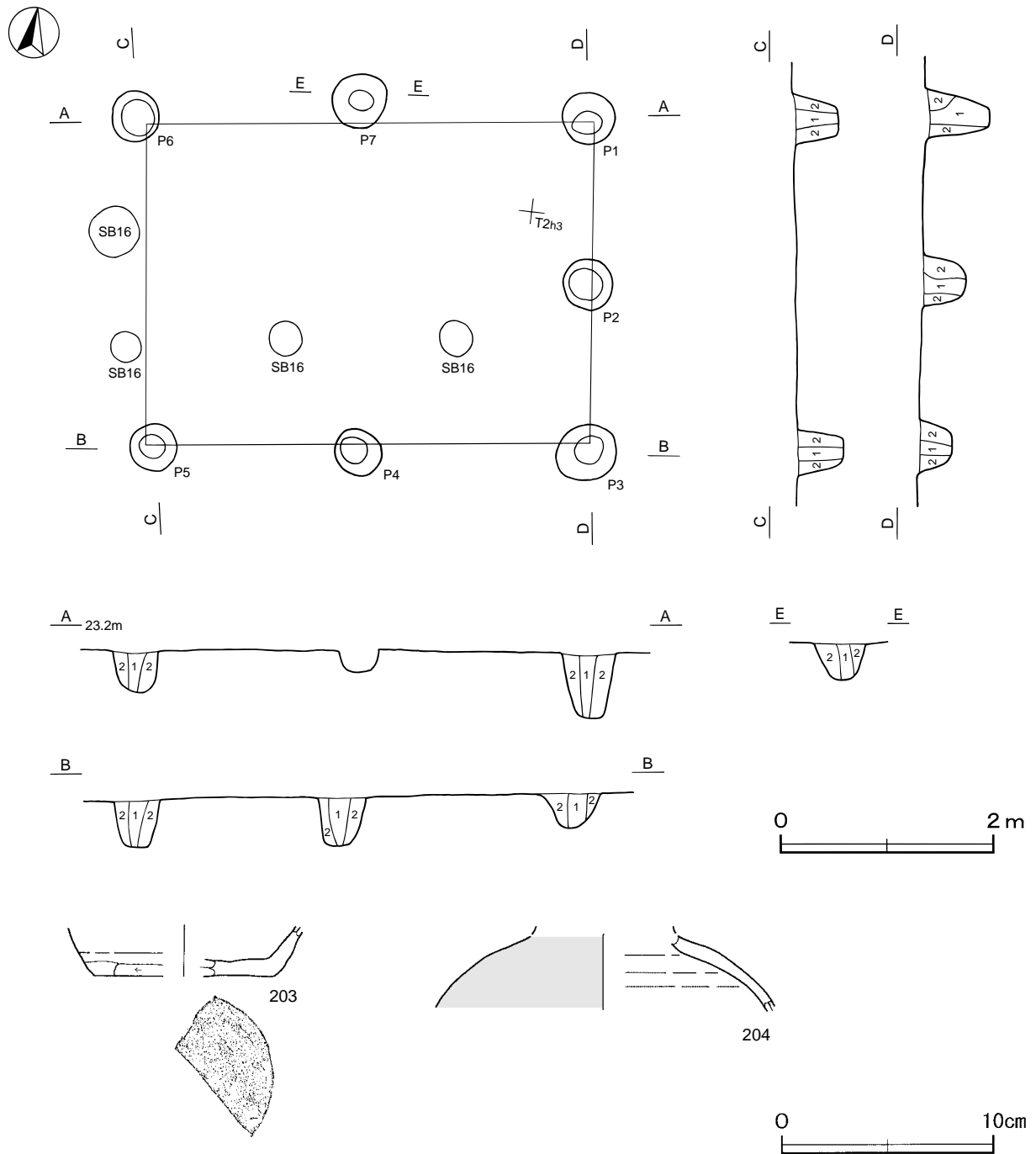
第86図 第14号掘立柱建物跡実測図

**第15号掘立柱建物跡 (第87図)**

**位置** 調査区南部のT2h2区，標高23mの台地平坦部に位置している。南西に第10～14号掘立柱建物跡，北に第17号掘立柱建物跡が位置している。

**重複関係** 第16号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 83° - Eの東西棟である。規模は，桁行4.2m，梁行3.0mで，面積は12.6㎡である。柱間寸法は，桁行が2.1m（7尺），梁行が1.5m（5尺）で，柱筋はほぼ揃っている。



第87図 第15号掘立柱建物跡実測図

**柱穴** 7か所。平面形は円形で、規模は径45～54cmである。深さは34～60cmで、断面形はU字状である。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2層が埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片28点 (甕), 須恵器片11点 (坏10, 蓋1), 灰釉陶器1点 (長頸瓶) が出土している。

203・204はP5内の埋土から出土している。

**所見** 本跡と桁行方向を同じくする建物は、南西約10mに位置する第10号掘立柱建物跡であり、これらと同時期に存在した建物と推測される。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

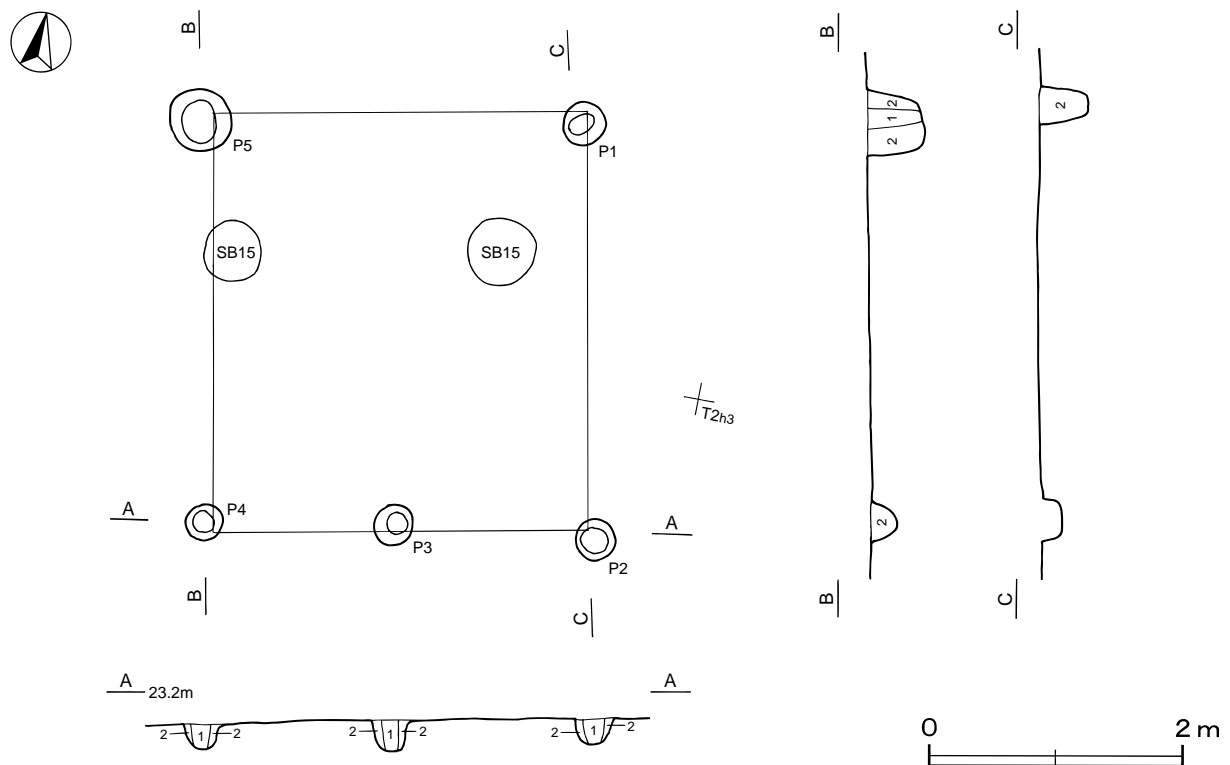
**第15号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第87図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
203	須恵器	坏	-	(2.4)	[8.4]	長石・雲母	灰	普通	体部下端手持へら削り 後ナデ	P5内	10%
204	灰釉陶器	長頸瓶	-	(3.5)	-	長石	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 外面施釉	P5内	5%

**第16号掘立柱建物跡 (第88図)**

**位置** 調査区南部のT2h2区、標高23mの台地平坦部に位置している。南に第92・93号住居跡, 第30A・B号溝跡, 南西に第10～14号掘立柱建物跡, 北に第17号掘立柱建物跡が位置している。

**重複関係** 第15号掘立柱建物と重複しているが、新旧関係は不明である。



第88図 第16号掘立柱建物跡実測図

**規模と構造** 桁行1間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 11° - Wの南北棟である。規模は桁行3.3m，梁行3.0mで，面積は9.9㎡である。柱間寸法は，桁行が3.3m（11尺），梁行が1.5m（5尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 5か所。平面形は円形で，規模は径30～54cmである。深さは20～47cmで，断面形はU字状である。土層は第1層が柱抜き取り痕，第2層が埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ローム粒子微量

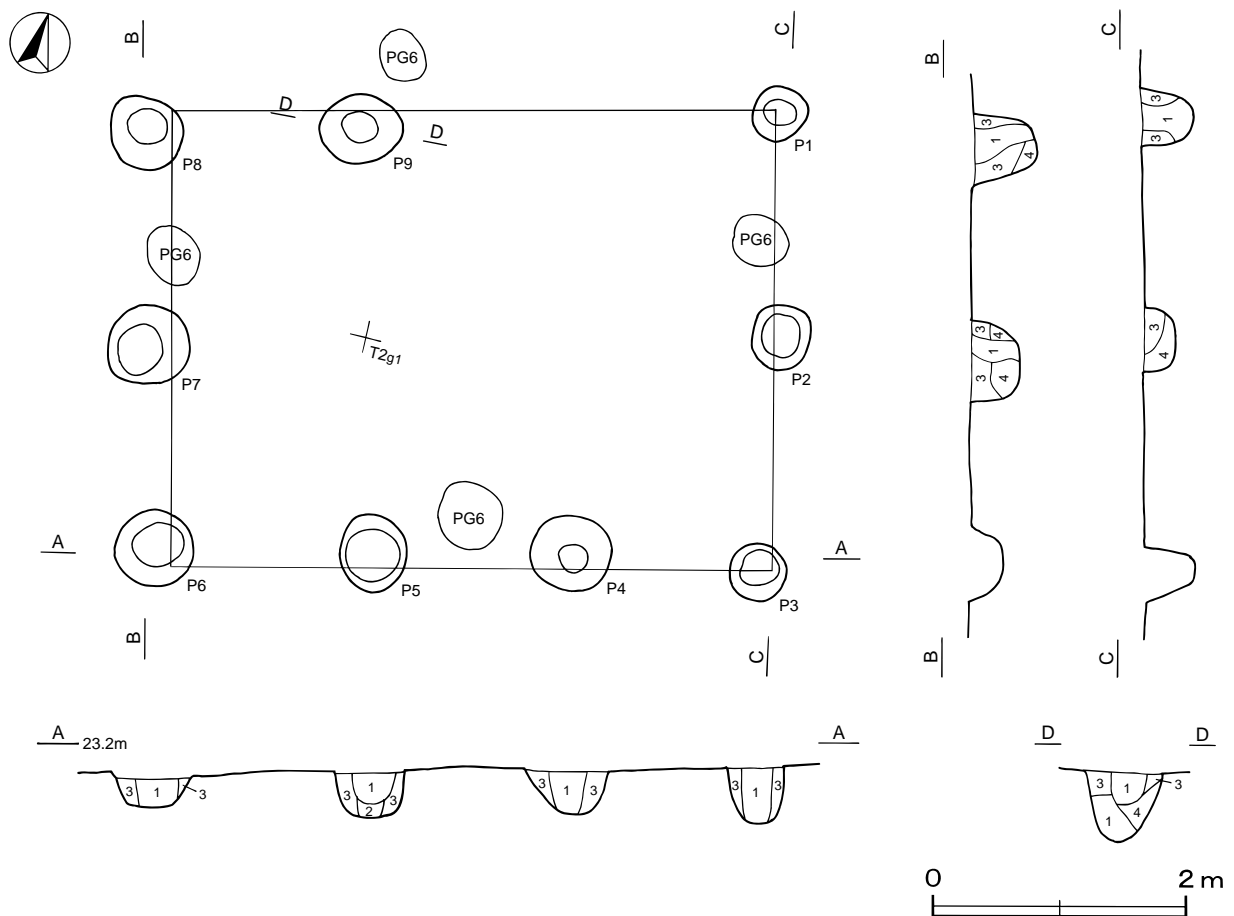
2 暗褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片7点（甕），須恵器片3点（坏2，蓋1）が出土している。いずれも細片で図示できない。

**所見** 本跡と主軸方向を同じくする竪穴住居跡は，8世紀中葉に比定される第92・93号住居跡が南約10mに位置しており，これらと同時期に存在した建物の可能性がある。

### 第17号掘立柱建物跡（第89・90図）

**位置** 調査区南部のT2g1区，標高23mの台地平坦部に位置している。南西に第10～13号掘立柱建物跡，南に第14～16号掘立柱建物跡が位置している。



第89図 第17号掘立柱建物跡実測図



**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN - 77° - Eの東西棟である。規模は，桁行4.8m，梁行3.6mで，面積は17.28㎡である。柱間寸法は，桁行が西より1.8m（6尺），1.5m（5尺），1.5m（5尺），梁行が1.8m（6尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

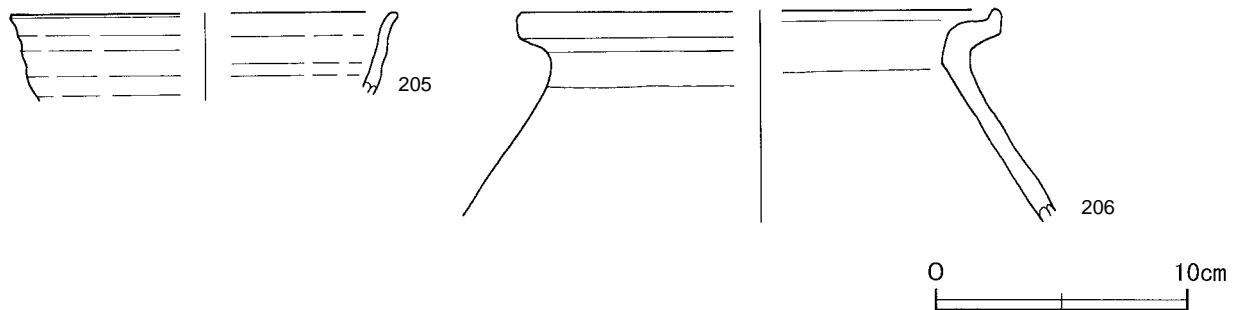
**柱穴** 9か所。平面形は円形で，規模は径45～68cmである。深さは20～53cmで，断面形はU字状または逆台形である。土層は第1・2層が柱抜き取り痕，第3・4層が埋土，または埋土からの崩落土である。

土層解説（各柱穴共通）

- |                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量        | 3 暗褐色 ローム粒子微量             |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片43点（甕），須恵器片22点（坏15，蓋3，甕2，長頸瓶2）が出土している。205はP5内，206はP7内の埋土からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡と桁行方向が同じで，9世紀中葉と比定される第13号掘立柱建物跡が南西約6mに位置しており，本跡はこれらと同時期に存在した建物と推測される。



第90図 第17号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
205	須恵器	坏	[15.2]	(3.3)	-	長石・白色粒子	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ	P5内	10%
206	須恵器	甕	[18.7]	(8.3)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	P7内	5%

表5 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧表

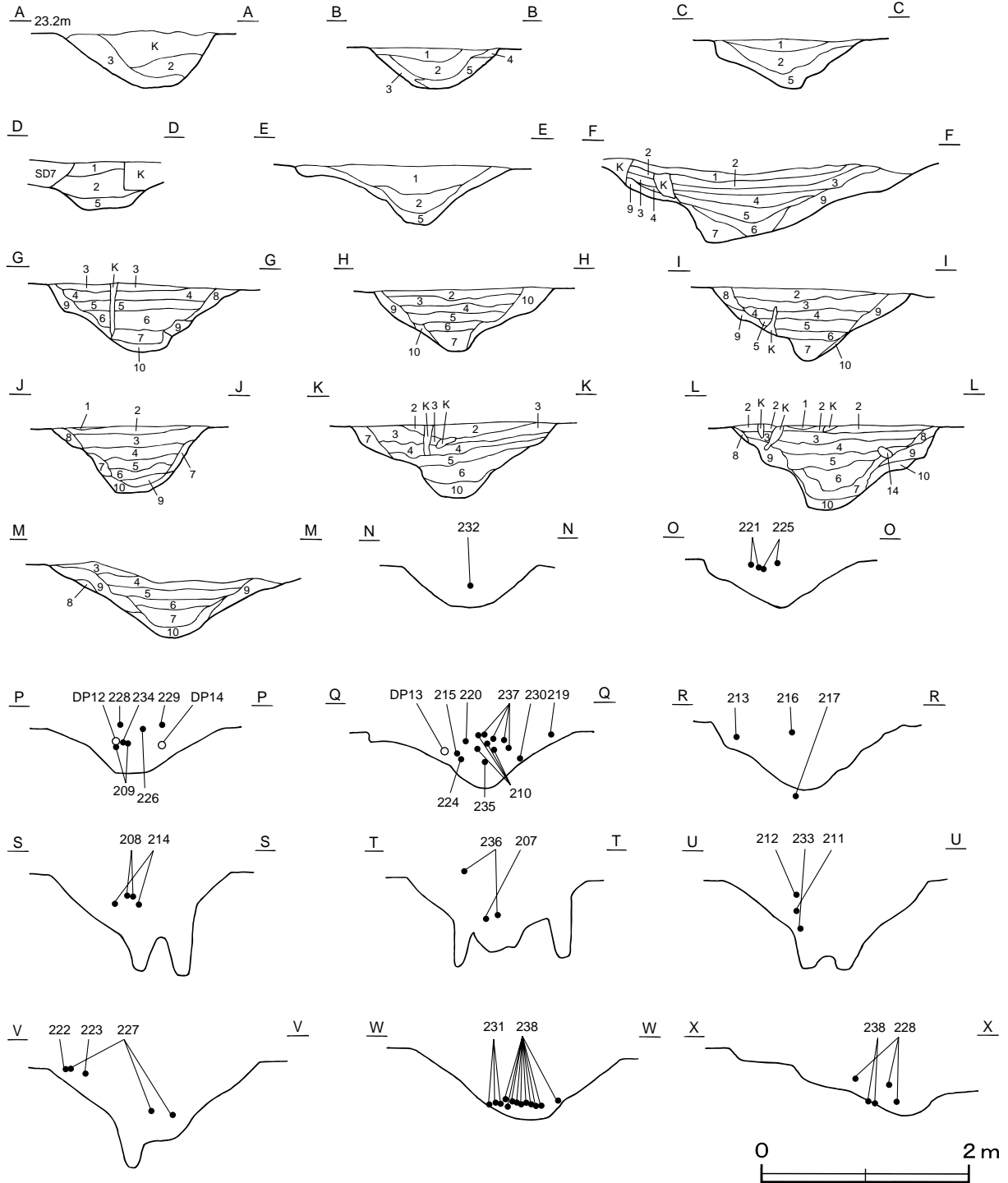
番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模(m) (長軸×短軸)	面積 (㎡)	構造	桁立柱間 (m)	梁立柱間 (m)	柱穴平面形	深さ (cm)	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古新)
4	M1 e8	N-14°・W	2×2	4.5×3.6	16.2	総柱	2.7 1.8	1.8	円形・楕円形	15～82	-	9世紀中葉	SB5, PG4 本跡
5	M1 e8	N-88°・E	3×2	5.4×3.9	21.06	側柱	1.8	1.8	円形・楕円形	28～60	-	9世紀前葉	本跡 SB4
6	M1 f0	N・0°	3×2	6.3×3.6	22.68	側柱	2.1	1.8	円形・楕円形	46～71	-	9世紀前葉	本跡 SI68
7	Q1 i7	N-8°・W	3×2	6.3×4.5	28.35	側柱	2.1	2.4	円形・楕円形	30～43	土師器，須恵器	9世紀中葉	SI81 本跡
10	U1 a9	N-83°・E	3×2	5.4×3.9	21.06	側柱	1.8	2.1	円形	26～55	土師器	9世紀中葉	
11	U1 b9	N-81°・E	3×2	5.4×3.9	21.06	側柱	1.8	2.1 1.8	円形	20～44	土師器，須恵器	9世紀中葉	
12	T1 i0	N-80°・E	3×2	5.4×3.9	21.06	側柱	1.8	2.1 1.8	円形・楕円形	22～53	土師器	9世紀中葉	
13	T1 i9	N-80°・E	3×2	5.7×4.2	23.94	側柱	2.1 1.8	2.1	円形	15～64	土師器	9世紀中葉	SI83 本跡
14	T2 i1	N-89°・W	1×2	3.9×3.0	11.7	側柱	3.9	1.5	円形	20～63	土師器	8世紀中葉	
15	T2 h2	N-83°・E	2×2	4.2×3.0	12.6	側柱	2.1	1.5	円形	34～60	土師器，須恵器， 灰釉陶器	9世紀中葉	
16	T2 h2	N-11°・W	1×2	3.3×3.0	9.9	側柱	3.3	1.5	円形	20～47	土師器，須恵器	8世紀中葉	
17	T2 g1	N-77°・E	3×2	4.8×3.6	17.28	側柱	1.8 1.5	1.8	円形	20～53	土師器，須恵器	9世紀中葉	

(3) 溝跡

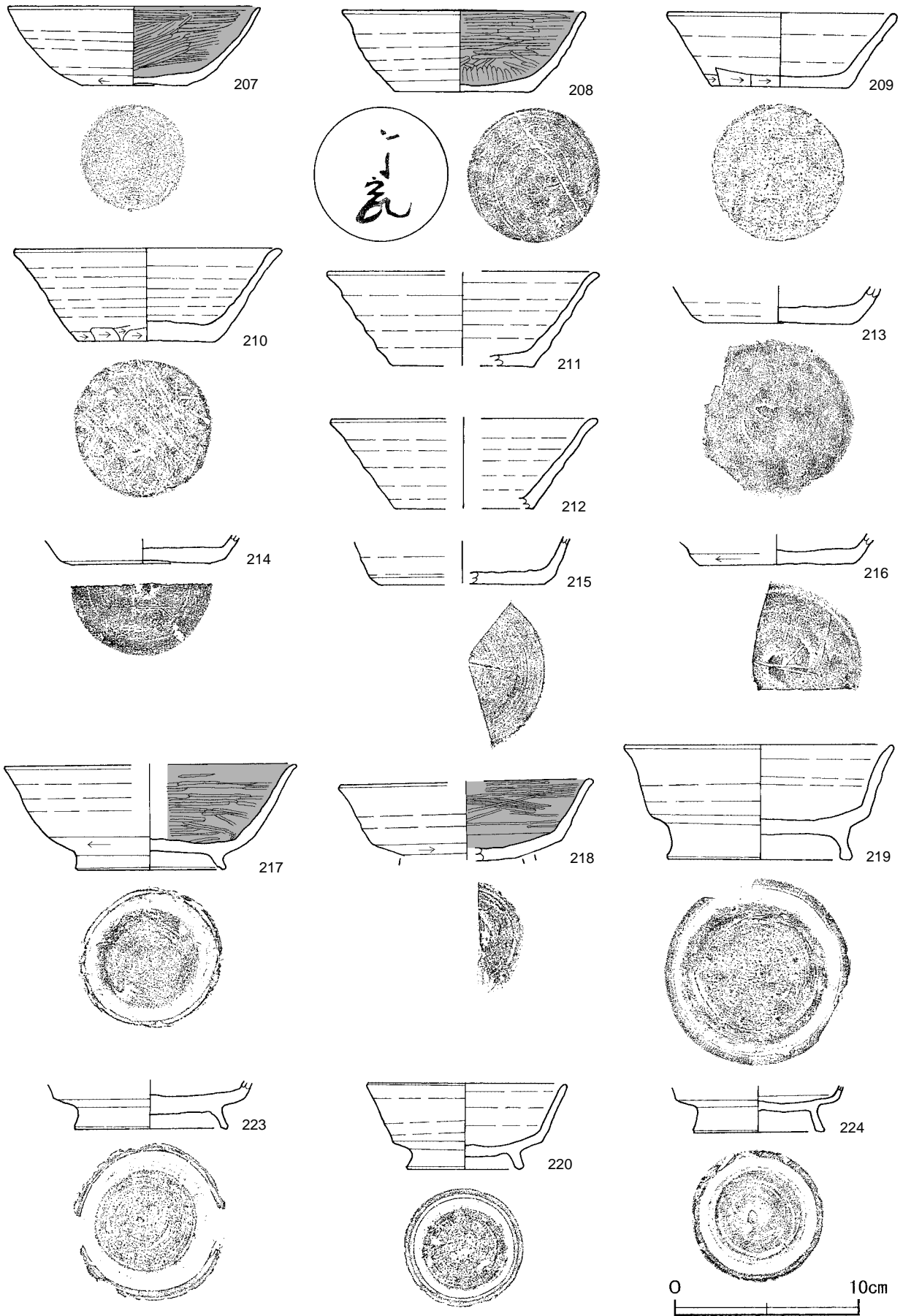
第1号溝跡 (第91~94図, 付図)

位置 調査区中央部のK 1e0~L 2c0区, 標高23mの台地平坦部に位置している。西側に住居跡群, 南西には第14号井戸跡が位置している。

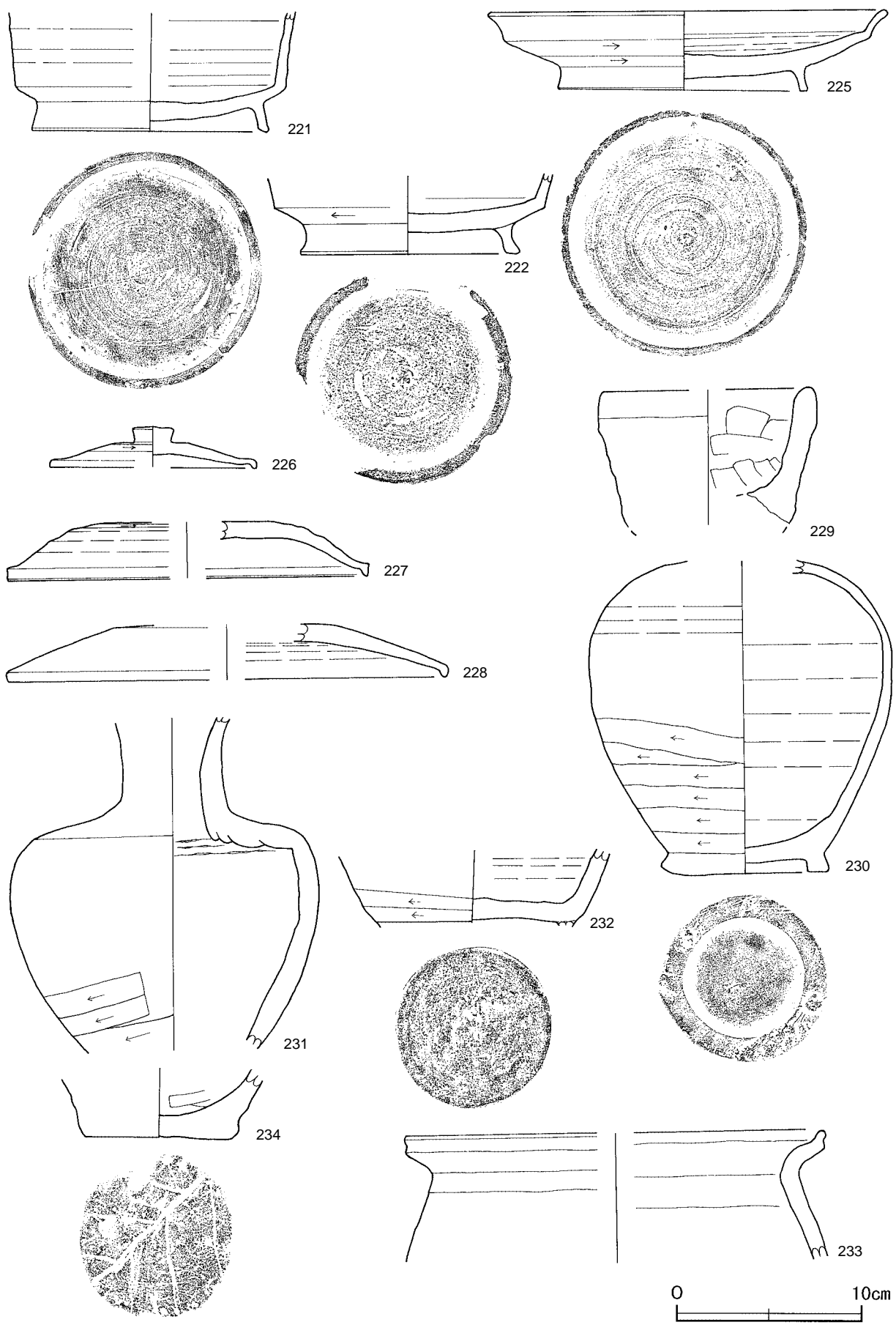
重複関係 第7・23~25・27B号溝, 第175・188・189・206号土坑に掘り込まれている。



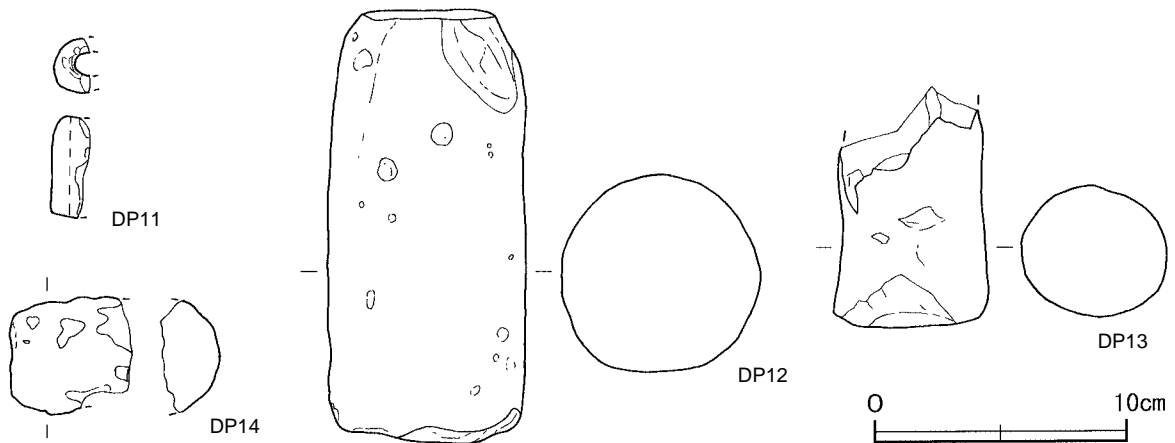
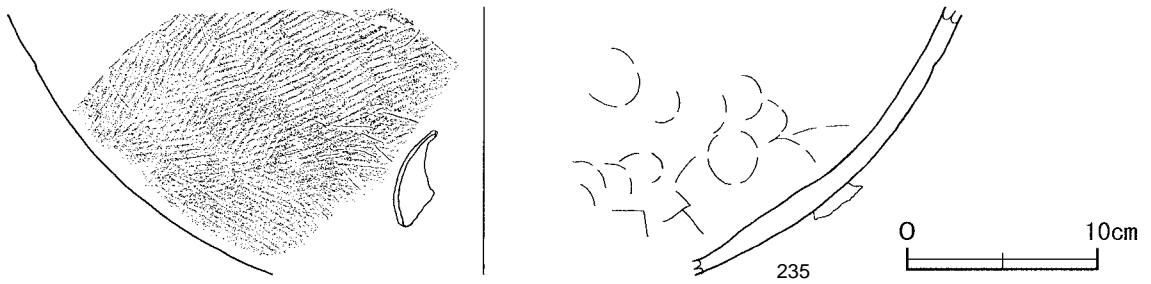
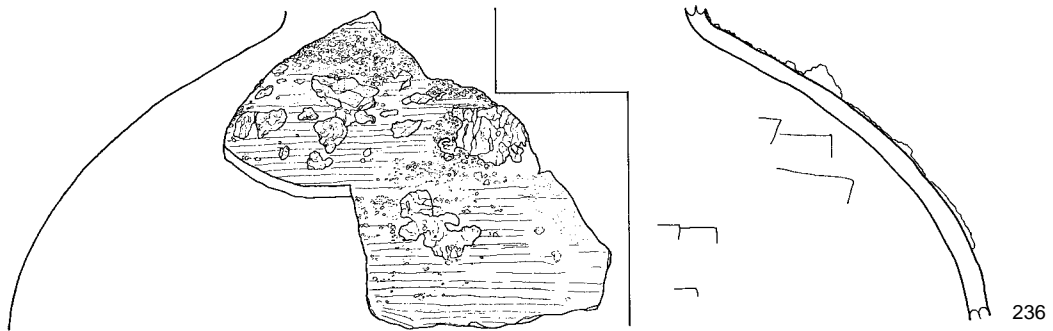
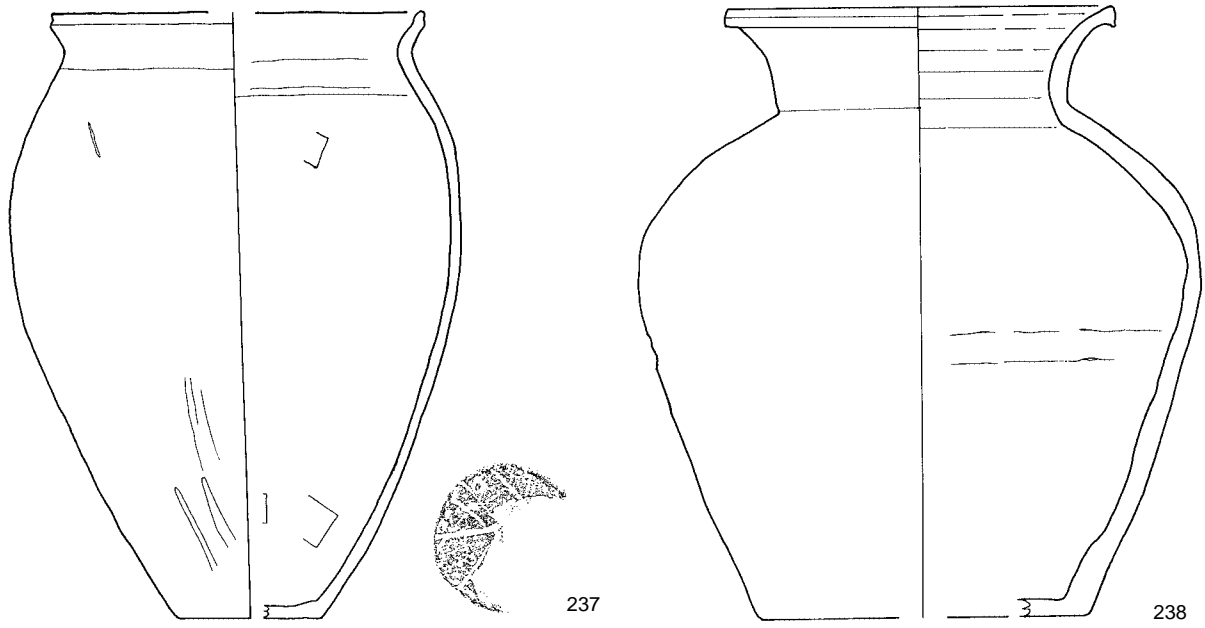
第91図 第1号溝跡実測図



第92図 第1号溝跡出土遺物実測図(1)



第93图 第1号溝跡出土遺物実測図(2)



第94図 第1号溝跡出土遺物実測図(3)

**規模と形状** 北西方向（N - 15° - W）に直線的に延び、北西部・南東部が調査区域外へ延びている。確認された規模は長さ155m，上幅1.28～2.26m，下幅0.26～0.40mで，深さは40～74cmである。断面形はU字状を呈し，中央部が箱形に掘り込まれている。

**覆土** 10層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。中央部の第3～6層の上面では，硬化面が確認されており，廃絶後の埋没過程で道路として機能したと考えられる。

土層解説（A～E）

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量，ロームブロック微量  | 4 極暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量   | 5 黒褐色 ロームブロック少量  |
| 3 黒褐色 炭化粒子少量，ロームブロック微量 |                  |

土層解説（F～M）

- |                                  |                              |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量                    | 6 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量，締まり強い |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量             | 7 褐色 ロームブロック多量               |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量，締まり強い     | 8 暗褐色 ローム粒子微量                |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量，締まり強い       | 9 暗褐色 ロームブロック少量              |
| 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量，締まり強い | 10 黄褐色 暗褐色土ブロック少量            |

**遺物出土状況** 土師器265点（坏35，高台付坏2，鉢1，甕225，小形甕2），須恵器片84点（坏31，高台付坏14，盤1，蓋5，甕27，長頸瓶6），土製品4点（管状土錘1，支脚2，羽口1）が出土している。底部から推定される出土土器の個体数は，土師器坏2点，高台付坏2点，鉢1点，甕8点，須恵器坏16点，高台付坏11点，蓋3点，盤1点，長頸瓶3点，甕3点である。調査1区と4区で本跡を北・南部に分けて見ると，遺物が集中しているのは北部・南部とも南部寄りであり，北部では須恵器の坏・高台付坏が多く，230・237が覆土中層から出土している。237は体部だけで，溝の埋没過程で投棄されたものである。また，南部では，土師器・須恵器の坏と高台付坏などの食膳具類が多く，207・210・211・214が覆土中層からそれぞれ出土している。217・228・231・238は覆土下層から出土しており，231・238は出土した破片が接合したもので，溝の埋没過程で投棄されたものである。北部では北寄り，南部では第25号溝跡と重複する部分は出土遺物が少ない。

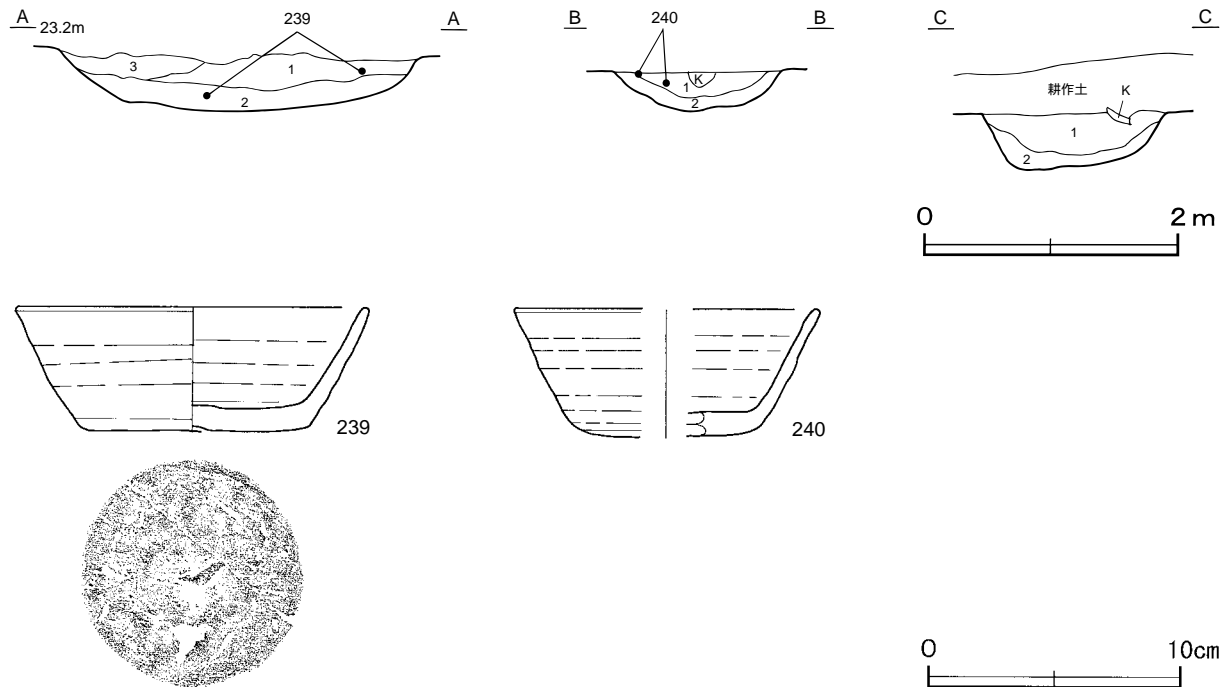
**所見** 本跡の埋没時期は，出土遺物から8世紀中葉から9世紀中葉と考えられる。溝が機能した時期は，集落が増加した8世紀中葉と想定されるが，集落に伴う溝としては機能していた期間が短くなり，短期間のうちに廃絶を余儀なくされたものと推測される。また，硬化面も確認されていることから，区画溝として機能を終えた後，道路として機能したと考えられる。

第1号溝跡出土遺物観察表（第92～94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
207	土師器	坏	13.7	4.3	5.6	石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面口クロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中層	100% PL23
208	土師器	坏	13.0	4.3	7.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面口クロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	95% 墨書「家」 PL27
209	須恵器	坏	12.3	4.1	7.3	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	覆土中層	85% PL26
210	須恵器	坏	14.3	5.1	7.4	長石・石英・雲母・礫	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向ヘラ削り	覆土中層	50% PL26
211	須恵器	坏	[14.4]	5.1	[7.6]	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土中層	40%
212	須恵器	坏	[14.4]	4.9	[7.4]	長石	灰	普通	体部内・外面口クロナデ	覆土上層	25%
213	須恵器	坏	-	(2.0)	8.0	長石・雲母・礫	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土上層	10%
214	須恵器	坏	-	(1.5)	7.4	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層	10% ヘラ記号「x」
215	須恵器	坏	-	(2.6)	[8.8]	長石・石英	灰	普通	外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	15% ヘラ記号
216	須恵器	坏	-	(1.6)	[8.4]	長石・石英	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土上層	10% ヘラ記号
217	土師器	高台付坏	[15.6]	5.6	8.0	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面口クロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土下層	50%
218	土師器	高台付坏	[13.6]	(4.3)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面口クロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り	覆土上層	30%



区画溝として機能していたと考えられる。機能していた時期は、第1号溝跡と同じ8世紀中葉頃と推測され、何らかの理由ですぐに廃絶を余儀なくされたと考えられる。また、埋没時期は、第1号溝跡と同じく8世紀中葉から9世紀中葉と考えられる。



第95図 第9号溝跡・出土遺物実測図

第9号溝跡出土遺物観察表 (第95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
239	須恵器	坏	13.8	4.9	9.2	長石・石英・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土下層	95% PL26
240	須恵器	坏	[12.0]	5.0	[5.0]	長石	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後ヘラ削り	覆土上層	15%

### 第30A号溝跡 (第96～105図, 付図)

**位置** 調査区中央部のU1d7～U2b7区, 標高23mの台地平坦部に位置している。北に第92・93号住居跡, 第10～17号掘立柱建物跡が位置している。

**重複関係** 第30B号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 北西部が調査区域外に延びている。北西方向 (N - 74° - E) へ直線的に延びており, 確認された長さは41.7m, 上幅1.94～2.44m, 下幅0.28～0.60mで, 深さは56～60cmである。断面形は緩やかな弧状を呈している。

**覆土** 16層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。土層断面中, 第4～7・14層の上面で硬化面が認められた。

#### 土層解説

- |       |                  |        |                      |
|-------|------------------|--------|----------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量          | 5 黒褐色  | ロームブロック微量, やや締まり強い   |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量          | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量, やや締まり強い   |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量        | 7 暗褐色  | ロームブロック少量, やや締まり強い   |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, やや締まり強い | 8 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |

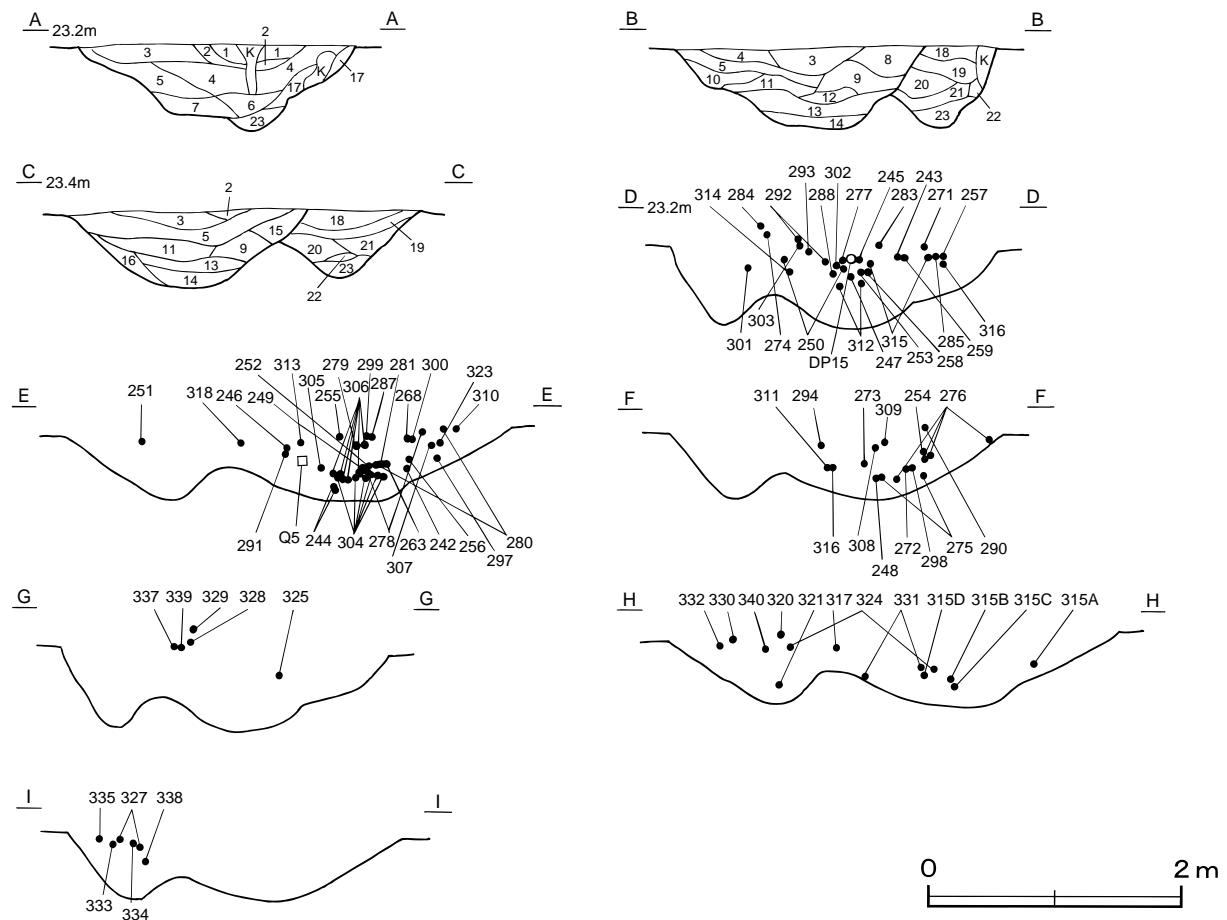


- 9 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 10 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 11 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 12 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

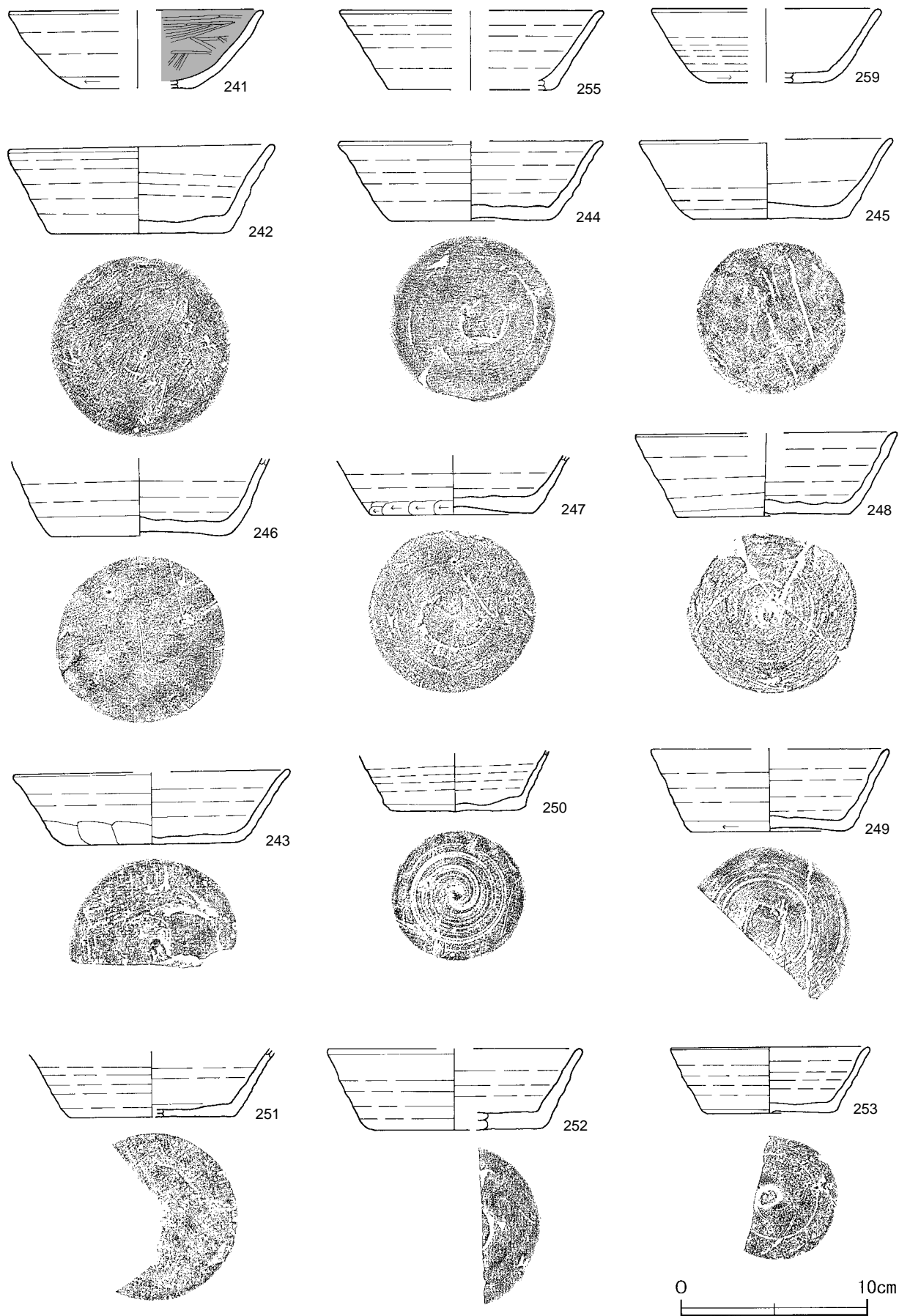
- 13 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 14 褐色 ローム粒子中量，やや締まり強い
- 15 黒褐色 ローム粒子微量
- 16 褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片43点（坏1，皿1，鉢1，甕33，甌4，小形甕3），須恵器片365点（坏238，高台付坏40，蓋48，盤3，高坏1，高盤1，長頸瓶8，短頸壺1，鉢2，甕23），土製品3点（小玉，土玉，羽口），石器1点（砥石）が出土している。底部などから推測される出土土器の個体数は，土師器坏1点，皿1点，鉢1点，甕33点，小形甕3点，甌4点，須恵器坏133点，高台付坏29点，盤3点，高盤1点，蓋41点，高坏1点，鉢2点，甕5点，長頸瓶7点，短頸壺1点である。遺物の多くは，西部と中央部の硬化面上層から出土している。西部の覆土中層からは273・275・276・311・315，覆土上層からは294・309が出土しており，315は中央部から出土した破片が接合したものである。中央部の覆土下層からは244，覆土中層からは242・249・252・256・281・304～306・Q5，覆土上層からは246・251・255・268・280・287・291・299・300・307・310・313・318・323がそれぞれ出土している。

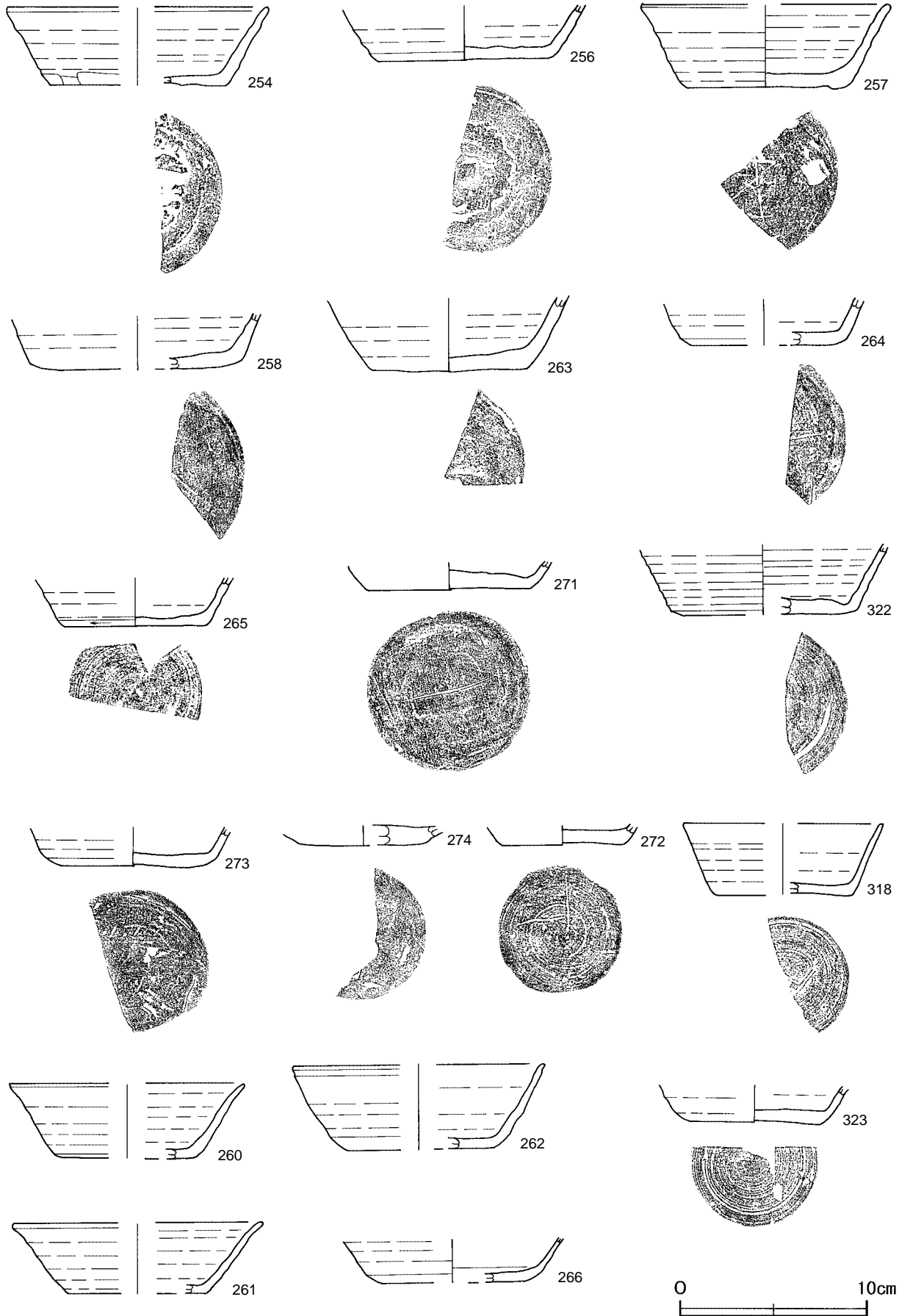
**所見** 本跡は，北に位置する第92・93号住居跡などの住居が増加した8世紀中葉に集落の区画溝として機能したと想定される。また埋没時期は，出土遺物から8世紀中葉から後葉と考えられ，機能していた期間が短い。上層と下層で出土している遺物の時期差があまり見られないことから，埋没は短期間であったことも想定される。また，土層断面から第30B号溝からの掘り替え後の溝であることが判明しており，硬化面が確認されていることから，道路としての機能も短期間ながら果たしたと考えられる。



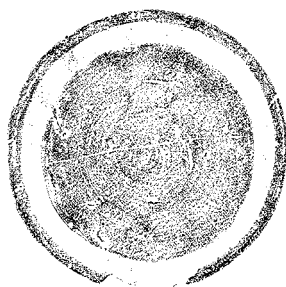
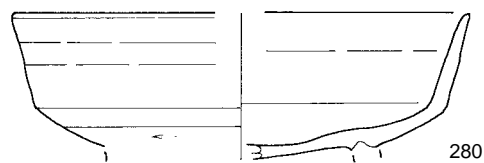
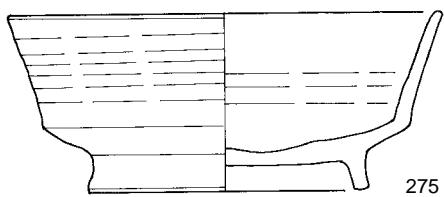
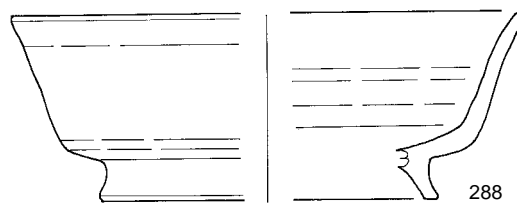
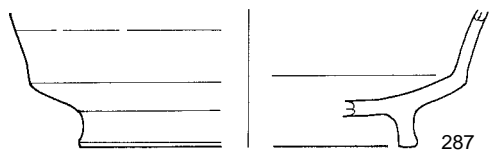
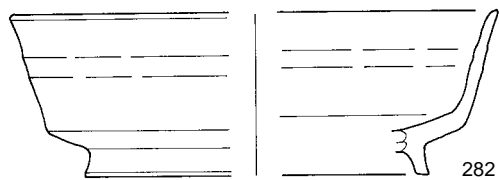
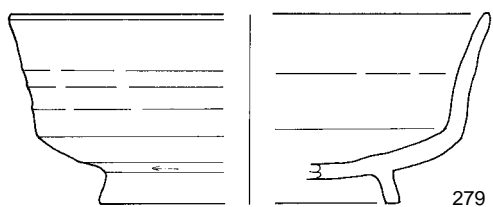
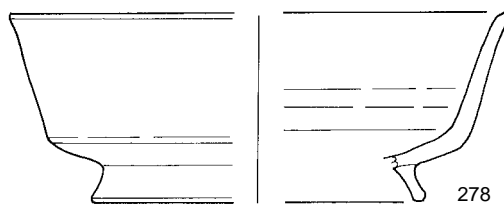
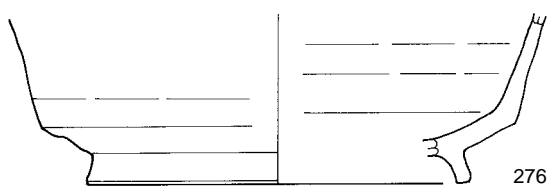
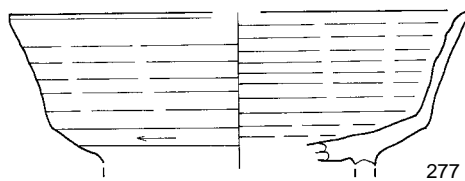
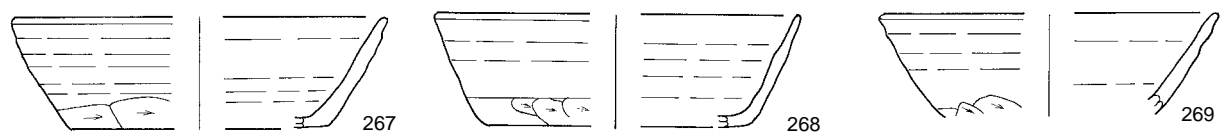
第96図 第30A・30B号溝跡実測図



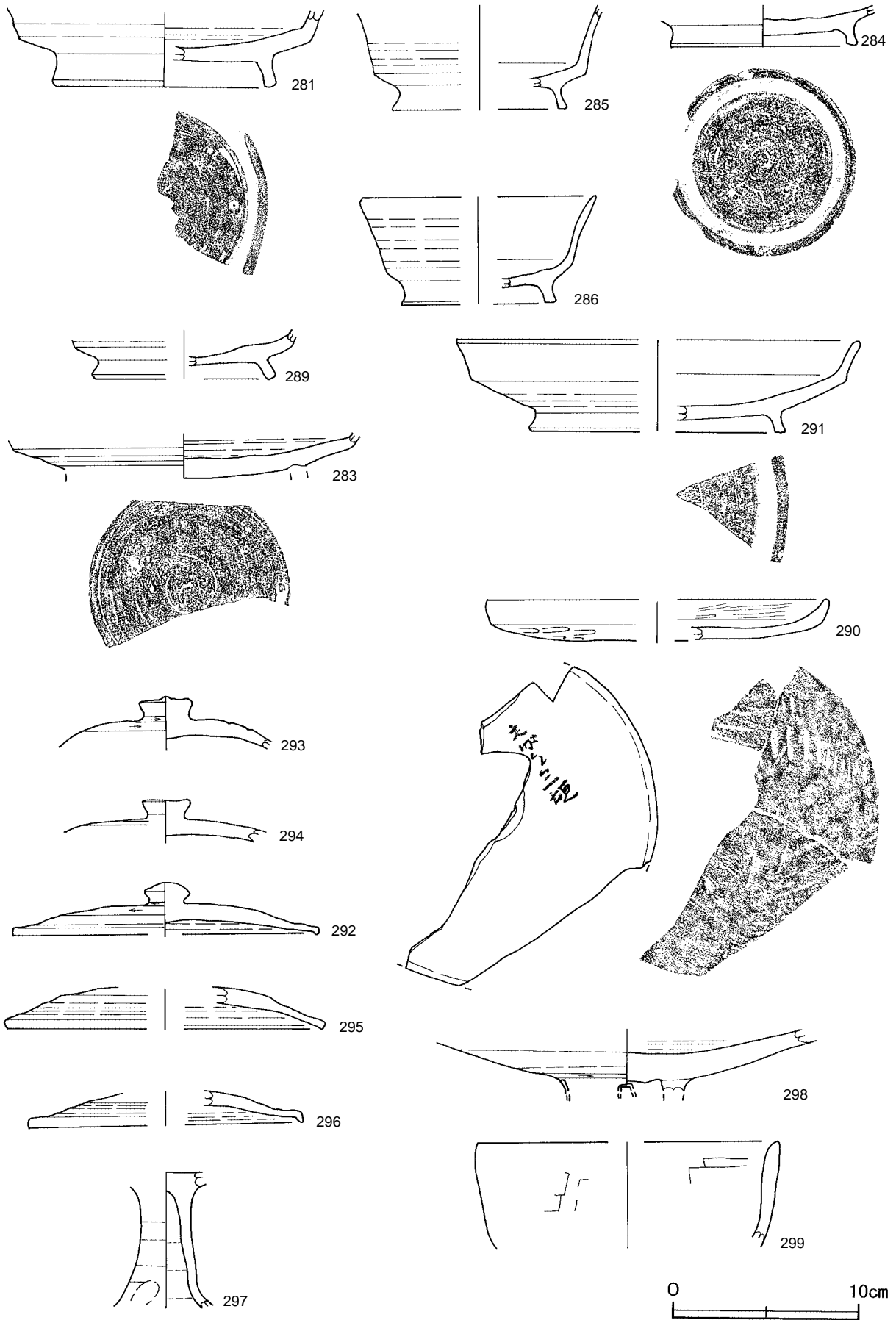
第97图 第30A号沟迹出土遗物实测图(1)



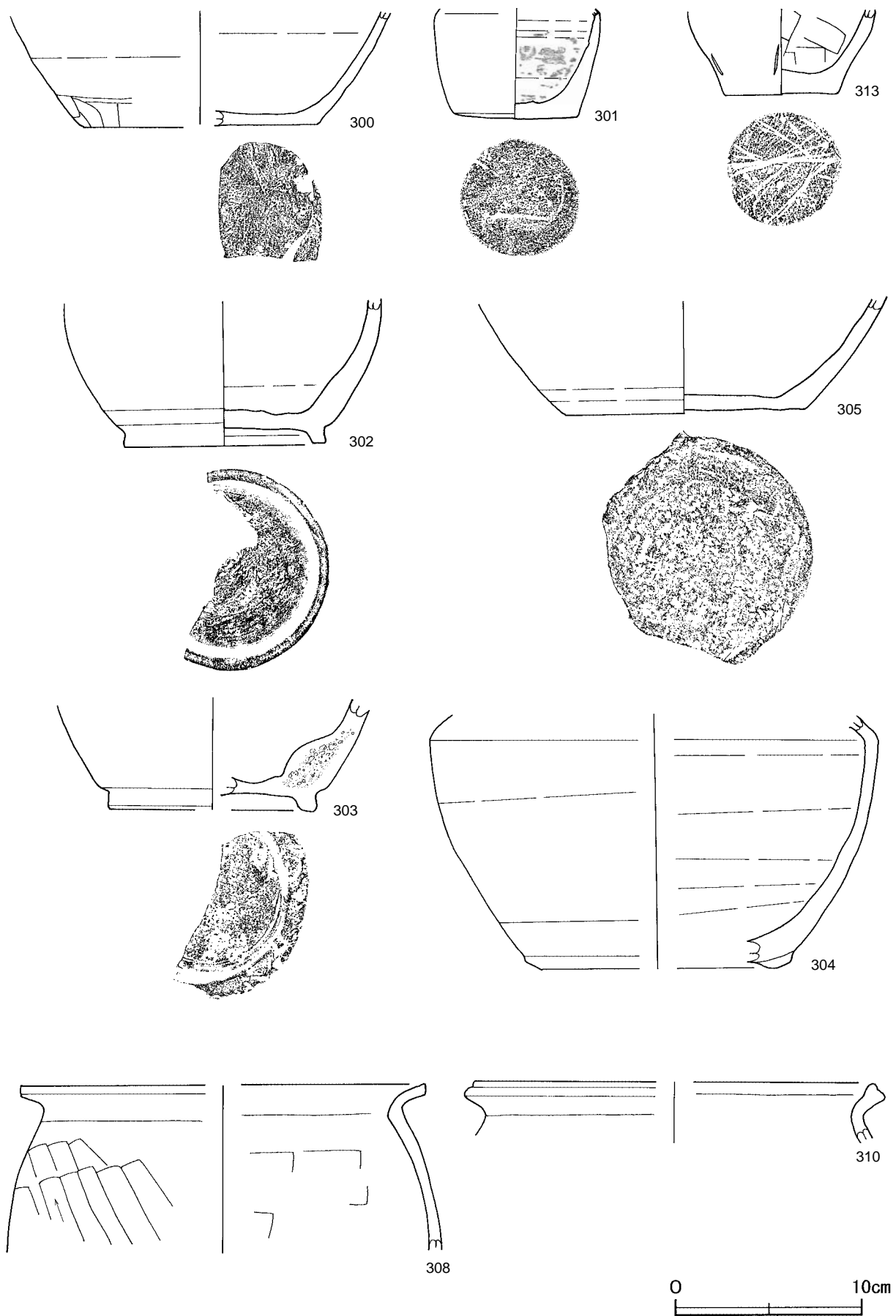
第98图 第30A号沟迹出土遗物实测图(2)



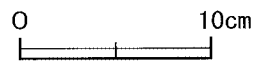
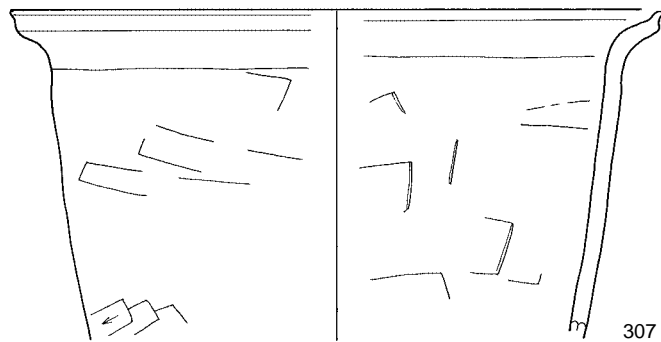
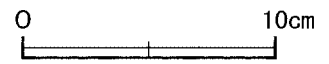
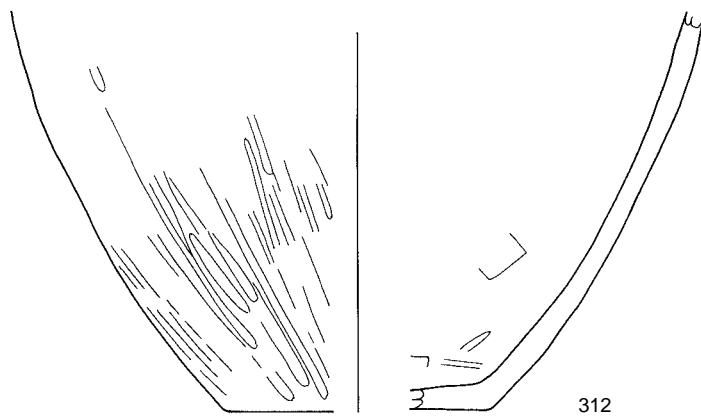
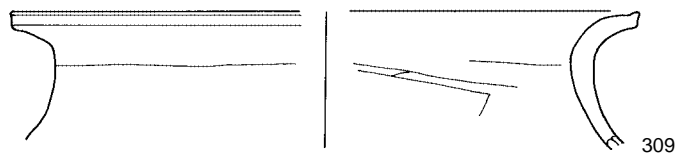
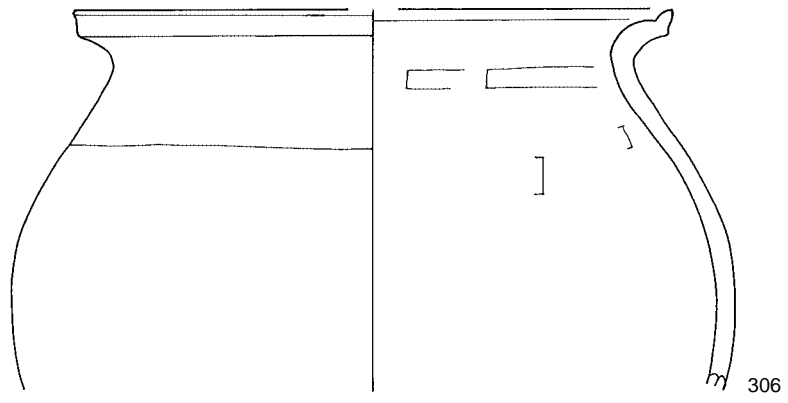
第99图 第30A号沟迹出土遗物实测图(3)



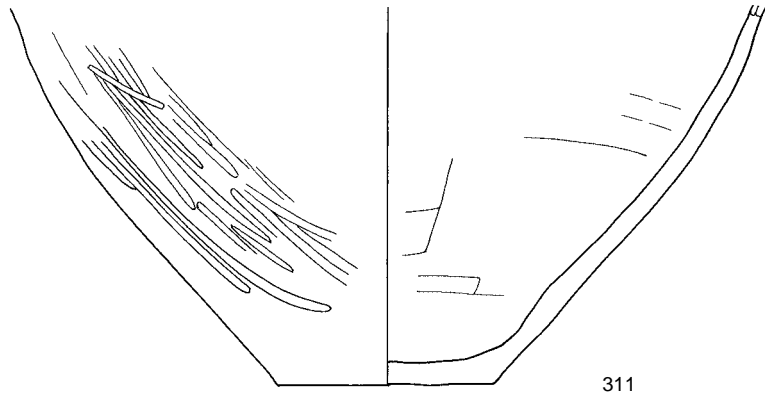
第100图 第30A号沟迹出土遺物実測図(4)



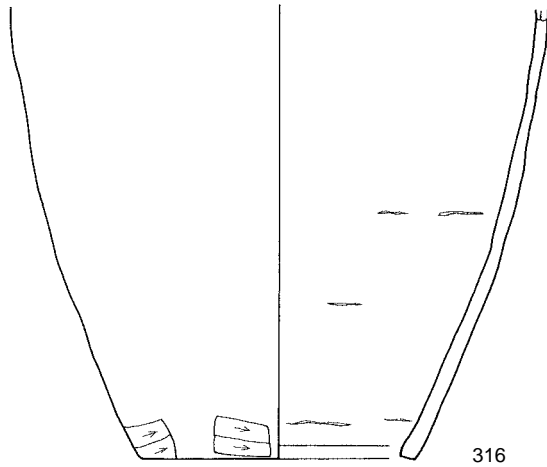
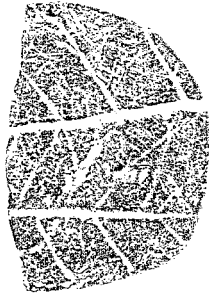
第101图 第30A号沟迹出土遗物实测图(5)



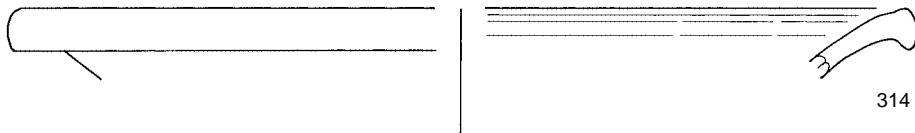
第102図 第30A号溝跡出土遺物実測図(6)



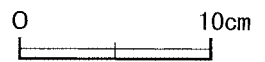
311



316

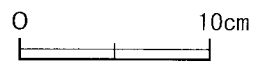
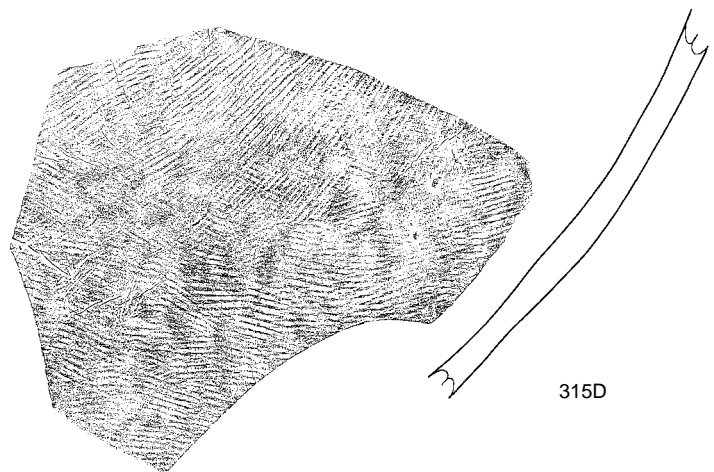
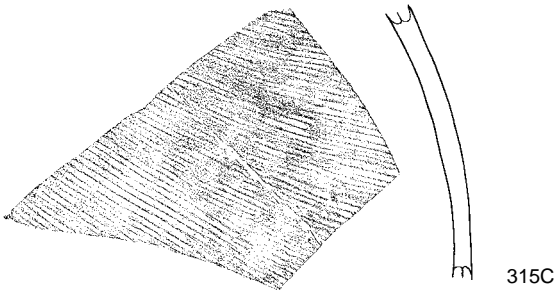
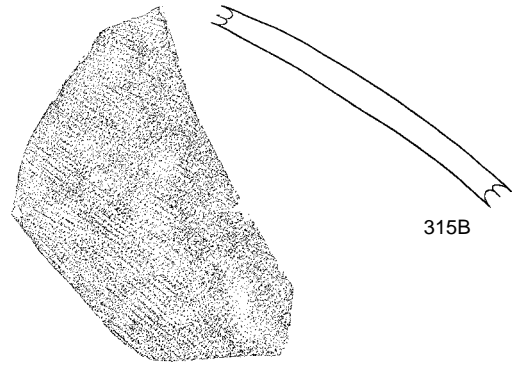
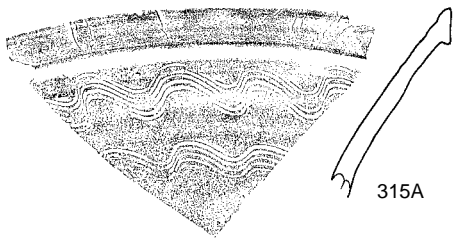
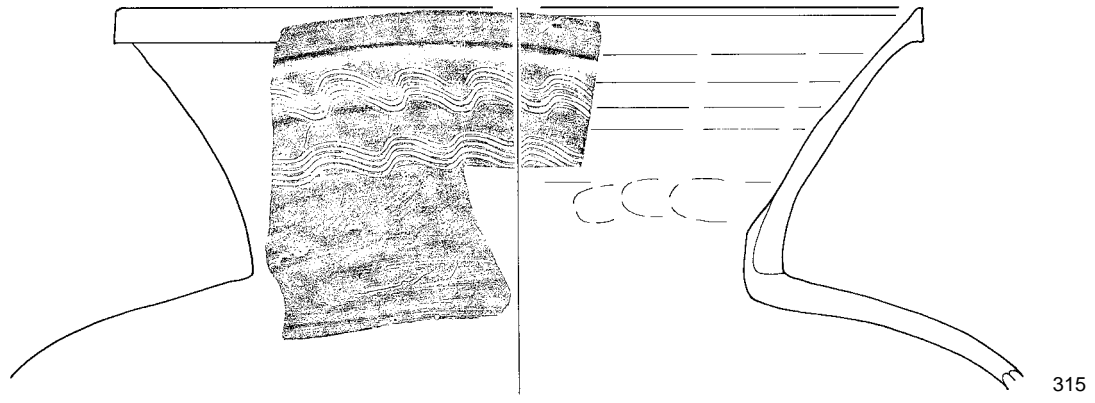


314

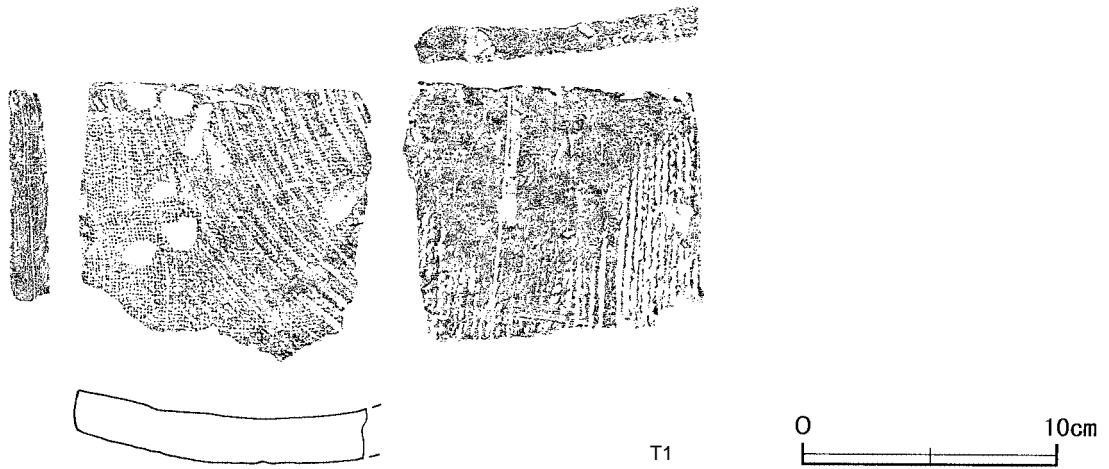
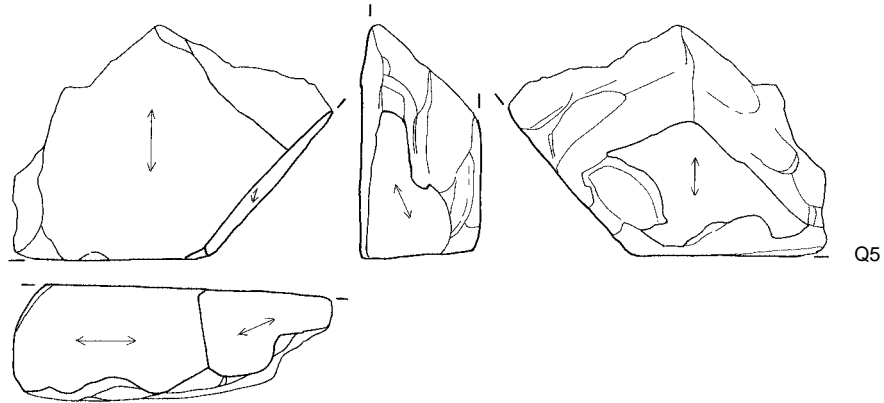
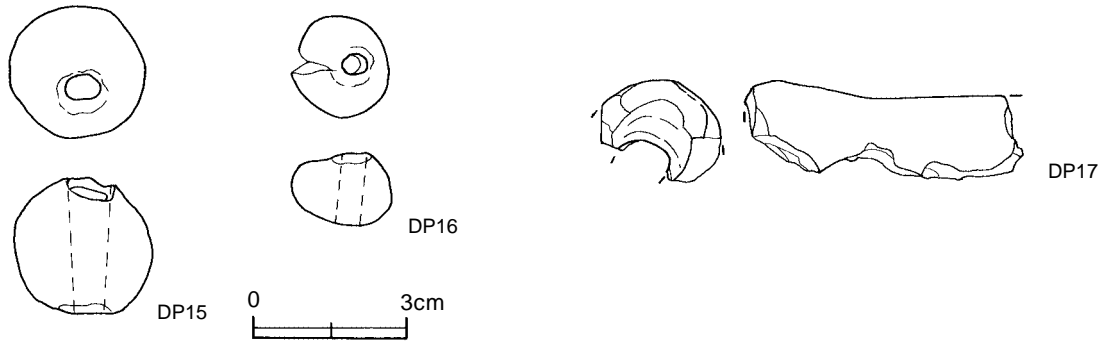


第103图 第30A号沟迹出土遺物実測図(7)





第104图 第30A号沟迹出土遗物实测图(8)



第105図 第30A号溝跡出土遺物実測図(9)

第30A号溝跡出土遺物観察表(第97~105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
241	土師器	坏	[13.6]	4.1	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	15%
242	須恵器	坏	14.3	4.8	9.4	長石・石英・海綿骨針	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後多方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	90% PL26
243	須恵器	坏	[14.8]	3.9	9.2	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後二方向の手持ちヘラ削り	覆土上層	50% PL26
244	須恵器	坏	[14.2]	4.3	8.6	長石・礫・海綿骨針	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	60%
245	須恵器	坏	[13.4]	4.3	8.0	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後一方向手持ちヘラ削り	覆土上層	60% ヘラ記号
246	須恵器	坏	-	(4.2)	9.3	長石・石英・白色粒子・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後多方向ヘラ削り	覆土上層	50% ヘラ記号
247	須恵器	坏	-	(3.2)	8.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土中層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
248	須恵器	坏	[14.0]	4.5	9.4	石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土中層	55%
249	須恵器	坏	[12.9]	4.4	8.3	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り 煤付着	覆土中層	30%
250	須恵器	坏	-	(3.3)	7.0	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土上層	70%
251	須恵器	坏	-	(3.5)	[8.6]	長石・雲母・小礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後二方向手持ちヘラ削り	覆土上層	40%
252	須恵器	坏	[13.6]	4.4	[8.8]	長石・黒色粒子・小礫	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層	40%
253	須恵器	坏	[10.8]	3.6	6.6	長石・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土中層	40%
254	須恵器	坏	[14.2]	4.2	[9.4]	長石・石英・雲母・黒色粒子・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中層	35%
255	須恵器	坏	[14.2]	4.3	8.7	長石・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土上層	35%
256	須恵器	坏	-	(2.9)	[9.2]	長石・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土中層	30%
257	須恵器	坏	[13.2]	4.5	[8.2]	長石・石英・礫・海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土上層	25% ヘラ記号
258	須恵器	坏	-	(2.9)	[11.4]	石英・白色粒子・海綿骨針	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土上層	20%
259	須恵器	坏	[12.2]	4.0	[6.2]	長石・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土上層	20%
260	須恵器	坏	[12.6]	4.0	[7.2]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向手持ちヘラ削り	覆土中	20%
261	須恵器	坏	[13.6]	3.7	[7.5]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土中	15%
262	須恵器	坏	[13.5]	4.5	[7.9]	長石・海綿骨針	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土中	15%
263	須恵器	坏	-	(4.0)	[8.3]	長石・海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後一方向手持ちヘラ削り	覆土中層	15%
264	須恵器	坏	-	(2.5)	[9.0]	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	15% ヘラ記号
265	須恵器	坏	-	(2.5)	7.6	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土中	20%
266	須恵器	坏	-	(2.3)	9.2	長石・石英・黒色粒子・海綿骨針	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後多方向ヘラ削り	覆土中	15%
267	須恵器	坏	[14.8]	4.3	[9.8]	長石・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	15%
268	須恵器	坏	[14.4]	4.4	[10.6]	石英・雲母	浅黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向手持ちヘラ削り	覆土上層	10%
269	須恵器	坏	[13.2]	(4.0)	-	長石・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	10%
270	須恵器	高台付坏	[17.8]	(4.6)	-	石英	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	10%
271	須恵器	坏	-	(1.4)	8.6	長石・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後一方向手持ちヘラ削り	覆土上層	20% ヘラ記号
272	須恵器	坏	-	(1.1)	6.7	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土中層	10% ヘラ記号「x」
273	須恵器	坏	-	(2.2)	[9.0]	長石	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層	15%
274	須恵器	坏	-	(1.1)	[8.6]	長石・石英・黒色粒子・海綿骨針	灰褐	普通	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土上層	10%
275	須恵器	高台付坏	17.0	7.0	10.8	長石・礫・海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	60% PL29
276	須恵器	高台付坏	-	(6.6)	14.8	長石	暗灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付けカ	覆土中層	35%
277	須恵器	高台付坏	[18.0]	(6.0)	-	長石・石英・雲母・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り	覆土上層	40%
278	須恵器	高台付坏	[19.8]	7.5	[13.1]	長石・黒色粒子・海綿骨針	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	20%
279	須恵器	高台付坏	[18.9]	(7.5)	[11.7]	長石・石英・礫・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	20%
280	須恵器	高台付坏	[18.0]	(5.7)	-	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	30%
281	須恵器	高台付坏	-	(4.2)	[11.4]	長石・礫・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	30%
282	須恵器	高台付坏	[19.1]	(6.4)	[13.5]	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中	20%
283	須恵器	盤	-	(2.4)	-	長石・石英・海綿骨針	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	20%
284	須恵器	盤	-	(2.2)	9.9	長石・礫・黒色粒子・海綿骨針	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	60%
285	須恵器	高台付坏	-	(5.6)	[9.2]	長石・黒色粒子・海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	5%
286	須恵器	高台付坏	[12.7]	5.8	[8.3]	長石・石英・黒色粒子	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中	20%
287	須恵器	高台付坏	-	(5.3)	[13.4]	長石・石英・礫・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	20%
288	須恵器	高台付坏	[20.0]	7.4	[13.2]	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	10%
289	須恵器	高台付坏	-	(2.6)	[9.4]	長石・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中	5%
290	土師器	皿	[18.2]	(2.2)	[10.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ磨き	覆土上層	40%墨書「土師カ三垣」
291	須恵器	盤	[21.6]	4.9	[13.7]	長石	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	10%
292	須恵器	蓋	[16.4]	2.8	-	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	40%
293	須恵器	蓋	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	50%
294	須恵器	蓋	-	(2.3)	-	長石・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	15%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
295	須恵器	蓋	-	(22)	[16.8]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	5%
296	須恵器	蓋	[14.8]	(1.8)	-	石英・雲母・白色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
297	須恵器	高坏	-	(7.4)	-	長石・石英	黄灰	普通	脚部内・外面ロクロナデ 脚部外面指頭痕	覆土中	20%
298	須恵器	高盤	-	(3.3)	-	礫	灰黄	普通	ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 脚部4孔	覆土中	30%
299	土師器	鉢	[16.2]	(5.7)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土上層	5%
300	須恵器	鉢	-	(6.1)	[12.7]	白色粒子・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端ヘラナデ 底部ヘラナデ	覆土上層	10%
301	須恵器	短頸壺	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土上層	40% 漆付着 PL33
302	須恵器	長頸瓶	-	(7.8)	10.8	長石・石英・黒色粒子	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け	覆土上層	20%
303	須恵器	長頸瓶	-	(6.1)	[11.0]	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け	覆土上層	25%
304	須恵器	長頸瓶	-	(13.7)	[14.3]	長石	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	40%
305	須恵器	長頸瓶	-	(6.0)	[13.0]	長石・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後ナデ	覆土中層	20%
306	土師器	甕	[23.5]	(15.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中層	20%
307	土師器	甕	[34.2]	(17.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面下位ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土上層	10%
308	土師器	甕	[21.6]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土上層	5%
309	土師器	甕	[24.6]	(5.4)	-	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面ヘラナデ	覆土上層	5%
310	土師器	甕	[21.6]	(3.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土上層	5%
311	土師器	甕	-	(20.0)	[11.2]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中層	40%
312	土師器	甕	-	(15.9)	[10.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	覆土中層	10%
313	土師器	甕	-	(4.5)	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土上層	20%
314	須恵器	甕	[46.8]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	頸部外面櫛歯状工具による羽状文	覆土中層	5%
315	須恵器	甕	[42.4]	(20.2)	-	白色粒子	黄灰	普通	頸部外面櫛歯状文 指頭痕	覆土上層	10%
315A	須恵器	甕	-	(20.6)	-	白色粒子	黄灰	普通	胴部外面平行叩き	覆土上層	5%
315B	須恵器	甕	-	(10.0)	-	白色粒子	黄灰	普通	頸部外面櫛歯状文	覆土上層	5%
315C	須恵器	甕	-	(10.8)	-	白色粒子	黄灰	普通	胴部外面平行叩き	覆土上層	5%
315D	須恵器	甕	-	(14.7)	-	白色粒子	黄灰	普通	胴部外面平行叩き	覆土上層	5%
316	土師器	甕	-	(24.0)	[14.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 輪積痕	覆土上層	20%
318	須恵器	坏	[10.7]	3.9	[7.2]	長石	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後回転ヘラ削り	覆土上層	45% ヘラ記号
322	須恵器	坏	-	(3.8)	[10.0]	長石・石英・白色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後回転ヘラ削り	覆土中	25%
323	須恵器	坏	-	(2.1)	7.0	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り 後回転ヘラ削り	覆土上層	25%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP15	小玉	1.9	1.5	0.4	(466)	粘土	ナデ 一部欠損 一方向からの穿孔	覆土上層	PL37
DP16	球状土錘	2.67	2.8	0.8	15.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL37

番号	器種	長さ	幅	径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP17	羽口	(11.0)	(4.0)	(4.7)	(122.2)	粘土	ナデ 火熱痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	砥石	(9.2)	12.6	4.7	(599)	砂岩	砥面5面	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
T1	瓦	(8.7)	(10.6)	(1.7)	(355)	凹面布目痕 凸面縄目叩き	覆土中	PL39

**第30B号溝跡** (第96・106・107図, 付図)

**位置** 調査区中央部のU1d7~U2c7区, 標高23mの台地平坦部に位置している。北に第92・93号住居跡, 第10~17号掘立柱建物跡が位置している。

**重複関係** 第30A号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 北西部が調査区域外に延びている。北西方向(N-82°-E)へ直線的に延びており, 確認された長さは9.5m, 上幅1.25~1.50m, 下幅0.55~0.75mで, 深さは30~45cmである。断面形は緩やかな弧状を呈している。

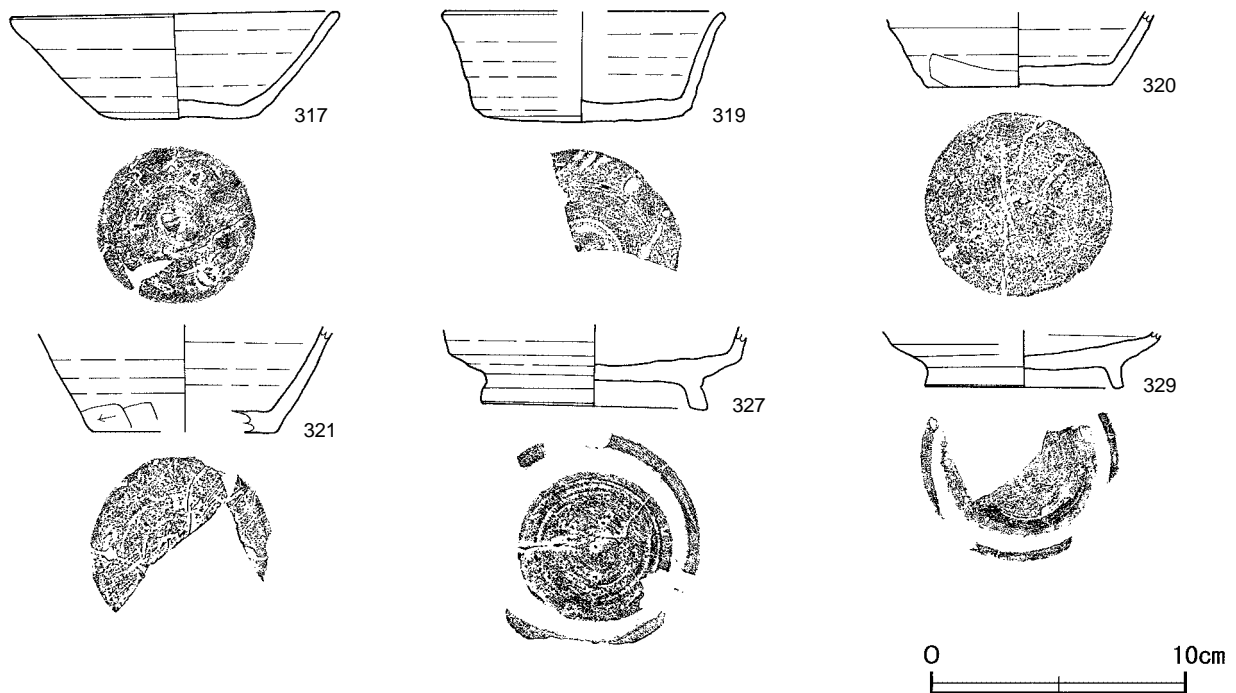
**覆土** 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。土層断面中, 第7層の上面で硬化面が認められた。

土層解説

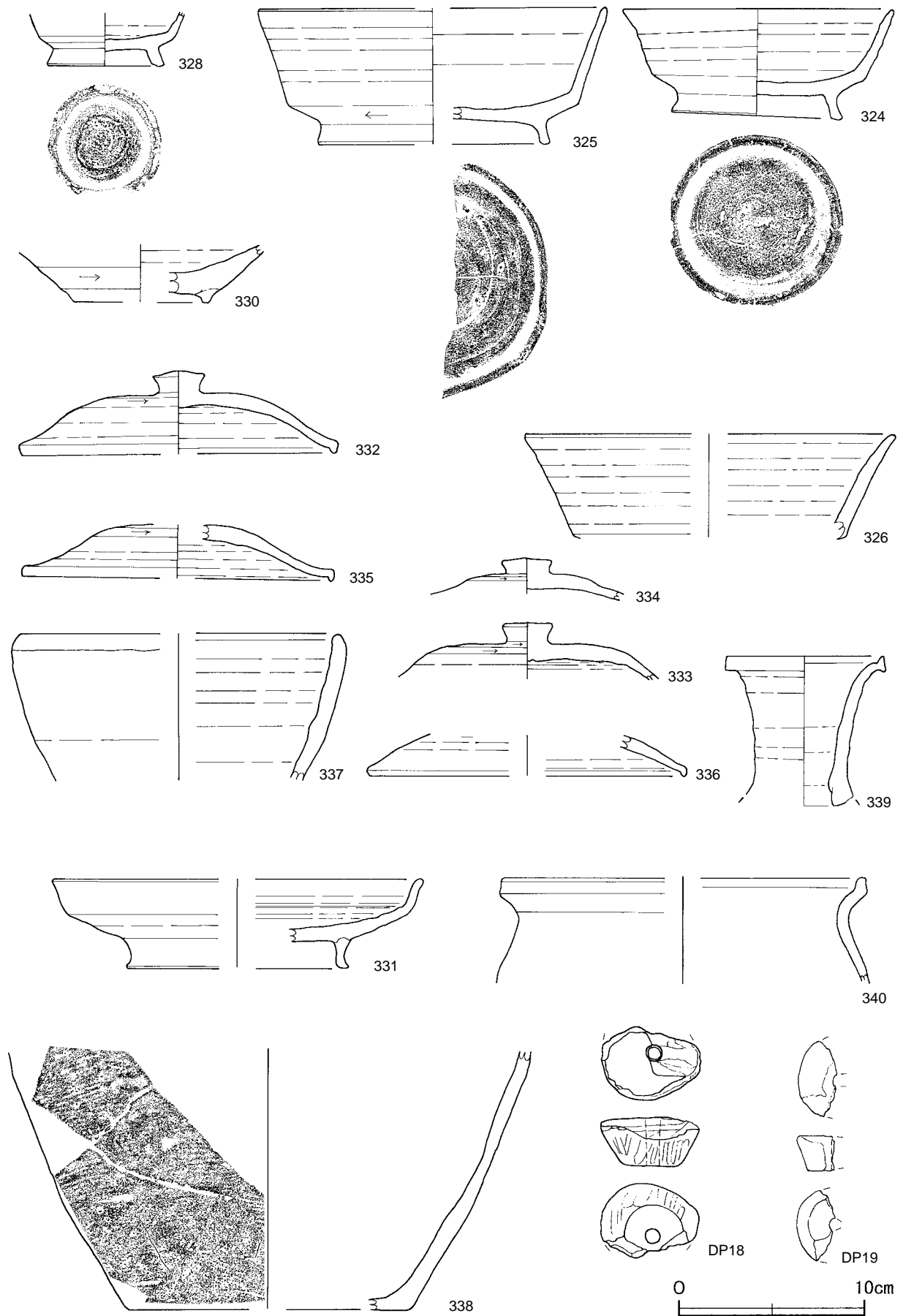
17 暗褐色	ロームブロック少量	21 極暗褐色	ロームブロック微量
18 黒色	ローム粒子微量	22 極暗褐色	ローム粒子微量
19 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	23 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
20 暗褐色	ロームブロック微量		

**遺物出土状況** 土師器片1点(小形甕), 須恵器片158点(坏68, 高台付坏20, 蓋28, 盤1, 高坏1, 長頸瓶5, 鉢32, 甕2, 甌1), 土製品2点(紡錘車)が出土している。底部から推測される出土土器の個体数は, 土師器小形甕1点, 須恵器坏35点, 高台付坏14点, 蓋25点, 高坏1点, 長頸瓶3点, 甕1点, 鉢1点, 甌1点である。遺物は全域の覆土上層から下層にかけて出土している。西部の覆土上層から327・332~335・338, 中央部の覆土下層からは321, 覆土中層から331, 覆土上層から317・320・324・330・340がそれぞれ出土している。東部の覆土中層から325, 覆土上層から328・329・337・339がそれぞれ出土している。

**所見** 本跡は, 第30A号溝と同様, 北に位置する第92・93号住居跡などの住居が増加した8世紀中葉に集落の区画溝として機能したと想定される。また埋没時期は, 出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられ, 機能していた期間が短い。また, 土層断面から第30A号溝の掘り替え前の溝であることが判明しており, 硬化面も確認されていることから, 溝としての機能を終えた後, 短期間ながら道路として機能も果たしたと考えられる。



第106図 第30B号溝跡出土遺物実測図(1)



第107图 第30B号沟迹出土遗物实测图(2)

第30B号溝跡出土遺物観察表 (第106・107図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
317	須恵器	坏	12.6	4.2	6.3	長石・石英・雲母・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土上層	80% PL26
319	須恵器	坏	[11.0]	(4.4)	[8.0]	長石・石英・黒色粒子・海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土中	20%
320	須恵器	坏	-	(2.9)	7.2	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端ヘラナデ 底部回転ヘラ切り後多方向のヘラナデ	覆土上層	60%
321	須恵器	坏	-	(4.2)	7.3	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土下層	50%
324	須恵器	高台付坏	14.6	6.0	9.0	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	80% PL29
325	須恵器	高台付坏	[18.6]	7.3	[12.2]	長石・礫	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	40% ヘラ記号
326	須恵器	高台付坏	[19.8]	(5.6)	-	長石・石英・黒色粒子	暗灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%
327	須恵器	高台付坏	-	(3.3)	8.8	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	50%
328	須恵器	高台付坏	-	(2.9)	6.0	長石・小礫	灰オリーブ	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	40%
329	須恵器	高台付坏	-	(2.2)	7.7	長石・雲母	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	40%
330	須恵器	高台付坏	-	(3.0)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	15%
331	須恵器	盤	[19.8]	4.8	[11.8]	長石・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中層	25%
332	須恵器	蓋	[16.8]	4.5	-	長石・石英・黒色粒子・海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	40% PL30
333	須恵器	蓋	-	(3.1)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	50%
334	須恵器	蓋	-	(2.2)	-	長石・石英・礫	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	40%
335	須恵器	蓋	[16.7]	(2.9)	-	長石	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	40%
336	須恵器	蓋	-	(2.2)	[17.0]	長石	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	5%
337	須恵器	鉢	[17.4]	(7.1)	-	長石・石英・礫	暗灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 口縁部横ナデ	覆土上層	5%
338	須恵器	鉢	-	(14.1)	[15.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面平行叩き 内面ヘラナデ	覆土上層	10%
339	須恵器	長頸瓶	8.4	(8.1)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部内・外面ロクロナデ	覆土上層	15% PL33
340	土師器	甕	[19.4]	(5.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D P18	紡錘車	5.3	2.6	0.8	(40.8)	粘土	ナデ 片側欠損 一方向からの穿孔 断面台形	覆土中	
D P19	紡錘車	[4.6]	1.85	0.8	(13.1)	粘土	ナデ 片側欠損 一方向からの穿孔 断面台形	覆土中	PL37

表6 奈良・平安時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模				断面	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古 新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)				
1	K 1 e0 ~ L 2 co	N・15°・W	直線状	[155.0]	1.28~2.26	0.26~0.40	40~74	U字状	自然	土師器, 須恵器, 土製品	SD7-23-25・27B, SK 175-188-189-206 本跡
9	J 1 j9 ~ K 1 b0	N・17°・W	直線状	[95.0]	1.25~1.50	0.55~0.75	30~45	弧状	自然	土師器, 須恵器	
30A	U 1 d7 ~ U 2 b7	N・74°・E	直線状	[41.7]	1.94~2.44	0.28~0.60	56~60	弧状	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 石器	S D32 本跡
30B	U 1 d7 ~ U 2 c7	N・82°・E	直線状	[41.7]	0.70~1.26	0.10~0.26	52~67	弧状	自然	土師器, 須恵器, 土製品	本跡 S D30A

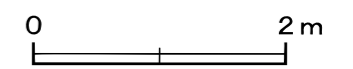
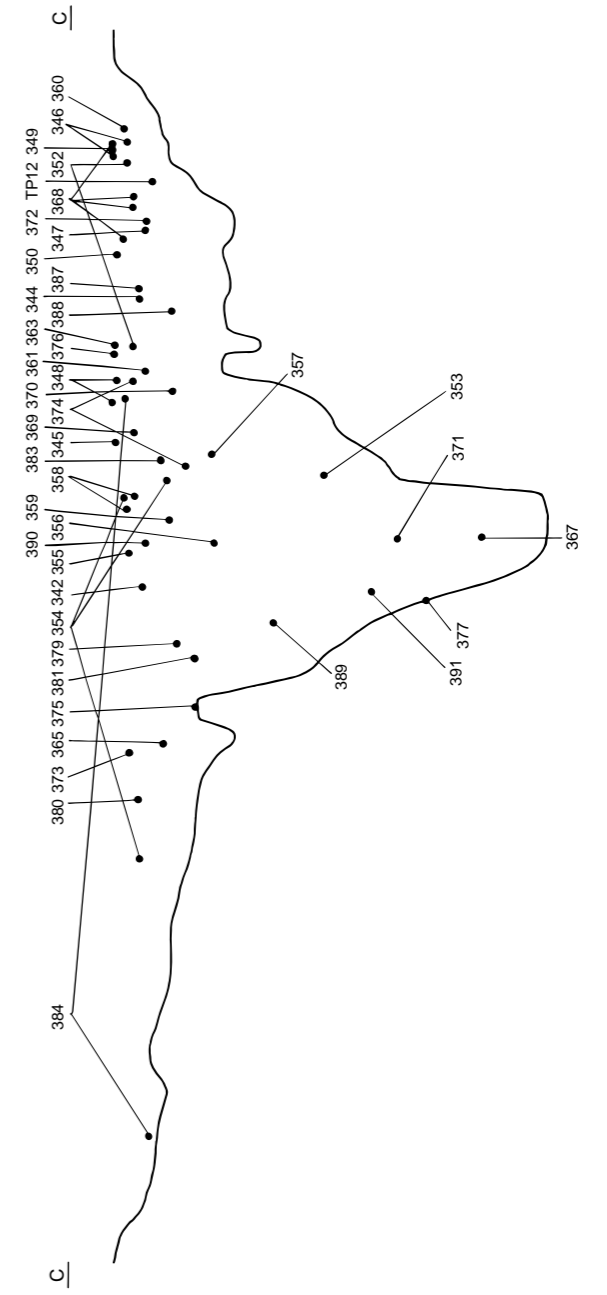
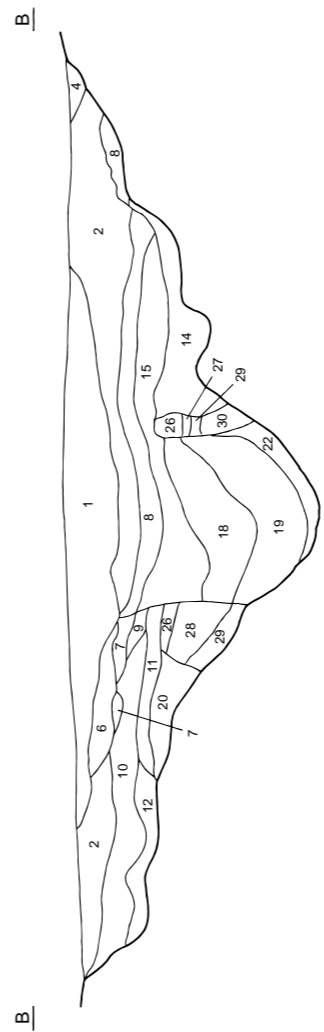
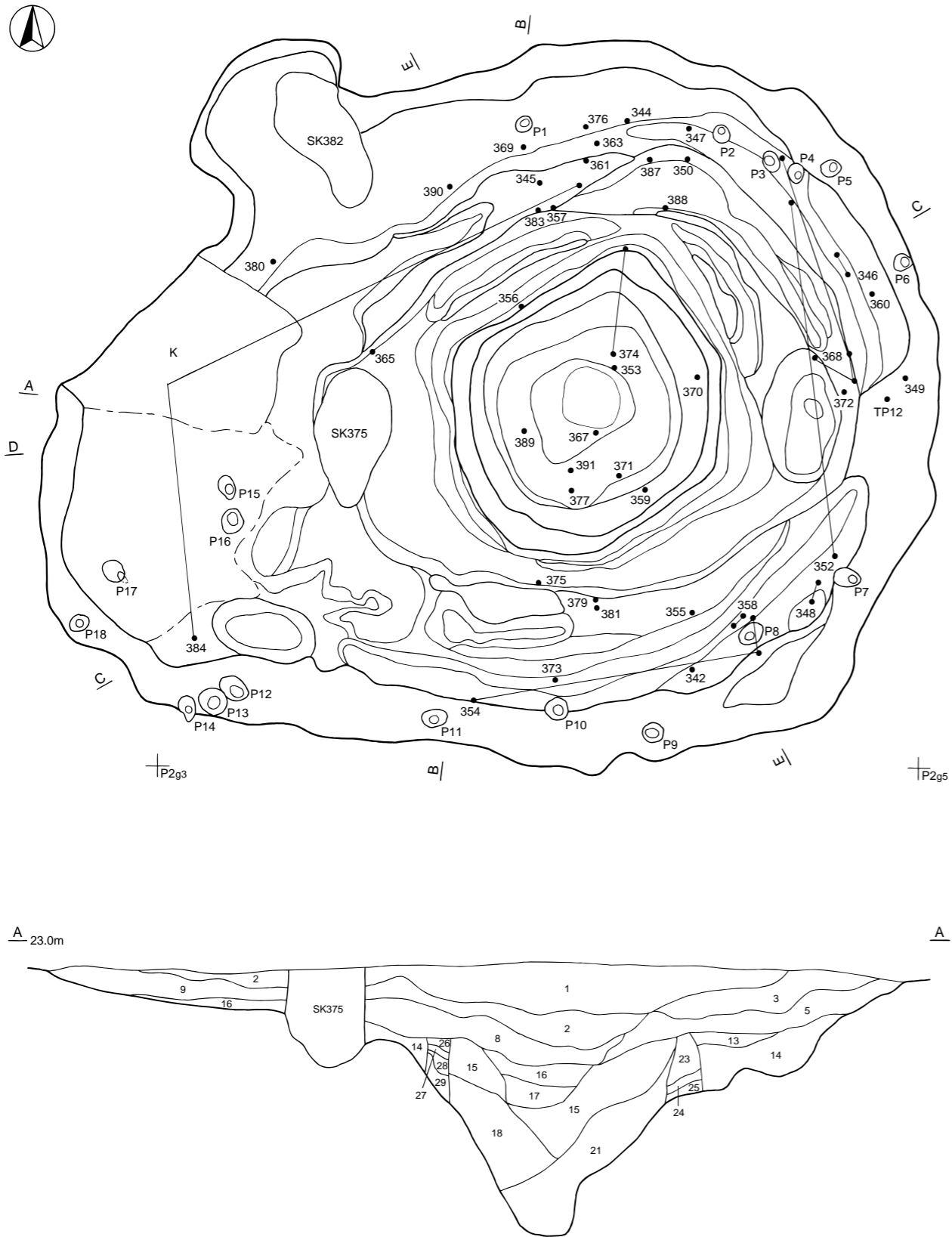
(4) 井戸跡

第14号井戸跡 (第108~111図)

位置 調査区中央部のP 2 f4区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

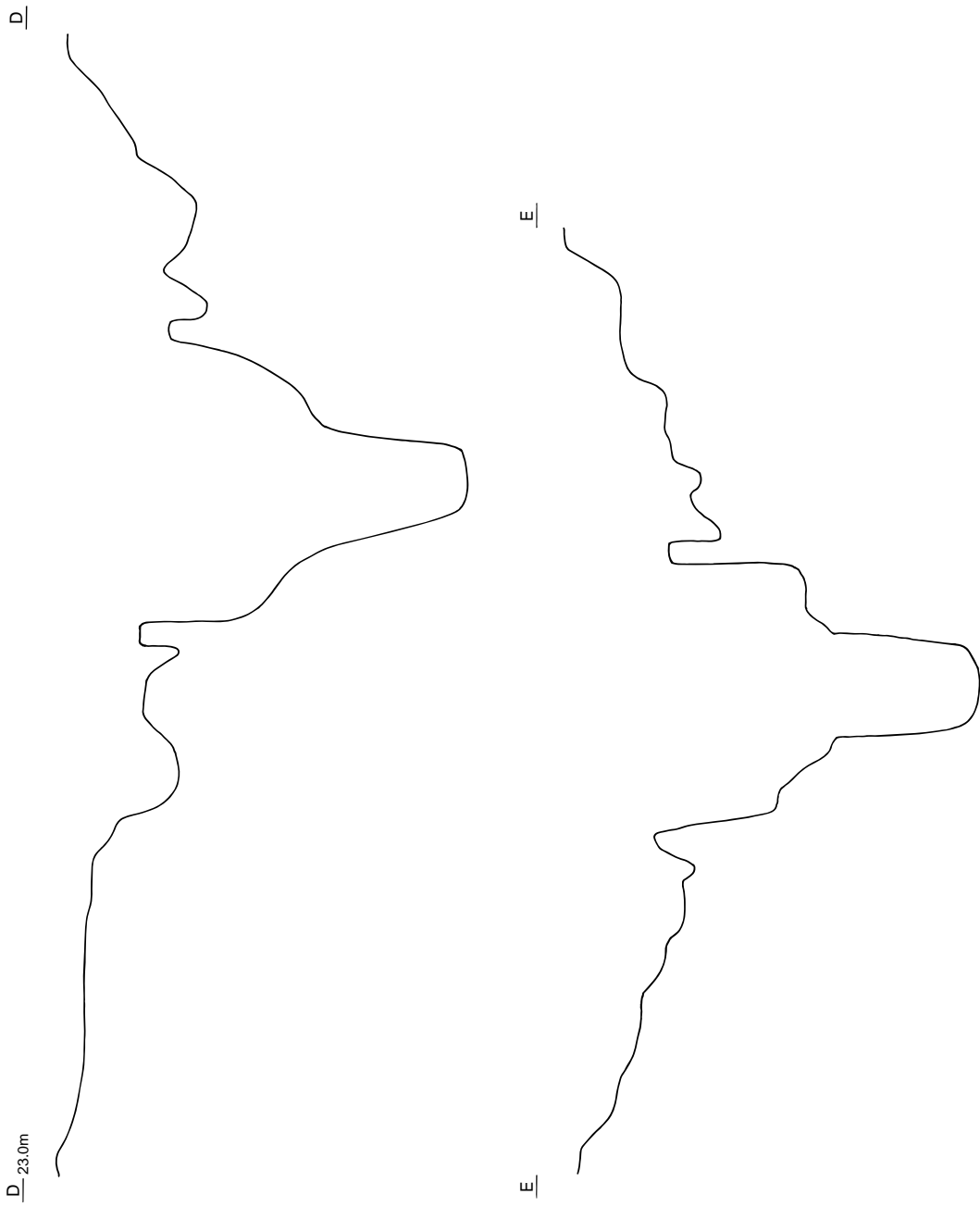
重複関係 第45号墓坑, 第305・375・382号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 当初, 大形住居跡として調査を開始したが, 西側確認面から40cmほど掘り込んだ時点で, 硬化した面が検出された。さらに, 東側を掘り込んでいくと, ロームブロックと黒褐色土で構築された土手状の盛土が検出され, この盛土の内側が深く掘り込まれていることから, 井戸と判明した。西側の硬化面や井戸周辺に



第108图 第14号井戸跡実測図(1)





第109图 第14号井戸跡実測図(2)

巡る階段状の周堤を含めて井戸跡とした。平面形は井戸部・硬化面部を含め、上部が長径9.3m、短径7.8mの楕円形で、確認面から深さ70cmで土手状の裏込めの土が確認され、井戸周辺は階段状に削り出された周堤が巡っている。また、井戸の形状は、確認面から深さ2.2mまですばまっていき、下部は一辺1mほどの方形に掘り込まれている。井戸開口部に巡った土手状の裏込め土部分は、高さ65～80cm、幅20～50cmであり、断面形は丸みのある台形状を呈している。底面は確認面から3.4mの深さで確認することができた。

**ピット** 18か所。深さは13～50cmで、P1～P14は北西部を除く井戸周辺、P15～P18は西部の硬化面より検出されている。上屋の存在が考えられるが、柱間寸法が判然としない。

**覆土** 30層に分層される。第1～8層はほぼレンズ状に堆積していることから、廃絶後、埋没する段階で自然堆積したものと考えられる。第9～22層は井戸内の土層であり、ブロック状に堆積していることから、廃絶後に、人為的に埋め戻された層と考えられる。第23～30層は、井戸開口部の裏込めに巡らされた盛土の土層である。

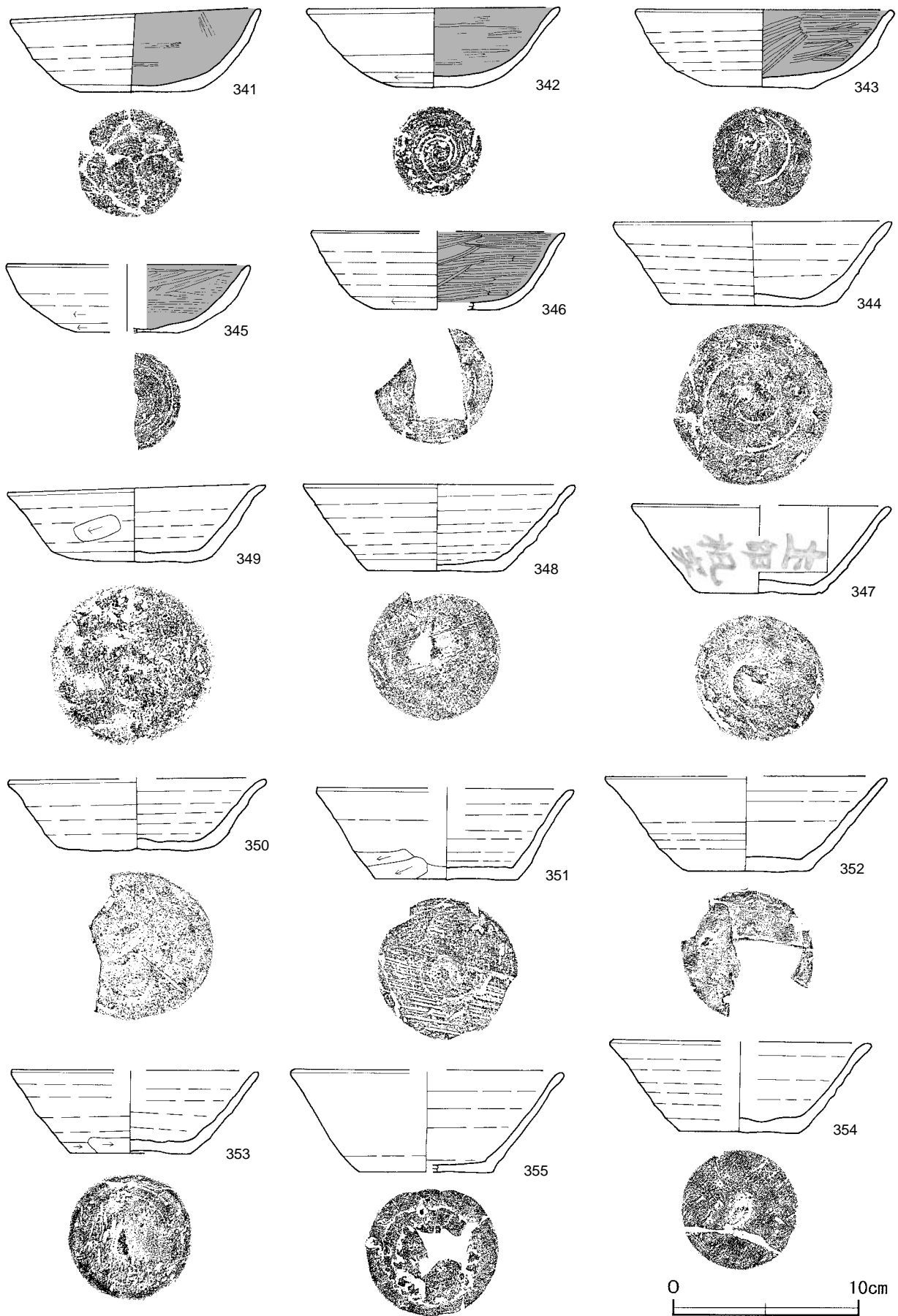
土層解説

1 黒色	ローム粒子・焼土粒子微量	16 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	17 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	18 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 黒色	ローム粒子微量	19 黒褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	20 黒褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	21 黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
7 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	22 黒褐色	ローム粒子中量、鹿沼バミスブロック微量
8 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	23 暗褐色	ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック微量
9 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	24 黒褐色	ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量
10 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	25 黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミス粒子微量
11 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	26 褐色	ローム粒子中量
12 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	27 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
13 暗褐色	ローム粒子少量	28 暗褐色	ローム粒子微量
14 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	29 暗褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
15 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	30 黒褐色	ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量

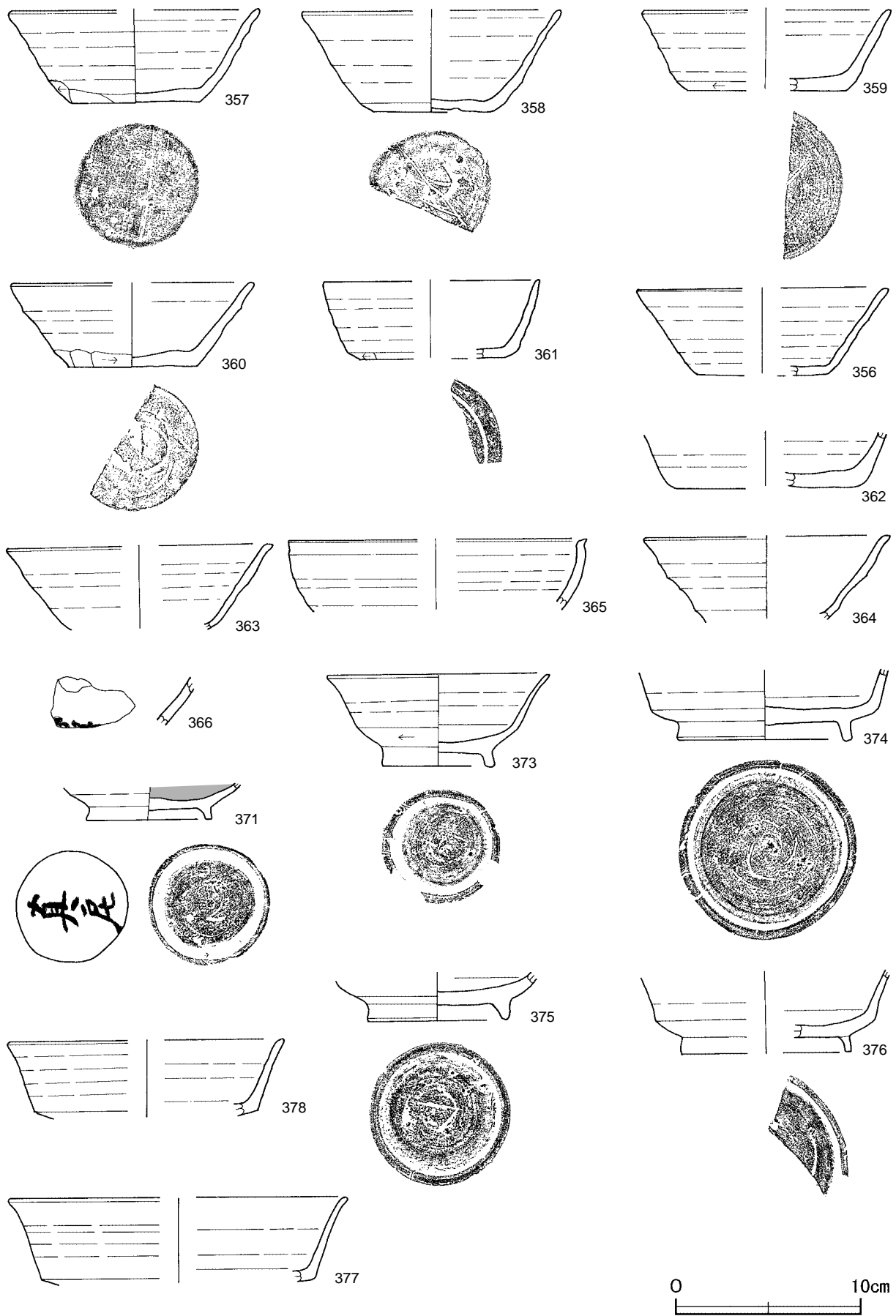
**遺物出土状況** 土師器片1290点（坏166，高台付椀16，高台付皿1，甕1107），須恵器片890点（坏641，高台付坏12，盤3，蓋12，短頸壺2，長頸瓶7，甕195，鉢17，甑1），灰釉陶器片1点（長頸瓶）が出土している。

底部などから推測される出土土器の個体数は、土師器坏12点，椀11点，高台付皿1点，須恵器坏74点，高台付坏10点，蓋5点，盤3点，短頸壺2点，長頸瓶7点，甕5点，鉢4点，灰釉陶器長頸瓶1点である。遺物の大半は西部を除く覆土上層から出土しており、井戸内からの出土量は全体からみてわずかである。井戸内からは、353・367・371・377・389・391が出土しており、371は底部外面に「真宅」、367は側面2か所に「西」とそれぞれ墨書されている。また、土師器坏・椀，須恵器坏・高台付坏などの遺物は、第1～8層にかけての覆土上層から多く出土している。347は外面に「土師楓家」、370は底部外面に「上」と墨書されている。366・372は外面に墨書されているが判読不能である。387は覆土上層から出土しており、他との接合関係は見られない。

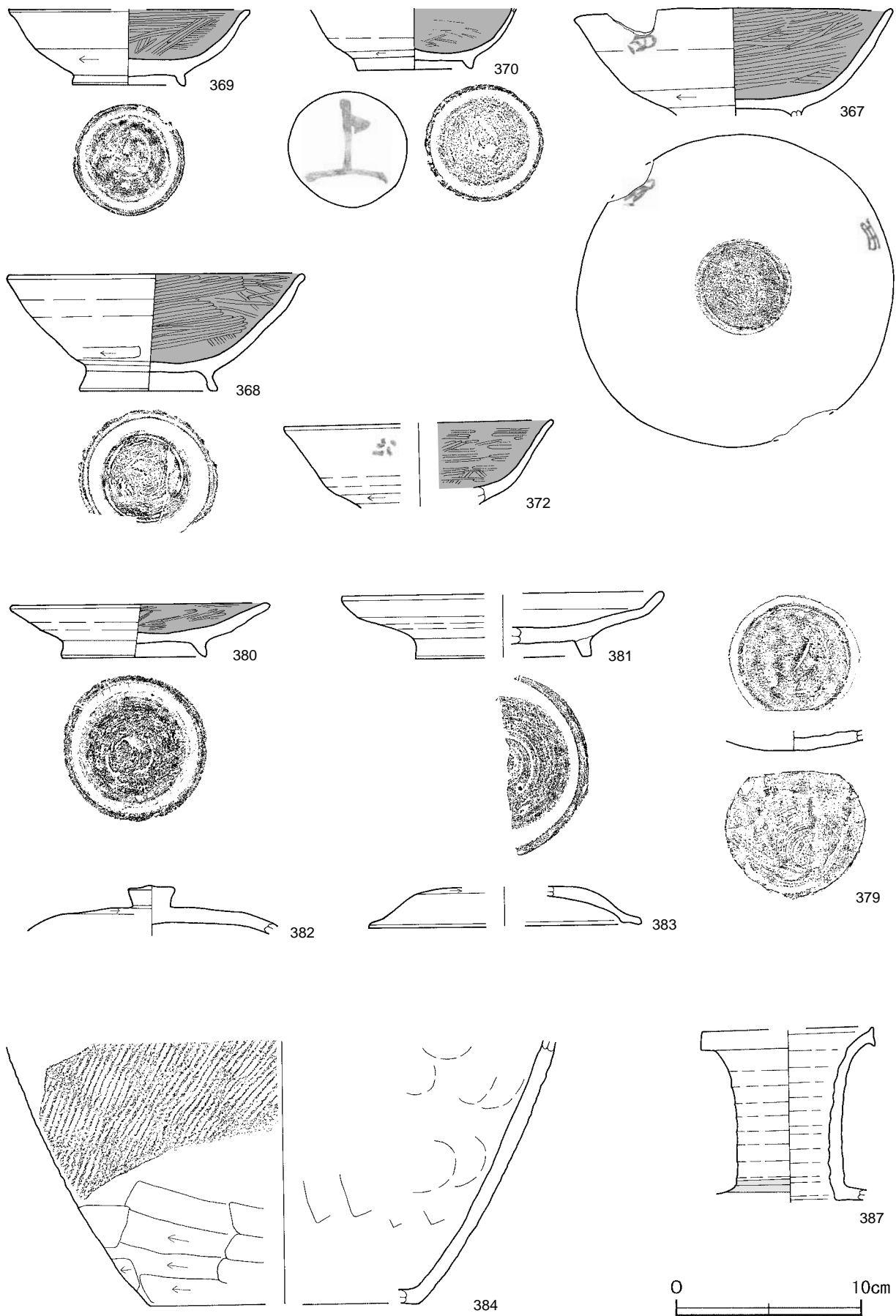
**所見** 本跡は、硬化面や階段状に削り出された周堤を含めた大形の井戸跡である。西側で確認された硬化面は、水を汲み上げる作業場と考えられる。井戸周辺に位置しているピットは、平場を含めた上屋構造が想定され、大勢の人々が活用した共同の井戸と考えられる。また、墨書土器4点の内、井戸内から「真宅」、「西」の墨書土器2点出土しているが、文字の意味や呪具がないことを考えると、井戸封じのような廃絶に伴う祭祀行為が行われた可能性は低いと考える。本跡は、井戸内と覆土上層から出土した土器にそれほど時期差がないことから、廃絶後まもなく、廃棄遺構としたと考えられる。廃絶した時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



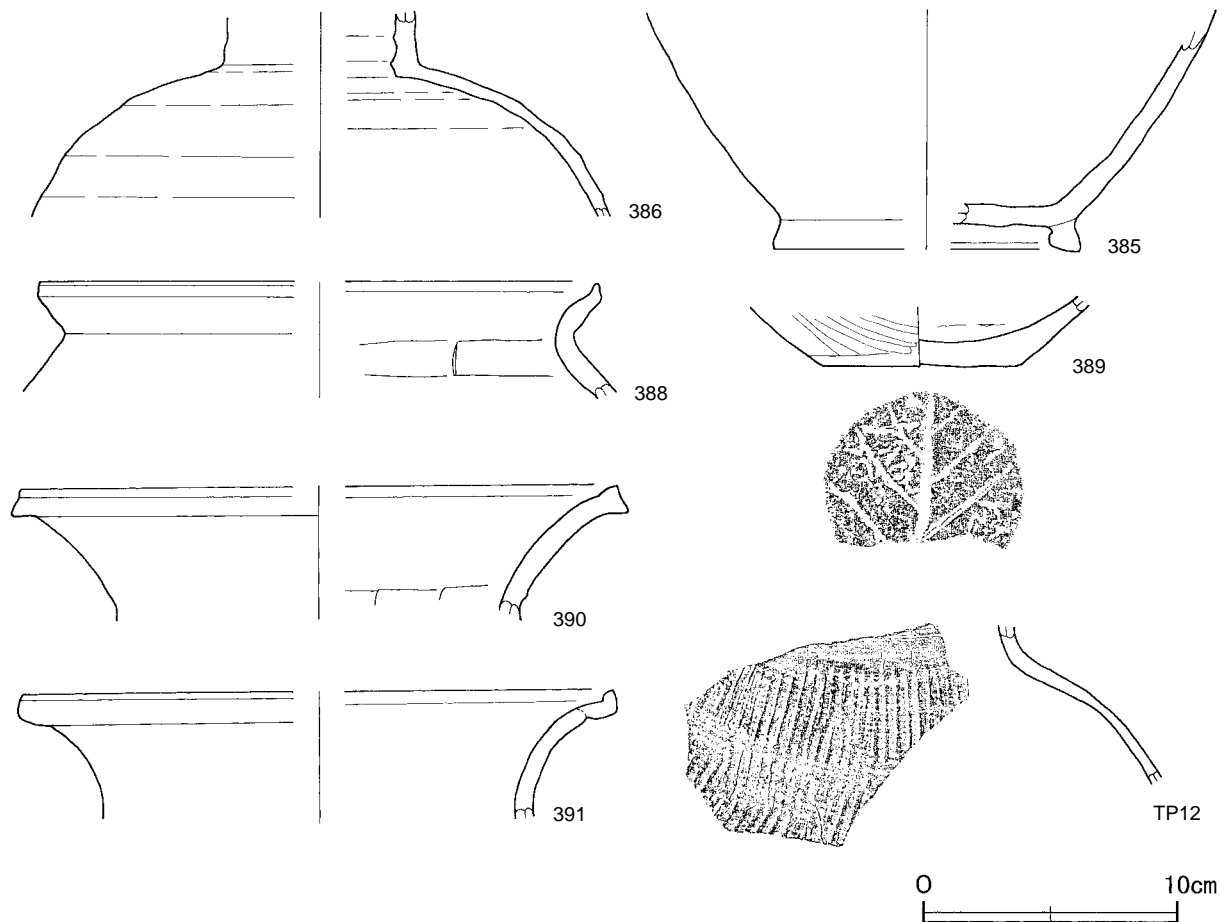
第110图 第14号井戸跡出土遺物実測图(1)



第111図 第14号井戸跡出土遺物実測図(2)



第112图 第14号井戸跡出土遺物実測図(3)



第113図 第14号井戸跡出土遺物実測図(4)

第14号井戸跡出土遺物観察表(第110~113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
341	土師器	坏	13.4	4.6	5.6	長石・雲母・礫・褐色粒子	明褐	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	95% PL23
342	土師器	坏	13.3	4.3	4.6	長石・雲母・海綿骨針	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	70% PL24
343	土師器	坏	13.8	4.2	4.5	長石・石英・雲母・白色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	90% PL24
344	須恵器	坏	14.8	4.7	8.8	長石・石英・礫	浅黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土上層	60% PL26
345	土師器	坏	[13.0]	3.7	[5.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	45%
346	土師器	坏	[13.6]	4.2	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子・海綿骨針	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	40%
347	須恵器	坏	[13.8]	4.8	7.0	長石・石英・礫	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土上層	80% 墨書「土師機家」PL27
348	須恵器	坏	14.6	4.7	7.2	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後多方向ヘラナデ	覆土上層	75% 刻書 PL26
349	須恵器	坏	13.8	4.2	8.7	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 外面にヘラ削り有り 底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土上層	60%
350	須恵器	坏	[13.9]	3.9	[8.6]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後ヘラナデ	覆土上層	40%
351	須恵器	坏	[13.8]	4.9	7.7	長石・石英・黒色粒子・礫	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後多方向の手持ちヘラ削り	覆土中	40%
352	須恵器	坏	[15.1]	5.1	6.9	長石・海綿骨針	にぶい黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後手持ちヘラ削り	覆土上層	50%
353	須恵器	坏	[13.4]	4.5	6.6	長石・雲母・礫	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後一方手持ちヘラ削り	覆土中層	40%
354	須恵器	坏	[13.8]	4.9	6.4	長石・石英・礫	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後ナデ	覆土上層	40%
355	須恵器	坏	[14.5]	5.4	7.3	長石	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後ナデ	覆土上層	60% ヘラ記号
356	須恵器	坏	[13.4]	4.7	7.0	長石・石英・海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 後ナデ	覆土中層	25%
357	須恵器	坏	[13.4]	5.0	7.0	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後一方手持ちヘラ削り	覆土上層	40%
358	須恵器	坏	[13.9]	5.4	[5.6]	長石・石英・礫	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土上層	30% ヘラ記号
359	須恵器	坏	[13.2]	4.4	[8.6]	長石・石英・礫・黒色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後回転ヘラ削り	覆土上層	40% ヘラ記号

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
360	須恵器	坏	[13.0]	4.5	7.0	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土上層	25%
361	須恵器	坏	[11.6]	4.2	[7.8]	長石	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土上層	20%
362	須恵器	坏	-	(3.0)	[9.4]	長石・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	20%
363	須恵器	坏	[14.2]	(4.5)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土上層	20%
364	須恵器	坏	[13.0]	(4.5)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	20%
365	須恵器	椀カ	[15.9]	(3.8)	-	長石	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面にわずかに自然釉	覆土上層	5% PL26
366	須恵器	坏	-	(2.6)	-	長石・雲母・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	5% 墨書「r」
367	土師器	高台付椀	17.2	(5.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	90% 墨書「上」 PL27
368	土師器	高台付椀	15.8	6.3	7.4	長石・雲母	浅黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土上層	90% PL28
369	土師器	高台付椀	[12.8]	4.1	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土上層	60%
370	土師器	高台付椀	-	(3.3)	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子・海綿骨針	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土上層	40% 墨書「真毛」 PL27
371	土師器	高台付椀	-	(1.9)	[6.7]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土下層	30% 墨書「真毛」 PL27
372	土師器	高台付椀	[14.4]	(4.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・海綿骨針	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土上層	20% 墨書「r」
373	須恵器	高台付椀	11.9	5.0	6.1	長石・石英・海綿骨針	褐灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	70% PL29
374	須恵器	高台付椀	-	(3.8)	9.3	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	40%
375	須恵器	高台付椀	-	(1.6)	7.5	長石・海綿骨針	暗灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	30% ヘラ記号
376	須恵器	高台付椀	-	(4.4)	[9.2]	長石・礫・黒色粒子	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土上層	20%
377	須恵器	高台付椀	[18.2]	(4.6)	-	長石・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土下層	15%
378	須恵器	高台付椀	[14.6]	(4.2)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	10%
379	須恵器	坏カ	-	(1.1)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	底部回転系切り後多方向手持ちヘラ削り	覆土上層	10%
380	土師器	高台付皿	14.2	2.9	7.6	長石・雲母・黒色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け 内面ヘラ磨き	覆土上層	80% PL29
381	須恵器	盤	[17.4]	3.4	[9.5]	長石・黒色粒子	灰黄	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	40%
382	須恵器	蓋	-	(2.7)	-	長石・石英・黒色粒子・海綿骨針	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%
383	須恵器	蓋	-	(2.1)	[14.6]	長石・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土上層	20%
384	須恵器	鉢	-	(14.2)	[14.6]	長石・石英・雲母・白色粒子	灰	普通	体部外面斜位の叩き 体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 指頭痕	覆土上層	20%
385	須恵器	短頸壺	-	(9.5)	[12.0]	長石・黒色粒子	灰黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中	10%
386	須恵器	長頸瓶	-	(8.1)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部自然釉	覆土上層	10%
387	灰釉陶器	長頸瓶	[9.2]	(9.3)	-	長石	黒褐	普通	頸部内・外面ロクロナデ 外面施釉	覆土上層	10% PL33
388	土師器	甗	[21.8]	(4.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土上層	5%
389	土師器	甗	-	(2.4)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中層	10%
390	須恵器	甗	[23.4]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ	覆土上層	10%
391	須恵器	甗	[23.4]	(5.2)	-	長石・雲母	灰白	普通	ロクロナデ	覆土下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	須恵器	甗	-	(6.4)	-	長石・雲母	黄灰	普通	体部外面叩き	覆土上層	20%

(5) 土坑

第24号土坑 (第114図)

**位置** 調査区中央部のL1f0区、標高23mの台地平坦部に位置している。北へ約2mに第1号不明遺構が位置している。

**規模と形状** 径0.4mの円形で、深さは15cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

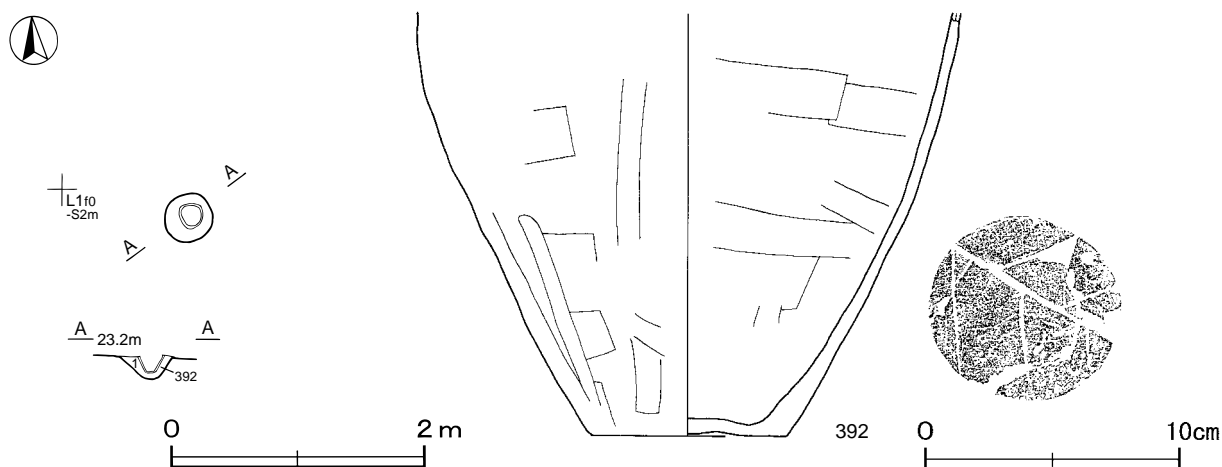
**覆土** 単一層である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器 1 点（甕）が出土している。

**所見** 配置から第 1 号不明遺構との関連も考えられるが、判然としない。時期は、出土土器から 9 世紀代と考えられる。



第 114 図 第 24 号土坑・出土遺物実測図

第 24 号土坑出土遺物観察表（第 114 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
392	土師器	甕	-	(16.7)	7.8	長石・雲母・礫	明褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層	60%

#### 4 中世・近世の遺構と遺物

中世・近世の遺構は、溝跡 7 条、井戸跡 14 基、炭焼窯跡 1 基、墓坑 71 基、土坑 2 基が確認された。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

##### (1) 溝跡

##### 第 22 号溝跡（第 115 図，付図）

**位置** 調査区中央部の N 2 f 0 ~ L 2 i 2 区，標高 23m の台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 1・25 号溝跡，第 104・140・149 号土坑を掘り込んでおり，第 123・138・139・144・148・155 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 逆 L 字状で，南北方向（N - 35° - E）に直線的に延び，南端の L 2 i 1 区で屈折して西方向（N - 40° - W）に延びている。北端が調査区域外に延びており，確認された長さは南北方向に 61.18m，東西方向に 1.90m で，上幅 0.36 ~ 1.19m，下幅 0.18 ~ 0.34m，深さ 26 ~ 28cm である。断面形は逆台形状である。

**覆土** 4 層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

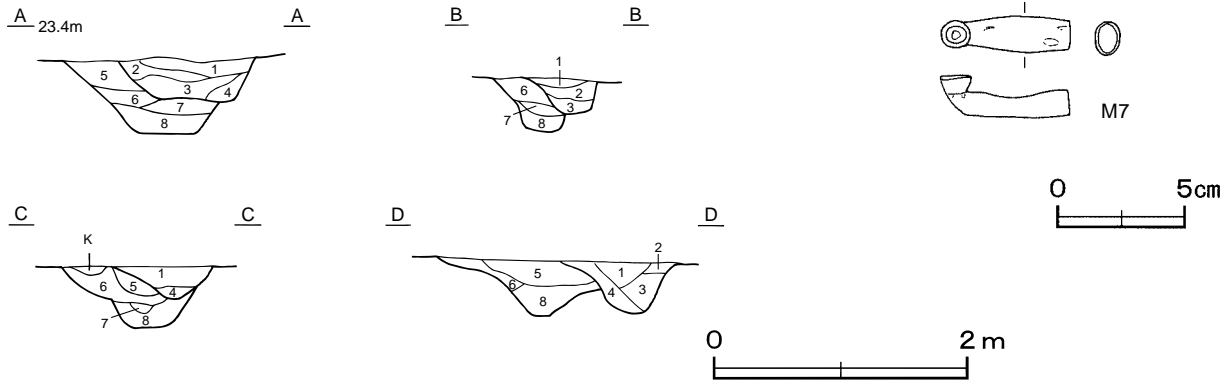
- |       |                |       |                |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子多量        | 4 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片 3 点（内耳鍋 1，焙烙鍋 2），瓦質土器片 1 点（火鉢），陶器片 3（碗類，鉢類，壺類），磁器片 2 点（碗），鉄製品 3 点（不明），銅製品 1 点（煙管）が出土している。ほかに，流れ込んだ土



師器片42点，須恵器片17点も出土している。M7は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は，出土銅製品から19世紀代と考えられる。本跡の南東部に多くの墓坑が確認されており，墓域を区画する溝であったと考えられる。



第115図 第22・25号溝跡・第22号溝跡出土遺物実測図

第22号溝跡出土遺物観察表 (第155図)

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	煙管	5.1	1.3	1.7	7.7	銅	雁首 火皿径1.1cm 銅板丸め後蝋付け 火皿部蝋付け	覆土中	PL40

第23号溝跡 (第116図，付図)

**位置** 調査区中央部のM1i9～N2h8区，標高23.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号溝跡を掘り込んでおり，第5号井戸，第158・159・163・170号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** わずかに彎曲しながら，東西方向 (N - 85° - E) に弧状に延びている。規模は，長さ34.82m，上幅0.31～0.53m，下幅0.10～0.38m，深さ16～20cmである。底面は全体に凸凹があり，断面形はU字状である。

**覆土** 2層に分層される。各土層断面で単層であり，堆積状況は不明である。

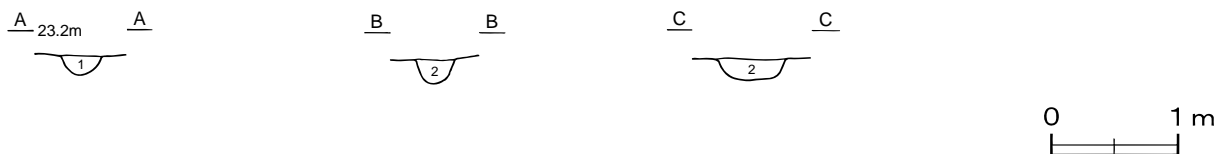
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片2点 (火鉢，不明)，陶器片2点 (碗，鉢) が出土している。ほかに，流れ込んだ土師器片16点，須恵器片5点も出土している。

**所見** 時期は，第5号井戸に掘り込まれていることと出土土器から，18世紀以前の近世と考えられる。周辺に関連性を示す遺構が確認できなかったことから，性格は不明である。



第116図 第23号溝跡実測図

**第24号溝跡** (第117図, 付図)

**位置** 調査区中央部のO 2 a0～ P 1 h6区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号溝跡を掘り込んでおり, 第20・26号溝跡と重複しているが新旧関係は不明である。

**規模と形状** 南北方向 (N - 39° - E) に直線的に延びている。南端と北端が調査区域外に延びており, 確認できた長さは87.74mで, 上幅0.62～1.22m, 下幅0.18～0.62m, 深さ42cmである。断面形は逆台形状である。

**覆土** 4層に分層される。各層にロームブロック・粒子を含む不均質な堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

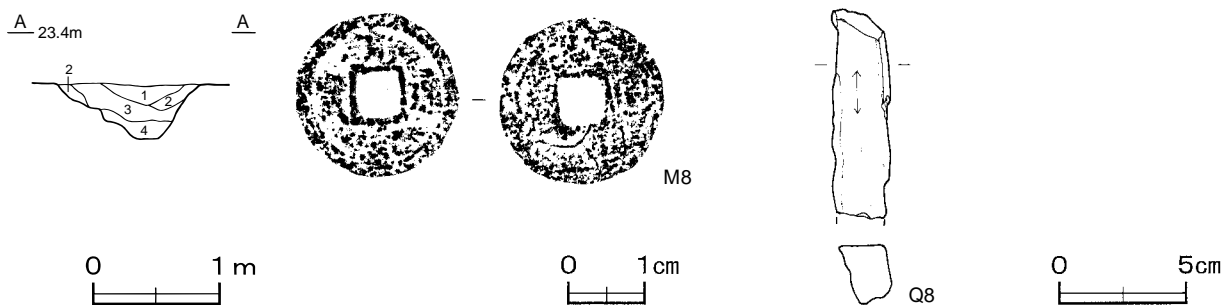
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量

- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 黄褐色 ローム粒子多量

**遺物出土状況** 陶器片2点 (鉢), 石器1点 (砥石), 古銭1点 (寛永通寶), 鉄製品2点 (不明) が出土している。ほかに, 流れ込んだ土師器片11点, 須恵器片17点, 土製品1点も出土している。M 8は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 出土した古銭から, 18世紀代と考えられる。南東部に多くの墓坑が確認されており, 墓域を区画する溝であったと考えられる。



第117図 第24号溝跡・出土遺物実測図

**第24号溝跡出土遺物観察表** (第117図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	砥石	(8.4)	(2.5)	(2.8)	(67.2)	流紋岩	砥面1面	覆土中	PL39
M 8	古銭	2.25	-	0.11	2.00	銅	孔径0.60cm 寛永通寶 背足 初鑄年1741年	覆土中	PL40

**第25号溝跡** (第115図, 付図)

**位置** 調査区中央部のN 2 f0～ O 2 f4区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号溝跡を掘り込んでおり, 第22号溝, 第144号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** O 2 f4区から北東方向 (N - 31° - E) に直線的に延びている。北端が調査区域外に延び, 東壁と南端が第22号溝に掘り込まれていることから, 確認できた長さは44.75m, 上幅は0.62～1.36m, 下幅0.18～0.34m, 深さ42～58cmである。底面は平坦で北方向に傾斜しており, 壁の下半は外傾し, 上半は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
6 黒褐色 ローム粒子微量

7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
8 明黄褐色 ロームブロック多量

**所見** 時期は、第22号溝に掘り込まれていることから、19世紀以前の近世と考えられる。南東部に多くの墓坑が確認されており、墓域を区画する溝であったと考えられる。

### 第26号溝跡 (第118図, 付図)

**位置** 調査区中央部のO2c6～O2d8区、標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第148号土坑に掘り込まれており、第24号溝跡と重複しているが新旧関係は不明である。

**規模と形状** 東西方向 (N - 56° - W) に直線的に延びている。東端が第24号溝跡と直交しており、西端は第148号土坑に掘り込まれているものの、第25号溝跡と直交して、H字状の配置になっているとみられる。確認できた長さは5.54mで、上幅0.32～0.47m、下幅0.12～0.21m、深さ18cmであり、断面形はU字状である。

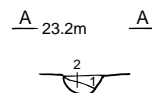
**覆土** 2層に分層される。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

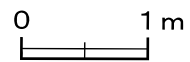
1 暗褐色 ローム粒子微量

2 にびい黄褐色 ローム粒子多量

**遺物出土状況** 流れ込んだと考えられる土師器片3点、須恵器片1点が出土している。



**所見** 配置から第24・25号溝跡と関連すると考えられ、時期は近世末と考えられる。



第118図 第26号溝跡実測図

### 第27A号溝跡 (第119図, 付図)

**位置** 調査区中央部のM1h7～M1h0区、標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第27号B溝、第4・18号井戸、第13号墓坑、第173・228・230号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** わずかに彎曲しながら、東西方向 (N - 86° - W) へ弧状に延びている。西端は調査区域外に延び、東端は第27B号溝に掘り込まれ、長さ11.3m、上幅0.32～1.14m、0.05～0.32mだけが確認されている。深さは20～23cmで、断面形はU字状である。

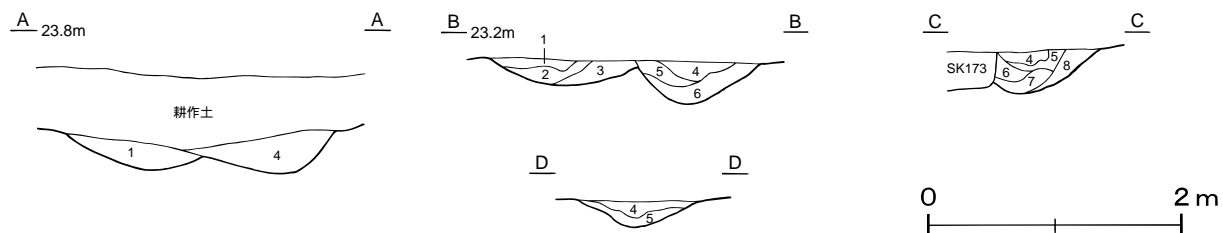
**覆土** 3層に分層される。層厚が薄いために、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量



第119図 第27A・27B号溝跡実測図

**所見** 時期は、第27B号溝に掘り込まれていることから、17世紀以前の近世と考えられる。周辺に関連性を示す遺構が確認できなかったことから、性格は不明である。

### 第27B号溝跡 (第119図, 付図)

**位置** 調査区中央部のM1h7～M2g7区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1・27A号溝跡, 第3・12号井戸跡を掘り込んでおり, 第4・6～8・11・13・15・16・18号井戸, 第161・162・169・173・174・187・189・196・197・230・233・380号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** M2g7区から西方向(N-93°-W)方向へ直線的に延びている。西端は調査区域外に延び, 東端が第196号土坑と第11号井戸に掘り込まれ, 確認された長さは40.72mで, 上幅0.62～1.18m, 下幅0.21～0.78m, 深さは23～38cmである。底面は西方向に緩やかに傾斜しており, 断面形はU字状である。

**覆土** 5層に分層される。各層にロームブロック・粒子を含む不均質な堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                   |       |           |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 4 黒色  | ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量   | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量           |       |           |

**所見** 時期は、第6号井戸に掘り込まれていることから、17世紀後半以前の近世と考えられる。周辺に関連性を示す遺構が確認できなかったことから、性格は不明である。

表7 近世溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
22	N2f0～L2i2	N・35°E	L字状	[63.08]	0.36～1.19	0.18～0.34	26～28	逆台形状	人為	土師質土器, 銅製品(煙管)	19世紀代	SD1・25, SK104・140・149 本跡 SK123・138・139・144・148・155
23	M1i9～N2h8	N・85°E	弧状	34.82	0.31～0.53	0.10～0.38	16～20	U字状	不明	土師質土器, 陶器	18世紀以前	SD1 本跡 SE5, SK158・159・163・170
24	O2a0～P1h6	N・39°E	直線状	[87.74]	0.62～1.22	0.18～0.62	42	逆台形状	人為	陶器, 石器(砥石), 古銭	18世紀代	SD1 本跡
25	N2f0～O2f4	N・31°E	直線状	[44.75]	0.62～1.36	0.18～0.34	42～58	逆台形状	人為	-	19世紀以前	SD1 本跡 SD22, SK144
26	O2c6～O2d8	N・56°W	直線状	[5.54]	0.32～0.47	0.12～0.21	18	U字状	不明	-	近世末	本跡 SK148
27A	M1h7～M1h0	N・86°W	弧状	[11.3]	[0.32～1.14]	[0.05～0.32]	20～23	U字状	自然	-	17世紀以前	本跡 SD27B, SE4・18, ST13, SK173・228・230
27B	M1h7～M2g7	N・93°W	直線状	[40.72]	0.62～1.18	0.21～0.78	23～38	U字状	人為	-	17世紀後半以前	SD1・27A, SE3・12 本跡 SE4・6～8・11・13・15・16・18, ST13, SK161・162・173・174・187・189・196・197・230・233

## (2) 井戸跡

### 第3号井戸跡 (第120図)

**位置** 調査区中央部のM2h1区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第27B号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 径1.72mの円形である。上部は確認面から深さ50～62cmまで漏斗状に掘り込み, 下部は円筒状に掘り込んでいる。125cmまで掘り下げたが, 下部は湧水のために確認できなかった。

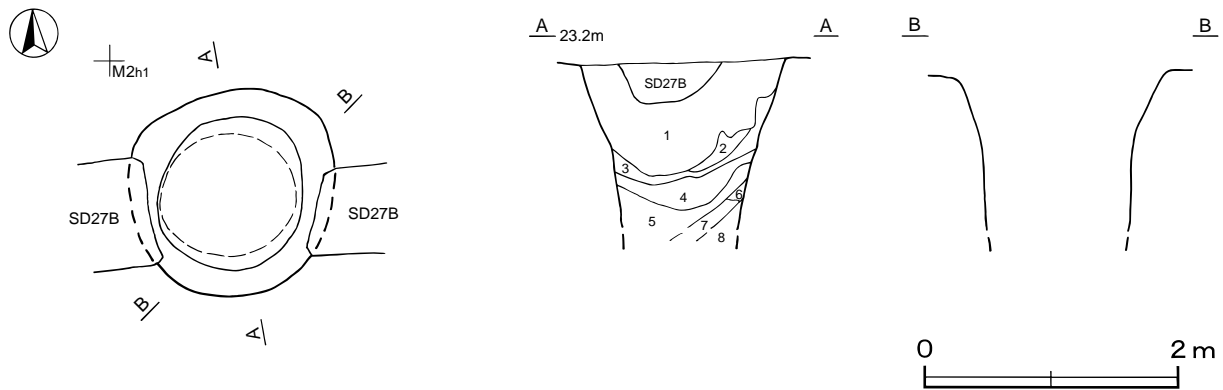
**覆土** 8層に分層される。各層にロームブロック・粒子を含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                       |       |           |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黄褐色 | ローム粒子中量   |
| 2 褐色  | ローム粒子中量               | 6 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 褐色  | ローム粒子多量               | 7 褐色  | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 8 黄褐色 | ロームブロック多量 |

**遺物出土状況** 流れ込んだ縄文土器片1点，土師器片6点，須恵器片1点が出土している。

**所見** 時期は，上部を漏斗状に掘り込む構造から，中世から近世と考えられる。



第120図 第3号井戸跡実測図

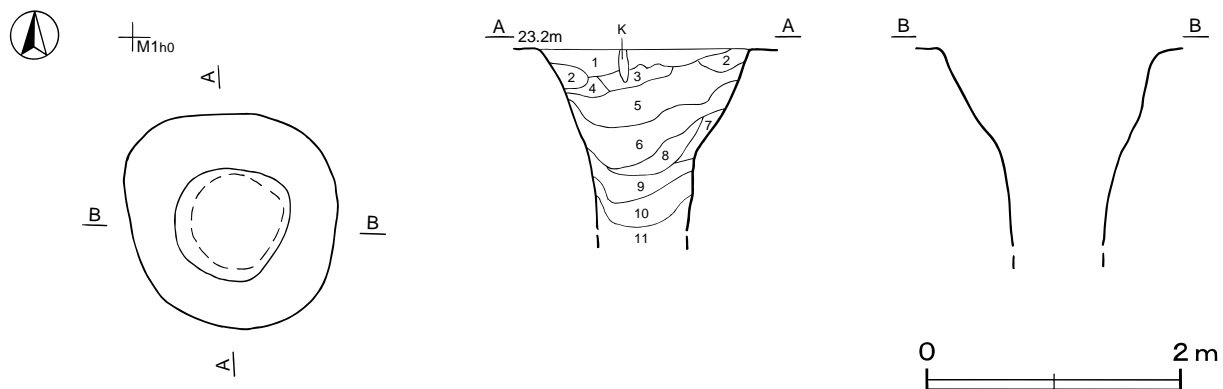
**第4号井戸跡 (第121図)**

**位置** 調査区中央部のM1h0区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第27A・27B号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径1.84mの円形である。上部は確認面から深さ74～88cmまで漏斗状に掘り込んでおり，下部は円筒状に掘り込んでいる。119cmまで掘り下げたが，下部は湧水のために確認できなかった。

**覆土** 11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。



第121図 第4号井戸跡実測図

土層解説

- |        |                    |        |         |
|--------|--------------------|--------|---------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量     | 7 暗褐色  | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子少量 | 8 暗褐色  | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色  | ローム粒子多量, 鹿沼パミス粒子中量 | 9 褐色   | ローム粒子微量 |
| 4 黄褐色  | ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子微量 | 10 黄褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗黄褐色 | ロームブロック多量          | 11 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 暗褐色  | ローム粒子・鹿沼パミス粒子中量    |        |         |

所見 時期は, 上部を漏斗状に掘り込む構造から, 中世から近世と考えられる。

第5号井戸跡 (第122図)

位置 調査区中央部のM2h3区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.65m, 短径2.12mの楕円形で, 長径方向はN - 55° - Wである。上部は確認面から深さ40 ~ 52cmまで漏斗状に掘り込んでおり, 下部は円筒状に掘り込んでいる。119cmまで掘り下げたが, 下部は湧水のため確認できなかった。

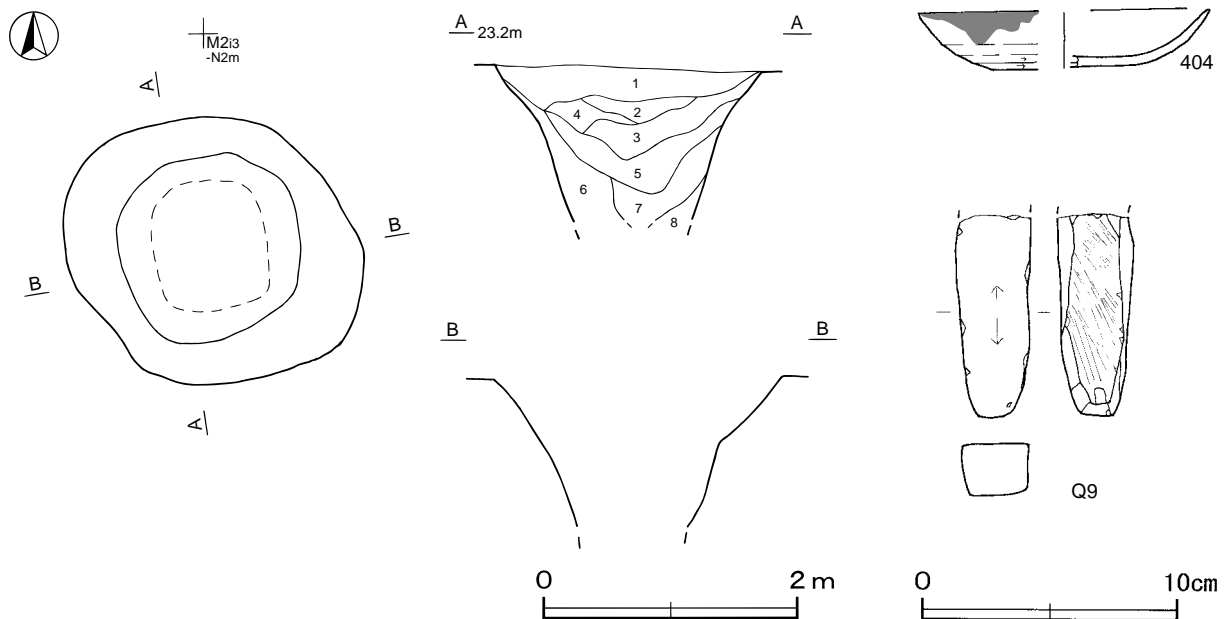
覆土 8層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                    |       |                      |
|-------|--------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量, 炭化粒子極微量 | 5 褐色  | ロームブロック中量, 白色シルト微量   |
| 2 黒褐色 | 炭化物少量, ロームブロック微量   | 6 褐色  | ロームブロック多量, 白色シルト微量   |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量, 炭化粒子極微量 | 7 褐色  | ロームブロック多量            |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量          | 8 暗褐色 | ロームブロック多量 (ハードローム含む) |

遺物出土状況 陶器片1点 (灯明皿), 石器1点 (砥石) が出土している。ほかに, 流れ込んだ土師器片1点, 須恵器片3点も出土している。

所見 時期は, 出土土器から18世紀後半から19世紀前半と考えられる。



第122図 第5号井戸跡・出土遺物実測図

第5号井戸跡出土遺物観察表 (第122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
404	陶器	灯明皿	[11.4]	2.1	[5.6]	緻密 錆釉	暗赤褐	良好	口クロ整形 体部外面下半～底部回転ヘラ削り	覆土中	10% 瀬戸・美濃系

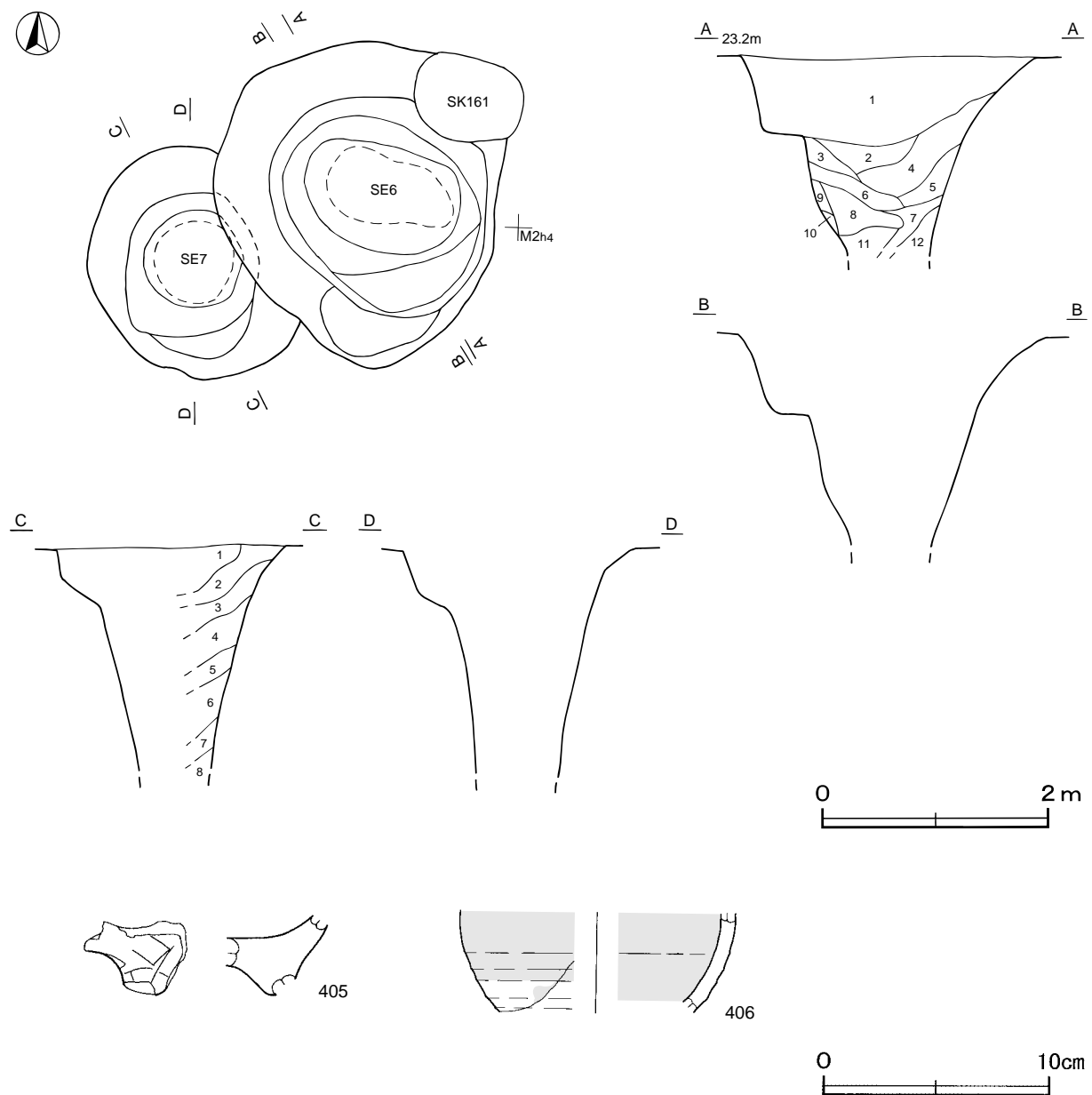
  

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	砥石	(7.9)	3.0	2.0	(73.8)	流紋岩	砥面2面 背面条線状の研磨痕	覆土中	PL39

第6号井戸跡 (第122, 123図)

位置 調査区中央部のM2g3区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第27B号溝跡, 第7号井戸跡を掘り込んでおり, 第161号土坑に掘り込まれている。



第123図 第6・7号井戸跡・第6号井戸跡出土遺物実測図

**規模と形状** 長径2.89m，短径2.59mの不整楕円形で，長径方向はN - 10° - Wである。上部は確認面から70cmまで漏斗状に掘り込んでおり，南部には幅40cmほどの平坦面を有している。下部は円筒状に掘り込んでおり，189cmまで掘り下げたが，下部は湧水のために確認できなかった。

**覆土** 12層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒色	ロームブロック・炭化物微量	7	褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ロームブロック多量，炭化粒子・鹿沼バミス粒子 極微量	8	暗褐色	ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子微量
3	褐色	ロームブロック多量	9	暗褐色	ロームブロック多量
4	褐色	ロームブロック微量	10	黒褐色	ロームブロック中量
5	褐色	ロームブロック中量	11	暗褐色	ロームブロック少量，鹿沼バミス粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子・鹿沼バミス粒子 極微量	12	明褐色	ロームブロック多量，鹿沼バミス粒子多量

**遺物出土状況** 土師質土器片2点（香炉，火鉢），陶器片1点（天目茶碗）が出土している。ほかに，流れ込んだ土師器片1点も出土している。

**所見** 時期は，出土土器から17世紀後半から18世紀前半と考えられる。

第6号井戸跡出土遺物観察表（第123図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
405	土師質土器	香炉	-	(3.4)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	脚部貼り付け 体部外面ヘラ削り	覆土中	5%
406	陶器	天目茶碗	-	(4.4)	-	緻密 鉄釉	明黄褐・黒褐	良好	ロクロ整形	覆土中	10%

第7号井戸跡（第123図）

**位置** 調査区中央部のM2h3区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第27B号溝跡を掘り込んでおり，第6号井戸に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径は2.12mで，短径は1.37mだけ確認されており，楕円形と推測される。長径方向はN - 32° - Wである。上部は確認面から深さ50～58cmまで漏斗状に掘り込んでおり，下部は円筒状に掘り込んでいる。201cmまで掘り下げたが，下部は湧水のために確認できなかった。

**覆土** 8層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量，鹿沼バミス微量	5	黒色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック微量	6	黒褐色	ロームブロック少量，鹿沼バミス微量
3	黒色	ロームブロック少量	7	黒褐色	鹿沼バミス微量
4	黒褐色	ロームブロック少量	8	黒褐色	鹿沼バミス中量

**遺物出土状況** 流れ込んだ土師器片2点，須恵器片1点が出土している。

**所見** 時期は，第6号井戸に掘り込まれていることから，18世紀前半以降の近世と考えられる。

第8号井戸跡（第124図）

**位置** 調査区中央部のM2g4区，標23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第27B号溝跡を掘り込んでおり，第162・168号土坑に掘り込まれている。



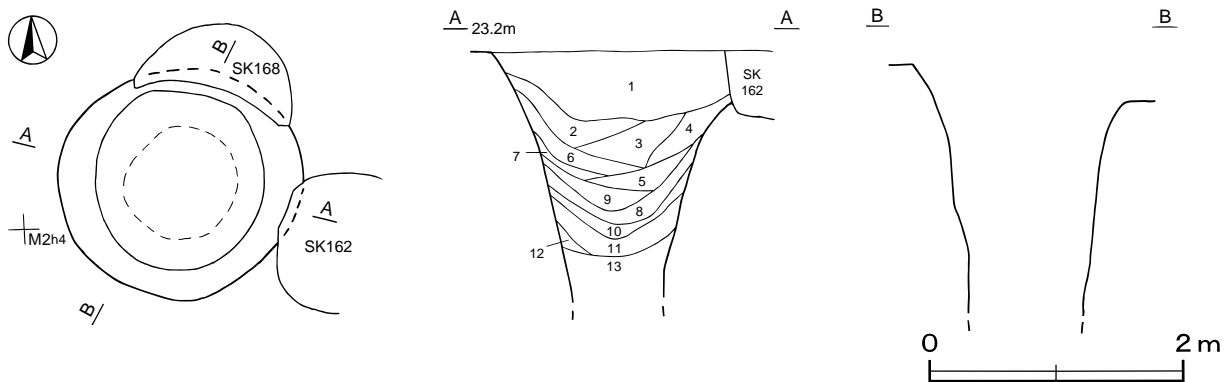
**規模と形状** 径1.85mの円形である。上部は確認面から深さ60～68cmまで漏斗状に掘り込んでおり、下部は円筒状に掘り込んでいる。1.98mまで掘り下げたが、下部は湧水のために確認できなかった。

**覆土** 13層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック微量，炭化粒子・鹿沼バミス粒子極微量	7 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック少量	8 明褐色	ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ロームブロック中量	10 暗褐色	ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック微量	11 明褐色	ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック中量	12 褐色	ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子少量
		13 褐色	ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子微量

**所見** 時期は、上部を漏斗状に掘り込む構造から、中世から近世と考えられる。



第124図 第8号井戸跡実測図

**第9号井戸跡 (第125図)**

**位置** 調査区中央部のM2g5区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第187号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径2.19mの円形である。上部は確認面から110cmまで漏斗状に掘り込んでおり、下部は円筒状に掘り込んでいる。203cmまで掘り下げたが、下部は湧水のために確認できなかった。

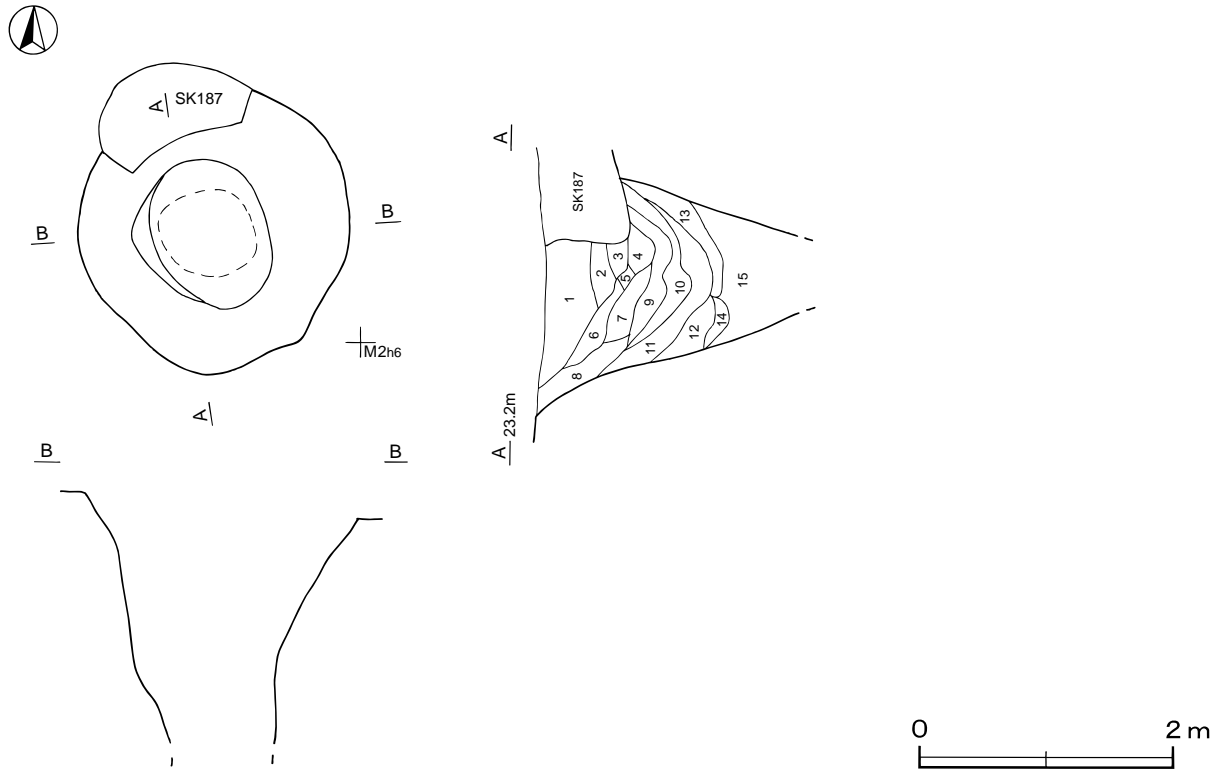
**覆土** 15層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黒色	炭化物・ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	10 黒色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	11 黒色	ローム粒子多量
4 黒褐色	ローム粒子中量	12 黒色	ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量
5 黒褐色	ローム粒子微量	13 黒色	ロームブロック微量
6 黒褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子中量，鹿沼バミス粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	15 黒色	ローム粒子微量
8 黒色	ローム粒子多量，炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師質土器片1点 (摺鉢) が出土している。

**所見** 時期は、上部を漏斗状に掘り込む構造から、中世から近世と考えられる。



第125図 第9号井戸跡実測図

**第10号井戸跡 (第126図)**

**位置** 調査区中央部のM 2 g 8区，標高23mの台地平坦部に位置している。

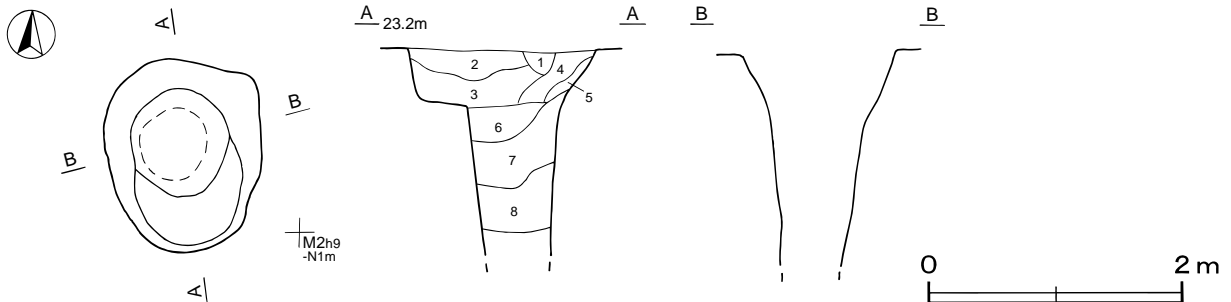
**規模と形状** 長径1.54m，短径1.26mの楕円形で，長径方向はN - 21° - Wである。上部は確認面から42～60cmまで漏斗状に掘り込んでおり，南部に幅40cmほどの平坦部を有している。下部は円筒状に掘り込んでおり，168cmまで掘り下げたが，下部は湧水のために確認できなかった。

**覆土** 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量        | 5 黒褐色 ローム粒子少量           |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 黒色 ローム粒子少量            |
| 3 黒色 ローム粒子微量         | 7 黒褐色 ローム粒子少量           |
| 4 黒褐色 ローム粒子微量        | 8 暗褐色 ローム粒子少量，鹿沼バミス粒子微量 |

**所見** 時期は，上部を漏斗状に掘り込む構造から，中世から近世と考えられる。



第126図 第10号井戸跡実測図

**第11号井戸跡 (第127図)**

**位置** 調査区中央部のM 2 g 7区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第21・22号墓坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径1.98mの円形である。上部は確認面から36～72cmまで漏斗状に掘り込んでおり，下部は円筒状に掘り込んでいる。168cmまで掘り下げたが，下部は湧水のために確認できなかった。

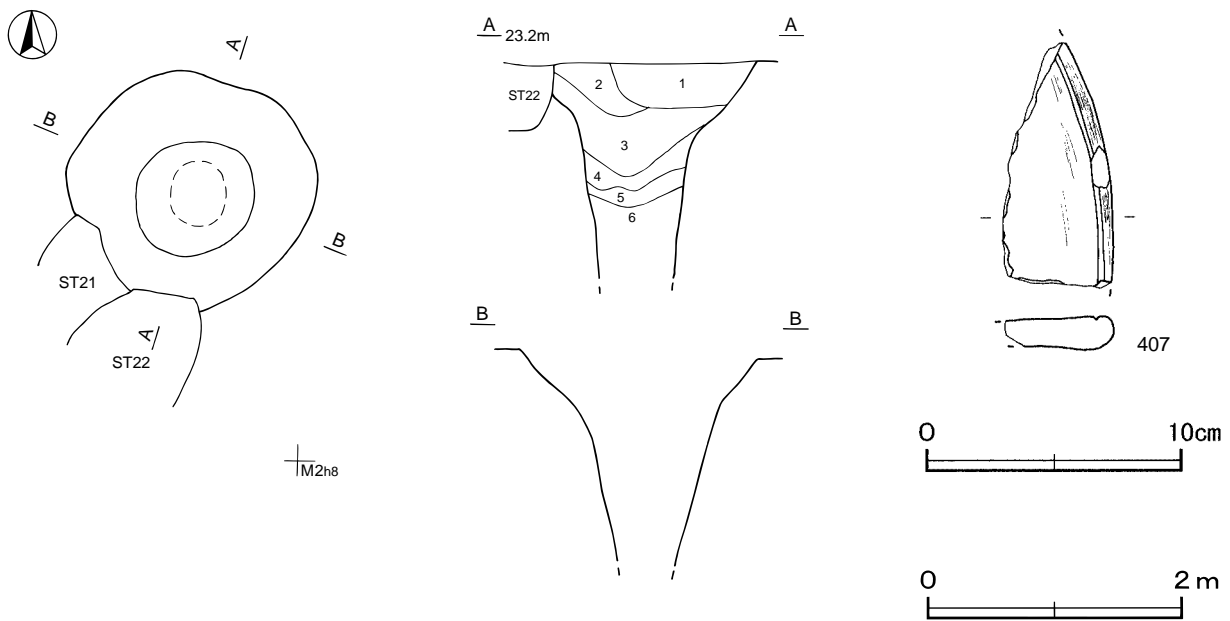
**覆土** 6層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

**土層解説**

- |       |                       |       |                     |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量             | 4 明褐色 | ロームブロック多量           |
| 2 明褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス粒子多量     | 5 褐色  | ロームブロック中量           |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，鹿沼パミスブロック微量 | 6 褐色  | ロームブロック多量，鹿沼パミス粒子少量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片2点（火鉢，羽釜カ）が出土している。ほかに，流れ込んだ須恵器片1点も出土している。

**所見** 時期は，上部を漏斗状に掘り込む構造から，中世から近世と考えられる。



第127図 第11号井戸跡・出土遺物実測図

**第11号井戸跡出土遺物観察表 (第127図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
407	土師質土器	羽釜カ	-	(1.3)	-	長石・雲母	明赤褐	普通	鐳部端部上面沈線1条 上面ミガキ 下面ナデ	覆土中	5%

**第12号井戸跡 (第128図)**

**位置** 調査区中央部のM 1 h 7区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第27A・27B号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部が調査区域外に延びており、径1.57mの円形もしくは楕円形と推測される。上部は確認面から90cmまで漏斗状に掘り込んでおり、下部は円筒状に掘り込んでいる。158cmまで掘り下げたが、下部は湧水のために確認できなかった。

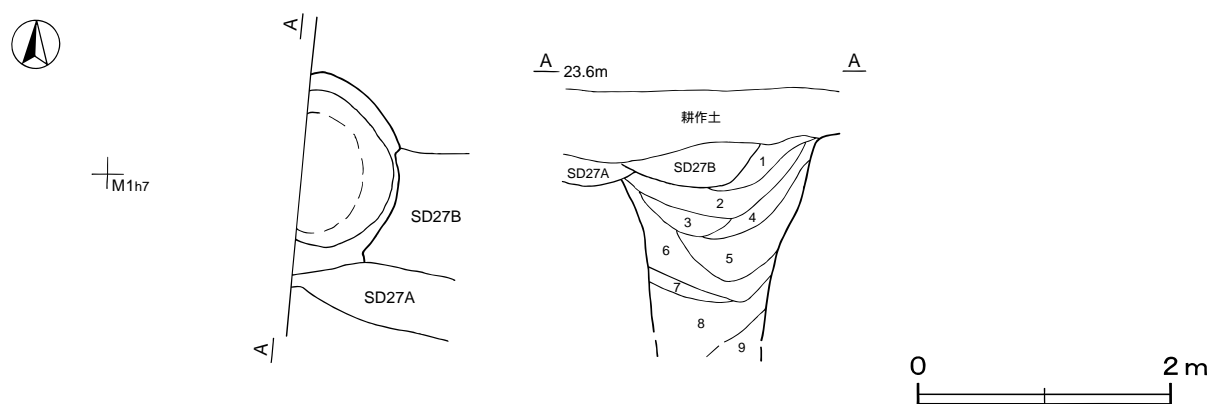
**覆土** 9層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |              |       |                   |
|-------|--------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量      | 6 黒褐色 | ロームブロック少量         |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒色  | ローム粒子少量           |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量      | 8 黒色  | ロームブロック・鹿沼バミス粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量      | 9 黒色  | ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量   |
| 5 黒褐色 | ロームブロック微量    |       |                   |

**遺物出土状況** 流れ込んだ土師器片 8 点，須恵器片 2 点が出土している。

**所見** 時期は，上部を漏斗状に掘り込む構造から，中世から近世と考えられる。



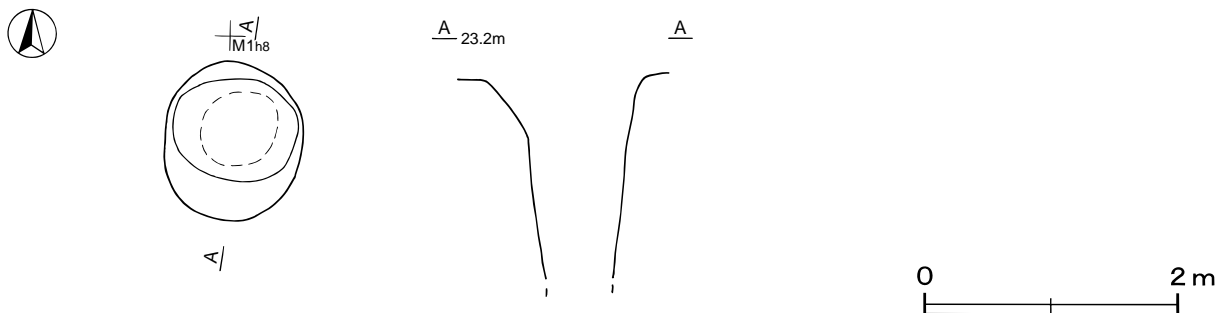
第128図 第12号井戸跡実測図

**第13号井戸跡** (第129図)

**位置** 調査区中央部のM1h8区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第27A・27B号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.23m，短径1.08mの楕円形で，長径方向はN-35°-Eである。上部は確認面から60cmまで漏斗状に掘り込んでおり，下部は円筒状に掘り込んでいる。165cmまで掘り下げたが，下部は湧水のために確認できなかった。



第129図 第13号井戸跡実測図

**遺物出土状況** 陶器片1点(甕), 鉄滓1点が出土している。ほかに, 流れ込んだ土師器片3点, 須恵器片1点も出土している。

**所見** 時期は, 上部を漏斗状に掘り込む構造から, 中世から近世と考えられる。

### 第16号井戸跡 (第130図)

**位置** 調査区中央部のM2h2区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第302・380号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径は1.78mで, 短径が1.48mの楕円形と推測され, 長径方向はN-46°-Wである。上部は確認面から115cmまで漏斗状に掘り込んでおり, 下部は円筒状に掘り込んでいる。186cmまで掘り下げたが, 下部は湧水のために確認できなかった。

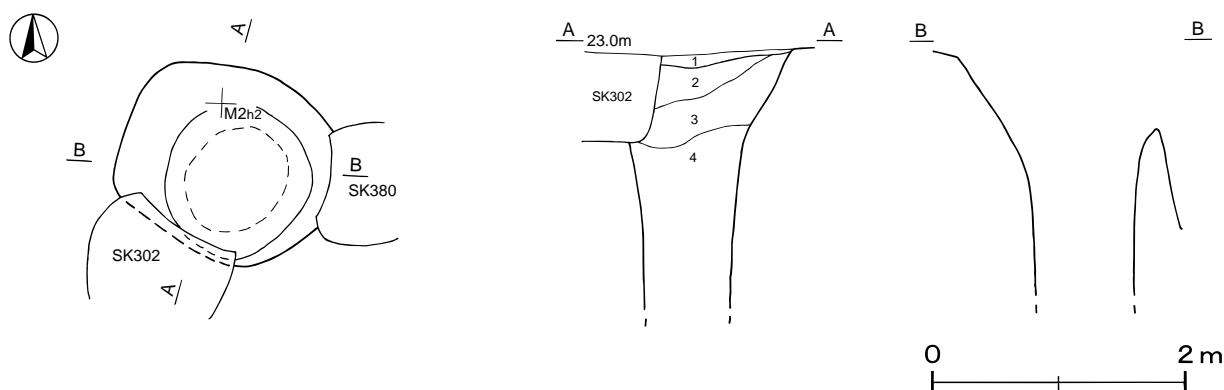
**覆土** 4層に分層される。各層にロームブロック・粒子を含む不均質な堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |         |       |           |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

**遺物出土状況** 流れ込んだ須恵器片2点が出土している。

**所見** 時期は, 上部を漏斗状に掘り込む構造から, 中世から近世と考えられる。



第130図 第16号井戸跡実測図

### 第17号井戸跡 (第131図)

**位置** 調査区中央部のM2g9区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径3.41m, 短径2.98mの楕円形である。長径方向はN-90°-Wである。上部は確認面から深さ110~140cmまで漏斗状に掘り込んでおり, 下部は円筒状に掘り込んでいる。204cmまで掘り下げたが, 下部は湧水のために確認できなかった。

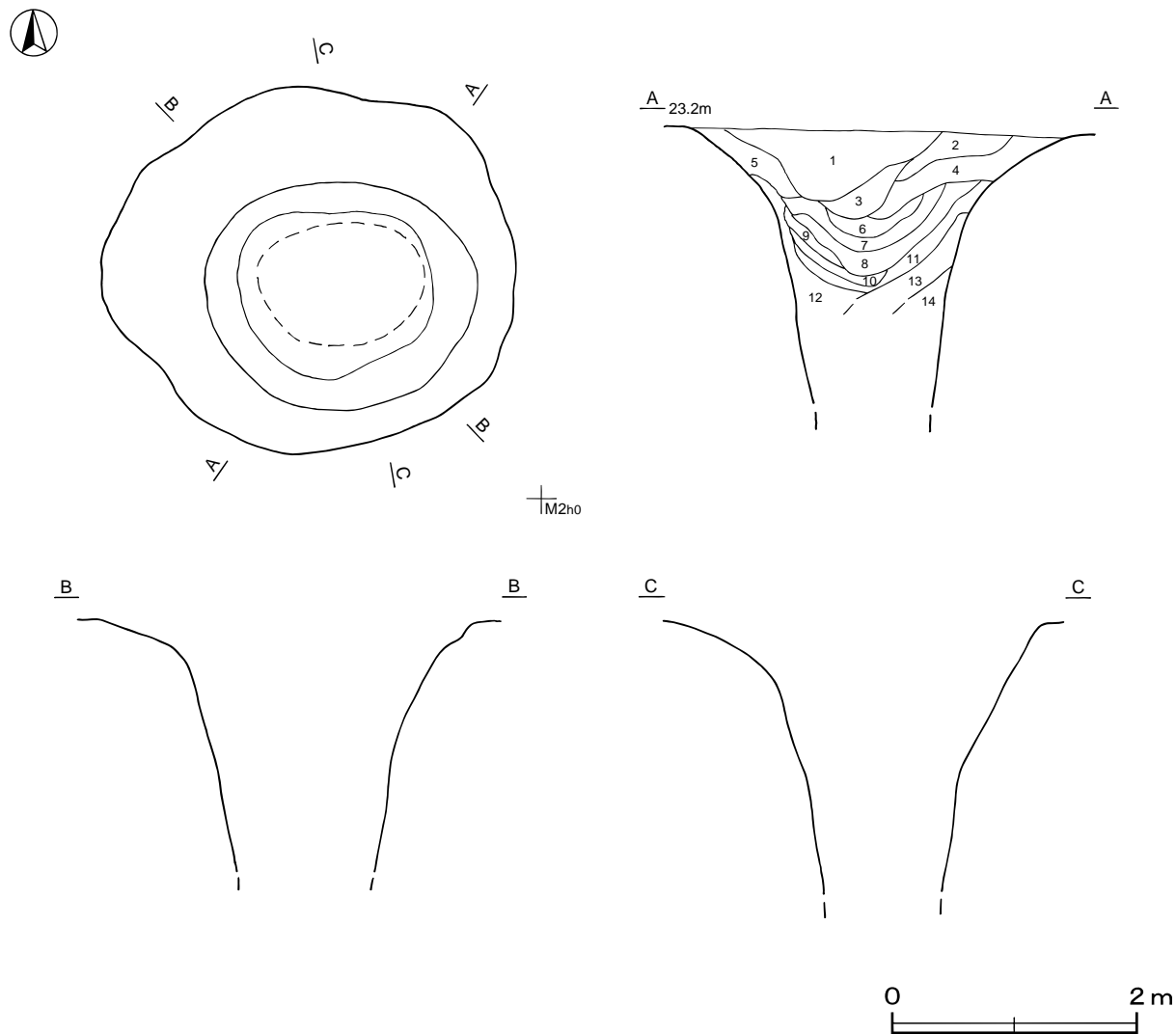
**覆土** 14層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                    |        |           |
|-------|--------------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス粒子微量  | 8 暗褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量          | 9 褐色   | ローム粒子中量   |
| 3 褐色  | ロームブロック中量          | 10 明褐色 | ローム粒子多量   |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子極微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量   |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量            | 12 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子微量            | 13 褐色  | ロームブロック多量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック微量          | 14 黒褐色 | ロームブロック微量 |

**遺物出土状況** 石器1点(石臼), 鉄製品1点(不明)が出土している。ほかに, 流れ込んだ土師器片3点, 須恵器片4点も出土している。

**所見** 時期は, 漏斗状に掘り込む構造から, 中世から近世と考えられる。



第131図 第17号井戸跡実測図

**第18号井戸跡 (第132図)**

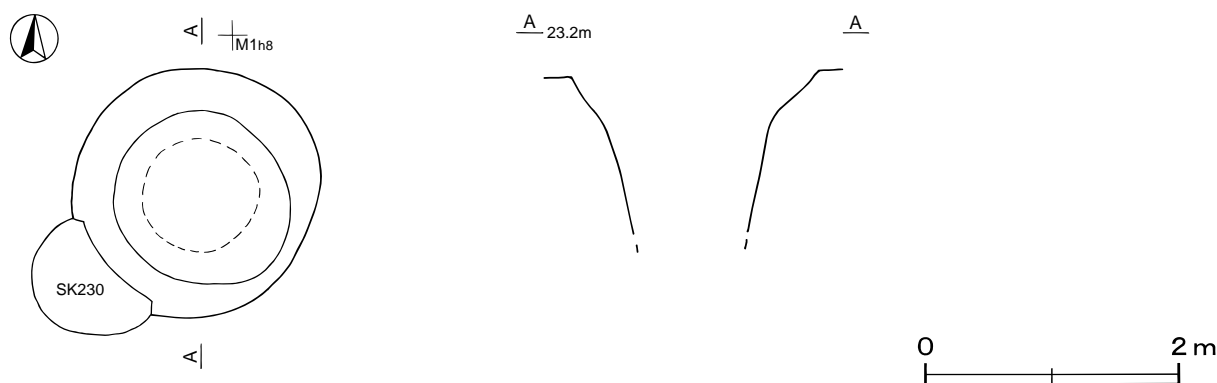
**位置** 調査区中央部のM1h8区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第27B号溝跡を掘り込んでおり, 第230号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.98m, 短径1.72mの楕円形で, 長径方向はN - 25° - Eである。上部は確認面から45cmまで漏斗状に掘り込み, 下部は円筒状に掘り込んでいる。128cmまで掘り下げたが, 下部は湧水のために確認できなかった。

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(不明)が出土している。ほかに, 流れ込んだ土師器片1点, 須恵器片3点も出土している。

**所見** 時期は, 上部を漏斗状に掘り込む構造から, 中世から近世と考えられる。



第132図 第18号井戸跡実測図

表8 中・近世井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古・新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
3	M 2 h1	-	円形	1.72×1.66	(125)	外傾・垂直	-	人為	-	中世～近世	本跡 S D 27 B
4	M 1 h0	-	円形	1.84×1.70	(119)	緩斜・垂直	-	人為	-	中世～近世	S D 27 A・27 B 本跡
5	M 2 h3	N - 55° - W	楕円形	2.65×2.12	(115)	緩斜・垂直	-	人為	陶器, 石器	18世紀後半～19世紀前半	S D 23 本跡
6	M 2 g3	N - 10° - W	不整楕円形	2.89×2.59	(189)	緩斜・垂直	-	人為	土師質土器, 陶器	17世紀後半～18世紀前半	S D 27 B・S E 7 本跡 S K 161
7	M 2 h3	N - 32° - W	[楕円形]	2.12×(1.37)	(201)	緩斜・垂直	-	人為	-	18世紀前半以後	S D 27 B 本跡 S E 6
8	M 2 g4	-	円形	1.85×(1.75)	(198)	外傾・垂直	-	人為	-	中世～近世	S D 27 B 本跡 S K 162・168
9	M 2 g5	-	円形	2.19×2.11	(203)	緩斜・垂直	-	人為	土師質土器	中世～近世	本跡 S K 187
10	M 2 g8	N - 21° - W	楕円形	1.54×1.26	(168)	外傾・垂直	-	人為	-	中世～近世	
11	M 2 g7	-	円形	1.98×1.88	(168)	緩斜・垂直	-	人為	土師質土器	中世～近世	本跡 S K 196 S K 197
12	M 1 h7	-	不明	1.57×(0.90)	(158)	外傾・垂直	-	人為	-	中世～近世	本跡 S D 27 A・27 B
13	M 1 h8	N - 35° - E	楕円形	1.23×1.08	(165)	外傾・垂直	-	-	陶器	中世～近世	S D 27 A・27 B 本跡
16	M 2 h2	N - 46° - W	[楕円形]	1.78×[1.48]	(186)	外傾・垂直	-	人為	-	中世～近世	本跡 S K 302・380
17	M 2 g9	N - 90° - W	楕円形	3.41×2.98	(204)	緩斜・垂直	-	人為	石器	中世～近世	
18	M 1 h8	N - 25° - E	楕円形	1.98×1.72	(128)	緩斜・垂直	-	-	土師質土器	中世～近世	S D 27 B 本跡 S K 230

(3) 炭焼窯跡

炭焼窯跡 (第133図)

**位置** 調査区中央部のP 2 j1区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.62m, 短軸1.57mの羽子板形で, 主軸方向はN - 26° - Eである。前庭部は失われている。

**焚口部** 長径0.62m, 短径0.50mの楕円形である。全面が焼土と炭化物に覆われている。前庭部側に, 幅10cmの三日月形状に粘土が確認されており, 窯の閉塞に粘土が用いられたことが推測される。焼土・炭化物層より下層は, 深さ42cmの円筒形に掘り込まれているが, 掘り込みの性格は不明である。

**炭化室** 長軸1.74m, 短軸1.57mの長方形で, 残存している壁高は17cmである。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がっており, 全面が火を受けて赤変している。

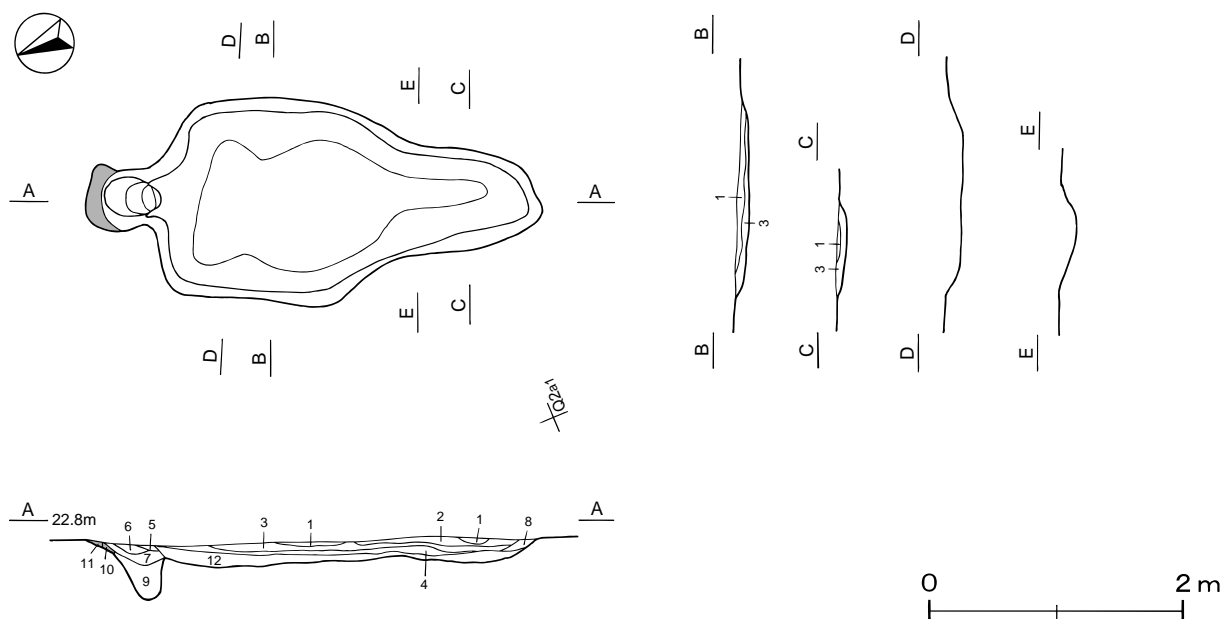
**煙道部** 長軸1.28m, 短軸0.84mの先端部がわずかに狭まる台形で, 壁高は17cmである。底面は平坦で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 12層に分層される。層厚が薄いため詳細は不明であるが、第1～5層は焼土・炭化物・灰を含んでおり、壁や天井部からの崩落土と考えられる。第9層は焚口部の覆土で、炭化物を多量に含んでいることから、焚口部から炭を掻き出す際に堆積した層と考えられる。炭化室底面の焼土層である第6層が第9層より上層に確認されていることから、窯は複数回にわたって使用されていたと考えられる。第12層は焚口部の掘り込みの覆土であり、焼土・炭化物を含まないことから、窯の使用前に埋め戻されていたと考えられる。

土層解説

1 灰褐色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量	7 暗赤褐色	焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
2 灰褐色	炭化物少量，焼土ブロック・ローム粒子微量	8 褐灰色	炭化物少量，焼土ブロック・ローム粒子微量
3 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	9 黒色	炭化物多量，焼土粒子微量
4 黒褐色	炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック微量	10 灰褐色	粘土粒子多量，炭化粒子少量
5 灰褐色	灰多量，焼土粒子少量，炭化物微量	11 灰褐色	炭化物多量
6 赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物微量	12 褐色	ローム粒子中量

**所見** 時期は，形状が近代以降の改良窯と異なることから，近世と考えられる。



第133図 炭焼窯跡実測図

(4) 墓坑 (第134～142図)

調査区中央部で第22・24号溝跡の南東部を中心に集中して確認された土坑については、覆土中から骨片・骨粉等は確認できなかったが、下記の条件を満たす71基を近世の墓坑と判断した。

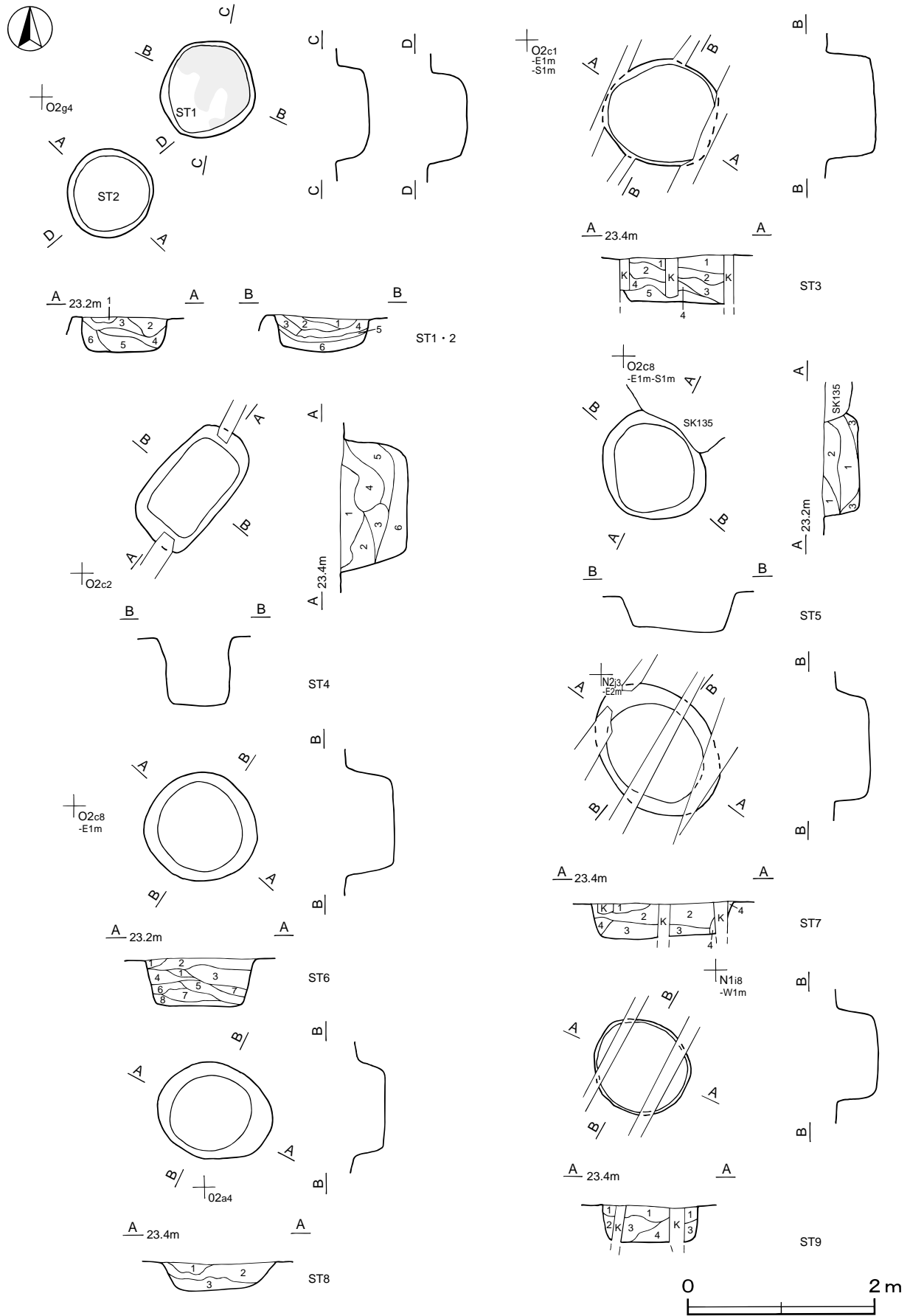
ア 直径，長径もしくは長軸が1～1.5m程度で，大きくとも2mを超えないもの。

イ 覆土が黒褐色，暗褐色主体であり，ロームブロックを含むなど人為的な埋め戻しと考えられるもの。

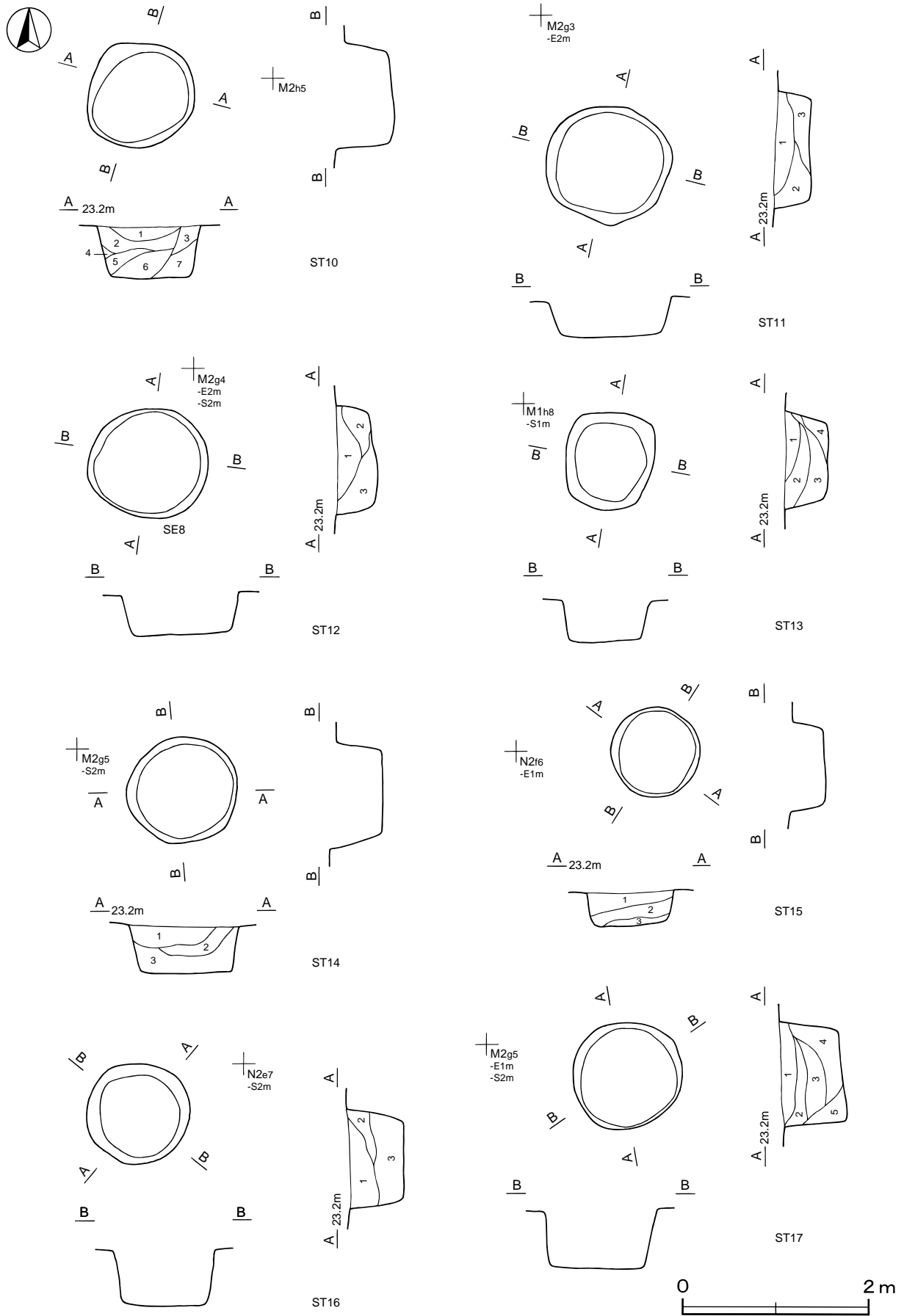
ウ 底面がほぼ平坦で，壁が直立しているもの。

以下，実測図，土層解説，出土遺物観察表，一覧表を記載する。

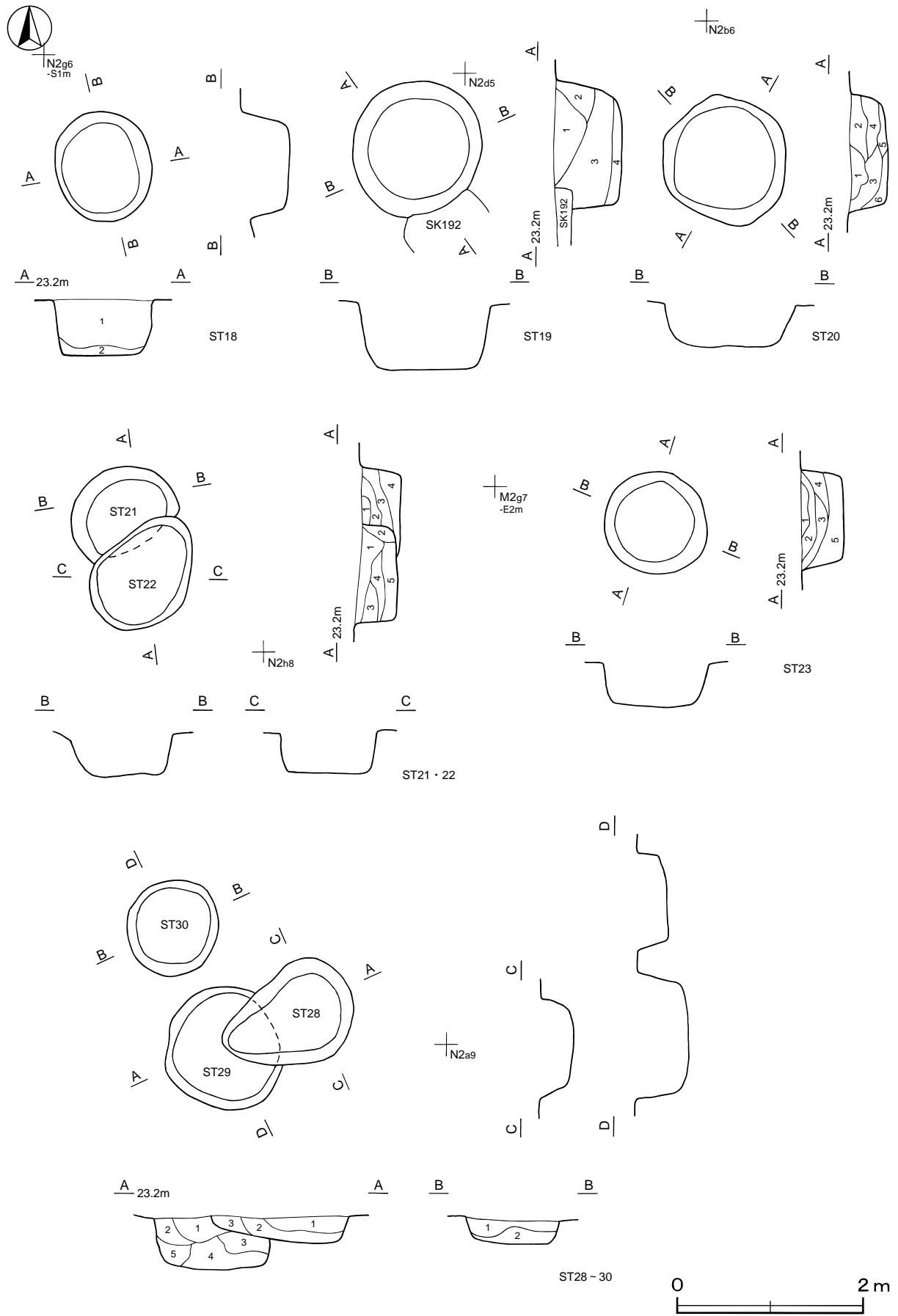




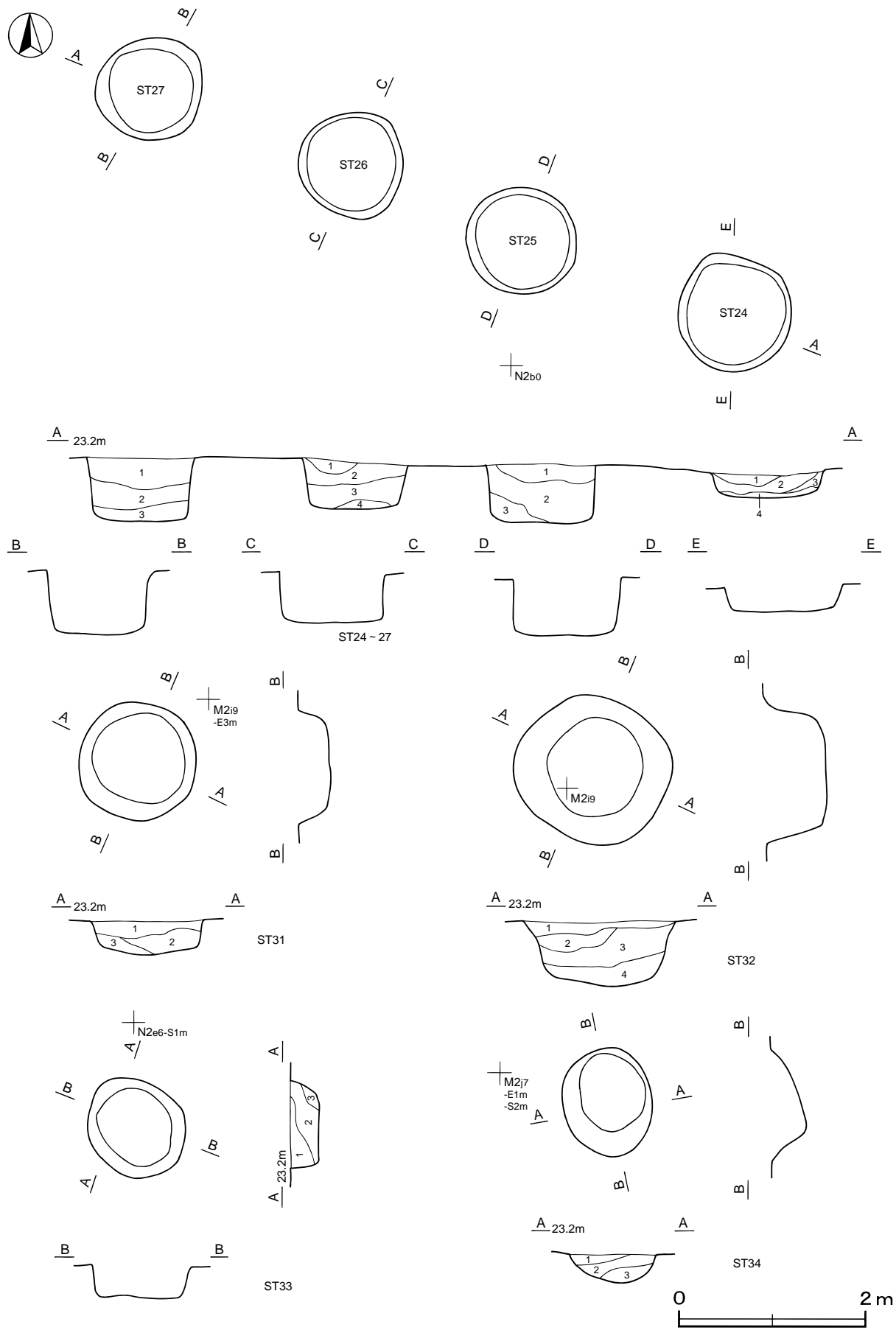
第134图 墓坑实测图(1)



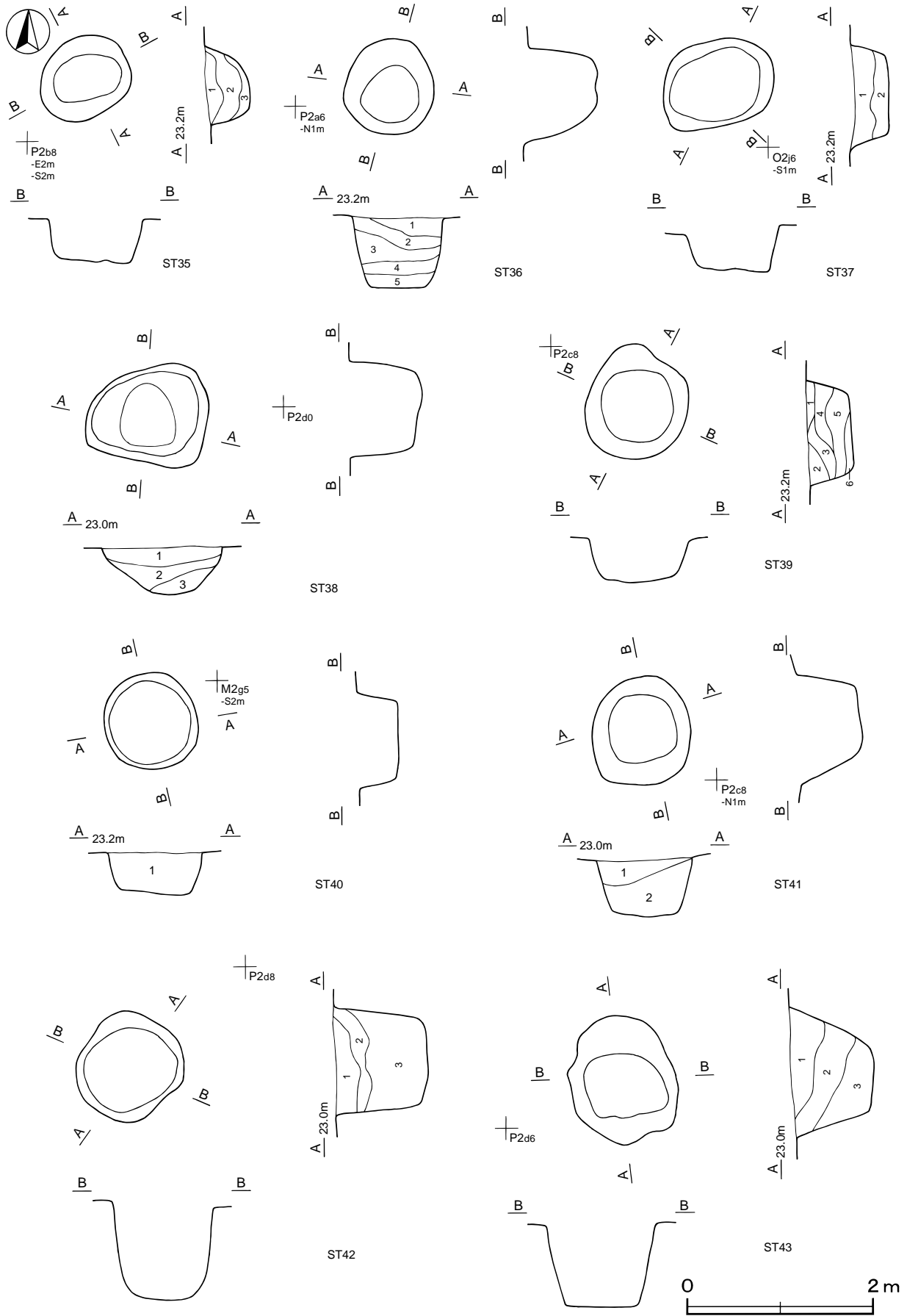
第135图 墓坑实测图(2)



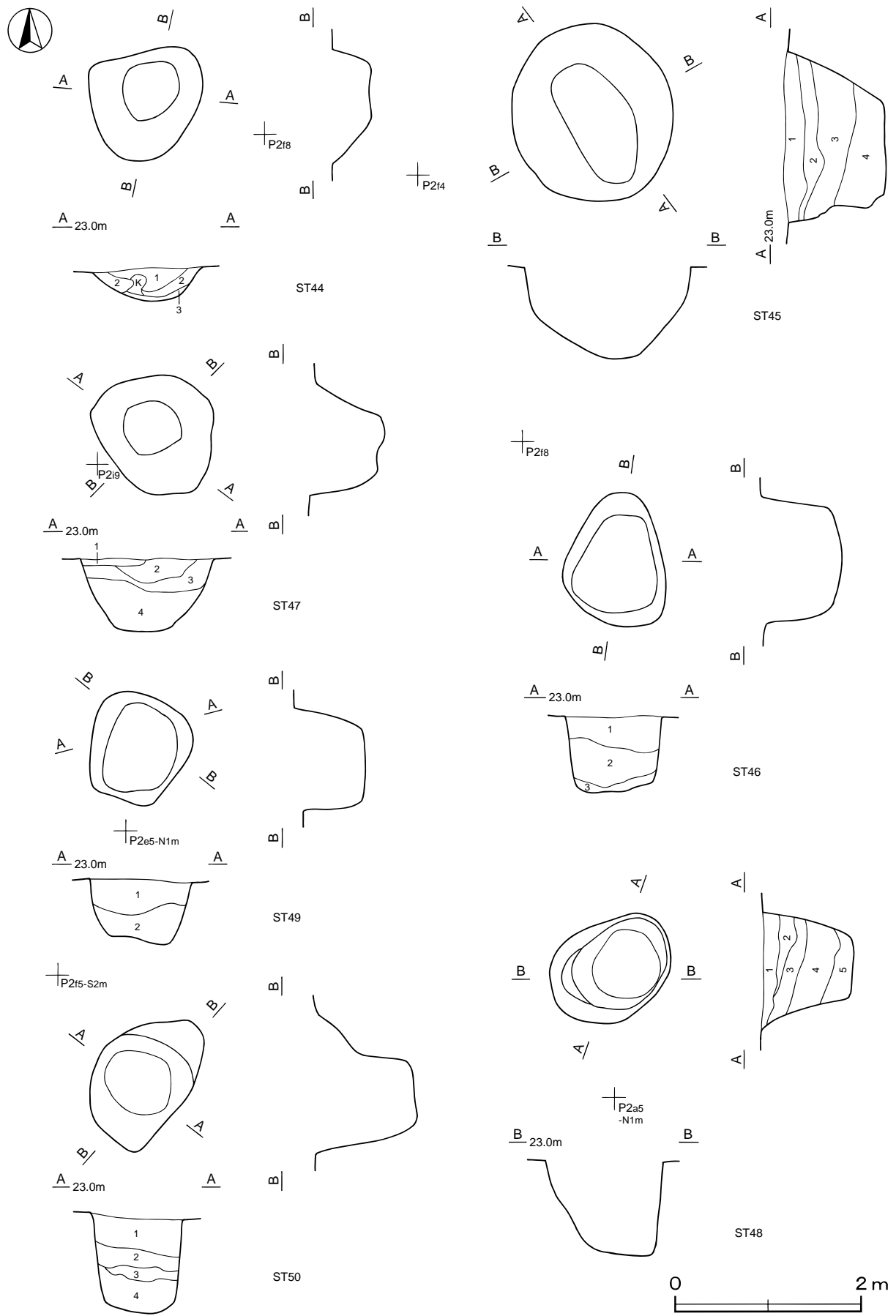
第136图 墓坑实测图(3)



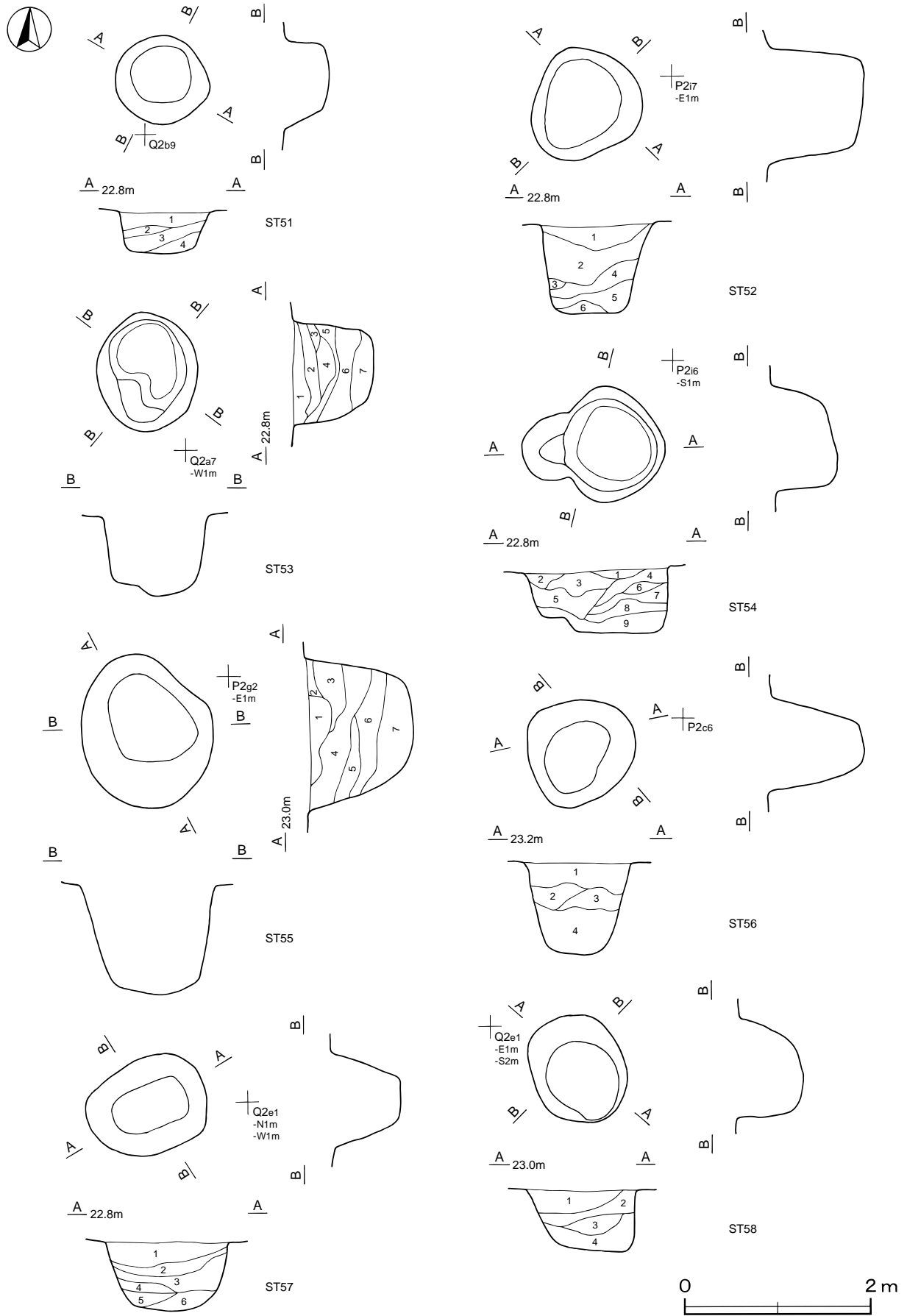
第137图 墓坑实测图(4)



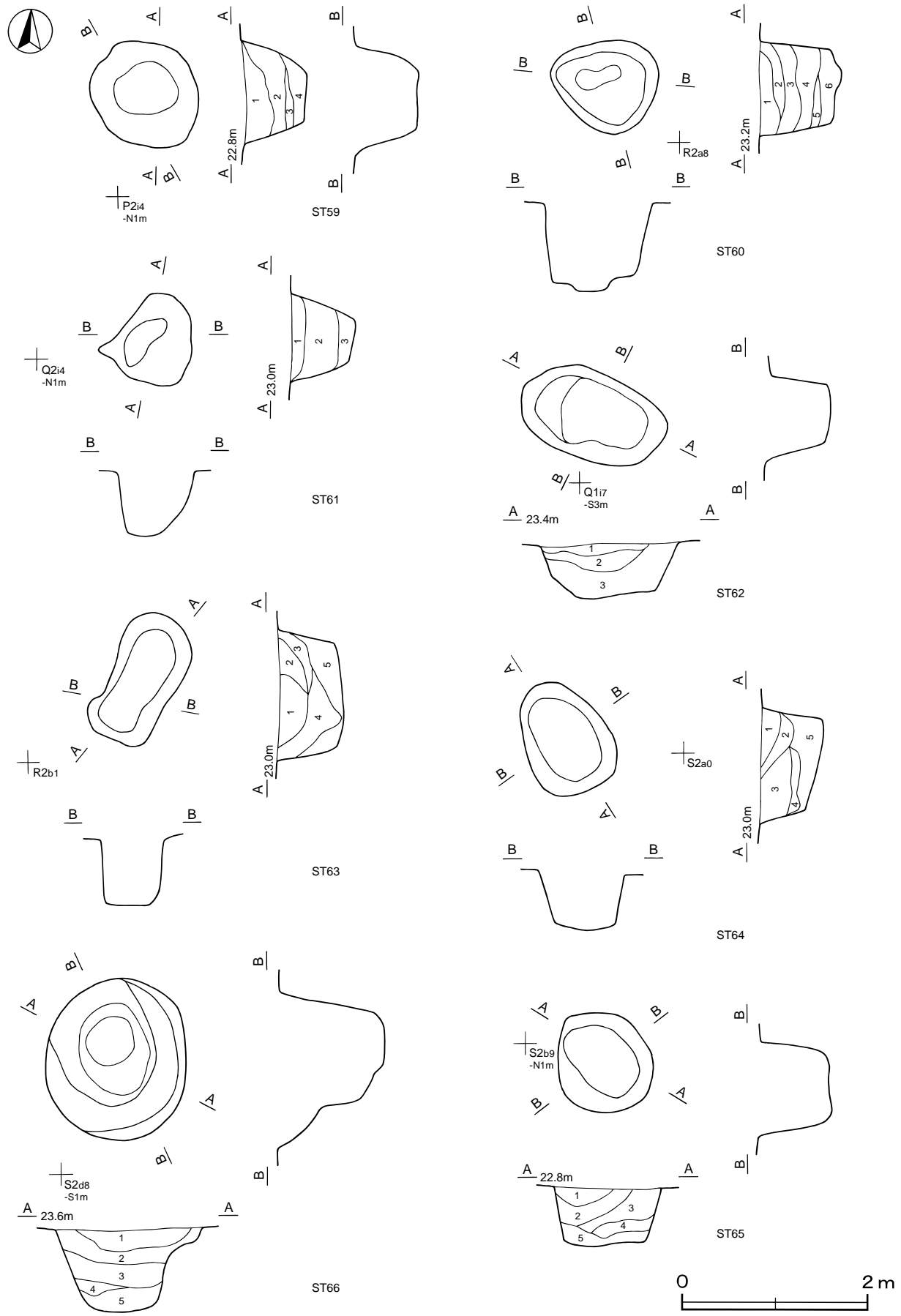
第138图 墓坑实测图(5)



第139图 墓坑实测图(6)

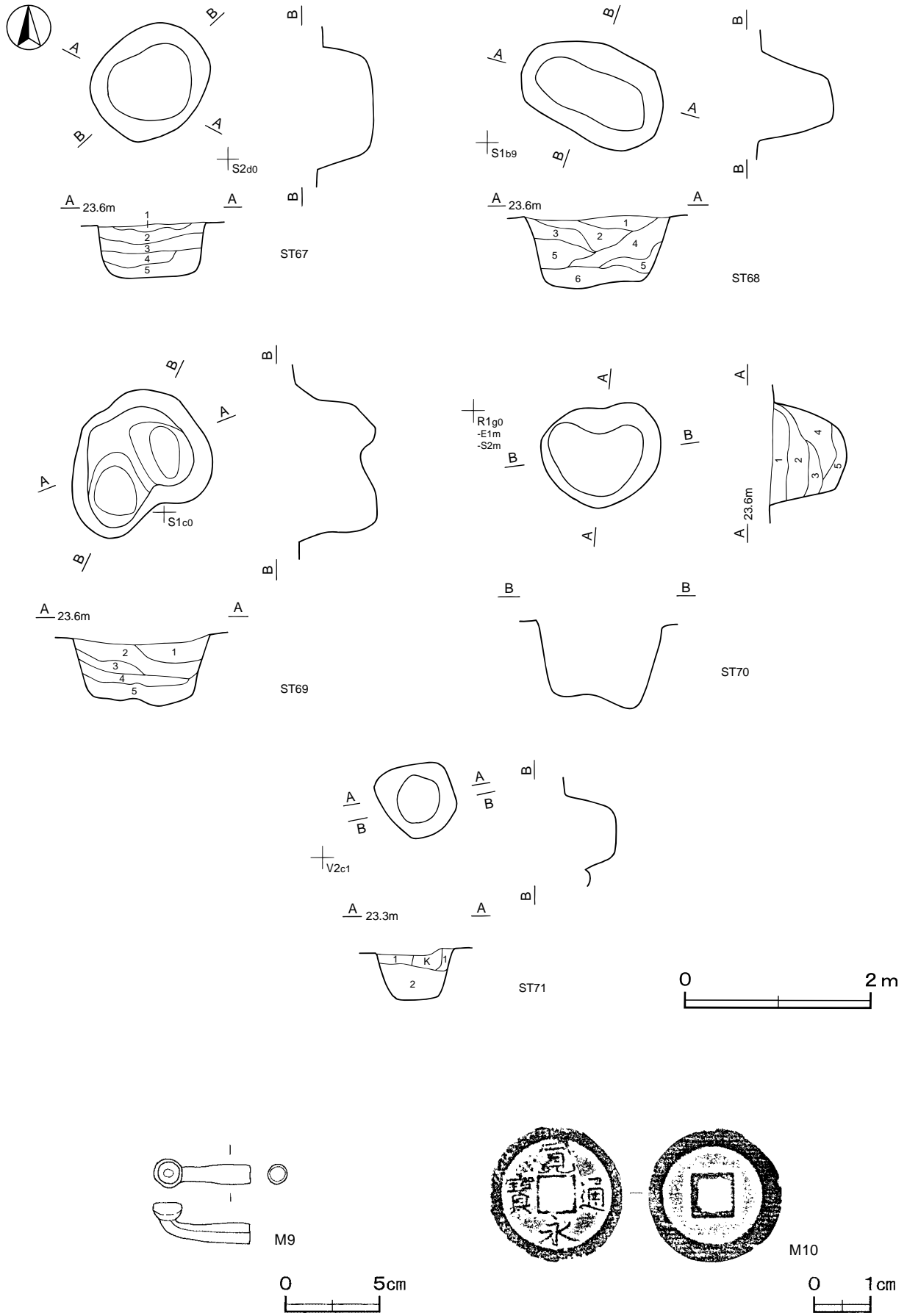


第140图 墓坑实测图(7)



第141图 墓坑实测图(8)





第142图 墓坑·出土遺物実測図

第1号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 5 赤褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ロームブロック多量

第2号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

第3号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第4号墓坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック多量

第5号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第6号墓坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 黄褐色 ロームブロック多量
- 7 褐色 ロームブロック多量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量

第7号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第8号墓坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第9号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量

第10号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック多量, 鹿沼パミスブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量, 鹿沼パミスブロック微量

第11号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量

第12号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第13号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第14号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第15号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第16号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量

第17号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量

第18号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第19号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第20号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック少量

第21号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第22号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量

第23号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック多量

第24号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第25号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第26号墓坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第27号墓坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 明褐色 ロームブロック多量

第28号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第29号墓坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第30号墓坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第31号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒色 ロームブロック微量

第32号墓坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒色 炭化物・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第33号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第34号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第35号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第36号墓坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒色 ロームブロック微量
- 5 黒色 ローム粒子微量

第37号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量

第38号墓坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第39号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量

第40号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第41号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒色 ロームブロック少量

第42号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第43号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第44号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第45号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼パミスブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 鹿沼パミスブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第46号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第47号墓坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第48号墓坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミスブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 灰褐色 ロームブロック・スコリアブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック・スコリアブロック微量

第49号墓坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第50号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第51号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 明褐色 ロームブロック中量

第52号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量

第53号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量
- 7 褐色 ロームブロック多量

第54号墓坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量
- 7 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 8 褐色 ロームブロック少量
- 9 褐色 ロームブロック多量

第55号墓坑土層解説

- 1 明 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 4 灰 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 6 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 橙 色 ロームブロック多量

第56号墓坑土層解説

- 1 灰 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 黒 色 ローム粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

第57号墓坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量
- 5 黒 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐 色 ロームブロック中量

第58号墓坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量

第59号墓坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐 色 ローム粒子多量

第60号墓坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量, 鹿沼バミスブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量
- 6 黒 褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

第61号墓坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第62号墓坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

第63号墓坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒 色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量

第64号墓坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 5 黒 褐色 ロームブロック微量

第65号墓坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 5 黒 褐色 ロームブロック微量

第66号墓坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量

第67号墓坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック中量
- 5 黒 褐色 ロームブロック微量

第68号墓坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量
- 6 黒 褐色 ロームブロック微量

第69号墓坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量

第70号墓坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミスブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック少量

第71号墓坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

墓坑出土遺物観察表 (第142図)

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M9	煙管	5.1	1.6	2.2	8.1	銅	雁首 火皿径1.4cm 銅板丸め後鍍付け 火皿部鍍付け	覆土中	PL40
番号	器種	外径	孔径	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M10	古銭	2.48	0.58	0.13	2.64	銅	寛永通寶 背文無し 島屋無背 初鑄年1668年	覆土中	PL40

表9 中・近世墓坑一覽表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 重複関係(古・新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
1	O 2 f4	-	円形	1.03×1.00	35	直立	平坦	人為	-	
2	O 2 g4	-	円形	0.95×0.92	38	直立	平坦	人為	-	
3	O 2 c1	-	[円形]	1.20×[1.20]	50	直立	平坦	人為	-	
4	O 2 b2	N - 38° - E	隅丸長方形	1.42×0.79	71	直立	平坦	人為	-	
5	O 2 c8	-	[円形]	1.21×[1.12]	39	直立	平坦	人為	-	本跡 S K 135
6	O 2 c8	-	円形	1.20×1.16	52	直立	平坦	人為	-	
7	N 2 j3	N - 40° - W	楕円形	1.58×1.20	39	外傾	平坦	人為	-	
8	N 2 j4	N - 73° - W	楕円形	1.26×1.02	32	緩斜	平坦	人為	-	
9	N 1 i7	-	円形	[1.03]×0.96	43	直立	平坦	人為	-	
10	M 2 h4	-	円形	1.14×1.12	73	直立	平坦	人為	-	
11	M 2 g3	-	円形	1.30×1.24	39	外傾	平坦	人為	-	
12	M 2 g4	-	円形	1.28×1.18	44	直立	平坦	人為	-	S E 8 本跡
13	M 1 h8	N - 9° - E	長方形	1.06×0.94	45	直立	平坦	人為	-	
14	M 2 g5	-	円形	1.18×1.14	52	直立	平坦	人為	-	
15	N 2 f6	-	円形	0.96×0.96	35	直立	平坦	人為	-	
16	N 2 b6	-	円形	1.10×1.07	48	直立	平坦	人為	-	
17	M 2 g5	-	円形	1.23×1.14	62	直立	平坦	人為	-	
18	M 2 g6	N - 22° - W	楕円形	1.18×1.05	46	外傾	平坦	人為	-	
19	N 2 d4	-	円形	1.45×1.40	70	直立	平坦	人為	-	本跡 S K 192
20	N 2 b6	-	円形	1.36×1.35	45	外傾	平坦	人為	-	
21	M 2 g7	N - 54° - E	[楕円形]	1.20×(0.64)	45	外傾	平坦	人為	-	S E 11 本跡 S T 22
22	M 2 g7	N - 39° - E	楕円形	1.39×1.00	44	直立	平坦	人為	-	S E 11 S T 21 本跡
23	M 2 g7	-	円形	1.15×1.10	46	直立・外傾	平坦	人為	-	
24	N 2 a0	-	円形	1.29×1.24	28	外傾	平坦	人為	-	
25	N 2 a0	-	円形	1.20×1.17	61	直立	平坦	人為	銅製品	
26	N 2 a9	-	円形	1.15×1.13	51	直立	平坦	人為	-	
27	N 2 a9	-	円形	1.20×1.12	68	直立	平坦	人為	-	
28	M 2 j8	N - 64° - E	不整楕円形	1.50×1.05	39	外傾	平坦	人為	-	S T 29 本跡
29	M 2 j8	-	円形	1.31×1.30	55	直立	平坦	人為	-	本跡 S T 28
30	M 2 j8	-	円形	1.05×1.03	32	直立	平坦	人為	-	
31	M 2 i9	-	円形	1.25×1.25	34	直立	平坦	人為	-	
32	M 2 h9	-	円形	1.66×1.64	68	直立	平坦	人為	-	
33	N 2 e5	N - 48° - W	楕円形	1.17×0.98	34	直立	平坦	人為	-	S K 220 本跡
34	M 2 j7	N - 19° - W	楕円形	1.15×0.96	38	直立・外傾	傾斜	人為	-	S K 224 本跡
35	P 2 b8	N - 63° - E	楕円形	1.03×0.85	48	外傾	平坦	人為	-	
36	O 2 j6	N - 16° - W	楕円形	1.03×0.98	75	外傾	平坦	人為	-	
37	O 2 j5	N - 90° - E	長方形	1.17×0.92	42	直立	平坦	人為	-	
38	P 2 d9	N - 78° - W	楕円形	1.32×1.02	76	外傾	皿状	人為	-	
39	P 2 c8	N - 3° - W	楕円形	1.22×1.09	46	直立	平坦	人為	-	
40	M 2 g4	-	円形	1.04×1.02	43	直立	平坦	人為	-	
41	P 2 b7	-	円形	1.14×1.06	70	直立	平坦	人為	-	
42	P 2 d7	N - 55° - E	円形	1.07×1.06	102	直立	平坦	人為	-	
43	P 2 c6	N - 0°	不定形	1.37×1.19	89	外傾	平坦	人為	-	
44	P 2 e7	-	不定形	1.24×1.22	44	緩斜	皿状	人為	-	
45	P 2 e4	N - 37° - W	楕円形	1.90×1.77	98	外傾	皿状	人為	-	
46	P 2 f8	N - 8° - E	楕円形	1.43×1.09	88	直立	平坦	人為	-	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 重複関係(古・新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
47	P 2 h9	N - 53 ° - W	楕円形	1.42 × 1.23	78	外傾	凹凸	人為	-	
48	O 2 j5	N - 51 ° - E	楕円形	1.41 × 1.02	113	直立・外傾	平坦	人為	-	
49	P 2 d5	N - 30 ° - E	台形	1.17 × 1.04	69	直立	平坦	人為	-	
50	P 2 f5	N - 42 ° - E	楕円形	1.49 × 1.05	108	直立	平坦	人為	-	
51	Q 2 a9	-	円形	0.98 × 0.93	45	直立	平坦	人為	-	
52	P 2 j7	N - 44 ° - E	楕円形	1.22 × 1.12	102	直立	傾斜	人為	-	
53	P 2 j6	N - 5 ° - W	楕円形	1.28 × 1.08	85	直立	皿状	人為	-	
54	P 2 i5	N - 88 ° - E	不定形	1.55 × 1.24	69	直立	平坦	人為	古銭	
55	P 2 g2	N - 10 ° - W	楕円形	1.67 × 1.44	115	外傾	皿状	人為	-	
56	P 2 c5	-	楕円形	1.20 × 1.05	101	外傾	皿状	人為	-	
57	Q 1 d0	N - 68 ° - E	楕円形	1.31 × 1.03	74	外傾	平坦	人為	-	
58	Q 2 e1	N - 18 ° - W	楕円形	1.20 × 1.02	74	外傾	平坦	人為	-	
59	Q 2 h3	N - 37 ° - W	楕円形	1.37 × 1.09	73	緩斜	平坦	人為	-	
60	R 1 i7	N - 73 ° - W	楕円形	1.15 × 0.96	94	直立	凹凸	人為	-	
61	Q 2 h4	N - 34 ° - E	不定形	1.00 × 0.78	70	外傾	皿状	人為	-	
62	Q 1 i7	N - 75 ° - W	楕円形	1.65 × 0.92	64	直立	平坦	人為	-	
63	R 2 a1	N - 30 ° - E	長方形	1.45 × 0.65	70	直立	平坦	人為	-	
64	S 2 a9	N - 33 ° - W	楕円形	1.26 × 0.91	63	外傾	平坦	人為	-	
65	S 2 a9	N - 40 ° - W	楕円形	1.18 × 1.02	77	外傾	平坦	人為	-	
66	S 2 c8	-	円形	1.71 × 1.60	115	外傾	平坦	人為	-	
67	S 2 c9	N - 45 ° - E	楕円形	1.32 × 1.12	57	直立	平坦	人為	-	
68	S 1 a9	N - 62 ° - W	楕円形	1.59 × 1.01	78	直立	平坦	人為	-	
69	S 1 b9	N - 26 ° - E	不定形	1.69 × 0.86	86	外傾	凹凸	人為	-	
70	R 1 g0	N - 62 ° - E	不定形	1.32 × 0.94	89	直立	凹凸	人為	-	
71	V 2 b1	N - 32 ° - E	楕円形	0.90 × 0.80	53	外傾	平坦	人為	-	S I 87・S K 391 本跡

## (5) 土坑

### 第363号土坑 (第143図)

**位置** 調査区中央部のP 2 a3区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.06m，短軸3.03mの不定形で，長径方向はN - 63 ° - Eである。深さは43cmで，底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がっている。

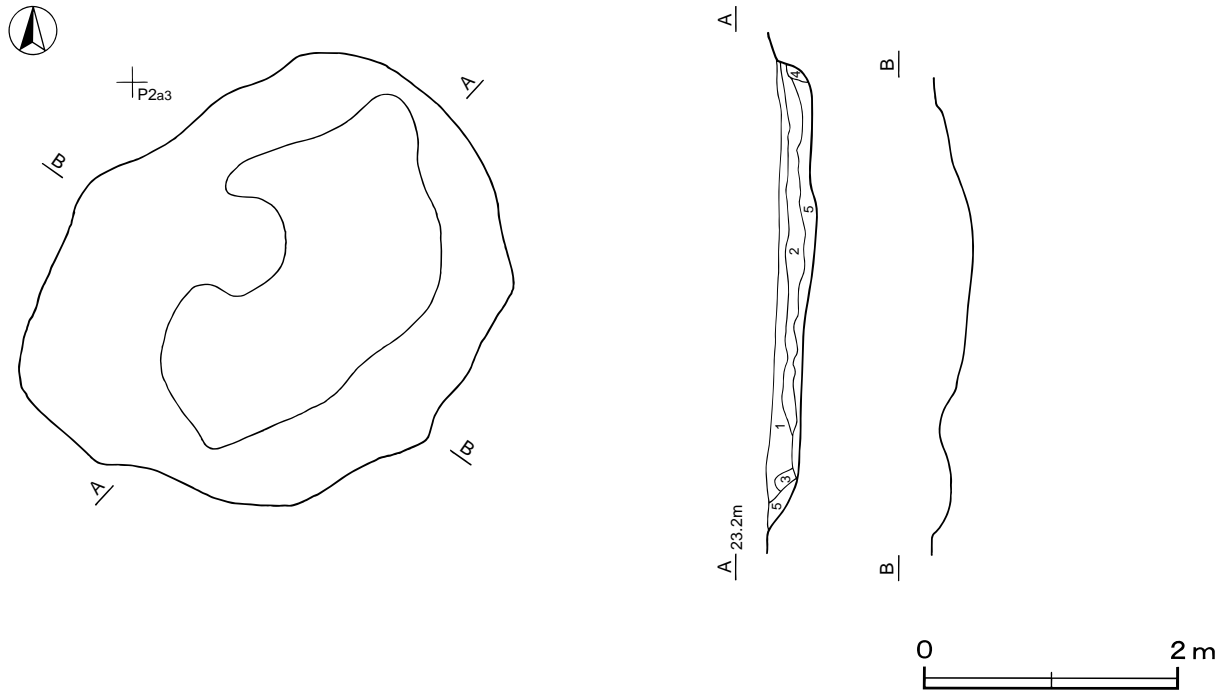
**覆土** 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |                |       |                  |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   | 4 黒褐色 | ロームブロック微量        |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |       |                  |

**遺物出土状況** 陶器片1点(壺)が出土している。ほかに，流れ込んだ土師器片3点，須恵器片2点も出土している。陶器片は，第364号土坑から出土したP 412と接合している。

**所見** 時期は，接合関係から，第364号土坑と同時期の19世紀中葉から後葉と考えられる。

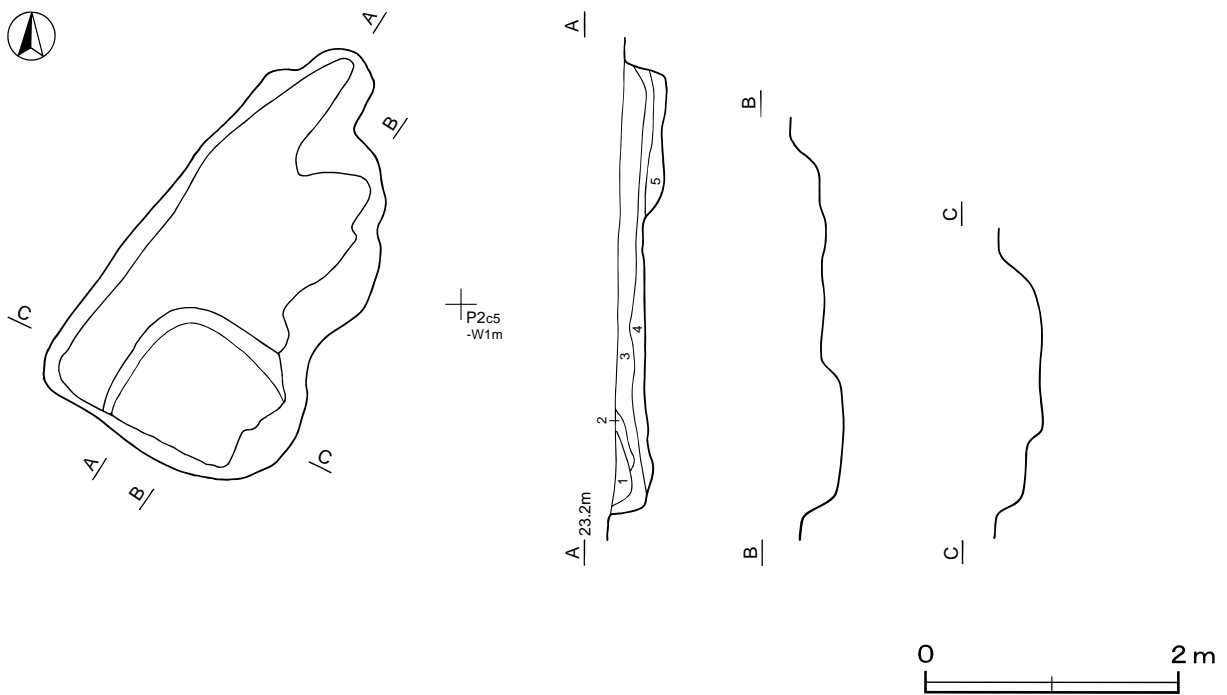


第143図 第363号土坑実測図

**第364号土坑 (第144図)**

**位置** 調査区中央部のP 2 b 4区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.56m，短軸1.80mの不定形で，長径方向はN - 37 ° - Eである。深さは34cmで，底面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がっている。



第144図 第364号土坑実測図

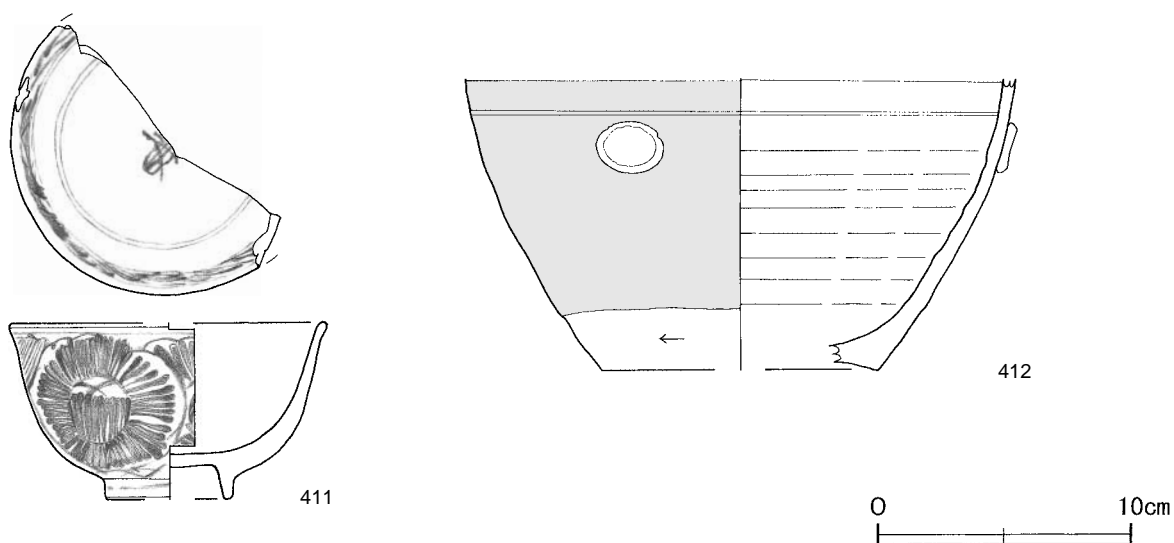
覆土 5層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                      |      |                      |
|-------|----------------------|------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量      | 4 褐色 | ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量     | 5 褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量     |
| 3 黒褐色 | 炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |      |                      |

遺物出土状況 陶器片2点(壺)，磁器片1点(碗)が出土している。ほかに、流れ込んだ土師器片4点，須恵器片2点も出土している。411・412は第4層中から出土している。

所見 時期は，出土陶磁器から，19世紀中葉から後葉と考えられる。



第145図 第364号土坑出土遺物実測図

第364号土坑出土遺物観察表 (第145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
411	磁器	端反碗	[12.4]	6.9	[4.8]	緻密 透明釉	明青灰・灰白	良好	口ク口整形	覆土中	40% 瀬戸・美濃系 PL29
412	陶器	壺	-	(11.5)	[11.0]	緻密 黒釉	にぶい黄橙・黒褐	良好	口ク口整形 体部外面下端～底部回転ヘラ削り 体部外面焼成時に陶器片付着	覆土中	20% 笠間系

表10 中・近世土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古・新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
363	P 2 a3	N - 63° - E	不定形	4.06×3.03	43	緩斜	平坦	人為	陶器	19世紀中葉～後葉
364	P 2 b4	N - 37° - E	不定形	3.56×1.80	34	緩斜	平坦	人為	陶器 磁器	19世紀中葉～後葉



5 その他の遺構と遺物

時期や性格の明確でない遺構は、掘立柱建物跡3棟、溝跡10条、土坑307基、ピット群3か所、不明遺構2基である。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

**第3号掘立柱建物跡** (第146図)

**位置** 調査区中央部のP1a7区、標高23mの台地平坦部に位置している。

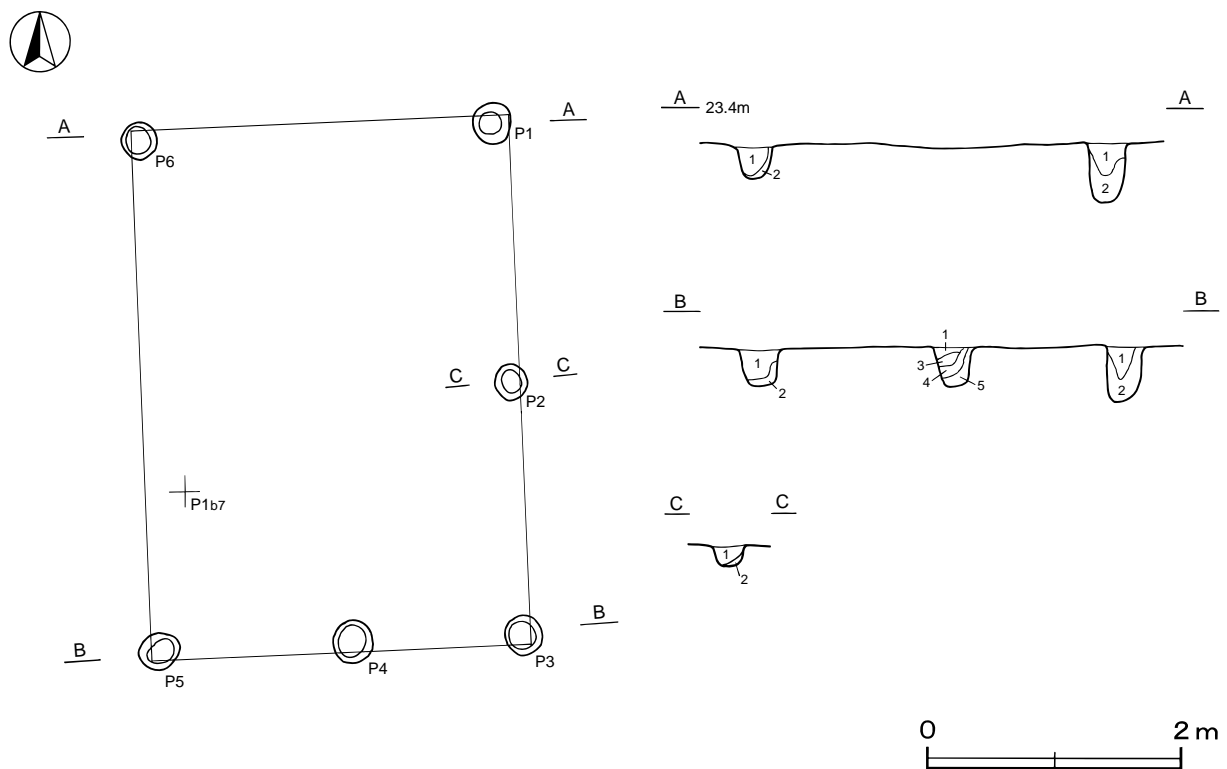
**規模と構造** 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-3°-Wの東西棟である。規模は桁行4.20m、梁行3.0mで、面積は12.60㎡である。柱間寸法は桁行が2.1m(7尺)、梁行が1.5m(5尺)を基調としている。柱穴6か所。西平中央の1か所と北妻中央の1か所が確認できなかった。平面形は円形で、規模は直径27~34cmである。深さは20~50cmで、断面形は逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量

**所見** 時期は、不明である。



第146図 第3号掘立柱建物跡実測図

**第8号掘立柱建物跡** (第147図)

**位置** 調査区南部のR1j8区、標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第404号土坑を掘り込んでいます。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N - 4° - Wの南北棟である。規模は桁行5.4m，梁行3.6mで，面積は19.44m<sup>2</sup>である。柱間寸法は1.8m（6尺）を基調としており，ほぼ均等に配置されている。

**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で，規模は長径43～82cm，短径42～74cmである。深さは23～58cmで，断面形はU字形または逆台形である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。

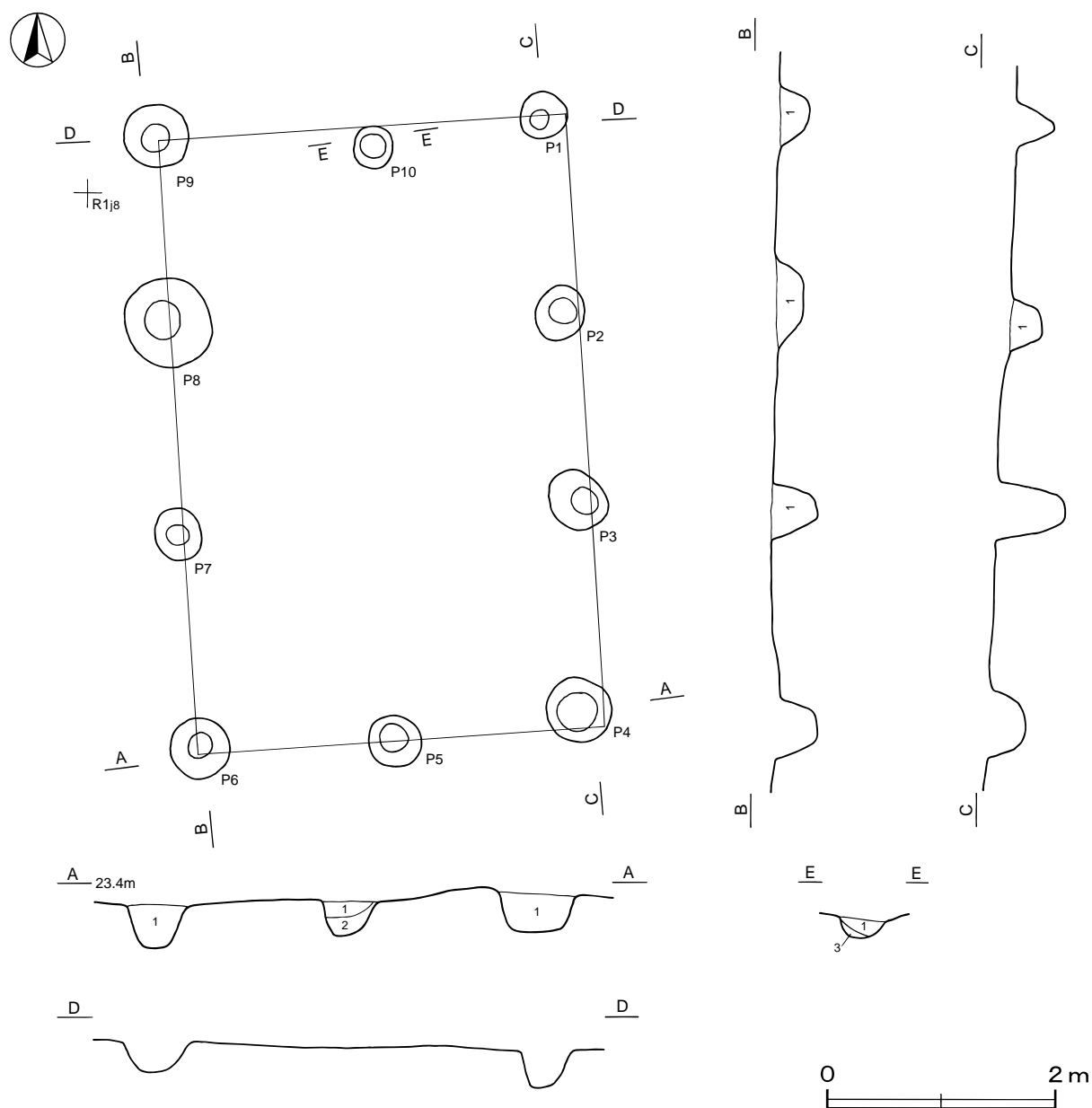
土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ローム粒子微量

3 褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器の細片5点が出土している。

**所見** 時期は，出土土器が遺構に伴うと判断できないため不明である。



第147図 第8号掘立柱建物跡実測図

### 第9号掘立柱建物跡 (第148図)

**位置** 調査区南部のR 1 a7区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と構造** 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向N - 0°の南北棟である。規模は，桁行4.8m，梁行3.6mで，面積は17.28㎡である。柱間寸法は，桁行が2.4m（8尺），梁行が1.8m（6尺）を基調としているが，南側梁行は西から2.1m（7尺），1.5m（5尺）である。

**柱穴** 8か所。平面形は円形で，規模は直径31～43cmである。深さは16～52cmで，断面形はU字形または逆台形である。

土層解説（各柱穴共通）

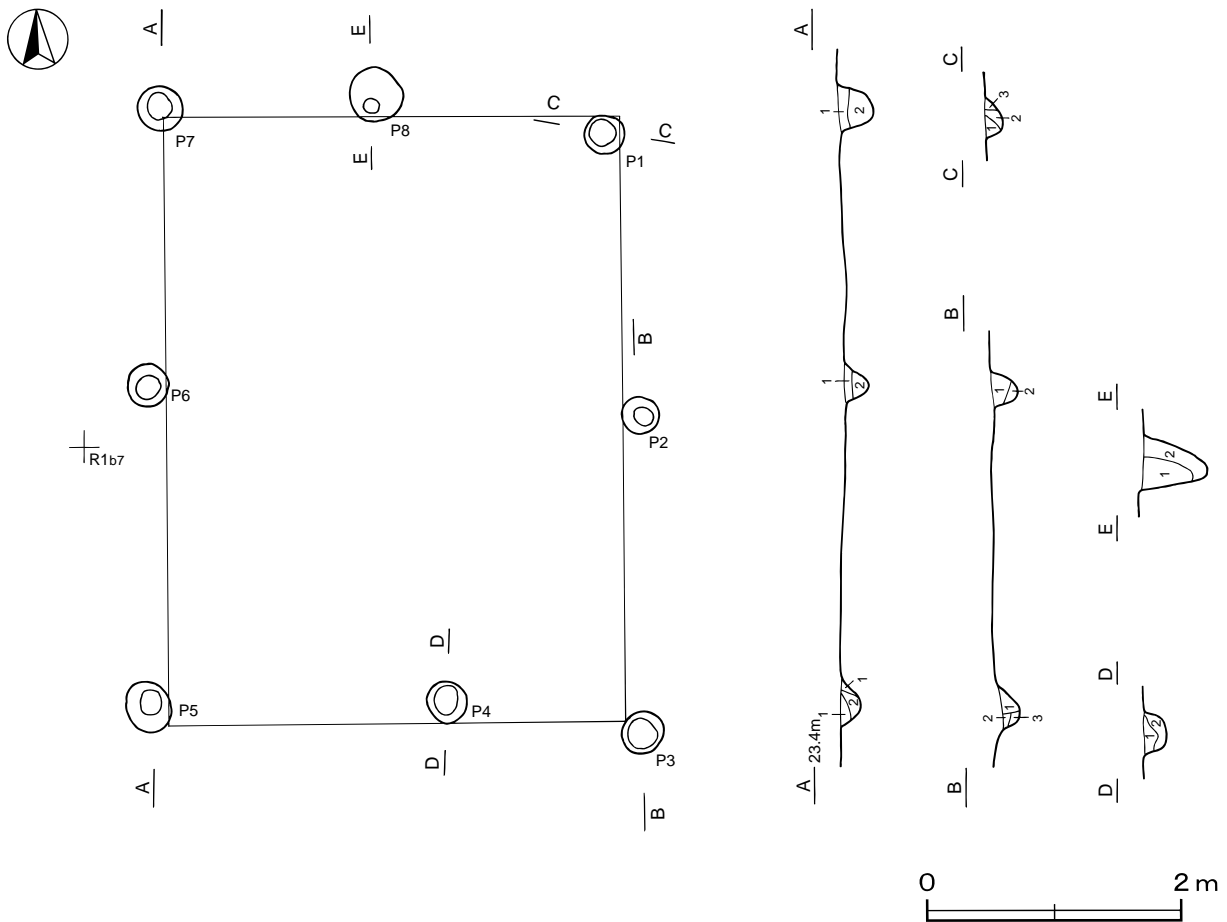
1 極暗褐色 ローム粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片2点，須恵器片1点が出土している。

**所見** 時期は，出土土器が遺構に伴うと判断できないため不明である。



第148図 第9号掘立柱建物跡実測図

表11 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模 (m) (長軸×短軸)	面積 (㎡)	構造	桁立柱間 (m)	梁立柱間 (m)	柱穴平面形	深さ (cm)	主な出土遺物	備考 重複関係 (古 新)
3	P 1 a7	N - 3° - W	2 × 2	4.2 × 3.0	12.60	側柱	2.1	1.5	円形	27 ~ 34	-	
8	R 1 j8	N - 4° - W	3 × 2	5.4 × 3.6	19.44	側柱	1.8	1.8	円形・楕円形	23 ~ 58	-	S K 404 本跡
9	R 1 a7	N - 0°	2 × 2	4.8 × 3.6	17.28	側柱	2.4	1.8	円形	16 ~ 52	縄文土器，須恵器	

(2) 溝跡

第2号溝跡 (第149図, 付図)

**位置** 調査区北部の J 1 i 9 ~ J 2 i 1 区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 東西方向 (N - 82° - W) に直線的に延びている。東端と西端が調査区域外に延びており, 確認された長さは7.57mで, 上幅0.98 ~ 1.32m, 下幅0.22 ~ 0.54mである。深さは11 ~ 18cmで, 断面形はU字状である。

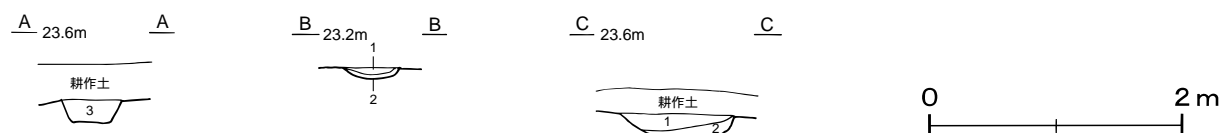
**覆土** 3層に分層される。層厚が薄いために堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子極微量

**所見** 同軸線上に, 同規模の第4号溝跡が確認されており, 連続した溝と考えられる。南方に規模が類似する第6・7号溝跡が平行しており, 地境溝の可能性が考えられるが, 詳細は不明である。時期は, 出土土器がないため不明である。



第149図 第2号溝跡実測図

第3号溝跡 (第150図, 付図)

**位置** 調査区北部 J 2 e 5 ~ K 2 a 2 区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第5号溝を掘り込んでいます。

**規模と形状** L字状で, 北部は南北方向 (N - 4° - E) に直線的に延び, 南部の J 2 j 4 区で西向きに屈折して, 東西方向 (N - 72° - E) に直線的に延びている。北端と西端が調査区域外に延び, 確認された長さは31.40mで, 上幅0.55 ~ 0.98m, 下幅0.18 ~ 0.54mである。深さは38 ~ 50cmで, 断面形はU字形である。

**ピット** 5か所。P 1 ~ P 5 は覆土を掘り込んだ後に底部で確認された。深さ20 ~ 44cmで, 配置に規則性はなく, 性格は不明である。

**覆土** 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

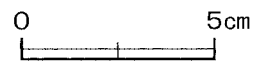
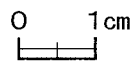
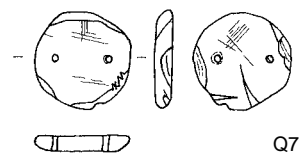
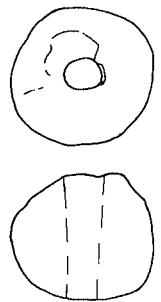
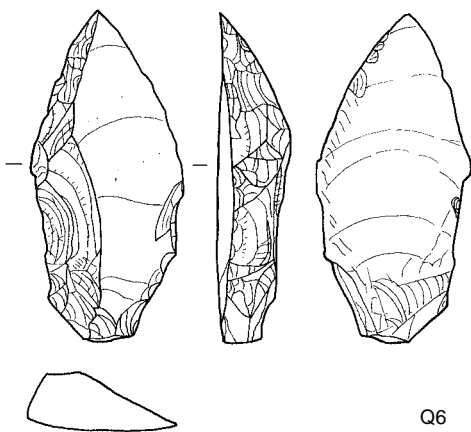
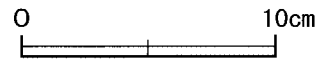
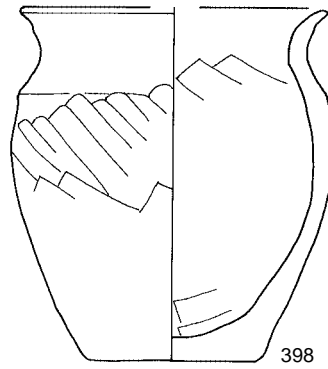
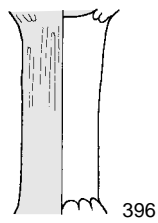
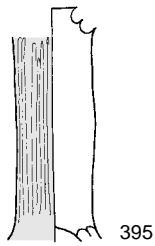
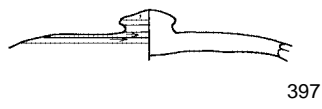
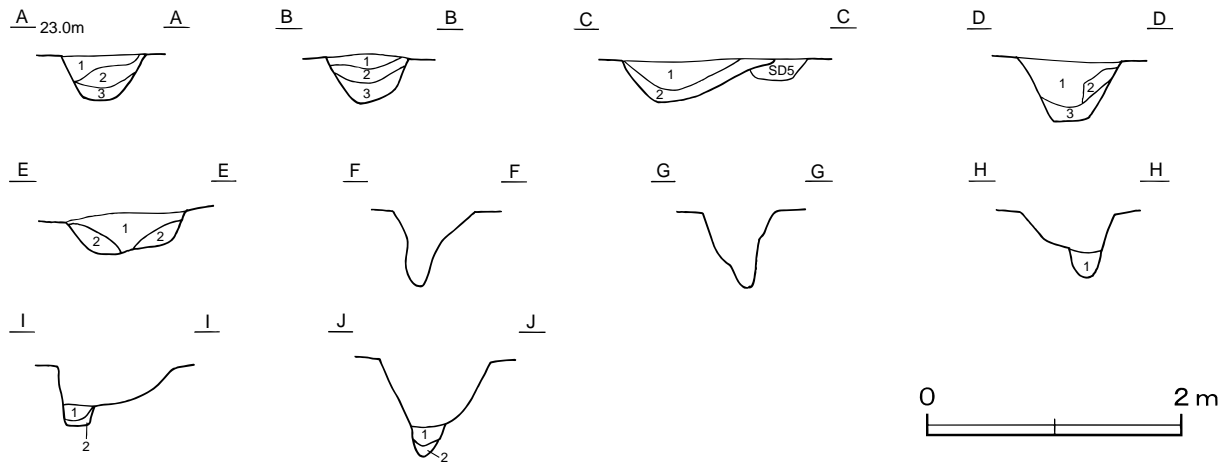
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片65点 (高坏2, 小形甕5, 甕58), 須恵器片5点 (坏4, 甕1), 土製品3点 (球状土錘1, 円筒埴輪2), 石製品1点 (双孔円板), 石器1点 (ナイフ形石器) が出土している。

**所見** L字の形状から地境溝の可能性が考えられるが, 周囲に関連性を示す遺構が確認できず, 性格は不明である。時期は, 出土土器が遺構に伴うと判断できないため, 不明である。



第150图 第3号沟迹·出土遗物实测图

### 第3号溝跡出土遺物観察表 (第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
395	土師器	高坏	-	(9.2)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	外面ナデ後縦方向のミガキ	覆土中	20%
396	土師器	高坏	-	(8.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面ナデ後縦方向のミガキ	覆土中	20%
397	須恵器	蓋	-	(1.9)	-	石英・白色粒子	灰	普通	口縁部横ナデ 天井部回転ヘラ削り後つまみ部貼り付け	覆土中	40%
398	土師器	小形甕	[12.0]	13.0	6.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土中	60% PL34

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP20	球状土錘	3.7	1.0	3.3	44.8	粘土	ナデ後ヘラ削り 一方向から穿孔	覆土中層	PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	ナイフ形石器	4.4	2.1	0.8	6.0	チャート	押圧剥離調製	覆土中	PL38
Q 7	双孔円板	2.5	2.5	0.5	5.1	滑石	両面研磨調製 一方向からの穿孔	覆土中	PL38

### 第4号溝跡 (第151図, 付図)

**位置** 調査区北部 J 2 j 6 ~ K 3 b 2 区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** K 3 b 2 区から西方向 (N - 75° - W) に直線的に延びている。東端が調査区域外に延びており, 確認できた長さは25.94mで, 上幅0.68 ~ 1.02m, 下幅0.30 ~ 0.90m, 深さ17 ~ 33cmである。底面は西方向にわずかに傾斜しており, 断面形はU字状である。

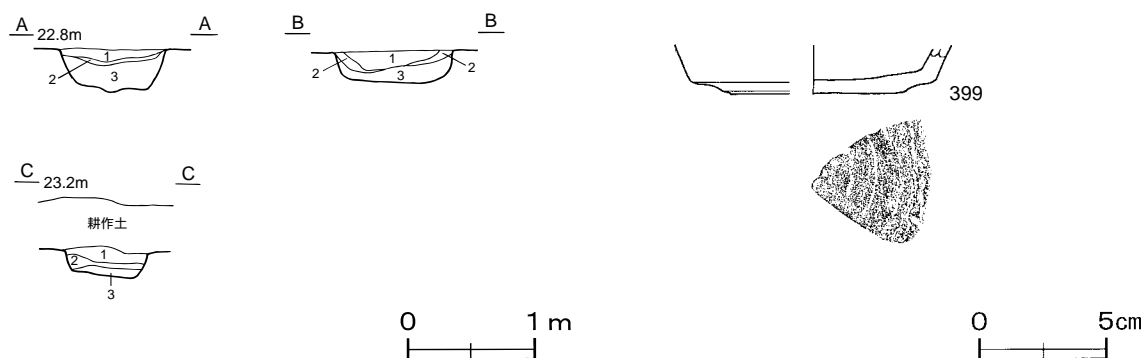
**覆土** 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片1点 (不明), 土師器片5点 (坏1, 甕4), 須恵器片6点 (坏3, 甕3) が出土している。

**所見** 同軸線上に, 同規模の第2号溝跡が確認され, 連続する溝と考えられる。南方に規模が類似する第6・7号溝跡が平行しており, 地境溝の可能性が考えられるが, 詳細は不明である。時期は, 出土土器が遺構に伴うと判断できないため, 不明である。



第151図 第4号溝跡・出土遺物実測図

第4号溝跡出土遺物観察表 (第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
399	須恵器	坏	-	(1.9)	[9.5]	長石・海綿骨針	灰黄	普通	口ケ口整形 底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土中	5%

第5号溝跡 (第152図, 付図)

**位置** 調査区北部のJ 2 h5 ~ J 2 f8区で標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第3号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 東西方向 (N - 65° - E) に直線的に伸びている。東端は調査区域外に伸び、西端は第3号溝に掘り込まれており、確認できた長さは16.62mで、上幅0.80~1.18m、下幅0.38~0.82mである。深さは21~38cmで、断面形はU字状である。

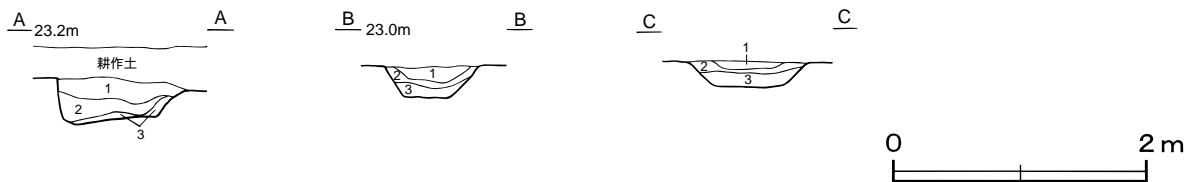
**覆土** 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片3点 (坏1, 甕2) が出土している。

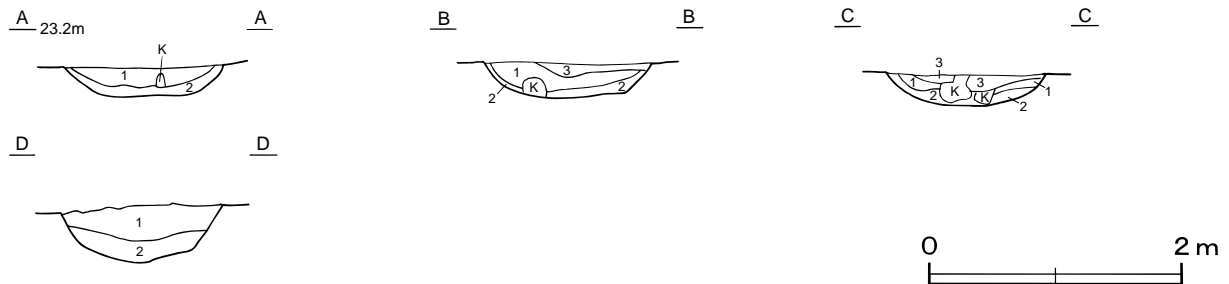
**所見** 周囲に関連性を示す遺構は確認されず、性格は不明である。時期は、出土土器が遺構に伴うと判断できないため、不明である。



第152図 第5号溝跡実測図

第6号溝跡 (第153図, 付図)

**位置** 調査区北部のL 2 i3 ~ L 3 d1区, 標高23mの台地平坦部に位置している。



第153図 第6号溝跡実測図

**規模と形状** L 2 i 3区から東方向 (N - 61° - W) に直線的に延びている。東端が調査区域外に延びており、確認された長さは39.63m、上幅0.84 ~ 1.53m、下幅0.66 ~ 0.88m、深さ26 ~ 45cmである。底面は東方向に緩やかに傾斜しており、断面はU字状である。

**覆土** 3層に分層される。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |         |           |       |                     |
|---------|-----------|-------|---------------------|
| 1 褐色    | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |       |                     |

**遺物出土状況** 土師器片12点 (甕), 須恵器片2点 (坏, 甕), 陶器片1点 (皿), 鉄製品1点 (不明) が出土している。

**所見** 北方と南方に規模の類似する第2・4・7号溝跡が平行して配置され、地境溝の可能性が考えられるが、詳細は不明である。時期は、出土土器が遺構に伴うと判断できないため、不明である。

### 第7号溝跡 (第154図, 付図)

**位置** 調査区北部 L 1 c 8 ~ L 2 e 2区で、標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号溝跡に掘り込まれている。

**規模と形状** 東西方向 (N - 71° - W) に直線的に延びている。確認された長さは18.92mで、上幅0.80 ~ 2.02m、下幅0.32 ~ 1.06mである。深さは22 ~ 61cmで、断面形はU字状である。

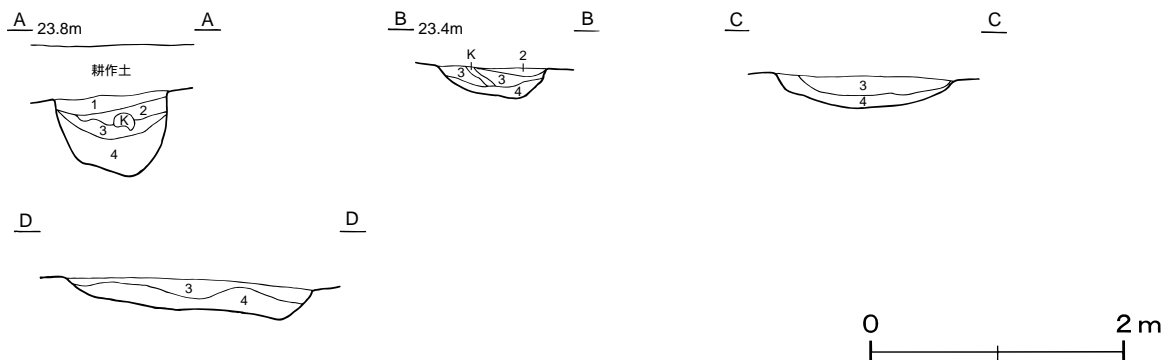
**覆土** 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |        |           |         |           |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 1 褐色   | ロームブロック中量 | 3 暗褐色   | ロームブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 にぶい褐色 | ロームブロック多量 |

**遺物出土状況** 土師器片5点 (坏2, 高台付坏1, 甕2), 陶器片1点 (天目茶碗) が出土している。

**所見** 北方に規模の類似する第2・4・6号溝跡が平行して配置され、地境溝の可能性が考えられるが、詳細は不明である。時期は、出土土器が遺構に伴うと判断できないため、不明である。



第154図 第7号溝跡実測図



**第8号溝跡** (第155図, 付図)

**位置** 調査区北部のL3f1～M2b5区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南北方向 (N - 42° - E) に直線的に伸びている。北端と南端が調査区域外に伸びており, 確認された長さは33.51mで, 上幅2.52～2.78m, 下幅0.35～0.60mである。深さは84～102cmで, 断面形はV字状である。

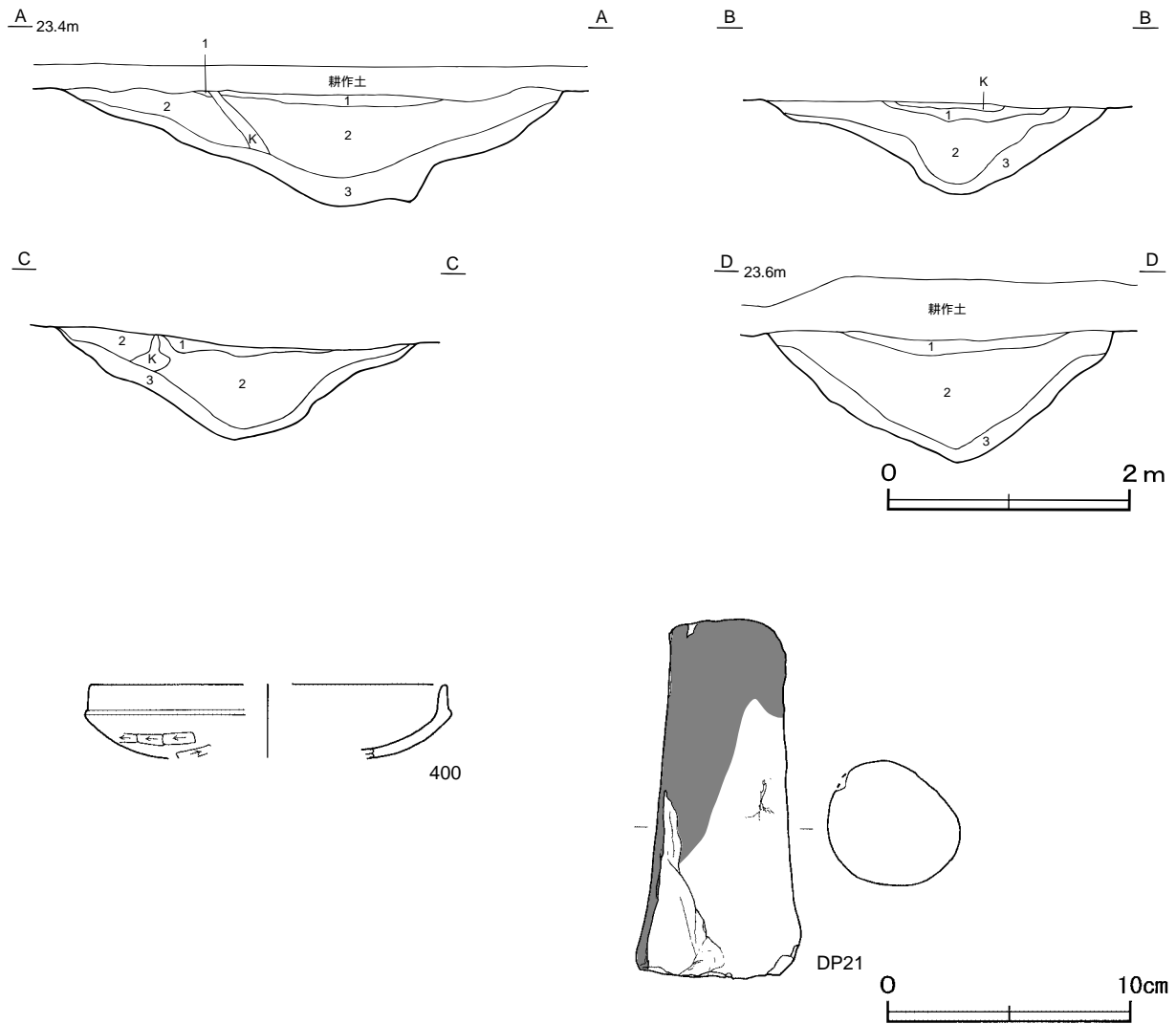
**覆土** 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |       |           |      |                        |
|-------|-----------|------|------------------------|
| 1 黒色  | ロームブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼バミスブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |      |                        |

**遺物出土状況** 土師器片35点 (坏3, 甕4, 甑28), 須恵器片7点 (坏1, 高台付坏1, 瓶類1, 甕3, 不明1), 土製品1点 (支脚) が出土している。

**所見** 周囲に関連を示す遺構が確認できず, 性格は不明である。時期は, 出土土器が遺構に伴うと判断できないために, 不明である。



第155図 第8号溝跡・出土遺物実測図

## 第8号溝跡出土遺物観察表 (第155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
400	土師器	坏	[14.6]	(3.0)	-	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り 内面ナデ	覆土中	10%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP21	支脚	14.8	4.5	6.5	(564)	粘土	ナデ 煤付着	覆土中	PL37

## 第20号溝跡 (第156図, 付図)

**位置** 調査区中央部のO 2 j 2 ~ P 1 d 7区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第24号溝跡に掘り込まれている。

**規模と形状** L字状で, O 2 j 2区から南方向 (N - 138° - W) に直線的に伸び, P 1 d 7区で東方向 (0 - 139° - E) に屈折している。規模は, 南北方向に長さ32.08m, 東西方向に3.1mで, 上幅0.36 ~ 0.65m, 下幅0.13 ~ 0.48m, 深さ22 ~ 42cmである。底面は全体に凸凹で, 南方向へわずかに傾斜し, 断面形は逆台形状である。

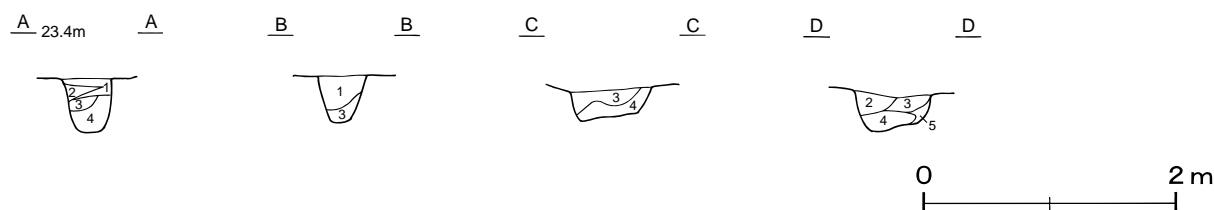
**覆土** 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

### 土層解説

- |       |              |          |         |
|-------|--------------|----------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黄褐色 | ローム粒子多量      | 5 暗黄褐色   | ローム粒子多量 |
| 3 褐色  | ローム粒子中量      |          |         |

**遺物出土状況** 土師器片6点 (坏2, 甕4), 須恵器片5点 (坏1, 蓋3, 甕1), 磁器片1点 (碗), 鉄製品7点 (不明) が出土している。

**所見** 西側に同規模の第21号溝が位置し, 底面が南方へ傾斜していることから, 道路の側溝の可能性が考えられるが, 両溝間に硬化面は確認されていない。時期は, 出土土器が遺構に伴うと判断できないため, 不明である。



第156図 第20号溝跡実測図

## 第21号溝跡 (第157図, 付図)

**位置** 調査区中央部のO 2 i 2 ~ P 1 e 6区, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** O 2 i 2区から南方向 (N - 138° - W) に直線的に伸びている。南端が調査区域外に伸びており, 確認できた長さは32.63mで, 上幅0.48 ~ 0.66m, 下幅0.18 ~ 0.38m, 深さ8 ~ 26cmである。底面は全体に凸凹で, 南方向にわずかに傾斜しており, 断面形は逆台形状である。

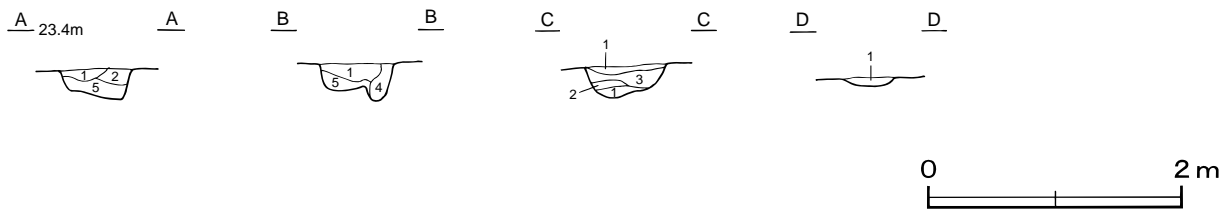
**覆土** 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |              |          |         |
|-------|--------------|----------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黄褐色 | ローム粒子多量      | 5 暗黄褐色   | ローム粒子多量 |
| 3 褐色  | ローム粒子中量      |          |         |

**遺物出土状況** 土師器片12点（坏4，甕8），須恵器片8点（坏4，蓋1，甕3），土師質土器片1点（不明），陶器片1点（碗類），ガラス製品1点（ビー玉）が出土している。

**所見** 東側に同規模の第20号溝が配置されており，底面が南方へ傾斜していることから，道路の側溝の可能性が考えられるが，両溝間に硬化面は確認されていない。時期は，出土土器が遺構に伴うと判断できないため，不明である。



第157図 第21号溝跡実測図

**第28号溝跡**（第158図，付図）

**位置** 調査区中央部のM2g7～M2f8区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第3号不明遺構を掘り込んでいる。

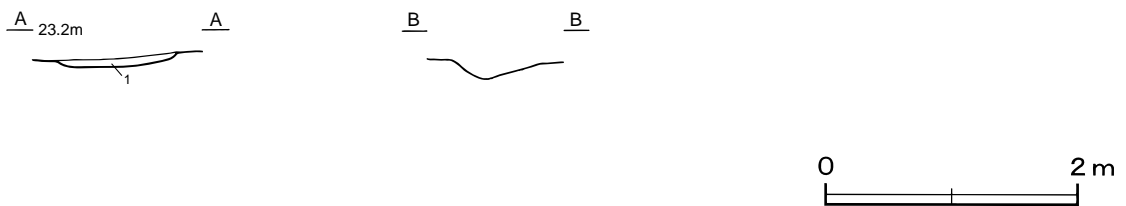
**規模と形状** 東西方向（N - 66° - W）に直線的に伸びている。東端と西端が調査区域外に伸びており，確認できた長さは11.5mで，上幅0.27～0.40m，下幅0.08～0.26mである。深さは10～12cmで，断面形はU字状である。

**覆土** 単一層である。層厚が薄く，堆積状況は不明である。

土層解説

- |       |              |
|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
|-------|--------------|

**所見** 周囲に関連性を示す遺構が確認されておらず，性格は不明である。時期は，出土土器がなく，不明である。



第158図 第28号溝跡実測図

**第29号溝跡** (第159図, 付図)

**位置** 調査区南部のS 2 a9 ~ T 2 a1区で, 標高23mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** T 2 a1区から西方向 (N - 71° - E) に直線的に延びている。規模は, 長さ6.16m, 上幅0.66 ~ 1.31m, 下幅0.35 ~ 0.47m, 深さ59 ~ 62cmである。底面は西方向に傾斜しており, 断面形は逆台形状である。

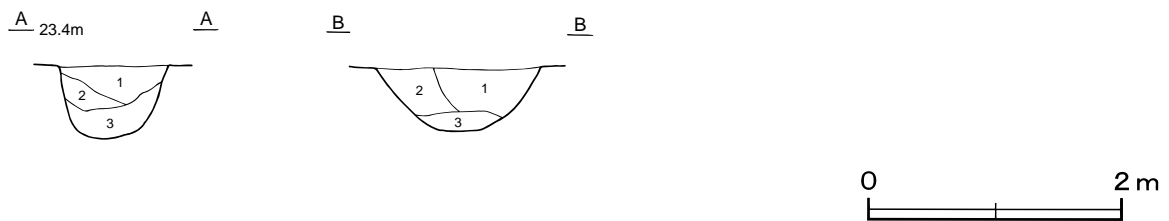
**覆土** 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片 8点 (甕), 須恵器片 5点 (坏1, 甕4) が出土している。

**所見** 周囲に関連性を示す遺構が確認できず, 性格は不明である。時期は, 出土土器が遺構に伴うと判断できないことから, 不明である。



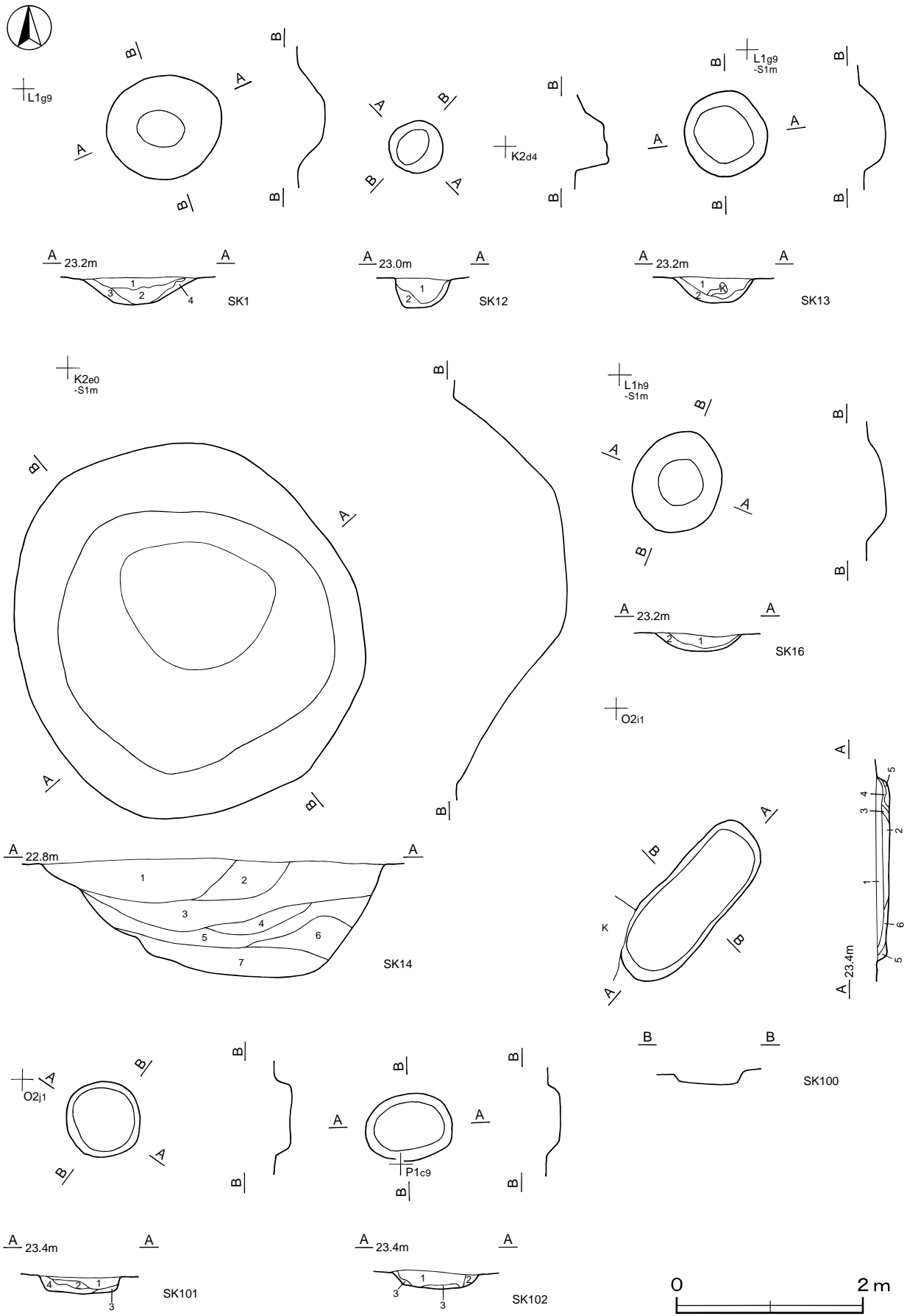
第159図 第29号溝跡実測図

表12 その他の溝跡一覧表

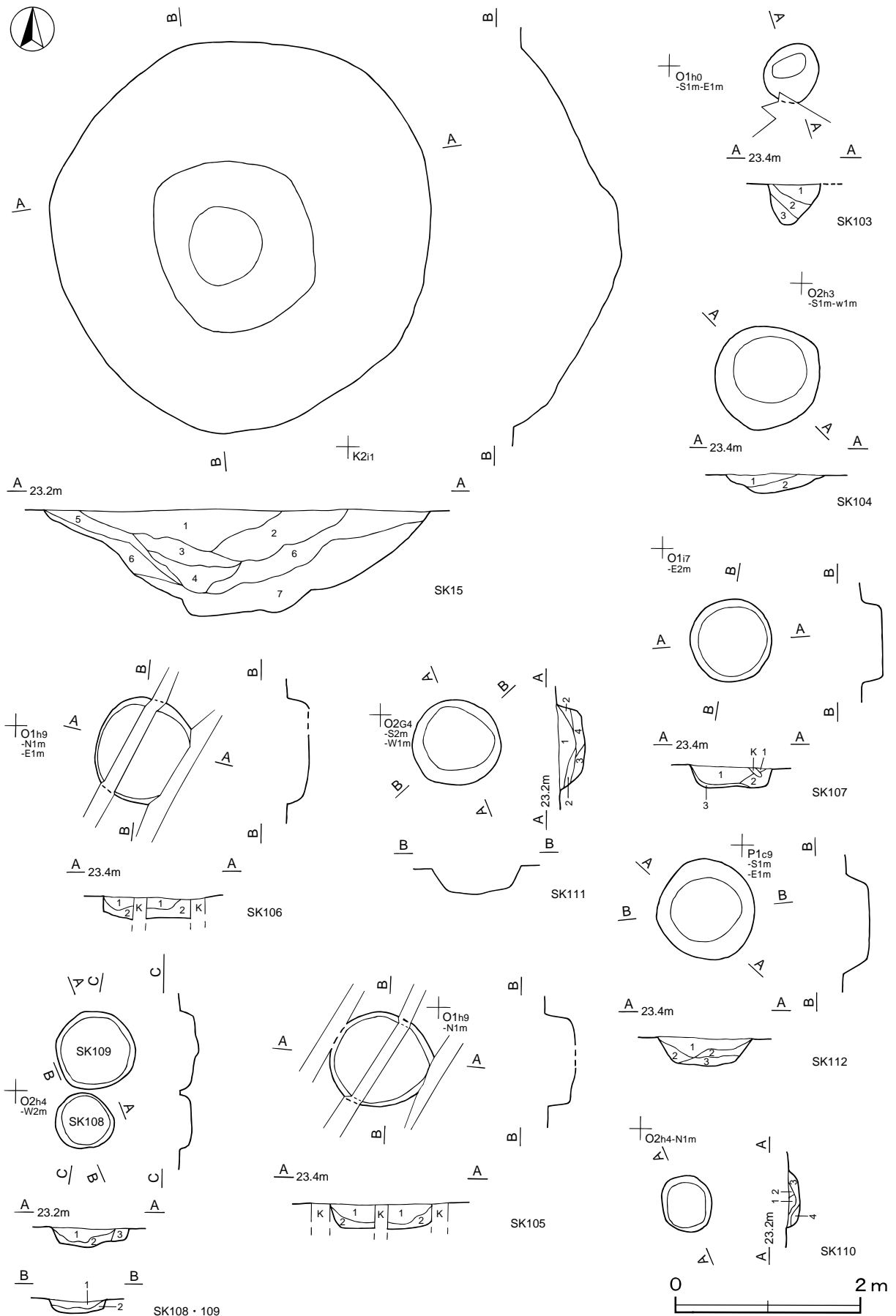
番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古 新)
				長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)				
2	J 1 i9 ~ J 2 i1	N・82°・W	直線状	[7.57]	0.98 ~ 1.32	0.22 ~ 0.54	11 ~ 18	U字状	不明	-	
3	J 2 e5 ~ K 2 a2	N・4°・E	L字状	31.40	0.55 ~ 0.98	0.18 ~ 0.54	38 ~ 50	U字状	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石製品	
4	J 2 j6 ~ K 3 b2	N・75°・W	直線状	[25.94]	0.68 ~ 1.02	0.30 ~ 0.90	17 ~ 33	U字状	人為	縄文土器, 土師器, 須恵器	
5	J 2 h5 ~ J 2 f8	N・65°・E	直線状	[16.62]	0.80 ~ 1.18	0.38 ~ 0.82	21 ~ 38	U字状	人為	土師器	本跡 S D 3
6	L 2 i3 ~ L 3 d1	N・61°・W	直線状	[39.63]	0.84 ~ 1.53	0.66 ~ 0.88	26 ~ 45	U字状	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 鉄製品	
7	L 1 c8 ~ L 2 e2	N・71°・W	直線状	[18.92]	0.80 ~ 2.02	0.32 ~ 1.06	22 ~ 61	U字状	自然	土師器, 陶器	本跡 S D 1
8	L 3 f1 ~ M 2 b5	N・42°・E	直線状	[33.51]	2.52 ~ 2.78	0.35 ~ 0.60	84 ~ 102	V字状	自然	土師器, 須恵器, 土製品	
20	O 2 j2 ~ P 1 d7	N・42°・E	L字状	35.18	0.36 ~ 0.65	0.13 ~ 0.48	22 ~ 42	逆台形状	人為	土師器, 須恵器, 磁器	
21	O 2 i2 ~ P 1 e6	N・42°・E	直線状	[32.63]	0.48 ~ 0.66	0.18 ~ 0.38	8 ~ 26	逆台形状	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器	
28	M 2 g7 ~ M 2 f8	N・66°・W	直線状	[5.52]	0.27 ~ 0.40	0.08 ~ 0.26	10 ~ 12	U字状	不明	-	S X 3 本跡
29	S 2 a9 ~ T 2 a1	N・71°・E	直線状	6.16	0.66 ~ 1.31	0.35 ~ 0.47	59 ~ 62	逆台形状	自然	土師器, 須恵器	

(3) 土坑 (第160 ~ 186図)

時期及び性格不明の土坑については, 以下, 実測図を記載する。

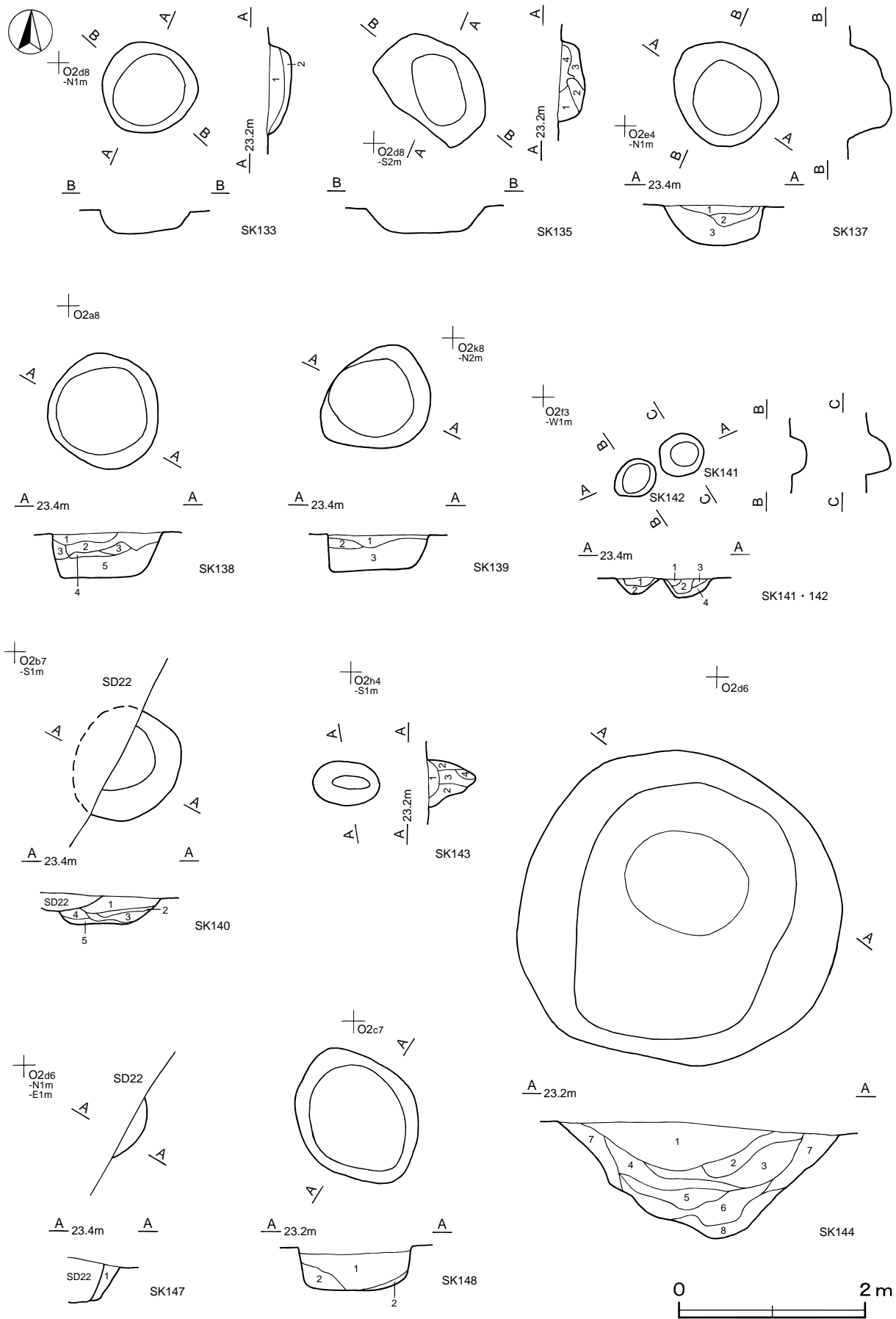


第160図 その他の土坑実測図(1)



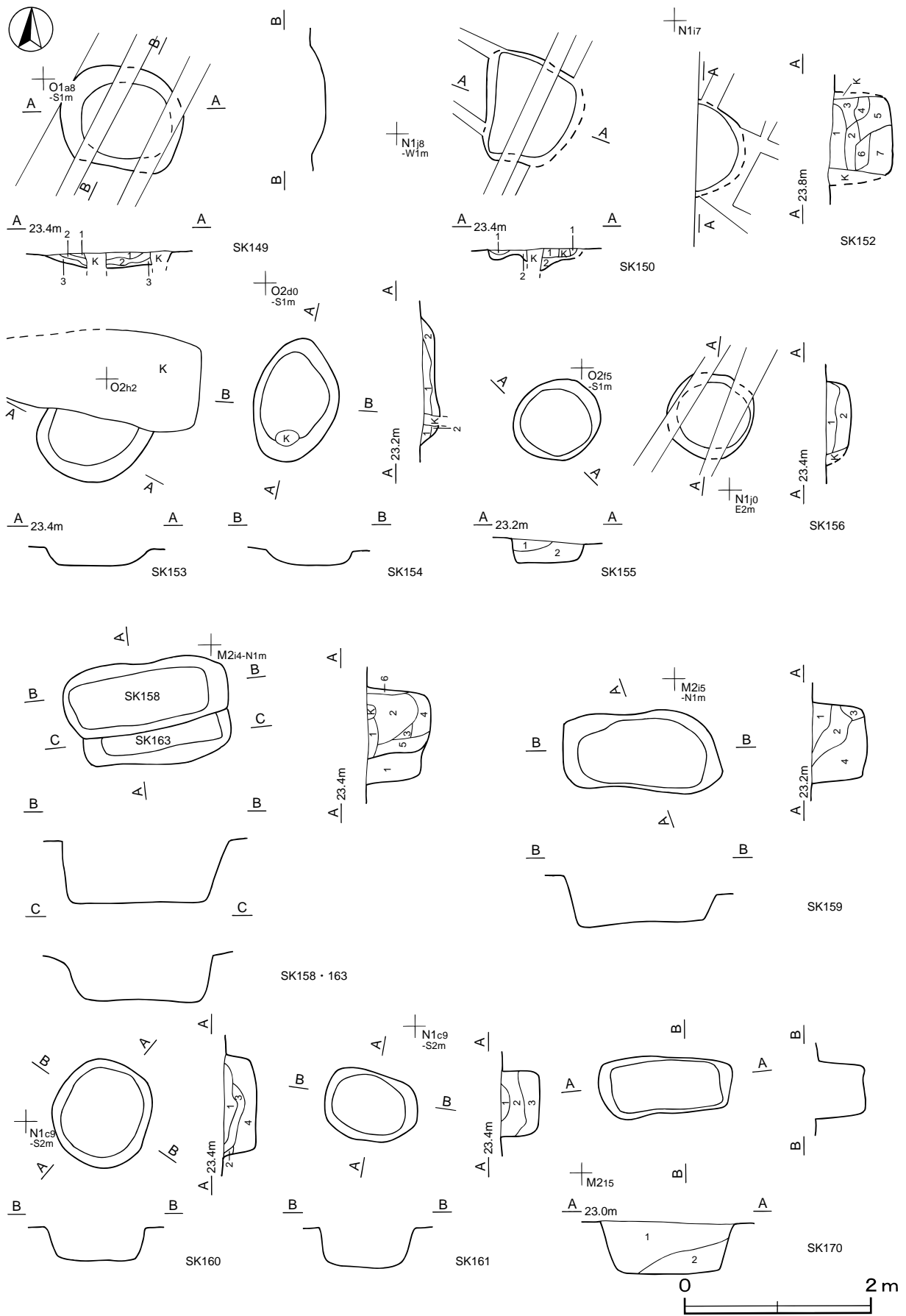
第161図 その他の土坑実測図(2)



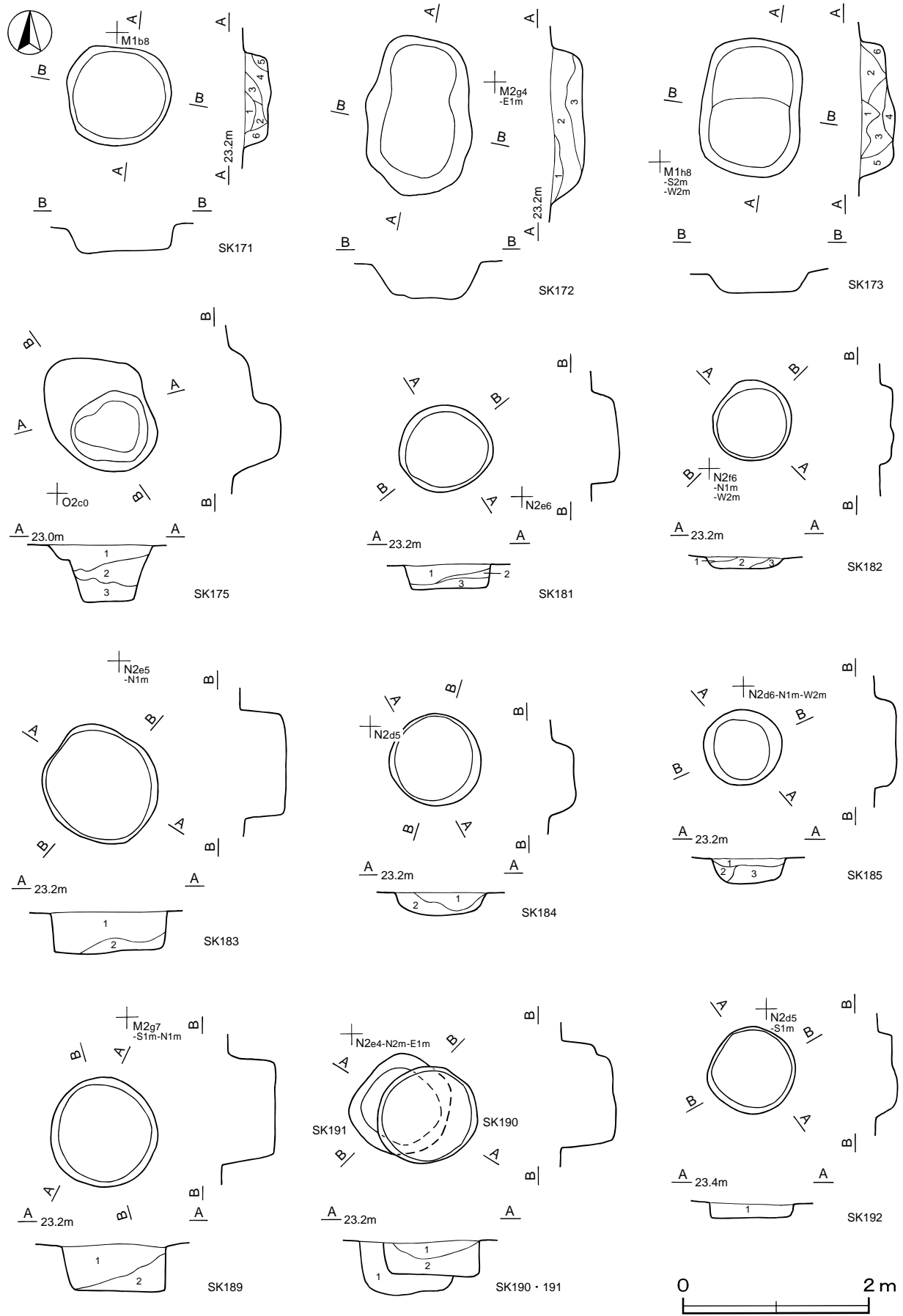


第163図 その他の土坑実測図(4)

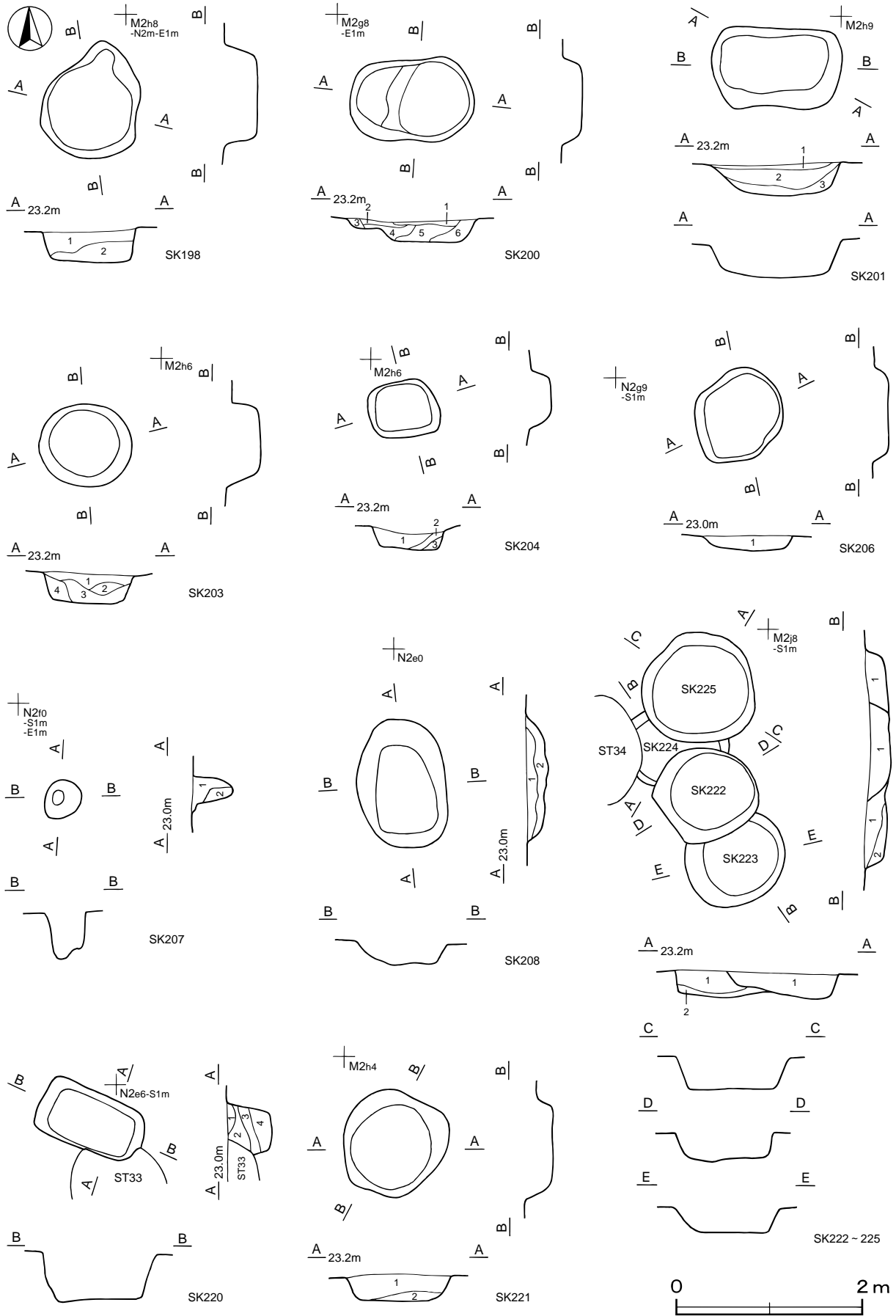




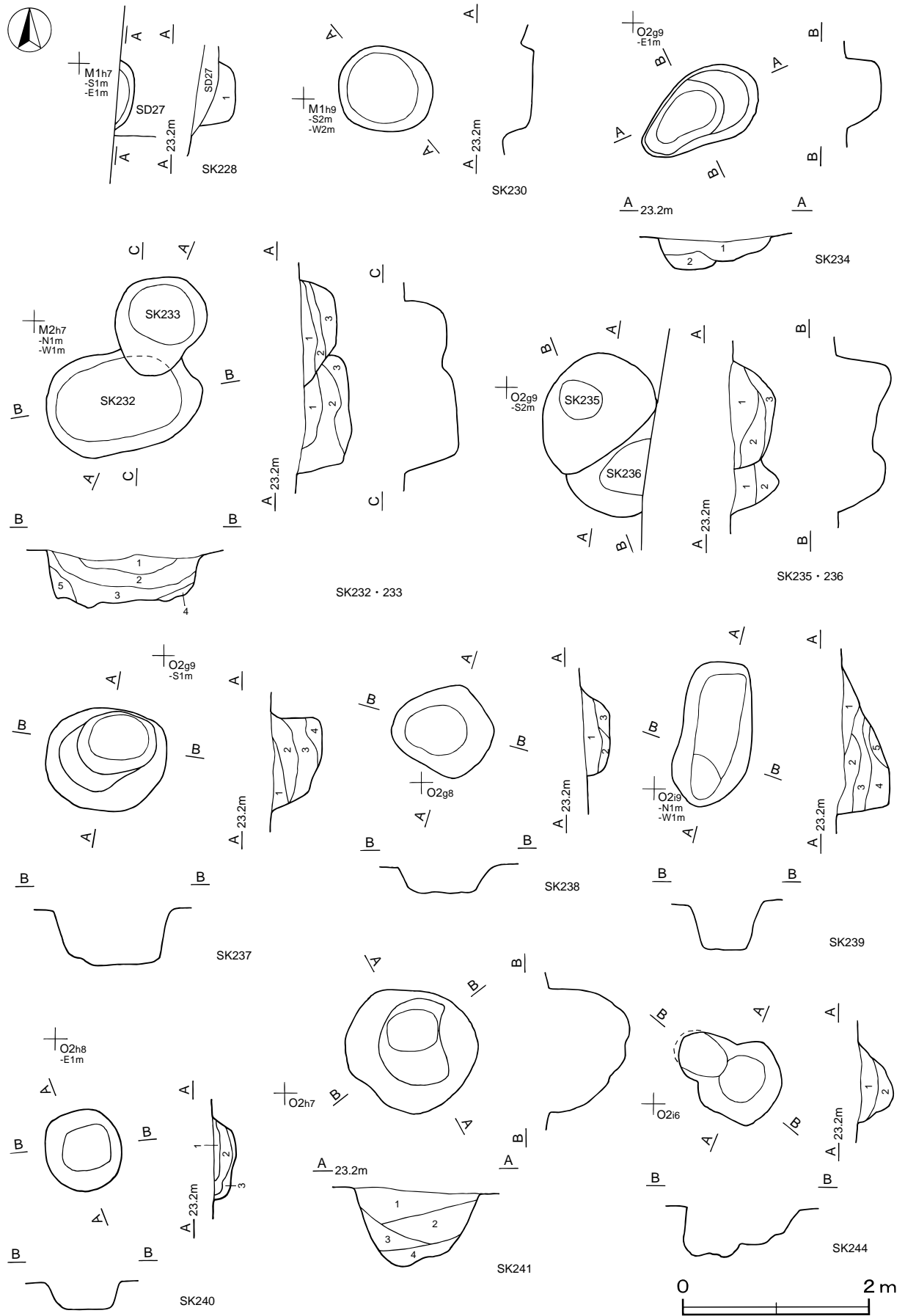
第164図 その他の土坑実測図(5)



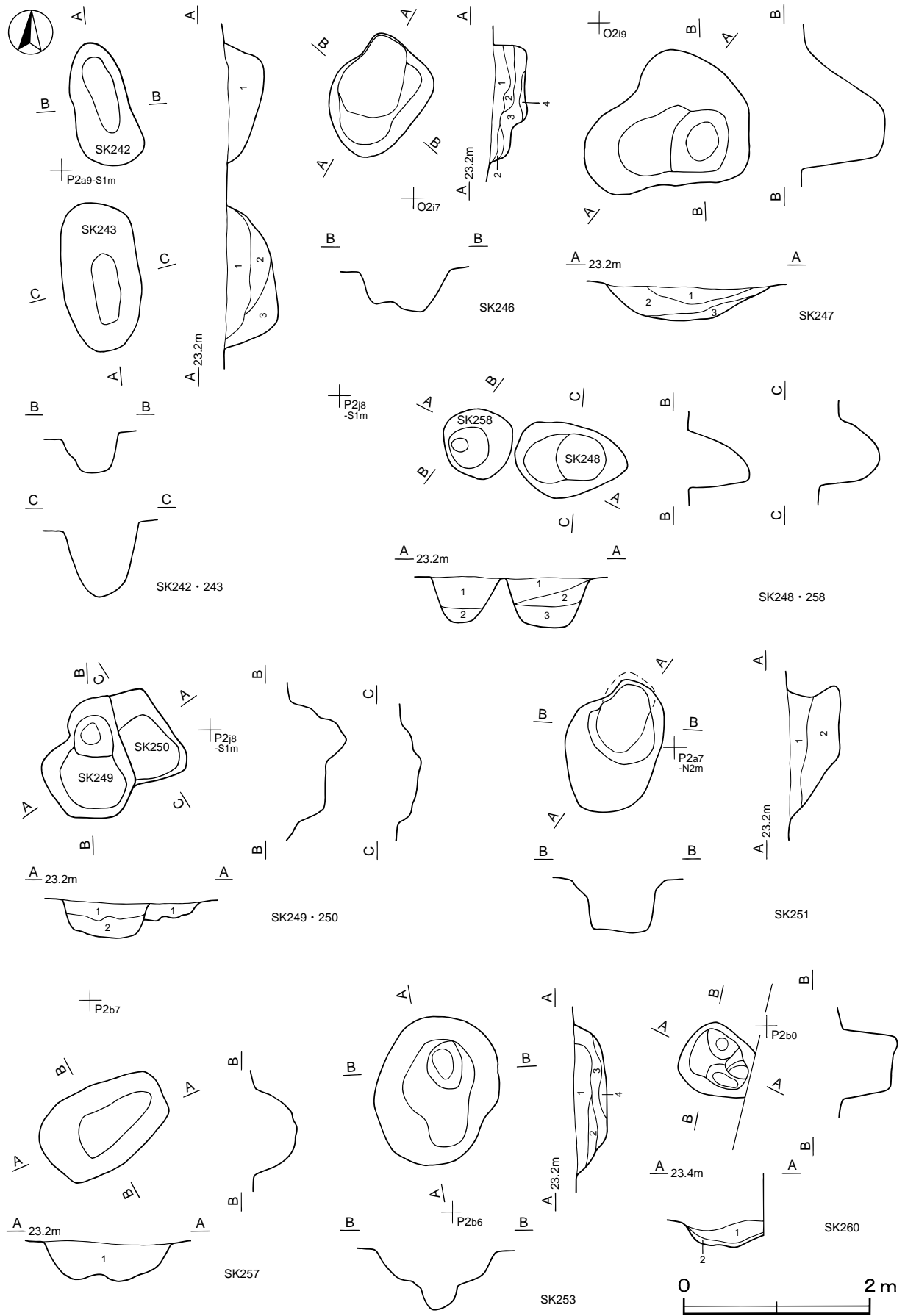
第165図 その他の土坑実測図(6)



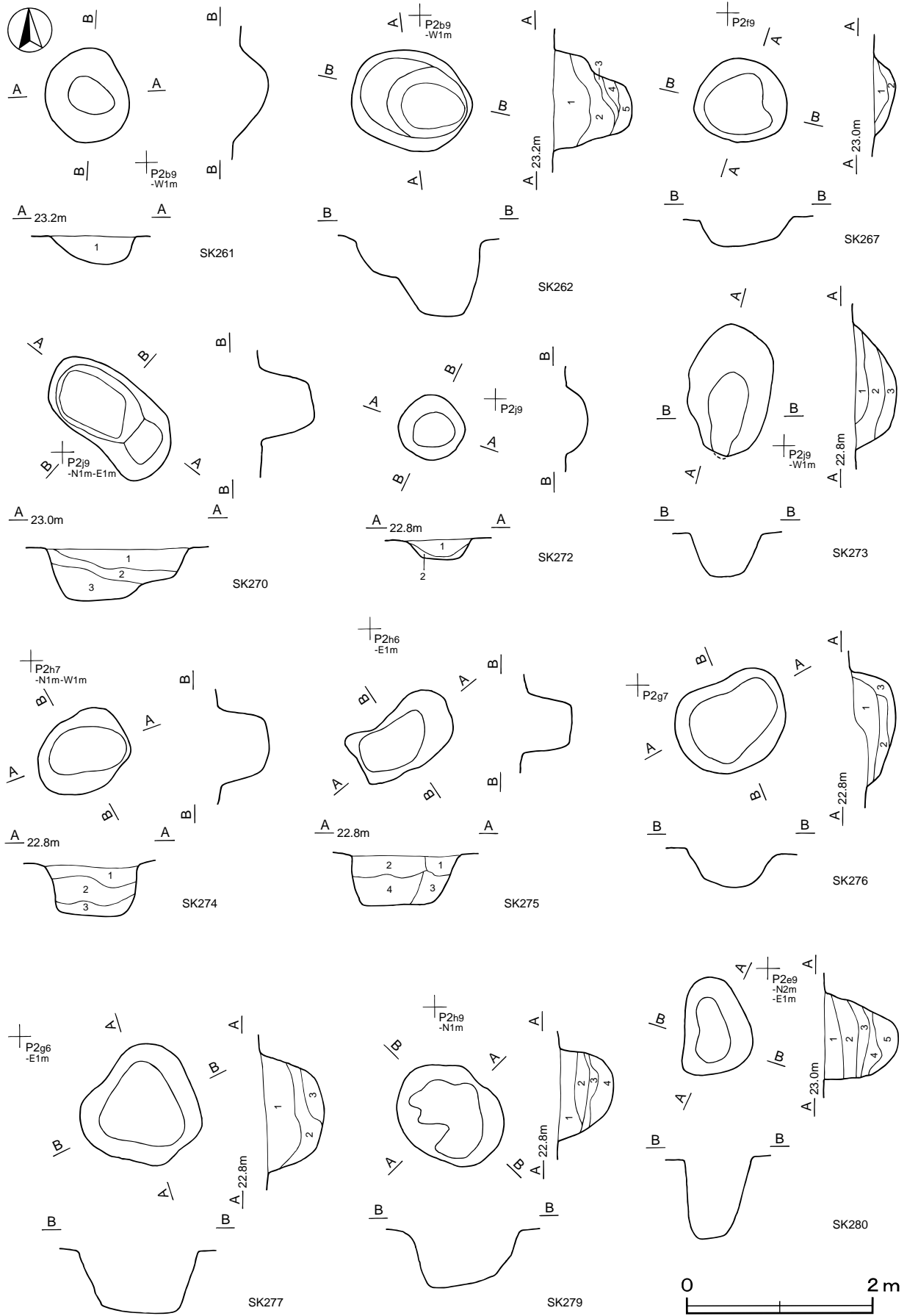
第166図 その他の土坑実測図(7)



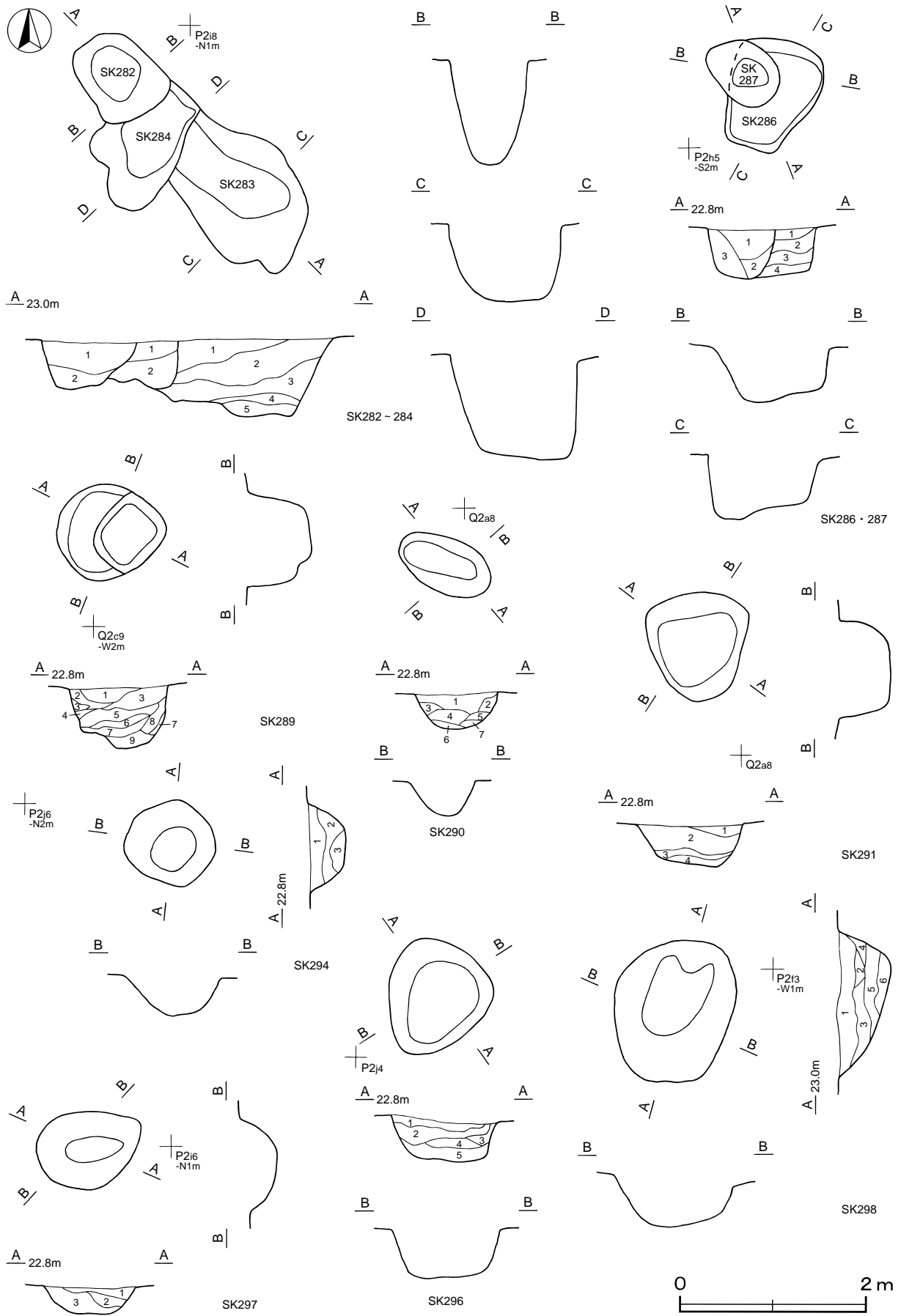
第167図 その他の土坑実測図（8）



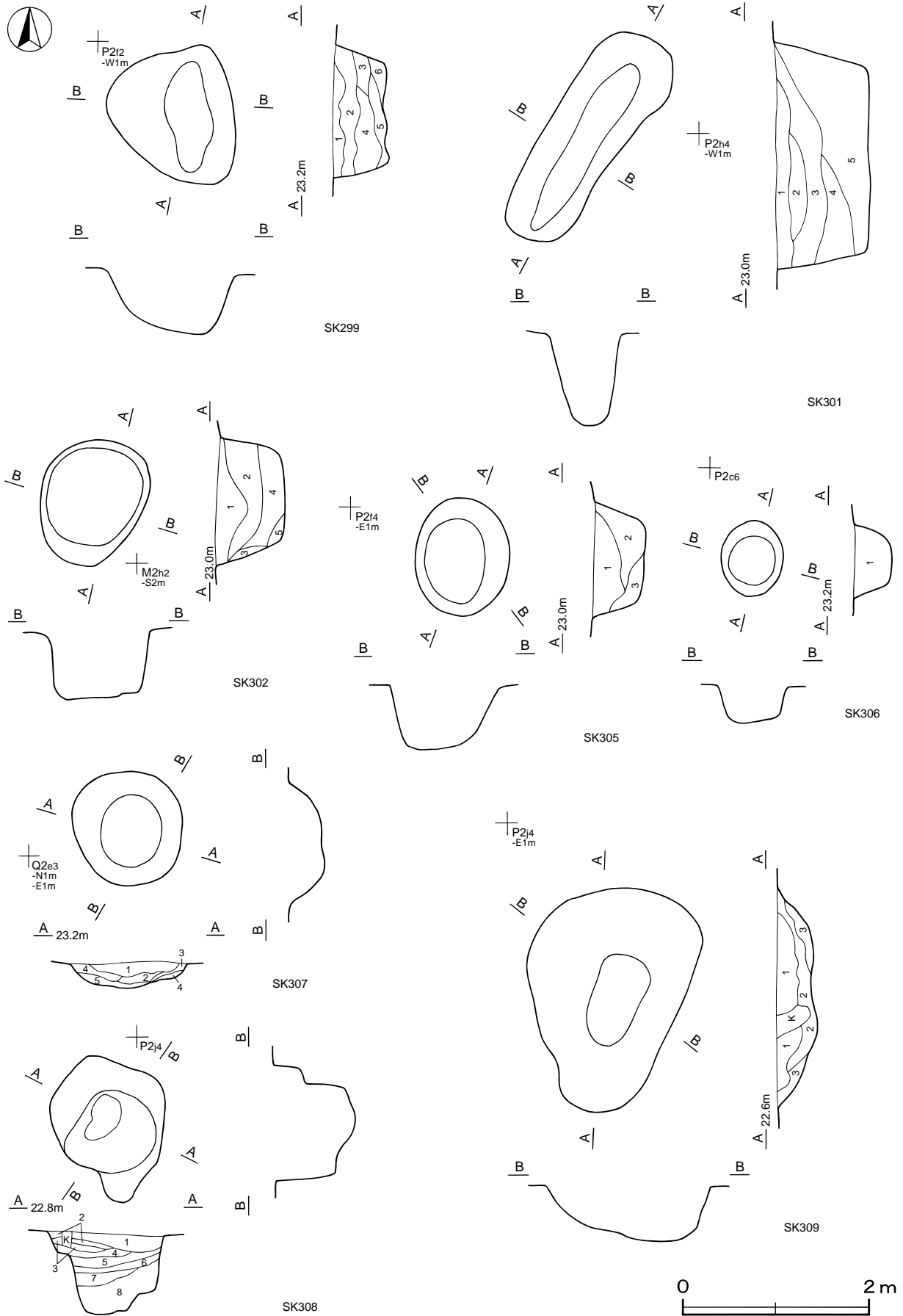
第168図 その他の土坑実測図(9)



第169図 その他の土坑実測図(10)

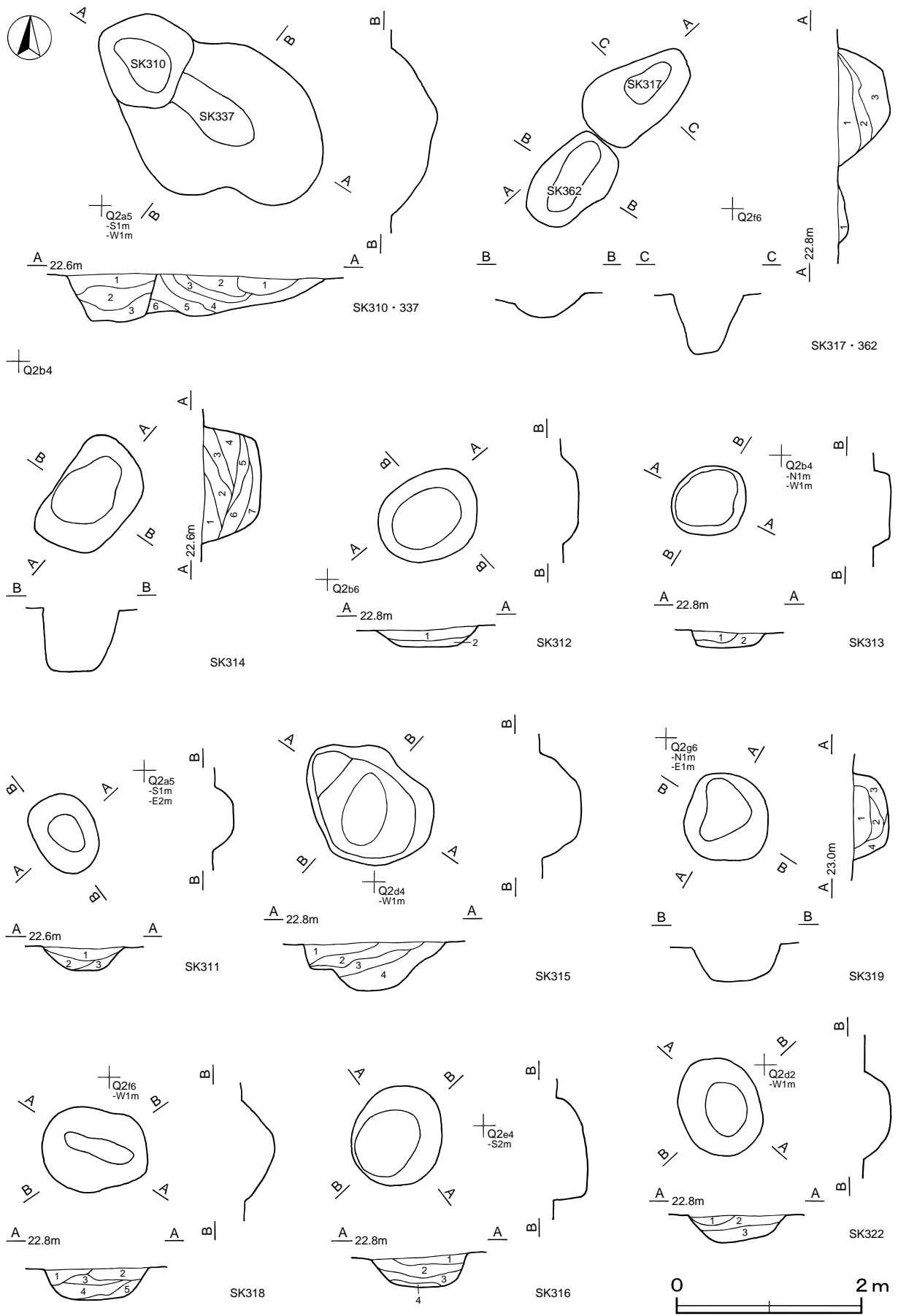


第170図 その他の土坑実測図(11)

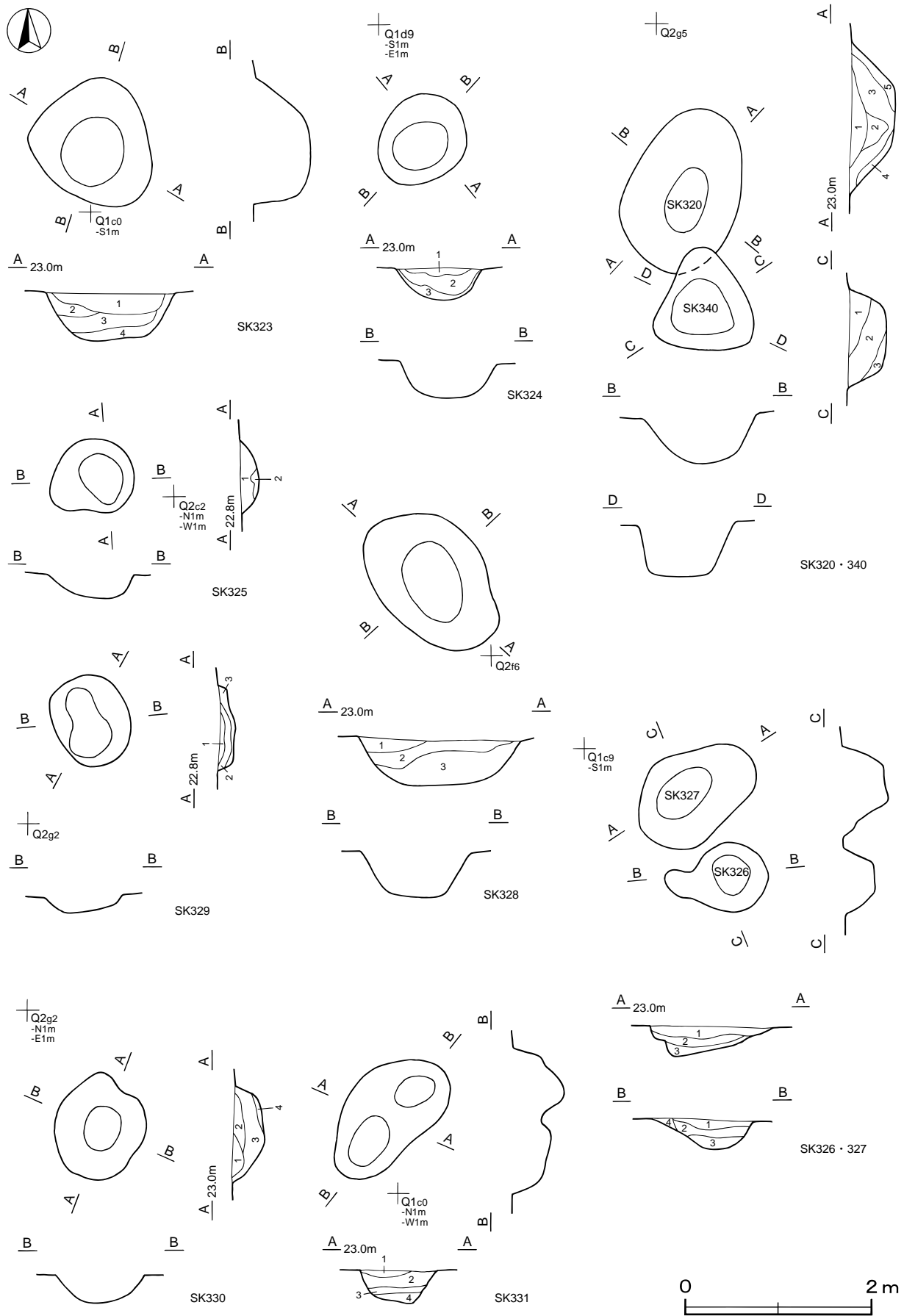


第171図 その他の土坑実測図(12)

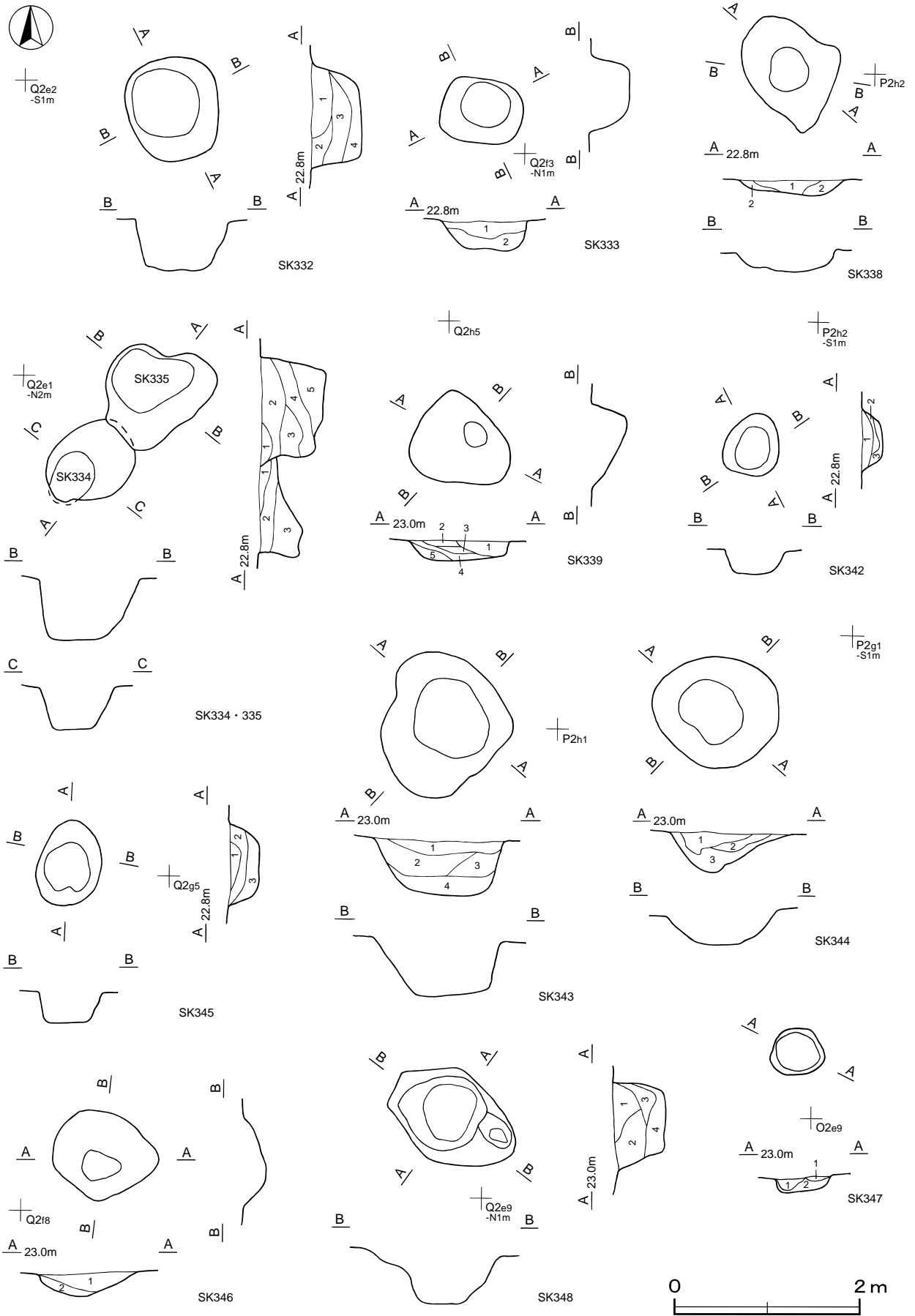




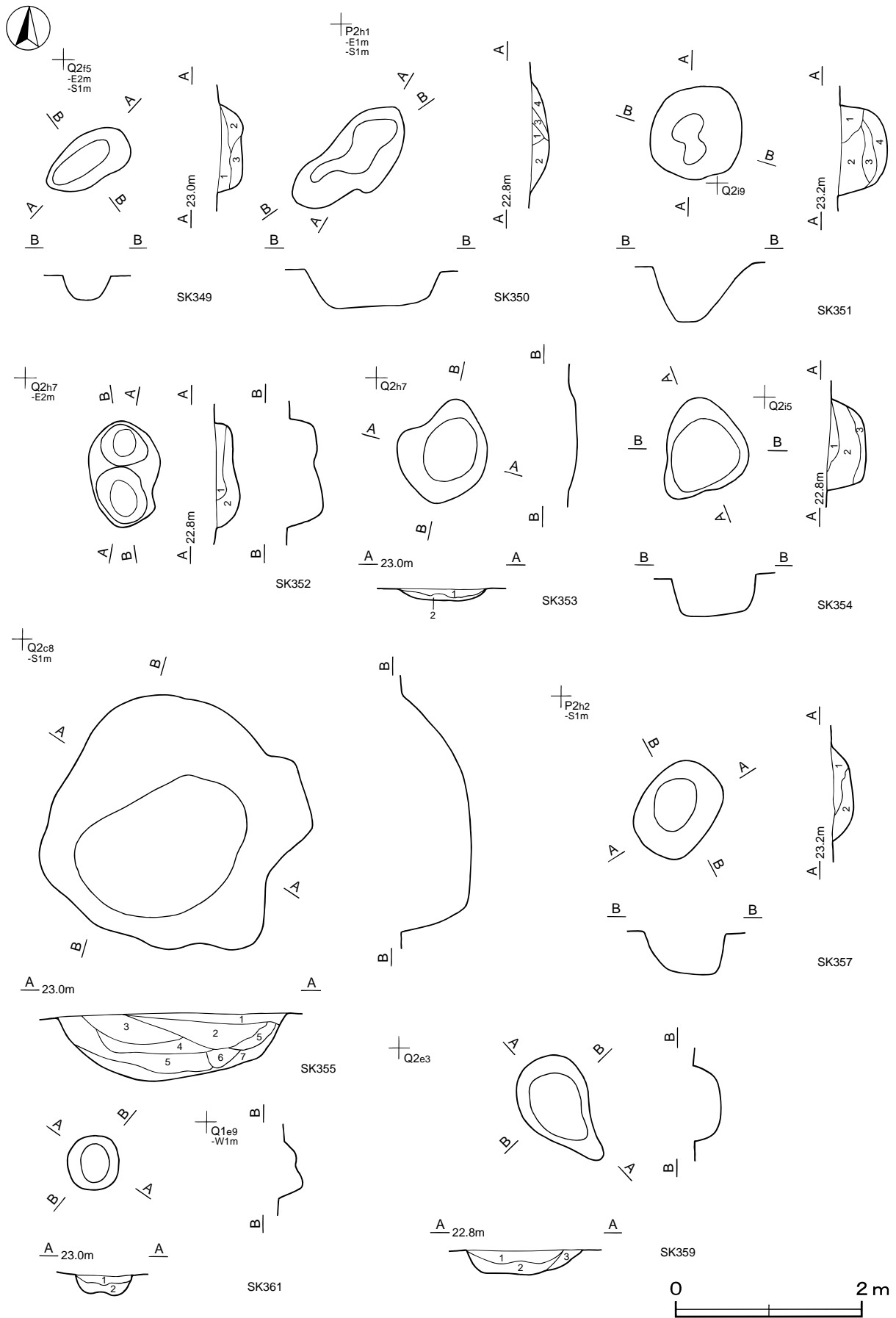
第172図 その他の土坑実測図(13)



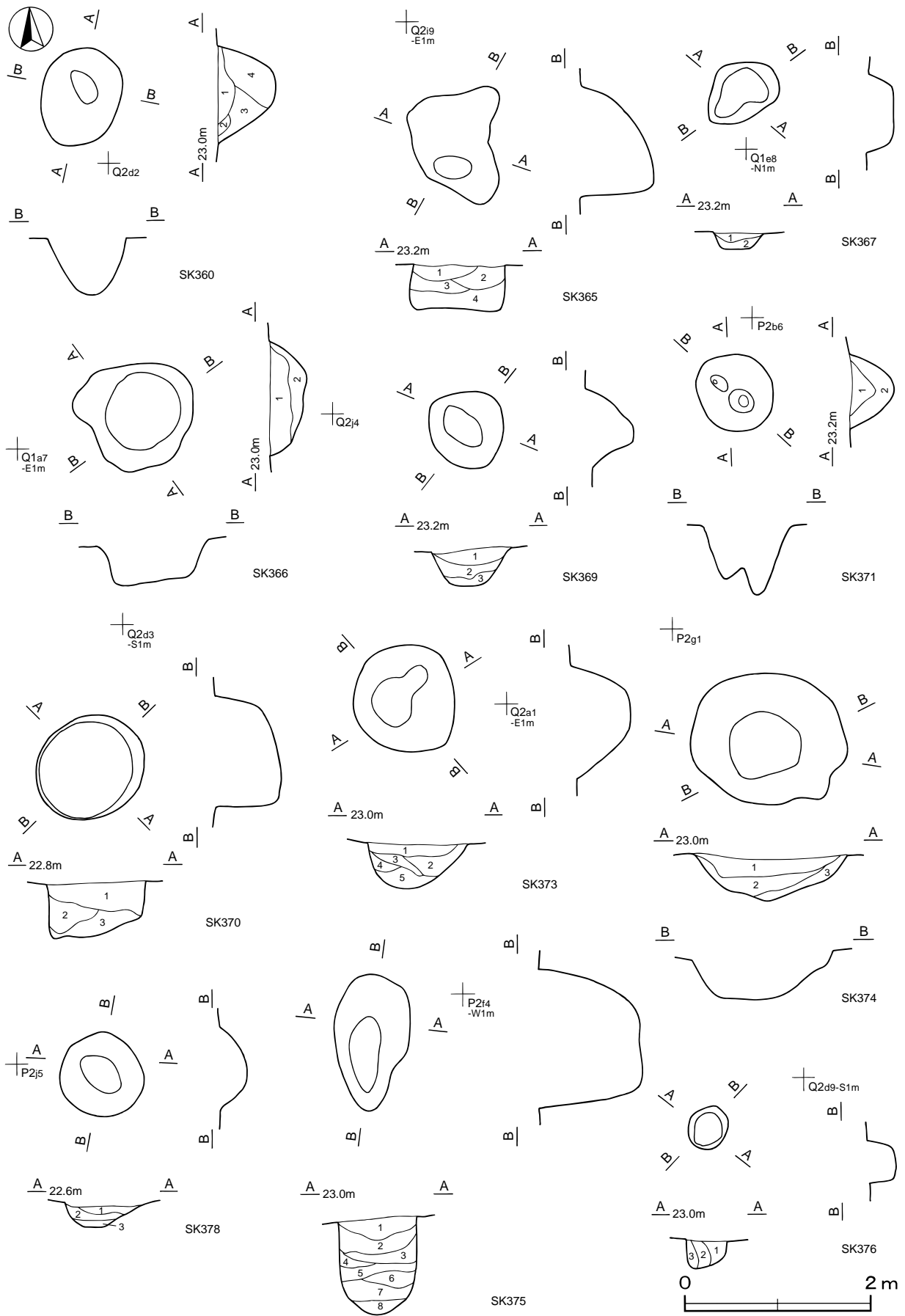
第173図 その他の土坑実測図(14)



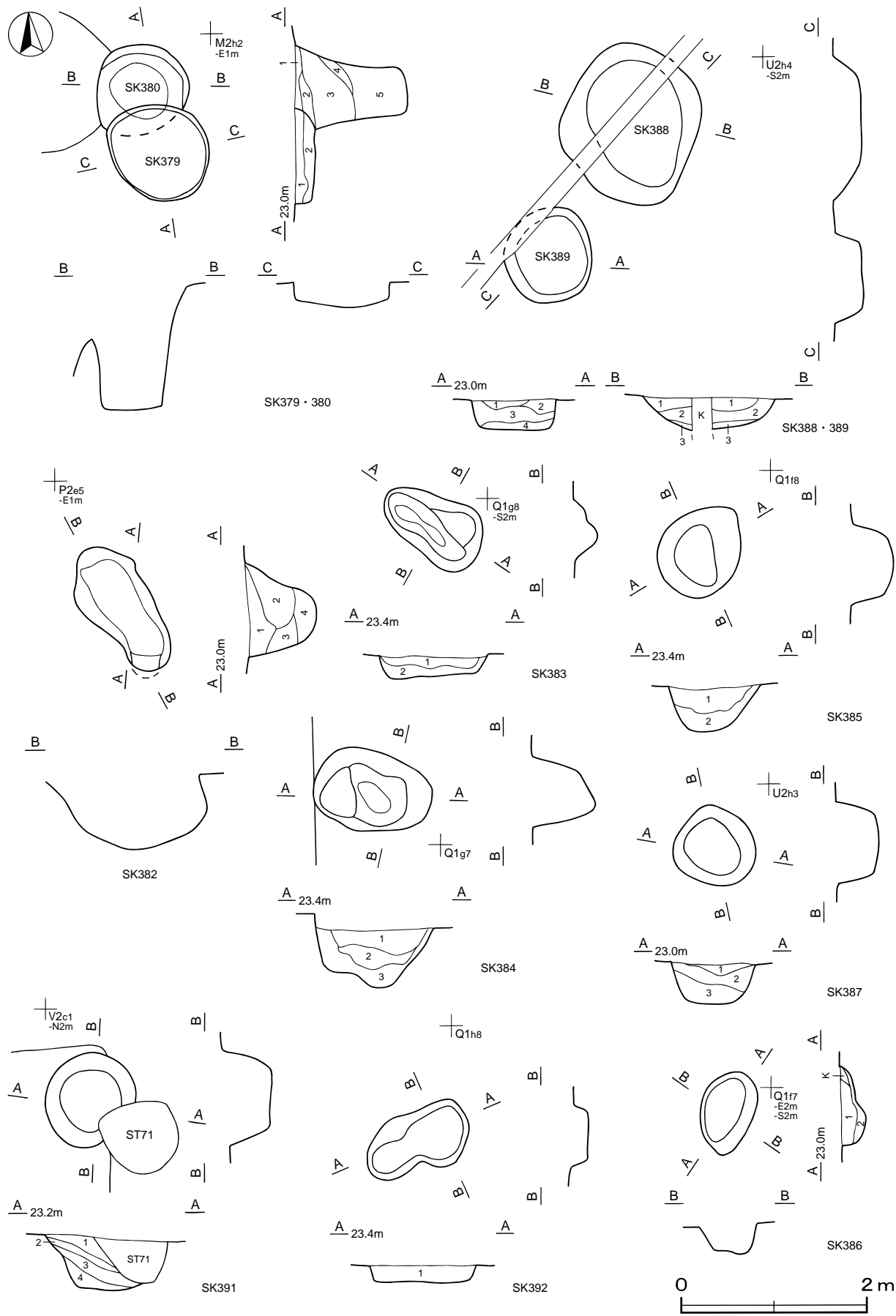
第174図 その他の土坑実測図(15)



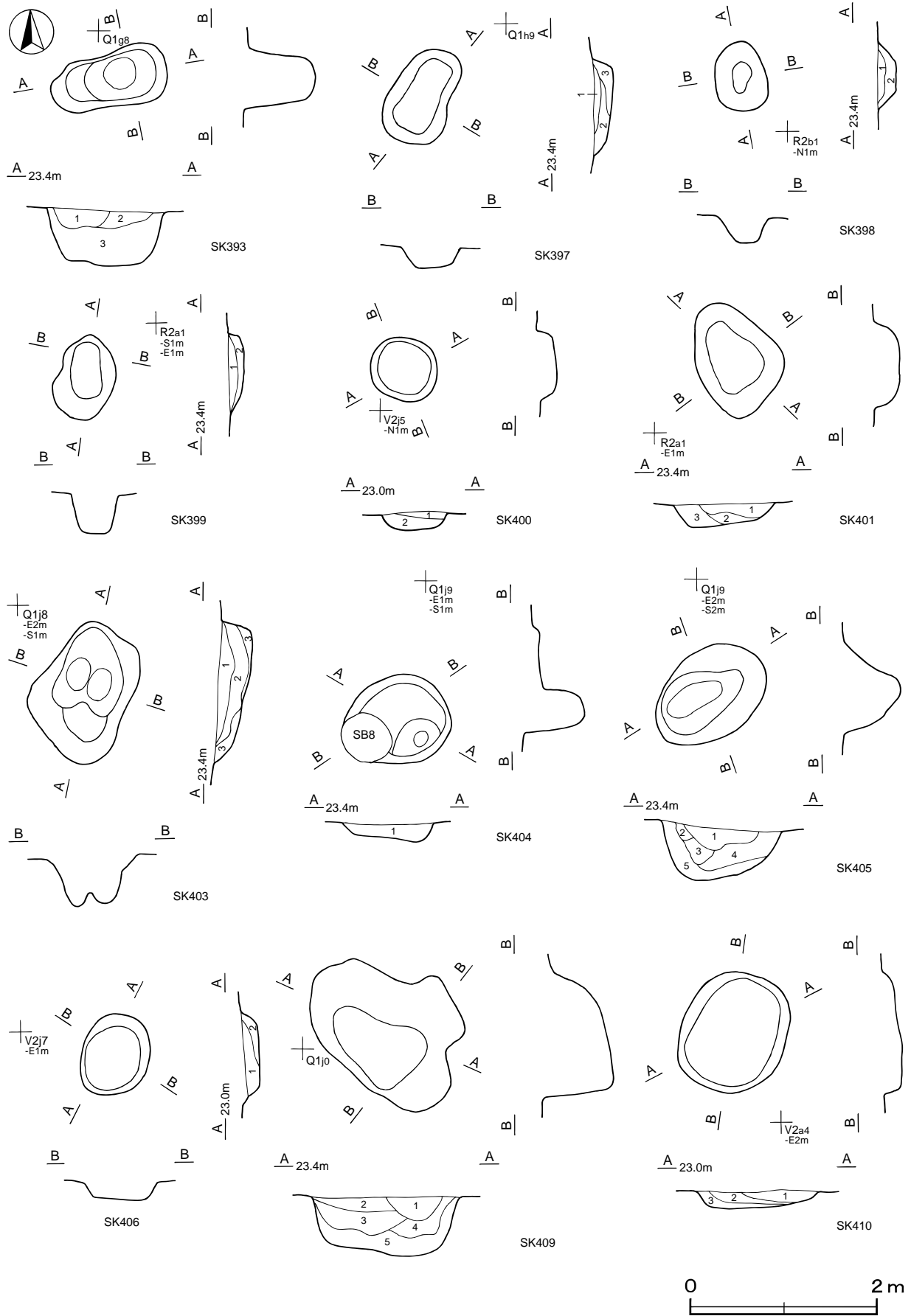
第175図 その他の土坑実測図(16)



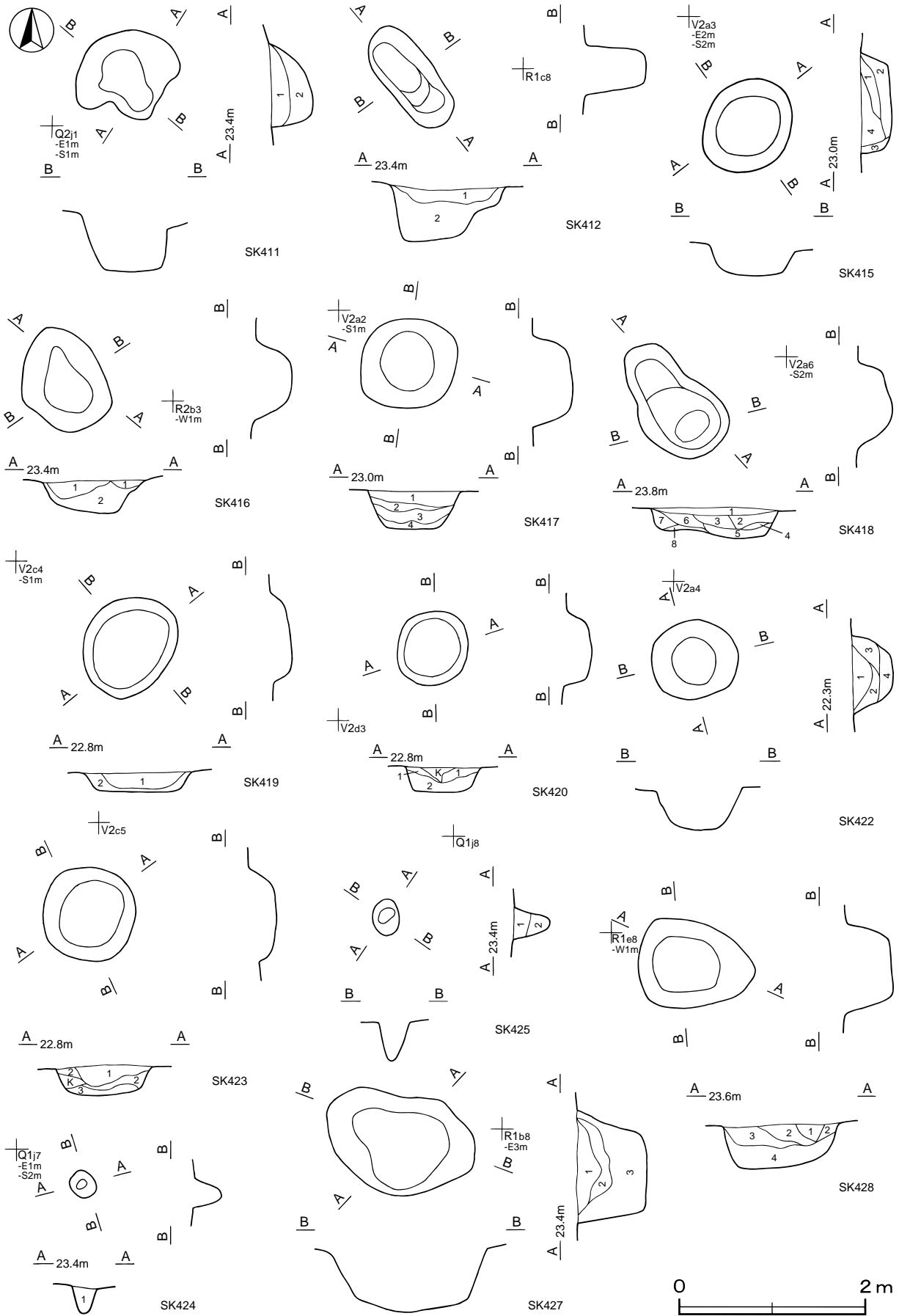
第176図 その他の土坑実測図(17)



第177図 その他の土坑実測図(18)

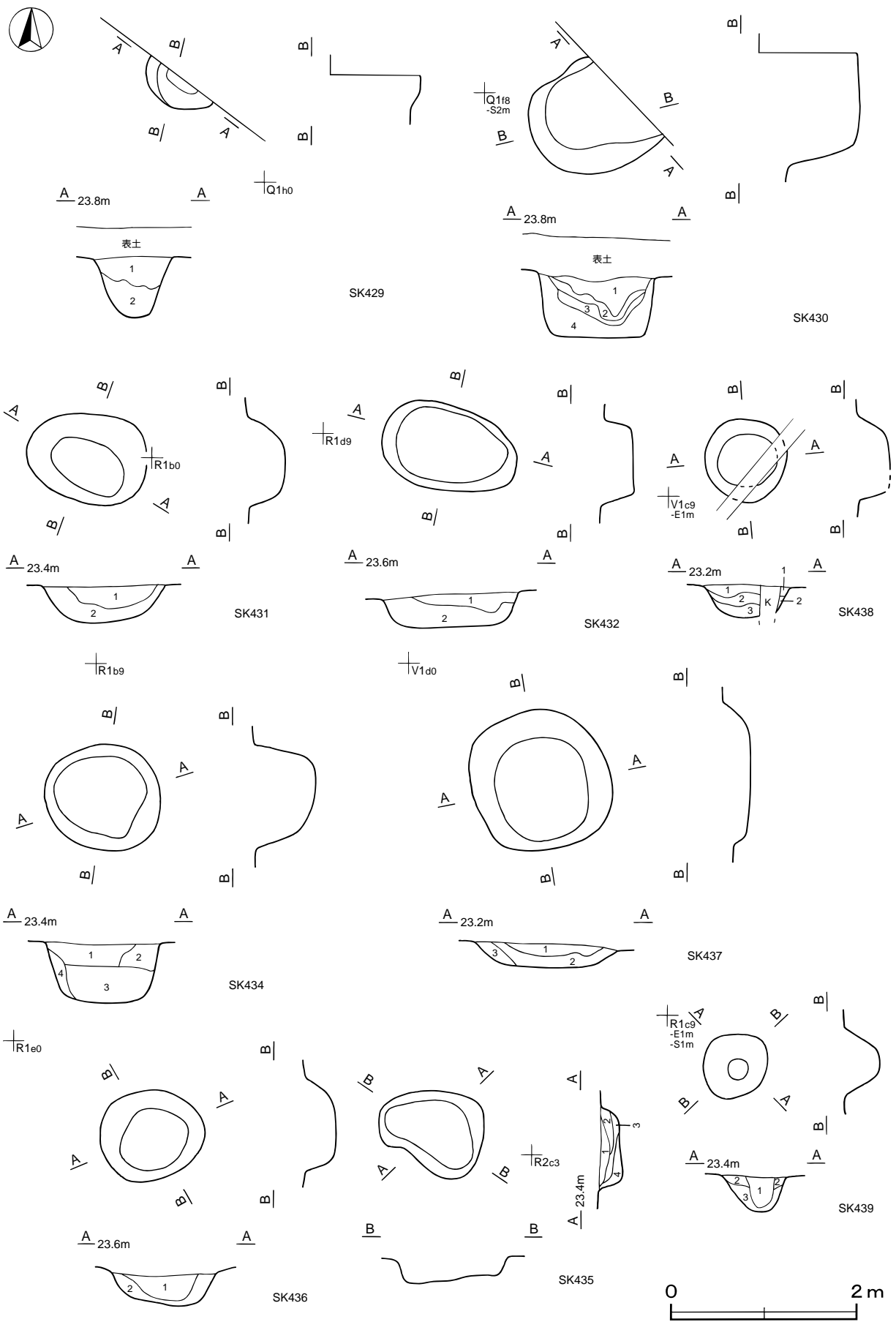


第178図 その他の土坑実測図(19)

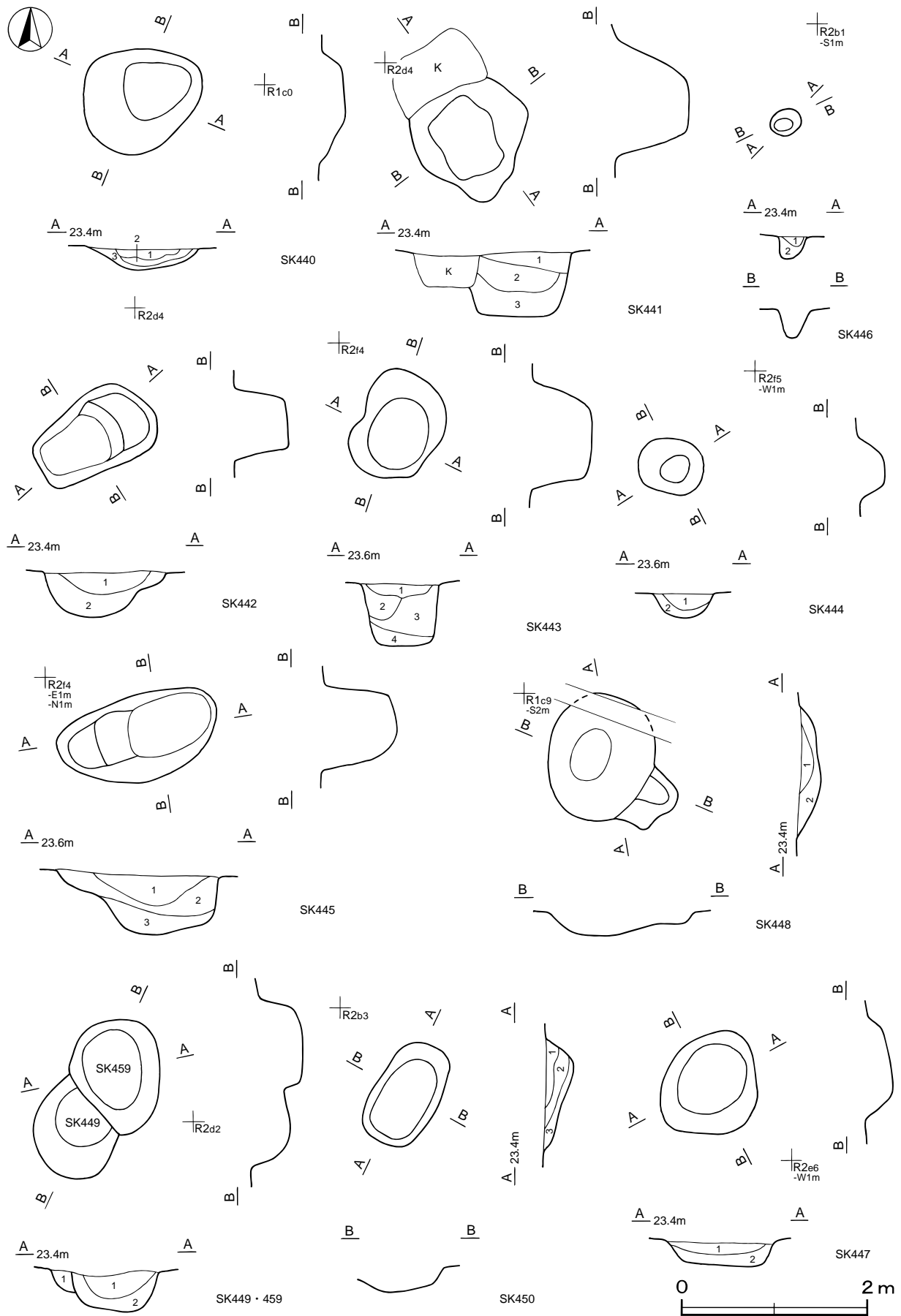


第179図 その他の土坑実測図(20)

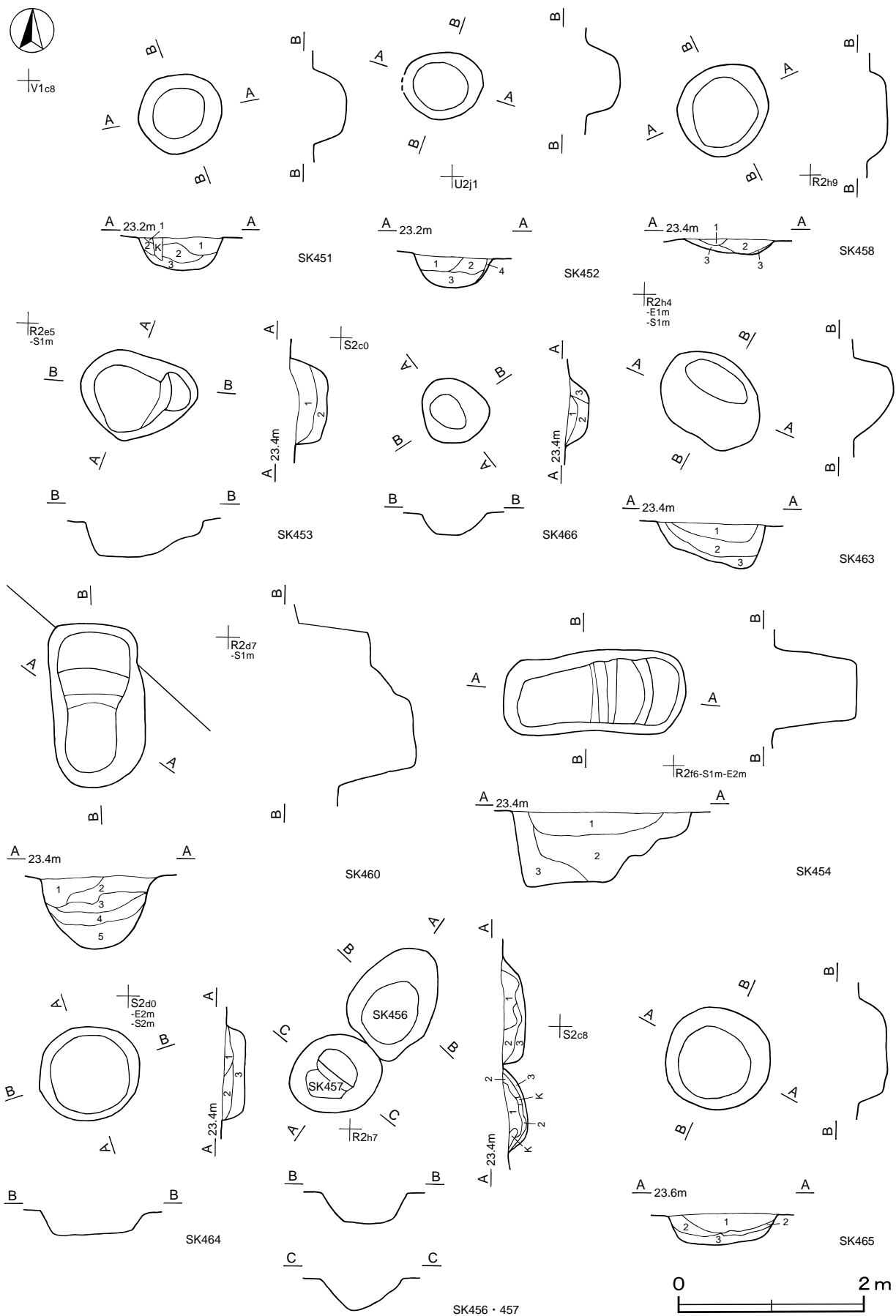




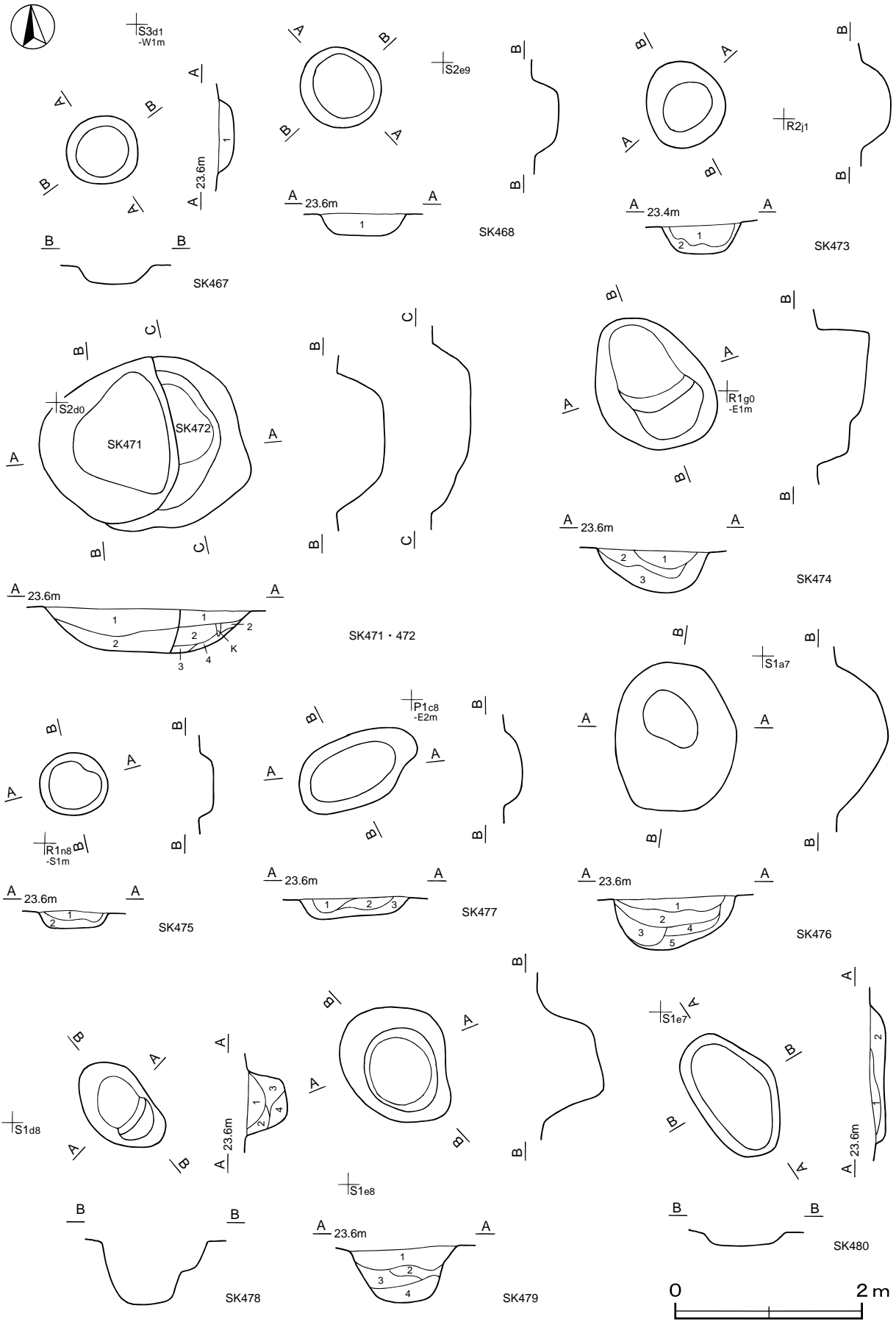
第180図 その他の土坑実測図(21)



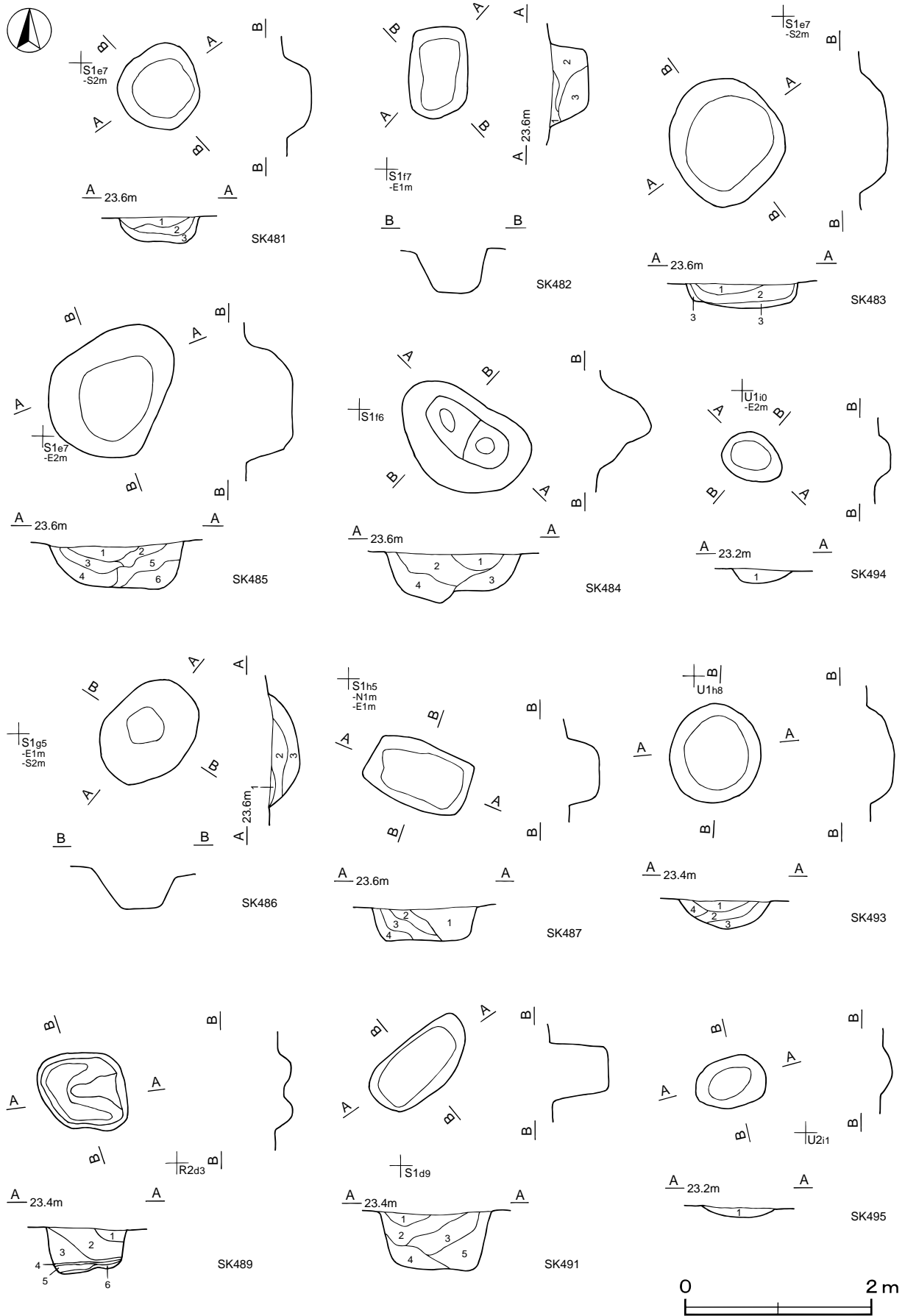
第181図 その他の土坑実測図(22)



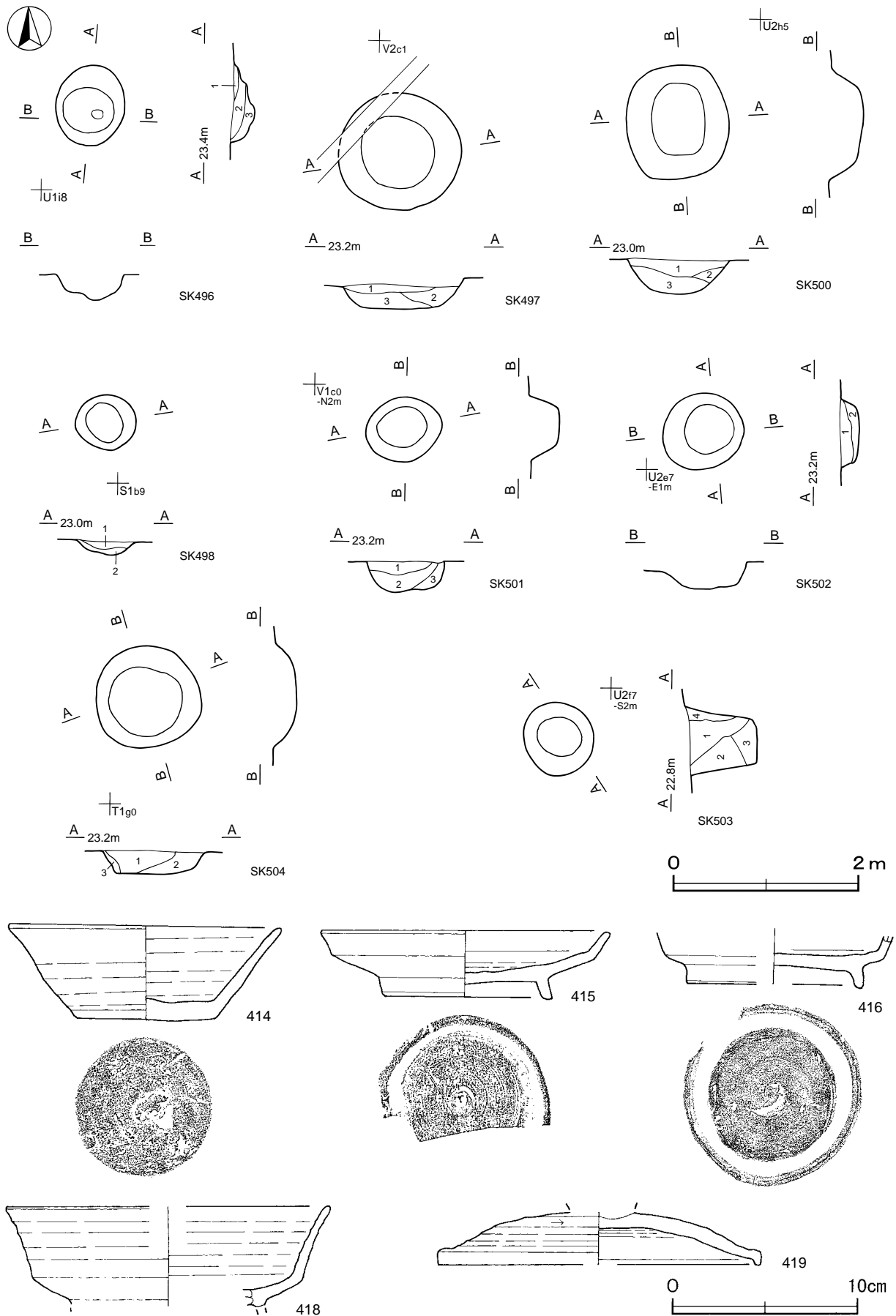
第182図 その他の土坑実測図 (23)



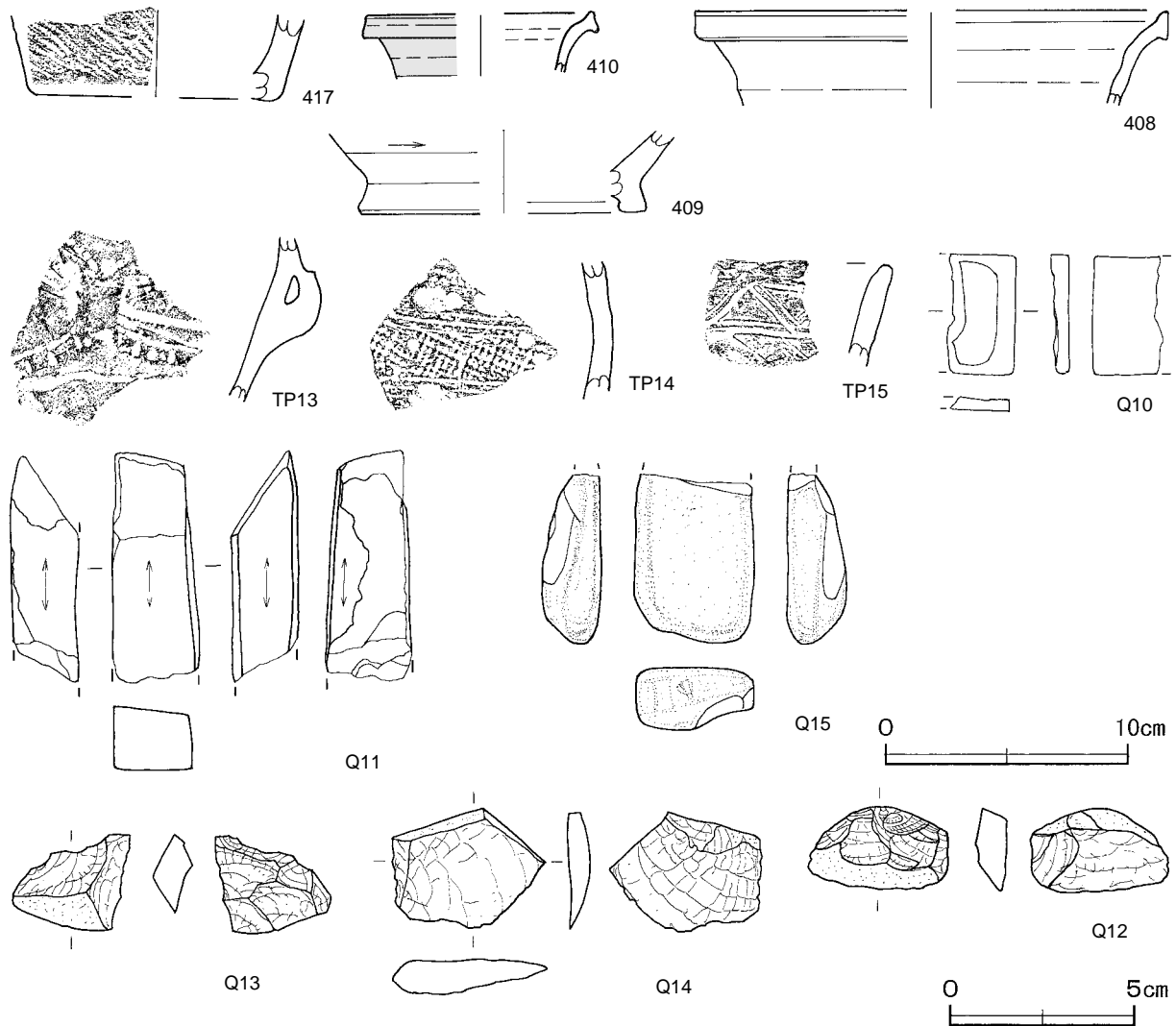
第183図 その他の土坑実測図(24)



第184図 その他の土坑実測図(25)



第185図 その他の土坑・出土遺物実測図



第186図 その他の土坑出土遺物実測図

その他の土坑出土遺物観察表 (第185・186図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
408	須恵器	甕	[19.2]	(4.1)	-	黒色粒子	暗灰黄	普通	口縁部口ロナデ	SK297	5%
409	須恵器	瓶類	-	(3.4)	[11.6]	黒色粒子	暗灰黄	普通	口ロナ整形 体部外面下端回転ヘラ削り 高台貼り付け	SK299	5%
410	灰釉陶器	瓶類	[9.2]	(2.4)	-	長石	灰オリーブ	良好	口ロナ整形 外面施釉	SK350	5% 猿投系 PL33
414	須恵器	坏	14.7	5.2	7.3	長石・黒色粒子・ 海綿骨針・チャート	灰	普通	体部内外面口ロナ整形 底部回転ヘラ切り後 二方向の手持ちヘラ削り	SK419	70%
415	須恵器	盤	15.4	3.7	9.0	石英・長石・海 綿骨針・チャート	黄灰	普通	体部内外面口ロナ整形 底部回転ヘラ削り後 高台貼り付け	SK437	60% ヘラ記号
416	須恵器	高台付坏	-	(2.7)	9.4	石英・長石・ 黒色粒子・礫	灰黄	普通	体部内外面口ロナ整形 底部回転ヘラ切り後 回転ヘラ削り 高台貼り付け	SK439	50%
417	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	[9.6]	長石	橙	普通	単節RLの縄文	SK503	5%
418	須恵器	高台付坏	[17.4]	(5.4)	-	石英・長石・黒 色粒子・チャート	灰	普通	体部内外面口ロナ整形 高台貼り付け (剥離)	SK504	25%
419	須恵器	蓋	[17.4]	(2.8)	-	石英・長石・ 雲母・黒色粒子	灰	普通	体部内外面口ロナ整形 天井部回転ヘラ削り 後つまみ貼り付け (剥離)	SK504	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	普通	把手部を有する口縁部 把手部は刻みを施す 隆帯	SK355	5%
TP14	須恵器	甕	-	(5.8)	-	長石	黄灰	普通	格子状の叩き目	SK411	5%
TP15	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	平縁 半截竹管による平行沈線	SK503	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q10	硯	4.85	(2.8)	0.75	(15.9)	粘板岩	片側欠損 携帯用カ	SK221	PL38
Q11	砥石	(9.4)	3.5	2.7	(131.0)	頁岩	砥面 4 面	SK328	
Q12	剥片	2.3	3.8	0.9	7.75	黒色安山岩	横長剥片 上端・下端は自然面	SK386	
Q13	剥片	3.2	2.7	1.1	6.15	黒色安山岩	縦長剥片 左側縁は自然面	SK386	PL38
Q14	剥片	4.2	3.2	0.9	10.5	黒色安山岩	縦長剥片 左側面は自然面	SK403	PL38
Q15	磨石	(7.0)	4.9	2.5	(120.1)	石英斑岩	片側欠損	SK493	

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 にぶい黄色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第12号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第13号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第14号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化物・ロームブロック微量
- 2 黄褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量, 炭化物微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 4 黄褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 炭化物・ローム粒子微量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量
- 5 褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 6 褐色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 7 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第16号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第100号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 明黄褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック多量

第101号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第102号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 暗褐色土ブロック微量

第103号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第104号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第105号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第106号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第107号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第108号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第109号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第110号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第111号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量

第112号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

第113号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第114号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第115号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 黒褐色土ブロック少量

第116号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

第117号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック微量

第119号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量



第120号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第121号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第122号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 明黄褐色 暗褐色土ブロック中量

第123号土坑土層解説

- 1 褐色 暗褐色土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第127号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第128号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第130号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

第131号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第133号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黄褐色 暗褐色土ブロック多量

第135号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 明黄褐色 暗褐色土ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第137号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第138号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第139号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第140号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量

第141号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第142号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第143号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子微量

第144号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ロームブロック微量
- 7 にぶい褐色 ローム粒子多量, 赤色粒子少量
- 8 にぶい褐色 ローム粒子多量

第147号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第148号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第149号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第150号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第152号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック多量

第154号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第155号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第156号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第158号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量

第159号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第160号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量

第161号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第163号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量

第170号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

第171号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量

第172号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第173号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

第175号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 黄褐色 暗褐色土ブロック少量

第181号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

第182号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第183号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第184号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第185号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黄褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第189号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック微量

第190号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量

第191号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第192号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第198号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第200号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 黒色 ローム粒子微量

第201号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第203号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

第204号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第206号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化物・ロームブロック微量

第207号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

第208号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

第220号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量

第221号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第222号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第223号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第224号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第225号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第228号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第232号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物・ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒色 ローム粒子中量

第233号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第234号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第235号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第236号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第237号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子中量

第238号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量

第239号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黒 色 ローム粒子微量
- 5 黒 色 ロームブロック少量

第240号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量

第241号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 色 ロームブロック多量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子中量

第242号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第243号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 色 ロームブロック微量
- 3 黒 色 ローム粒子少量

第244号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 色 ローム粒子少量

第246号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子多量

第247号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量

第248号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子多量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

第249号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量

第250号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量

第251号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量

第253号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子少量

第257号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

第258号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子多量

第260号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第261号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック微量

第262号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 4 黒 色 ローム粒子微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子多量

第267号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量

第270号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量

第272号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第273号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第274号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第275号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量

第276号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量

第277号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子多量

第279号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ローム粒子多量

第280号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ローム粒子多量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子微量

第282号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第283号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ロームブロック多量

第284号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量

第286号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量

第287号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量

第289号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 黒 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 黒 色 ローム粒子微量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 8 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 9 黒 褐 色 ローム粒子微量

第290号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 5 褐 色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ローム粒子多量
- 7 暗 褐 色 ローム粒子中量

第291号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第294号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 明 褐 色 ロームブロック中量

第296号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 5 褐 色 ロームブロック少量

第297号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第298号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 6 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

第299号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック微量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック少量

第301号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 5 灰 褐 色 ローム粒子中量

第302号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量，鹿沼バミス少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量

第305号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

第306号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第307号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 極暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子中量，黒色土ブロック微量

第308号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子多量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 5 黒 色 ロームブロック微量
- 6 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 7 褐 色 ローム粒子微量
- 8 黒 褐 色 ロームブロック微量

第309号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック微量

第310号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量

第311号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

第312号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量

第313号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量，炭化物微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

第314号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 5 褐 色 ローム粒子中量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 7 褐 色 ロームブロック少量

第315号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第316号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第317号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量

第318号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量

- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 5 褐 色 ローム粒子多量

第319号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量

第320号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック微量

第322号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

第323号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第324号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第325号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量

第326号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 褐 色 ロームブロック微量

第327号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

第328号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

第329号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック微量

第330号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ロームブロック微量

第331号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ロームブロック微量

第332号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第333号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量

第334号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量

第335号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量

第337号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック多量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量
- 5 黒 色 ロームブロック微量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック微量

第338号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量

第339号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック微量

第340号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量

第342号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

第343号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第344号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第345号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 黒 色 ローム粒子微量

第346号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第347号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第348号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量

第349号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ローム粒子多量

第350号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

4 黒褐色 ローム粒子微量

第351号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第352号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第353号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第354号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子微量

第355号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック中量

第357号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第359号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第360号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第361号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第362号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第365号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第366号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第367号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第369号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第370号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第371号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第373号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第374号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第375号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 炭化物・ロームブロック微量
- 4 黒色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ロームブロック微量

第376号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第378号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第379号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第380号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子微量

第382号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第383号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第384号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第385号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第386号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第387号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第388号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第389号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

4 極暗褐色 ローム粒子微量

第391号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第392号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第393号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第397号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第398号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第399号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第400号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第401号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第403号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第404号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第405号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第406号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

第409号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 黒色 ロームブロック少量

第410号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第411号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第412号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第415号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 褐色 ロームブロック少量

4 暗褐色 ローム粒子微量

第416号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第417号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

第418号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック微量
- 8 褐色 炭化粒子微量

第419号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第420号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第422号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

第423号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第424号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第425号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第427号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

第428号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒色 ローム粒子少量

第429号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第430号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第431号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第432号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第434号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量

第435号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

第436号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第437号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

第438号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第439号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第440号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

第441号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量

第442号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第443号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック微量

第444号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第445号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第446号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第447号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第448号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第449号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量

第450号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第451号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量

- 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量

第452号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第453号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第454号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

第456号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第457号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第458号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第459号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量

第460号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量

第463号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第464号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量

第465号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量

第466号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

第467号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第468号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量

第471号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第472号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量



第473号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第474号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

第475号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第476号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第477号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第478号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第479号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第480号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第481号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第482号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第483号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第484号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第485号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック多量
- 6 褐色 ロームブロック中量

第486号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第487号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第489号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子多量

第491号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量

第493号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 炭化物・ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第494号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第495号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ロームブロック微量

第496号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第497号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第498号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第500号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第501号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第502号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第503号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第504号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

表13 その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 重複関係(古 新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
1	L 1 g9	N - 62 ° - E	楕円形	1.36 × 1.12	31	緩斜	平坦	人為	-	
12	K 12c3	-	円形	0.60 × 0.59	35	外傾	凹凸	人為	-	
13	L 1 g8	-	円形	0.90 × 0.85	25	緩斜	平坦	人為	-	
14	K 2 e0	N - 40 ° - W	楕円形	4.14 × 3.66	117	緩斜	平坦	人為	-	
15	K 1 h0	-	円形	4.18 × 4.06	112	緩斜	皿状	人為	-	
16	L 1 h9	N - 20 ° - E	楕円形	1.09 × 0.93	20	緩斜	平坦	人為	-	
100	O 2 i1	N - 41 ° - E	隅丸長方形	1.98 × 0.73	14	外傾	平坦	人為	-	
101	O 2 j1	-	円形	0.86 × 0.80	20	外傾	平坦	人為	-	
102	P 1 b9	N - 69 ° - E	楕円形	0.95 × 0.71	16	緩斜	平坦	人為	-	
103	O 1 h0	-	円形	0.61 × 0.57	40	外傾	皿状	人為	-	S I 61 本跡
104	O 2 h2	-	円形	1.18 × 1.10	22	緩斜	皿状	人為	-	S D 22 本跡
105	O 1 g8	-	円形	1.10 × 1.00	29	外傾	平坦	人為	-	
106	O 1 g9	N - 26 ° - E	[楕円形]	1.14 × [1.05]	25	外傾	平坦	人為	-	
107	O 1 i7	-	円形	0.90 × 0.90	22	外傾	平坦	人為	-	
108	O 2 h3	-	円形	0.65 × 0.60	11	緩斜	皿状	人為	-	
109	O 2 g3	-	円形	0.88 × 0.84	19	外傾	皿状	人為	-	
110	O 2 g4	-	円形	0.60 × 0.55	11	外傾	平坦	人為	-	
111	O 2 g3	-	円形	0.94 × 0.91	28	緩斜	平坦	人為	-	
112	P 1 c9	-	円形	1.11 × 1.06	29	外傾	平坦	人為	-	
113	O 1 g9	-	[円形]	[1.30] × 1.24	38	外傾	平坦	人為	-	
114	O 1 h8	-	円形	1.07 × 1.07	27	外傾	平坦	人為	-	
115	O 2 h2	N - 40 ° - W	楕円形	0.67 × 0.55	20	緩斜	皿状	人為	-	
116	O 2 h2	-	円形	0.92 × 0.90	36	外傾	凹凸	人為	-	
117	O 2 i2	-	円形	0.98 × 0.90	44	直立	平坦	人為	-	
119	O 2 e3	-	円形	0.76 × 0.70	11	緩斜	皿状	人為	-	
120	O 2 e4	N - 75 ° - E	楕円形	0.98 × 0.85	15	外傾	平坦	人為	-	
121	O 2 f3	N - 2 ° - W	楕円形	0.90 × 0.80	35	外傾	皿状	人為	-	
122	O 2 f4	-	円形	0.91 × 0.88	20	緩斜	凹凸	人為	-	
123	O 2 i2	N - 37 ° - W	楕円形	1.12 × 0.70	13	緩斜	凹凸	人為	-	S D 22 本跡
127	O 2 b3	-	円形	1.00 × 0.98	28	直立	平坦	人為	-	
128	O 2 a1	-	円形	[0.95] × 0.87	15	緩斜	皿状	人為	-	
130	O 2 b2	N - 69 ° - W	[楕円形]	[1.24] × 1.05	31	外傾	平坦	人為	-	
131	O 2 a1	N - 75 ° - E	[楕円形]	[1.12] × (0.68)	18	外傾	平坦	人為	-	
132	O 2 a1	N - 8 ° - E	[楕円形]	1.36 × (0.42)	-	-	-	-	-	
133	O 2 c8	-	円形	1.02 × 0.97	31	緩斜	皿状	人為	-	
135	O 2 c8	N - 49 ° - W	楕円形	1.30 × 0.88	27	緩斜	平坦	人為	-	S T 5 本跡
137	O 2 d4	N - 47 ° - W	楕円形	1.17 × 1.06	46	外傾	皿状	人為	-	
138	O 2 a8	-	円形	1.18 × 1.18	47	外傾	平坦	人為	-	S D 22 本跡
139	O 2 a7	N - 40 ° - E	楕円形	1.30 × 1.06	40	外傾	平坦	人為	-	S D 22 本跡
140	O 2 b7	-	[円形]	1.24 × (0.62)	32	緩斜	皿状	人為	-	S D 22 本跡
141	O 2 f3	-	円形	0.50 × 0.46	18	緩斜	皿状	人為	-	
142	O 2 f3	N - 61 ° - E	楕円形	0.48 × 0.39	17	緩斜	皿状	人為	-	
143	O 2 h3	N - 89 ° - W	楕円形	0.72 × 0.48	51	外傾	皿状	人為	-	
144	O 2 d5	-	円形	3.46 × 3.30	128	緩斜	皿状	人為	-	S D 22 本跡
147	O 2 c6	-	不明	(0.70) × (0.16)	40	外傾	平坦	人為	-	S D 22 本跡

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古・新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
148	O 2 c7	N - 66 ° - W	楕円形	1.40 × 1.24	38	直立	平坦	不明	-	S D 22・26 本跡
149	O 1 a8	N - 81 ° - W	[楕円形]	1.35 × [1.09]	15	緩斜	皿状	人為	-	
150	N 1 i8	N - 6 ° - E	不定形	1.15 × (1.05)	22	外傾	皿状	人為	-	
152	N 1 i7	-	[円形]	[1.02] × (0.50)	68	直立	凹凸	人為	-	
153	O 2 h1	N - 76 ° - W	[楕円形]	1.15 × (0.70)	20	外傾	平坦	不明	-	
154	O 2 d0	N - 12 ° - E	楕円形	1.33 × 0.92	14	外傾	平坦	人為	-	
155	O 2 f4	-	円形	0.94 × 0.86	26	直立	平坦	人為	-	S D 22 本跡
156	N 1 i0	-	円形	[0.93] × 0.92	28	直立	平坦	人為	-	
158	M 2 h3	N - 83 ° - E	楕円形	1.78 × 0.68	78	外傾	平坦	人為	-	S D 23・S K 163 本跡
159	M 2 h4	N - 90 ° - E	楕円形	1.68 × 0.86	60	外傾	平坦	人為	-	S D 23 本跡
160	N 1 c9	-	円形	1.15 × 1.06	35	外傾	平坦	人為	-	
161	M 2 g3	N - 68 ° - W	楕円形	1.01 × 0.75	40	直立	平坦	人為	-	S E 6 本跡
163	M 2 i3	N - 83 ° - E	[楕円形]	1.60 × (0.40)	60	緩斜	平坦	不明	-	S D 23 本跡 S K 158
170	M 2 h5	N - 84 ° - E	楕円形	1.44 × 0.54	53	直立	平坦	人為	-	S D 23 本跡
171	M 1 b7	-	円形	1.12 × 1.08	27	直立	平坦	人為	-	S I 70 本跡
172	M 2 g4	N - 11 ° - E	楕円形	1.68 × 1.02	39	外傾	平坦	人為	-	
173	M 1 h7	N - 3 ° - E	長方形	1.46 × 1.07	32	外傾	平坦	人為	-	S D 27B 本跡
175	O 2 b0	N - 39 ° - W	[楕円形]	1.45 × (1.16)	60	外傾	平坦	人為	-	S D 1 本跡
181	N 2 d5	-	円形	0.96 × 0.94	30	直立	平坦	人為	-	
182	N 2 e5	-	円形	0.88 × 0.84	15	直立	凹凸	人為	-	
183	N 2 e4	N - 51 ° - W	楕円形	1.27 × 1.19	47	直立	平坦	人為	-	
184	N 2 d5	-	円形	0.98 × 0.96	23	外傾	平坦	人為	-	
185	N 2 c5	-	円形	0.82 × 0.82	25	外傾	平坦	人為	-	
189	M 2 g6	-	円形	1.23 × 1.12	54	直立	平坦	人為	-	S D 1・27B 本跡
190	N 2 d4	-	円形	1.09 × 1.09	38	直立	平坦	人為	-	S K 191 本跡
191	N 2 d4	N - 32 ° - E	[長方形]	1.08 × [1.02]	59	直立	平坦	不明	-	本跡 S K 190
192	N 2 d4	-	円形	0.94 × 0.91	22	直立	平坦	不明	-	S T 19 本跡
198	M 2 g8	N - 8 ° - E	不整楕円形	1.29 × 1.05	36	外傾	平坦	人為	-	
200	M 2 g8	N - 90 ° - E	不整楕円形	1.33 × 0.92	21	外傾	平坦	人為	-	
201	M 2 h8	N - 90 ° - E	不整楕円形	1.44 × 0.89	39	外傾	平坦	人為	-	
203	M 2 h5	N - 70 ° - W	楕円形	1.00 × 0.88	35	外傾	平坦	人為	-	
204	M 2 h6	N - 78 ° - E	隅丸長方形	0.77 × 0.61	25	外傾	平坦	人為	-	
206	N 2 g9	N - 20 ° - E	不整楕円形	1.07 × 0.96	18	外傾	平坦	不明	-	
207	N 2 f0	-	円形	0.44 × 0.40	49	直立	凹凸	人為	-	
208	N 2 e0	N - 11 ° - W	楕円形	1.37 × 0.97	24	緩斜	凹凸	人為	-	
220	N 2 e5	N - 67 ° - W	隅丸長方形	1.22 × 0.59	51	外傾	平坦	人為	-	S T 33 本跡
221	M 2 h4	N - 55 ° - E	楕円形	1.35 × 1.10	33	外傾	平坦	不明	石器	
222	M 2 j7	-	円形	1.05 × 1.03	32	外傾	平坦	人為	-	S K 223・224 本跡
223	M 2 j7	N - 63 ° - E	楕円形	1.12 × (0.75)	24	外傾	凹凸	人為	-	本跡 S K 222
224	M 2 j7	N - 61 ° - E	[楕円形]	(0.91) × (0.80)	24	外傾	平坦	人為	-	本跡 S K 222・225 , S T 34
225	M 2 j7	-	円形	1.25 × 1.22	27	外傾	平坦	人為	-	S K 224 本跡
228	M 1 h7	N - 6 ° - E	[円形]	(0.79) × (0.22)	20	外傾	平坦	人為	-	本跡 S D 27A
230	M 1 h8	N - 64 ° - W	楕円形	1.04 × 0.92	26	外傾	平坦	不明	-	S D 27 S E 18 本跡
232	M 2 g7	N - 78 ° - E	楕円形	1.68 × 1.11	57	外傾	平坦	人為	-	S D 27A・S K 232 本跡
233	M 2 g7	N - 74 ° - W	[楕円形]	0.95 × (0.80)	46	直立	凹凸	人為	-	本跡 S K 233
234	O 2 g9	N - 55 ° - E	不整楕円形	1.41 × 0.85	38	緩斜	平坦	人為	-	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 重複関係(古 新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
235	O 2 g0	N - 45 ° - E	橢円形	1.34 × 1.01	57	緩斜	皿状	人為	-	S K 236 本跡
236	O 2 g0	N - 64 ° - E	[円形]	(0.85) × (0.70)	51	緩斜	皿状	人為	-	本跡 S K 235
237	O 2 g8	N - 79 ° - W	橢円形	1.31 × 1.10	70	緩斜	凹凸	人為	-	
238	O 2 f8	-	不整形	1.08 × 0.92	29	緩斜	平坦	人為	-	
239	O 2 h8	N - 15 ° - E	長橢円形	1.59 × 0.80	50	外傾	平坦	人為	-	
240	O 2 h8	N - 24 ° - W	橢円形	0.91 × 0.82	29	緩斜	平坦	人為	-	
241	O 2 g7	-	不整形	1.39 × 1.27	85	緩斜	皿状	人為	-	
242	P 2 a9	N - 16 ° - W	長橢円形	1.34 × 0.66	41	緩斜	平坦	人為	-	
243	P 2 a9	N - 8 ° - W	長橢円形	1.58 × 0.84	73	緩斜	皿状	人為	-	
244	O 2 i6	N - 55 ° - W	不整形	1.21 × 0.88	53	緩斜	凹凸	自然	-	
246	O 2 h6	N - 29 ° - E	橢円形	1.23 × 0.88	46	緩斜	凹凸	人為	-	
247	O 2 j9	N - 53 ° - E	不定形	1.82 × 1.02	106	緩斜	皿状	人為	-	
248	O 2 j8	N - 82 ° - W	橢円形	1.21 × 0.83	53	緩斜	皿状	人為	-	
249	O 2 j6	N - 0 °	不定形	1.30 × 0.96	70	緩斜	凹凸	人為	-	SK250 本跡
250	O 2 j7	N - 31 ° - W	長方形	1.05 × 0.57	26	緩斜	凹凸	人為	-	本跡 SK249
251	O 2 j6	N - 6 ° - E	橢円形	1.42 × 1.02	60	緩斜	平坦	人為	-	
253	P 2 a5	N - 19 ° - E	橢円形	1.60 × 1.30	66	緩斜	凹凸	人為	-	
257	P 2 b7	N - 58 ° - E	長方形	1.43 × 0.92	47	緩斜	皿状	人為	-	
258	O 2 j8	-	円形	0.75 × 0.71	70	緩斜	皿状	人為	-	
260	P 2 b9	N - 66 ° - W	橢円形	0.85 × 0.75	56	直立	平坦	人為	-	
261	P 2 a8	N - 0 °	橢円形	1.01 × 0.90	34	緩斜	皿状	人為	-	
262	P 2 a7	N - 90 ° - E	橢円形	1.32 × 1.06	76	直立	凹凸	人為	-	
267	P 2 f9	N - 76 ° - W	橢円形	0.98 × 0.88	29	緩斜	傾斜	人為	-	
270	P 2 i9	N - 52 ° - W	橢円形	1.54 × 0.75	58	外傾	平坦	人為	-	
272	P 2 j8	-	円形	0.74 × 0.69	22	緩斜	皿状	人為	-	
273	P 2 i8	N - 7 ° - E	橢円形	1.41 × 0.84	47	緩斜	平坦	人為	-	
274	P 2 g6	N - 50 ° - E	不定形	1.06 × 0.82	60	外傾	平坦	人為	-	
275	P 2 h6	N - 60 ° - E	不定形	1.11 × 0.59	49	外傾	平坦	人為	-	
276	P 2 g7	N - 60 ° - E	不定形	1.26 × 0.96	39	緩斜	皿状	人為	-	
277	P 2 g6	N - 40 ° - E	不定形	1.29 × 1.11	69	緩斜	傾斜	人為	-	
279	P 2 h7	N - 44 ° - W	橢円形	1.22 × 0.94	59	緩斜	傾斜	人為	-	
280	P 2 d9	N - 0 °	不定形	1.05 × 0.74	86	外傾	皿状	人為	-	
282	P 2 h7	N - 43 ° - W	不定形	1.00 × 0.78	111	外傾	皿状	人為	-	S K 284 本跡
283	P 2 i8	n - 42 ° - W	不定形	(1.78) × 0.96	84	外傾	平坦	人為	-	本跡 S K 284
284	P 2 i7	N - 34 ° - E	不定形	1.42 × (0.44)	103	緩斜	平坦	人為	-	S K 283 本跡 S K 282
286	P 2 h5	N - 29 ° - E	台形	1.23 × 0.74	68	直立	平坦	人為	-	本跡 S K 287
287	P 2 h5	N - 53 ° - W	橢円形	0.82 × 0.64	58	外傾	平坦	人為	-	SK286 本跡
289	Q 2 b8	N - 90 ° - W	橢円形	1.18 × 1.03	69	外傾	傾斜	人為	-	
290	Q 2 a7	N - 66 ° - W	橢円形	1.06 × 0.58	37	緩斜	皿状	人為	-	
291	P 2 j7	N - 21 ° - W	不定形	1.16 × 1.06	55	外傾	平坦	人為	-	
294	P 2 i6	-	円形	0.99 × 0.92	42	緩斜	平坦	人為	-	
296	P 2 h4	N - 36 ° - E	三角形	1.27 × 1.09	54	外傾	平坦	人為	-	
297	P 2 h5	N - 68 ° - E	橢円形	1.15 × 0.85	34	緩斜	皿状	人為	須恵器	
298	P 2 f2	N - 26 ° - E	橢円形	1.62 × 1.31	50	緩斜	皿状	人為	-	
299	P 2 f1	N - 36 ° - W	不定形	1.55 × 1.26	66	緩斜	傾斜	人為	須恵器	
301	P 2 g3	N - 28 ° - E	長方形	2.47 × 0.79	98	外傾	平坦	人為	-	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 重複関係(古 新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
302	M 2 h1	N - 34 ° - E	橢円形	1.42 × 1.18	75	垂直	平坦	人為	-	S D 27, S E 16 本跡
305	P 2 f4	N - 19 ° - E	橢円形	1.23 × 1.05	69	緩斜	傾斜	人為	-	S T 45 本跡
306	P 2 c6	N - 21 ° - E	橢円形	0.79 × 0.68	31	外傾	平坦	人為	-	
307	P 2 d3	-	円形	1.22 × 1.18	38	緩斜	凹凸	人為	-	
308	P 2 j3	N - 16 ° - W	不定形	1.62 × 1.20	88	直立	皿状	人為	-	
309	P 2 j4	N - 15 ° - E	不定形	2.44 × 1.40	60	緩斜	皿状	人為	-	
310	P 2 j4	N - 0 °	不定形	1.02 × 0.91	49	外傾	傾斜	人為	-	S K 337 本跡
311	Q 2 a5	N - 31 ° - W	橢円形	0.87 × 0.69	23	緩斜	皿状	人為	-	
312	Q 2 a6	N - 56 ° - E	橢円形	1.14 × 0.96	24	緩斜	平坦	人為	-	
313	Q 2 a3	-	方形	0.80 × 0.75	19	直立	平坦	人為	-	
314	Q 2 b4	N - 40 ° - E	長方形	1.30 × 0.83	68	直立	平坦	人為	-	
315	Q 2 c3	N - 51 ° - W	不定形	1.58 × 1.18	58	外傾	平坦	人為	-	
316	Q 2 e3	N - 33 ° - E	橢円形	1.10 × 0.98	37	緩斜	傾斜	人為	-	
317	Q 2 e5	N - 36 ° - E	台形	1.28 × 0.75	66	緩斜	平坦	人為	-	
318	Q 2 f5	N - 56 ° - W	台形	1.13 × 0.78	34	緩斜	皿状	人為	-	
319	Q 2 f6	N - 10 ° - E	台形	0.94 × 0.86	41	緩斜	平坦	人為	-	
320	Q 2 g5	N - 18 ° - E	橢円形	1.82 × 1.21	52	緩斜	皿状	人為	-	S K 340 本跡
322	Q 2 d1	N - 38 ° - W	橢円形	1.09 × 0.91	29	緩斜	平坦	人為	-	
323	Q 1 c0	N - 50 ° - W	台形	1.36 × 1.21	60	緩斜	平坦	人為	-	
324	Q 1 d9	-	円形	0.98 × 0.94	38	緩斜	皿状	人為	-	
325	Q 2 b1	N - 59 ° - E	不定形	0.96 × 0.87	25	緩斜	皿状	人為	-	
326	Q 2 c9	N - 86 ° - E	不定形	1.13 × 0.59	33	緩斜	平坦	人為	-	
327	Q 2 c9	N - 56 ° - E	橢円形	1.42 × 0.81	59	緩斜	傾斜	人為	-	
328	Q 1 e1	N - 47 ° - W	橢円形	1.74 × 1.13	47	外傾	平坦	人為	石器	
329	Q 2 f2	N - 29 ° - W	橢円形	1.00 × 0.81	18	緩斜	傾斜	人為	-	
330	Q 2 g2	N - 4 ° - E	不定形	1.15 × 0.98	33	緩斜	皿状	人為	-	
331	Q 1 b9	N - 38 ° - E	橢円形	1.55 × 0.85	55	外傾	凹凸	人為	-	
332	Q 2 e2	N - 29 ° - W	橢円形	1.13 × 1.01	55	外傾	平坦	人為	-	
333	Q 2 e2	N - 85 ° - W	長方形	0.87 × 0.68	42	外傾	平坦	人為	-	
334	Q 2 d1	N - 40 ° - E	橢円形	[1.06] × 0.79	46	緩斜	平坦	人為	-	本跡 S K 335
335	Q 2 d1	N - 64 ° - E	不定形	1.28 × 0.74	66	緩斜	皿状	人為	-	S K 334 本跡
337	Q 2 a5	N - 61 ° - W	不定形	(1.81) × 1.37	51	緩斜	皿状	人為	-	本跡 S K 310
338	P 2 g1	N - 18 ° - W	不定形	1.29 × 0.82	24	緩斜	皿状	人為	-	
339	Q 2 h5	N - 29 ° - W	台形	1.09 × 0.82	39	緩斜	平坦	人為	-	
340	Q 2 g5	N - 0 °	三角形	[1.12] × 0.94	58	緩斜	平坦	人為	-	本跡 S K 320
342	P 2 h1	-	円形	0.68 × 0.61	24	外傾	平坦	人為	-	
343	P 2 g1	N - 43 ° - E	不定形	1.45 × 1.29	63	緩斜	平坦	人為	-	
344	P 1 g0	N - 90 ° - E	橢円形	1.36 × 1.22	42	緩斜	皿状	人為	-	
345	Q 2 f4	N - 10 ° - E	橢円形	0.91 × 0.68	33	外傾	平坦	人為	-	
346	Q 2 e8	N - 84 ° - W	橢円形	1.15 × 0.96	24	緩斜	傾斜	人為	-	
347	Q 2 d8	-	円形	0.61 × 0.52	15	外傾	傾斜	人為	-	
348	Q 2 d8	N - 63 ° - W	橢円形	1.50 × 0.99	56	外傾	平坦	人為	-	
349	Q 2 f5	N - 55 ° - E	橢円形	0.98 × 0.53	26	外傾	平坦	人為	-	
350	P 2 h1	N - 49 ° - E	不定形	1.48 × 0.54	42	緩斜	傾斜	人為	灰釉陶器	
351	Q 2 h8	-	円形	1.04 × 0.99	58	緩斜	平坦	人為	-	
352	Q 2 h7	N - 13 ° - W	橢円形	1.11 × 0.78	38	外傾	凹凸	人為	-	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 重複関係(古 新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
353	Q 2 h7	N - 12 ° - E	不定形	1.14×0.98	10	緩斜	皿状	人為	-	
354	Q 2 i4	N - 13 ° - W	三角形	1.00×0.85	44	外傾	傾斜	人為	-	
355	Q 2 c8	N - 76 ° - E	不定形	2.96×2.71	75	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
357	R 2 a8	N - 36 ° - E	長方形	1.07×0.80	45	緩斜	平坦	人為	-	
359	Q 2 e3	N - 38 ° - W	不定形	1.26×0.78	28	外傾	平坦	人為	-	
360	Q 2 c1	N - 27 ° - E	楕円形	1.08×0.86	60	緩斜	平坦	人為	-	
361	Q 1 c8	-	円形	0.60×0.60	22	外傾	凹凸	人為	-	
362	Q 2 e5	N - 40 ° - E	長方形	1.12×0.70	28	緩斜	皿状	人為	-	
365	Q 2 i9	N - 33 ° - W	不定形	1.28×0.83	78	緩斜	傾斜	人為	-	
366	P 1 j7	N - 36 ° - W	不整楕円形	1.24×1.20	42	外傾	平坦	人為	-	
367	Q 1 b7	N - 43 ° - E	不定形	0.86×0.58	32	外傾	平坦	人為	-	
369	O 2 i4	N - 41 ° - W	楕円形	0.87×0.83	48	緩斜	平坦	人為	-	
370	Q 2 d2	N - 62 ° - E	楕円形	1.23×1.05	72	直立	傾斜	人為	-	
371	P 2 b5	N - 41 ° - W	楕円形	0.91×0.80	76	外傾	皿状	人為	-	
373	Q 1 j0	N - 42 ° - W	楕円形	1.23×1.14	62	緩斜	皿状	人為	-	
374	P 2 j1	N - 57 ° - W	楕円形	1.75×1.46	46	緩斜	平坦	人為	-	
375	P 2 f3	N - 7 ° - E	不定形	1.43×0.82	118	緩斜	平坦	人為	-	S E 14 本跡
376	Q 2 d8	-	円形	0.47×0.41	30	直立	平坦	人為	-	
378	P 2 j5	-	円形	0.91×0.90	28	緩斜	皿状	人為	-	
379	M 2 h2	N - 22 ° - W	楕円形	1.08×1.02	24	直立	皿状	人為	-	S K 380 本跡
380	M 2 h2	N - 56 ° - E	楕円形	1.08×0.98	134	外傾	平坦	人為	-	S E 16 本跡 S K 379
382	P 2 e3	N - 29 ° - W	不定形	1.56×0.54	82	緩斜	皿状	人為	-	S E 14 本跡
383	Q 1 g7	N - 53 ° - W	楕円形	1.19×0.62	25	緩斜	皿状	人為	-	
384	Q 1 f6	N - 74 ° - W	楕円形	1.26×0.85	66	外傾	皿状	人為	-	
385	Q 1 f7	N - 40 ° - E	楕円形	1.07×0.85	42	緩斜	平坦	人為	-	
386	Q 1 i7	N - 17 ° - E	楕円形	0.93×0.58	30	外傾	皿状	人為	剥片	
387	U 2 h2	N - 55 ° - W	円形	0.88×0.80	45	外傾	皿状	人為	-	
388	U 2 h3	N - 11 ° - W	楕円形	1.76×1.54	30	緩斜	皿状	人為	-	
389	U 2 i3	N - 25 ° - E	楕円形	1.04×(0.94)	29	緩斜	平坦	人為	-	
391	V 2 b1	N - 32 ° - E	楕円形	1.04×0.87	56	外傾	平坦	人為	-	S I 87 本跡 S T 71
392	Q 1 h7	N - 60 ° - E	不定形	1.20×0.55	17	外傾	平坦	人為	-	
393	Q 1 g8	N - 75 ° - E	楕円形	1.26×0.54	76	外傾	平坦	人為	-	
397	Q 1 h8	N - 32 ° - E	楕円形	1.09×0.58	23	外傾	皿状	人為	-	
398	R 1 a0	N - 0 °	楕円形	0.75×0.55	27	緩斜	平坦	人為	-	
399	R 2 a1	N - 5 ° - E	不定形	0.92×0.58	41	外傾	平坦	人為	-	
400	U 2 i5	-	円形	0.72×0.69	19	外傾	傾斜	人為	-	
401	Q 2 j1	N - 14 ° - W	不定形	1.26×0.84	25	緩斜	平坦	人為	-	
403	Q 1 j8	N - 12 ° - E	不定形	1.52×1.04	54	外傾	凹凸	人為	剥片	
404	Q 1 j9	N - 52 ° - E	楕円形	1.16×0.96	64	直立	傾斜	人為	-	本跡 S B 8
405	Q 1 j9	N - 67 ° - E	楕円形	1.32×0.98	60	緩斜	皿状	人為	-	
406	U 2 j7	N - 23 ° - E	楕円形	0.90×0.75	18	外傾	平坦	人為	-	
409	Q 1 i0	N - 40 ° - W	不定形	1.87×1.18	75	緩斜	傾斜	人為	-	
410	V 1 j5	N - 26 ° - E	隅丸長方形	1.30×1.10	19	外傾	傾斜	人為	-	
411	Q 2 j1	N - 67 ° - E	不定形	1.19×0.84	55	外傾	平坦	人為	須恵器	
412	R 1 c7	N - 37 ° - W	長楕円形	1.23×0.56	66	外傾	平坦	人為	-	
415	V 2 a3	N - 19 ° - E	楕円形	1.00×0.90	32	外傾	平坦	人為	-	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 重複関係(古・新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
416	R 2 a2	N - 26 ° - W	不定形	1.15×0.84	38	緩斜	皿状	人為	-	
417	V 2 a2	N - 81 ° - W	方形	1.00×0.98	42	外傾	平坦	人為	縄文土器	
418	V 2 a5	N - 35 ° - W	楕円形	1.37×0.84	36	緩斜	傾斜	人為	-	
419	V 2 c4	N - 38 ° - E	楕円形	1.13×0.93	20	緩斜	傾斜	人為	須恵器	
420	V 2 c3	-	円形	0.79×0.74	29	外傾	皿状	人為	-	
422	V 2 a4	-	円形	0.93×0.85	44	緩斜	皿状	人為	-	
423	V 2 c4	N - 22 ° - E	方形	1.00×1.00	32	緩斜	皿状	人為	-	
424	Q 1 j7	N - 41 ° - W	楕円形	0.30×0.26	30	外傾	皿状	人為	-	
425	Q 1 j7	N - 15 ° - W	楕円形	0.38×0.28	43	外傾	皿状	人為	-	
427	R 1 b8	N - 67 ° - W	楕円形	1.70×1.00	78	緩斜	皿状	人為	-	
428	R 1 f7	N - 75 ° - W	楕円形	1.25×0.93	50	外傾	平坦	人為	-	
429	Q 1 g9	N - 52 ° - W	[方形]	0.85×(0.32)	100	外傾	皿状	人為	-	
430	Q 1 f8	N - 35 ° - W	[長楕円形]	1.20×(1.10)	65	外傾	平坦	人為	-	
431	R 1 b9	N - 60 ° - W	楕円形	1.31×0.96	41	緩斜	平坦	人為	-	
432	R 1 d9	N - 60 ° - W	楕円形	1.50×0.88	36	外傾	平坦	人為	-	
434	R 1 b9	N - 54 ° - W	楕円形	1.29×1.17	66	外傾	皿状	人為	-	
435	R 2 b2	N - 64 ° - W	不定形	1.16×0.78	31	外傾	凹凸	人為	-	S I 76 本跡
436	R 1 e0	N - 90 ° - E	楕円形	1.16×0.97	31	緩斜	平坦	人為	-	
437	S 1 d0	N - 24 ° - W	隅丸方形	1.50×1.47	25	緩斜	平坦	人為	須恵器	
438	V 1 b9	-	円形	0.94×[0.88]	37	外傾	平坦	人為	-	
439	R 1 c9	-	円形	0.76×0.69	39	緩斜	平坦	人為	須恵器	
440	R 1 c9	N - 68 ° - E	台形	1.34×1.08	28	緩斜	平坦	人為	-	
441	R 2 d4	N - 53 ° - E	不定形	1.24×1.12	81	緩斜	平坦	人為	-	
442	R 2 d3	N - 58 ° - E	台形	1.33×0.74	58	直立	平坦	人為	-	
443	R 2 f4	N - 35 ° - E	不定形	1.15×0.86	65	外傾	傾斜	人為	-	
444	R 2 f4	N - 71 ° - W	楕円形	0.70×0.58	28	緩斜	平坦	人為	-	
445	R 2 e4	N - 75 ° - E	長楕円形	1.81×0.94	78	外傾	平坦	人為	-	
446	R 1 b0	N - 67 ° - E	楕円形	0.35×0.29	30	外傾	平坦	人為	-	
447	R 2 d5	N - 44 ° - E	楕円形	1.24×1.04	27	緩斜	傾斜	人為	-	
448	R 1 c9	N - 56 ° - W	不定形	1.58×1.37	26	緩斜	平坦	人為	-	
449	R 2 c1	N - 52 ° - W	[楕円形]	0.90×(0.82)	41	緩斜	傾斜	人為	-	本跡 S K 459
450	R 2 b3	N - 30 ° - E	長方形	1.18×0.68	30	外傾	傾斜	人為	-	
451	V 1 c8	-	円形	0.85×0.90	35	緩斜	傾斜	人為	-	
452	U 1 i0	-	円形	0.83×0.72	35	外傾	皿状	人為	-	
453	R 2 e5	N - 85 ° - W	不定形	1.25×0.84	38	外傾	平坦	人為	-	
454	R 2 f6	N - 85 ° - E	長方形	1.97×0.85	90	外傾	平坦	人為	-	
456	R 2 g7	N - 30 ° - E	楕円形	1.22×0.89	33	緩斜	平坦	人為	-	
457	R 2 g6	N - 61 ° - E	楕円形	1.00×0.86	34	緩斜	皿状	人為	-	
458	R 2 g8	-	円形	0.99×0.98	22	緩斜	平坦	人為	-	
459	R 2 c1	N - 0 °	不定形	1.24×0.97	50	外傾	平坦	人為	-	S K 449 本跡
460	R 2 d6	N - 0 °	長方形	1.76×1.00	90	外傾	平坦	人為	-	
463	R 2 h4	N - 39 ° - W	楕円形	1.21×0.87	43	緩斜	皿状	人為	-	
464	S 2 d0	-	円形	1.09×1.01	26	緩斜	平坦	人為	-	
465	S 2 c8	-	円形	1.14×1.11	31	緩斜	平坦	人為	-	
466	S 2 c0	N - 39 ° - W	楕円形	0.74×0.66	23	緩斜	平坦	人為	-	
467	S 2 d0	-	円形	0.81×0.75	20	緩斜	平坦	人為	-	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係(古新)
				長軸(径)×短軸(径)(m)	深さ(cm)					
468	S 2 e8	-	円形	0.88×0.87	27	外傾	平坦	人為	-	
471	S 2 d0	N - 16° - E	楕円形	1.87×(1.44)	53	緩斜	平坦	人為	-	S K 472 本跡
472	S 2 d0	N - 15° - E	[楕円形]	1.73×(0.77)	43	緩斜	平坦	人為	-	本跡 S K 471
473	R 1 i0	N - 33° - W	楕円形	0.93×0.84	33	緩斜	平坦	人為	-	
474	R 1 i0	N - 37° - W	楕円形	1.53×1.15	54	外傾	傾斜	人為	-	
475	R 1 h8	-	円形	0.72×0.66	15	緩斜	平坦	人為	-	
476	S 1 a6	N - 7° - E	楕円形	1.57×1.31	55	緩斜	傾斜	人為	-	
477	S 1 c8	N - 66° - E	楕円形	1.35×0.77	19	緩斜	傾斜	人為	-	
478	S 1 c8	N - 43° - W	楕円形	1.13×0.68	66	外傾	平坦	人為	-	
479	S 1 d8	N - 43° - W	不定形	1.41×1.11	66	外傾	傾斜	人為	-	
480	S 1 e7	N - 34° - W	長楕円形	1.47×0.83	19	緩斜	平坦	人為	-	
481	S 1 e7	N - 31° - E	台形	0.90×0.85	31	緩斜	平坦	人為	-	
482	S 1 e7	N - 0°	長方形	0.98×0.64	50	外傾	平坦	人為	-	
483	S 1 e6	N - 2° - E	楕円形	1.40×1.24	30	緩斜	皿状	人為	-	
484	S 1 f6	N - 48° - W	楕円形	1.49×0.96	55	緩斜	皿状	人為	-	
485	S 1 d7	N - 46° - E	不定形	1.53×1.13	49	外傾	平坦	人為	-	
486	S 1 g5	N - 41° - E	楕円形	1.21×0.89	43	緩斜	平坦	人為	-	
487	S 1 h5	N - 62° - W	長方形	1.12×0.69	34	緩斜	平坦	人為	-	
489	R 2 c2	N - 50° - W	不定形	1.07×0.87	50	緩斜	平坦	人為	-	S I 76 本跡
491	S 1 c9	N - 50° - E	長方形	1.26×0.62	62	直立	平坦	人為	-	
493	U 1 h8	N - 0°	楕円形	1.05×0.96	26	緩斜	傾斜	人為	石器	
494	U 1 i0	N - 45° - W	楕円形	0.66×0.50	15	緩斜	皿状	人為	-	
495	U 1 h0	N - 75° - E	楕円形	0.76×0.55	11	緩斜	皿状	人為	-	
496	U 1 h8	N - 12° - E	楕円形	0.86×0.74	27	外傾	皿状	人為	-	
497	V 2 c1	-	円形	1.32×1.25	25	緩斜	皿状	人為	-	S I 87 本跡
498	V 1 a8	N - 80° - E	円形	0.64×0.60	16	緩斜	皿状	人為	-	S I 85 本跡
500	U 2 h4	N - 5° - W	楕円形	1.20×1.09	35	外傾	平坦	人為	-	
501	V 1 b0	N - 10° - E	楕円形	0.84×0.70	35	外傾	平坦	人為	-	
502	U 2 d7	N - 5° - E	楕円形	0.90×0.81	23	緩斜	平坦	人為	-	
503	U 2 f6	-	円形	0.78×0.74	72	外傾	平坦	人為	縄文土器	S I 94 本跡
504	T 1 f0	-	円形	1.12×1.10	20	緩斜	皿状	人為	須恵器	

#### (4) ピット群

##### 第4号ピット群 (第187図)

**位置** 調査区中央部のM 1 d7～M 1 f9区、標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第4号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北12.4m、東西6.5mほどの範囲に不規則に配置されたピットが確認されている。

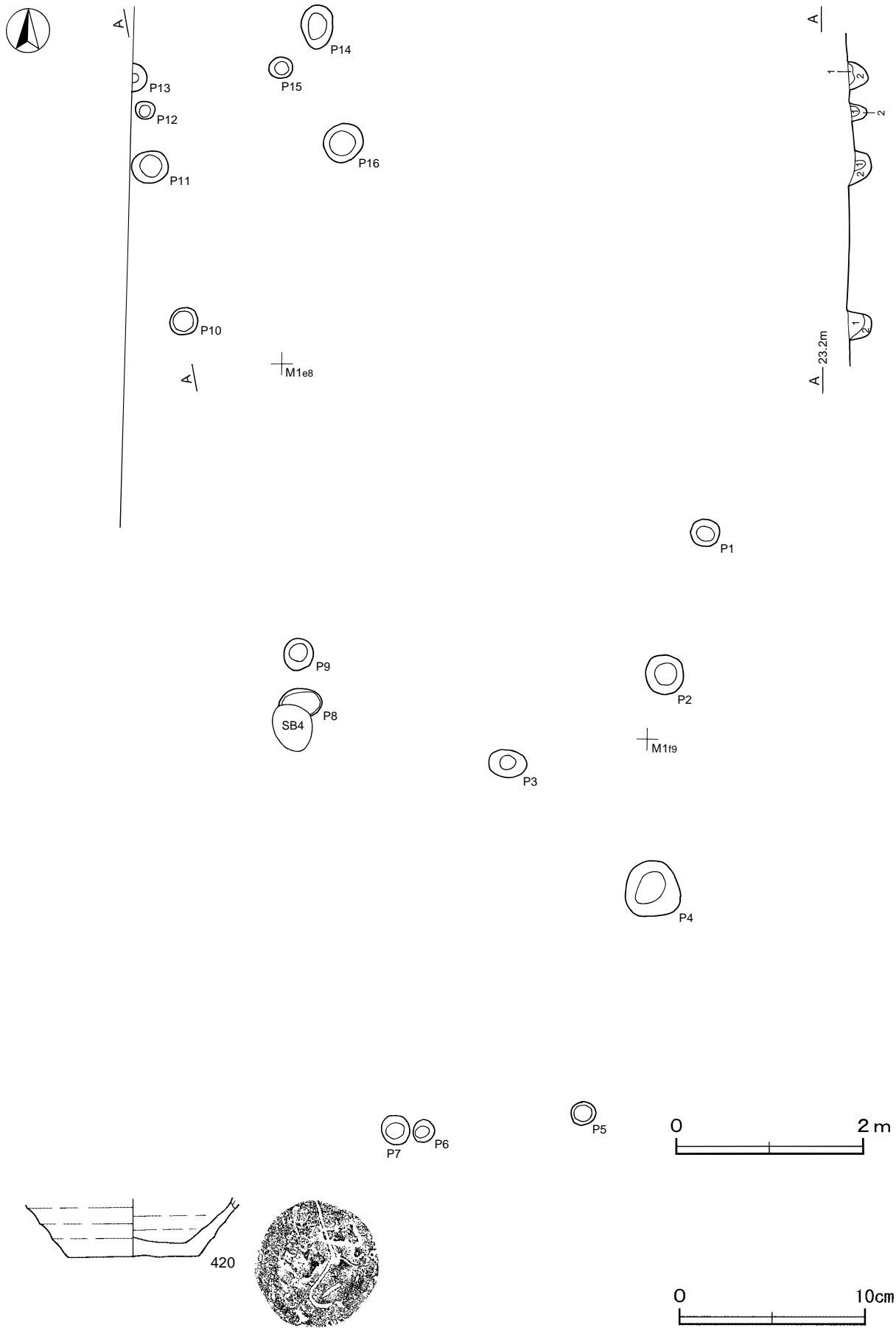
**ピット** 16か所。平面形は円形または楕円形で、規模は長径20～64cm、短径18～62cmである。深さは14～62cmで、断面形はU字形または逆台形である。第1・2層は柱抜き取り痕とみられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 極暗褐色 ロームブロック微量





第187図 第4号ピット群・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片 8 点 (坏 1, 鉢 1, 甕 6), 須恵器片 1 点 (坏) が出土している。

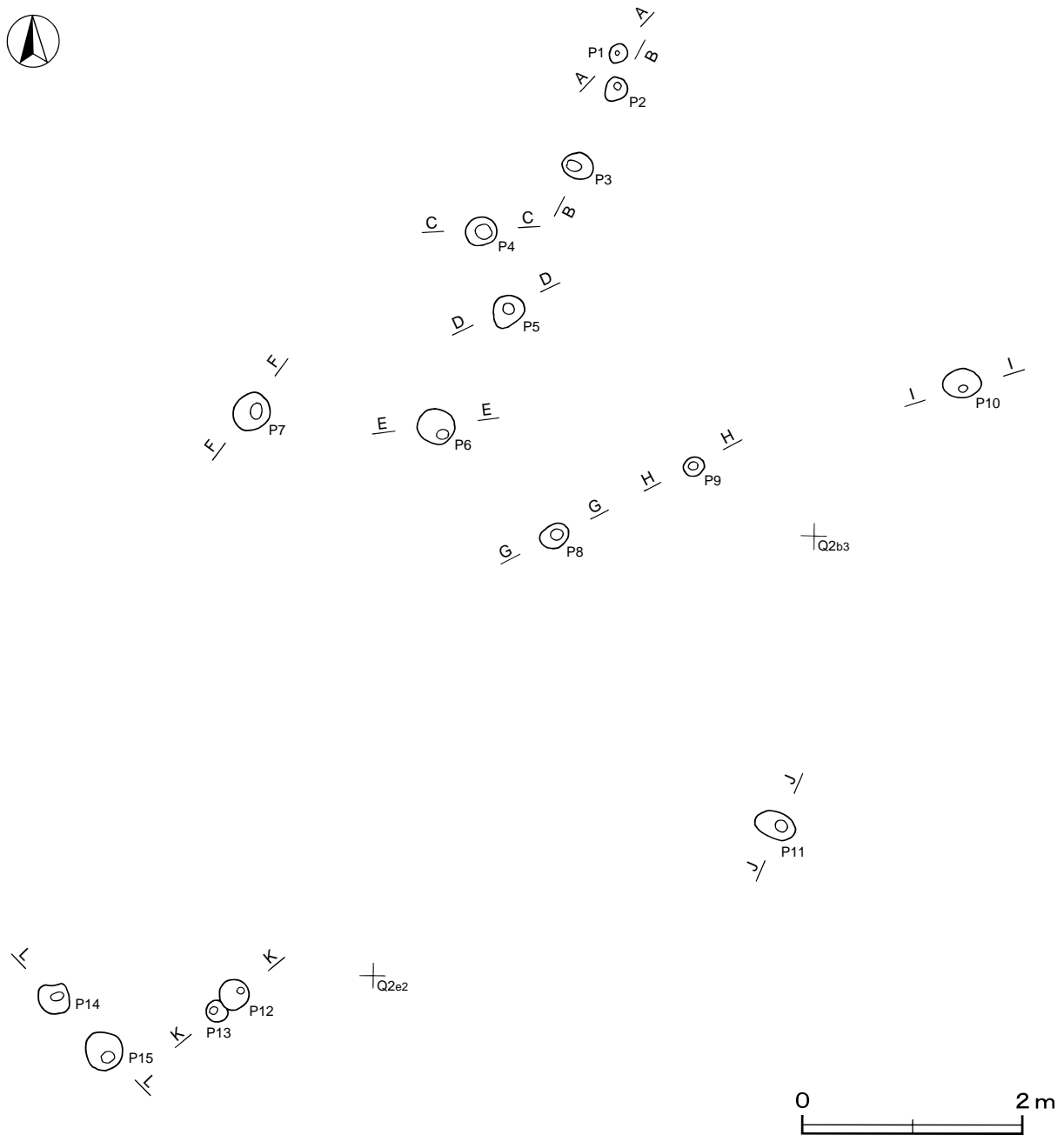
**所見** 一部のピットに柱抜き取り痕が観察されていることから, 掘立柱建物跡や柵跡の可能性が考えられるが, 配置には規則性がなく, 性格不明である。時期は, 出土土器が遺構に伴うと判断できないために, 不明である。

**第 4 号ピット群出土遺物観察表 (第187図)**

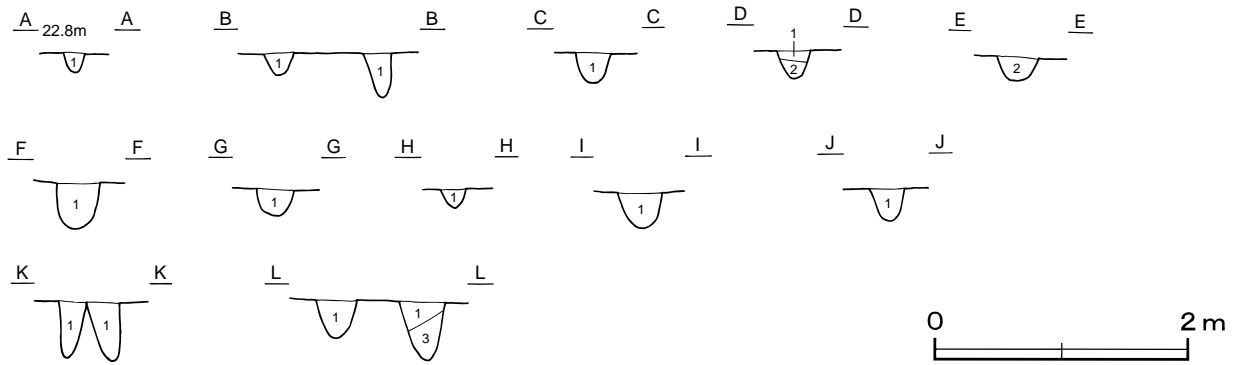
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
420	須恵器	坏	-	(3.1)	7.0	石英・長石・ 海綿骨針	灰黄褐	普通	体部内外面ロク口整形 底部回転ヘラ切り後 ナデ	P 17覆土中	40% ヘラ記号

**第 5 号ピット群 (第188・189図)**

**位置** 調査区中央部の P 2 j2 ~ Q 2 c1区, 標高23mの台地平坦部に位置している。



第188図 第5号ピット群実測図(1)



第189図 第5号ピット群実測図(2)

**規模と形状** 南北9.4m，東西8.9mほどの範囲に，不規則に配置されたピットが確認されている。

**ピット** 15か所。平面形は円形または楕円形で，規模は，長径18～38cm，短径18～36cmである。深さは12～48cmで，断面形はU字形または逆台形である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

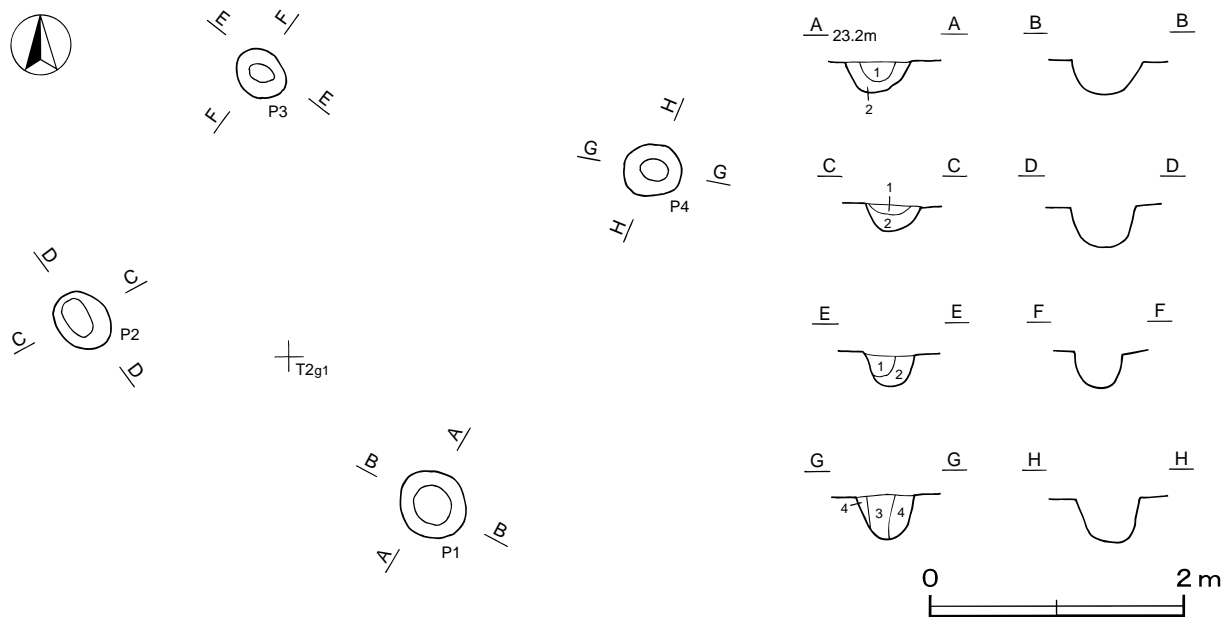
**所見** 配置に規則性がないために，性格は不明である。時期は，出土土器がなく不明である。

### 第6号ピット群 (第190図)

**位置** 調査区中央部のT1h0～T2g1区，標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第17号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と形状** 不整形にピットが配置されている。規模は長軸3.2m，短軸3.0mで，主軸方向はN-35°-Eである。



第190図 第6号ピット群実測図

**ピット** 4か所。平面形は円形または楕円形で、規模は、長径40～54cm、短径35～50cmである。深さは28～34cmで、断面形はU字形である。第1・3層は柱抜き取り痕と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子少量

3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック微量

**所見** 第94号住居跡の北西部で確認され、縄文時代の竪穴住居跡の可能性が想定されたが、炉跡等は確認されておらず、性格は不明である。時期は、出土土器がなく、不明である。

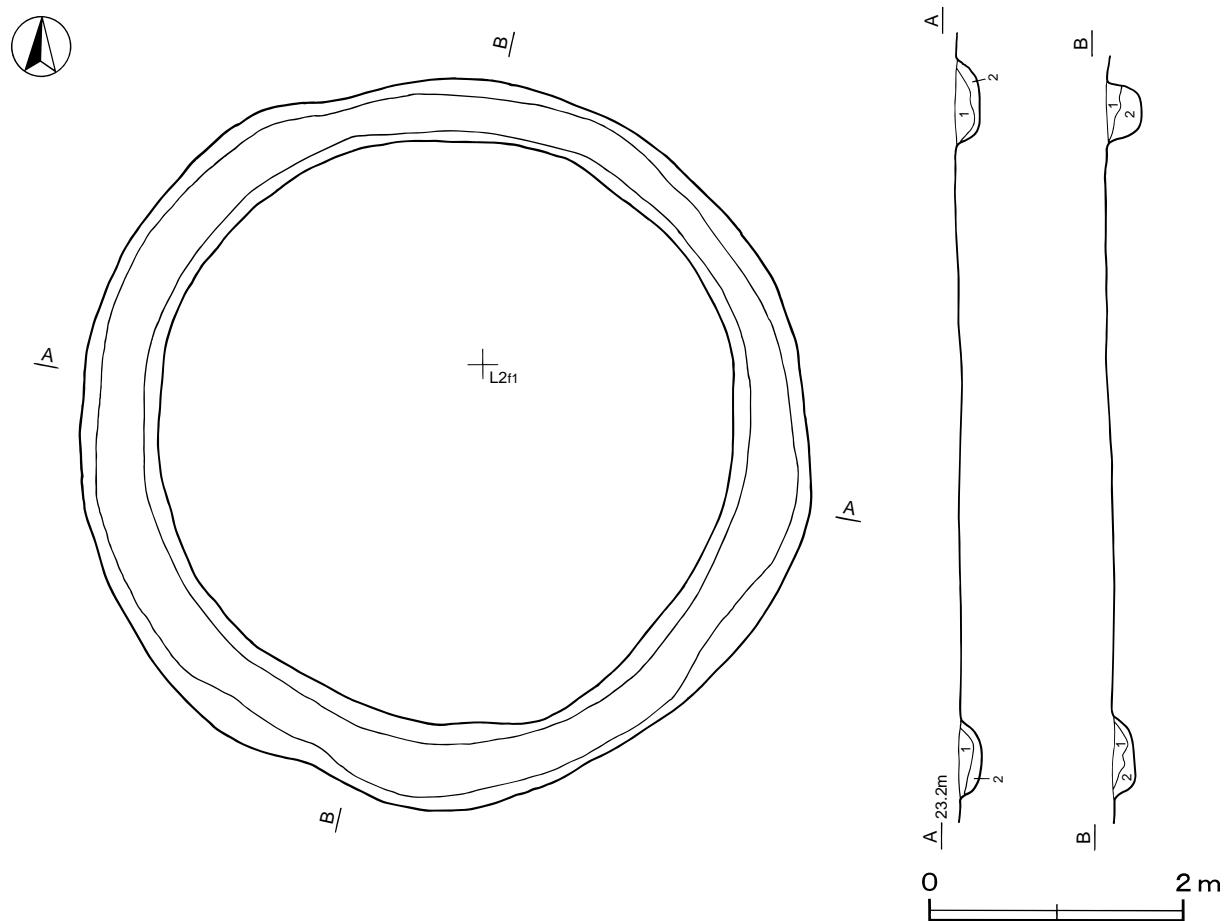
表14 その他のピット群一覧表

番号	位置	範囲 (m)		ピット数	ピット平面形	ピット規模			ピット断面形	覆土	主な出土遺物	備考
		南北	東西			長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)				
4	M 1 d7 ~ M 1 f9	12.4	6.5	16	円形・楕円形	0.20～0.64	0.18～0.62	14～62	U字形・逆台形	人為	土師器，須恵器	
5	P 2 j2 ~ Q 2 c1	9.4	8.9	15	円形・楕円形	0.18～0.38	0.18～0.36	12～48	U字形・逆台形	人為	-	
6	T 1 h0 ~ T 2 g1	3.2	3.0	4	円形・楕円形	0.40～0.54	0.35～0.50	28～34	U字形・逆台形	人為	-	

(5) 不明遺構

**円形周溝遺構** (第191図)

**位置** 調査区北部の L 1 f0区で、標高23mの台地平坦部に位置している。



第191図 円形周溝遺構実測図

**規模と形状** 溝が円形に周回している。規模は、周溝外径5.78m、周溝内径4.88mである。

**周溝** 規模は、上幅0.38～0.67m、下幅0.34～0.43m、深さ15～27cmである。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。

**覆土** 2層に分層される。各層にロームブロック・粒子を含む不均質な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片2点(甕)、縄文土器片1点(深鉢)が出土している。

**所見** 墳丘や主体部が確認されていないため円形周溝遺構としたが、小規模ながら円墳あるいは円形周溝墓の可能性はある。時期は、出土土器が遺構に伴うと判断できないため、不明である。

### 第3号不明遺構 (第192図)

**位置** 調査区中央部のM2f4区、標高23mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第28号溝・第205号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 北端を第28号溝に、南端を第205号土坑に掘り込まれており、長さ5.23mの弧状の溝だけが確認されている。上幅0.23～0.58m、下幅0.10～0.22m、深さ6cmで、断面形はU字状である。

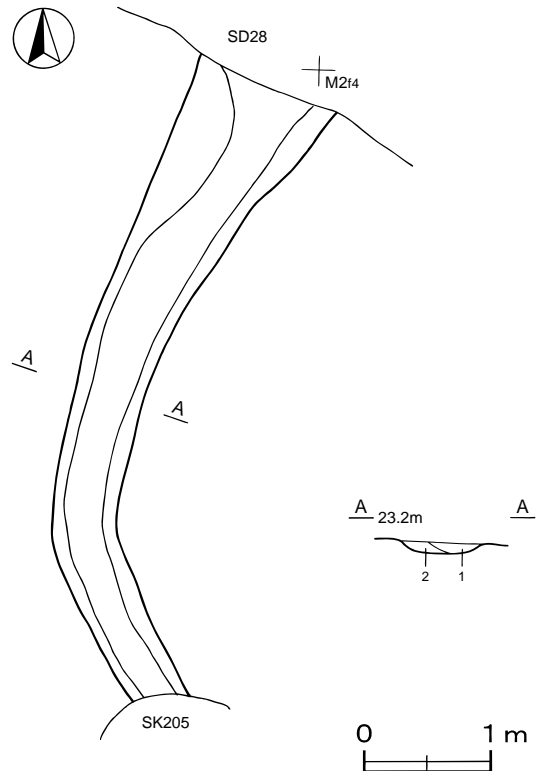
**覆土** 2層に分層される。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子微量

**所見** 形状から円墳または円形周溝墓の一部と考えられるが、周溝の北部と南部が削平されており、さらに墳丘や主体部が確認されていないことから、明確ではない。時期は、出土土器がないため不明である。



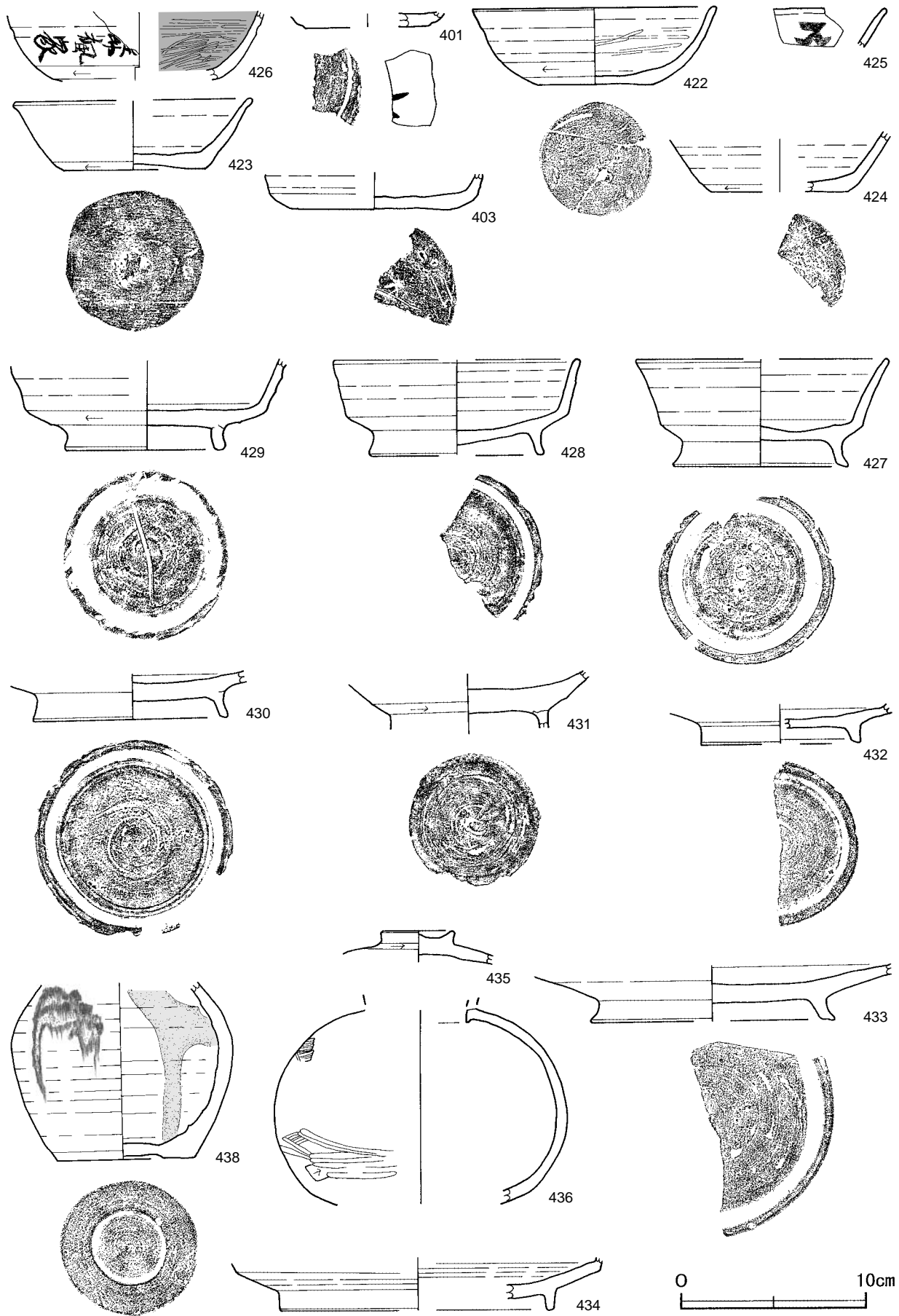
第192図 第3号不明遺構実測図

表15 不明遺構一覧表

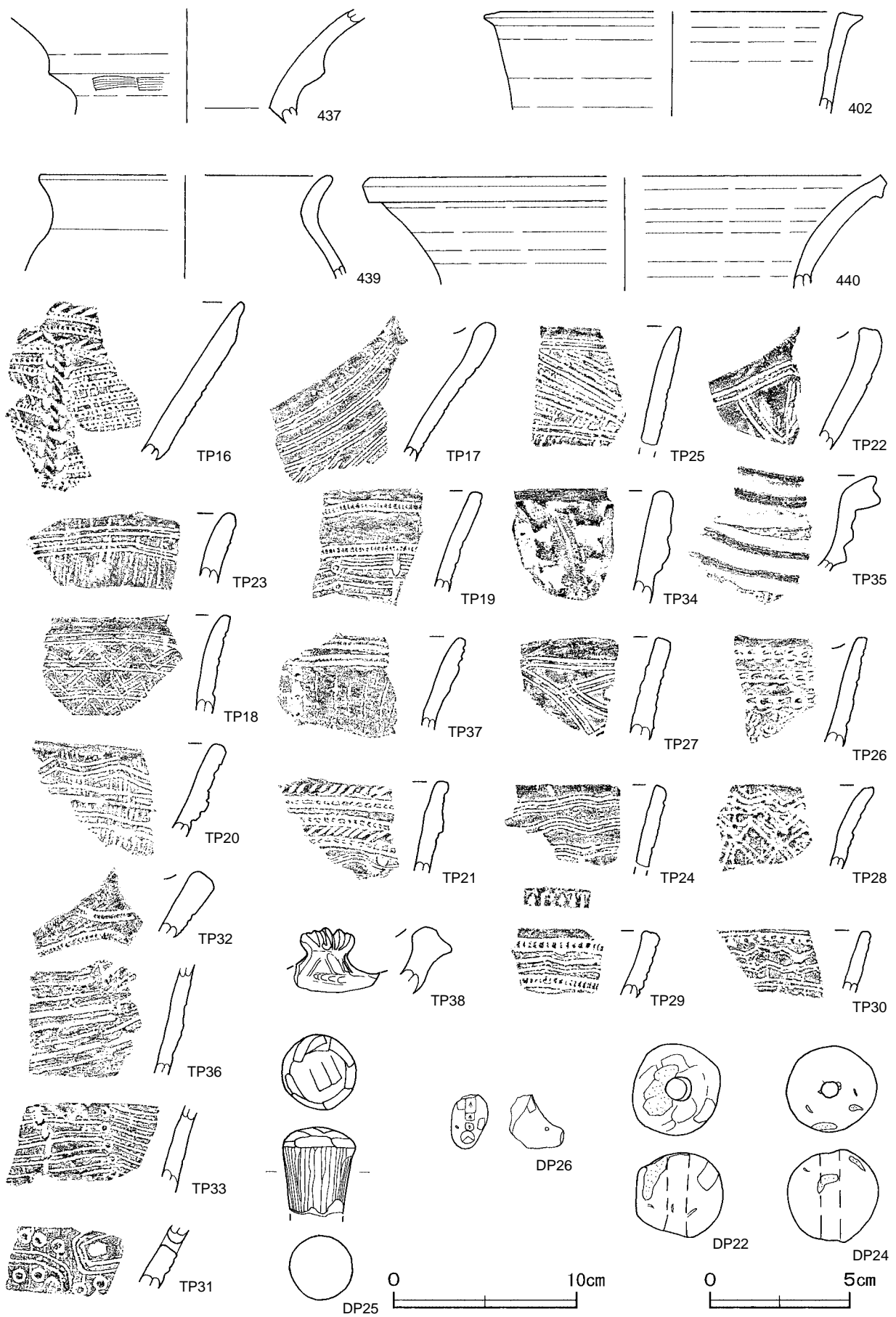
番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模	溝規模			断面形	覆土	出土遺物	備考
				長さ 長軸×短軸(m)	上幅	下幅	深さ(cm)				
1	L1f0	-	円形	5.77×5.76	0.38～0.67	0.34～0.43	15～27	逆台形	人為	-	円形周溝遺構
3	M2f4	-	[弧状]	(5.23)	0.23～0.58	0.10～0.22	6	U字状	不明	-	

#### (6) 遺構外出土遺物

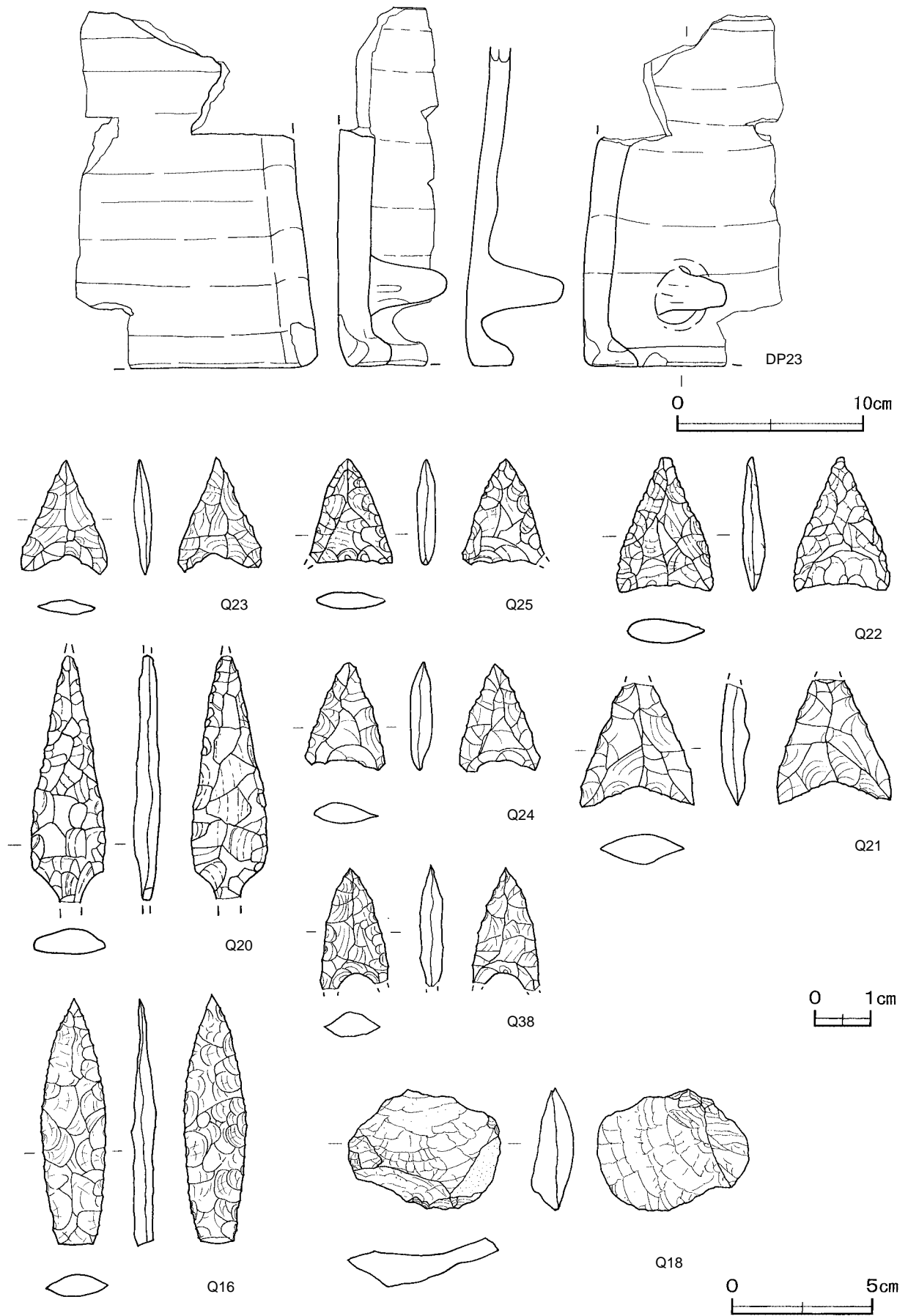
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを実測図と観察表で記載する。



第193図 遺構外出土遺物実測図(1)

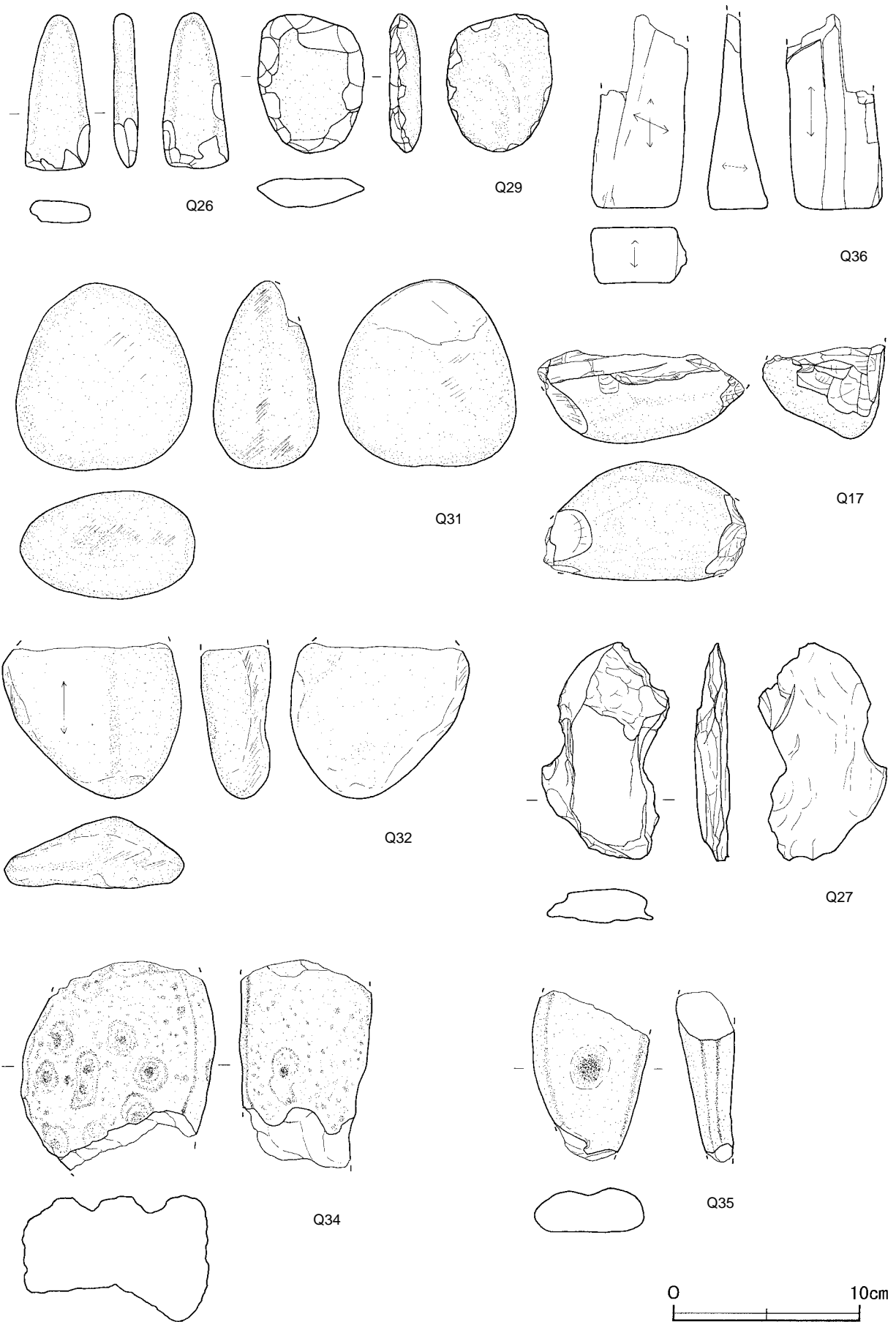


第194图 遺構外出土遺物実測図(2)

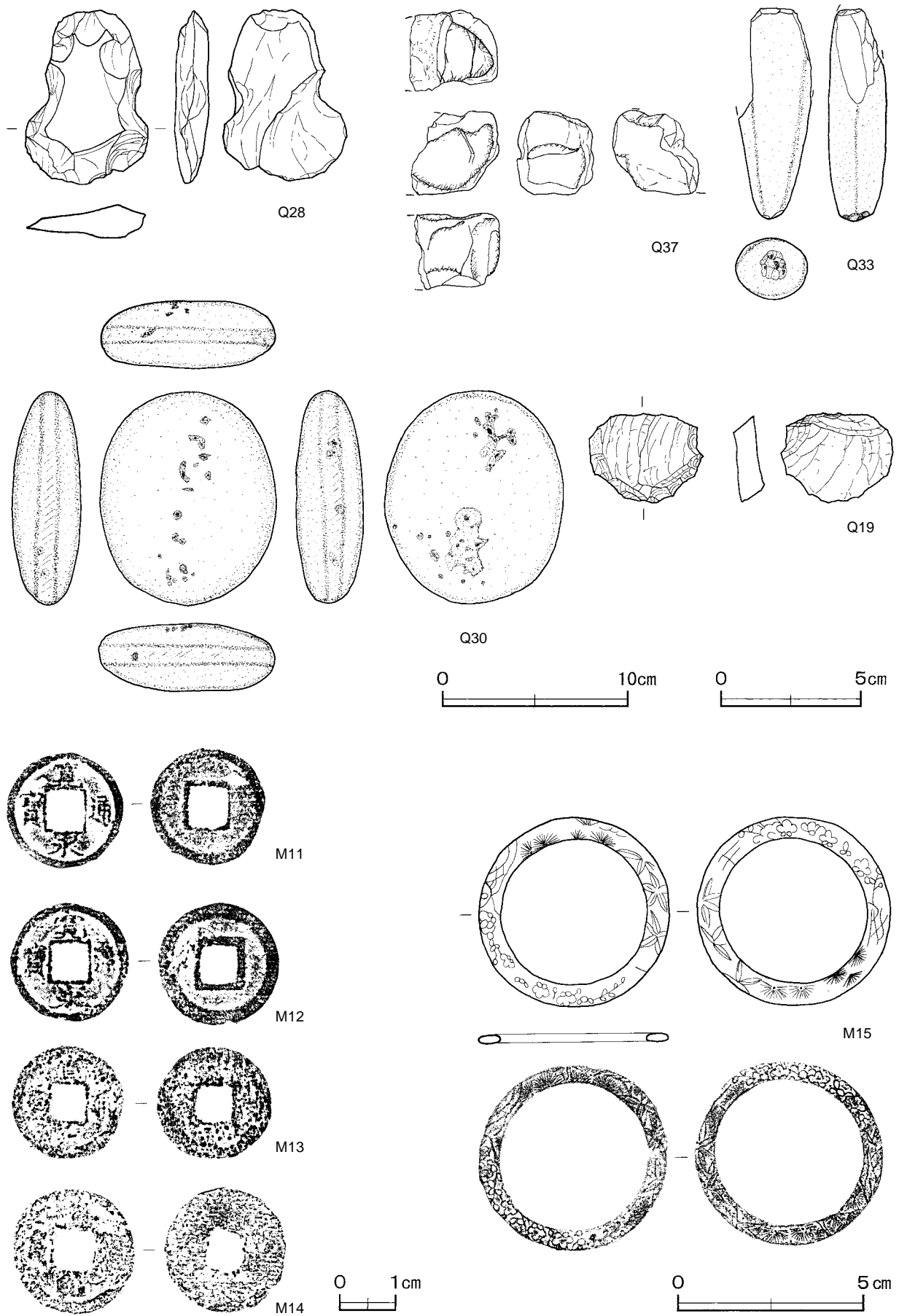


第195図 遺構外出土遺物実測図(3)





第196図 遺構外出土遺物実測図(4)



第197図 遺構外出土遺物実測図(5)

遺構外出土遺物観察表 (第193～197図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
401	土師器	坏	-	(0.8)	[6.4]	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面へラ磨き 底部回転へラ削り	SD24	5% 墨書「r」
402	須恵器	鉢	[20.6]	(5.4)	-	長石・石英	灰	普通	体部内外面口口整形	SD24	5%
403	須恵器	坏	-	(2.0)	[9.0]	長石	灰黄	普通	体部内外面口口調整 底部回転へラ切り後手持ちへラ削り	SD27	5% へラ記号
422	土師器	坏	13.0	4.2	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口口整形 削り 底部回転へラ削り 体部下端回転へラ削り	1区	85%
423	須恵器	坏	[12.8]	3.7	7.6	長石・石英・雲母	浅黄	普通	体部内・外面口口整形 削り 底部回転へラ切り後一方へラ削り	5区	60%
424	須恵器	坏	-	(3.2)	[7.4]	長石・石英・礫	灰	普通	体部内・外面口口削り 削り 底部回転へラ切り後ナデ	SD22	10%
425	須恵器	坏	-	(2.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口口削り 削り 体部下端へラ削り 内面へラ磨き	6区	5% 墨書「r」
426	土師器	高台付坏	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口口削り 削り 体部下端へラ削り 内面へラ磨き	4区	20%墨書「土師楓家」PL27
427	須恵器	高台付坏	[13.6]	5.8	9.4	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部内・外面口口削り 削り 底部回転へラ削り 後高台貼り付け	1区	70%
428	須恵器	高台付坏	[13.4]	5.2	[9.4]	長石・黒色粒子・礫	黄灰	普通	体部内・外面口口削り 削り 底部回転へラ削り 後高台貼り付け	6区	25%
429	須恵器	高台付坏	-	(4.9)	[9.0]	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面口口削り 削り 底部回転へラ削り 後高台貼り付け 量付部に斜方向の刻み	6区	50% へラ記号カ
430	須恵器	高台付坏	-	(2.5)	10.6	石英	灰	普通	底部回転へラ削り後高台貼り付け	6区	40%
431	須恵器	高台付坏	-	(3.0)	-	石英	灰黄褐	普通	底部回転へラ削り後高台貼り付け 高台部欠損	6区	30%
432	須恵器	高台付坏	-	(2.2)	[8.6]	長石	灰黄	普通	底部回転へラ削り後高台貼り付け	6区	30%
433	須恵器	盤	-	(3.1)	[13.2]	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	底部回転へラ削り後高台貼り付け	5区	30%
434	須恵器	盤	-	(2.8)	[14.8]	長石・黒色粒子・礫	灰黄	普通	底部回転へラ削り後高台貼り付け	6区	15%
435	須恵器	蓋	-	(1.8)	-	長石・黒色粒子	褐灰	普通	口口整形 天井部回転へラ削り	4区	10%
436	土師器	埴	-	(10.6)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面八ケ目調整後へラ磨き	SD30B	40%
437	土師器	壺	-	(6.1)	-	長石・石英	橙	普通	外面八ケ目調整後ナデ	SD30A	5%
438	陶器	德利	-	(9.5)	7.3	長石 鉄釉	灰白・明赤褐	普通	口口整形 体部下端回転へラ削り 削り 出し高台 施釉	4区	70%
439	土師器	甕	[15.8]	(5.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ	SD30A	10%
440	須恵器	甕	[28.0]	(6.2)	-	長石	灰	普通	口口整形	6区	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
TP16	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部には刻みを有するものが多い 刻みを持つ隆帯が貼り付けられる	SI79	5%	
TP29	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	雲母	にぶい黄橙	普通		SI92	5% PL36	
TP35	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通		6区	5%	
TP17	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通		6区	5% PL36	
TP22	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	雲母	橙	普通		6区	5% PL36	
TP23	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	雲母	にぶい黄橙	普通		波状口縁と平縁がある 半載竹管による平行沈線 平行沈線上に円管刺突が施される 地紋は燃系文が多い	6区	5% PL36
TP25	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	橙	普通		6区	5% PL36	
TP31	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英	にぶい褐	普通		6区	5% PL36	
TP36	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	6区	5%		
TP18	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	平縁 平行沈線の区画内には平行沈線による鋸歯状文	6区	5% PL36	
TP19	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	平縁 2条の爪形列 平行沈線上に縦方向の円管刺突	6区	5% PL36	
TP20	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・雲母	橙	普通	平縁 半載竹管による平行沈線と鋸歯状文 地文は燃系文	6区	5%	
TP21	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・雲母	褐	普通	平縁 口唇部に斜方向の刻み 爪形文の上に刻みを持つ隆帯	6区	5% PL36	
TP24	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	半載竹管による波状文	6区	5% PL36	
TP26	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	波状口縁の波頂部 3条の爪形の刺突文	6区	5% PL36	
TP27	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	平縁 平行沈線による木葉状文	6区	5% PL36	
TP28	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石	にぶい黄褐	普通	平縁 平行沈線による鋸歯状文	6区	5% PL36	
TP30	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石	にぶい黄橙	普通	平縁 半載竹管による刺突文 平行沈線による鋸歯状文	SI86	5% PL36	
TP32	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	波状口縁 半載竹管による刺突文	6区	5% PL36	
TP33	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	平行沈線上に縦方向の円管刺突	6区	5% PL36	
TP34	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・雲母	橙	普通	平縁 縦位の爪形列	6区	5%	
TP37	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	平縁 貝殻復縁の刺突文	6区	5%	
TP38	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	波状口縁 扇状の把手 上端は刻み	SI92	5%	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
DP22	球状土錘	3.3	0.8	2.9	(27.7)	粘土	ナデ 二方向から穿孔	SD24	PL37
DP24	球状土錘	3.2	0.6	3.3	31.7	粘土	丁寧なナデ 二方向から穿孔	6区	

番号	器種	最大長	最大幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
DP23	置き竈	(19.3)	径(130)	-	(374)	粘土	ナデ整形 煤付着	5区	PL37

番号	器種	長さ	最大幅	最小幅	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
DP25	玉杖	(5.0)	4.0	2.9	(68.9)	粘土	側面へラ磨き ナデ調整	6区	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
DP26	不明	(29.4)	(1.96)	(2.97)	(10.8)	粘土	へら削り後ナデ 獣を模した顔部カ	6区	PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q16	尖頭器	(8.8)	2.4	0.8	(15.5)	チャート	木葉形尖頭器 両面からの丁寧な押圧剥離調整	4区	PL38
Q17	石核	(5.0)	(11.1)	6.4	(412)	チャート	上面からの打撃による押圧剥離 下面は自然面	SD1	
Q18	剥片	5.6	4.4	1.6	29.4	黒色安山岩	横長剥片 右側縁は自然面	SI81	PL38
Q19	搔器	4.1	3.3	1.2	14.6	黒色安山岩	円形搔器 片面縁部調整	5区	
Q20	石鏃	(4.4)	1.3	0.5	(2.6)	チャート	凸基有茎鏃 両面からの丁寧な押圧剥離調整	4区	PL38
Q21	石鏃	(2.2)	2.0	0.5	(1.58)	チャート	凹基無茎鏃 両面からの押圧剥離調整	SI89	PL38
Q22	石鏃	2.4	1.8	0.4	1.36	チャート	平基無茎鏃 両面からの押圧剥離調整	5区	
Q23	石鏃	2.1	1.5	0.3	0.6	チャート	凹基無茎鏃 両面からの押圧剥離調整	SI93	PL38
Q24	石鏃	2.0	1.5	0.4	0.84	チャート	凹基無茎鏃 両面からの押圧剥離調整	4区	PL38
Q25	石鏃	(2.9)	(1.5)	0.4	(0.82)	チャート	平基無茎鏃 両面からの押圧剥離調整	SD1	PL38
Q26	磨製石斧	8.4	3.6	1.3	59	安山岩	器面研磨調整 刃部欠損 片刃カ	6区	PL38
Q27	打製石斧	11.8	7.0	1.7	(156.8)	結晶片岩	分銅形石斧 刃部欠損 裏面全面欠損	6区	PL38
Q28	打製石斧	9.3	6.7	1.7	125.8	結晶片岩	分銅形石斧 刃部欠損	6区	PL38
Q29	打製石斧	7.4	5.8	1.7	95.4	安山岩	礫石斧	6区	PL38
Q30	磨石	11.5	9.4	3.7	588	安山岩	両面に磨り跡・敲き跡	SD1	PL39
Q31	磨石	10.0	5.7	5.7	(690)	玄武岩	三面に局所的な磨り跡 火熱を受けている	SD30A	PL39
Q32	磨石	(8.4)	9.6	3.8	(363)	安山岩	一面に扁平な磨り跡	SD1	
Q33	磨石	(11.5)	(3.8)	(3.1)	(209)	蛇紋岩	下端部に磨り跡・敲き跡 磨製石斧転用	SD30A	PL39
Q34	凹石	(11.2)	(10.6)	(7.0)	(606)	軽石	凹部9か所	SD30A	PL39
Q35	凹石	(9.2)	(6.3)	(3.2)	(175.8)	砂岩	凹部1か所 火熱を受けている	SD30A	PL39
Q36	砥石	(10.4)	5.2	3.0	(169.9)	頁岩	砥面4面 片側欠損	4区	PL39
Q37	火打石	(4.6)	(4.7)	(3.9)	(108.5)	石英	一部の稜が摩滅	SI81	
Q38	石鏃	2.2	1.2	0.5	0.93	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離調整	6区	

番号	器種	外径	孔径	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M11	古銭	2.20	0.70	0.09	0.98	銅	新寛永 背文なし	4区	PL40
M12	古銭	2.28	0.66	0.11	2.16	銅	新寛永 背文なし	1区	PL40
M13	古銭	2.13	0.62	0.13	1.54	銅	新寛永 背文なし	4区	PL40
M14	古銭	2.29	0.69	0.15	2.44	銅	摩滅により銭文不明	5区	PL40

番号	器種	径	口径	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M15	蚊帳釣り手カ	5.1	5.2	0.2	11.9	銅	表裏に松竹梅の文様	4区	PL40

## 第4節 ま と め

下土師東遺跡は平成17年度から調査が開始され、縄文時代、古墳時代から奈良・平安時代の集落跡や近世の墓域などが確認された。前述したように、調査区は便宜上、第1～6区に分けており、今年度は、遺跡南部の第1・4～6区を中心に整理を行った。その結果、縄文時代、古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落跡、大規模な井戸跡や一辺150m以上ある溝跡等が確認された。ここでは、各時代ごとの様相の概要と、第14号井戸跡、出土した漆紙文書、墨書土器について述べ、まとめとする。

### 1 各時代の様相

#### (1) 縄文時代

当時代の住居跡1軒、陥し穴2基が確認されている。いずれも調査区南部の平坦部から確認されているが、住居跡は調査区域外に延び、その上攪乱を受けているため遺存状況は悪く、当時代の集落の特徴などについて述べることは困難である。出土遺物は、浮島式期・諸磯式期に比定される前期後半が中心で、表面採集したものや後世の遺構内からも出土することが多い。当期の住居が調査区南部の斜面部から確認されていることから、集落は調査区域外に広がっているものと想定される。

#### (2) 古墳時代

当時代の住居跡は、前期4軒、後期6軒の計10軒が確認されている。前期は第85～87号住居跡、後期は第66・69・71・82・84・88号住居跡が該当する。

前期の住居4軒は、調査区南部の平坦部に位置しており、北約500mに位置する調査区北部においても、同時期の集落が形成されている<sup>1)</sup>。特徴的な住居跡としては、第85号住居跡が挙げられ、西部床面から正位の状態出土した壺の口縁部と土師器の蓋が目される。壺は口縁部のみで、上には甕を据えており、器台として転用されたことが想定される。土師器の蓋は甕の蓋として使用されていたものと考えられる。また、鏡を模したような形態から別の用途があったのであろうか。つまみを上にして、伏せている状態であることから、何か意図的なものを感じる。また、高坏が壺や蓋とともに出土しており、住居廃絶に伴った祭祀的行為が執り行われたなども想定される。同様の出土例が、調査区北部の住居内においても確認されていることから、本跡と調査区北部は全く隔絶されたものではなく、何らかの形でつながりをもっていたかもしれない。また、東に位置する第86・87号住居跡は、第85号住居跡とは出土土器や主軸方向が異なることから、やや新しい段階になり、若干の時期差を指摘することができる。

その中でも、第87・91号住居跡は炉や生活にかかわる遺物が確認されていないことから、炉を付設する第85・86号住居の倉庫的な役割を果たした建物と想定される。その場合、第85・91号住居跡から第86・87号住居へ移動した可能性もある。前期の住居4軒は、さらに調査区域外に延びている可能性はあるものの、調査区北部の集落とは約500mも離れており、一時的な移住なのか、または別集団なのか、住居形態や出土遺物をもとにしながら、今後さらなる検討を進めていきたい。

後期に入ると、南部の第82・84・88号住居跡はあまりにも離れており、集落としてのまとまりは見られないが、北部の第66・69・71号住居跡でまとまりが見られる。当該時期の住居は概ね北西方向を主軸としており、規模は一辺3～4mの方形を呈しているのが多い。しかし、第71・84号住居跡は、長軸・短軸とも2m台の小規模な住居跡で、特に第84号住居跡の出土土器の個体数は、土師器坏8点、鉢、壺各1点、

小形甕7点、甕6点、甌3点である。住居規模からみて、坏・甕などの供膳具の保有数が圧倒的に多く、倉庫や収蔵施設とも想定したが、竈を東壁に付設していることから、集落内での「厨」的な役割を果たした可能性が高い。

当遺跡周辺に目を向けると、涸沼川の台地縁辺部に近い場所に東山稲荷古墳が位置している。調査の結果、墳丘裾部から朝顔形埴輪を所々に配した円筒埴輪列（36本）が確認されている<sup>2)</sup>。胎土分析の結果から、南方約1kmに位置する小幡北山埴輪製作遺跡で製作された埴輪が、この古墳に供給されていることが明らかになっている<sup>3)</sup>。古墳の年代は埴輪の型式から、ほぼ6世紀中頃以降と推測され、被葬者は涸沼川以南の下土師を中心とした一円を統轄下に収め、埴輪製作にもかかわった職業工人集団の首長層的な人物の可能性が高いとされている。この職業工人集団がこの下土師の地に居住していた可能性も想定されるが、東山稲荷古墳に近い調査区北部では、後期の集落は確認されていない。この他、下土師地区には高山古墳などが点在し、当時期には墓域が台地縁辺部を中心に形成され、集落域と墓域は明確に分けられていたものと思われる。

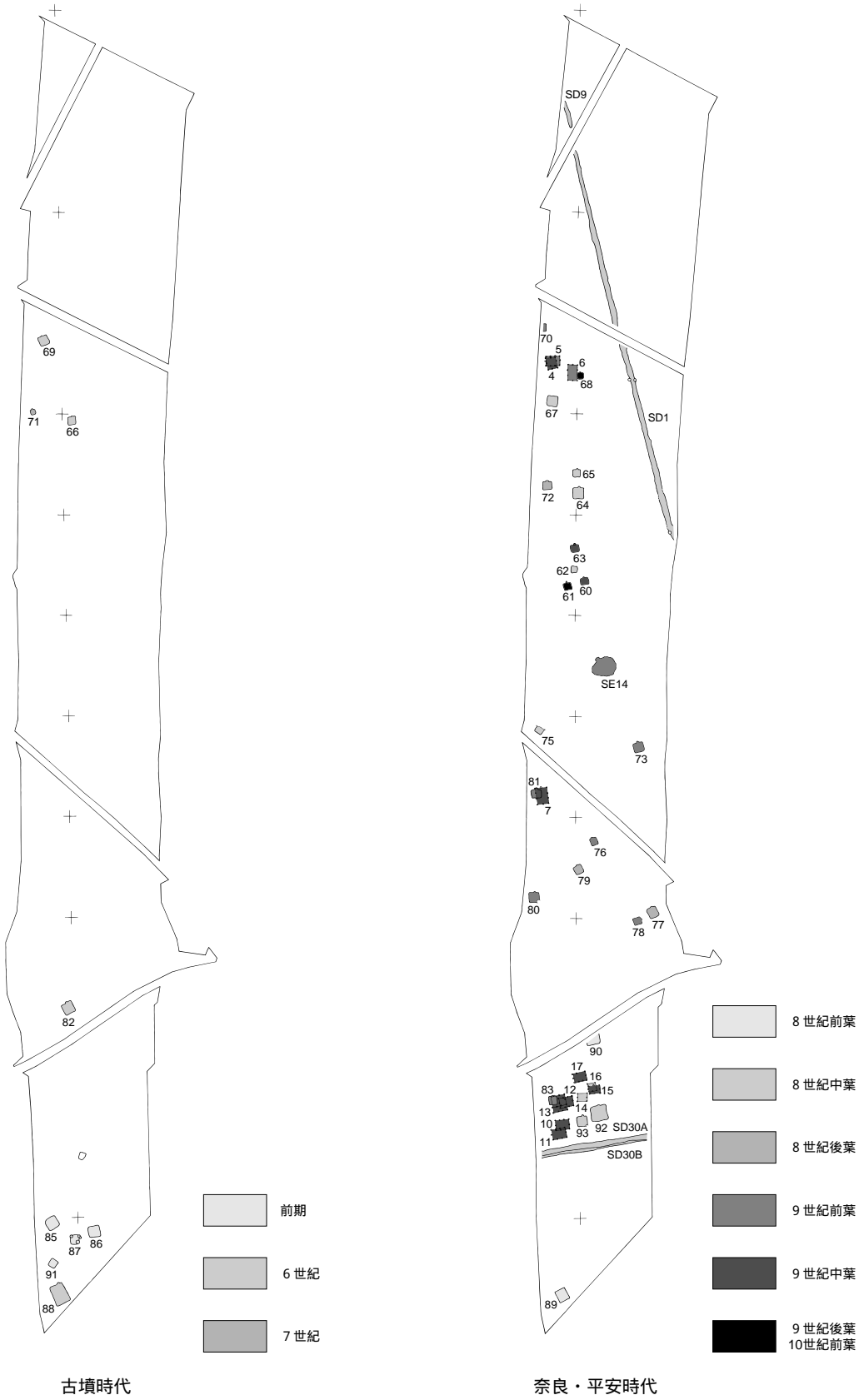
### (3) 奈良・平安時代

当該期の住居跡24軒、掘立柱建物跡12棟、溝跡4条、井戸1基が確認されている。

8世紀前葉は、住居跡2軒が該当する。両跡は後世の攪乱や調査区域外のため、住居跡の形態などを述べることは難しい。

8世紀中葉になると、住居跡7軒、掘立柱建物跡2棟が確認されている。集落を概観すると、調査区北部、南部で大きく分かれ、北部では第62・64・65・67号住居跡、中央部は第75号住居跡、南部は第92・93号住居跡、第14・16号掘立柱建物跡がそれぞれ位置している。住居形態は概して一辺が3～4mの方形であり、主軸方向はいずれも真北方向に近い方向を指す。この中で最も隆盛を誇るのは、第92・93号住居跡で、第92号住居跡は、一辺約6mの当該期における最大規模の住居である。壁柱穴も確認されており、主柱穴の一部からは建て替えの痕跡も見られた。出土した土器の個体数を推測すると、土師器が坏片、鉢、甌各1点、甕17点、須恵器が坏39点、高台付坏14点、盤19点、蓋24点、高坏4点、鉢3点、長頸瓶5点、甕3点、その他刀子1点である。この住居は大形の竈を有し、総数3,000点以上もの供膳具を中心とした土器片が出土していることから、当該時期において中心的な住居であり、厨的な役割を果たしていたとも想定できる。また、西に並列する第93号住居跡は、前者より規模は小さくなるものの、前者と近い個体数の土器の他、砥石1点、刀子3点、錠カ1点などが出土していることから、集落内において鉄製品を集中的に保有していた住居である。

また、同じ頃、調査区中央部を南西に走るように第1号溝、第92・93号住居跡の南部には第30A・30B号溝が掘削される。第1号溝の規模は、上幅1.28～2.26m、下幅0.26～0.40m、深さ0.40～0.74mのU字状で、第30A号溝の規模は、上幅1.94～2.44m、下幅0.28～0.60m、深さ0.56～0.60mの緩やかな弧状を呈し、須恵器大甕、長頸瓶、盤などが須恵器の供膳具とともに大量に出土している。第1号溝は、出土土器から8世紀中葉には溝としての機能が失われて、9世紀中葉には埋没し、第30A・30B号溝も8世紀中葉には溝としての機能を失っており、上層と下層で出土している遺物の時期差があまりみられないことから、溝の埋没は短期間であったと考えられる。溝が機能した時期は、集落が増加する8世紀中葉と想定されるが、集落に伴う溝としては機能していた期間が短くなることから、何らかの理由で、廃絶を余儀なくされたものと推測される。残念ながら、第1号溝と30A・30B号溝のコーナー部が調査区域外のため、全貌は明らか



第198図 下土師東遺跡集落変遷図

かになっていないが、第1号溝の確認された長さは約150m以上にもなる。佐々木義則氏は茨城県内から検出されている奈良・平安時代の溝の規模から、「確認面幅3m以上を測る区画溝を有する遺跡は、国衙・郡衙にかかわる遺跡であり、確認幅2.5m以下1.5m以上の溝は、行政施設である官衙にかかわる区画溝もしくは宗教施設である寺院にかかわる区画溝に属するものがほとんどである」と述べている<sup>4)</sup>。このことから、第1・30A・30B号溝を方形区画の溝の一部と想定すると、溝の内側に属する集落は、明瞭な区画施設である溝を巡らす必要があった存在であったと考えられる。

8世紀後葉では、第72・77・79号住居跡3軒が該当する。住居数が減少していることから、集落は一旦衰退の方向に向い、集落としてのまとまりは見られない。特徴ある遺物は、第79号住居跡から出土している「土師子家」と墨書された須恵器高台付坏である<sup>5)</sup>。

9世紀前葉になると、住居跡7軒の他、新たに掘立柱建物跡2棟、井戸跡1基が出現して、繁栄期を迎える。遺構のまとまりを示すのは南部であり、第76・78・80・81・83号住居跡が該当する。住居形態は一边4～5mの方形で均質なものとなる。主な遺物としては、土師器が坏、短頸壺、鉢各1点、甕13点、須恵器が坏15点、高台付坏4点、蓋6点、その他転用紡錘車(坏)、砥石、鎌各1点などであり、第80号住居跡からは、漆紙が付着した須恵器坏が出土している。漆容器の蓋紙と考えられることから、集落内において漆工人や漆工房をとりまとめた公的施設の存在も想定することができる。また、北部の第70号住居跡からは、須恵器坏の底部を転用した紡錘車も出土しており、当該集団では漆関連以外にも紡績関連の手工業も行われていたことを物語っている。

第70号住居跡の南部に位置する掘立柱建物跡2棟は、第5号掘立柱建物跡の南側桁と第6号掘立柱建物跡の北側の梁行を揃えて、コの字状に配置しており、一連の建物群は西側の調査区域外へ広がっているものと推測される。

同じ頃、下土師の台地上に、湧き水に制約されない集落作りを目的とした井戸が掘削される。硬化面や階段状に削り出された周堤を含めた大形の井戸である。硬化面は水を汲み上げる作業場的な面と考えられ、井戸周辺に位置しているピットは、上屋構造が想定されることから、井戸を中心に人々の生活が営まれていたことが想像される。詳細は後述するが、大形の井戸が確認された遺跡は、官衙関連遺跡で確認されることが多く、官衙関連施設などの公的施設を支える集落を形成するために、井戸は必要不可欠なものとして、掘削された可能性が高い。出土土器から9世紀中葉には埋められており、まもなく廃絶され、その後廃棄遺構として利用されている。

9世紀中葉になると、住居跡2軒、掘立柱建物跡8棟が確認されている。住居数は減少するものの、掘立柱建物跡が主流になっている。掘立柱建物跡8棟は、調査区南部に展開する第10～13・15・17号掘立柱建物跡、北部に位置する第4号掘立柱建物跡が該当する。第10～13・15・17号掘立柱建物跡の周辺には、中心となる住居跡は確認されていないことから、南側に庇を有する第13号掘立柱建物跡が中心となる「屋」と想定することができ、その他の3×2間の側柱建物跡が第13号掘立柱建物跡と同一建物群を形成する。ともに梁行の1間の間尺を1尺ほど広くとるのが共通であり、桁行方向などから、第10～11号掘立柱建物跡、第12～13号掘立柱建物跡へ建て替えられたと想定ができる。また、第15号掘立柱建物跡のP5内から、灰釉陶器長頸瓶1点が出土している。

9世紀後葉以後の住居跡は減少し、2軒が確認されただけである。第61・68号住居跡が該当するが、両跡は約80m以上も離れて位置している。9世紀中葉から掘立柱建物跡群が主流になると思われたが、当該期は掘立柱建物跡が確認されていないため、集落が場所を変えて展開していると考えられる。奥谷遺跡に



において、9世紀後葉の集落が最も多く確認されたことを考えると、下土師東遺跡の集落が奥谷遺跡側へ移動したとも想定できる<sup>6)</sup>。

10世紀中葉から中世の遺構は、確認されず、縄文時代から営まれてきた集落は、10世紀中葉をもって断絶した。

#### (4) 中・近世

調査された土坑のうち、墓坑については、覆土中から骨片・骨粉等は確認できなかったが、古銭、煙管などが出土した墓坑が確認され、下記の条件を満たす71基を近世の墓坑と判断した。

ア 直径、長径もしくは長軸が1～1.5m程度で、大きくとも2mを超えないもの。

イ 覆土が黒褐色、暗褐色主体であり、ロームブロックを含むなど人為的な埋め戻しと考えられるもの。

ウ 底面がほぼ平坦で、壁が直立しているもの。

墓坑の大部分は、調査区中央部の第22・24号溝跡の南東側を中心に集中して確認されており、近世において当地は、墓域が形成されていったものと考えられる。同じように調査区中央部には、中・近世とされる井戸跡が点在しており、墓坑群との関連も想定される。

## 2 漆紙文書について

第80号住居跡から発見された漆紙文書は、須恵器坏内面に添うように付着している。しかし、漆紙は内面全体ではなく、底部中央にかけて遺存しており、赤外線撮影の結果、内面中央にかけて「大同三年正」の文字が確認されている。

漆膜部分は、赤色を帯びた漆の上に黒色を帯びた漆の重なりが確認できる。詳しくは付章を参照していただきたいが、漆膜構造調査では、赤色を帯びた漆層は不純物を多く含む漆層、黒色を帯びた漆層の方が精製の高い漆層であることが明らかになっている。下地層や色漆等は認められず、不純物を含む生漆が層になって付着している状態であることから、須恵器坏は漆塗りの場で容器として使用されたものと考えられる。

漆紙は反古文書の一部と考えられ、蓋紙として再利用されたものが、遺構の環境状態により現在まで伝えられたものである。原文書は方形であり、容器つまり須恵器坏の大きさに合わせて裁断されたとしても方形で、漆が付着しない部分は失われてしまう。つまり円形をした容器の口には、はみ出した文書部分は、当然ながら失われてしまうのである。

県内で漆紙文書が多数検出されている鹿の子C遺跡では、文字の表れ方、紙の重なり方など漆紙の状況によって、いくつかケース分けしている<sup>7)</sup>。まず文字の表れ方については、次のように分類される。

表文字のみが表れている。

裏文字のみが表れている。

表・裏ともに文字が表れている。

は蓋紙として使用される時、文字を上にして用いられたケースであり、は文字を下にして、つまり裏むけに用いられた場合である。の場合は、漆が表面に付着しているので文字が読めず、裏文字として釈読しなければならない。については、さらに2つのケースに分かれる。表が正文で裏が2次利用の場合と、裏が正文で表が2次利用の場合である。今回のケースは、坏口縁部付近でも、濃淡の差があるものの裏文字らしき文字も確認できることから、といえるであろう。しかし、「大同三年正」側が表面になるのか、裏面になるのかは今のところはっきりとはしない。

つぎに、紙の重なり方については次のように考えられる。

1枚

2枚重ね

3枚以上重ね

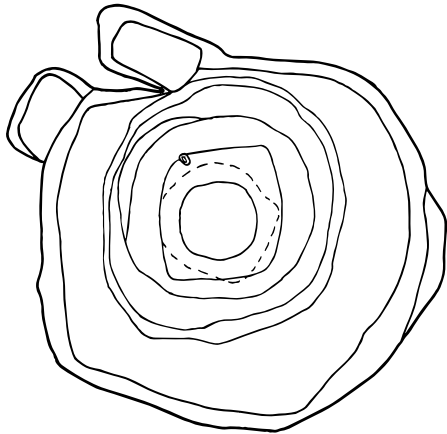
の確認は容易であるが、 は行間・字間・文字の大小・筆跡などをもとに判断するわけであるが、2枚重ねの文書なのか、1枚の文書を2つ折りにしたものなのかを判断するのに困難な場合がある。「大同三年正」付近では表裏とも文字が確認されず、行間がかなり空いていることを考えると、今後文書の種類など検討する余地がある。また、残存する紙片は円形を呈した容器の口の形になることから、四隅が残ることはない。そうすると、書き出しの部分や年紀の部分は失われる確率が高くなるわけであるが、今回のケースは、年紀が底面中心に合わせたように遺存している。先ほどの文書の性格と併せて、なぜ年紀部分が中央に位置しているかなど、報告者の今後の課題としたい。

その他、各地で出土する漆紙文書に目をむけると、「暦と戸籍・計帳の類が意外と多い」とされており<sup>8)</sup>、茨城県鹿の子C遺跡、宮城県多賀城跡では両者が出土している。具注暦は胆沢城跡、多賀城跡、籍帳は多賀城跡、羽束師遺跡、平城京などから出土例が報告されている。多賀城は陸奥国府であるから国衙行政文書、鹿の子C遺跡においては、地方国衙行政にかかわる文書は確認されているが、中央政府発給文書は現在のところ確認されていない。下土師東遺跡周辺では、官衙関連遺跡を確認されていないが、何らかの行政機関で文書として機能していたものが廃棄され、この地に払い下げられて、漆容器の蓋紙として使用された後、破棄されたということである。漆紙文書の出土している遺跡は、官衙に関係するところが大半であり、漆工人や工房も公的施設にかかわる部分が多い。こうしたことから、下土師の地には、官衙関連施設などの公的施設が存在していた可能性が高い。

### 3 第14号井戸跡について

調査区中央部から大形の井戸跡が確認されている。規模などの詳細は前述したとおりであり、このような大形の井戸跡を伴う例として、東京都府中市の武蔵国府跡の井戸跡が挙げられる<sup>9)</sup>。武蔵国は今日の東京都、埼玉県、神奈川県川崎市と横浜市の大部分を占める広大な国で、21の郡からなっていた。1975年、東西6.5kmという広大な範囲を武蔵国府関連遺跡とし、30年にも及ぶ年月の間に1,200箇所を越す発掘調査が行われている。これまで国府跡からは5基の大形井戸跡が確認されている。武蔵国府のマチは一般的な集落では考えられないほど大規模で、とりわけ崖下から湧き出す湧き水の利用が困難な、崖から1キロも離れた台地上まで建物跡が広がっている。こうしたマチの広がりを可能にしたのは井戸であるという。井戸の存在が湧き水に制約されないマチの広がりを可能にした。その中でも、国府北東で見つかった約210m四方を囲む、2m幅の溝内から確認された第1号井戸跡は、7世紀末～8世紀初頭に掘削され、9世紀後葉頃に廃絶されている<sup>10)</sup>。溝内には大形の掘立柱建物跡はなく、区画内は現業的な機能をもった施設と報告されている。広大な溝に囲まれているが、大形の掘立柱建物跡などの遺構が確認されていないという点では、武蔵国府と下土師東遺跡の大形井戸も類似している。いずれにしても、大形井戸は住民によって共同利用された井戸と考えられ、当時井戸を囲んだにぎわいが目に浮かぶようである。

このように県内で大形井戸が確認されている例は、水戸市大塚新地、近年では、つくば市熊の山遺跡においても同様の大形井戸が見つかっている。大塚新地遺跡の第3号井戸状遺構は平場こそ存在しないが、上部長径3.80m、短径3.65mで、確認面から1.60mほどのところに、水をくむための足場と思われる平坦部を有している。大塚新地遺跡は、古墳時代から集落が継続し、8世紀前半から11世紀頃まで継続的に集落が営ま



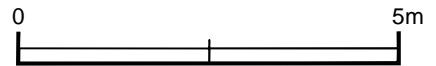
大塚新地遺跡第2号井戸状遺構平面図



つくば熊の山遺跡  
第30号井戸跡平面図



武蔵国府関連遺跡N21区  
第1号井戸跡平面図



第199図 井戸跡平面実測図

れ、特に、「郷長」と墨書された土器も出土していることから、郷長の所在する集落であるとされている<sup>11)</sup>。また、つくば市島名熊の山遺跡の第30号井戸跡は、上部の大形土坑部と下部の井戸から成り、上部の長径9.55m、短径6.81m、下部長径1.60m、短径1.45mの楕円形で、深さは確認面から5.25mまで掘り下げたが確認できなかった。井戸内部から出土した土器から廃絶された時期は、8世紀後葉と考えられ、8世紀後葉以降9世紀後葉まで廃棄用の土坑として使用されていたようである。この井戸からは馬骨3頭分も出土しており、疫病退散、井戸封じなどに関連した祭祀を行った可能性がうかがわれる。律・令期における熊の山遺跡の様相は、国府や郡衙には当てはまらないが、一般的集落とも言い難い古代地方行政の末端施設機構に関係する集落と考えられている<sup>12)</sup>。

当遺跡の第14号井戸跡は、井戸部・硬化面部の他、周辺には階段状に削り出された周堤が巡っている。井戸開口部は土手状の裏込め土が確認され、裏込め土の内側には木枠が存在した可能性が高い。遺物は井戸内からはわずかで、大半は西部を除く覆土上層から出土している。出土土器は9世紀中葉が主体で、井戸内と覆土上層の出土土器にそれほど時期差がないことから、廃絶後短時間で埋没し、その後廃棄遺構として利用されたと考えられる。また、出土している墨書土器4点のうち、井戸内からは「真宅」、「西」の墨書土器2点出土しているが、文字の意味や呪具が出土していないことを考えると、井戸封じなどの廃絶に伴う祭祀行為が行われた可能性は低い。集落の変遷で述べたように、9世紀後葉には集落が激減することから、9世紀中葉の集落が廃絶されると同時に井戸も完全に埋没する。

このように、古代から井戸の掘削技術を有してわけであるが、下土師の地にこれだけの大形の井戸が掘削されたのか疑問に残る。しかし、漆紙文書の出土や方形区画と思われる溝の存在から、一般集落とは違う様相を呈していることが明らかになりつつある。これまで確認されている大形の井戸は、武蔵国府関連遺跡をはじめ、大塚新地遺跡など官衙関連遺跡で確認されることが多い。このように官衙関連施設を支える集落を形成するために、井戸は必要不可欠なものとして、計画的に掘削されたものとする。

#### 4 墨書について

当遺跡で出土している文字資料は、17点でそのうち墨書は16点である。時期別では、8世紀代が4点、9世紀代が10点である。文字が記された器種は坏や椀類が多く、他の遺跡同様、最も生活に密着し、かつ数量の多い土器に文字が記されていることになる。

記載された文字について見てみると、「土師楓家」、「井」が2点、「部カ高嶋」、「土師子家」、「土師カ三垣」、「西」、「上」、「真宅」、がそれぞれ1点である。この中で、「土師」は、「土師部」と関連し、大規模な小幡埴輪製作遺跡が近隣に存在することから、下土師の地は、古墳時代において土師部集団が居住した可能性がきわめて高い。さらに、奈良・平安時代になっても土師部の後裔たちがこの地で生活を営み、「土師」を氏とする人々がいたと考えられる。そのことから考えると、面山東遺跡で出土している「土師神主」<sup>13)</sup>、下土師東遺跡で出土した「土師楓家」、「土師子家」、「土師カ三垣」は人名あるいは地名の可能性が高く、その他判読不明な「家」などもその可能性があり、その数は増加すると思われる。その中で、4区から出土した「土師楓家」の文字は達筆であり、教養の高い人物も存在したこともうかがえる。

「西」は当遺跡の東約1kmに位置する奥谷遺跡においても出土していることは興味深い。報告によれば、「西」は墨書された文字の中で最も多く、文字としては寺院を表し、もとの文字は「西大寺」であって、その文字を一部略して書いたのではないかとされている<sup>14)</sup>。しかし、遺跡周辺には該当する寺院は存在しない。

「井」の文字について、平川南氏は「井戸の井ではなく、その字形から判断すると、呪術等に用いられる

ドーマンと呼ばれる魔除け記号と理解できる。」と述べている<sup>15)</sup>。第70・76号住居跡は離れているものの、出土土器から同時期に存在したとされており、呪術行為を行っていた住居の可能性が高い。

表16 下土師東遺跡出土文字資料一覧表

番号	釈文	種別	材質	器種	部位	方向	出土遺構	遺物番号	時代	備考
1	部カ高嶋	墨	須恵器	坏	底部外面	正位	第67号住居跡	87	8世紀中葉	
2	井	墨	須恵器	坏	低部外面	正位	第70号住居跡	124	9世紀前葉	
3	井	墨	須恵器	高台付坏	体部外面	横位	第76号住居跡	129	9世紀前葉	
4	土師子家	墨	須恵器	高台付坏	底部外面	正位	第79号住居跡	132	8世紀後葉	
5		墨	須恵器	坏	底部外面	-	第80号住居跡	139	9世紀前葉	
6	家	墨	土師器	坏	底部外面	正位	第1号溝跡	208	9世紀中葉	
7	土師カ三垣	墨	土師器	皿	底部外面	-	第30A号溝跡	290	8世紀中葉	
8	土師楓家	墨	須恵器	坏	体部外面	横位	第14号井戸跡	347	9世紀中葉	
9		墨	須恵器	坏	体部外面	-	第14号井戸跡	366	9世紀中葉	
10	西	墨	土師器	高台付椀	体部外面	正位	第14号井戸跡	367	9世紀中葉	
11	上	墨	土師器	高台付椀	底部外面		第14号井戸跡	370	9世紀中葉	
12	真宅	墨	土師器	高台付椀	底部外面		第14号井戸跡	371	9世紀中葉	
13		墨	土師器	高台付椀	体部外面		第14号井戸跡	372	9世紀中葉	
14		墨	須恵器	坏	体部外面		遺構外	425		
15	土師楓家	墨	土師器	坏	体部外面	横位	遺構外	426		
16		墨	土師器	坏	底部外面		遺構外	401	時期不明	
17	成	ヘラ書き	須恵器	坏	底部外面		第62号住居跡	109	8世紀中葉	

## 5 まとめにかえて

下土師東遺跡が位置する茨城郡嶋田郷は、現在の南島田周辺に比定され、「嶋田」という郷名は、酒沼や酒沼川などの水流に囲まれた地形に由来するものと考えられている<sup>16)</sup>。「シマ」の語源は「締」で、「閉ざされ、仕切られた」という意味もあり、古代では、一般的に、周囲を何か（特に水か水路など）で囲まれた地域を「シマ」といい、「タ」は「処」を意味することから、「シマタ」には「周囲を囲まれたところ」という意味がある。前述したように、嶋田郷は、酒沼、寛政川、枝折川など酒沼に流れ込む河川の流域に位置している。『常陸国風土記』、香島郡条の「阿多可奈湖」、『将門記』の「蒜間之江」は現在の酒沼より奥まで入海化していたと想定でき、嶋田郷の地はまさに「周囲を流水に囲まれたところ」という地名にふさわしい地形であったと考えられる。同じように「シマ」という地名がつく郷は、茨城郡嶋田郷のほか、信太・那賀・久慈の各郷に志万郷がある。いずれも周囲を流水に囲まれ「シマ」という地域的特性をもち、それぞれの内部には水運の拠点となる河川港を有して周辺の水上交通の中心として発展したと考えられている。こういったことから、以前調査が行われた奥谷遺跡は、一般的な集落ではなく、私寺を伴った物資輸送にかかわる富豪層の集落であった可能性が高いなど、奥谷の地で重要な役割を果たしたとの見解も出されている<sup>17)</sup>。

また、嶋田郷に居住していた人々に「土師部」の集団をあげることができる。面山東遺跡出土の「土師神主」<sup>18)</sup>、今回出土している「土師楓家」、「土師子家」、「土師カ三垣」などの墨書土器は、『新編常陸国誌』の「茨城郡（中略）共二土師村アリ、蓋土師部ノ居ル処ナリ」という推定を実証するもので、下土師周辺にかつて土師部が居住していたことを示すものと考えられる。「土師部」の集団については、近くに小幡埴輪

製作遺跡があることから、古墳時代後期以降、下土師周辺に居住したことは明らかで、同地区に位置する東山稲荷古墳の被葬者は、涸沼川以南の下土師を中心とした一円を統轄下に収め、埴輪製作にもかかわった職業工人集団の首長層的な人物の可能性が高いとされている<sup>19)</sup>。奈良・平安時代に至っても「土師部」の後裔たちはこの地で生活を営み、律令体制に組み込まれていくことになる。律令国家の地方支配は、在地の有力者層をいかに体制内に取り込んでいくかであるが、奥谷の河川港を中心として、周辺部への物資の集散地や、交通の中心地として栄え、河川港での水運に従事した人々を統轄した有力者層の存在が想定される。

こうした意味で、下土師東遺跡は大形井戸や漆紙文書等の確認により、明らかに一般的な集落とは様相が異なる遺跡である。それは、漆紙文書の出土にみられるように、周辺に官衙関連施設の存在をうかがわせる集落であり、奥谷遺跡の集落とともに、奥谷の河川港に従事した人々を統轄した有力者がこの下土師の地に存在したのかもしれない。

#### 註

- 1) 平成21年3月以降刊行予定。
- 2) 井上義安 『茨城町東山稲荷古墳』 茨城町史編さん委員会 1985年11月
- 3) 大塚初重・井上義安ほか 『小幡北山埴輪製作遺跡』 茨城町 1988年2月
- 4) 佐々木義則 『「桑原の丘」の溝 - 8世紀前半の溝を持つ遺跡の一例 - 』「玉里村立史料館報 第8号」玉里村立史料館 1982年6月
- 5) 有限会社三井考測の三井猛氏にご協力いただいた。
- 6) 鯉淵和彦 「一般国道6号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 奥谷遺跡・小鶴遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第50集 (財)茨城県教育財団 1989年3月
- 7) 佐藤正好・川井正一 「常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書5 鹿の子C遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第20集 (財)茨城県教育財団 1983年3月
- 8) 岸俊男 『土に埋もれた紙』 1982年6月
- 9) 府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 『武蔵国府 - 府中市遺跡調査会年報昭和56(1981)年度 - 』 1991年3月
- 10) 府中市郷土の森博物館 『府中市郷土の森博物館ブックレット6 古代武蔵国府』 (財)府中文化振興財団 2005年2月
- 11) 石井毅 『常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 大塚新地遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告 XI』 (財)茨城県教育財団 1981年3月
- 12) 藤田哲也・三谷正・原信田正夫・川上直登・稲田義弘 「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第174集 2001年3月
- 13) 佐藤次男 『面山東遺跡』 茨城町史編さん委員会 茨城町 1997年1月
- 14) 註6に同じ
- 15) 平川南 『墨書土器の研究』 吉川弘文館 2000年11月
- 16) 茨城町史編さん委員会 『茨城町史 通史編』茨城町教育委員会 1995年2月
- 17) 茨城県史編集会 『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』 茨城県 1985年7月
- 18) 註13に同じ
- 19) 註2に同じ

#### 参考文献

- 茨城県 『茨城県史 原始古代編』 1985年3月
- 独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所 「古代の官衙遺跡 遺構編」 2003年3月
- 独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所 「古代の官衙遺跡 遺物・遺跡編」 2004年3月
- 鐘方正樹 『井戸の考古学』 同成社 2003年12月

# 付 章

## 茨城県下土師東遺跡出土の漆紙文書付須恵器の塗膜構造調査

(株)吉田生物研究所

### はじめに

茨城県下土師東遺跡から出土した漆紙文書付須恵器について、その塗膜構造を明らかにすることを目的に漆膜調査を行なったので、以下にその結果を報告する。

### 1 調査資料

調査した資料は、表 1 に示す漆紙文書付須恵器である。

表 1 調査資料

	品 名	概 要
1	漆紙文書付 須恵器	内面全体に漆が付着、中心部分には漆紙文書が残っており、「大同三年」の文字が見える。 漆膜部分は、赤色を帯びた漆の上に黒色を帯びた漆の重なりが確認できる。

### 2 調査方法

表 1 の資料本体の内外面から数mm四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

### 3 断面観察結果

塗膜断面の観察結果を表 2 に示す。

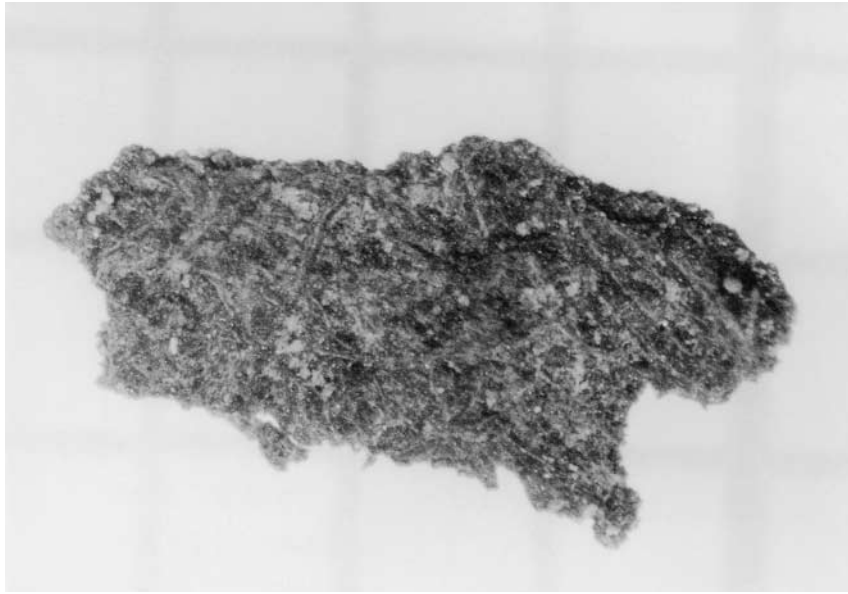
表 2 断面観察結果表

	試料の部位	塗膜構造		写真
		層構造	顔料	
1	漆紙部分	1層	なし	1, 2, 3
	漆膜のみ	2層	なし	4, 5, 6, 7

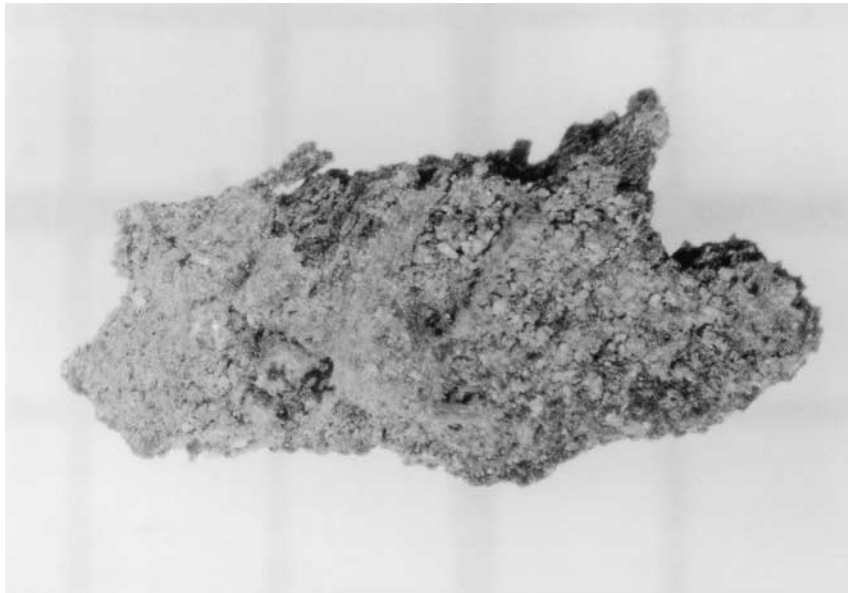
塗膜構造：漆紙部分は、茶褐色の漆層に紙の繊維が混和している。一方、漆膜のみの箇所では、茶褐色でわずかに不純物を含む層と、同じく茶褐色で不純物をかなり多く含む層の2層が確認できた。なお、いずれも顔料は含んでいない。したがって、これらは精製度の異なる生漆であると判断できる。

### 4 摘 要

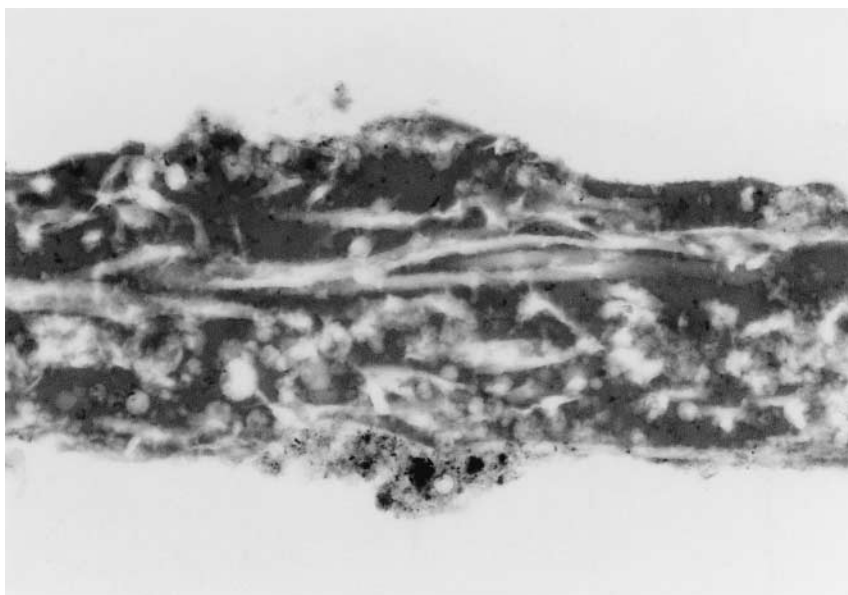
茨城県下土師東遺跡から出土した漆紙文書付須恵器の塗膜構造を観察した。下地層や色漆等は認められず、不純物を含む生漆が層になって付着している状態で、層厚も不均一であった（肉眼で赤色に見える箇所がより不純物を多く含む漆層で、黒色に見える箇所がより精製度の高い漆層である）。以上のことから、この須恵器は漆の精製過程でパレットのように使用され、容器の蓋として使用していた文書紙が固着したものと考えられる。



1 試料写真 (表面)  
漆紙部分 (× 30)

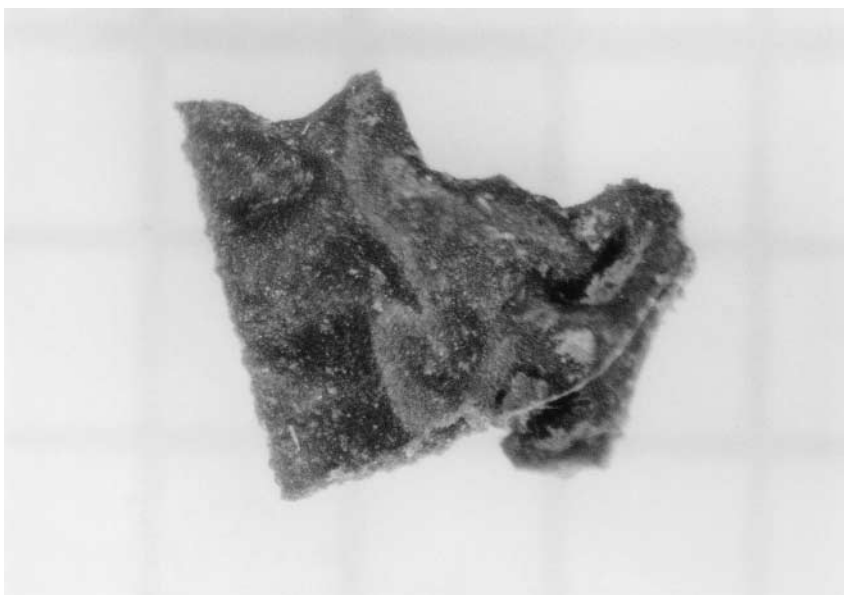


2 試料写真 (裏面)  
漆紙部分 (× 30)

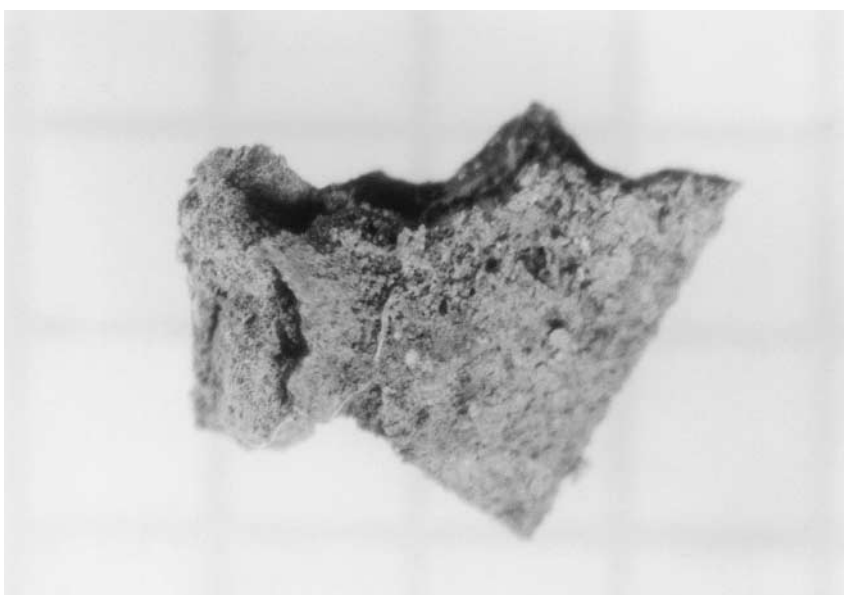


3 断面写真  
漆紙部分 (× 200)





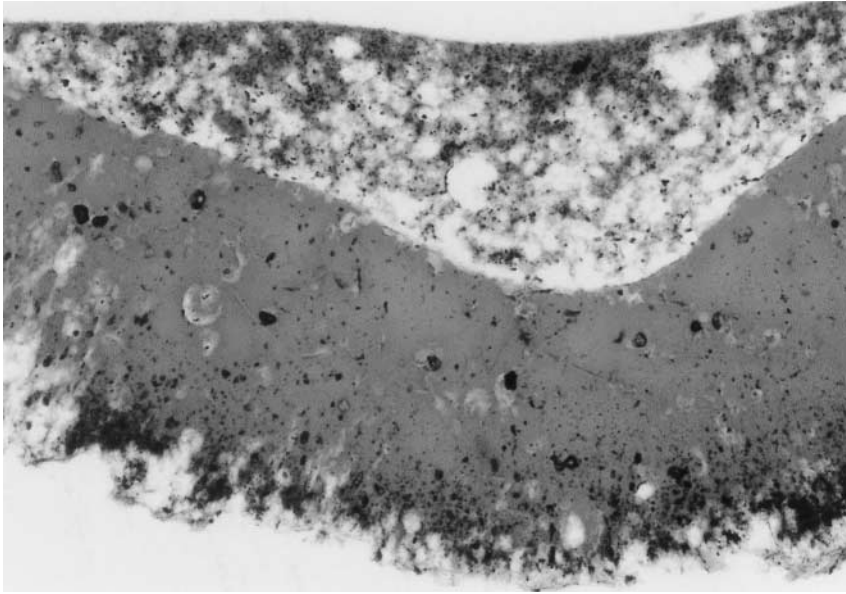
4 試料写真 (表面)  
漆膜のみ (× 30)



5 試料写真 (裏面)  
漆膜のみ (× 30)



6 断面写真  
漆膜のみ (× 80)



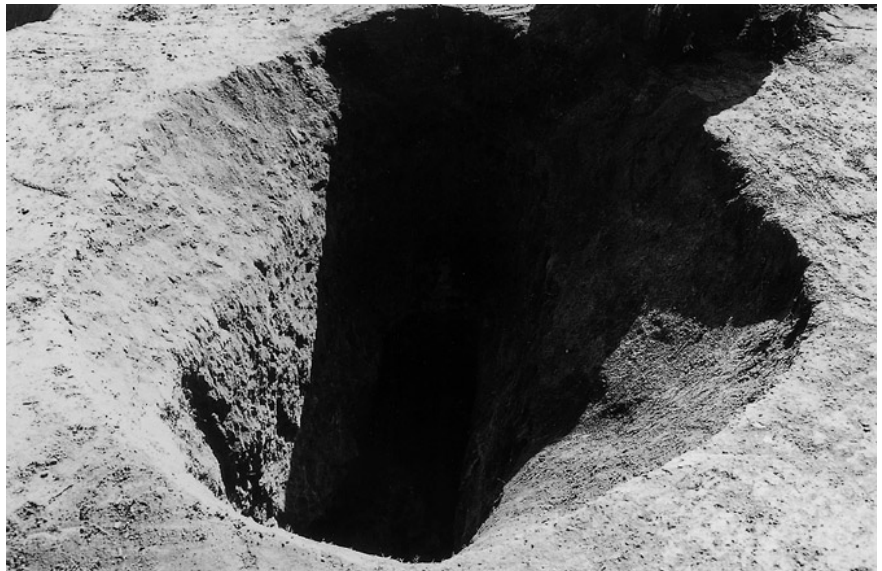
7 断面写真  
漆膜のみ ( × 200 )

# 写真図版





第 9 4 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況

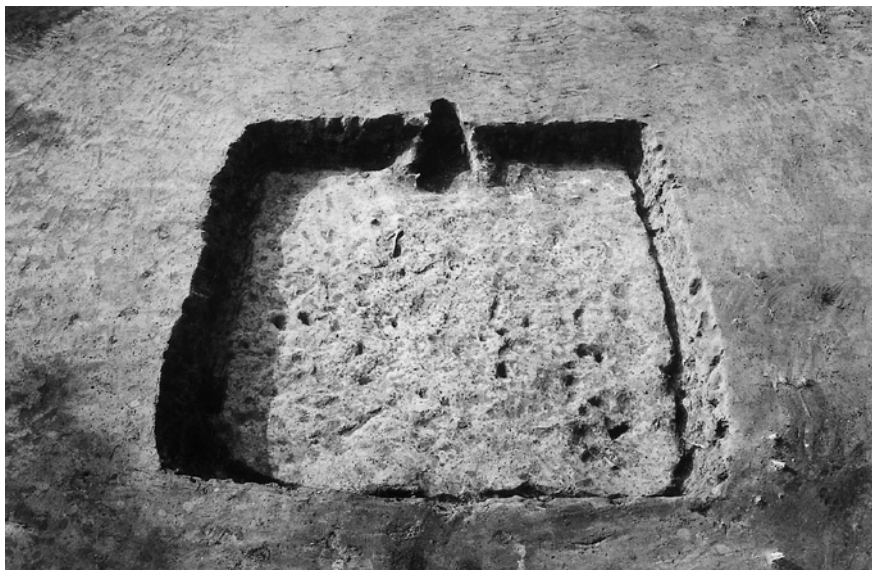


第 2 号 陥 し 穴  
完 掘 状 況



第 6 6 号 住 居 跡  
完 掘 状 況

PL 2



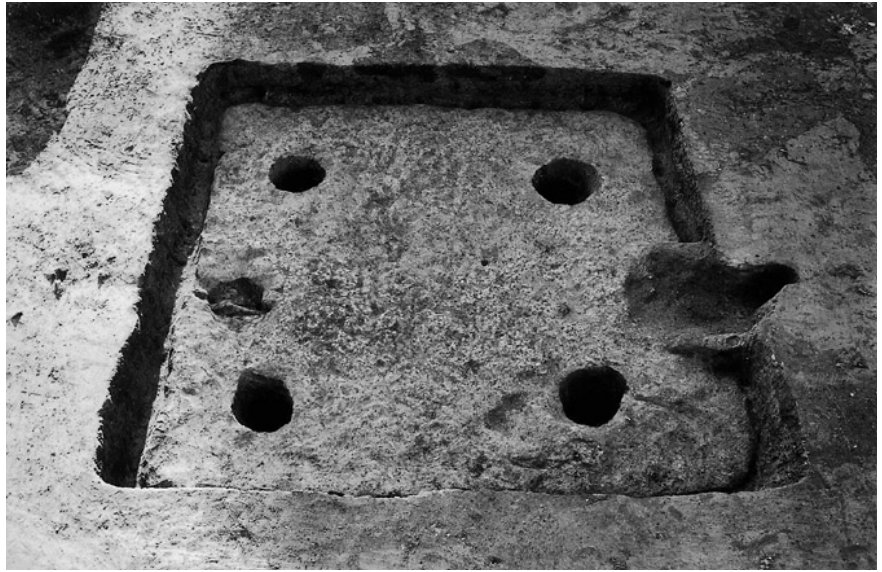
第 69 号 住居 跡  
完 掘 状 况



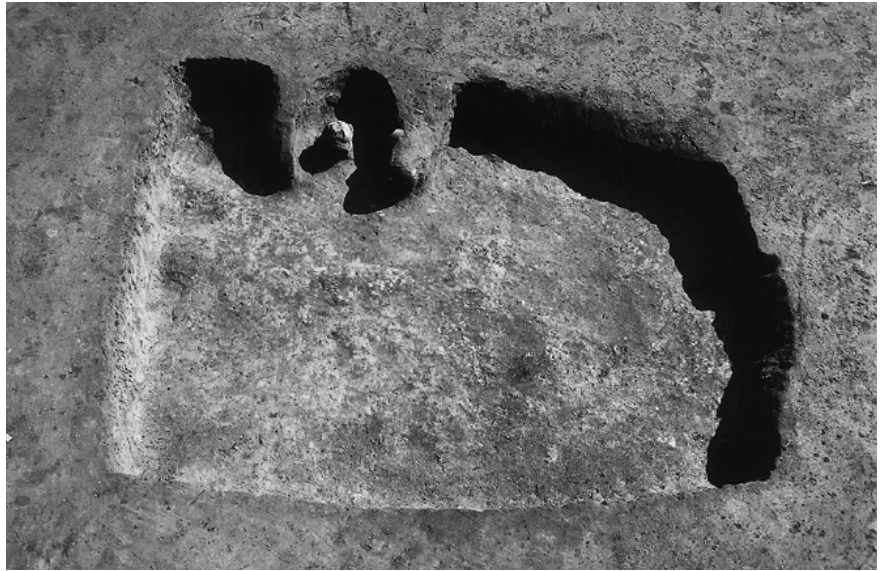
第 69 号 住居 跡  
遺 物 出 土 状 况



第 71 号 住居 跡  
完 掘 状 况



第 8 2 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



第 8 4 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



第 8 4 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 84 号住居跡  
竈遺物出土狀況



第 85 号住居跡  
完掘狀況

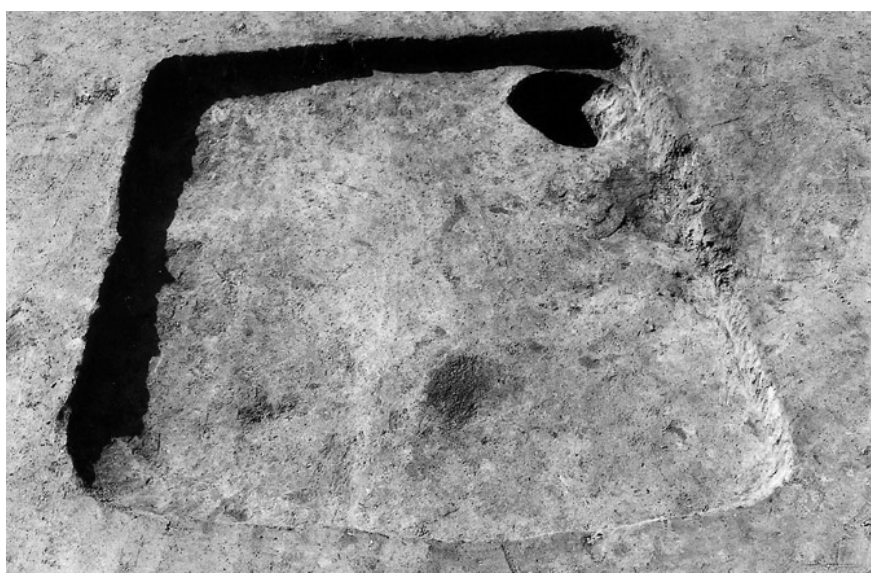


第 85 号住居跡  
遺物出土狀況

第 86 号住居跡  
完 掘 状 況



第 91 号住居跡  
完 掘 状 況



第 91 号住居跡  
遺 物 出 土 状 況

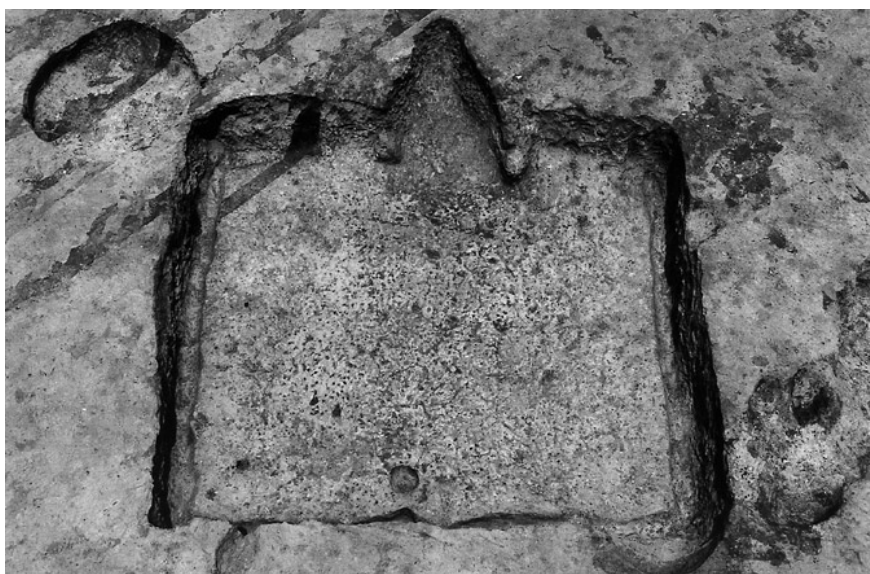




PL 6



第 60 号住居跡  
遺物出土狀況



第 61 号住居跡  
完掘狀況



第 63 号住居跡  
完掘狀況

第 6 4 号 住 居 跡  
完 掘 状 况



第 6 4 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 况



第 6 4 号 住 居 跡  
竈 遺 物 出 土 状 况

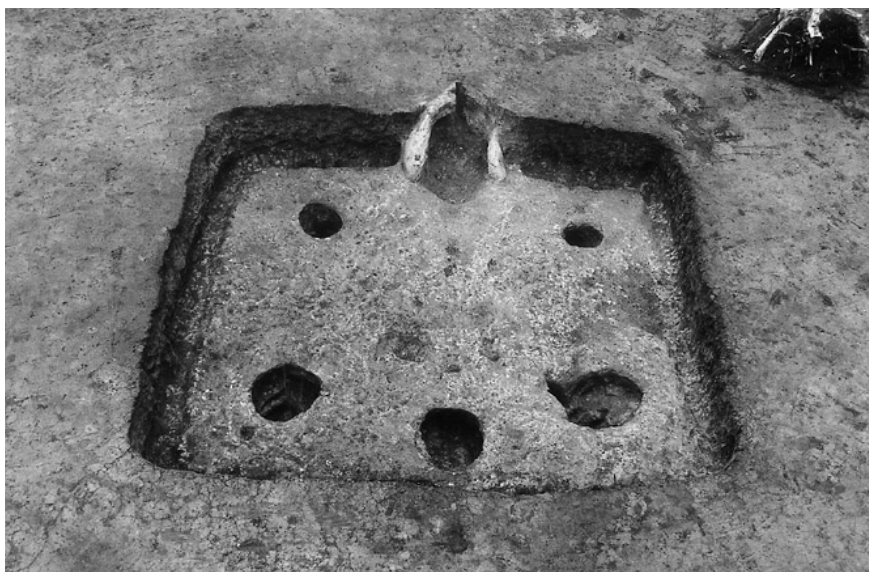




第 6 8 号 住 居 跡  
竈 遺 物 出 土 状 況



第 7 2 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



第 7 3 号 住 居 跡  
完 掘 状 況

第 75 号住居跡  
遺物出土狀況



第 76 号住居跡  
完掘狀況



第 77 号住居跡  
完掘狀況

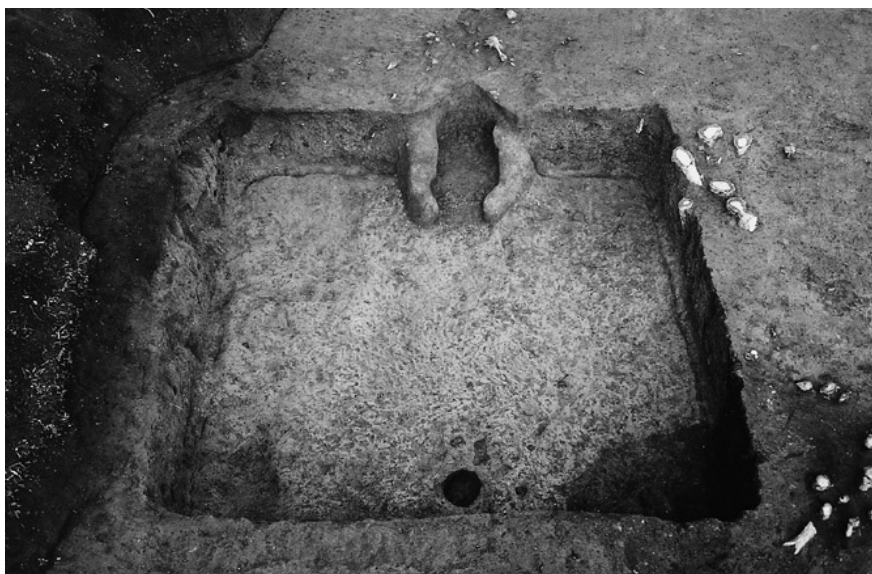




第 7 8 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



第 7 9 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



第 8 0 号 住 居 跡  
完 掘 状 況

第 81 号住居跡  
完 掘 状 況



第 90 号住居跡  
遺 物 出 土 状 況



第 92 号住居跡  
完 掘 状 況





第 9 2 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 9 3 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



第 9 3 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況

第 4 ~ 6 号  
掘立柱建物跡  
確認 状 況



第 10 · 11 号  
掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 12 · 13 号  
掘立柱建物跡  
完 掘 状 況







第 1 号 溝 跡  
完 掘 状 況



第 1 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 溝 跡  
土 層 断 面



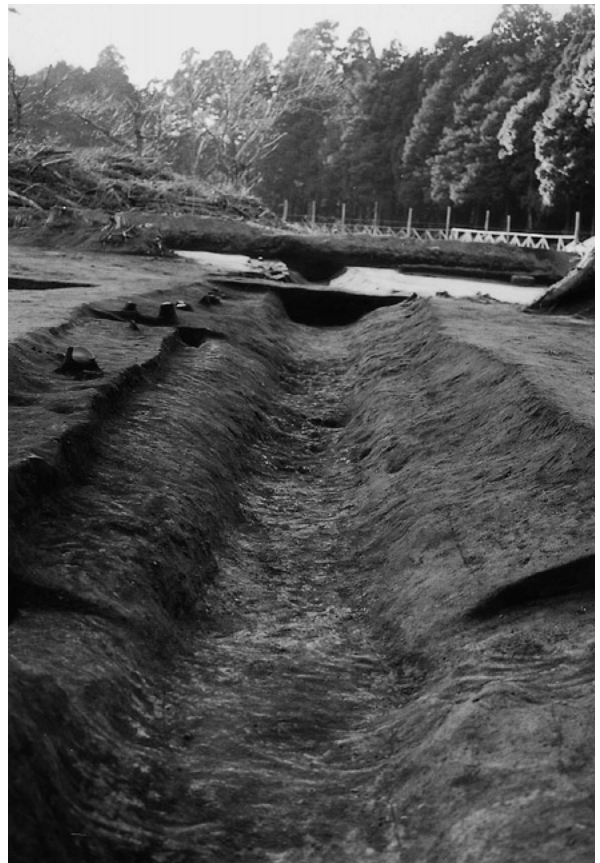
第 1 号溝跡完掘状況



第 1 号溝跡硬化面確認状況



第 30A 号溝跡遺物出土状況



第 30B 号溝跡硬化面確認状況



第14号井戸跡  
完掘状況



第14号井戸跡  
遺物出土状況



第14号井戸跡  
掘り方土層断面

第 3 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 5 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 17 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況





第 1 0 号 墓 坑  
完 掘 状 况



第 1 3 号 墓 坑  
完 掘 状 况



第 1 5 号 墓 坑  
完 掘 状 况

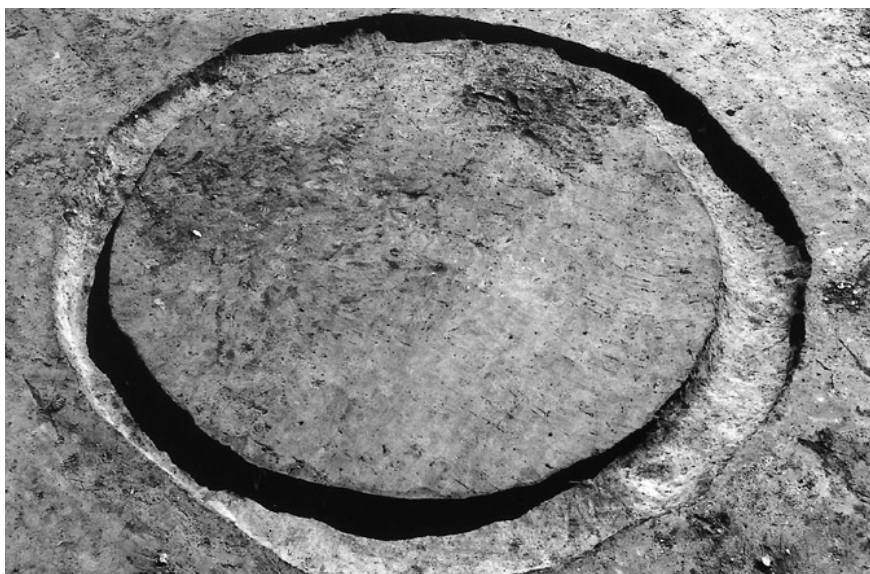
第3号掘立柱建物跡  
完掘狀況



第6号溝跡  
完掘狀況

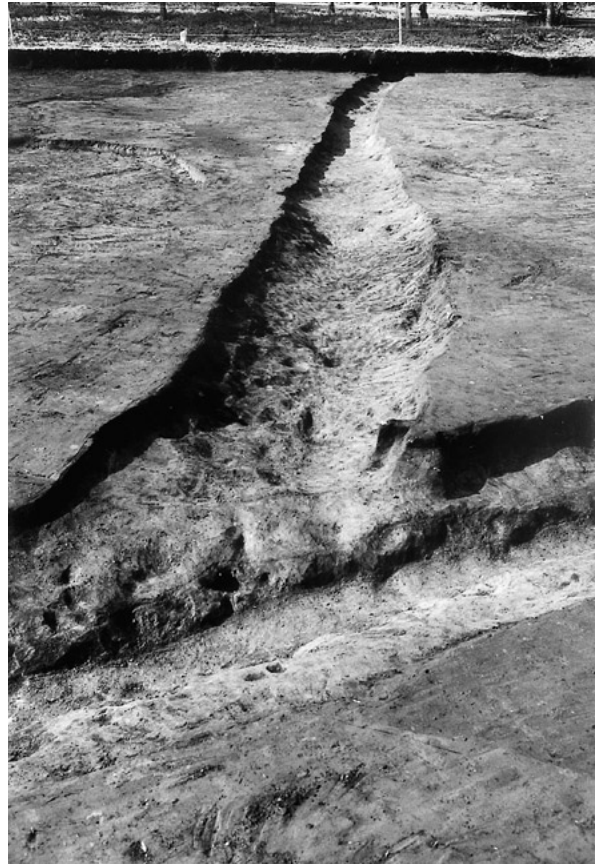


円形周溝遺構  
完掘狀況

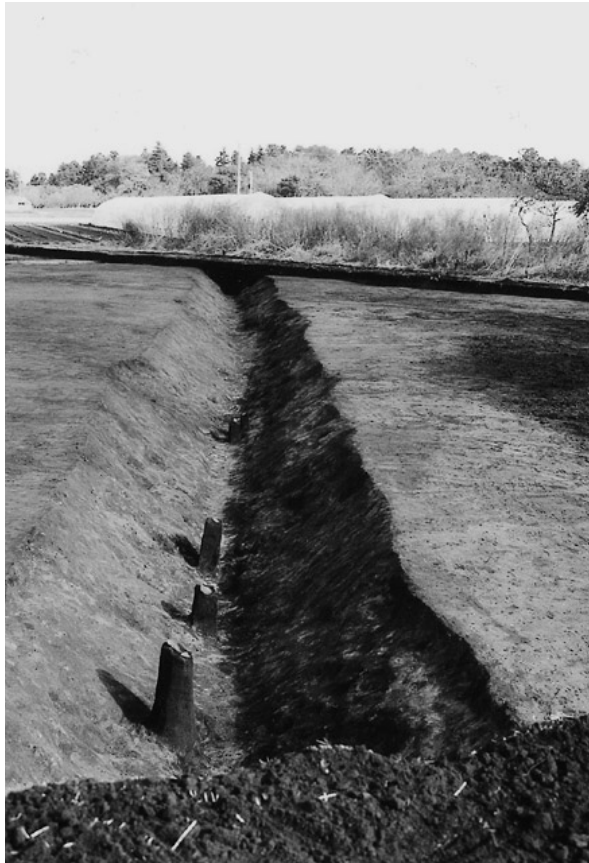




第 5 号溝跡完掘状況



第 7 号溝跡完掘状況



第 8 号溝跡完掘状況



第 21 号溝跡完掘状況



SI94 3



SI94 4



SI94 5



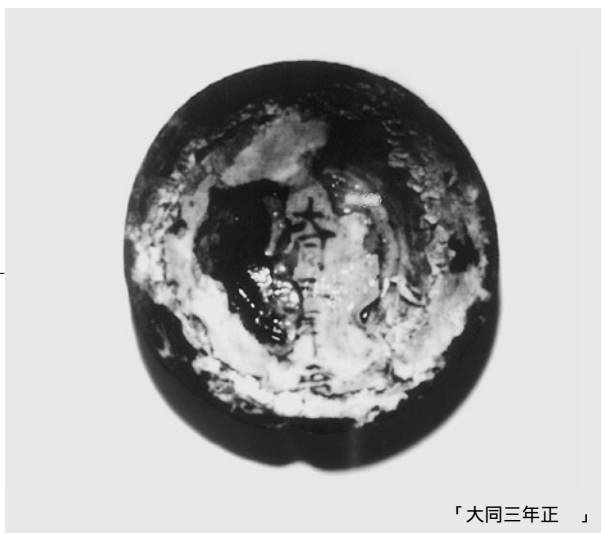
SI94 1



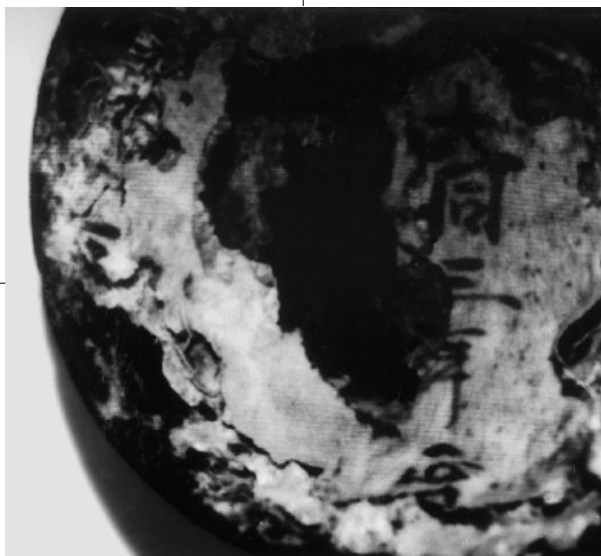
SI94 2



SI80 136



「大同三年正」









第61・68・80・85・88号住居跡，第1号溝跡，第14号井戸跡出土土器



第62・63・65・67・68・80号住居跡，第14号井戸跡出土土器



第70・80・81・83・90・92・93号住居跡出土土器



第70号住居跡，第1・9・30A・30B号溝跡，第14号井戸跡出土土器



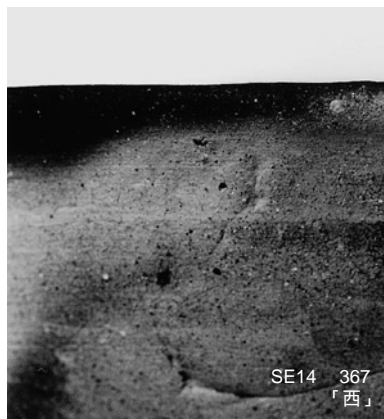
SI80 139  
「口」



遺構外 426  
「土師楓家」



SE14 347  
「土師楓家」



SE14 367  
「西」



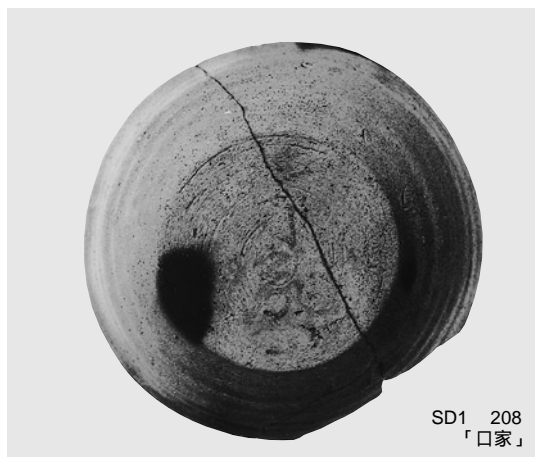
SE14 371  
「真宅」



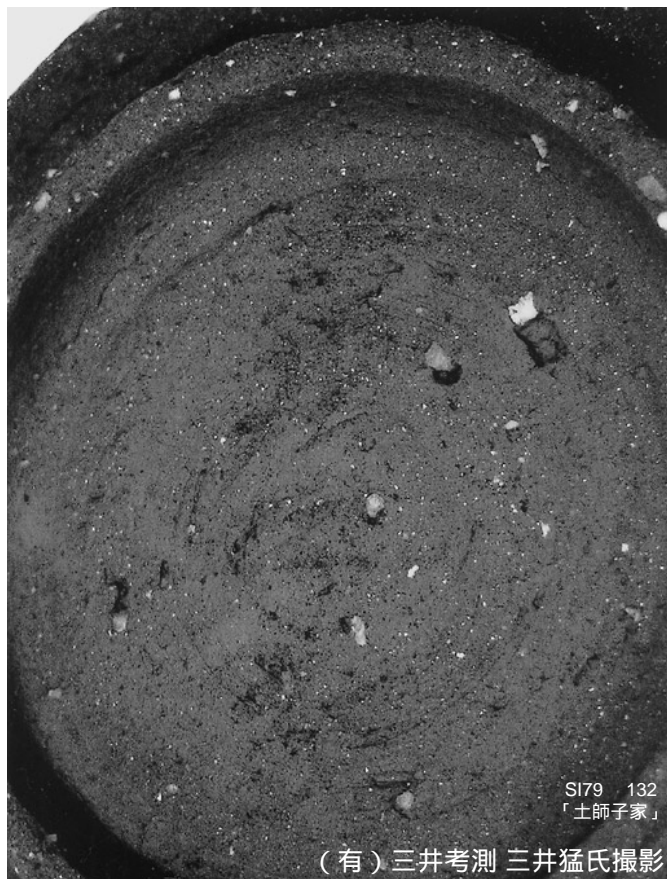
SE14 370  
「上」



SI67 87  
「部カ高嶋」



SD1 208  
「口家」



SI79 132  
「土師子家」

(有)三井考測 三井猛氏撮影



第61・69・72・73・81・84・85・90・92号住居跡，第1号溝跡，第14号井戸跡出土土器

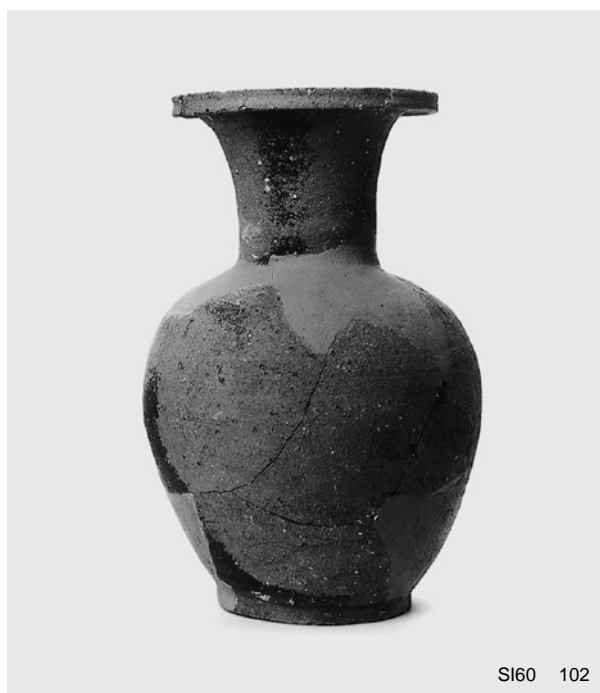


第68・79・81・92・93号住居跡，第1・30A・30B号溝跡，第14号井戸跡，第364号土坑出土土器・磁器









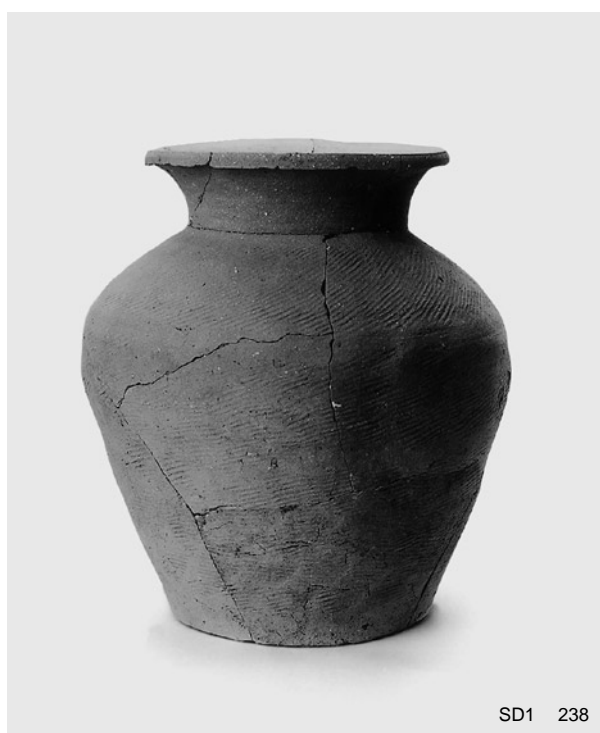
第60・66・86・91号住居跡，第1号溝跡出土土器



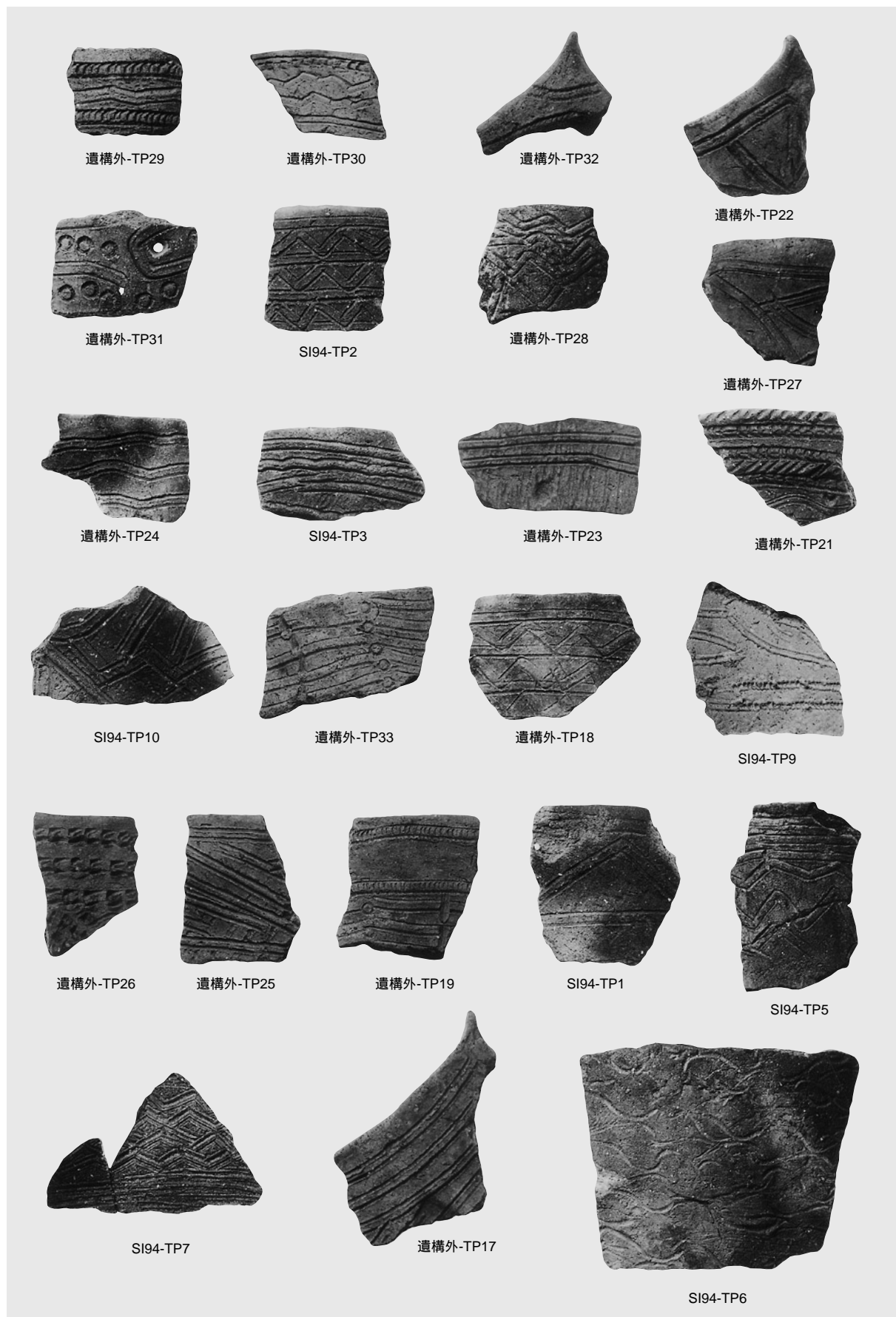
第80・86・88号住居跡，第30A・30B号溝跡，第14号井戸跡，第350号土坑出土土器・陶器



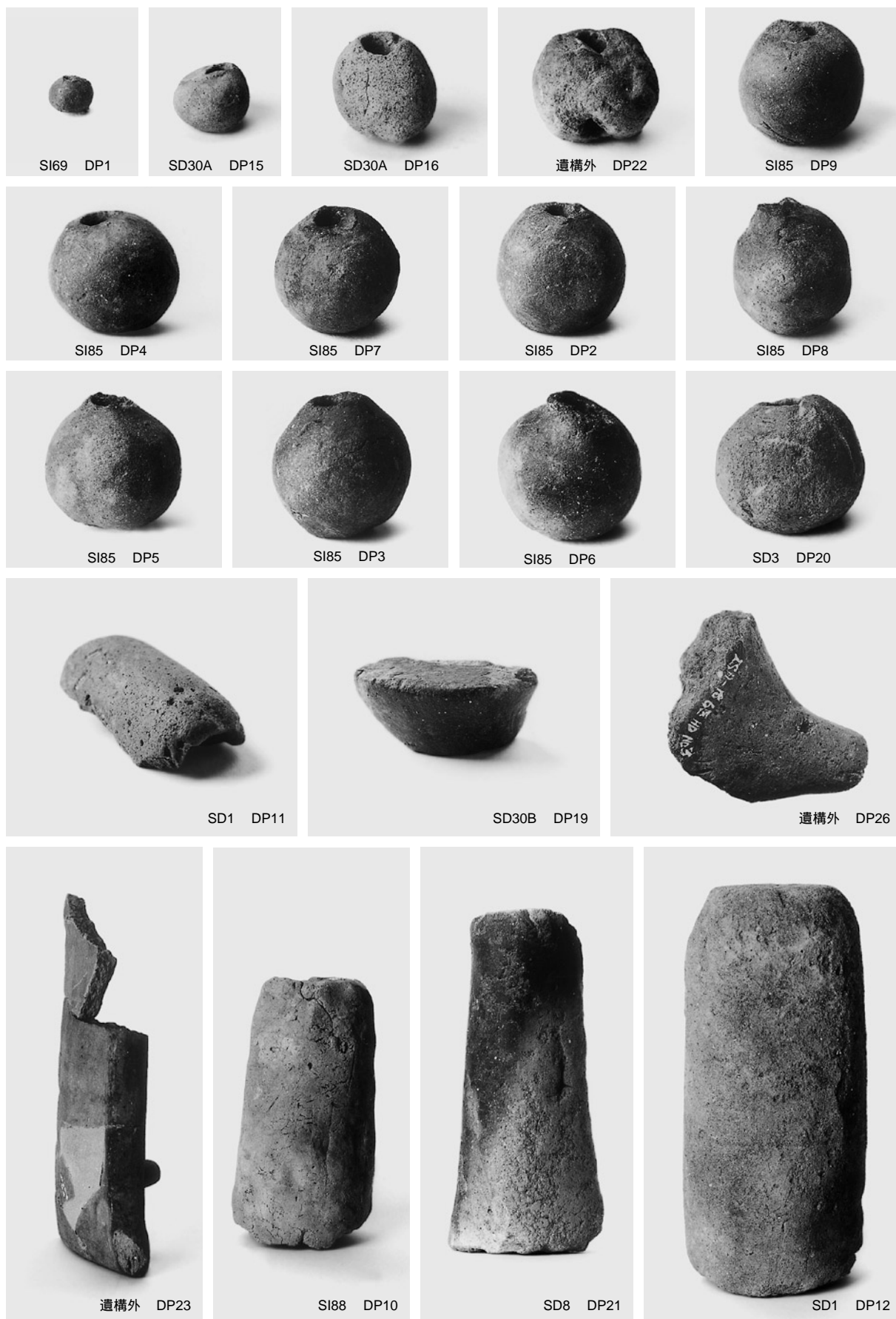
第82·84·85·88号住居跡，第3号溝跡出土土器



第64·84·85·91号住居跡，第1号溝跡出土土器

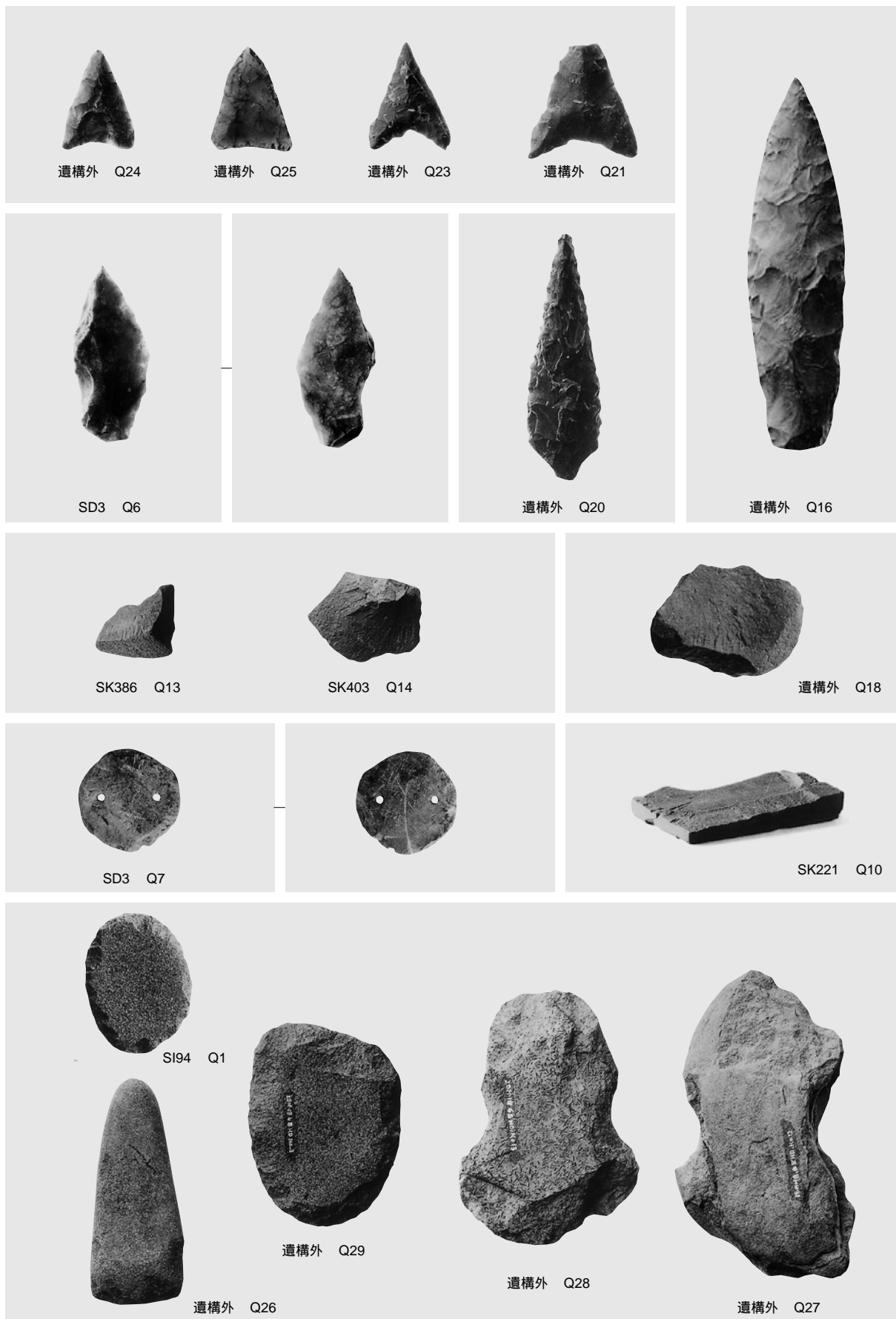


第94号住居跡，遺構外出土土器



出土土製品





出土石器・石製品



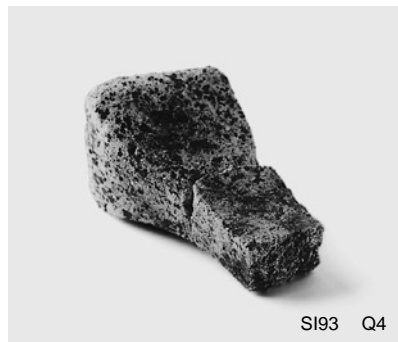
遺構外 Q30



遺構外 Q31



遺構外 Q33



SI93 Q4



遺構外 Q35



遺構外 Q34



SI70 Q2



SE5 Q9



SD24 Q8



SI80 Q3



遺構外 Q36



SD30A T1





SI92 M2



SI93 M5



ST25 M9

SD22 M7



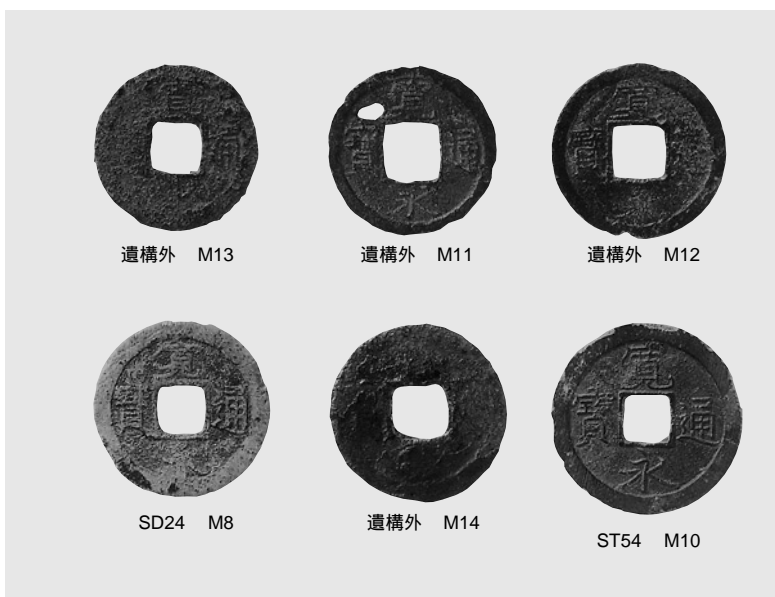
SI93 M3



SI80 M1



SI93 M6



遺構外 M13

遺構外 M11

遺構外 M12

SD24 M8

遺構外 M14

ST54 M10



遺構外 M15



茨城県教育財団文化財調査報告第305集

**下土師東遺跡**

東関東自動車道水戸線(茨城南IC~茨城JCT)  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成20(2008)年3月19日 印刷  
平成20(2008)年3月24日 発行

発行 財団法人 茨 城 県 教 育 財 団  
〒310 - 0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
T E L 029 - 225 - 6587

印刷 (有)平 電 子 印 刷 所  
〒970 - 8024 いわき市平北白土字西ノ内13  
T E L 0246 - 23 - 9051